

四條畷市

子どもの生活に関する実態調査

令和6年3月

四條畷市

調査研究業務 受注者

公立大学法人大阪 大阪公立大学

目次

はじめに	2
I 調査概要	3
1. 調査の目的	3
2. 調査方法	3
3. 調査内容	3
4. 調査対象者	3
5. 調査実施日	3
6. 調査配布・回収率(数)	3
7. 調査実施主体	5
8. 研究者一覧	5
9. 大阪府内全自治体のデータ統合時の扱い	5
II 調査結果	7
1. 単純集計結果〔小学生・中学生〕	7
2. 単純集計結果〔保護者〕	79
3. クロス集計および分析結果	163
3－1. 基本情報	163
(1) 経済状況	163
(2) 家庭状況（制度等）	181
3－2. 雇用	225
3－3. 健康	233
3－4. 家庭生活、学習	275
3－5. 対人関係	336
III 総合考察	402
1) 大阪府共同調査の意義	402
2) 単純集計	402
3) クロス集計	405
まとめ	411
IV 資料編	421

はじめに

2014年1月「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が施行されたことをスタートに、2014年8月「子供の貧困対策に関する大綱」が策定された。これら政府の動きを受けて、大阪市や大阪府内自治体含む大阪府は約10万件にも及ぶ子どもの生活に関する実態調査に共同で取り組んだ。府内すべてを網羅したこと、同じ調査で実施したことの意味は、大きい。なぜなら、各自治体がばらばらに実施し結果を見せても共通の指標にならず、この数値がどうなのか、意味があるのか、よくわからない実態も少なくない。世間でもかなり話題になり、マスコミに多数取り上げられた。この頃には、子どもの貧困が広く知られ社会問題化されつつあったが、この大規模な調査の動きは拍車をかけたのみならず、データ数の多さから、全て実証され、以下に示す政策にも少なからず影響をもたらした。

2019年6月「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が5年ぶりに見直され、「子どもの貧困対策の推進に関する法律の一部を改正する法律」が施行された。それを受けて、同年11月「子供の貧困対策に関する大綱～日本の将来を担う子供たちを誰一人取り残すことがない社会に向けて～」が再策定された。大綱では、「支援が届いていない、又は届きにくい子ども・家庭に配慮して対策を推進する」、「困窮層が多様であること」、「社会的孤立に陥ることのないように配慮する」など新たな視点が基本方針として追加され、ヤングケアラーと思われる子どもや、外国籍や障がいを持つ子どもたちなど、具体的な困窮層の子どもや家庭が示された。同時に、2023年4月にこども家庭庁が発足され、貧困をはじめとする子どもを取り巻く社会問題にシームレスに向き合い、途切れない政策・支援を打ち立てていくことが期待されている。

こうして子どもの貧困に関する社会的認知や政策が知られるようになったが、子どもの実態はどう変わったのであろうか。政策の効果は表れたであろうか。そんな思いをもって、大阪府では再度府内自治体とともに子どもの生活に関する実態調査が共同実施されることになった。全国的にここまで一体的に実施する都道府県は存在せず、大阪府が、大阪府内の大半を占める大阪市も含めて牽引した役割は大きい。

子どもの貧困については、前回と同様に、その国の貧困線未満の所得で暮らす相対的貧困の17歳以下の子どもの存在および生活状況を指す相対的貧困率でとらえる。OECDや厚生労働省調査の貧困率には等価可処分所得の中央値の50%が使用されているが、絶対的なものではなく、EU、ユニセフは公式の貧困基準のひとつに中央値の60%を使用（ただし、常に60%基準採用ではない）している。前回同様、60%のラインも含め検討している。子どもの相対的貧困率については、発表主体、統計利用データ年次によって変動する。内容的には、タウンゼンドの定義を元にChild Poverty Action Group (CPAG) が示している、①所得や資産など経済的資本 (capital) の欠如、②健康や教育など人的資本 (human capital) の欠如、③つながりやネットワークなど社会関係資本 (social capital) の欠如、の3つの資本の欠如を基本的な枠組みとしてとらえる。

I 調査概要

1. 調査の目的

四條畷市では、子どもの貧困対策の推進に関する法律に基づく市町村計画として位置づける、第3期子ども・子育て支援事業計画の策定に向けて、子どもの生活に関する実態を調査し、支援を必要とする子どもや家庭に対する施策の参考とすることを目的としている。

2. 調査方法

住民基本台帳より全数抽出した調査対象の世帯に、調査票を郵送し、郵送及びWebにて回収を得たもの。

3. 調査内容

巻末の調査票参照

4. 調査対象者

小学校5年生・その保護者（492世帯）

中学校2年生・その保護者（480世帯）

5. 調査実施日

四條畷市：令和5年7月6日～令和5年7月31日

大阪府内全自治体：令和5年6月27日～令和5年9月30日

6. 調査配布・回収率(数)

表1. 調査票の回収状況

		回収率(%)	回収数	配布数
四 條 畷 市	小学5年生	24.0	118	492
	小学5年生の保護者	24.0	118	492
	中学2年生	25.4	122	480
	中学2年生の保護者	24.8	119	480
	小学5年生・中学2年生合計	24.7	240	972
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	24.4	237	972
	計	24.5	477	1,944
大 阪 府 全 自 治 体	小学5年生	56.2	23,289	41,458
	小学5年生の保護者	55.0	22,819	41,458
	中学2年生	51.4	19,990	38,911
	中学2年生の保護者	49.8	19,390	38,911
	小学5年生・中学2年生合計	54.0	43,370	80,369
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	53.9	43,358	80,369
	計	54.0	86,728	160,738

※大阪府内全自治体の小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、学年不明分を含んだものとなっている（子ども：91件、保護者：1,149件）

※大阪府内全自治体の小学5年生、小学5年生保護者、中学2年生、中学2年生保護者、小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、一部自治体の他学年分を含んだものとなっている。

※「計」は、「小学5年生・中学2年生合計」と「小学5年生保護者・中学2年生保護者合計」の合計となっている。

大阪府内全自治体回収状況配布・回収方法別

		回収率(%)	回収数	配布数
学校配布・学校回収	小学5年生	61.6	15,927	25,852
	小学5年生の保護者	62.6	16,178	25,852
	中学2年生	58.3	13,712	23,539
	中学2年生の保護者	58.2	13,707	23,539
	小学5年生・中学2年生合計	60.1	29,674	49,391
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	60.7	29,977	49,391
	計	60.4	59,651	98,782
学校配布・郵送回収	小学5年生	22.6	1,401	6,191
	小学5年生の保護者	22.2	1,376	6,191
	中学2年生	15.3	936	6,099
	中学2年生の保護者	15.5	943	6,099
	小学5年生・中学2年生合計	19.2	2,362	12,290
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.2	2,361	12,290
	計	19.2	4,723	24,580
郵送配布・郵送回収	小学5年生	21.3	2,003	9,415
	小学5年生の保護者	21.0	1,978	9,415
	中学2年生	17.8	1,646	9,273
	中学2年生の保護者	17.8	1,653	9,273
	小学5年生・中学2年生合計	19.7	3,676	18,688
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.7	3,675	18,688
	計	19.7	7,351	37,376
学校配布・WEB回答	小学5年生	23.0	3,007	13,068
	小学5年生の保護者	17.0	2,228	13,068
	中学2年生	21.3	2,714	12,718
	中学2年生の保護者	16.0	2,037	12,718
	小学5年生・中学2年生合計	22.2	5,723	25,786
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.2	4,949	25,786
	計	20.7	10,672	51,572
郵送配布・WEB回答	小学5年生	10.1	951	9,415
	小学5年生の保護者	11.2	1,059	9,415
	中学2年生	10.6	982	9,273
	中学2年生の保護者	11.3	1,050	9,273
	小学5年生・中学2年生合計	10.4	1,935	18,688
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	12.8	2,396	18,688
	計	11.6	4,331	37,376

※各配布・回収方法の小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、学年不明分を含んだものとなっている（子ども：91件、保護者：1,149件）

※大阪府内全自治体の小学5年生、小学5年生保護者、中学2年生、中学2年生保護者、小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、一部自治体の他学年分を含んだものとなっている。

※「計」は、「小学5年生・中学2年生合計」と「小学5年生保護者・中学2年生保護者合計」の合計となっている。

なお、未就学児童の保護者を対象とした調査も大阪府内の3自治体において実施した。さらに1自治体では、小5・中2以外の学年の児童とその保護者を対象とした調査も実施した。これらの合計配布数は、19,513件、回収数は14,626件、回収率は75.0%であった。

7. 調査実施主体

四條畷市

調査研究業務受託者

公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

8. 研究者一覧

担当者	公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科 教授 山野 則子（業務責任者） 特任講師 橋本 麿和 シニア研究員 永田 麻衣 佐伯 厘咲 李 孟
協力者	公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科 准教授 嵯峨 嘉子
研究補助者	公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 経済学研究科 准教授 牛 冰 武庫川女子大学 社会情報学部 社会情報学科 助教 駒田 安紀 大阪商業大学 公共学部 公共学科 助教 林 萍萍 奈良佐保短期大学 地域こども学科 講師 河村 信子 公立大学法人大阪 大阪公立大学 研究員 黄 健育 渡邊 陽亮 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科 専攻社会福祉学分野 林 慎吾 松浦 孝範 久地井 寿哉 渡邊 祐作

9. 大阪府内全自治体のデータ統合時の扱い

本報告書においては、四條畷市と大阪府内全自治体をそれぞれ掲載している。四條畷市のデータについては既に「Ⅰ 調査概要 2～8」で述べた方法で収集したものである。大阪府内全自治体については、大阪府25市町村のデータに共同実施18市町のデータを統合したものである。これら全自治体においては、小学生・中学生27問、保護者26問をそれぞれ共通設問として調査項目を設計し、全体を統合して扱うあるいは比較することが可能なものとした。なお、一部の市においては、これらの共通設問とは別途把握したい内容がある場合に限り、追加で独自設問を設けている。

調査の結果、府と他共同実施18市町との間で回収率や回収数に差が生じた。府では、予めサンプリングした対象8000件への配布を行いその約30%の回収となったのに対し、他共同実施市ではほとんどの市が全数配布の結果、高いところでは70%に近い回収率となっている。このため、自治体間で回収率あるいはサンプルサイズの補正を行うか否かについて検討し、補正は行わないとの結論に達した。

1点目の理由としては、今回の調査では調査票配布の方法に郵送配布と学校配布の2種類があり、いずれを用いるかは自治体の状況に基づいて決定された。配布方法が異なることで回収率に差が生じることは避けられないものであった。

2点目の理由としては、このような状況に対して、例えば回収率の高かった自治体についてデータの再サンプリングなどの方法を用いて削減を行うことも意見が出された。しかし、その

場合、どのような基準で選択するのかが恣意的になってしまうこと、削減後の結果を提示した場合、施策を提言するための貴重な調査結果であるにもかかわらずその一部が掬い取られないことになり、全数調査をした市においては意義が失われてしまう。

このような理由から、大阪府内全自治体のデータは回収したデータをすべて統合したものとなっている。

本報告書では、「四條畷市」、「大阪府内全自治体」両者のグラフを掲載しているため、このように書き分けて論じていく。

なお、報告書においてはパーセンテージを用いて記述し、議論を進める。この中で、パーセンテージで示される数値同士の加・減・除を行う（合計する・差を把握する・何倍かに着目する）ことがあるが、実際に示された数値で算出しても結果が異なることがある。これは、示されている数値は小数第二位以下を四捨五入しているものであり、算出には四捨五入前の厳密な数値を用いていることによるものである。

Ⅱ 調査結果

1. 単純集計結果〔小学生・中学生〕

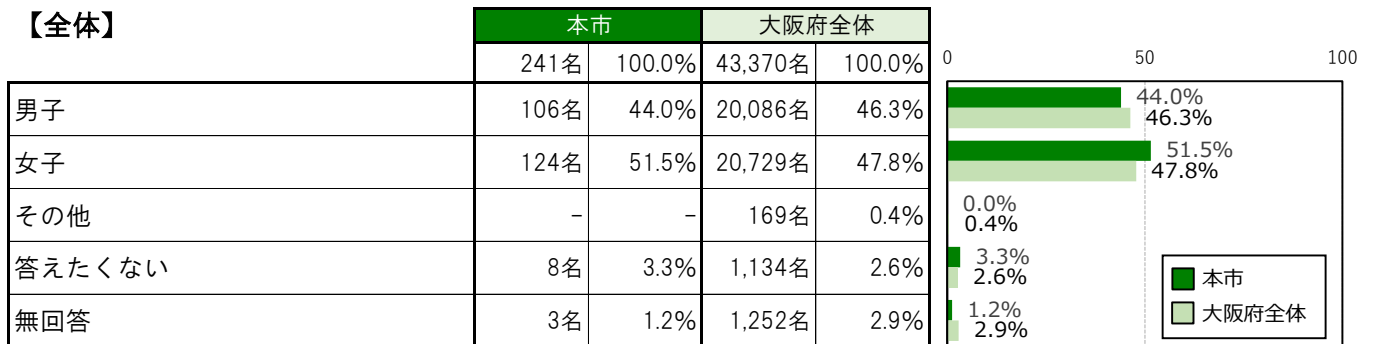
四條畷市

回答者の属性

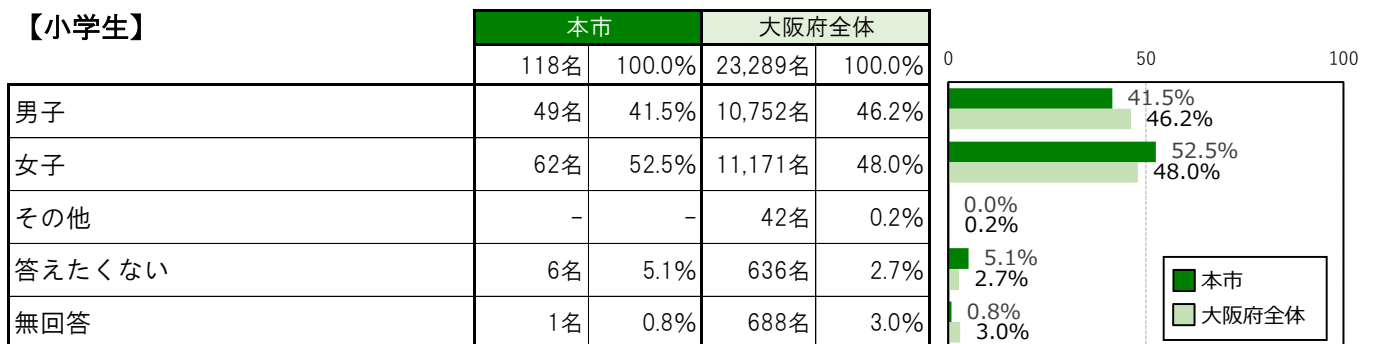
問27 性別

全体は、「男子」が44.0%、「女子」が51.5%となっている。
小学生は、「男子」が41.5%、「女子」が52.5%となっている。
中学生は、「男子」が45.9%、「女子」が50.8%となっている。

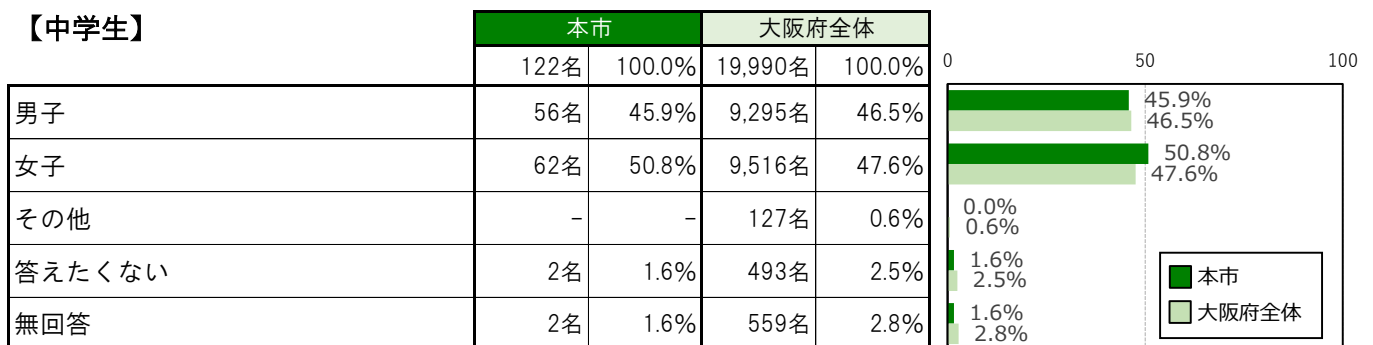
【全体】



【小学生】



【中学生】



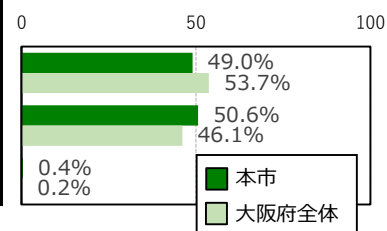
回答者の属性

問1 学年

回答者の学年は、「小学生」が118名・49.0%、「中学生」が122名・50.6%となっている。

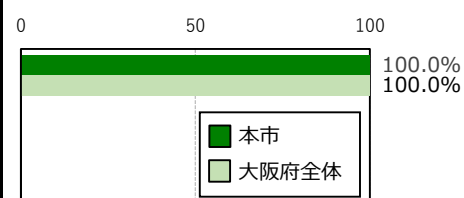
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	241名	100.0%	43,370名	100.0%
小学生	118名	49.0%	23,289名	53.7%
中学生	122名	50.6%	19,990名	46.1%
無回答	1名	0.4%	91名	0.2%



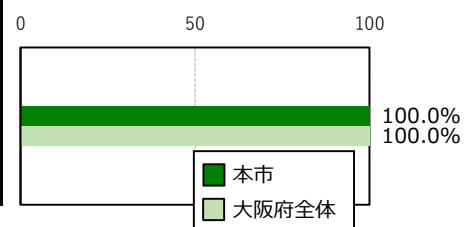
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	118名	100.0%	23,289名	100.0%
小学生	118名	100.0%	23,289名	100.0%
中学生	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	122名	100.0%	19,990名	100.0%
小学生	-	-	-	-
中学生	122名	100.0%	19,990名	100.0%
無回答	-	-	-	-



ふだんの生活のことについて

問2 起床時間の規則性

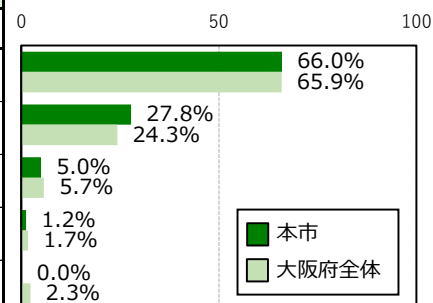
全体は、「起きている」が66.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が27.8%、「あまり、起きていない」が5.0%となっている。

小学生は、「起きている」が66.9%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が27.1%、「あまり、起きていない」が5.9%となっている。

中学生は、「起きている」が64.8%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が28.7%、「あまり、起きていない」が4.1%となっている。

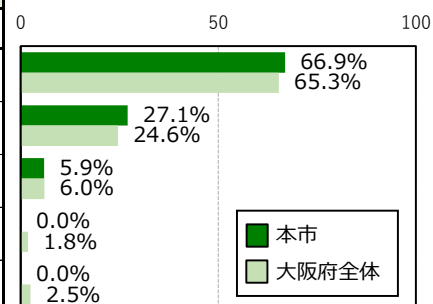
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
起きている	159名	66.0%	28,594名	65.9%
どちらかといえば、起きている	67名	27.8%	10,539名	24.3%
あまり、起きていない	12名	5.0%	2,478名	5.7%
起きていない	3名	1.2%	741名	1.7%
無回答	-	-	1,018名	2.3%



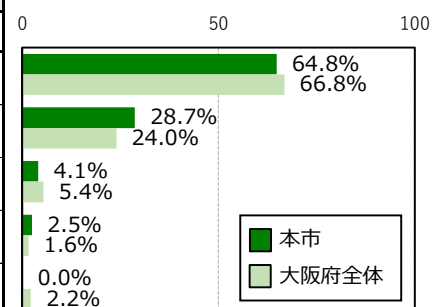
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
起きている	79名	66.9%	15,198名	65.3%
どちらかといえば、起きている	32名	27.1%	5,722名	24.6%
あまり、起きていない	7名	5.9%	1,386名	6.0%
起きていない	-	-	410名	1.8%
無回答	-	-	573名	2.5%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
起きている	79名	64.8%	13,344名	66.8%
どちらかといえば、起きている	35名	28.7%	4,791名	24.0%
あまり、起きていない	5名	4.1%	1,088名	5.4%
起きていない	3名	2.5%	328名	1.6%
無回答	-	-	439名	2.2%



ふだんの生活のことについて

問3 就寝時間

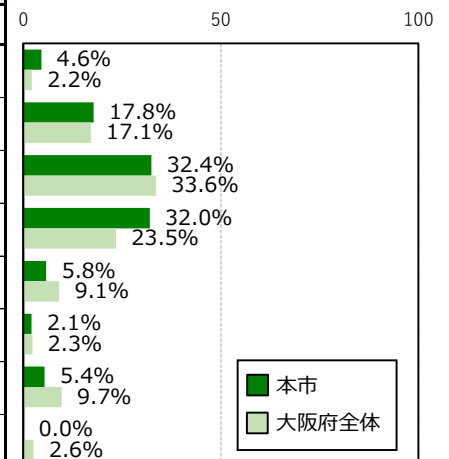
全体は、「午後10時台」が32.4%で最も多く、次いで「午後11時台」が32.0%、「午後9時台」が17.8%、「午前0時台」が5.8%となっている。

小学生は、「午後10時台」が42.4%で最も多く、次いで「午後9時台」が29.7%、「午後11時台」が16.1%、「午後9時より前」が8.5%となっている。

中学生は、「午後11時台」が46.7%で最も多く、次いで「午後10時台」が23.0%、「午前0時台」が11.5%、「きまっていない」が7.4%となっている。

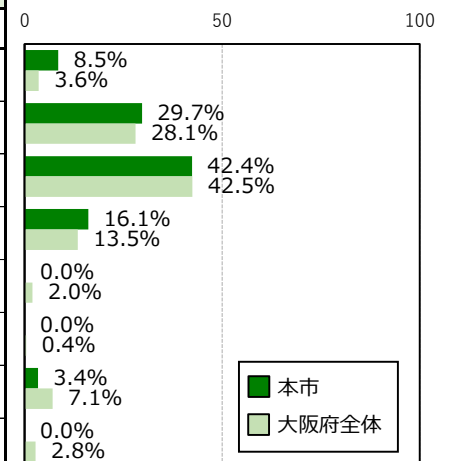
【全体】

	本市		大阪府全体	
	241名	100.0%	43,370名	100.0%
午後9時より前	11名	4.6%	963名	2.2%
午後9時台	43名	17.8%	7,400名	17.1%
午後10時台	78名	32.4%	14,573名	33.6%
午後11時台	77名	32.0%	10,204名	23.5%
午前0時台	14名	5.8%	3,927名	9.1%
午前1時より後	5名	2.1%	979名	2.3%
きまっていない	13名	5.4%	4,213名	9.7%
無回答	-	-	1,111名	2.6%



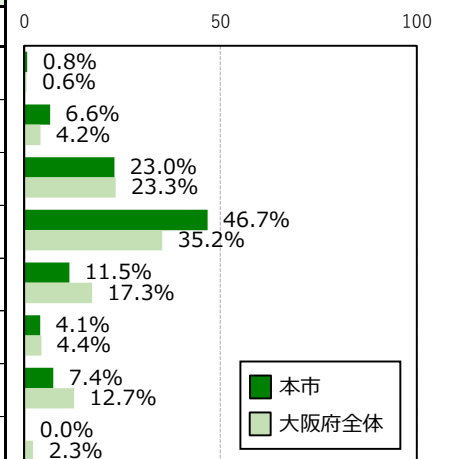
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	23,289名	100.0%
午後9時より前	10名	8.5%	845名	3.6%
午後9時台	35名	29.7%	6,553名	28.1%
午後10時台	50名	42.4%	9,894名	42.5%
午後11時台	19名	16.1%	3,139名	13.5%
午前0時台	-	-	455名	2.0%
午前1時より後	-	-	95名	0.4%
きまっていない	4名	3.4%	1,660名	7.1%
無回答	-	-	648名	2.8%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	122名	100.0%	19,990名	100.0%
午後9時より前	1名	0.8%	113名	0.6%
午後9時台	8名	6.6%	830名	4.2%
午後10時台	28名	23.0%	4,655名	23.3%
午後11時台	57名	46.7%	7,043名	35.2%
午前0時台	14名	11.5%	3,464名	17.3%
午前1時より後	5名	4.1%	883名	4.4%
きまっていない	9名	7.4%	2,544名	12.7%
無回答	-	-	458名	2.3%



ふだんの生活のことについて

問4（１）朝食の頻度

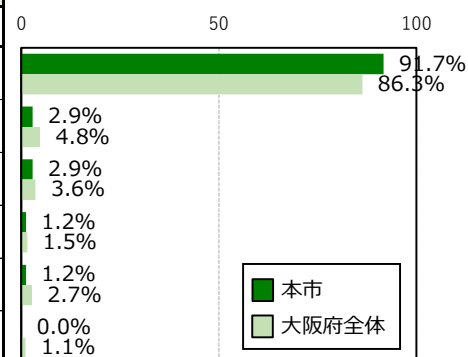
全体は、「毎日またはほとんど毎日」が91.7%で最も多く、次いで「週に4～5回」、「週に2～3回」がそれぞれ2.9%となっている。

小学生は、「毎日またはほとんど毎日」が93.2%で最も多く、次いで「週に2～3回」が3.4%、「週に4～5回」が2.5%となっている。

中学生は、「毎日またはほとんど毎日」が90.2%で最も多く、次いで「週に4～5回」が3.3%、「週に2～3回」、「週に1回程度」がそれぞれ2.5%となっている。

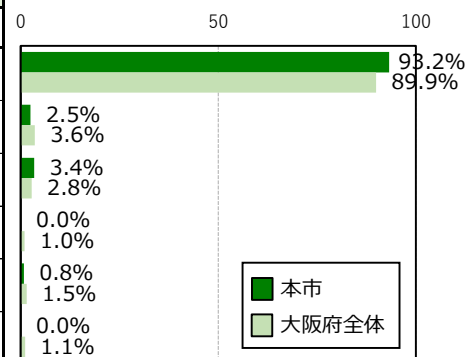
【全体】

	本市		大阪府全体	
	241名	100.0%	43,370名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	221名	91.7%	37,447名	86.3%
週に4～5回	7名	2.9%	2,062名	4.8%
週に2～3回	7名	2.9%	1,564名	3.6%
週に1回程度	3名	1.2%	649名	1.5%
食べない	3名	1.2%	1,180名	2.7%
無回答	-	-	468名	1.1%



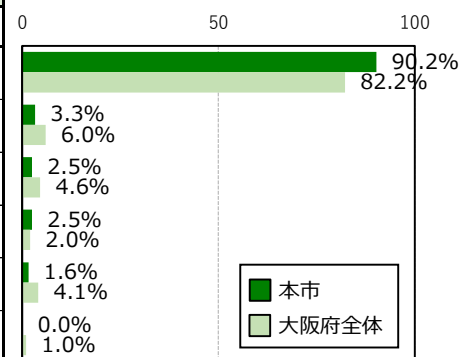
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	23,289名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	110名	93.2%	20,939名	89.9%
週に4～5回	3名	2.5%	849名	3.6%
週に2～3回	4名	3.4%	647名	2.8%
週に1回程度	-	-	241名	1.0%
食べない	1名	0.8%	359名	1.5%
無回答	-	-	254名	1.1%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	122名	100.0%	19,990名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	110名	90.2%	16,433名	82.2%
週に4～5回	4名	3.3%	1,207名	6.0%
週に2～3回	3名	2.5%	913名	4.6%
週に1回程度	3名	2.5%	408名	2.0%
食べない	2名	1.6%	820名	4.1%
無回答	-	-	209名	1.0%



ふだんの生活のことについて

問4（2）朝食を食べない理由

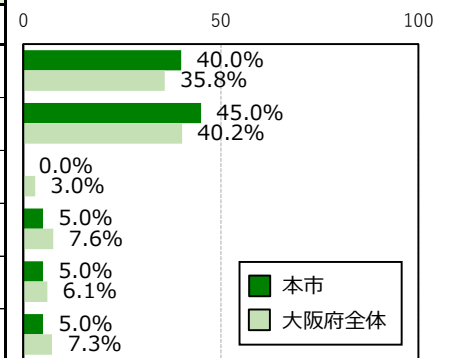
全体は、「おなかがすいていない」が45.0%で最も多く、次いで「時間がない」が40.0%となっている。

小学生は、「おなかがすいていない」が50.0%で最も多く、次いで「時間がない」が25.0%となっている。

中学生は、「時間がない」が50.0%で最も多く、次いで「おなかがすいていない」が41.7%となっている。

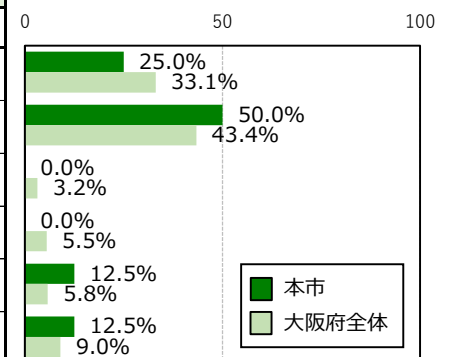
【全体】

	本市		大阪府全体	
	20名	100.0%	5,455名	100.0%
時間がない	8名	40.0%	1,954名	35.8%
おなかがすいていない	9名	45.0%	2,194名	40.2%
用意されていない	-	-	162名	3.0%
食べる習慣がない	1名	5.0%	414名	7.6%
わからない	1名	5.0%	334名	6.1%
無回答	1名	5.0%	397名	7.3%



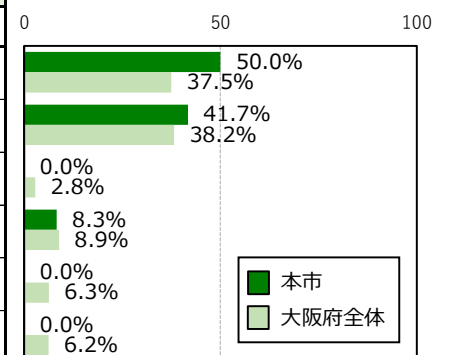
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	8名	100.0%	2,096名	100.0%
時間がない	2名	25.0%	694名	33.1%
おなかがすいていない	4名	50.0%	909名	43.4%
用意されていない	-	-	68名	3.2%
食べる習慣がない	-	-	116名	5.5%
わからない	1名	12.5%	121名	5.8%
無回答	1名	12.5%	188名	9.0%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	12名	100.0%	3,348名	100.0%
時間がない	6名	50.0%	1,257名	37.5%
おなかがすいていない	5名	41.7%	1,280名	38.2%
用意されていない	-	-	94名	2.8%
食べる習慣がない	1名	8.3%	298名	8.9%
わからない	-	-	212名	6.3%
無回答	-	-	207名	6.2%



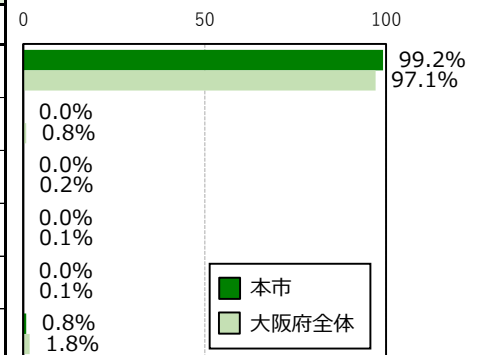
ふだんの生活のことについて

問5（1）夕食の頻度

全体は、「毎日またはほとんど毎日」が99.2%となっている。
 小学生は、「毎日またはほとんど毎日」が99.2%となっている。
 中学生は、「毎日またはほとんど毎日」が99.2%となっている。

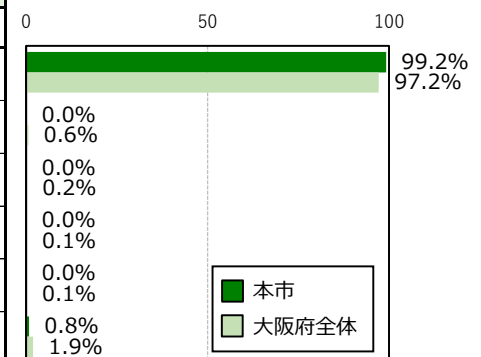
【全体】

	本市		大阪府全体	
	241名	100.0%	43,370名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	239名	99.2%	42,110名	97.1%
週に4～5回	-	-	327名	0.8%
週に2～3回	-	-	100名	0.2%
週に1回程度	-	-	31名	0.1%
食べない	-	-	32名	0.1%
無回答	2名	0.8%	770名	1.8%



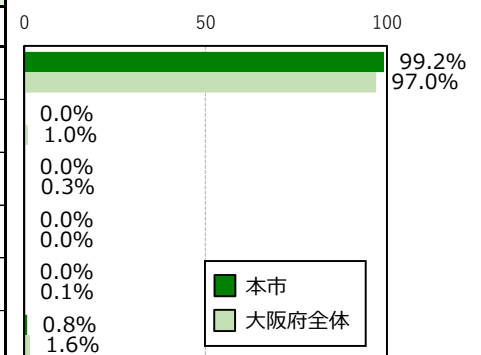
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	23,289名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	117名	99.2%	22,637名	97.2%
週に4～5回	-	-	132名	0.6%
週に2～3回	-	-	39名	0.2%
週に1回程度	-	-	23名	0.1%
食べない	-	-	16名	0.1%
無回答	1名	0.8%	442名	1.9%



【中学生】

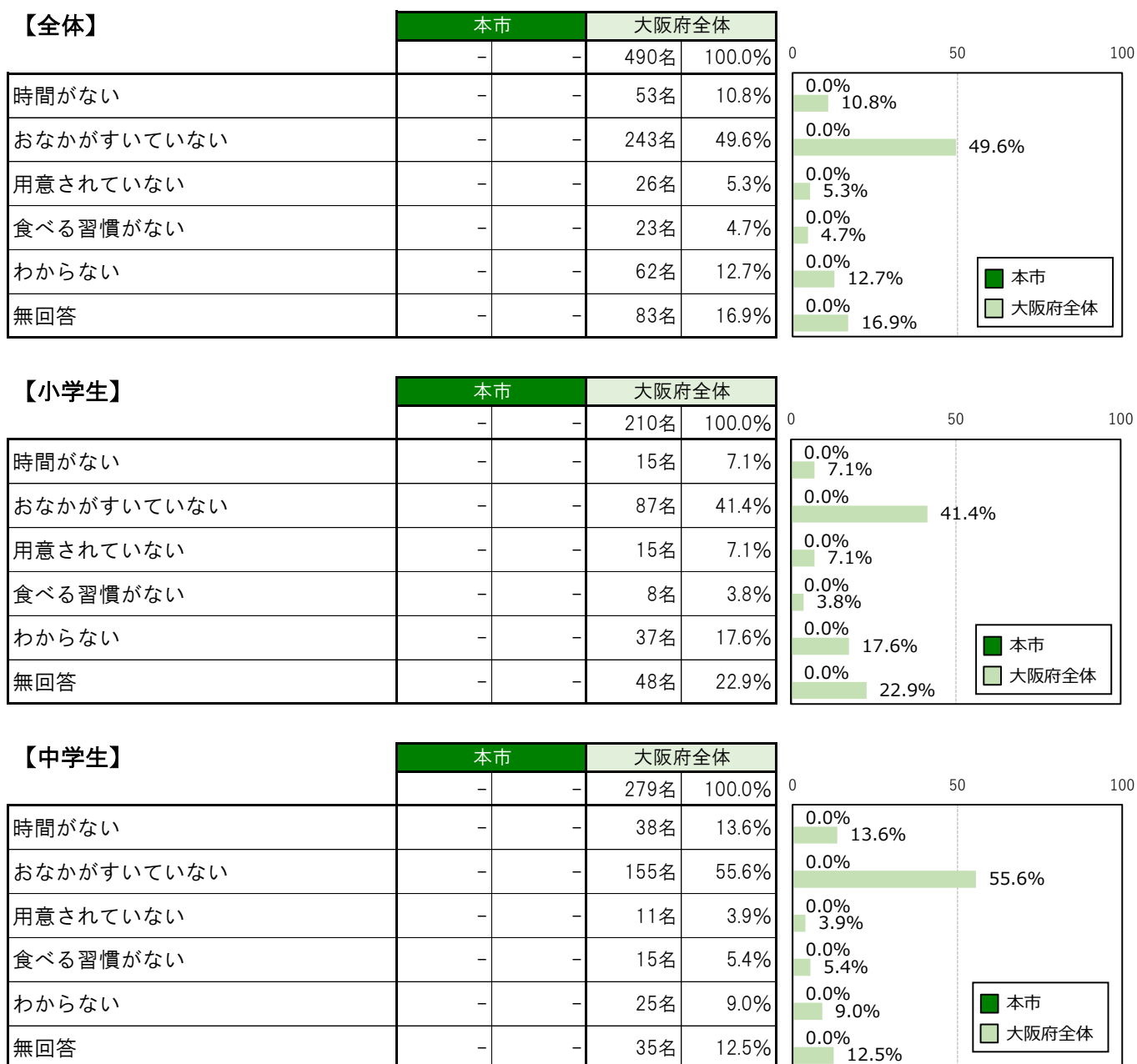
	本市		大阪府全体	
	122名	100.0%	19,990名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	121名	99.2%	19,393名	97.0%
週に4～5回	-	-	195名	1.0%
週に2～3回	-	-	60名	0.3%
週に1回程度	-	-	8名	0.0%
食べない	-	-	16名	0.1%
無回答	1名	0.8%	318名	1.6%



ふだんの生活のことについて

問5（2）夕食を食べない理由

全体、小学生、中学生で回答者はいなかった。



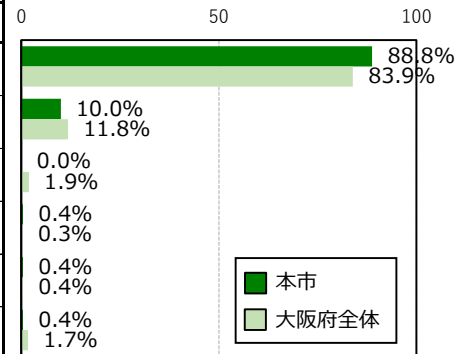
ふだんの生活のことについて

問6（１）休日の昼食の頻度

全体は、「必ず食べる」が88.8%で最も多く、次いで「食べることが多い」が10.0%となっている。
 小学生は、「必ず食べる」が94.1%で最も多く、次いで「食べることが多い」が5.9%となっている。
 中学生は、「必ず食べる」が83.6%で最も多く、次いで「食べることが多い」が13.9%となっている。

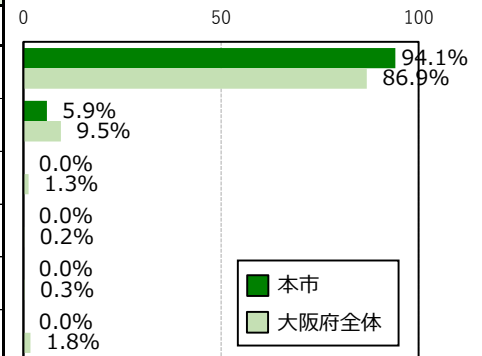
【全体】

	本市		大阪府全体	
	241名	100.0%	43,370名	100.0%
必ず食べる	214名	88.8%	36,388名	83.9%
食べることが多い	24名	10.0%	5,118名	11.8%
食べないことが多い	-	-	830名	1.9%
食べない	1名	0.4%	117名	0.3%
わからない	1名	0.4%	180名	0.4%
無回答	1名	0.4%	737名	1.7%



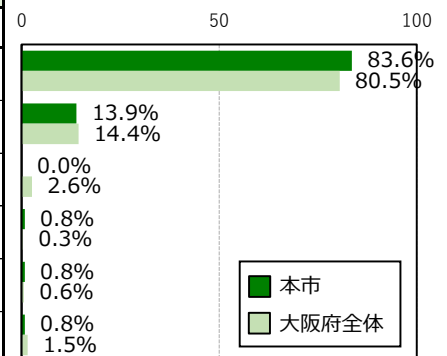
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	23,289名	100.0%
必ず食べる	111名	94.1%	20,227名	86.9%
食べるが多い	7名	5.9%	2,221名	9.5%
食べないことが多い	-	-	306名	1.3%
食べない	-	-	51名	0.2%
わからない	-	-	62名	0.3%
無回答	-	-	422名	1.8%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	122名	100.0%	19,990名	100.0%
必ず食べる	102名	83.6%	16,090名	80.5%
食べるが多い	17名	13.9%	2,886名	14.4%
食べないことが多い	-	-	524名	2.6%
食べない	1名	0.8%	66名	0.3%
わからない	1名	0.8%	117名	0.6%
無回答	1名	0.8%	307名	1.5%



ふだんの生活のことについて

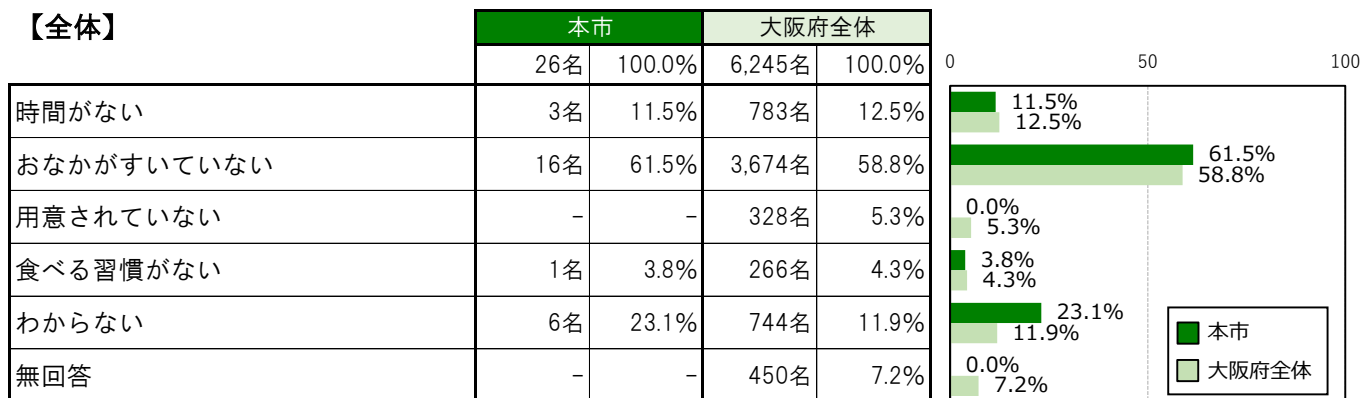
問6（2）休日に昼食を食べない理由

全体は、「おなかがすいていない」が61.5%で最も多く、次いで「時間がない」が11.5%となっている。

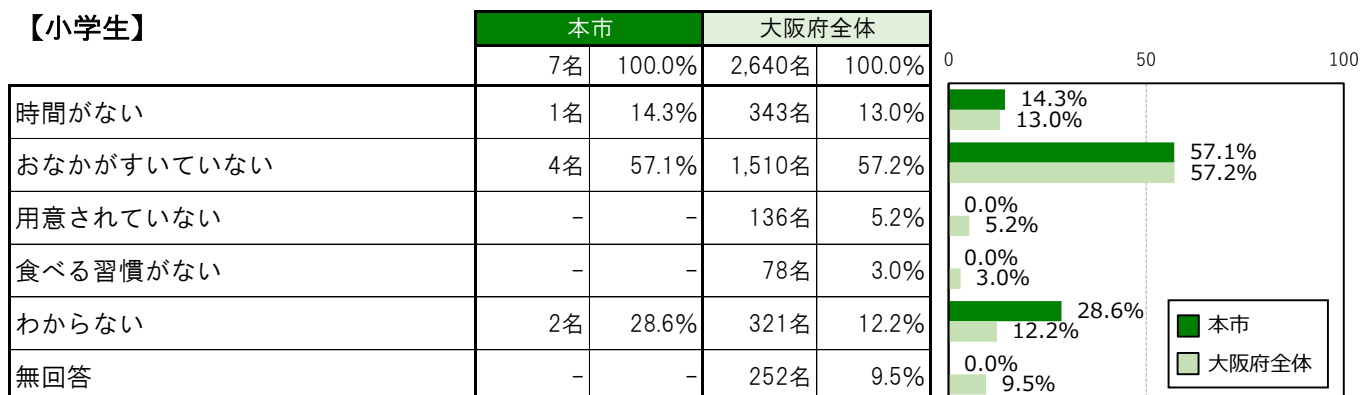
小学生は、「おなかがすいていない」が57.1%で最も多く、次いで「時間がない」が14.3%となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が63.2%で最も多く、次いで「時間がない」が10.5%となっている。

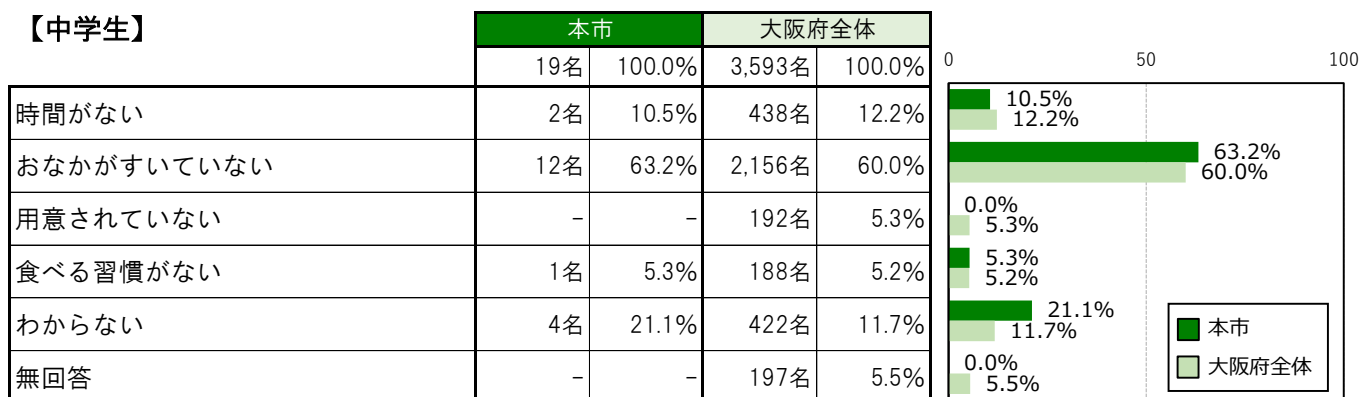
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

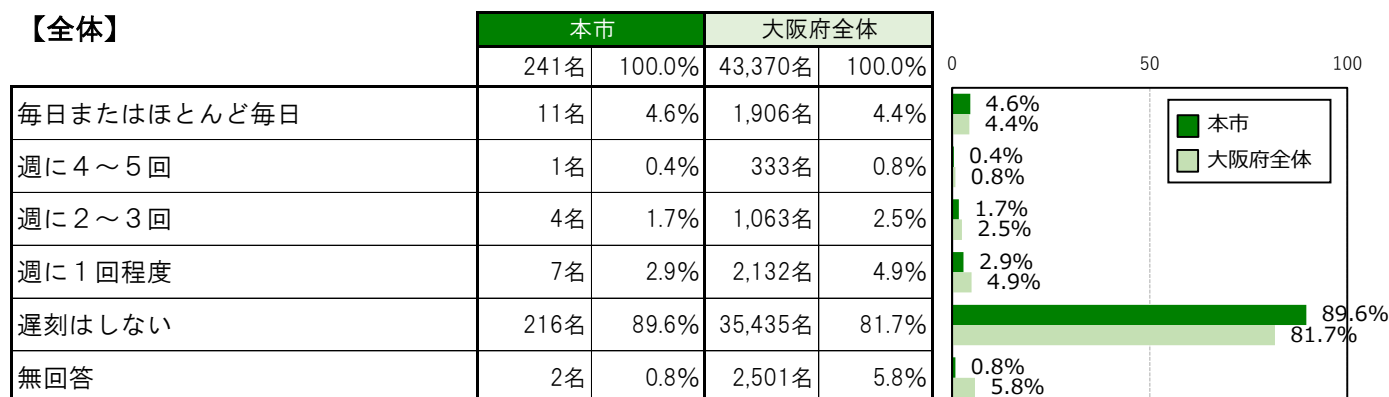
問7 学校への遅刻

全体は、「遅刻はしない」が89.6%で最も多く、次いで「毎日またはほとんど毎日」が4.6%、「週に1回程度」が2.9%、「週に2～3回」が1.7%となっている。

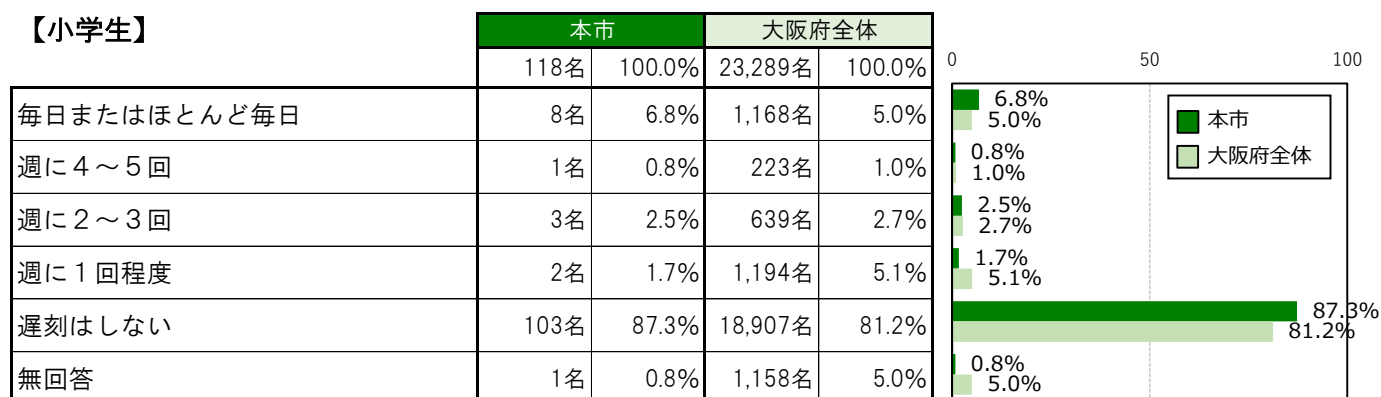
小学生は、「遅刻はしない」が87.3%で最も多く、次いで「毎日またはほとんど毎日」が6.8%、「週に2～3回」が2.5%、「週に1回程度」が1.7%となっている。

中学生は、「遅刻はしない」が91.8%で最も多く、次いで「週に1回程度」が4.1%、「毎日またはほとんど毎日」が2.5%となっている。

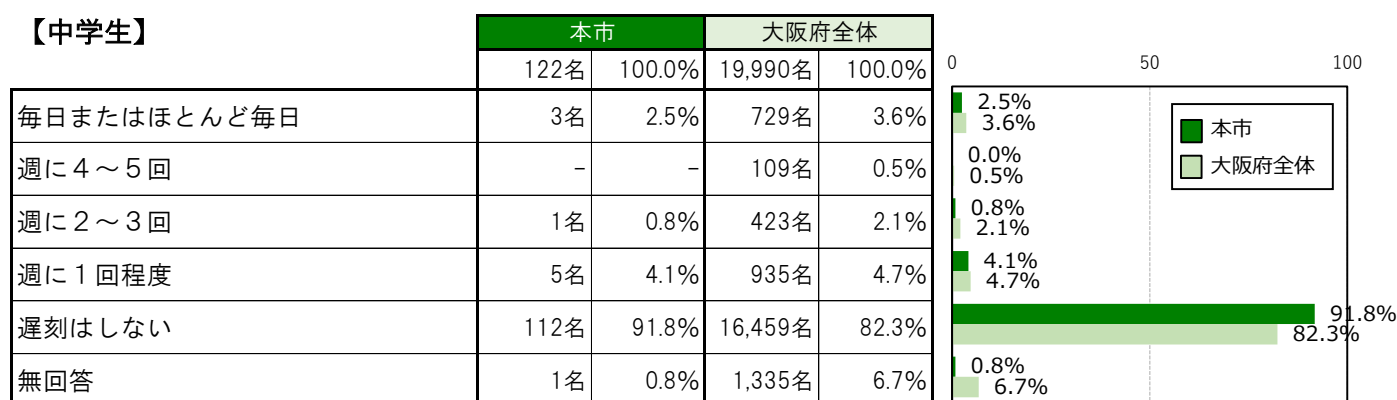
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ①おうちの大人のひとと一緒に朝食を食べているか

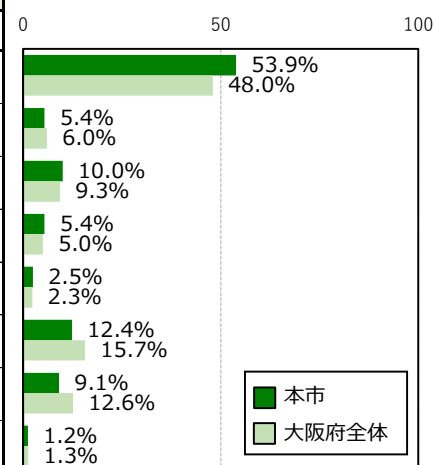
全体は、「ほとんど毎日」が53.9%で最も多く、次いで「ほとんどない」が12.4%、「週に2～3回」が10.0%、「まったくない」が9.1%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が62.7%で最も多く、次いで「週に2～3回」が8.5%、「ほとんどない」が7.6%、「まったくない」が6.8%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が45.1%で最も多く、次いで「ほとんどない」が17.2%、「週に2～3回」が11.5%、「まったくない」が11.5%となっている。

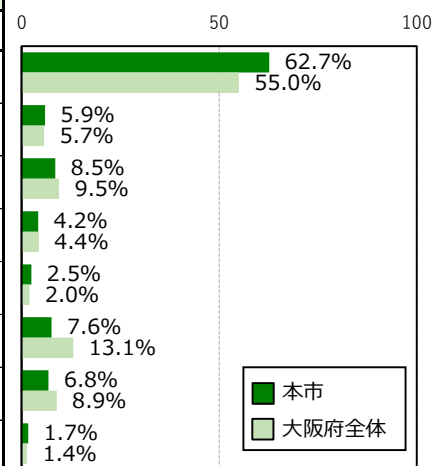
【全体】

	本市		大阪府全体	
	241名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	130名	53.9%	20,810名	48.0%
週に4～5回	13名	5.4%	2,583名	6.0%
週に2～3回	24名	10.0%	4,012名	9.3%
週に1回程度	13名	5.4%	2,155名	5.0%
月に1～2回	6名	2.5%	995名	2.3%
ほとんどない	30名	12.4%	6,794名	15.7%
まったくない	22名	9.1%	5,475名	12.6%
無回答	3名	1.2%	546名	1.3%



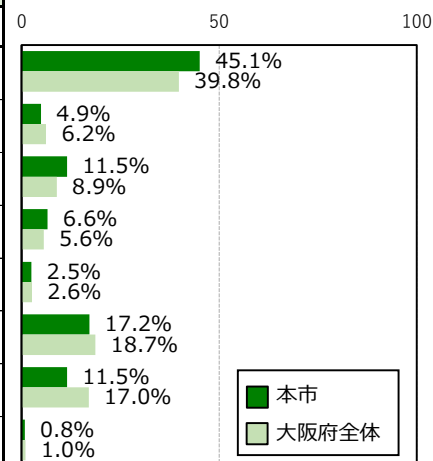
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	74名	62.7%	12,809名	55.0%
週に4～5回	7名	5.9%	1,328名	5.7%
週に2～3回	10名	8.5%	2,222名	9.5%
週に1回程度	5名	4.2%	1,023名	4.4%
月に1～2回	3名	2.5%	469名	2.0%
ほとんどない	9名	7.6%	3,042名	13.1%
まったくない	8名	6.8%	2,065名	8.9%
無回答	2名	1.7%	331名	1.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	122名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	55名	45.1%	7,962名	39.8%
週に4～5回	6名	4.9%	1,248名	6.2%
週に2～3回	14名	11.5%	1,780名	8.9%
週に1回程度	8名	6.6%	1,128名	5.6%
月に1～2回	3名	2.5%	526名	2.6%
ほとんどない	21名	17.2%	3,737名	18.7%
まったくない	14名	11.5%	3,400名	17.0%
無回答	1名	0.8%	209名	1.0%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ②おうちの大人のひとと一緒に夕食を食べているか

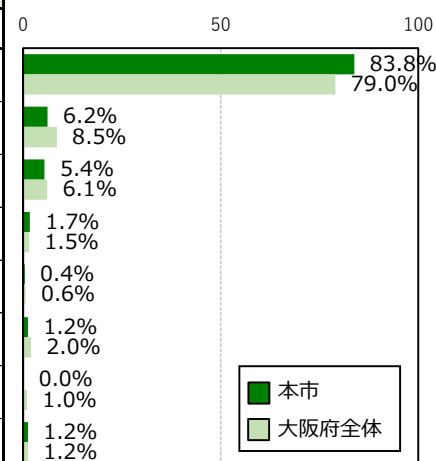
全体は、「ほとんど毎日」が83.8%で最も多く、次いで「週に4～5回」が6.2%、「週に2～3回」が5.4%、「週に1回程度」が1.7%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が87.3%で最も多く、次いで「週に2～3回」が5.9%、「週に4～5回」が5.1%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が80.3%で最も多く、次いで「週に4～5回」が7.4%、「週に2～3回」が4.9%、「週に1回程度」、「ほとんどない」がそれぞれ2.5%となっている。

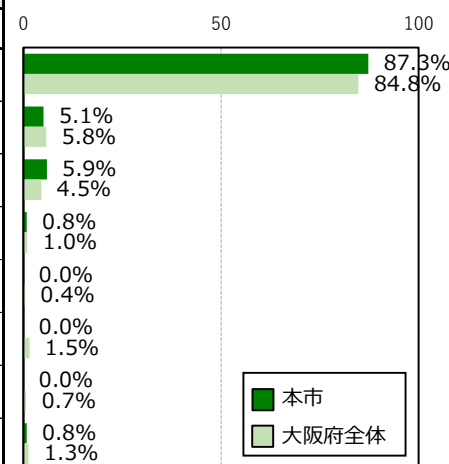
【全体】

	本市		大阪府全体	
	241名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	202名	83.8%	34,246名	79.0%
週に4～5回	15名	6.2%	3,679名	8.5%
週に2～3回	13名	5.4%	2,667名	6.1%
週に1回程度	4名	1.7%	656名	1.5%
月に1～2回	1名	0.4%	262名	0.6%
ほとんどない	3名	1.2%	889名	2.0%
まったくない	-	-	455名	1.0%
無回答	3名	1.2%	516名	1.2%



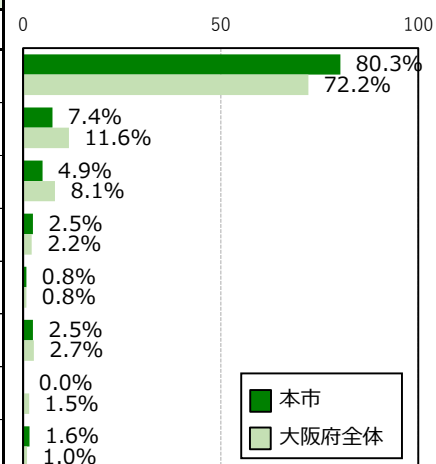
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	103名	87.3%	19,748名	84.8%
週に4～5回	6名	5.1%	1,360名	5.8%
週に2～3回	7名	5.9%	1,048名	4.5%
週に1回程度	1名	0.8%	222名	1.0%
月に1～2回	-	-	100名	0.4%
ほとんどない	-	-	349名	1.5%
まったくない	-	-	154名	0.7%
無回答	1名	0.8%	308名	1.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	122名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	98名	80.3%	14,429名	72.2%
週に4～5回	9名	7.4%	2,310名	11.6%
週に2～3回	6名	4.9%	1,616名	8.1%
週に1回程度	3名	2.5%	431名	2.2%
月に1～2回	1名	0.8%	162名	0.8%
ほとんどない	3名	2.5%	539名	2.7%
まったくない	-	-	301名	1.5%
無回答	2名	1.6%	202名	1.0%



ふだんの生活のことについて

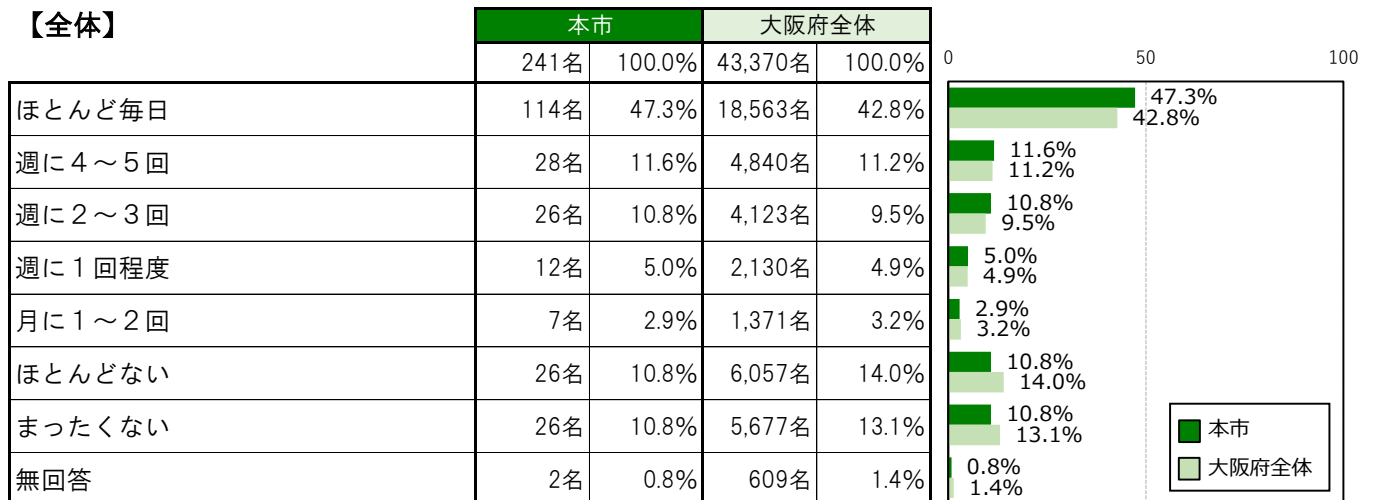
問8 保護者との関係性 ③おうちの大人の人に朝、起こしてもらうか

全体は、「ほとんど毎日」が47.3%で最も多く、次いで「週に4～5回」が11.6%、「週に2～3回」、「ほとんどない」、「まったくない」がそれぞれ10.8%となっている。

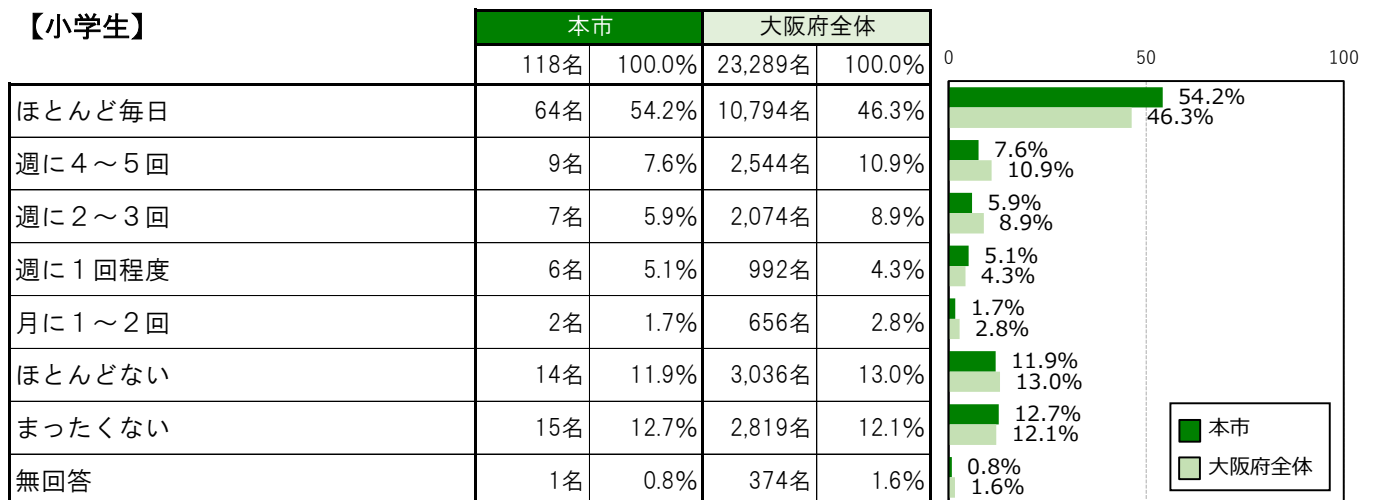
小学生は、「ほとんど毎日」が54.2%で最も多く、次いで「まったくない」が12.7%、「ほとんどない」が11.9%、「週に4～5回」が7.6%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が40.2%で最も多く、次いで「週に4～5回」、「週に2～3回」がそれぞれ15.6%、「ほとんどない」が9.8%、「まったくない」が9.0%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ④おうちの手伝いをしているか

全体は、「ほとんど毎日」が21.2%で最も多く、次いで「週に2～3回」、「ほとんどない」がそれぞれ15.4%、「週に1回程度」が14.5%、「週に4～5回」が13.3%となっている。

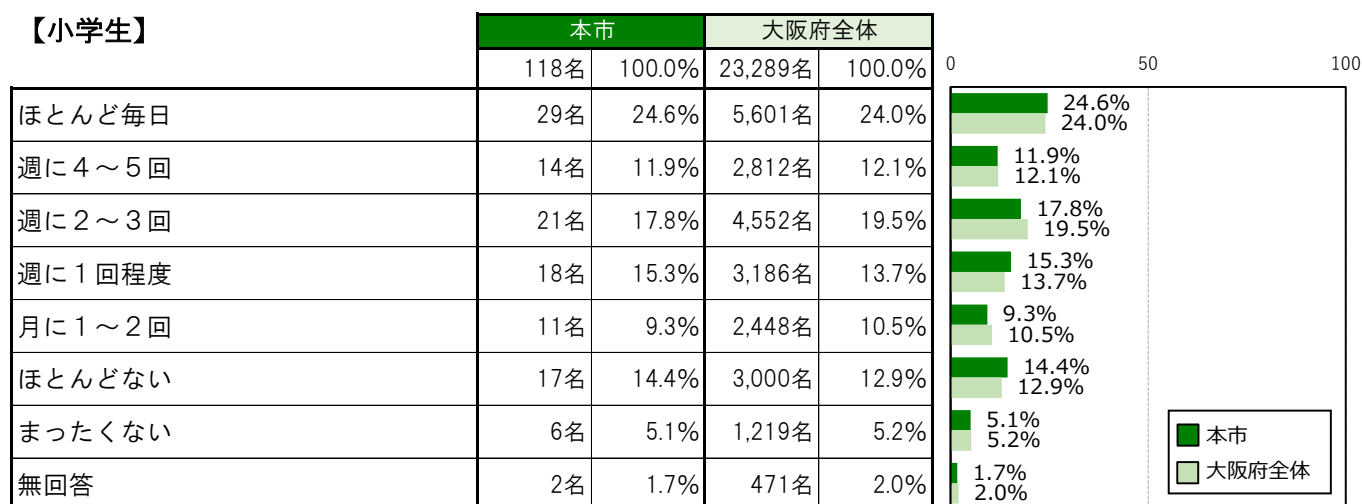
小学生は、「ほとんど毎日」が24.6%で最も多く、次いで「週に2～3回」が17.8%、「週に1回程度」が15.3%、「ほとんどない」が14.4%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が18.0%で最も多く、次いで「ほとんどない」が16.4%、「週に4～5回」、「月に1～2回」がそれぞれ14.8%、「週に1回程度」が13.9%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑤おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

全体は、「ほとんどない」が25.3%で最も多く、次いで「まったくない」が24.9%、「ほとんど毎日」が12.9%、「月に1～2回」が10.0%となっている。

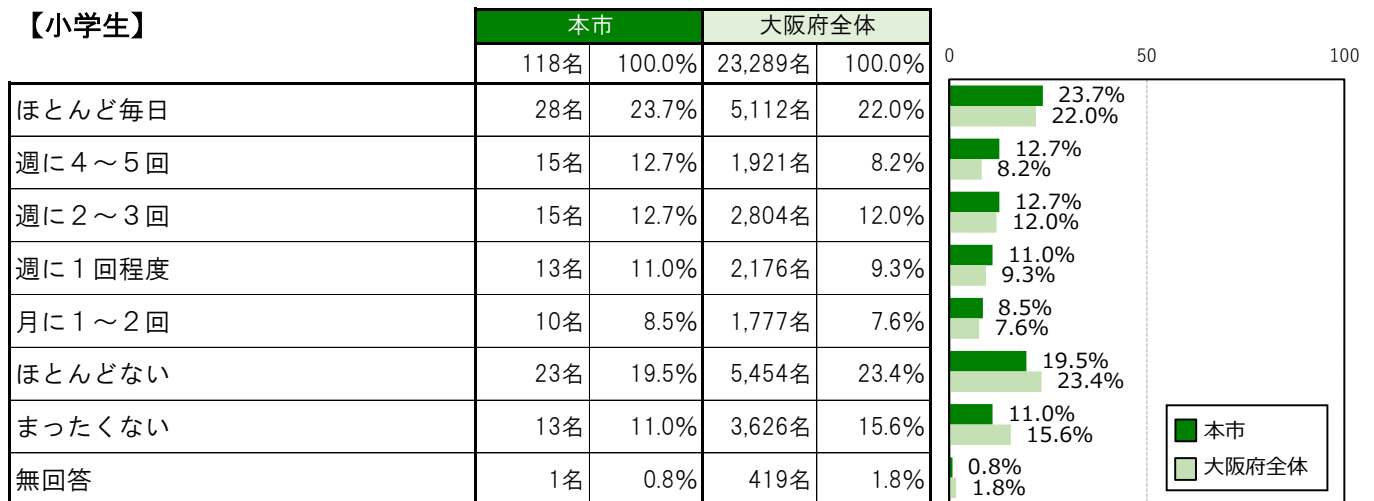
小学生は、「ほとんど毎日」が23.7%で最も多く、次いで「ほとんどない」が19.5%、「週に4～5回」、「週に2～3回」がそれぞれ12.7%となっている。

中学生は、「まったくない」が37.7%で最も多く、次いで「ほとんどない」が31.1%、「月に1～2回」が11.5%、「週に2～3回」が6.6%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑥おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話すか

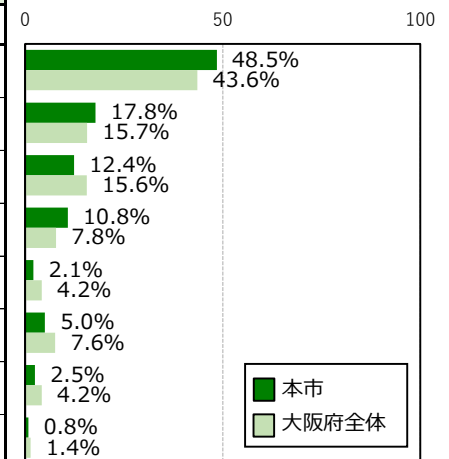
全体は、「ほとんど毎日」が48.5%で最も多く、次いで「週に4～5回」が17.8%、「週に2～3回」が12.4%、「週に1回程度」が10.8%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が54.2%で最も多く、次いで「週に4～5回」が20.3%、「週に2～3回」、「週に1回程度」がそれぞれ8.5%、「ほとんどない」が3.4%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が43.4%で最も多く、次いで「週に2～3回」が16.4%、「週に4～5回」が15.6%、「週に1回程度」が13.1%となっている。

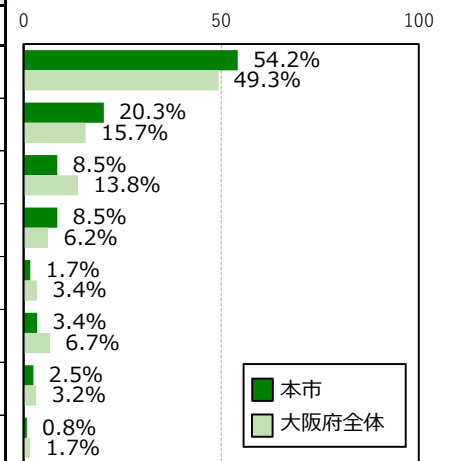
【全体】

	本市		大阪府全体	
	241名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	117名	48.5%	18,891名	43.6%
週に4～5回	43名	17.8%	6,809名	15.7%
週に2～3回	30名	12.4%	6,773名	15.6%
週に1回程度	26名	10.8%	3,386名	7.8%
月に1～2回	5名	2.1%	1,801名	4.2%
ほとんどない	12名	5.0%	3,283名	7.6%
まったくない	6名	2.5%	1,802名	4.2%
無回答	2名	0.8%	625名	1.4%



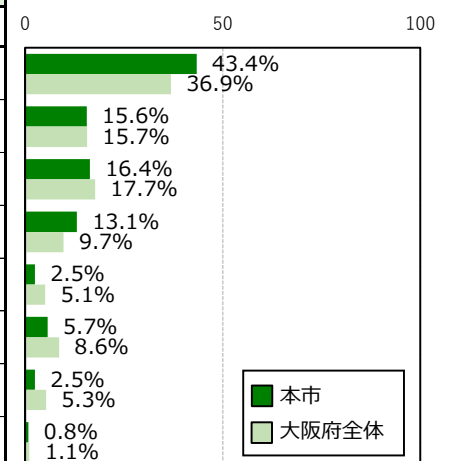
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	64名	54.2%	11,483名	49.3%
週に4～5回	24名	20.3%	3,660名	15.7%
週に2～3回	10名	8.5%	3,225名	13.8%
週に1回程度	10名	8.5%	1,447名	6.2%
月に1～2回	2名	1.7%	783名	3.4%
ほとんどない	4名	3.4%	1,558名	6.7%
まったくない	3名	2.5%	739名	3.2%
無回答	1名	0.8%	394名	1.7%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	122名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	53名	43.4%	7,374名	36.9%
週に4～5回	19名	15.6%	3,138名	15.7%
週に2～3回	20名	16.4%	3,533名	17.7%
週に1回程度	16名	13.1%	1,933名	9.7%
月に1～2回	3名	2.5%	1,015名	5.1%
ほとんどない	7名	5.7%	1,716名	8.6%
まったくない	3名	2.5%	1,056名	5.3%
無回答	1名	0.8%	225名	1.1%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑦おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりするか

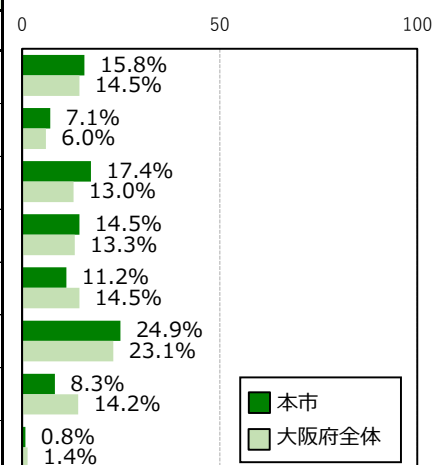
全体は、「ほとんどない」が24.9%で最も多く、次いで「週に2～3回」が17.4%、「ほとんど毎日」が15.8%、「週に1回程度」が14.5%となっている。

小学生は、「週に2～3回」が26.3%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が23.7%、「週に1回程度」が19.5%、「ほとんどない」が13.6%となっている。

中学生は、「ほとんどない」が35.2%で最も多く、次いで「月に1～2回」が15.6%、「まったくない」が13.1%、「週に1回程度」が9.8%となっている。

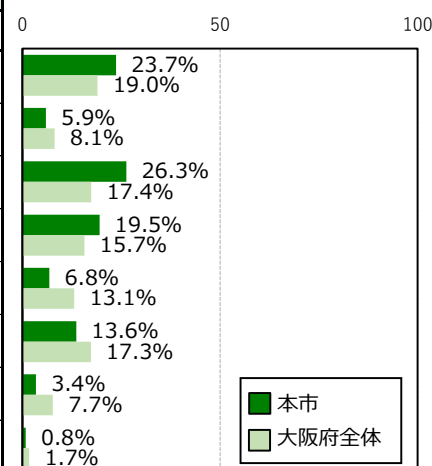
【全体】

	本市		大阪府全体	
	241名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	38名	15.8%	6,287名	14.5%
週に4～5回	17名	7.1%	2,582名	6.0%
週に2～3回	42名	17.4%	5,629名	13.0%
週に1回程度	35名	14.5%	5,782名	13.3%
月に1～2回	27名	11.2%	6,304名	14.5%
ほとんどない	60名	24.9%	10,004名	23.1%
まったくない	20名	8.3%	6,164名	14.2%
無回答	2名	0.8%	618名	1.4%



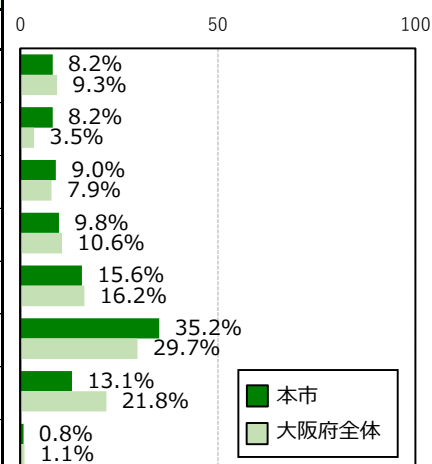
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	28名	23.7%	4,417名	19.0%
週に4～5回	7名	5.9%	1,880名	8.1%
週に2～3回	31名	26.3%	4,047名	17.4%
週に1回程度	23名	19.5%	3,656名	15.7%
月に1～2回	8名	6.8%	3,054名	13.1%
ほとんどない	16名	13.6%	4,038名	17.3%
まったくない	4名	3.4%	1,801名	7.7%
無回答	1名	0.8%	396名	1.7%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	122名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	10名	8.2%	1,860名	9.3%
週に4～5回	10名	8.2%	693名	3.5%
週に2～3回	11名	9.0%	1,571名	7.9%
週に1回程度	12名	9.8%	2,114名	10.6%
月に1～2回	19名	15.6%	3,240名	16.2%
ほとんどない	43名	35.2%	5,944名	29.7%
まったくない	16名	13.1%	4,352名	21.8%
無回答	1名	0.8%	216名	1.1%



ふだんの生活のことについて

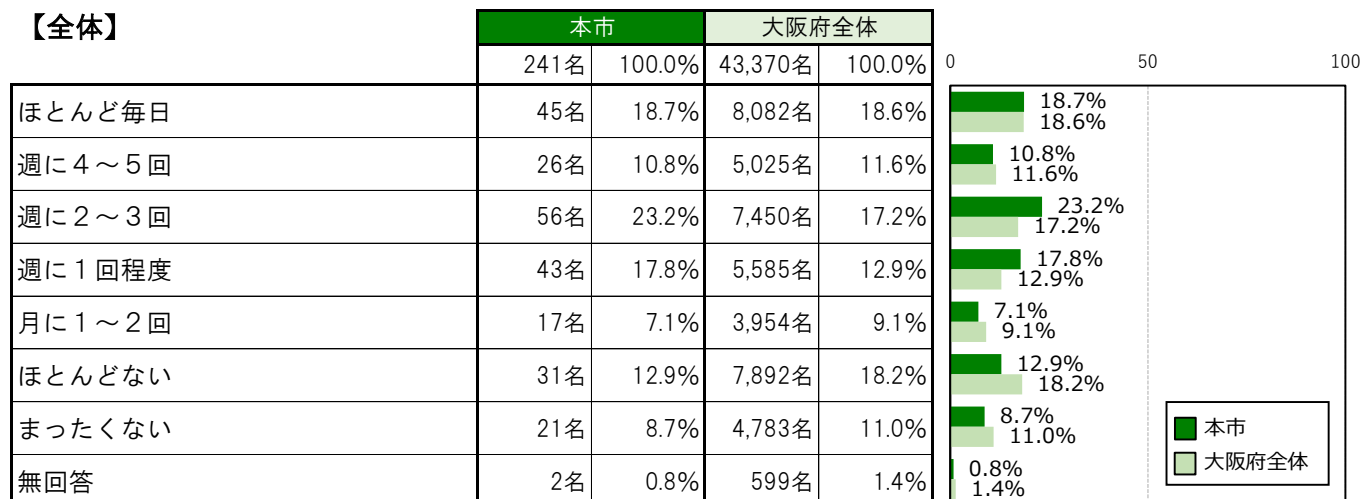
問8 保護者との関係性 ⑧おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

全体は、「週に2～3回」が23.2%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が18.7%、「週に1回程度」が17.8%、「ほとんどない」が12.9%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が22.0%で最も多く、次いで「週に1回程度」が21.2%、「週に2～3回」が16.1%、「週に4～5回」、「ほとんどない」がそれぞれ12.7%となっている。

中学生は、「週に2～3回」が30.3%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が15.6%、「週に1回程度」が14.8%、「ほとんどない」が12.3%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

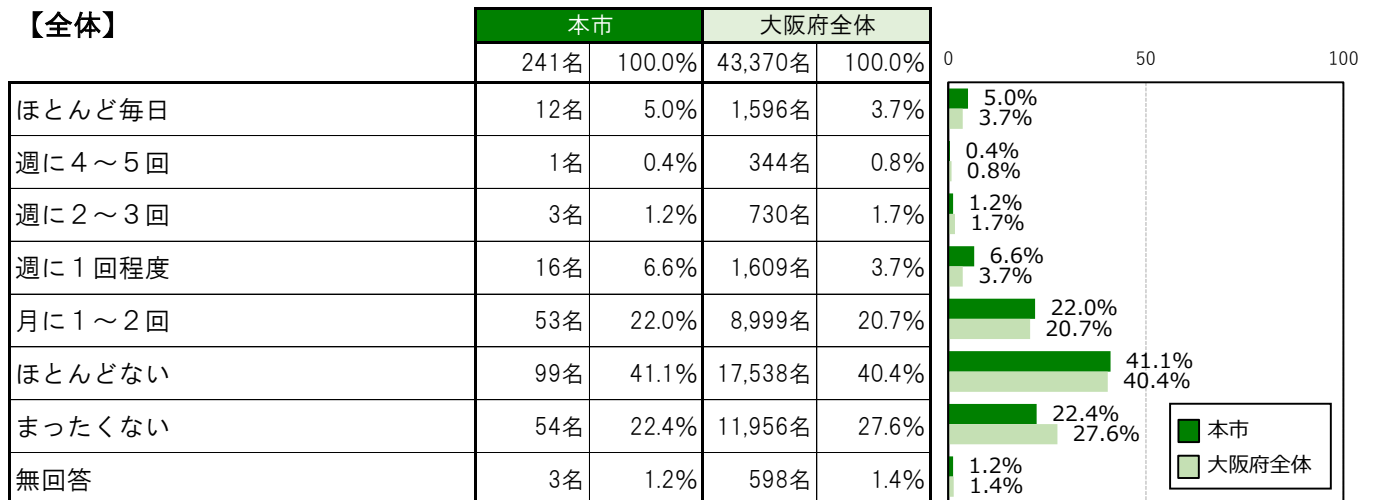
問 8 保護者との関係性 ⑨おうちの大人のひとと文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をするか

全体は、「ほとんどない」が41.1%で最も多く、次いで「まったくない」が22.4%、「月に1～2回」が22.0%、「週に1回程度」が6.6%となっている。

小学生は、「ほとんどない」が39.0%で最も多く、次いで「月に1～2回」が22.0%、「まったくない」が17.8%、「週に1回程度」が10.2%となっている。

中学生は、「ほとんどない」が42.6%で最も多く、次いで「まったくない」が27.0%、「月に1～2回」が22.1%、「週に1回程度」が3.3%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

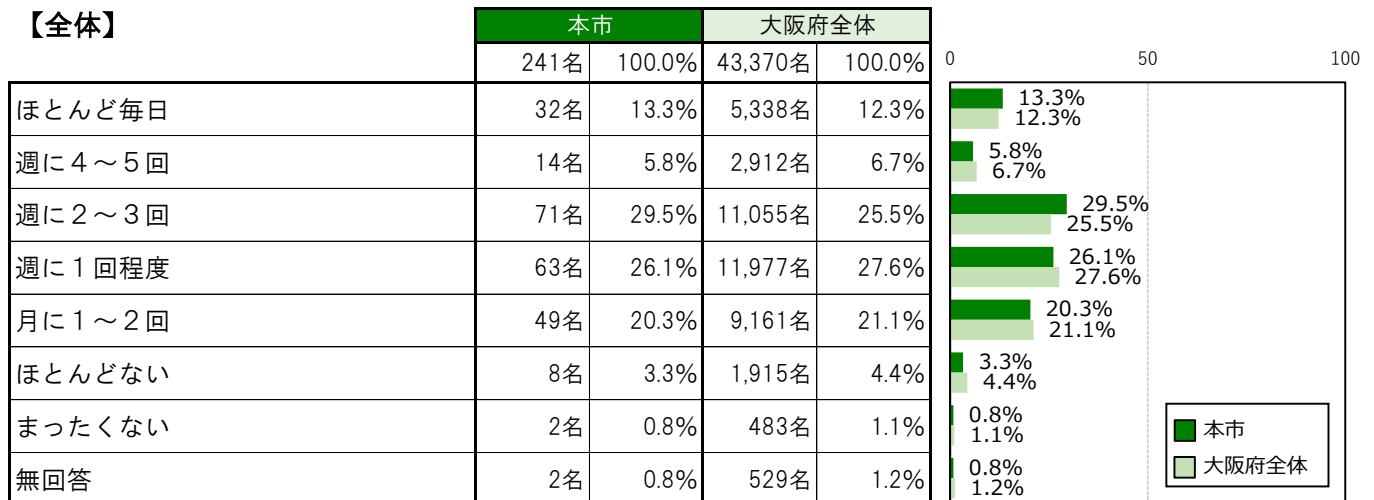
問 8 保護者との関係性 ⑩おうちの大人の人と一緒に外出するか（散歩する・買い物に出かける・外食をするなど）

全体は、「週に2～3回」が29.5%で最も多く、次いで「週に1回程度」が26.1%、「月に1～2回」が20.3%、「ほとんど毎日」が13.3%となっている。

小学生は、「週に2～3回」が34.7%で最も多く、次いで「週に1回程度」が22.9%、「ほとんど毎日」が20.3%、「月に1～2回」が12.7%となっている。

中学生は、「週に1回程度」が29.5%で最も多く、次いで「月に1～2回」が27.9%、「週に2～3回」が24.6%、「ほとんど毎日」が6.6%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問9 毎日の生活で楽しいこと

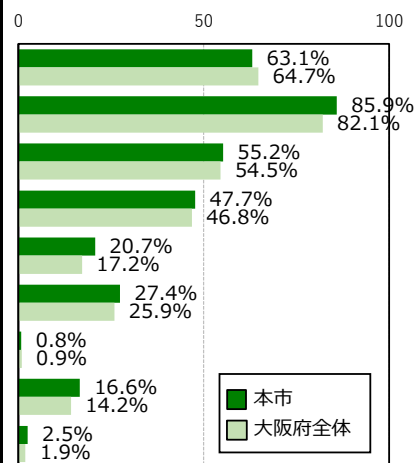
全体は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が85.9%で最も多く、次いで「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が63.1%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が55.2%、「ひとりで過ごしているとき」が47.7%となっている。

小学生は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が86.4%で最も多く、次いで「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が71.2%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が57.6%、「ひとりで過ごしているとき」が40.7%となっている。

中学生は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が85.2%で最も多く、次いで「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が55.7%、「ひとりで過ごしているとき」が54.9%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が53.3%となっている。

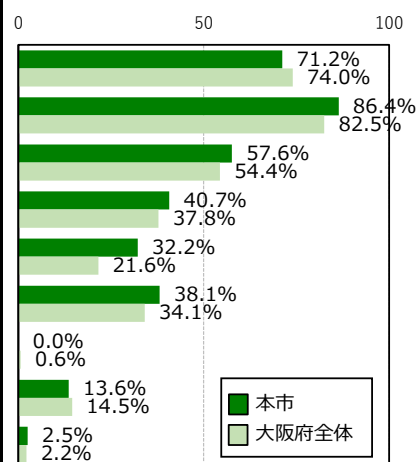
【全体】

	本市		大阪府全体	
	241名	100.0%	43,370名	100.0%
おうちの人と一緒に過ごしているとき	152名	63.1%	28,070名	64.7%
ともだちと一緒に過ごしているとき	207名	85.9%	35,599名	82.1%
学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき	133名	55.2%	23,630名	54.5%
ひとりで過ごしているとき	115名	47.7%	20,290名	46.8%
今、住んでいる地域の行事に参加しているとき	50名	20.7%	7,469名	17.2%
塾や習いごとで過ごしているとき	66名	27.4%	11,215名	25.9%
特に楽しいと思うときはない	2名	0.8%	407名	0.9%
その他	40名	16.6%	6,162名	14.2%
無回答	6名	2.5%	829名	1.9%



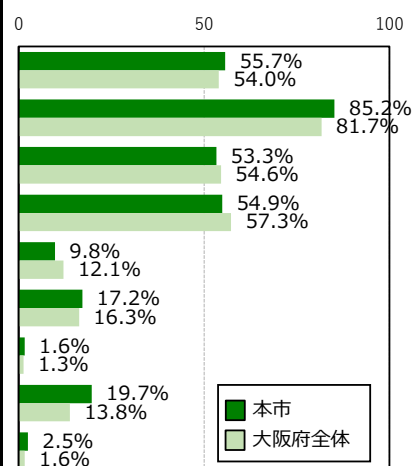
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	23,289名	100.0%
おうちの人と一緒に過ごしているとき	84名	71.2%	17,231名	74.0%
ともだちと一緒に過ごしているとき	102名	86.4%	19,212名	82.5%
学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき	68名	57.6%	12,660名	54.4%
ひとりで過ごしているとき	48名	40.7%	8,805名	37.8%
今、住んでいる地域の行事に参加しているとき	38名	32.2%	5,032名	21.6%
塾や習いごとで過ごしているとき	45名	38.1%	7,944名	34.1%
特に楽しいと思うときはない	-	-	143名	0.6%
その他	16名	13.6%	3,380名	14.5%
無回答	3名	2.5%	501名	2.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	122名	100.0%	19,990名	100.0%
おうちの人と一緒に過ごしているとき	68名	55.7%	10,789名	54.0%
ともだちと一緒に過ごしているとき	104名	85.2%	16,324名	81.7%
学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき	65名	53.3%	10,924名	54.6%
ひとりで過ごしているとき	67名	54.9%	11,451名	57.3%
今、住んでいる地域の行事に参加しているとき	12名	9.8%	2,426名	12.1%
塾や習いごとで過ごしているとき	21名	17.2%	3,256名	16.3%
特に楽しいと思うときはない	2名	1.6%	264名	1.3%
その他	24名	19.7%	2,768名	13.8%
無回答	3名	2.5%	319名	1.6%



ふだんの生活のことについて

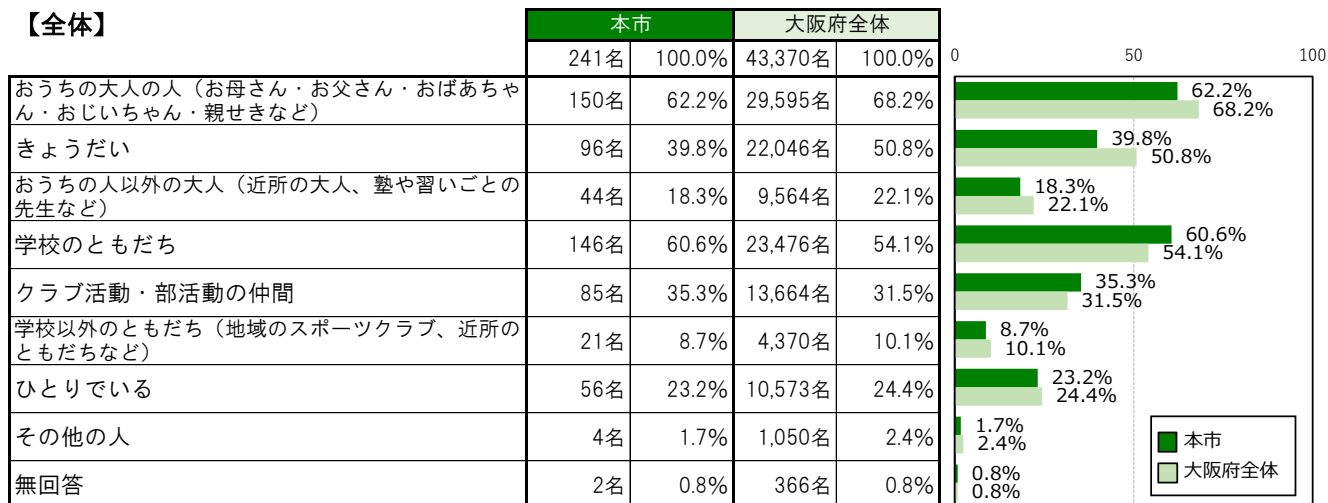
問10 放課後を一緒に過ごす人

全体は、「おうちの大人の人」が62.2%で最も多く、次いで「学校のともだち」が60.6%、「きょうだい」が39.8%、「クラブ活動・部活動の仲間」が35.3%となっている。

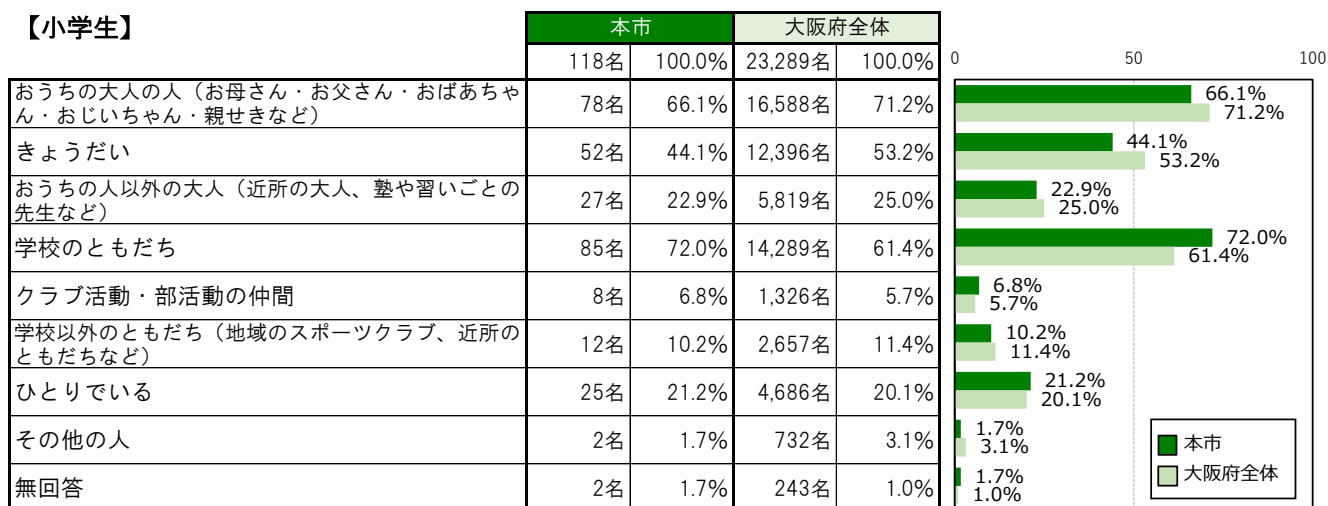
小学生は、「学校のともだち」が72.0%で最も多く、次いで「おうちの大人の人」が66.1%、「きょうだい」が44.1%、「おうちの人以外の大人」が22.9%となっている。

中学生は、「クラブ活動・部活動の仲間」が63.1%で最も多く、次いで「おうちの大人の人」が59.0%、「学校のともだち」が49.2%、「きょうだい」が36.1%となっている。

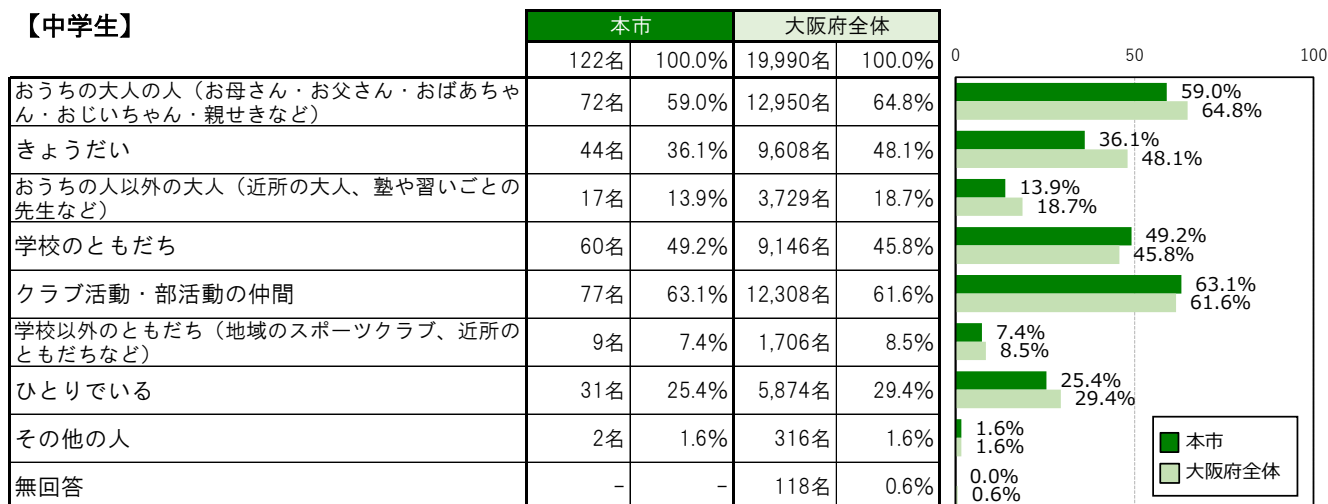
【全体】



【小学生】



【中学生】



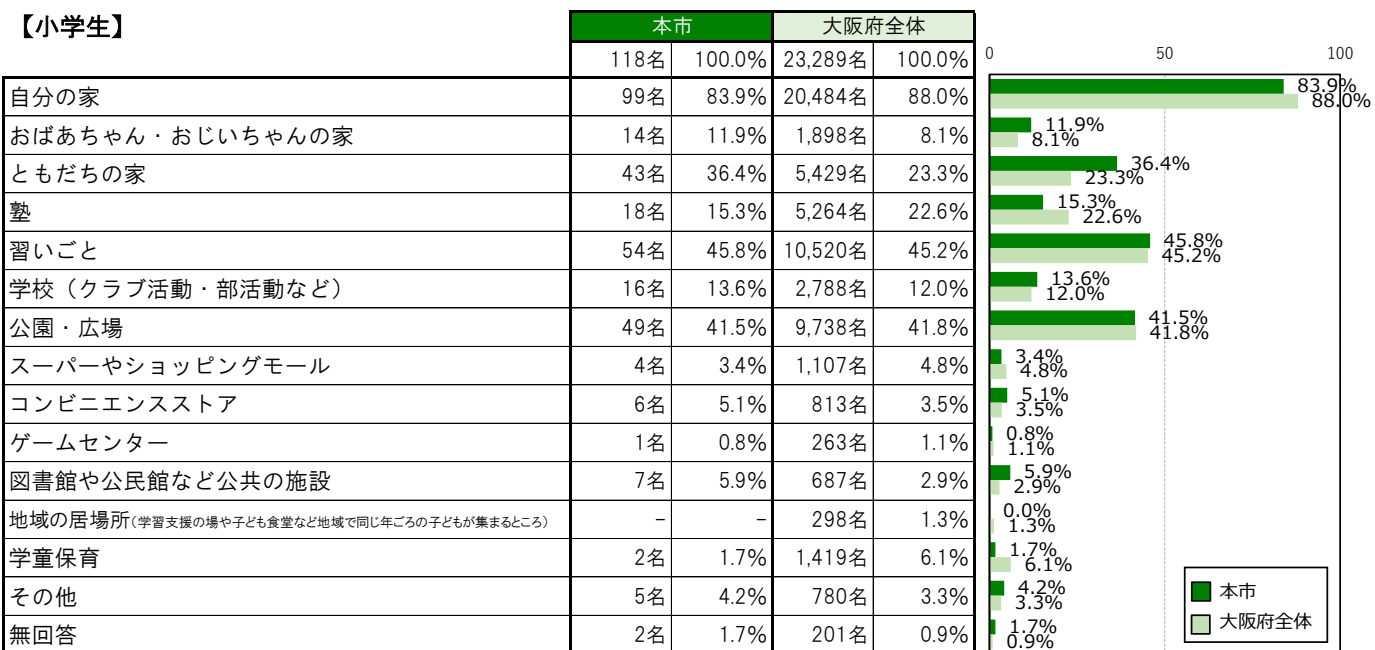
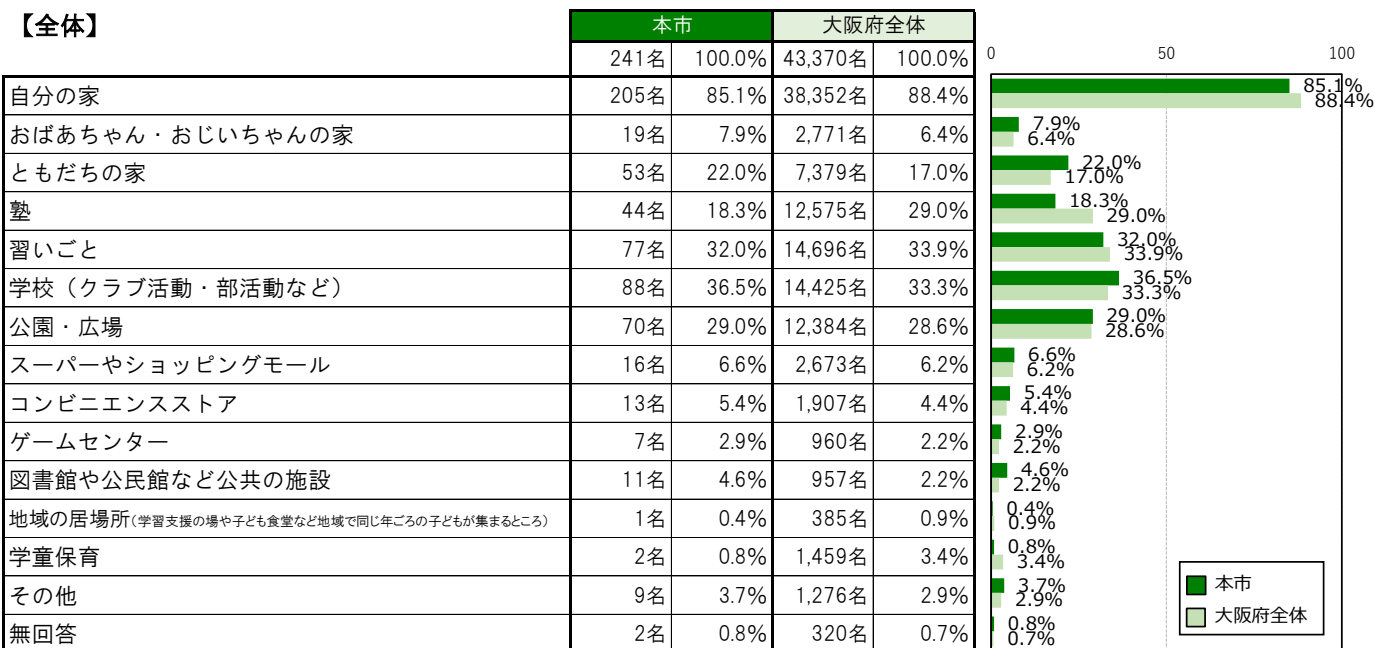
ふだんの生活のことについて

問11 放課後を過ごす場所

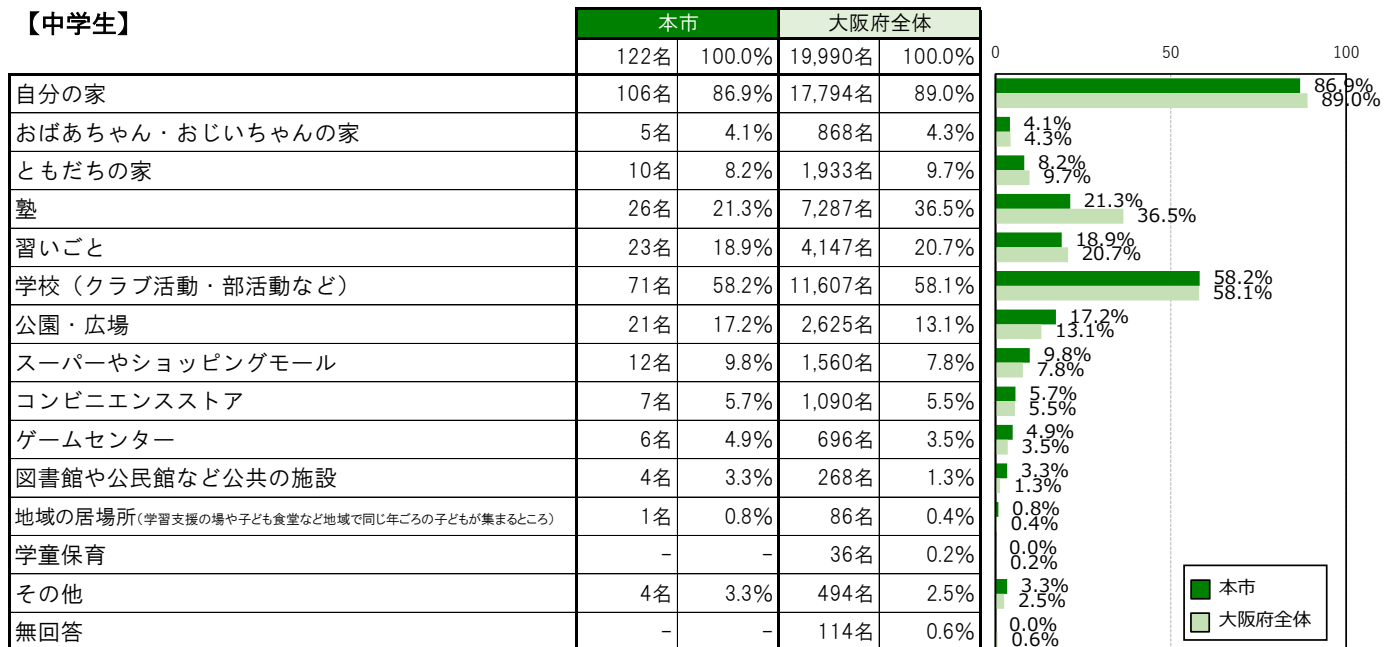
全体は、「自分の家」が85.1%で最も多く、次いで「学校（クラブ活動・部活動など）」が36.5%、「習いごと」が32.0%、「公園・広場」が29.0%となっている。

小学生は、「自分の家」が83.9%で最も多く、次いで「習いごと」が45.8%、「公園・広場」が41.5%、「ともだちの家」が36.4%となっている。

中学生は、「自分の家」が86.9%で最も多く、次いで「学校（クラブ活動・部活動など）」が58.2%、「塾」が21.3%、「習いごと」が18.9%となっている。



【中学生】



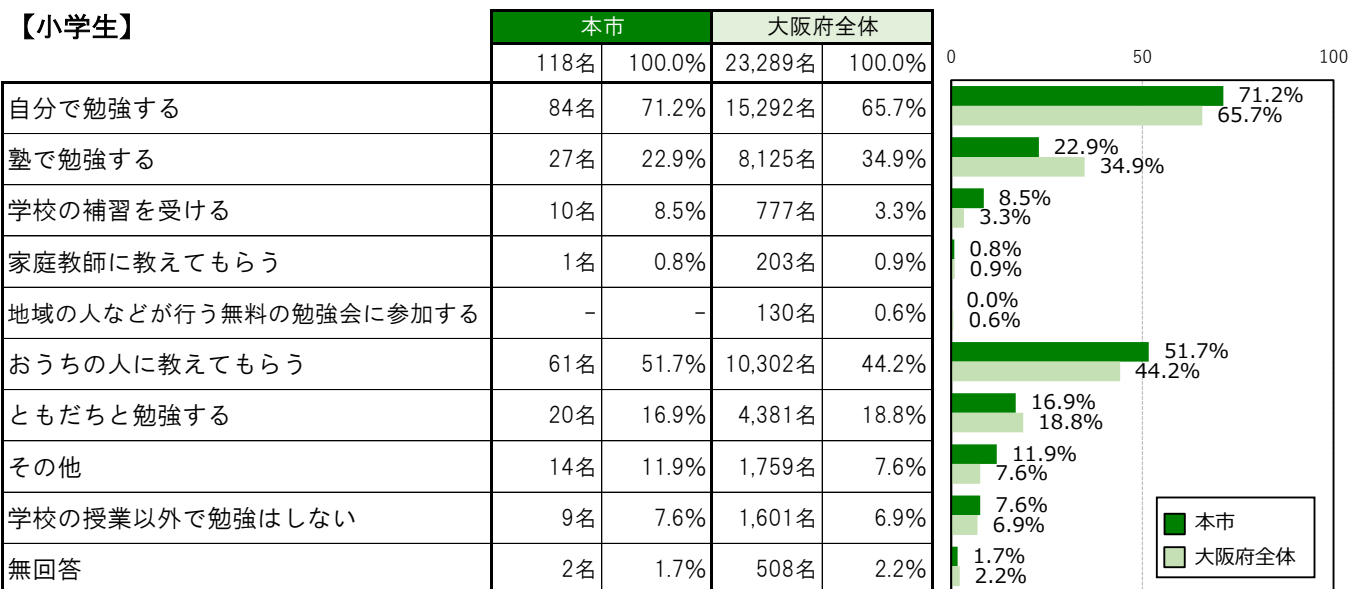
ふだんの生活のことについて

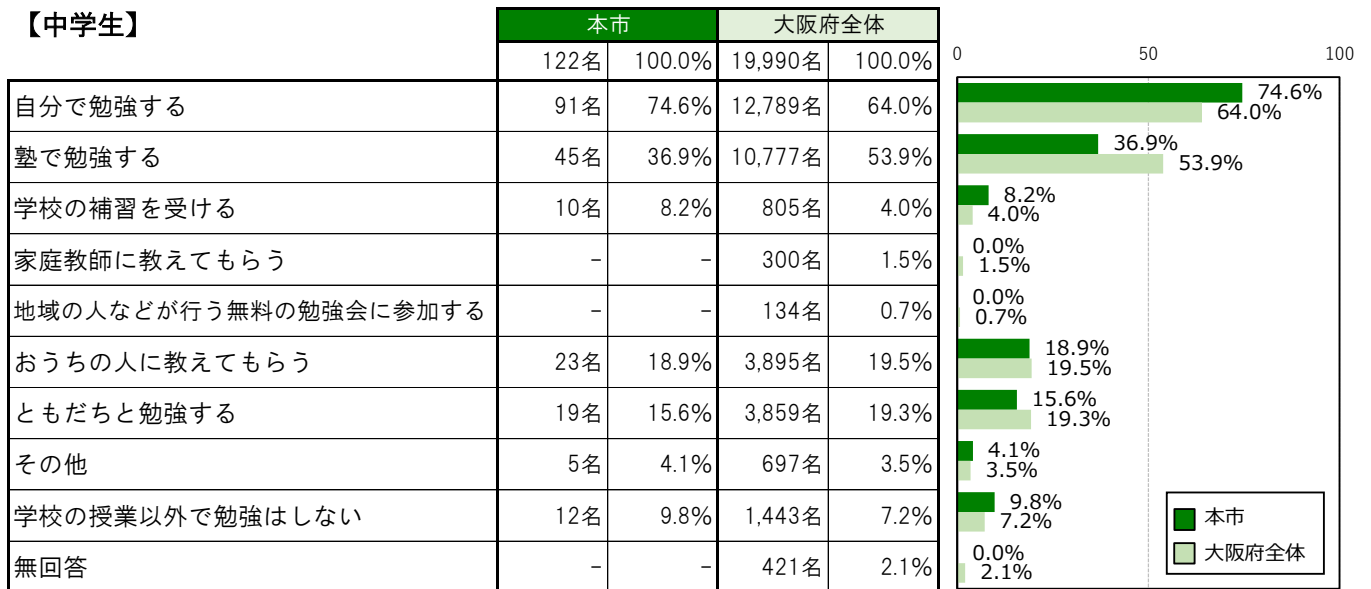
問12 授業以外の勉強状況

全体は、「自分で勉強する」が73.0%で最も多く、次いで「おうちの人に教えてもらう」が34.9%、「塾で勉強する」が29.9%、「ともだちと勉強する」が16.2%となっている。

小学生は、「自分で勉強する」が71.2%で最も多く、次いで「おうちの人に教えてもらう」が51.7%、「塾で勉強する」が22.9%、「ともだちと勉強する」が16.9%となっている。

中学生は、「自分で勉強する」が74.6%で最も多く、次いで「塾で勉強する」が36.9%、「おうちの人に教えてもらう」が18.9%、「ともだちと勉強する」が15.6%となっている。





ふだんの生活のことについて

問13 授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）

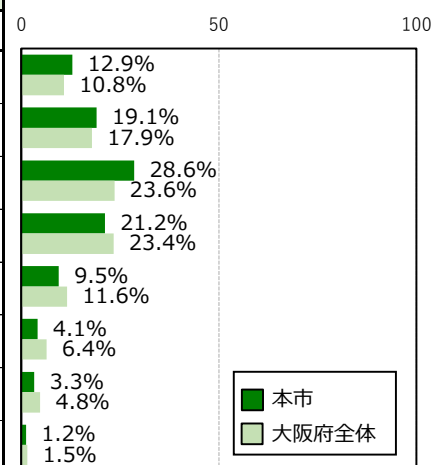
全体は、「30分以上、1時間より少ない」が28.6%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が21.2%、「30分より少ない」が19.1%、「まったくしない」が12.9%となっている。

小学生は、「30分以上、1時間より少ない」が33.1%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が20.3%、「30分より少ない」が19.5%、「まったくしない」が9.3%となっている。

中学生は、「30分以上、1時間より少ない」が24.6%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が22.1%、「30分より少ない」が18.9%、「まったくしない」が16.4%となっている。

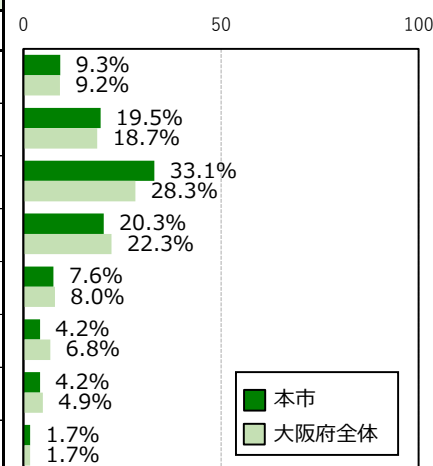
【全体】

	本市		大阪府全体	
	241名	100.0%	43,370名	100.0%
まったくしない	31名	12.9%	4,696名	10.8%
30分より少ない	46名	19.1%	7,745名	17.9%
30分以上、1時間より少ない	69名	28.6%	10,239名	23.6%
1時間以上、2時間より少ない	51名	21.2%	10,157名	23.4%
2時間以上、3時間より少ない	23名	9.5%	5,024名	11.6%
3時間以上	10名	4.1%	2,762名	6.4%
わからない	8名	3.3%	2,098名	4.8%
無回答	3名	1.2%	649名	1.5%



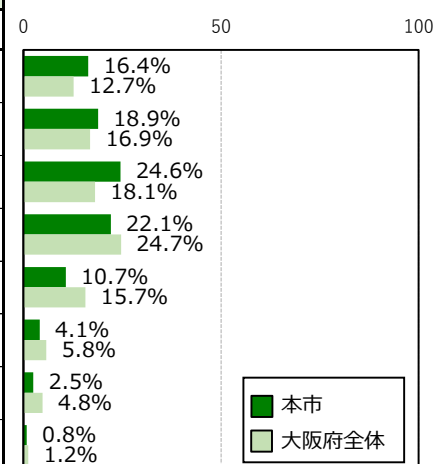
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	23,289名	100.0%
まったくしない	11名	9.3%	2,154名	9.2%
30分より少ない	23名	19.5%	4,360名	18.7%
30分以上、1時間より少ない	39名	33.1%	6,598名	28.3%
1時間以上、2時間より少ない	24名	20.3%	5,196名	22.3%
2時間以上、3時間より少ない	9名	7.6%	1,865名	8.0%
3時間以上	5名	4.2%	1,589名	6.8%
わからない	5名	4.2%	1,131名	4.9%
無回答	2名	1.7%	396名	1.7%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	122名	100.0%	19,990名	100.0%
まったくしない	20名	16.4%	2,534名	12.7%
30分より少ない	23名	18.9%	3,373名	16.9%
30分以上、1時間より少ない	30名	24.6%	3,617名	18.1%
1時間以上、2時間より少ない	27名	22.1%	4,943名	24.7%
2時間以上、3時間より少ない	13名	10.7%	3,147名	15.7%
3時間以上	5名	4.1%	1,168名	5.8%
わからない	3名	2.5%	959名	4.8%
無回答	1名	0.8%	249名	1.2%



ふだんの生活のことについて

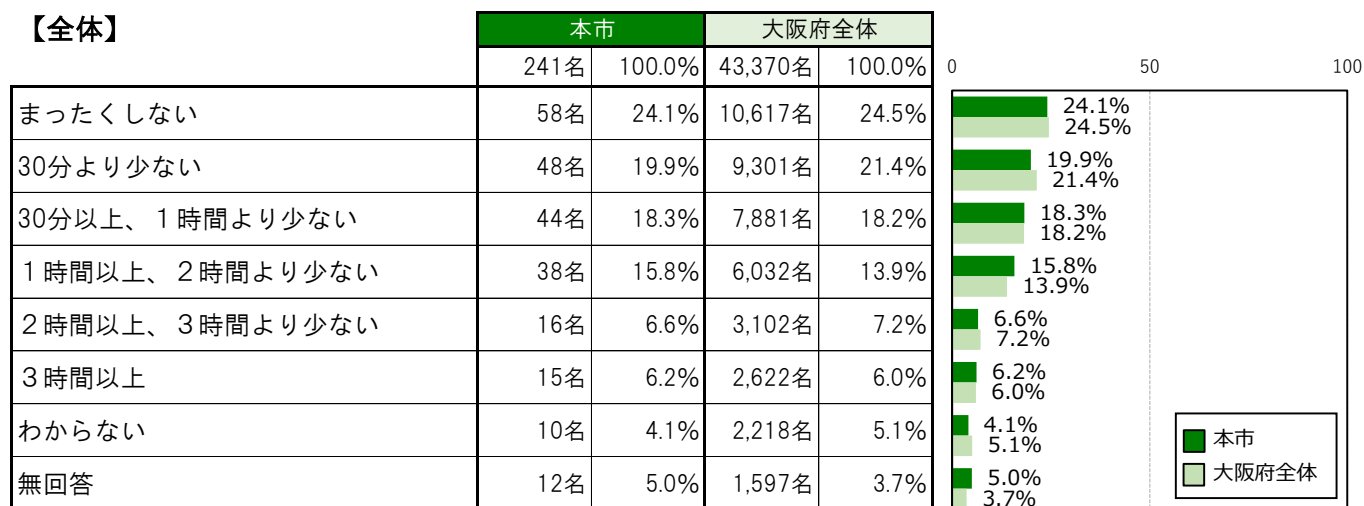
問13 授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）

全体は、「まったくしない」が24.1%で最も多く、次いで「30分より少ない」が19.9%、「30分以上、1時間より少ない」が18.3%、「1時間以上、2時間より少ない」が15.8%となっている。

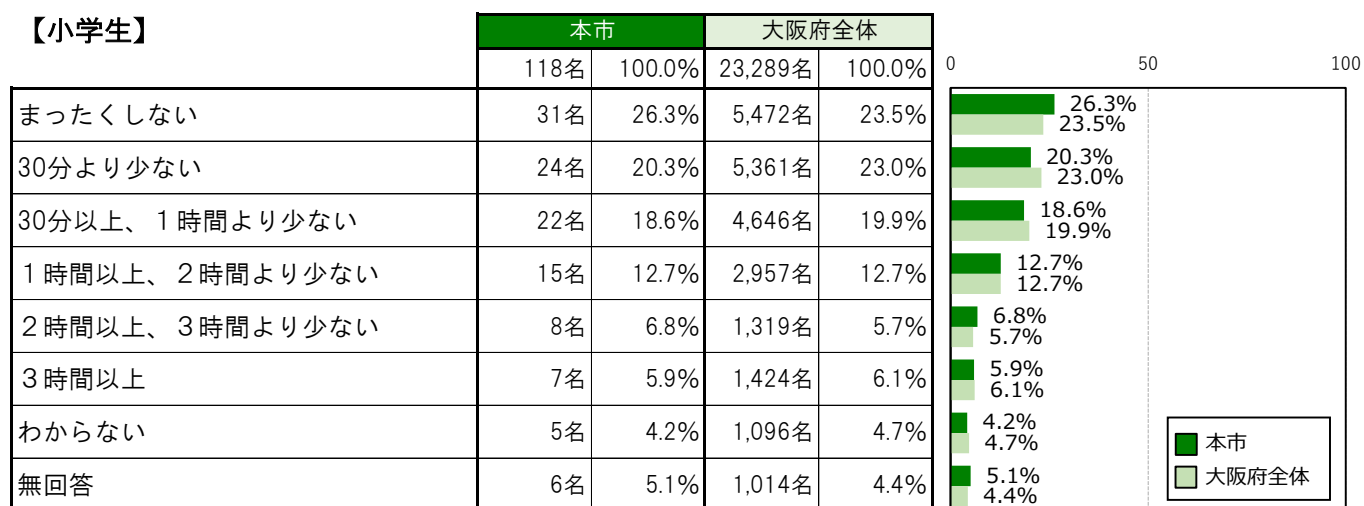
小学生は、「まったくしない」が26.3%で最も多く、次いで「30分より少ない」が20.3%、「30分以上、1時間より少ない」が18.6%、「1時間以上、2時間より少ない」が12.7%となっている。

中学生は、「まったくしない」が22.1%で最も多く、次いで「30分より少ない」が19.7%、「30分以上、1時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」がそれぞれ18.0%となっている。

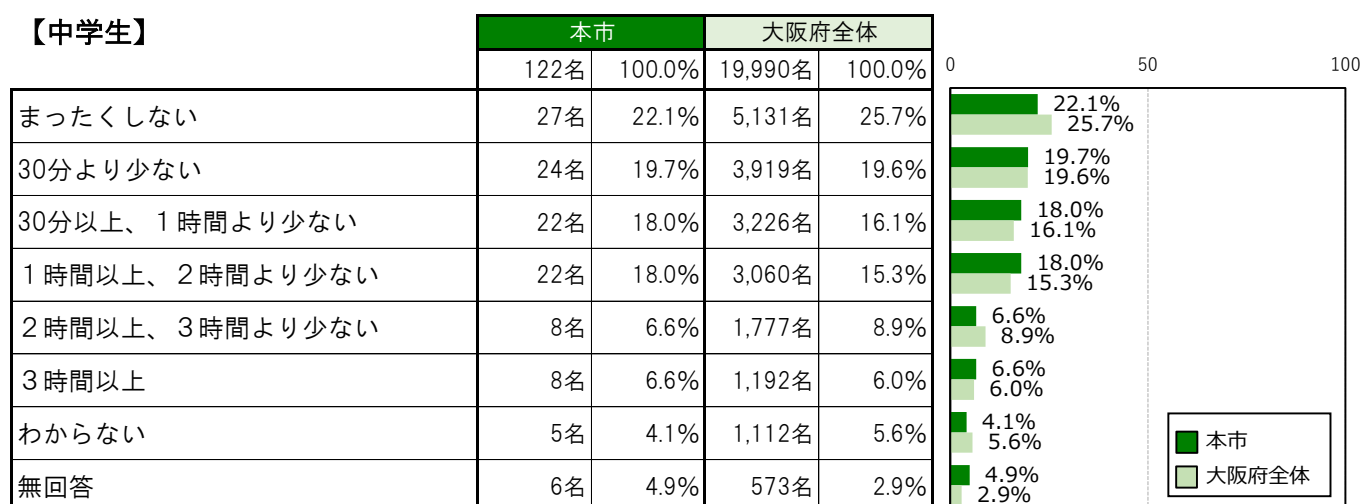
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

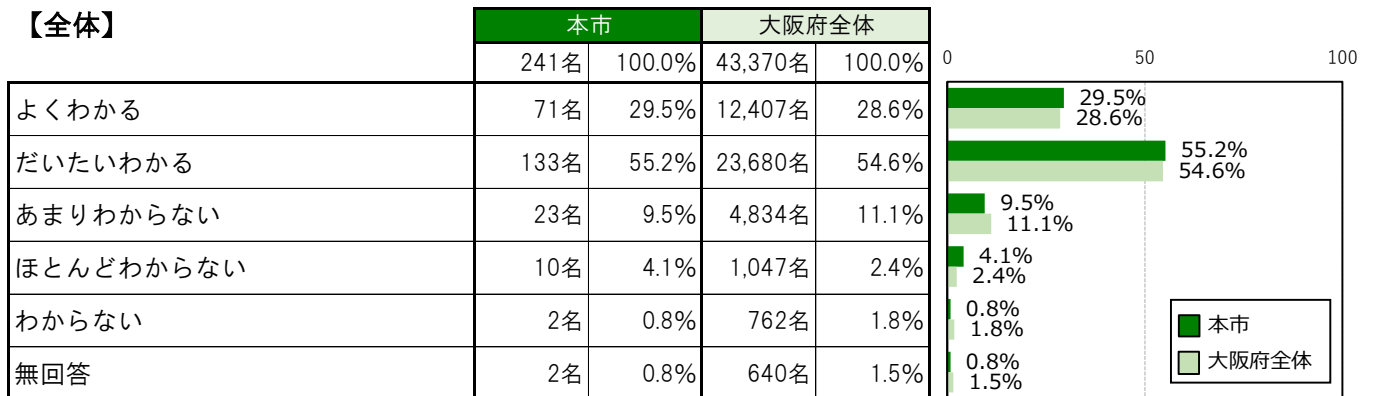
問14（１）学校の勉強で気持ちに近いもの

全体は、「だいたいわかる」が55.2%で最も多く、次いで「よくわかる」が29.5%、「あまりわからない」が9.5%となっている。

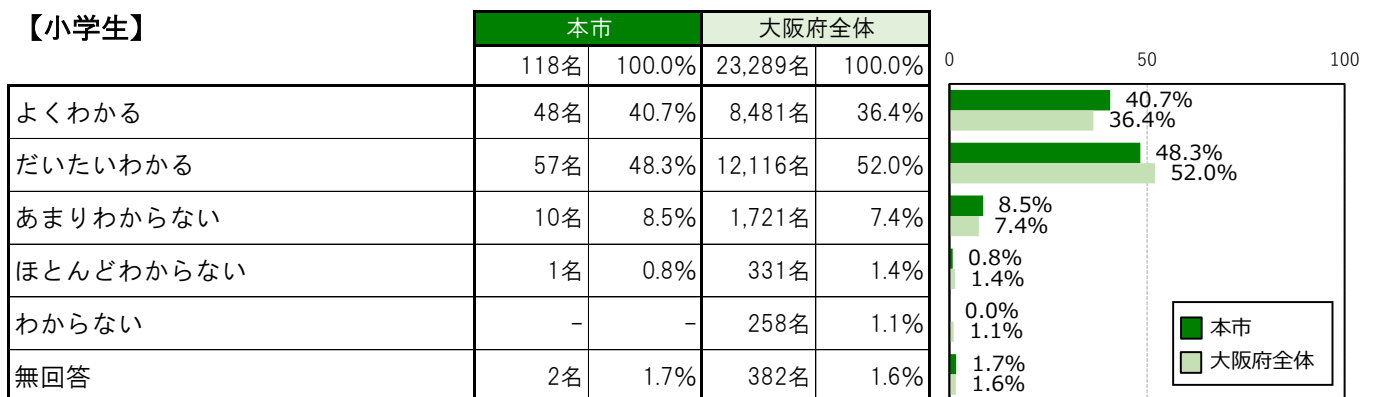
小学生は、「だいたいわかる」が48.3%で最も多く、次いで「よくわかる」が40.7%、「あまりわからない」が8.5%となっている。

中学生は、「だいたいわかる」が61.5%で最も多く、次いで「よくわかる」が18.9%、「あまりわからない」が10.7%となっている。

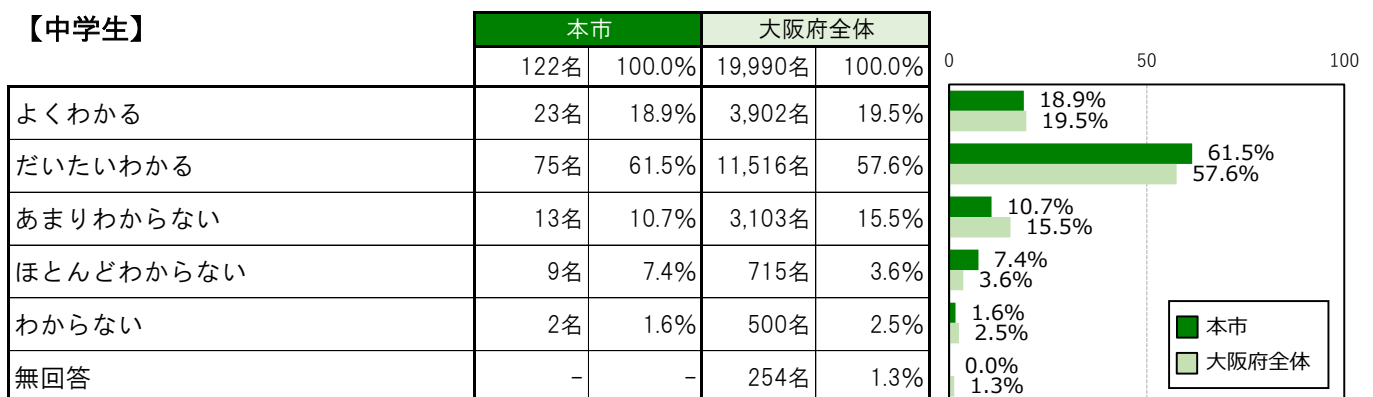
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問14（2）授業がわからなくなった時期

全体は、「中学1年生のころ」が42.9%で最も多く、次いで「小学3・4年生のころ」、「小学5年生になってから」がそれぞれ17.1%、「中学2年生になってから」が11.4%、「小学1・2年生のころ」が5.7%となっている。

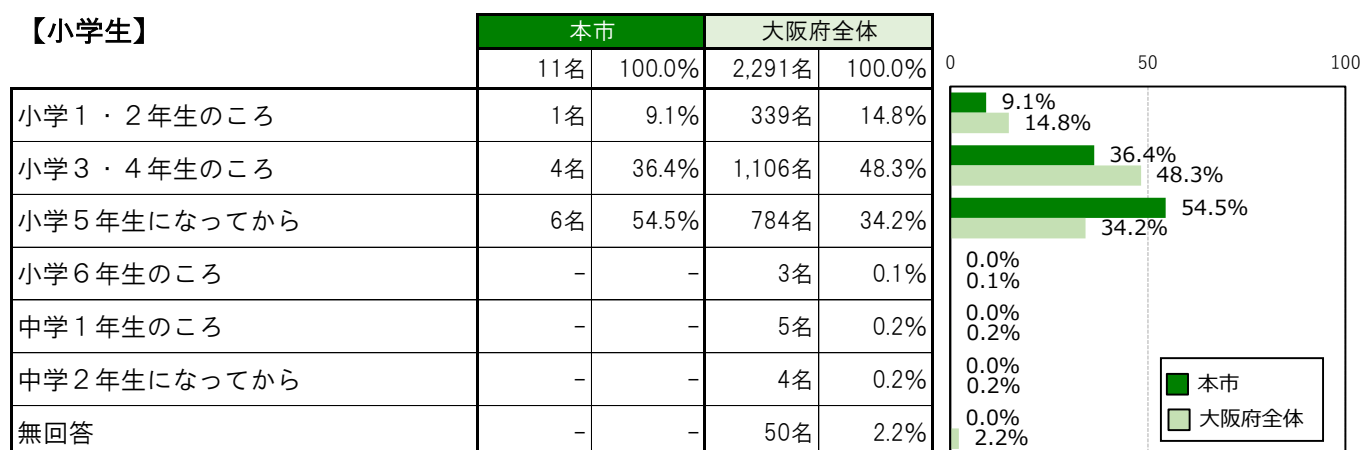
小学生は、「小学5年生になってから」が54.5%で最も多く、次いで「小学3・4年生のころ」が36.4%となっている。

中学生は、「中学1年生のころ」が62.5%で最も多く、次いで「中学2年生になってから」が16.7%、「小学3・4年生のころ」が8.3%となっている。

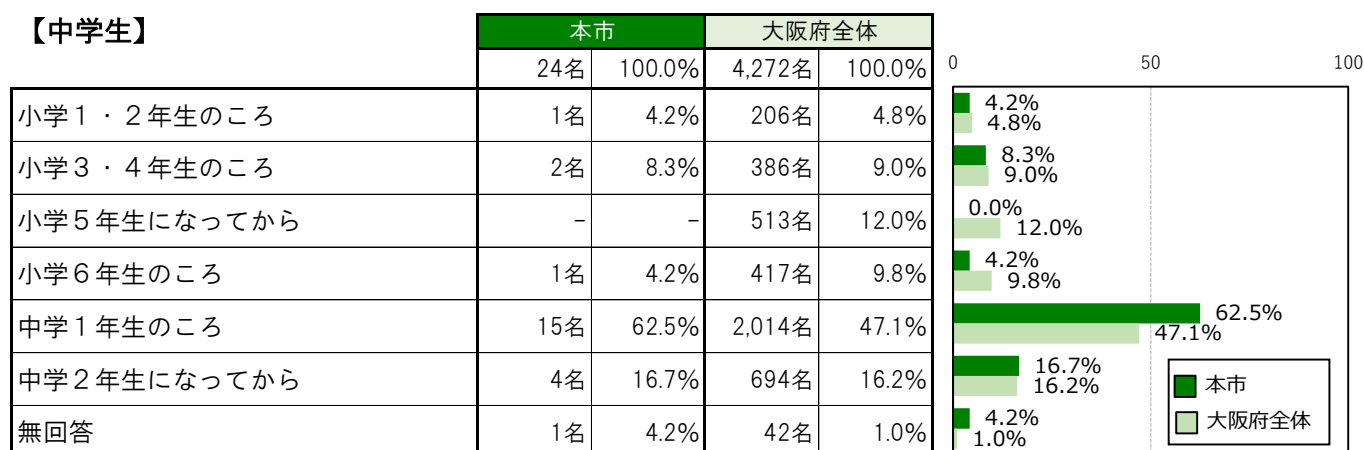
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問15 授業以外の読書時間

全体は、「まったくしない」が39.0%で最も多く、次いで「30分より少ない」が32.0%、「30分以上、1時間より少ない」が14.5%、「1時間以上、2時間より少ない」が7.1%となっている。

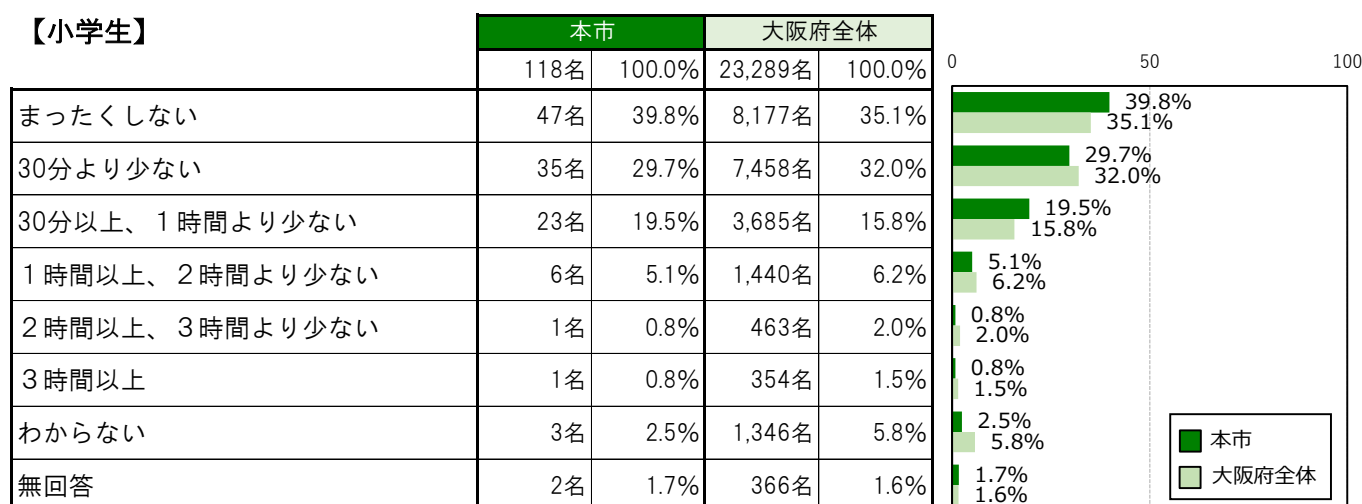
小学生は、「まったくしない」が39.8%で最も多く、次いで「30分より少ない」が29.7%、「30分以上、1時間より少ない」が19.5%、「1時間以上、2時間より少ない」が5.1%となっている。

中学生は、「まったくしない」が38.5%で最も多く、次いで「30分より少ない」が34.4%、「30分以上、1時間より少ない」が9.8%、「1時間以上、2時間より少ない」が8.2%となっている。

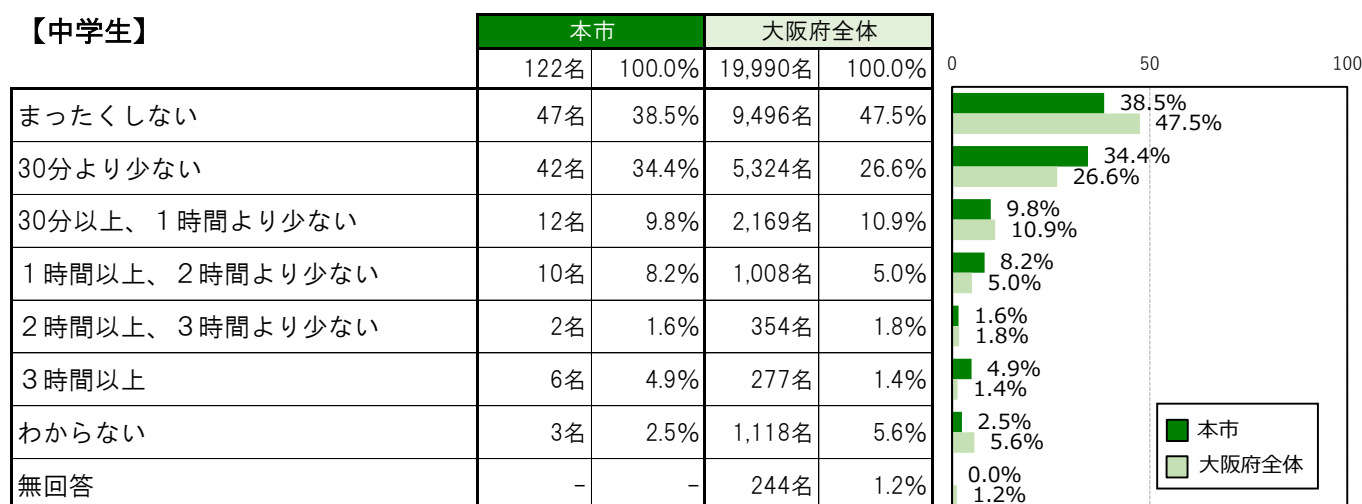
【全体】



【小学生】



【中学生】



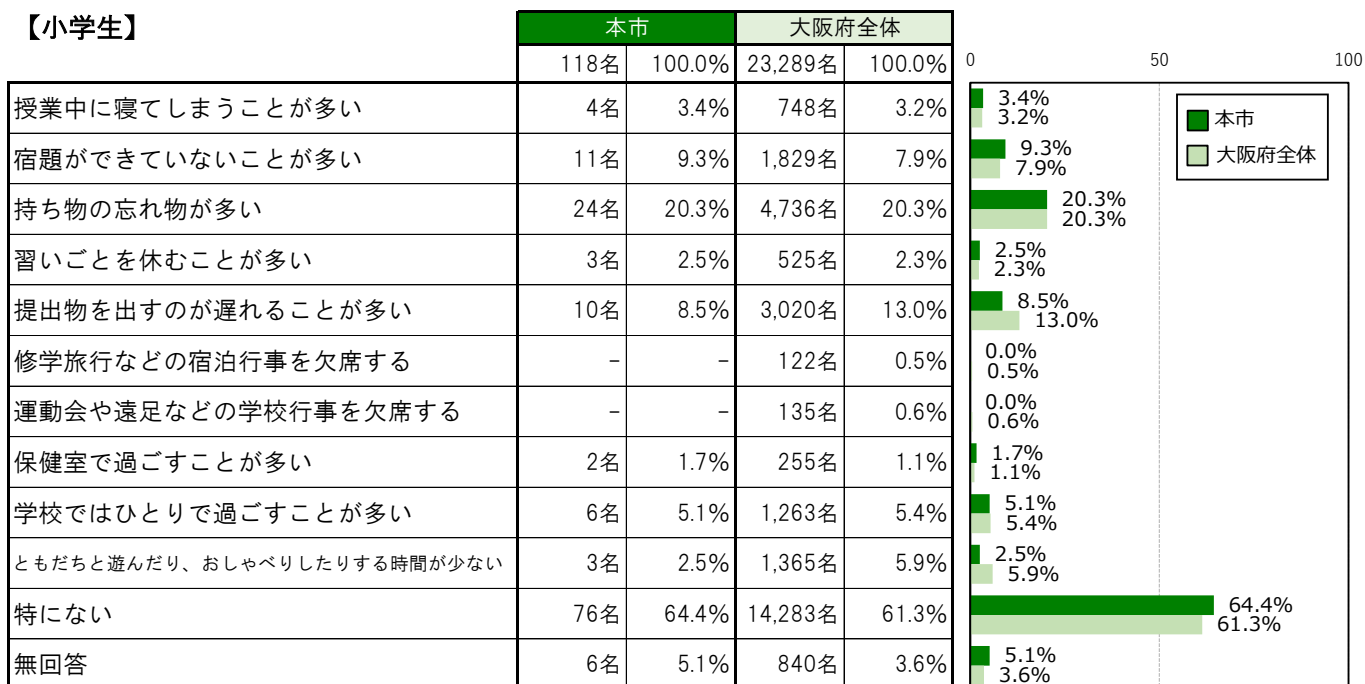
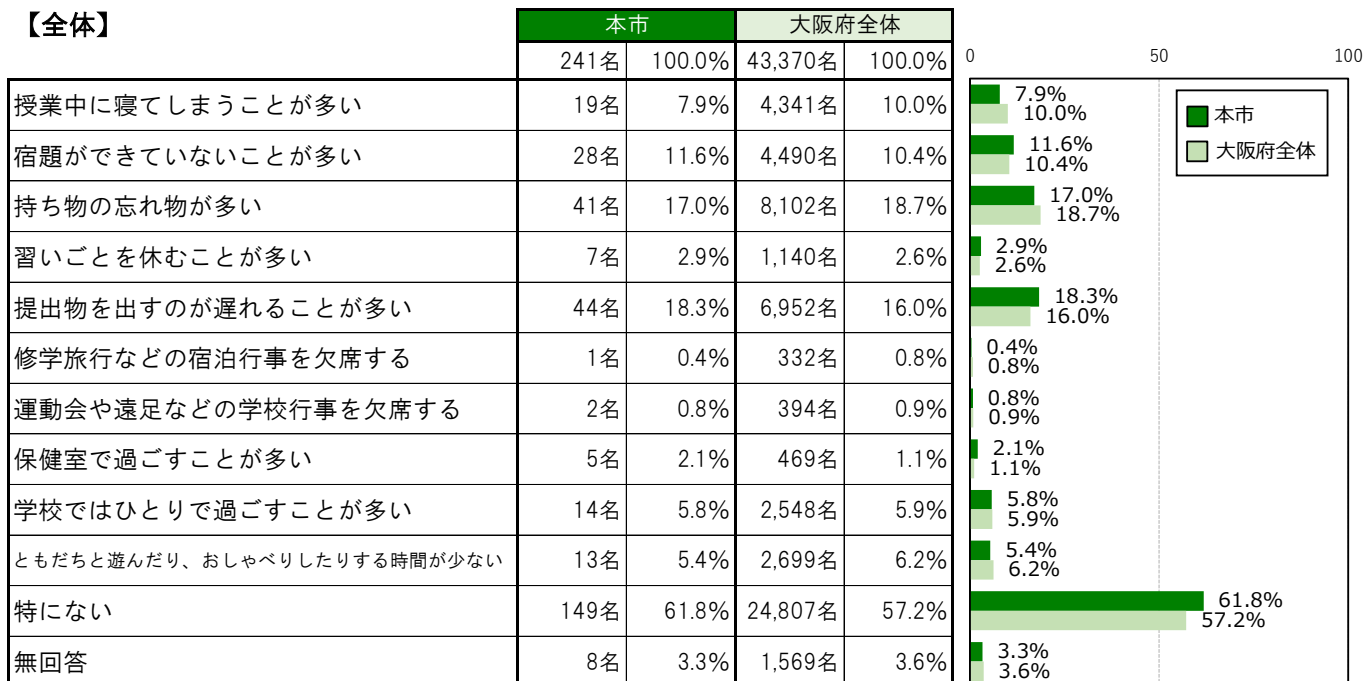
ふだんの生活のことについて

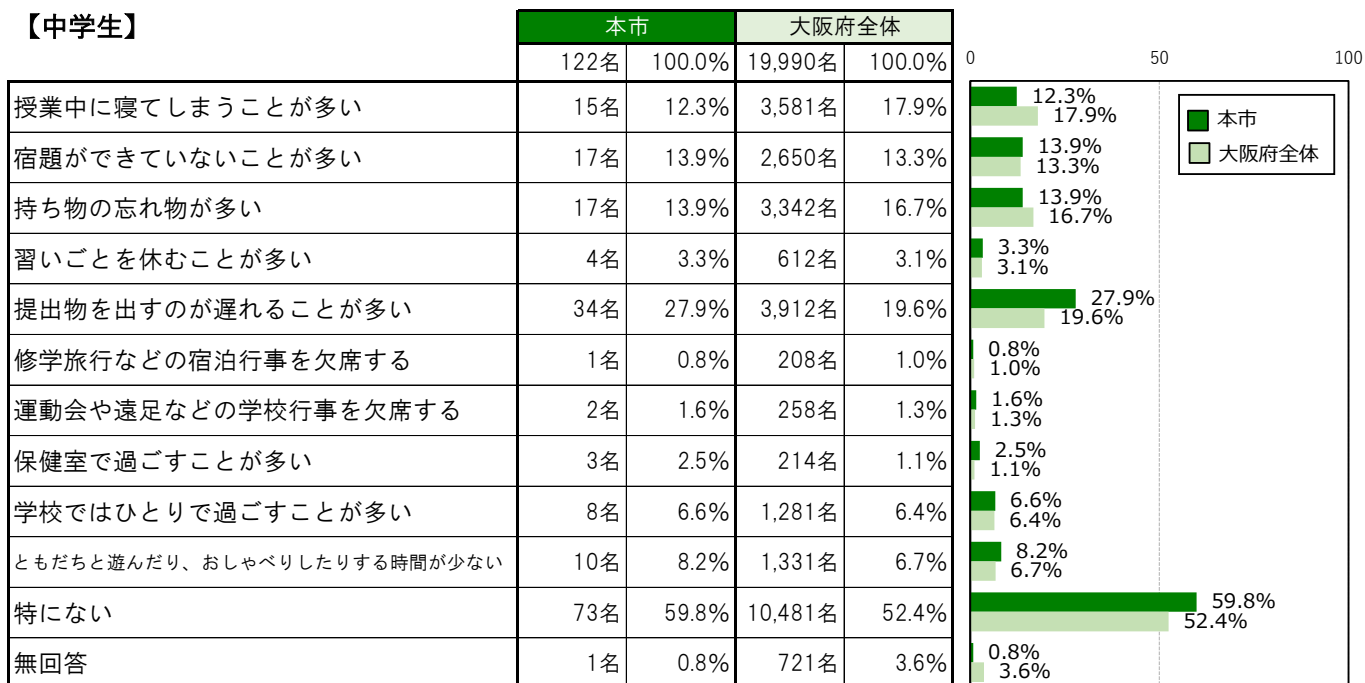
問16 学校や学校の行事等の状況

全体は、「提出物を出すのが遅れることが多い」が18.3%で最も多く、次いで「持ち物の忘れ物が多い」が17.0%、「宿題ができていないことが多い」が11.6%、「授業中に寝てしまうことが多い」が7.9%となっている。

小学生は、「持ち物の忘れ物が多い」が20.3%で最も多く、次いで「宿題ができていないことが多い」が9.3%、「提出物を出すのが遅れることが多い」が8.5%、「学校ではひとりで過ごすことが多い」が5.1%となっている。

中学生は、「提出物を出すのが遅れることが多い」が27.9%で最も多く、次いで「宿題ができていないことが多い」、「持ち物の忘れ物が多い」がそれぞれ13.9%、「授業中に寝てしまうことが多い」が12.3%、「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」が8.2%となっている。





ふだんの生活のことについて

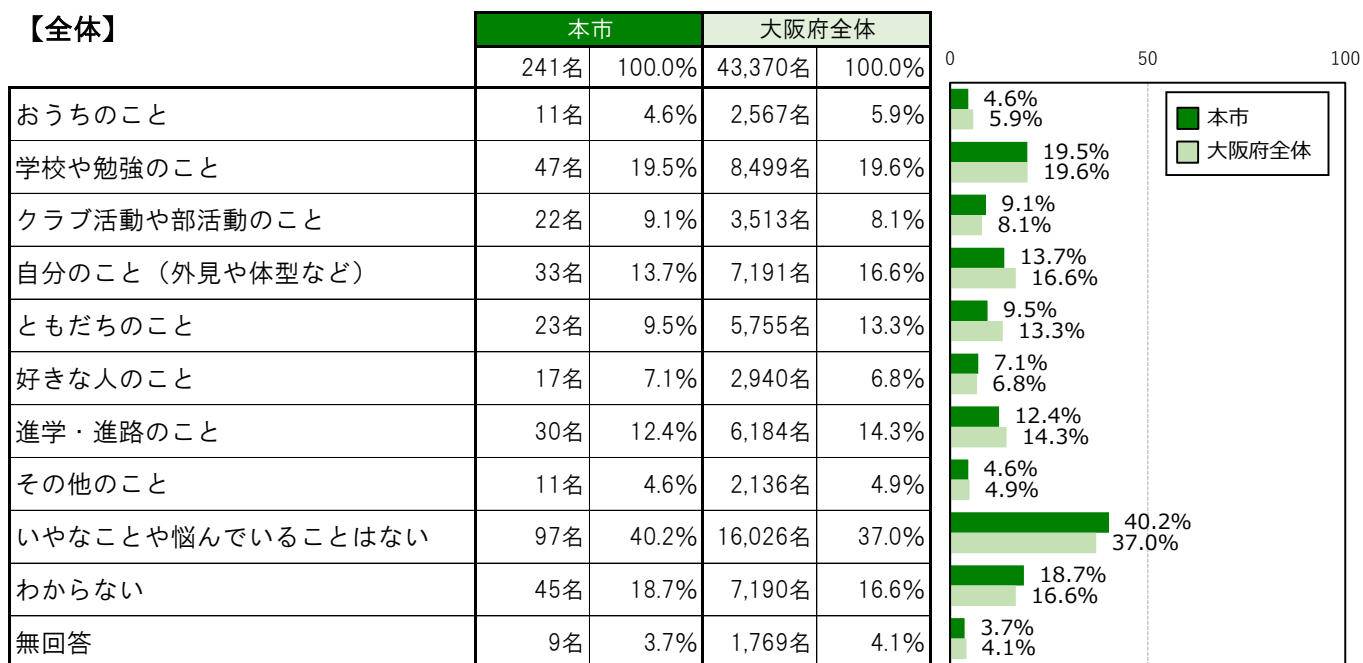
問17 嫌なことや悩んでいること

全体は、「いやなことや悩んでいることはない」が40.2%で最も多く、次いで「学校や勉強のこと」が19.5%、「自分のこと（外見や体型など）」が13.7%、「進学・進路のこと」が12.4%となっている。

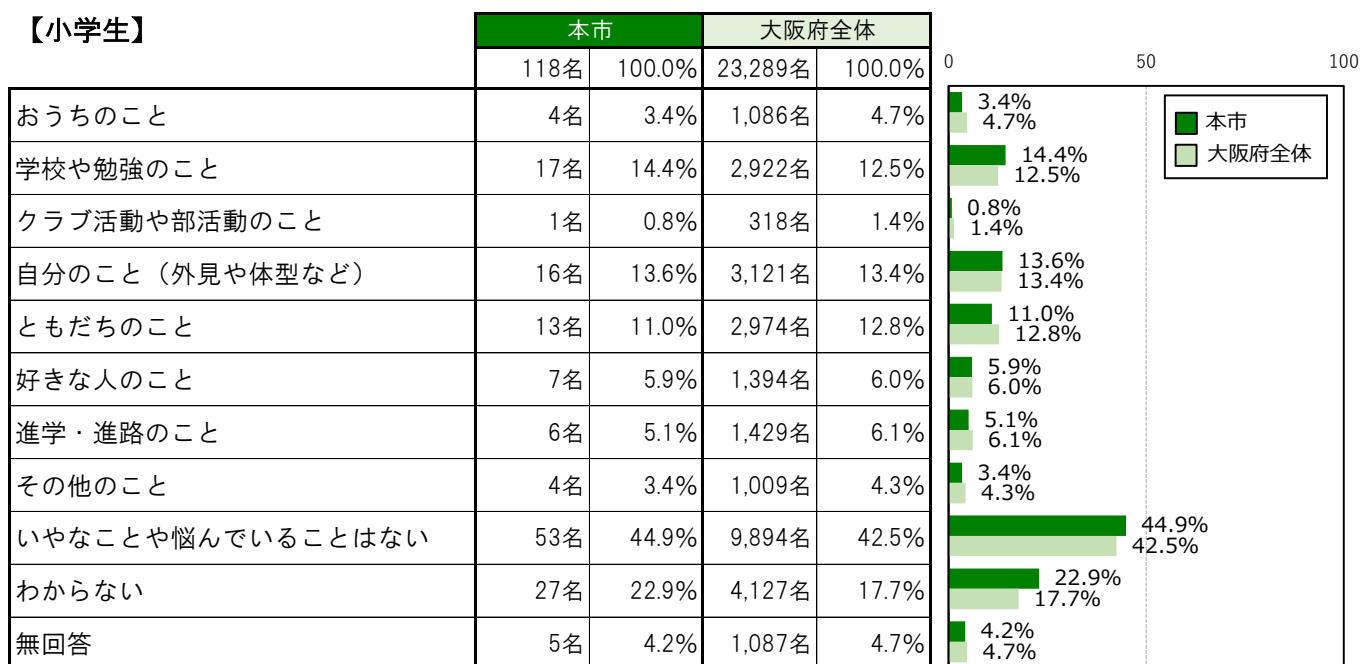
小学生は、「いやなことや悩んでいることはない」が44.9%で最も多く、次いで「学校や勉強のこと」が14.4%、「自分のこと（外見や体型など）」が13.6%、「ともだちのこと」が11.0%となっている。

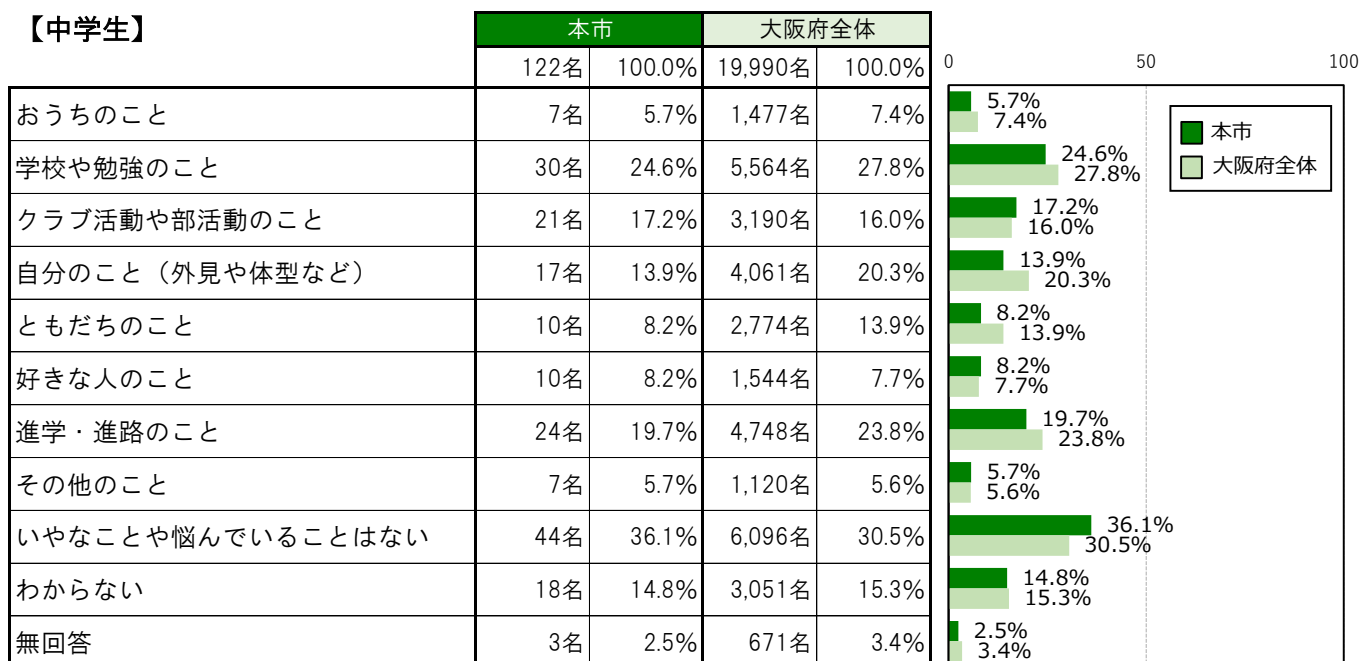
中学生は、「いやなことや悩んでいることはない」が36.1%で最も多く、次いで「学校や勉強のこと」が24.6%、「進学・進路のこと」が19.7%、「クラブ活動や部活動のこと」が17.2%となっている。

【全体】



【小学生】





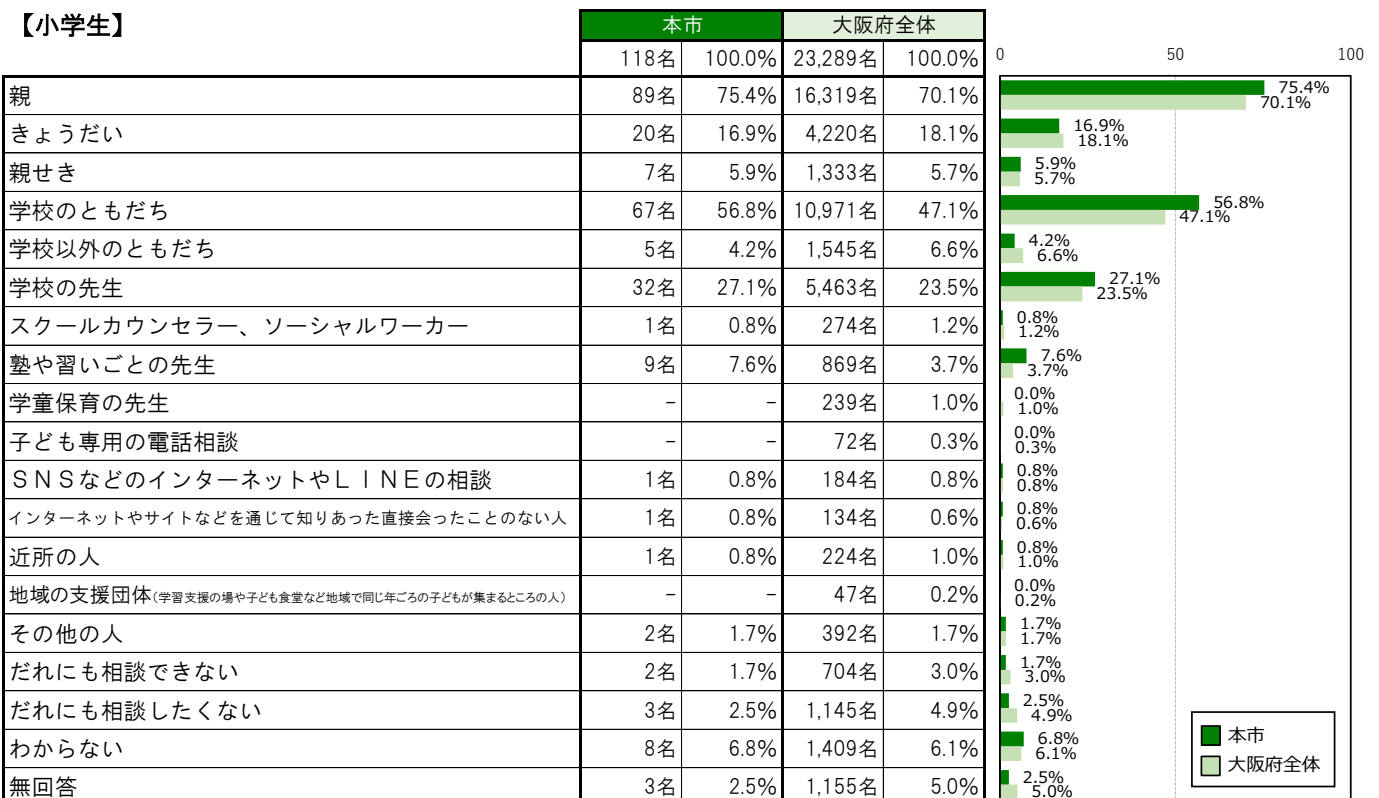
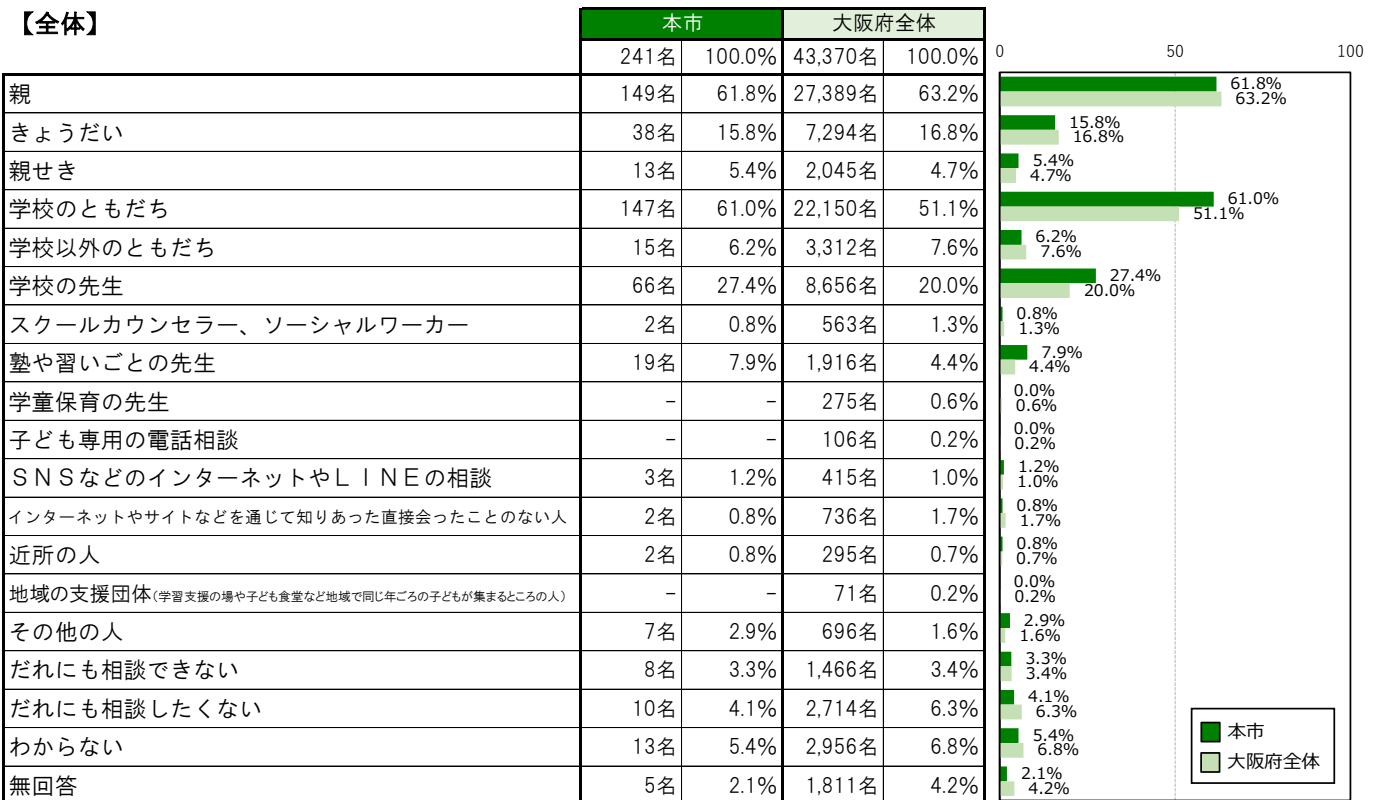
ふだんの生活のことについて

問18 嫌なことや悩んでいるときの相談相手

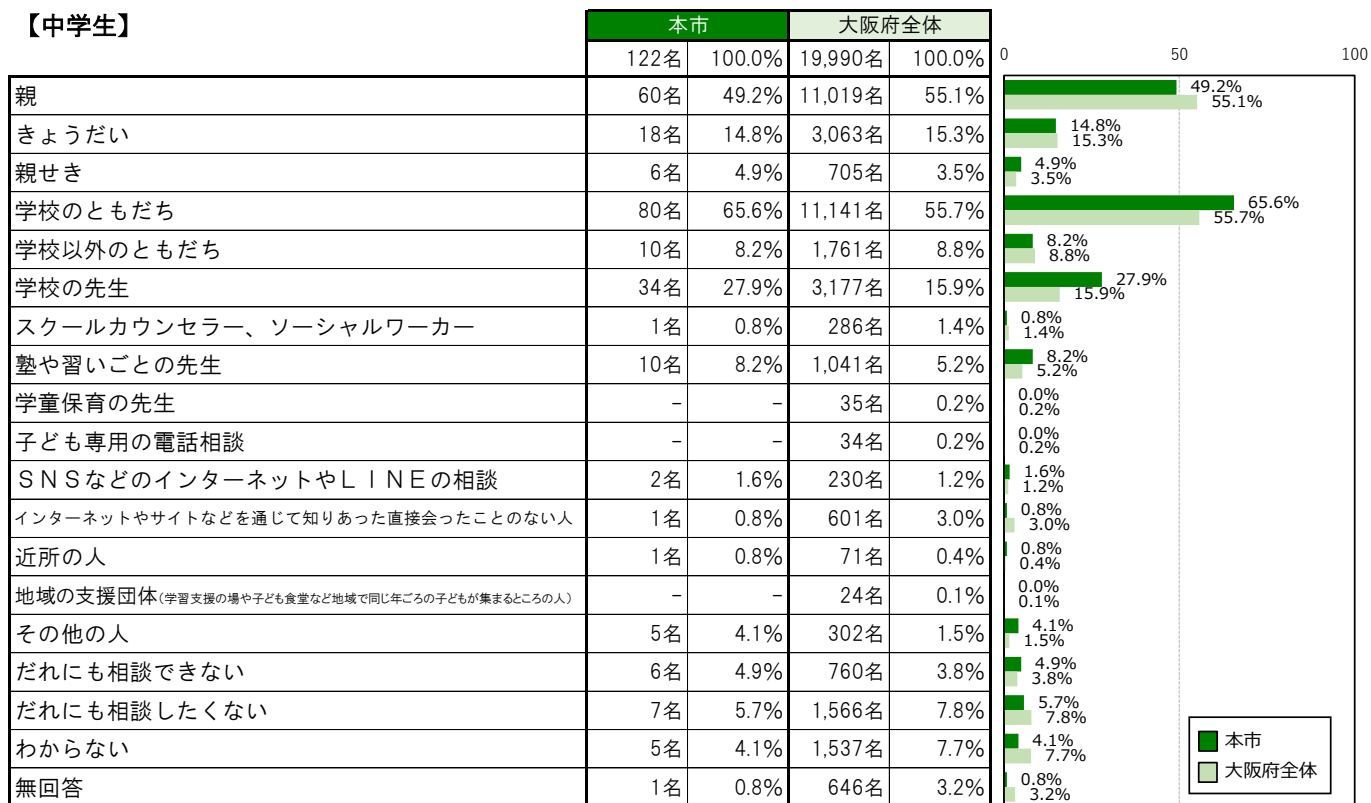
全体は、「親」が61.8%で最も多く、次いで「学校のともだち」が61.0%、「学校の先生」が27.4%、「きょうだい」が15.8%となっている。

小学生は、「親」が75.4%で最も多く、次いで「学校のともだち」が56.8%、「学校の先生」が27.1%、「きょうだい」が16.9%となっている。

中学生は、「学校のともだち」が65.6%で最も多く、次いで「親」が49.2%、「学校の先生」が27.9%、「きょうだい」が14.8%となっている。



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある

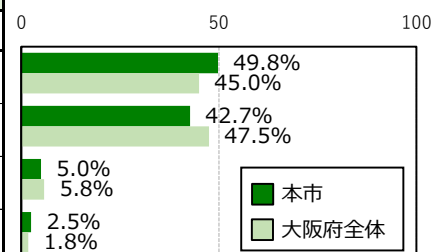
全体は、「いつもそうだ」が49.8%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が42.7%、「そんなことはない」が5.0%となっている。

小学生は、「いつもそうだ」が53.4%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が38.1%、「そんなことはない」が3.4%となっている。

中学生は、「いつもそうだ」、「ときどきそうだ」がそれぞれ46.7%で最も多く、次いで「そんなことはない」が6.6%となっている。

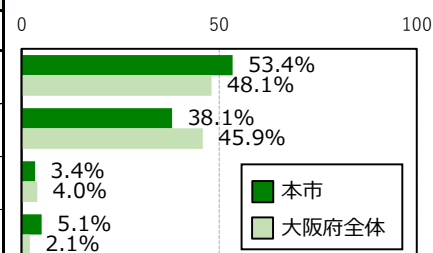
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	120名	49.8%	19,505名	45.0%
ときどきそうだ	103名	42.7%	20,583名	47.5%
そんなことはない	12名	5.0%	2,517名	5.8%
無回答	6名	2.5%	765名	1.8%



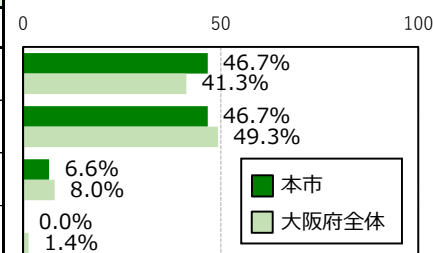
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	63名	53.4%	11,206名	48.1%
ときどきそうだ	45名	38.1%	10,683名	45.9%
そんなことはない	4名	3.4%	922名	4.0%
無回答	6名	5.1%	478名	2.1%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	57名	46.7%	8,256名	41.3%
ときどきそうだ	57名	46.7%	9,858名	49.3%
そんなことはない	8名	6.6%	1,595名	8.0%
無回答	-	-	281名	1.4%



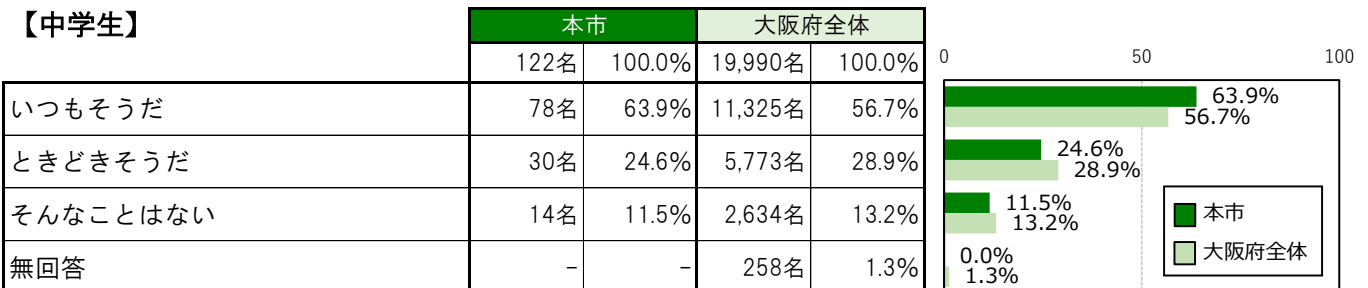
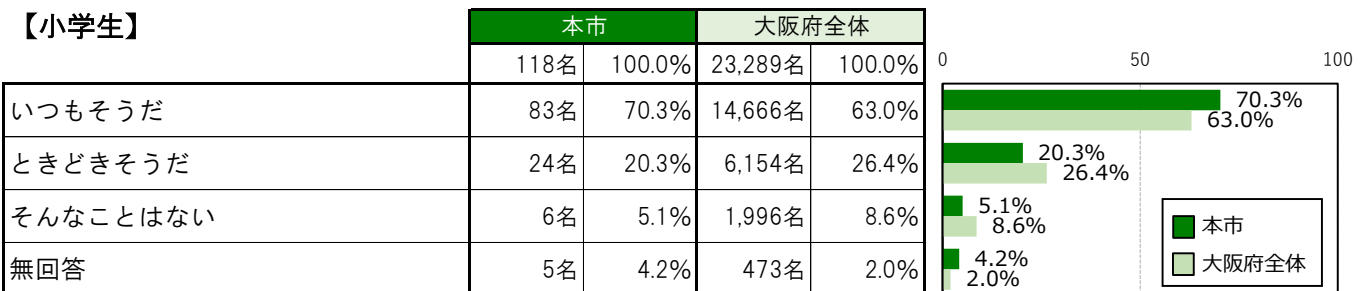
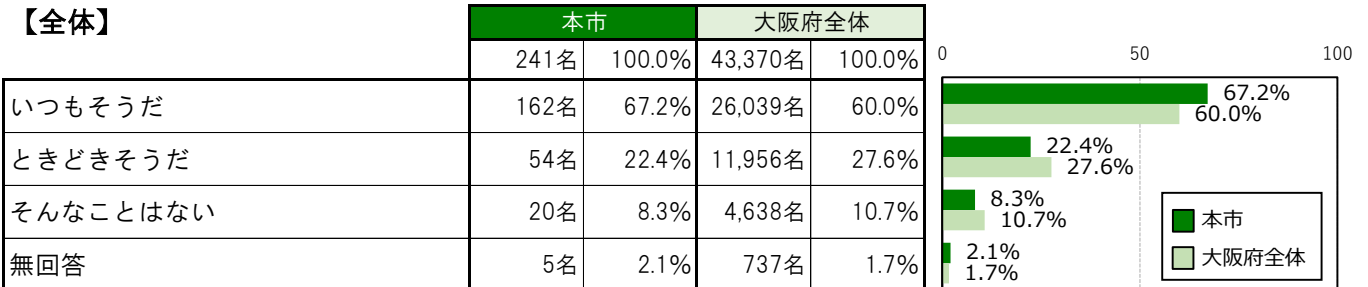
ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ

全体は、「いつもそうだ」が67.2%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が22.4%、「そんなことはない」が8.3%となっている。

小学生は、「いつもそうだ」が70.3%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が20.3%、「そんなことはない」が5.1%となっている。

中学生は、「いつもそうだ」が63.9%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が24.6%、「そんなことはない」が11.5%となっている。



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ

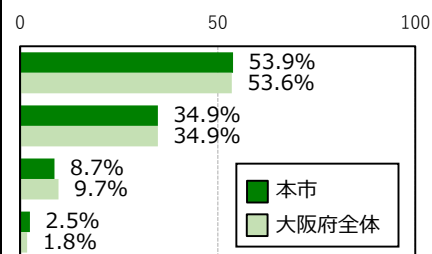
全体は、「いつもそうだ」が53.9%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が34.9%、「そんなことはない」が8.7%となっている。

小学生は、「いつもそうだ」が61.0%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が29.7%、「そんなことはない」が4.2%となっている。

中学生は、「いつもそうだ」が47.5%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が39.3%、「そんなことはない」が13.1%となっている。

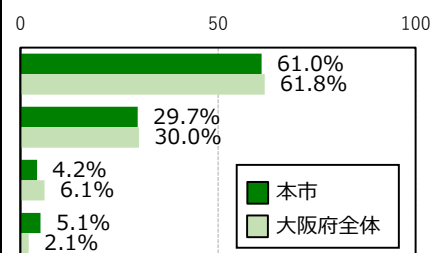
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	130名	53.9%	23,234名	53.6%
ときどきそうだ	84名	34.9%	15,146名	34.9%
そんなことはない	21名	8.7%	4,217名	9.7%
無回答	6名	2.5%	773名	1.8%



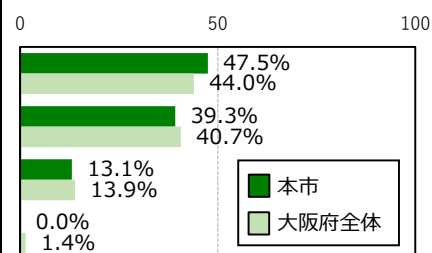
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	72名	61.0%	14,397名	61.8%
ときどきそうだ	35名	29.7%	6,978名	30.0%
そんなことはない	5名	4.2%	1,431名	6.1%
無回答	6名	5.1%	483名	2.1%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	58名	47.5%	8,796名	44.0%
ときどきそうだ	48名	39.3%	8,128名	40.7%
そんなことはない	16名	13.1%	2,782名	13.9%
無回答	-	-	284名	1.4%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる

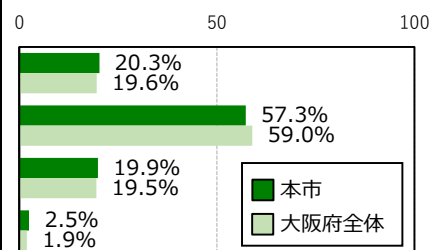
全体は、「ときどきそうだ」が57.3%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が20.3%、「そんなことはない」が19.9%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が59.3%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が24.6%、「そんなことはない」が11.9%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が54.9%で最も多く、次いで「そんなことはない」が27.9%、「いつもそうだ」が16.4%となっている。

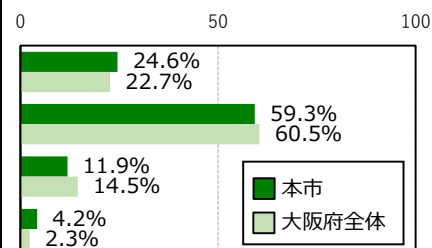
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	49名	20.3%	8,503名	19.6%
ときどきそうだ	138名	57.3%	25,567名	59.0%
そんなことはない	48名	19.9%	8,460名	19.5%
無回答	6名	2.5%	840名	1.9%



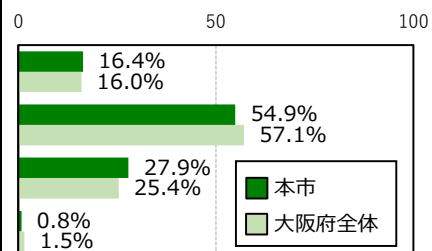
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	29名	24.6%	5,283名	22.7%
ときどきそうだ	70名	59.3%	14,099名	60.5%
そんなことはない	14名	11.9%	3,367名	14.5%
無回答	5名	4.2%	540名	2.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	20名	16.4%	3,199名	16.0%
ときどきそうだ	67名	54.9%	11,416名	57.1%
そんなことはない	34名	27.9%	5,081名	25.4%
無回答	1名	0.8%	294名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

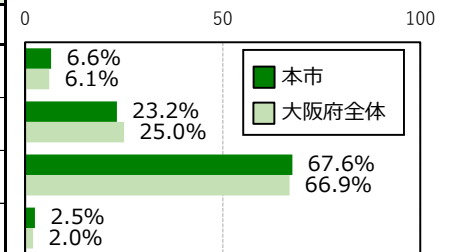
全体は、「そんなことはない」が67.6%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が23.2%、「いつもそうだ」が6.6%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が75.4%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が15.3%、「いつもそうだ」が5.1%となっている。

中学生は、「そんなことはない」が60.7%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が30.3%、「いつもそうだ」が8.2%となっている。

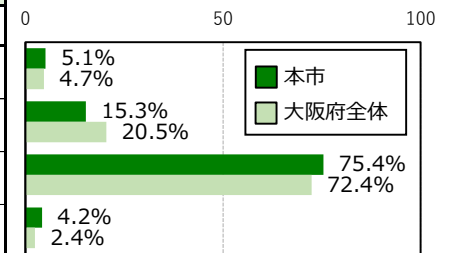
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	16名	6.6%	2,628名	6.1%
ときどきそうだ	56名	23.2%	10,860名	25.0%
そんなことはない	163名	67.6%	29,021名	66.9%
無回答	6名	2.5%	861名	2.0%



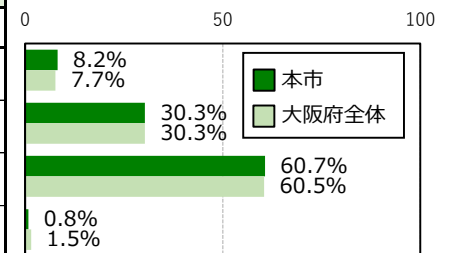
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	6名	5.1%	1,091名	4.7%
ときどきそうだ	18名	15.3%	4,776名	20.5%
そんなことはない	89名	75.4%	16,872名	72.4%
無回答	5名	4.2%	550名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	10名	8.2%	1,534名	7.7%
ときどきそうだ	37名	30.3%	6,057名	30.3%
そんなことはない	74名	60.7%	12,095名	60.5%
無回答	1名	0.8%	304名	1.5%



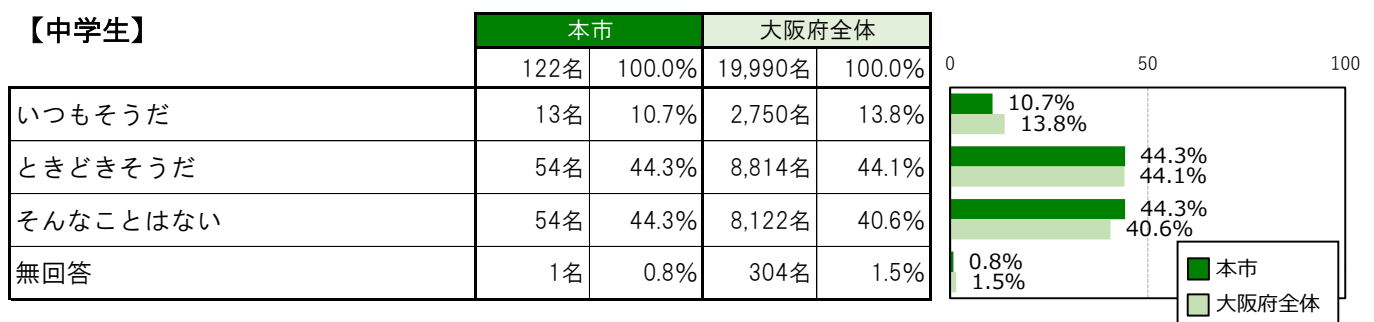
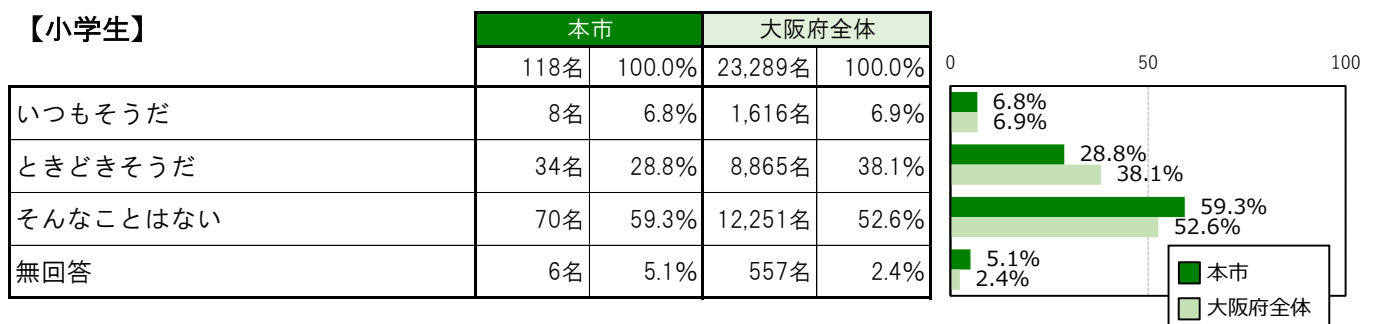
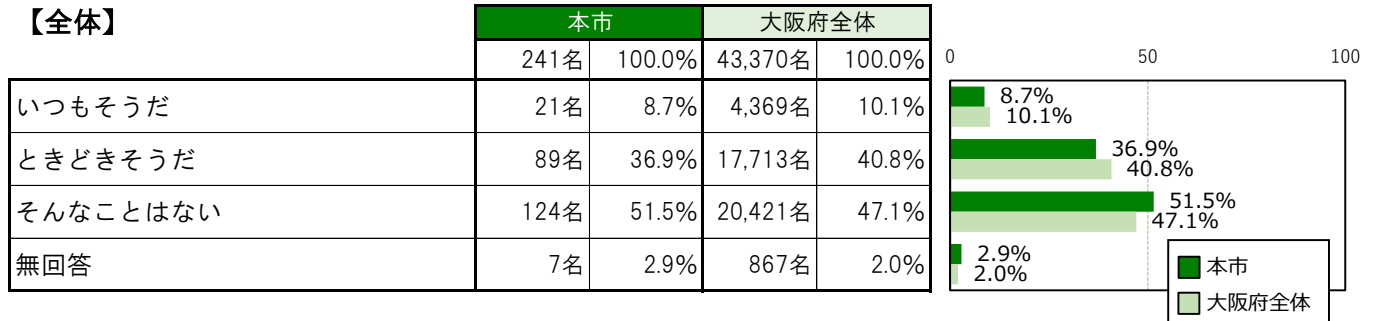
ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

全体は、「そんなことはない」が51.5%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が36.9%、「いつもそうだ」が8.7%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が59.3%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が28.8%、「いつもそうだ」が6.8%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」、「そんなことはない」がそれぞれ44.3%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が10.7%となっている。



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

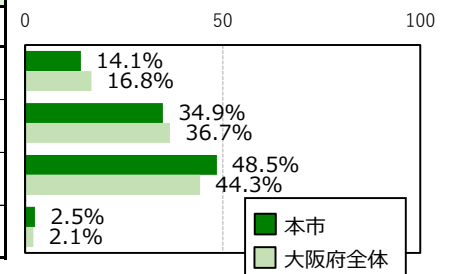
全体は、「そんなことはない」が48.5%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が34.9%、「いつもそうだ」が14.1%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が50.8%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が35.6%、「いつもそうだ」が9.3%となっている。

中学生は、「そんなことはない」が46.7%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が33.6%、「いつもそうだ」が18.9%となっている。

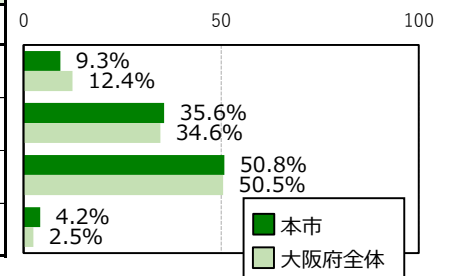
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	34名	14.1%	7,300名	16.8%
ときどきそうだ	84名	34.9%	15,932名	36.7%
そんなことはない	117名	48.5%	19,222名	44.3%
無回答	6名	2.5%	916名	2.1%



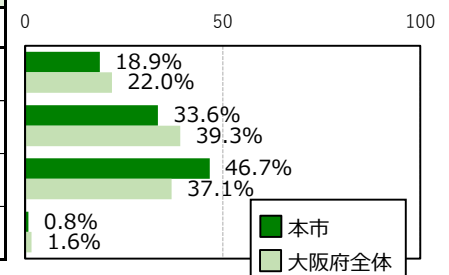
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	11名	9.3%	2,893名	12.4%
ときどきそうだ	42名	35.6%	8,049名	34.6%
そんなことはない	60名	50.8%	11,759名	50.5%
無回答	5名	4.2%	588名	2.5%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	23名	18.9%	4,399名	22.0%
ときどきそうだ	41名	33.6%	7,848名	39.3%
そんなことはない	57名	46.7%	7,422名	37.1%
無回答	1名	0.8%	321名	1.6%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

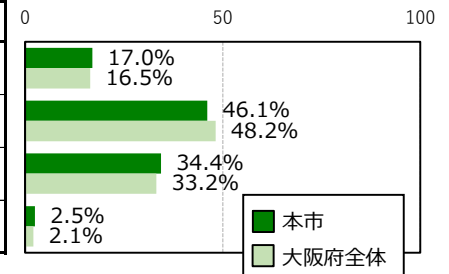
全体は、「ときどきそうだ」が46.1%で最も多く、次いで「そんなことはない」が34.4%、「いつもそうだ」が17.0%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が44.1%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が39.8%、「いつもそうだ」が11.9%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が51.6%で最も多く、次いで「そんなことはない」が25.4%、「いつもそうだ」が22.1%となっている。

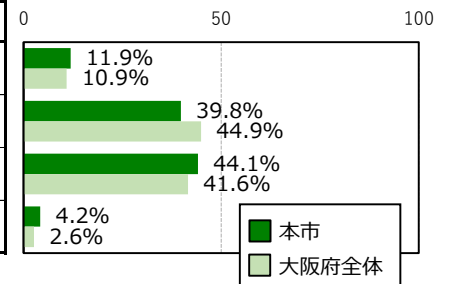
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	41名	17.0%	7,152名	16.5%
ときどきそうだ	111名	46.1%	20,902名	48.2%
そんなことはない	83名	34.4%	14,387名	33.2%
無回答	6名	2.5%	929名	2.1%



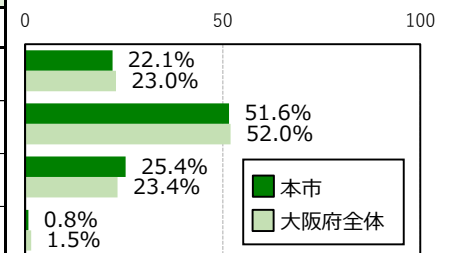
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	14名	11.9%	2,541名	10.9%
ときどきそうだ	47名	39.8%	10,454名	44.9%
そんなことはない	52名	44.1%	9,677名	41.6%
無回答	5名	4.2%	617名	2.6%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	27名	22.1%	4,606名	23.0%
ときどきそうだ	63名	51.6%	10,396名	52.0%
そんなことはない	31名	25.4%	4,682名	23.4%
無回答	1名	0.8%	306名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑨いろいろする

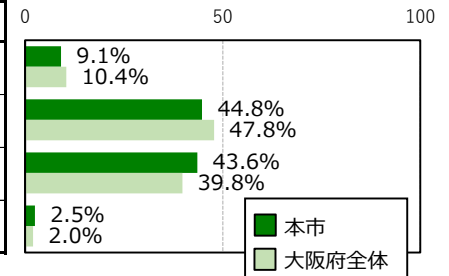
全体は、「ときどきそうだ」が44.8%で最も多く、次いで「そんなことはない」が43.6%、「いつもそうだ」が9.1%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が49.2%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が37.3%、「いつもそうだ」が9.3%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が51.6%で最も多く、次いで「そんなことはない」が38.5%、「いつもそうだ」が9.0%となっている。

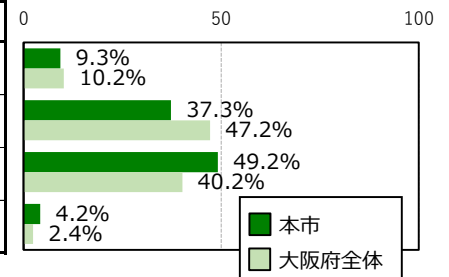
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	22名	9.1%	4,525名	10.4%
ときどきそうだ	108名	44.8%	20,712名	47.8%
そんなことはない	105名	43.6%	17,270名	39.8%
無回答	6名	2.5%	863名	2.0%



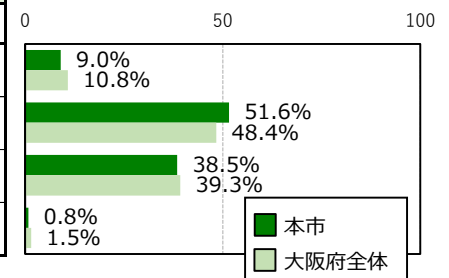
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	11名	9.3%	2,364名	10.2%
ときどきそうだ	44名	37.3%	10,997名	47.2%
そんなことはない	58名	49.2%	9,370名	40.2%
無回答	5名	4.2%	558名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いつもそうだ	11名	9.0%	2,152名	10.8%
ときどきそうだ	63名	51.6%	9,674名	48.4%
そんなことはない	47名	38.5%	7,865名	39.3%
無回答	1名	0.8%	299名	1.5%



ふだんの生活のことについて

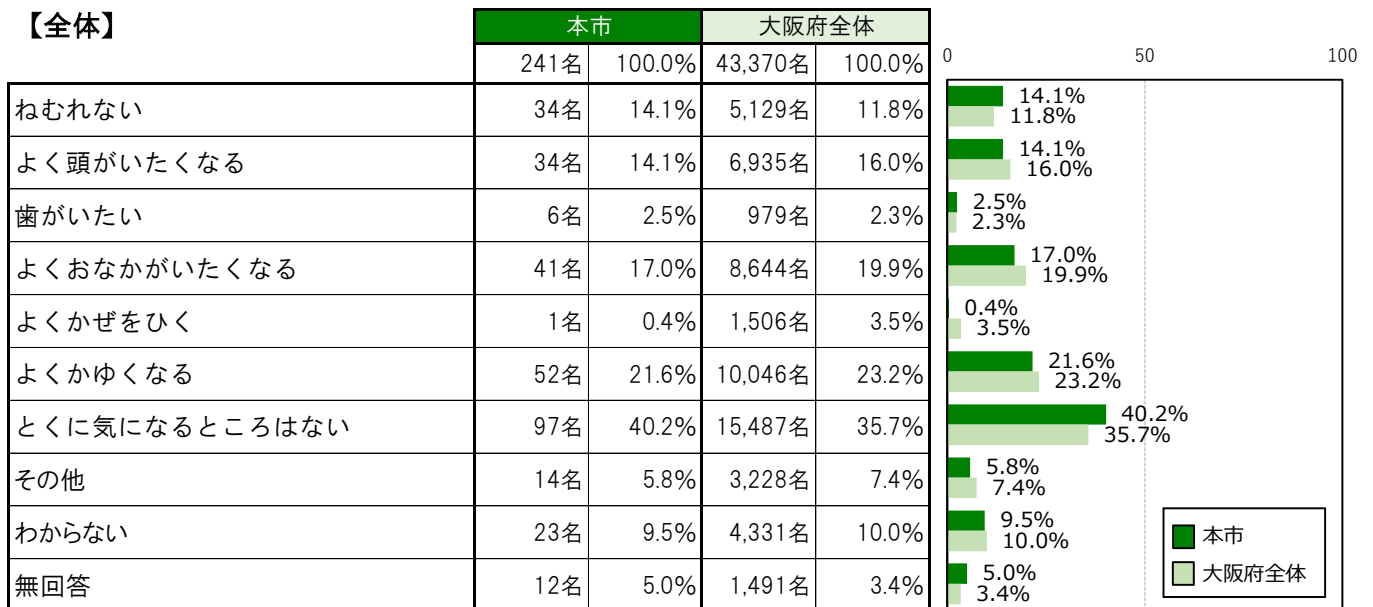
問20 自分の体の状態で気になること

全体は、「とくに気になるところはない」が40.2%で最も多く、次いで「よくかゆくなる」が21.6%、「よくおなかがいたくなる」が17.0%、「ねむれない」、「よく頭がいたくなる」がそれぞれ14.1%となっている。

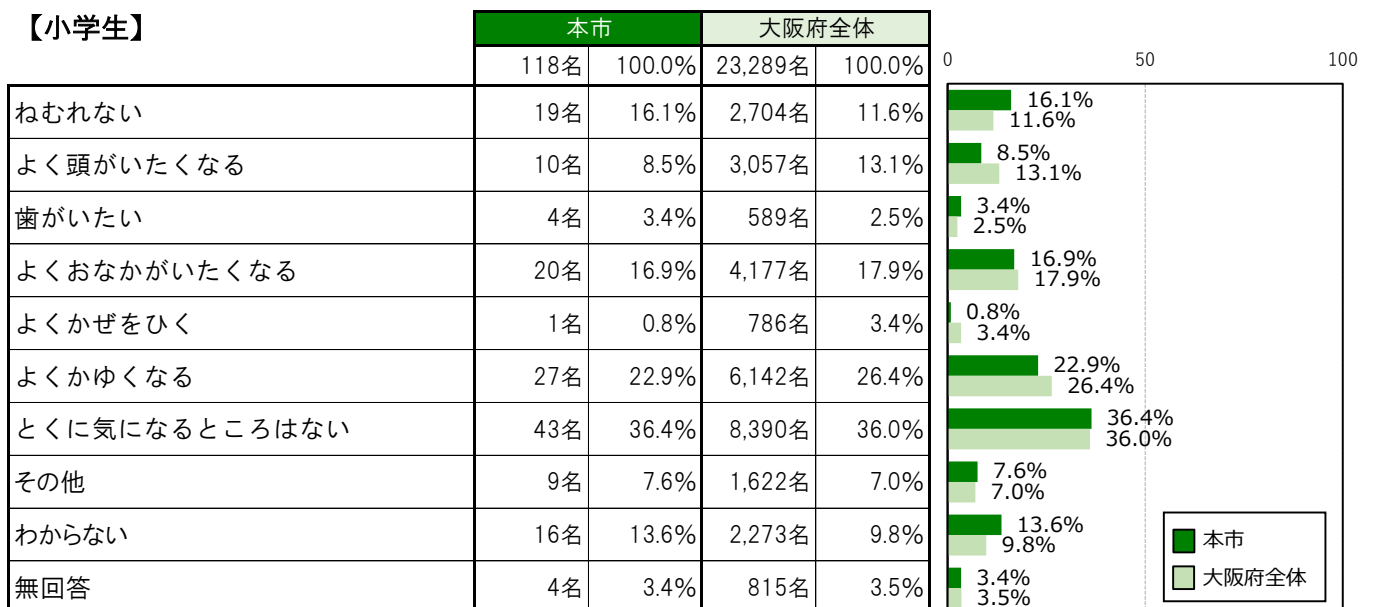
小学生は、「とくに気になるところはない」が36.4%で最も多く、次いで「よくかゆくなる」が22.9%、「よくおなかがいたくなる」が16.9%、「ねむれない」が16.1%となっている。

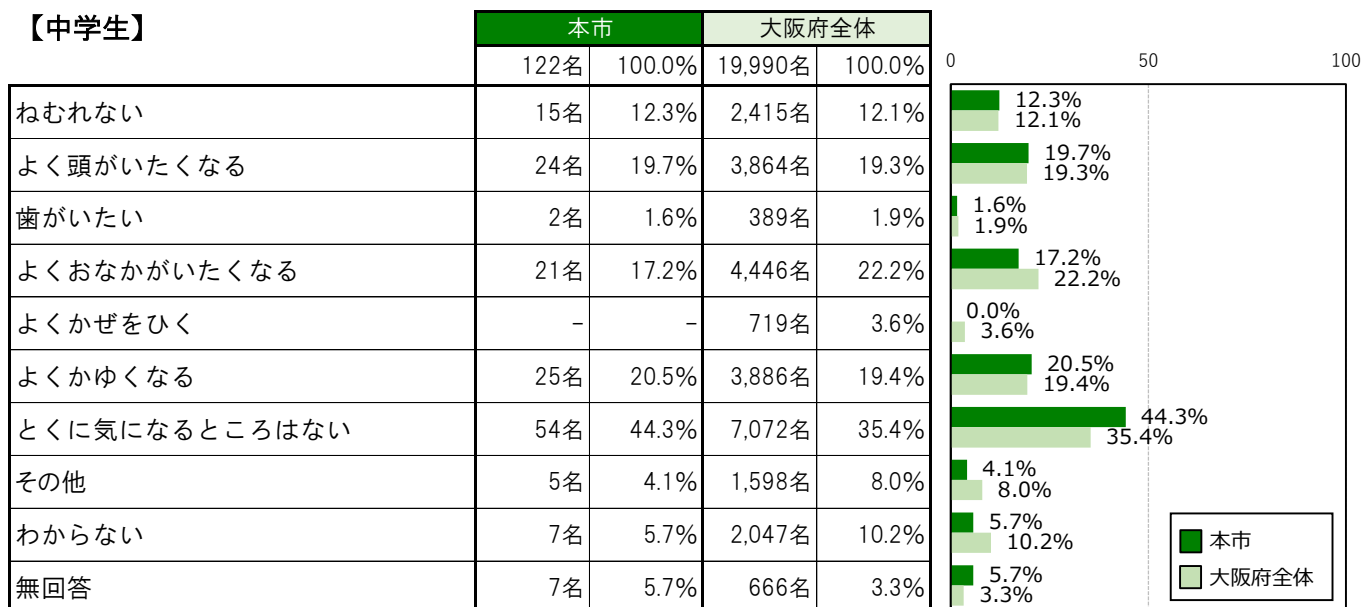
中学生は、「とくに気になるところはない」が44.3%で最も多く、次いで「よくかゆくなる」が20.5%、「よく頭がいたくなる」が19.7%、「よくおなかがいたくなる」が17.2%となっている。

【全体】



【小学生】





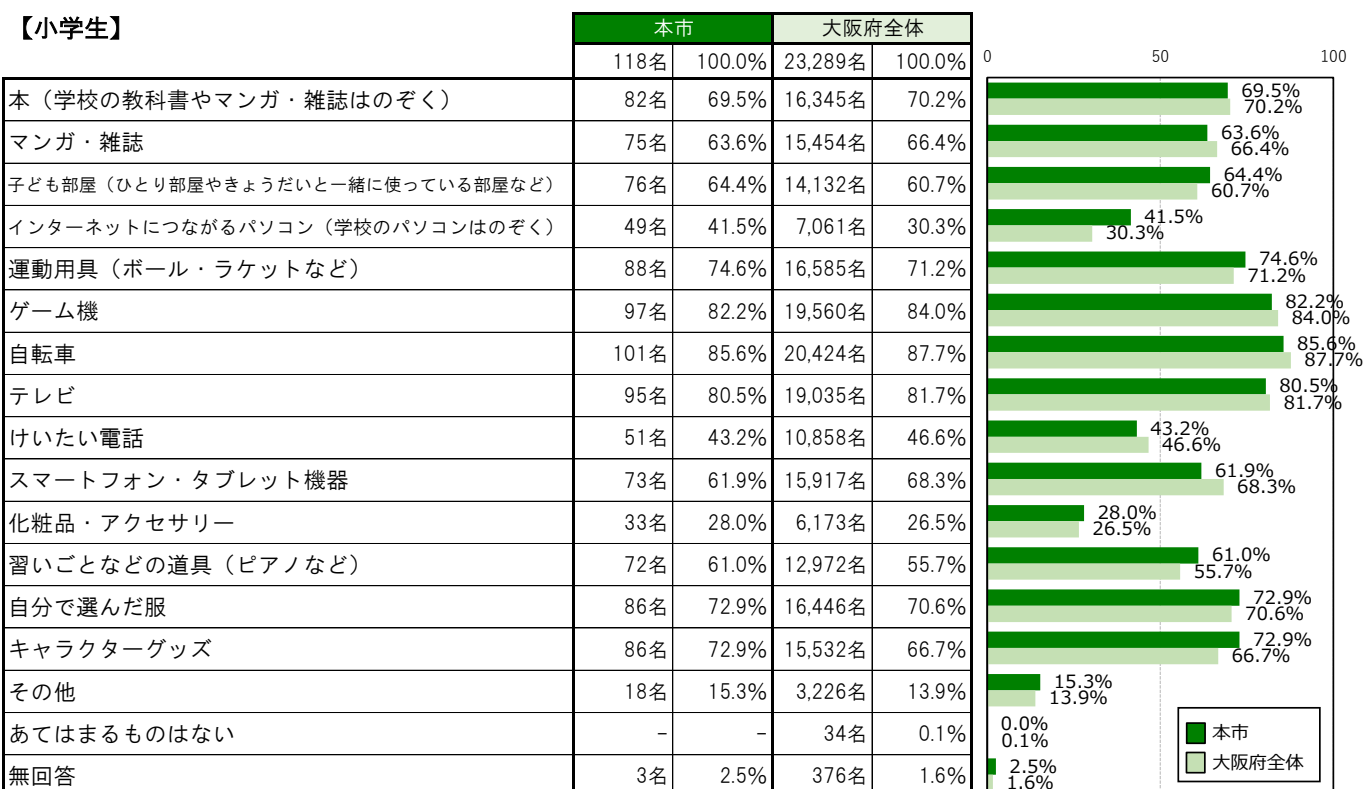
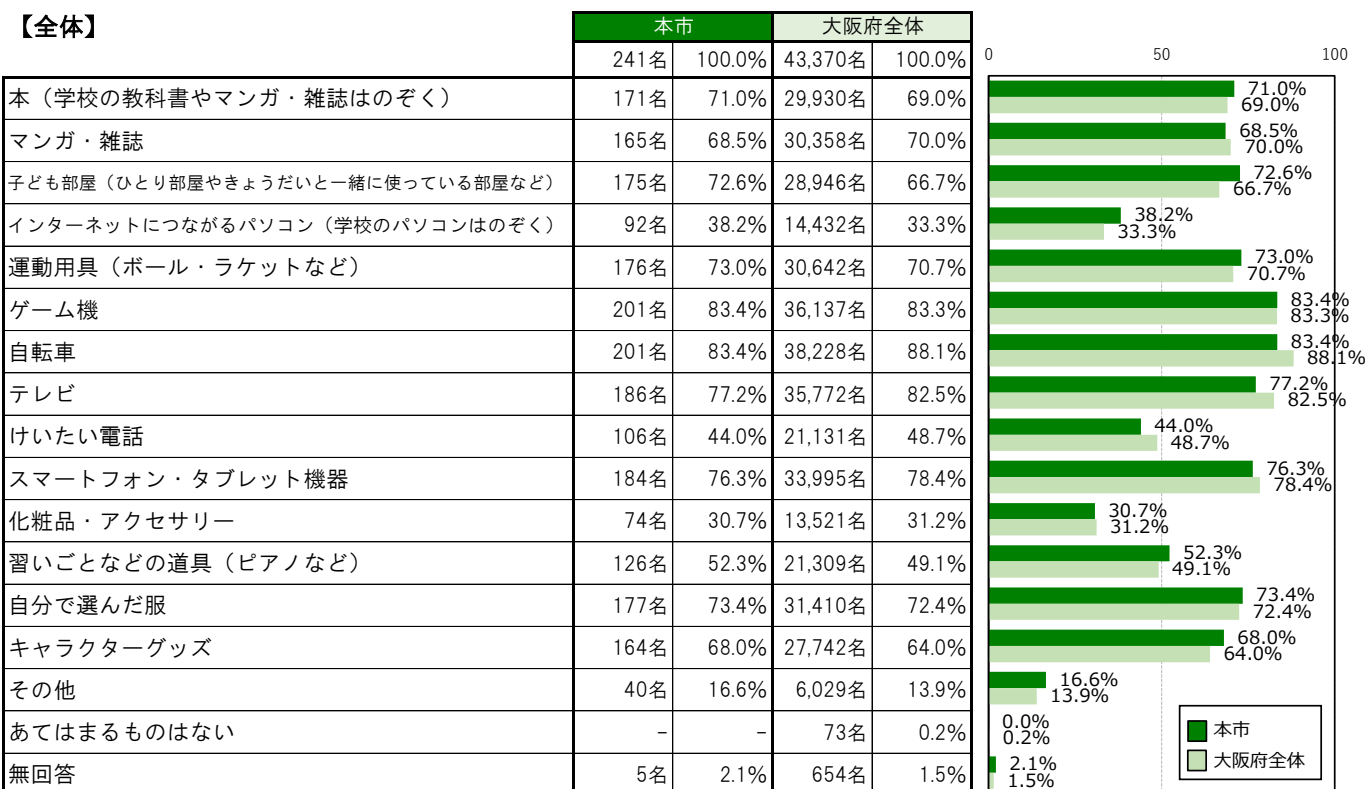
ふだんの生活のことについて

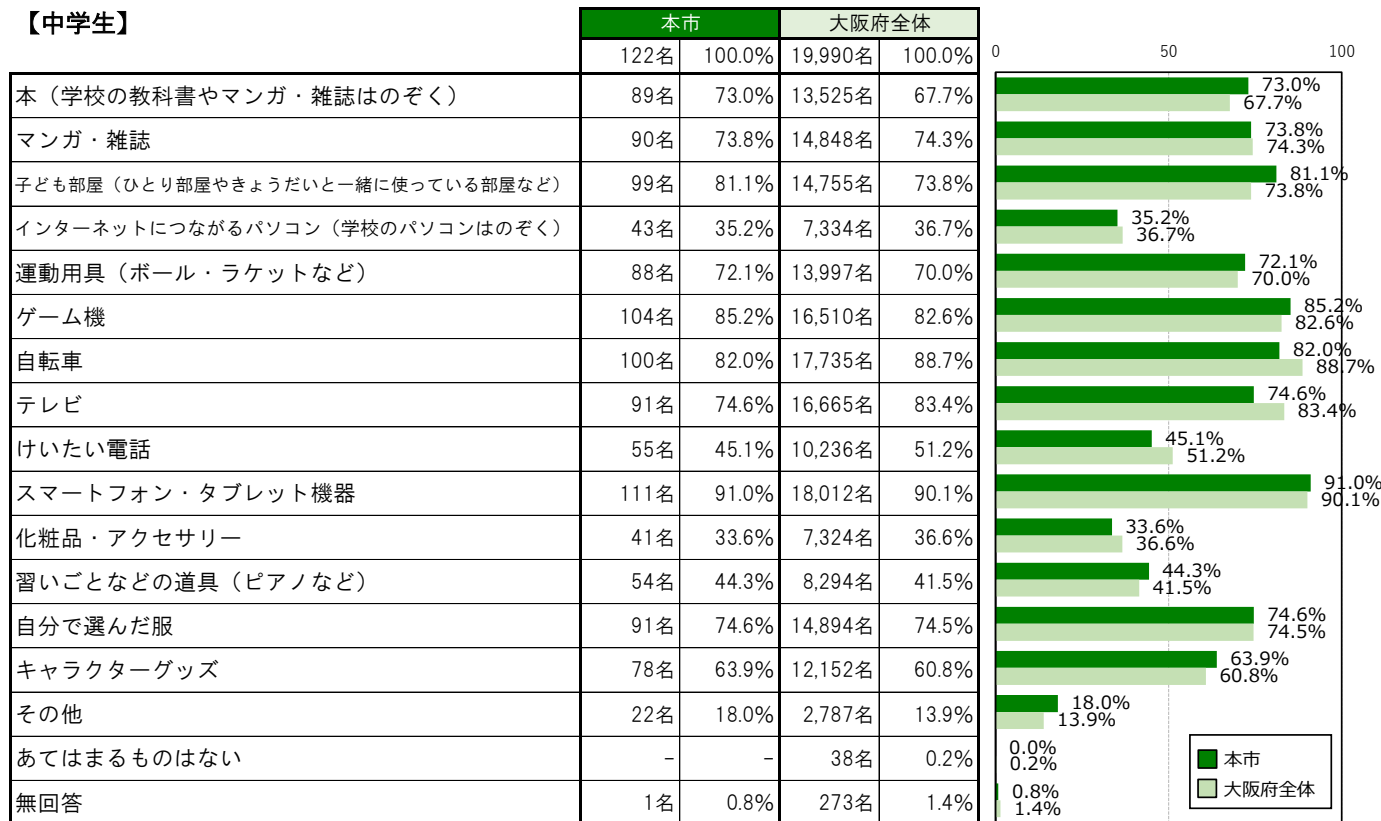
問21 持っているもの、使うことができるもの

全体は、「ゲーム機」、「自転車」がそれぞれ83.4%で最も多く、次いで「テレビ」が77.2%、「スマートフォン・タブレット機器」が76.3%、「自分で選んだ服」が73.4%となっている。

小学生は、「自転車」が85.6%で最も多く、次いで「ゲーム機」が82.2%、「テレビ」が80.5%、「運動用具（ボール・ラケットなど）」が74.6%となっている。

中学生は、「スマートフォン・タブレット機器」が91.0%で最も多く、次いで「ゲーム機」が85.2%、「自転車」が82.0%、「子ども部屋」が81.1%となっている。





ふだん考えていることについて

問22 すぐに立ち直ることができる

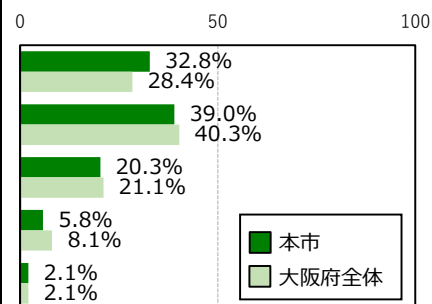
全体は、「どちらかというと思う」が39.0%で最も多く、次いで「そう思う」が32.8%、「どちらかというと思わない」が20.3%となっている。

小学生は、「そう思う」が38.1%で最も多く、次いで「どちらかというと思う」が36.4%、「どちらかというと思わない」が16.1%となっている。

中学生は、「どちらかというと思う」が41.8%で最も多く、次いで「そう思う」が27.9%、「どちらかというと思わない」が24.6%となっている。

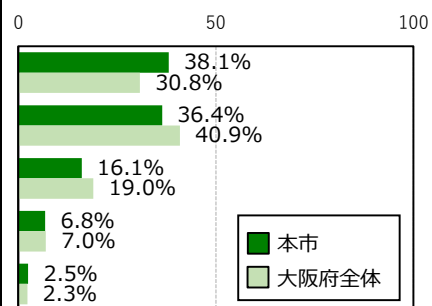
【全体】

	本市		大阪府全体	
	241名	100.0%	43,370名	100.0%
そう思う	79名	32.8%	12,318名	28.4%
どちらかというと思う	94名	39.0%	17,480名	40.3%
どちらかというと思わない	49名	20.3%	9,144名	21.1%
そう思わない	14名	5.8%	3,521名	8.1%
無回答	5名	2.1%	907名	2.1%



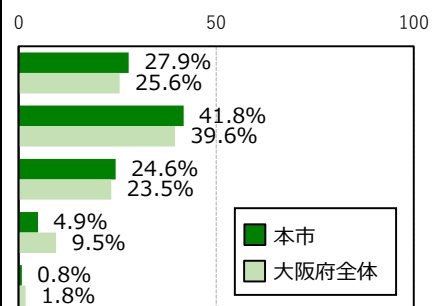
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	23,289名	100.0%
そう思う	45名	38.1%	7,172名	30.8%
どちらかというと思う	43名	36.4%	9,521名	40.9%
どちらかというと思わない	19名	16.1%	4,431名	19.0%
そう思わない	8名	6.8%	1,625名	7.0%
無回答	3名	2.5%	540名	2.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	122名	100.0%	19,990名	100.0%
そう思う	34名	27.9%	5,119名	25.6%
どちらかというと思う	51名	41.8%	7,917名	39.6%
どちらかというと思わない	30名	24.6%	4,703名	23.5%
そう思わない	6名	4.9%	1,891名	9.5%
無回答	1名	0.8%	360名	1.8%



ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（１）自分に自信がある

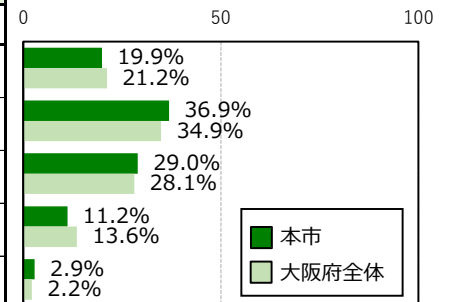
全体は、「どちらかというところがある」が36.9%で最も多く、次いで「どちらかというところはない」が29.0%、「ある」が19.9%となっている。

小学生は、「どちらかというところがある」が40.7%で最も多く、次いで「どちらかというところはない」が28.0%、「ある」が22.9%となっている。

中学生は、「どちらかというところがある」が33.6%で最も多く、次いで「どちらかというところはない」が30.3%、「ある」が17.2%となっている。

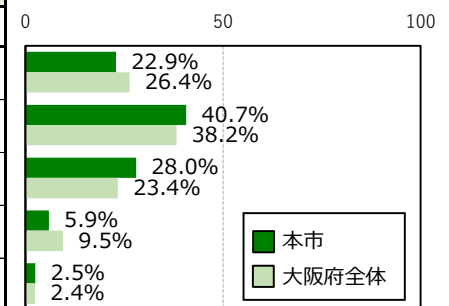
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	48名	19.9%	9,192名	21.2%
どちらかというところがある	89名	36.9%	15,132名	34.9%
どちらかというところはない	70名	29.0%	12,192名	28.1%
ない	27名	11.2%	5,898名	13.6%
無回答	7名	2.9%	956名	2.2%



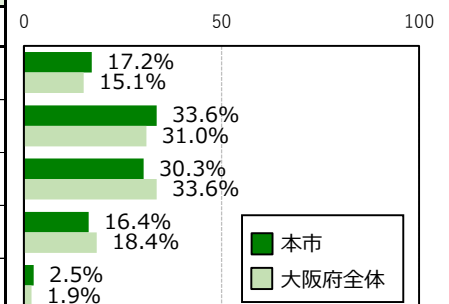
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	27名	22.9%	6,157名	26.4%
どちらかというところがある	48名	40.7%	8,904名	38.2%
どちらかというところはない	33名	28.0%	5,450名	23.4%
ない	7名	5.9%	2,211名	9.5%
無回答	3名	2.5%	567名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	21名	17.2%	3,011名	15.1%
どちらかというところがある	41名	33.6%	6,202名	31.0%
どちらかというところはない	37名	30.3%	6,716名	33.6%
ない	20名	16.4%	3,679名	18.4%
無回答	3名	2.5%	382名	1.9%



ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（２）自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

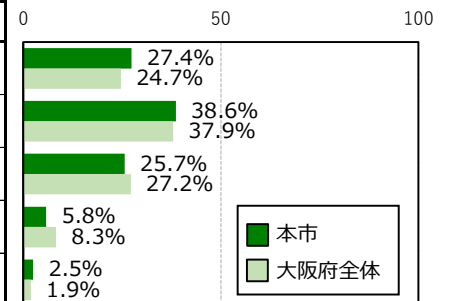
全体は、「どちらかというところ」が38.6%で最も多く、次いで「できる」が27.4%、「どちらかというところできない」が25.7%となっている。

小学生は、「どちらかというところ」が42.4%で最も多く、次いで「できる」が27.1%、「どちらかというところできない」が22.0%となっている。

中学生は、「どちらかというところ」が35.2%で最も多く、次いで「どちらかというところできない」が29.5%、「できる」が27.9%となっている。

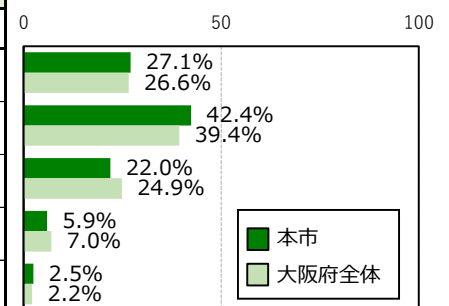
【全体】

	本市		大阪府全体	
	241名	100.0%	43,370名	100.0%
できる	66名	27.4%	10,725名	24.7%
どちらかというところ	93名	38.6%	16,421名	37.9%
どちらかというところできない	62名	25.7%	11,801名	27.2%
できない	14名	5.8%	3,582名	8.3%
無回答	6名	2.5%	841名	1.9%



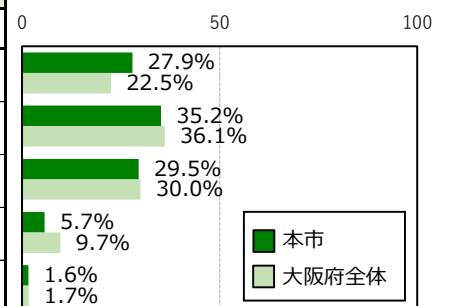
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	23,289名	100.0%
できる	32名	27.1%	6,187名	26.6%
どちらかというところ	50名	42.4%	9,180名	39.4%
どちらかというところできない	26名	22.0%	5,791名	24.9%
できない	7名	5.9%	1,629名	7.0%
無回答	3名	2.5%	502名	2.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	122名	100.0%	19,990名	100.0%
できる	34名	27.9%	4,507名	22.5%
どちらかというところ	43名	35.2%	7,209名	36.1%
どちらかというところできない	36名	29.5%	5,993名	30.0%
できない	7名	5.7%	1,947名	9.7%
無回答	2名	1.6%	334名	1.7%



ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（3）自分の将来の夢や目標を持っている

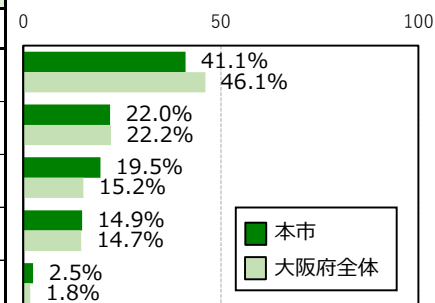
全体は、「持っている」が41.1%で最も多く、次いで「どちらかというを持っている」が22.0%、「どちらかというを持っていない」が19.5%となっている。

小学生は、「持っている」が57.6%で最も多く、次いで「どちらかというを持っている」が16.9%、「どちらかというを持っていない」が14.4%となっている。

中学生は、「どちらかというを持っている」が27.0%で最も多く、次いで「持っている」が25.4%、「どちらかというを持っていない」が24.6%となっている。

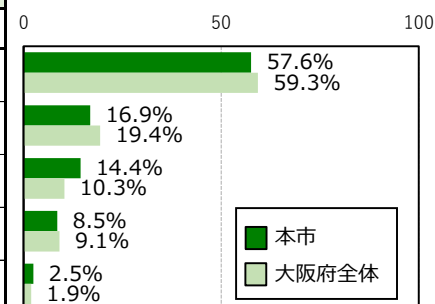
【全体】

	本市		大阪府全体	
	241名	100.0%	43,370名	100.0%
持っている	99名	41.1%	19,990名	46.1%
どちらかというを持っている	53名	22.0%	9,645名	22.2%
どちらかというを持っていない	47名	19.5%	6,609名	15.2%
持っていない	36名	14.9%	6,354名	14.7%
無回答	6名	2.5%	772名	1.8%



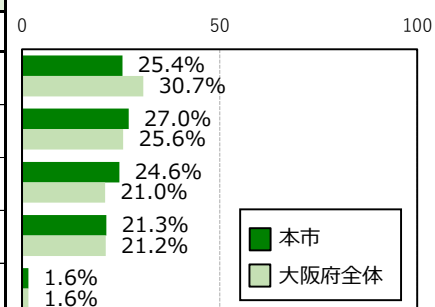
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	23,289名	100.0%
持っている	68名	57.6%	13,811名	59.3%
どちらかというを持っている	20名	16.9%	4,518名	19.4%
どちらかというを持っていない	17名	14.4%	2,398名	10.3%
持っていない	10名	8.5%	2,108名	9.1%
無回答	3名	2.5%	454名	1.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	122名	100.0%	19,990名	100.0%
持っている	31名	25.4%	6,139名	30.7%
どちらかというを持っている	33名	27.0%	5,108名	25.6%
どちらかというを持っていない	30名	24.6%	4,195名	21.0%
持っていない	26名	21.3%	4,235名	21.2%
無回答	2名	1.6%	313名	1.6%



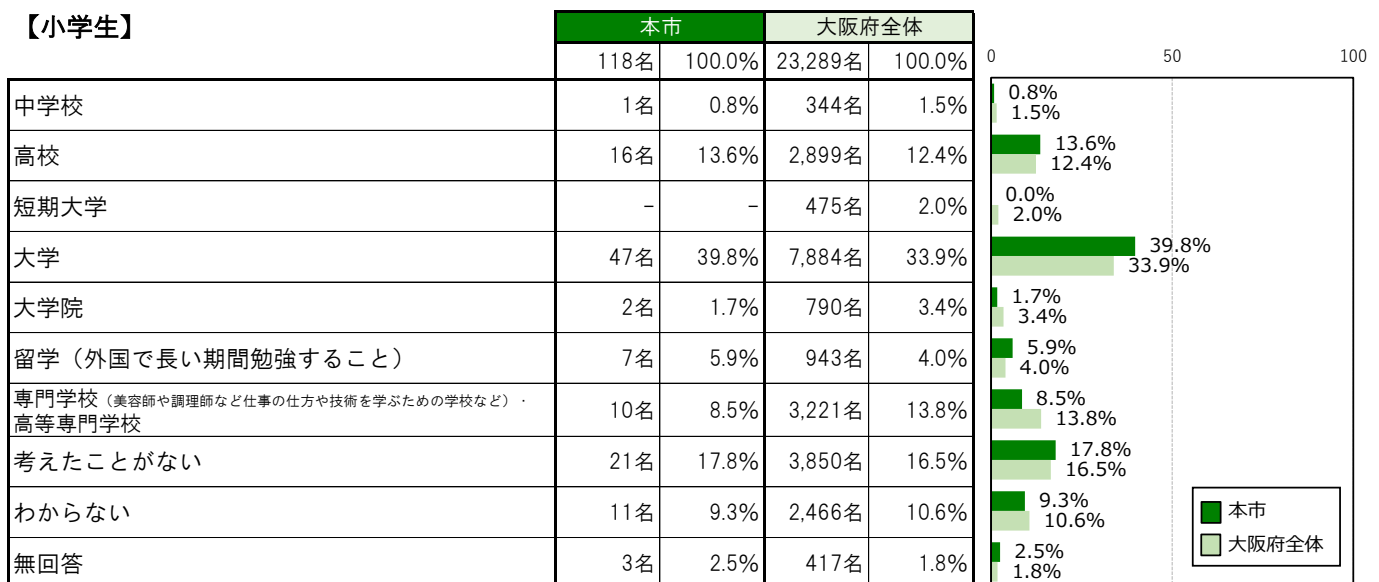
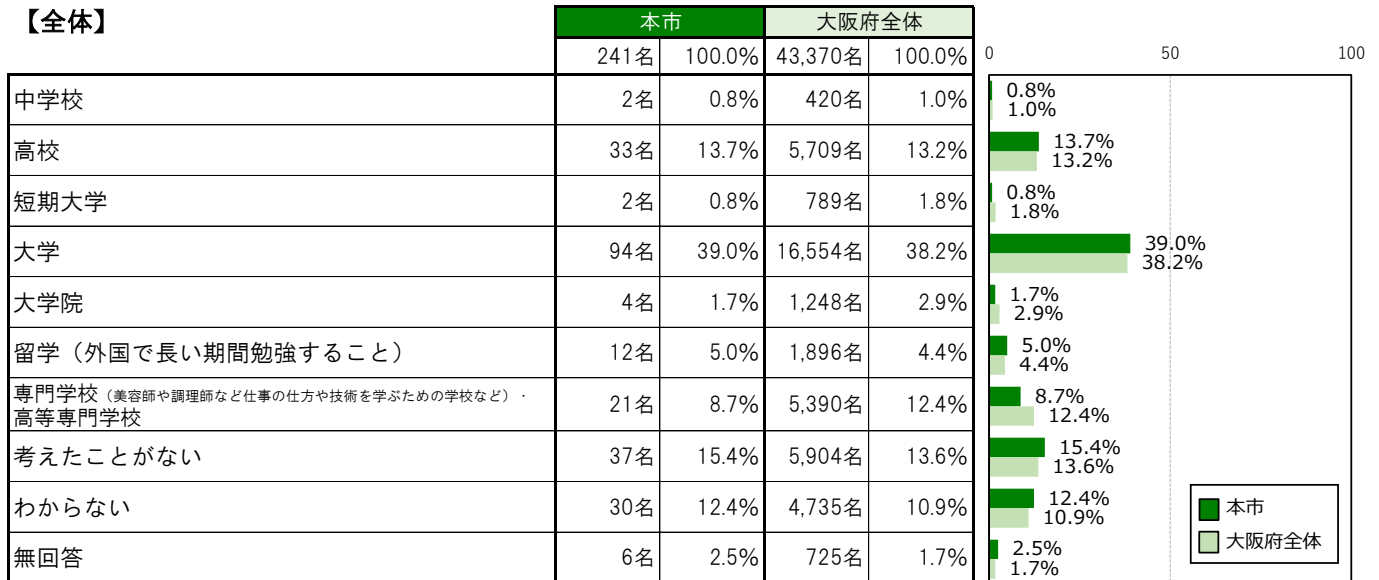
ふだん考えていることについて

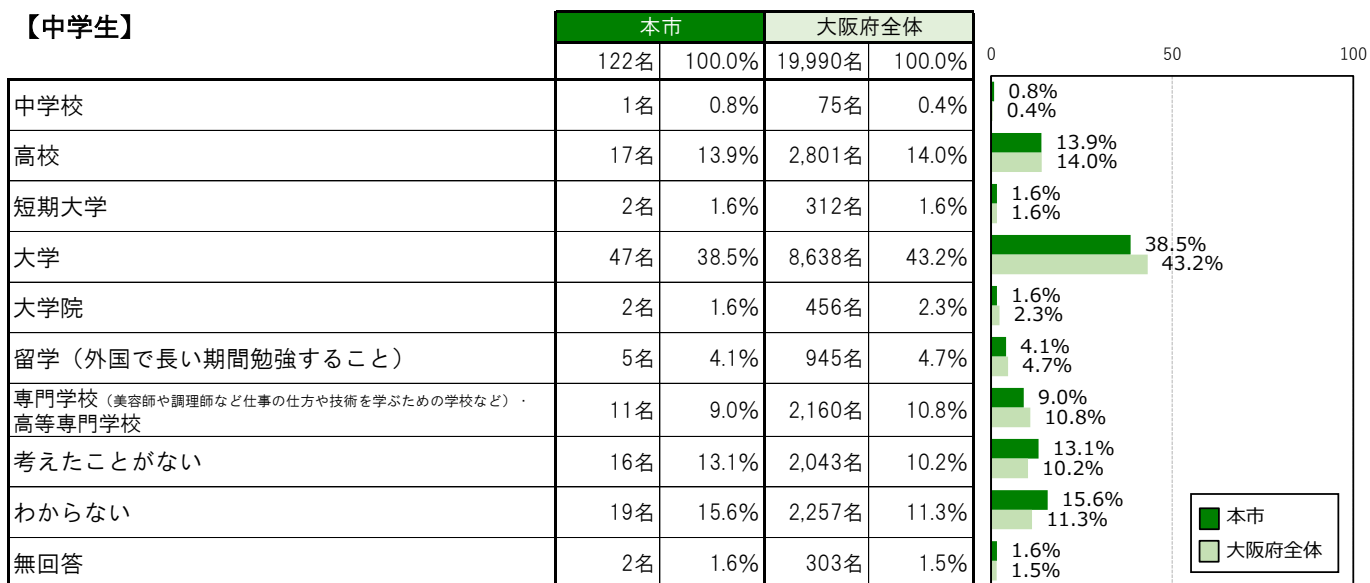
問24 希望する進学先

全体は、「大学」が39.0%で最も多く、次いで「考えたことがない」が15.4%、「高校」が13.7%、「専門学校・高等専門学校」が8.7%となっている。

小学生は、「大学」が39.8%で最も多く、次いで「考えたことがない」が17.8%、「高校」が13.6%、「専門学校・高等専門学校」が8.5%となっている。

中学生は、「大学」が38.5%で最も多く、次いで「高校」が13.9%、「考えたことがない」が13.1%、「専門学校・高等専門学校」が9.0%となっている。





あなたのことについて

問25（１）子どもの居場所の利用状況 ①平日の夜や休日を過ごすことができる場所（学童保育など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が44.0%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が24.9%、「利用したことがある」が23.2%となっている。

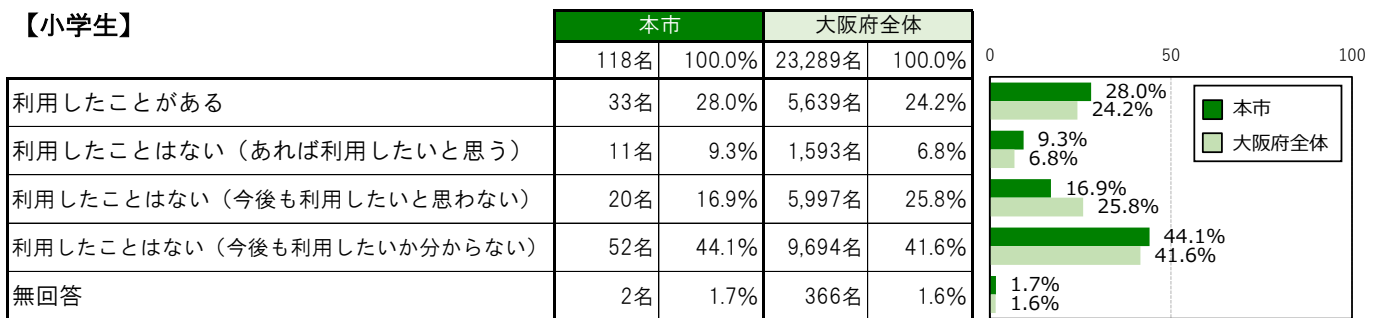
小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が44.1%で最も多く、次いで「利用したことがある」が28.0%、「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が16.9%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が44.3%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が32.0%、「利用したことがある」が18.9%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問25（１）子どもの居場所の利用状況

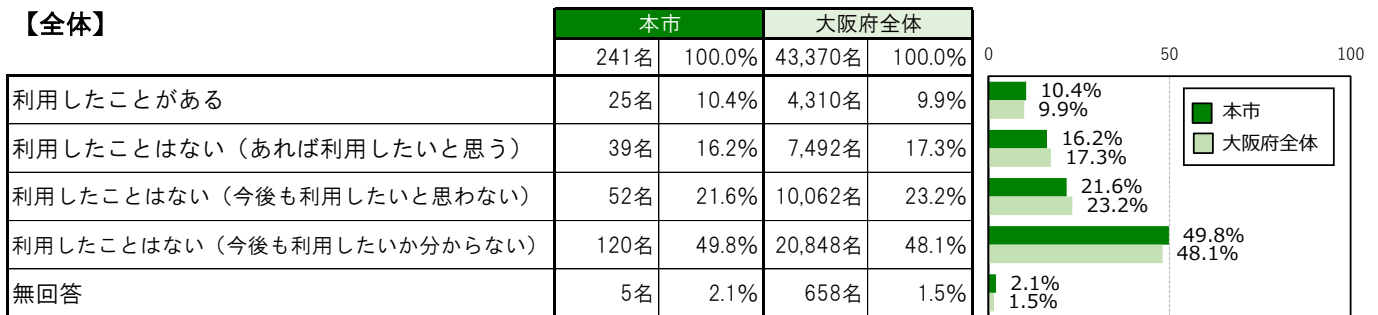
②昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が49.8%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が21.6%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が16.2%となっている。

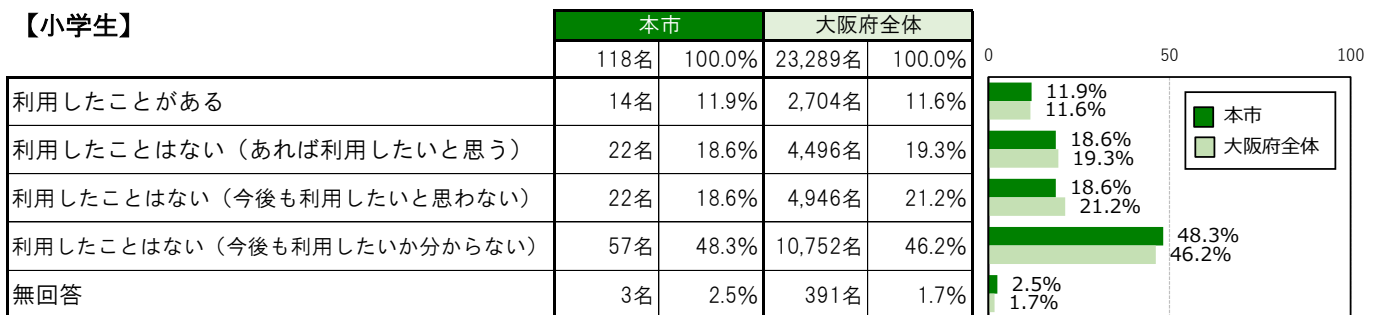
小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が48.3%で最も多く、次いで「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」、「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」がそれぞれ18.6%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が51.6%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が23.8%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が13.9%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問25（１）子どもの居場所の利用状況

③勉強を無料か安い料金でみてくれる場所（一般的な学習塾とはちがう学習支援など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が48.1%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が27.4%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が17.0%となっている。

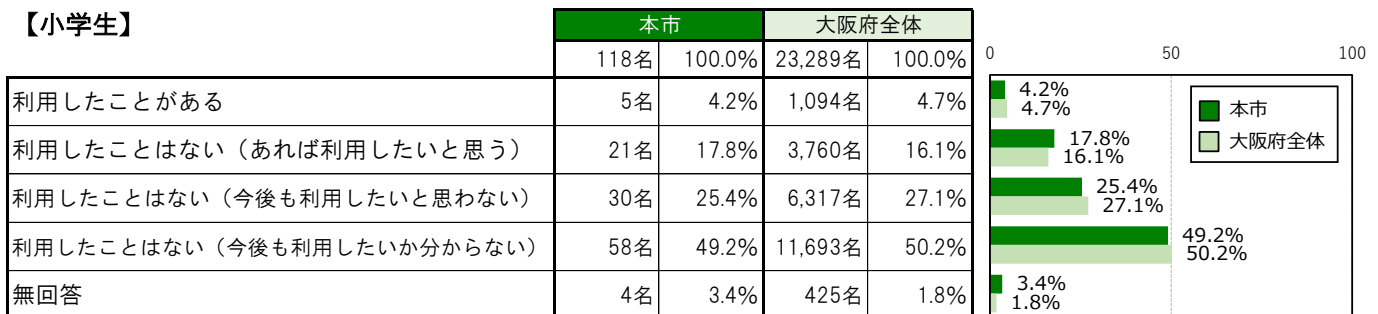
小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が49.2%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が25.4%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が17.8%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が47.5%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が28.7%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が16.4%となっている。

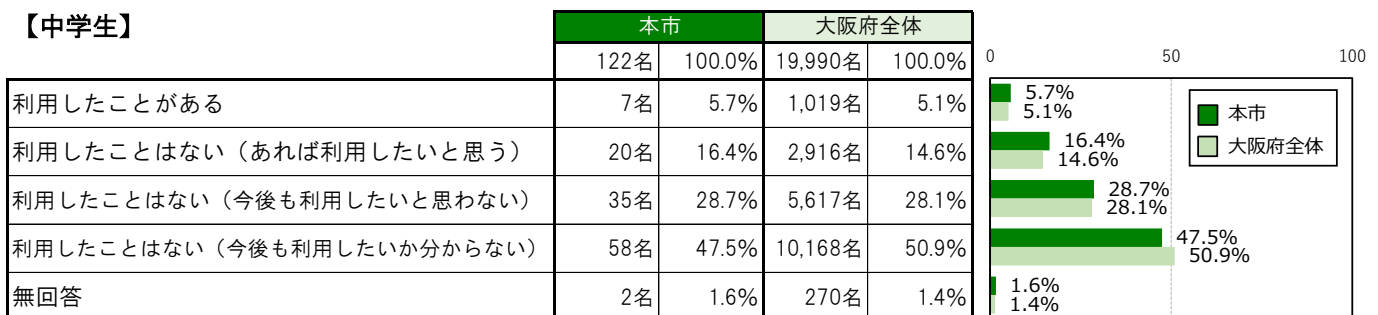
【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

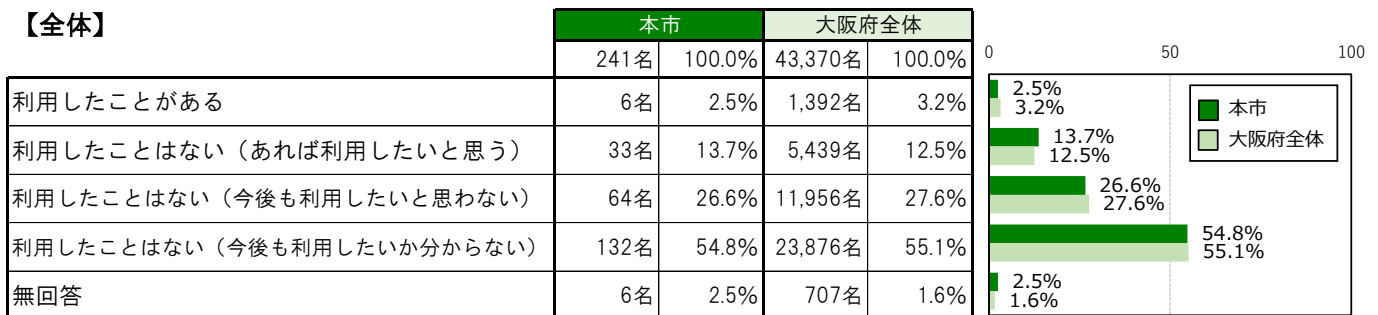
問25 (1) 子どもの居場所の利用状況 ④何でも相談できる場所（電話やネットの相談をふくむ。）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が54.8%で最も多く、次いで「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が26.6%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が13.7%となっている。

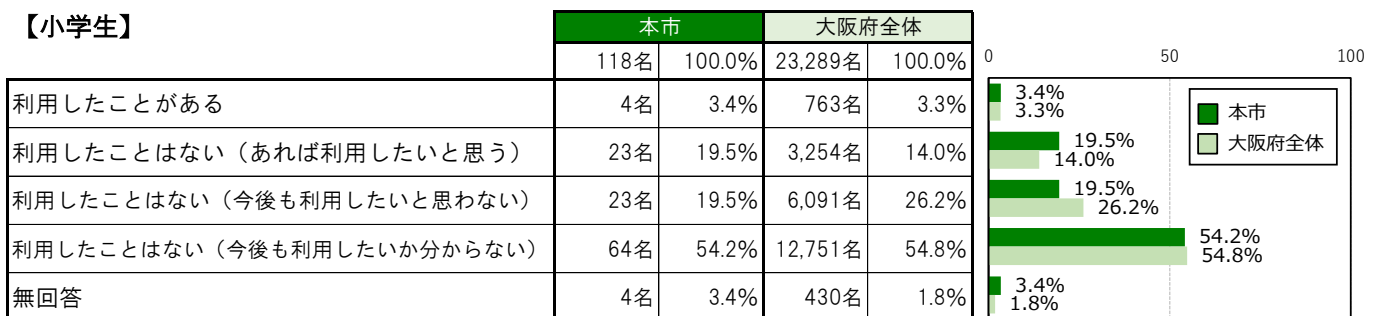
小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が54.2%で最も多く、次いで「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」、「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」がそれぞれ19.5%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が55.7%で最も多く、次いで「利用したことはない（あれば利用したいと思わない）」が32.8%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が8.2%となっている。

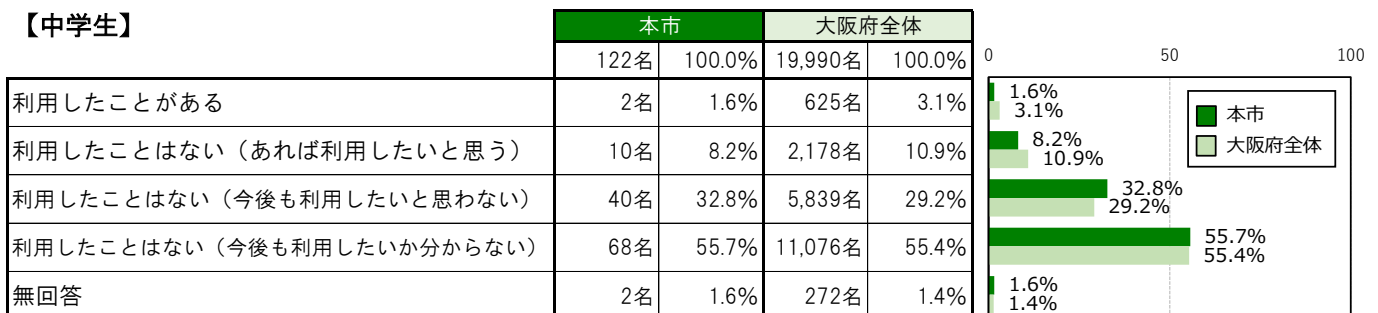
【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

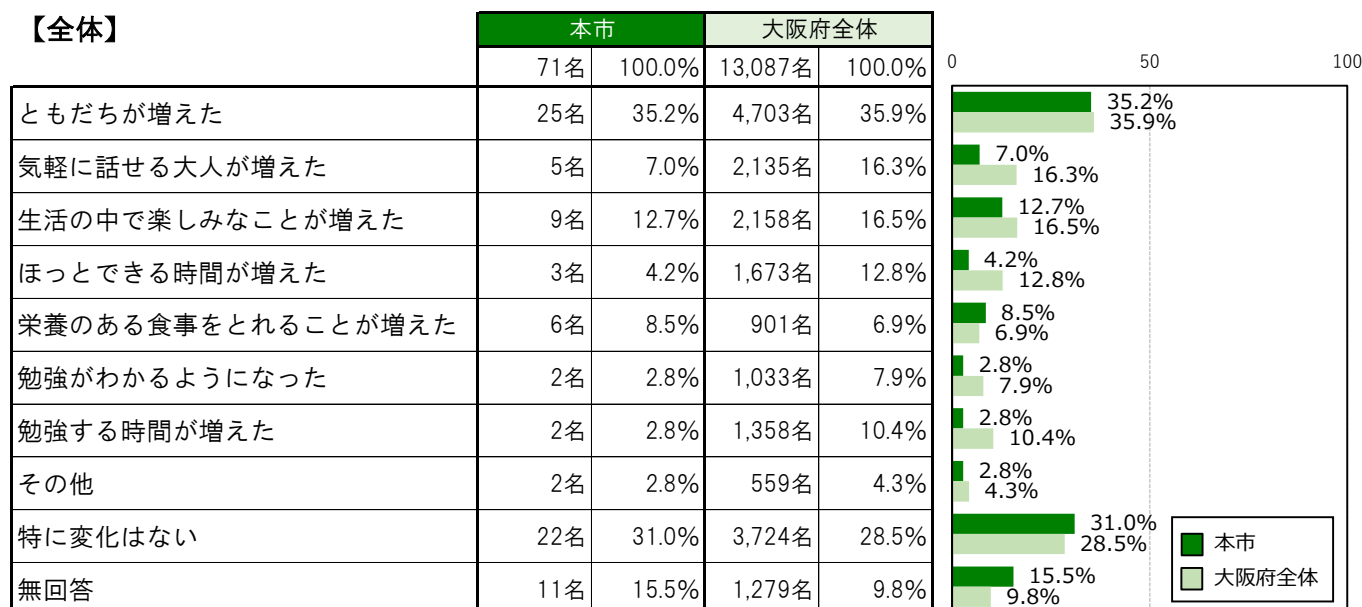
問25（2）子どもの居場所を利用したときの変化

全体は、「ともだちが増えた」が35.2%で最も多く、次いで「生活の中で楽しいことが増えた」が12.7%、「栄養のある食事をとれることが増えた」が8.5%、「気軽に話せる大人が増えた」が7.0%となっている。

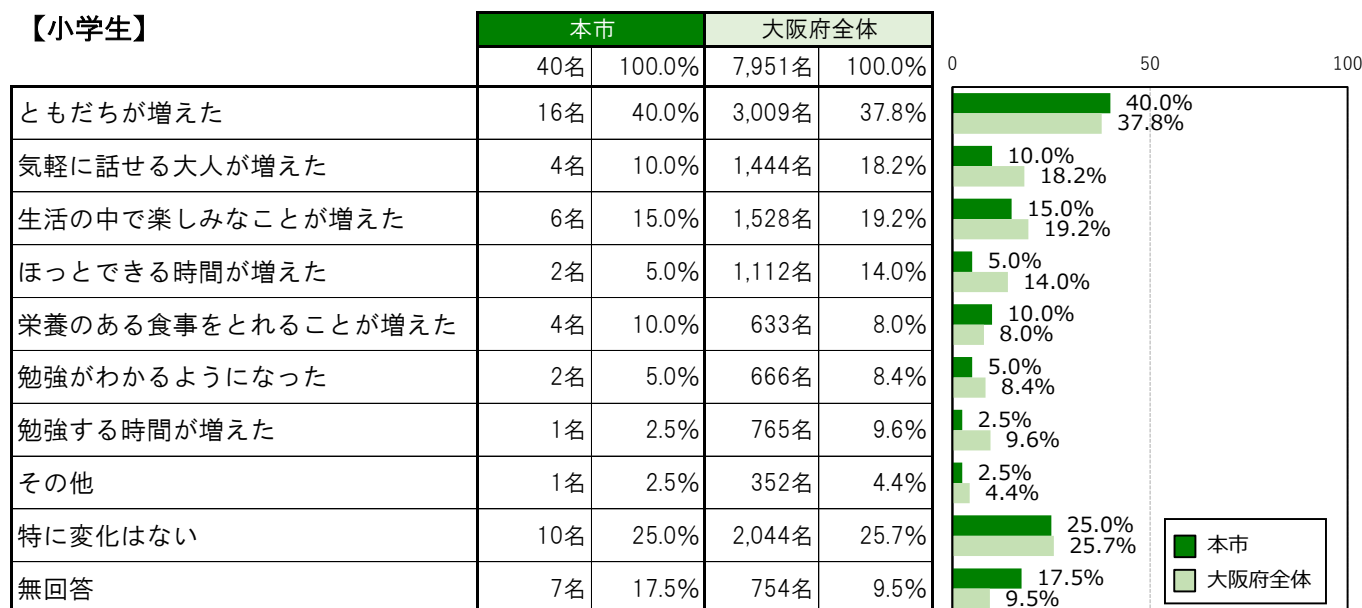
小学生は、「ともだちが増えた」が40.0%で最も多く、次いで「生活の中で楽しいことが増えた」が15.0%、「気軽に話せる大人が増えた」、「栄養のある食事をとれることが増えた」がそれぞれ10.0%、「ほっとできる時間が増えた」、「勉強がわかるようになった」がそれぞれ5.0%となっている。

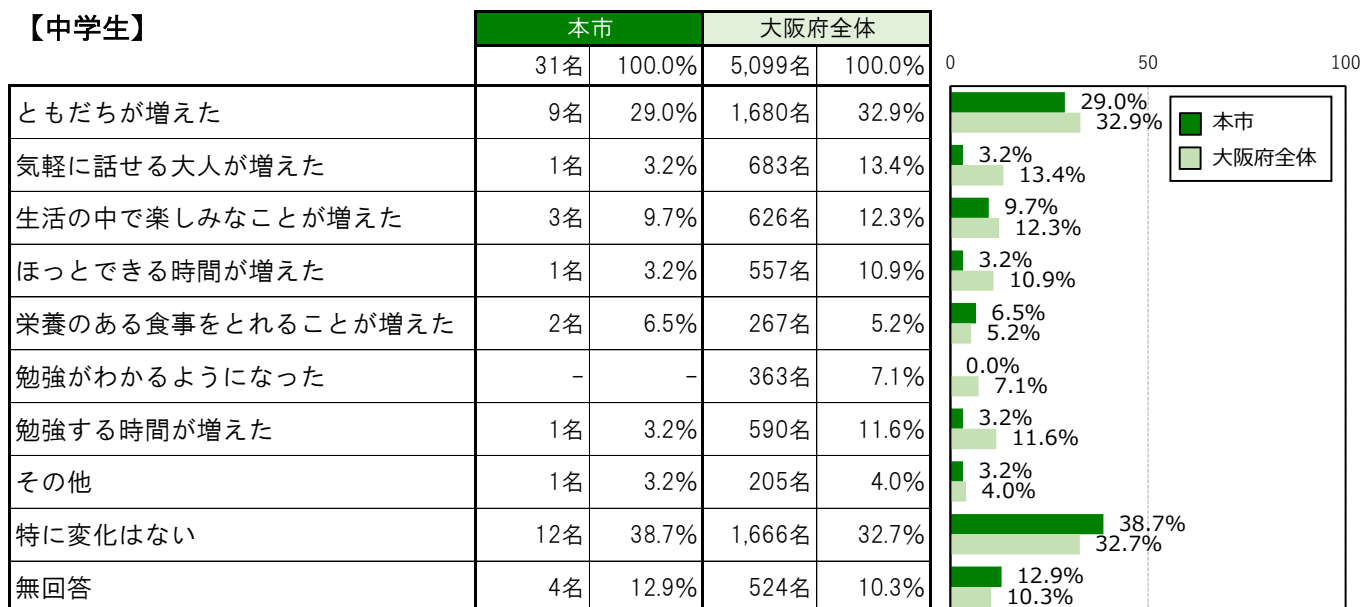
中学生は、「ともだちが増えた」が29.0%で最も多く、次いで「生活の中で楽しいことが増えた」が9.7%、「栄養のある食事をとれることが増えた」が6.5%となっている。

【全体】



【小学生】





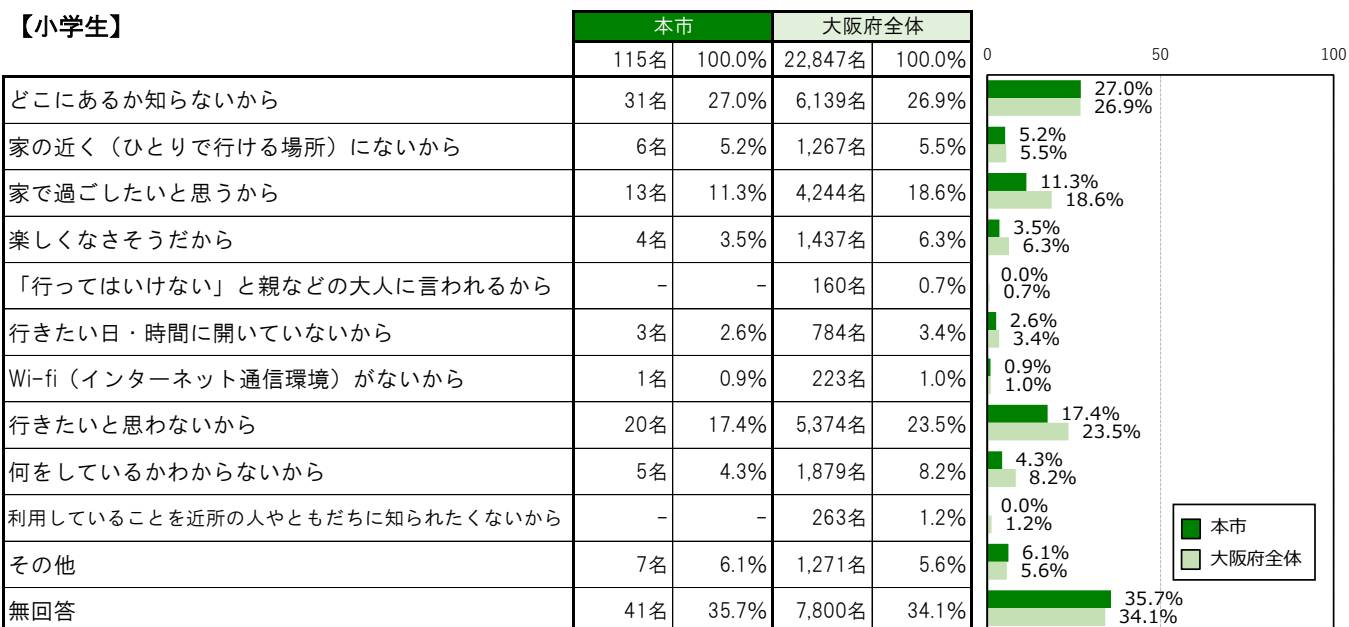
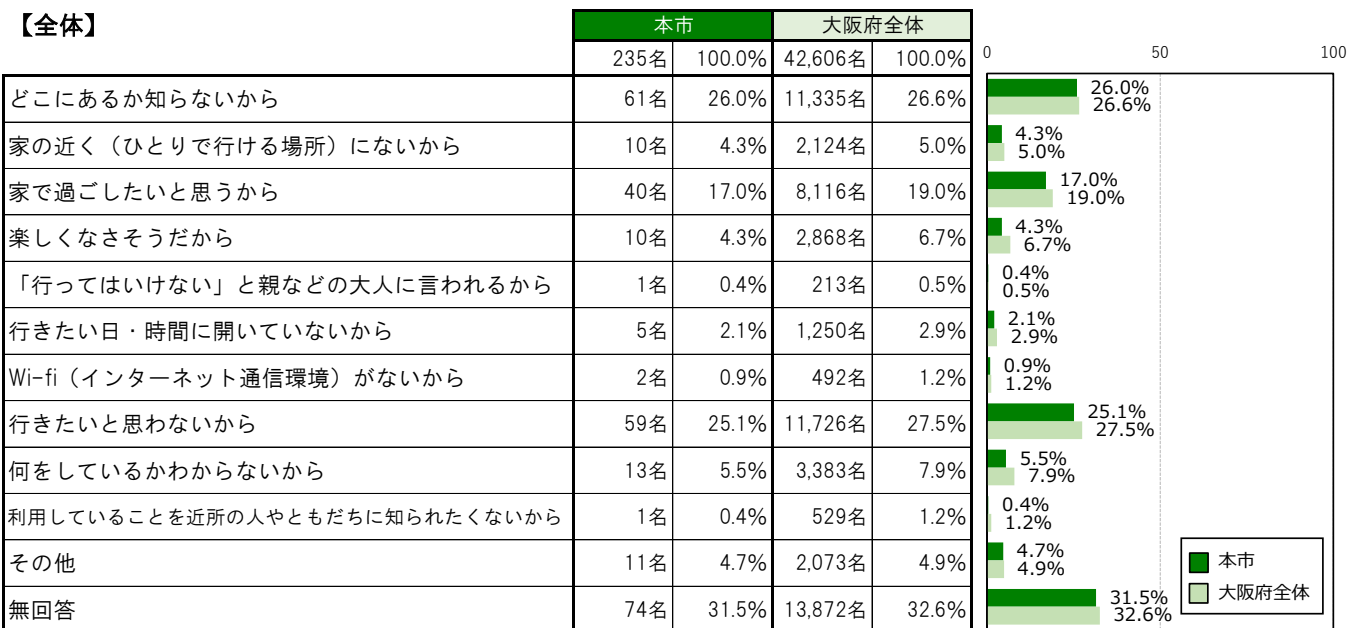
あなたのことについて

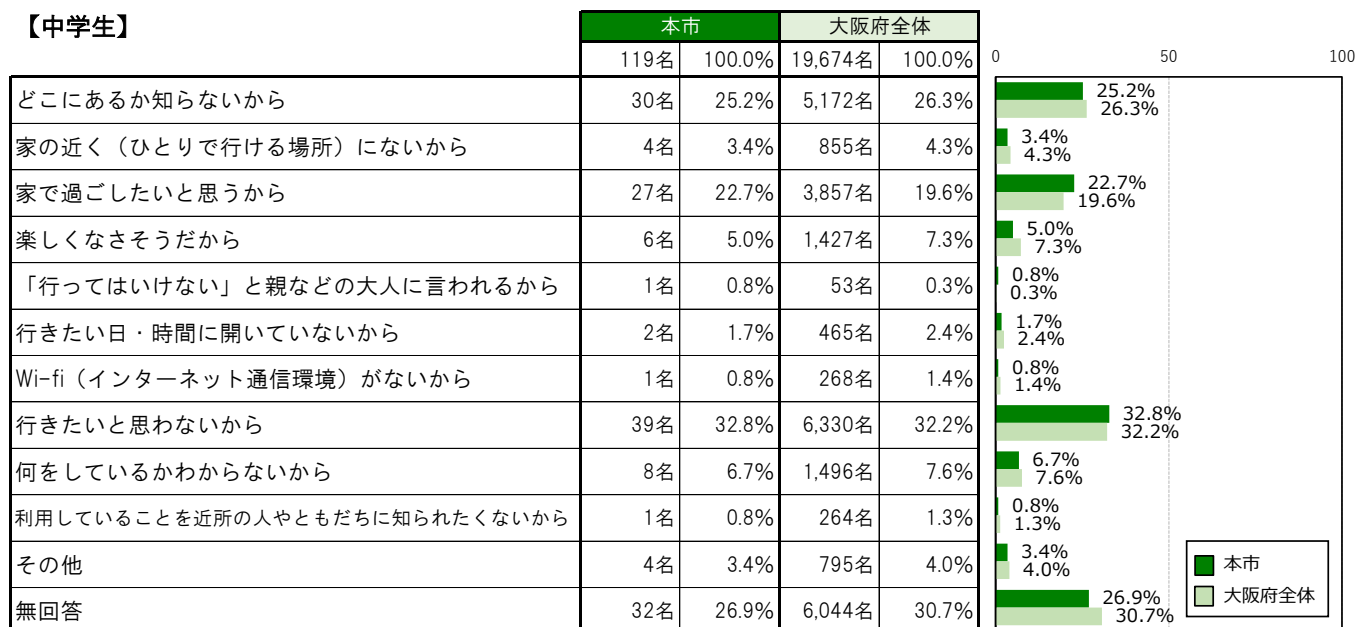
問25（3）子どもの居場所を利用したことがない理由

全体は、「どこにあるか知らないから」が26.0%で最も多く、次いで「行きたいと思わないから」が25.1%、「家で過ごしたいと思うから」が17.0%、「何をしているかわからないから」が5.5%となっている。

小学生は、「どこにあるか知らないから」が27.0%で最も多く、次いで「行きたいと思わないから」が17.4%、「家で過ごしたいと思うから」が11.3%、「家の近く（ひとりでできる場所）にないから」が5.2%となっている。

中学生は、「行きたいと思わないから」が32.8%で最も多く、次いで「どこにあるか知らないから」が25.2%、「家で過ごしたいと思うから」が22.7%、「何をしているかわからないから」が6.7%となっている。





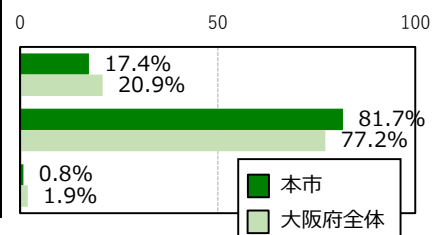
あなたのことについて

問26（１）自分が世話をしている人の有無

全体は、「いる」が17.4%、「いない」が81.7%となっている。
 小学生は、「いる」が26.3%、「いない」が72.9%となっている。
 中学生は、「いる」が9.0%、「いない」が90.2%となっている。

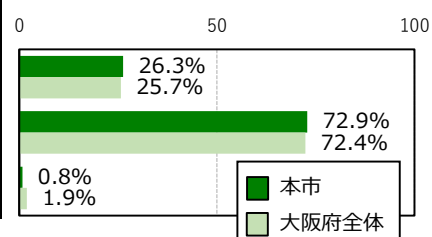
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	241名	100.0%	43,370名	100.0%
いる	42名	17.4%	9,054名	20.9%
いない	197名	81.7%	33,476名	77.2%
無回答	2名	0.8%	840名	1.9%



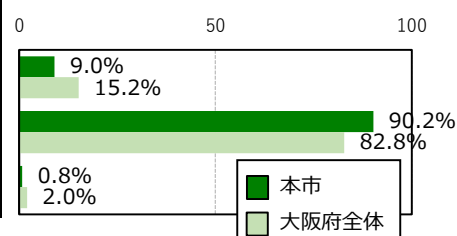
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	118名	100.0%	23,289名	100.0%
いる	31名	26.3%	5,988名	25.7%
いない	86名	72.9%	16,856名	72.4%
無回答	1名	0.8%	445名	1.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	122名	100.0%	19,990名	100.0%
いる	11名	9.0%	3,045名	15.2%
いない	110名	90.2%	16,553名	82.8%
無回答	1名	0.8%	392名	2.0%



あなたのことについて

問26（2）世話をしている相手

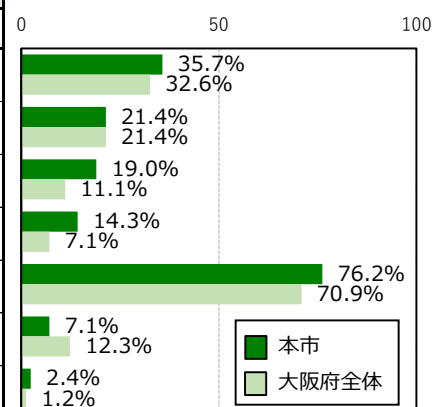
全体は、「きょうだい」が76.2%で最も多く、次いで「お母さん」が35.7%、「お父さん」が21.4%、「おばあちゃん」が19.0%となっている。

小学生は、「きょうだい」が74.2%で最も多く、次いで「お母さん」が32.3%となっている。

中学生は、「きょうだい」が81.8%で最も多く、次いで「お母さん」が45.5%、「お父さん」が36.4%、「おばあちゃん」が27.3%となっている。

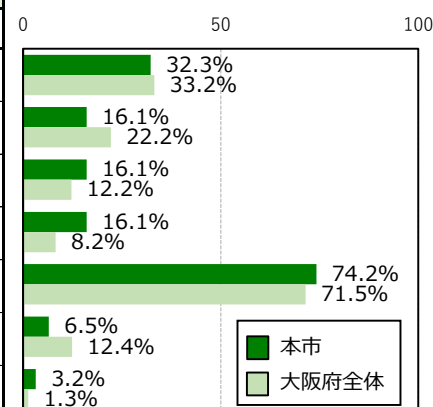
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
お母さん	15名	35.7%	2,954名	32.6%
お父さん	9名	21.4%	1,939名	21.4%
おばあちゃん	8名	19.0%	1,009名	11.1%
おじいちゃん	6名	14.3%	647名	7.1%
きょうだい	32名	76.2%	6,419名	70.9%
その他	3名	7.1%	1,117名	12.3%
無回答	1名	2.4%	112名	1.2%



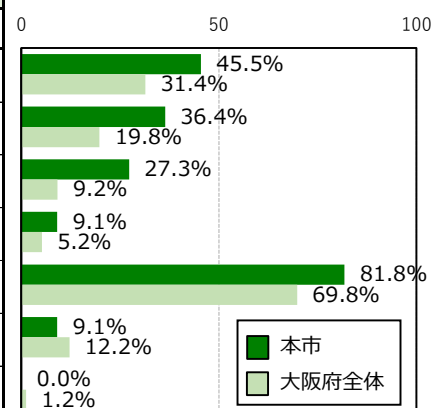
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
お母さん	10名	32.3%	1,990名	33.2%
お父さん	5名	16.1%	1,332名	22.2%
おばあちゃん	5名	16.1%	728名	12.2%
おじいちゃん	5名	16.1%	489名	8.2%
きょうだい	23名	74.2%	4,280名	71.5%
その他	2名	6.5%	741名	12.4%
無回答	1名	3.2%	75名	1.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
お母さん	5名	45.5%	957名	31.4%
お父さん	4名	36.4%	604名	19.8%
おばあちゃん	3名	27.3%	280名	9.2%
おじいちゃん	1名	9.1%	157名	5.2%
きょうだい	9名	81.8%	2,125名	69.8%
その他	1名	9.1%	370名	12.2%
無回答	-	-	37名	1.2%



あなたのことについて

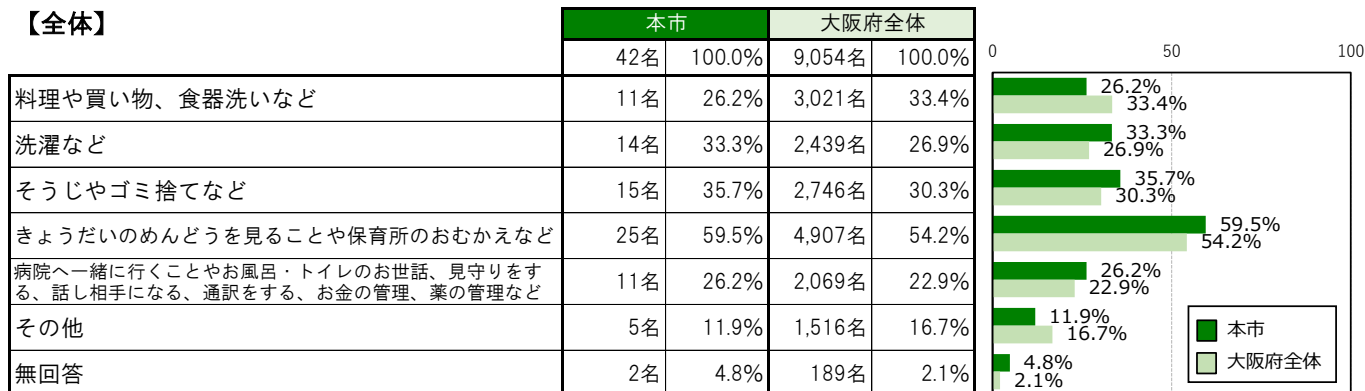
問26（3）世話をを行っている内容

全体は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が59.5%で最も多く、次いで「そうじやゴミ捨てなど」が35.7%、「洗濯など」が33.3%となっている。

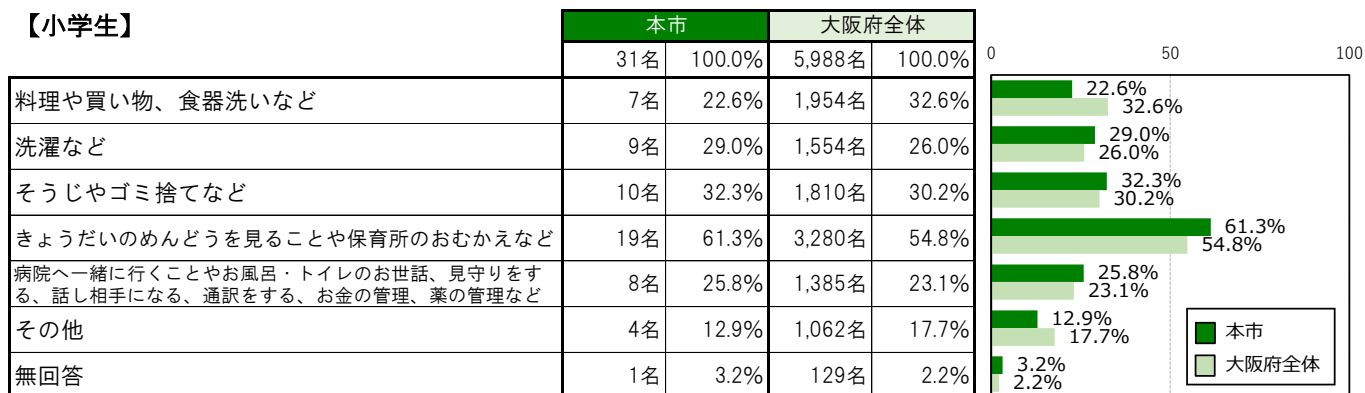
小学生は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が61.3%で最も多く、次いで「そうじやゴミ捨てなど」が32.3%、「洗濯など」が29.0%、「病院へ一緒に行くことやお風呂・トイレのお世話、見守りをする、話し相手になる、通訳をする、お金の管理、薬の管理など」が25.8%となっている。

中学生は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が54.5%で最も多く、次いで「洗濯など」、「そうじやゴミ捨てなど」がそれぞれ45.5%、「料理や買い物、食器洗いなど」が36.4%となっている。

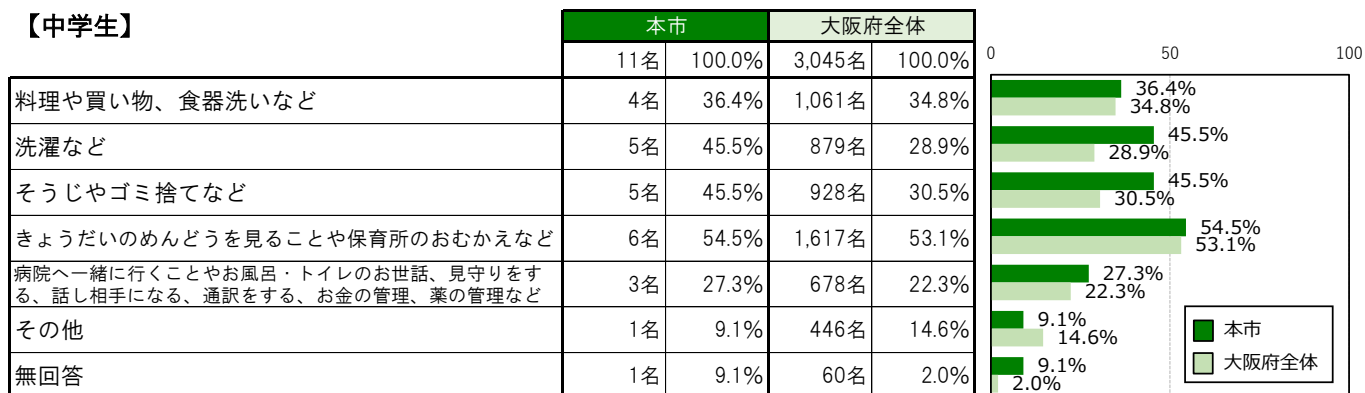
【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問26（５）世話をする頻度

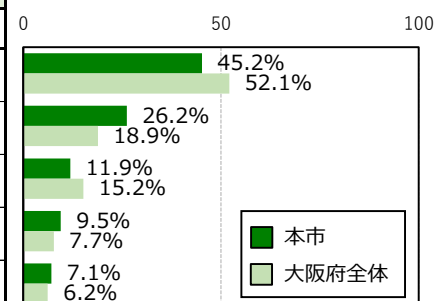
全体は、「ほぼ毎日」が45.2%で最も多く、次いで「週に3日～5日」が26.2%、「週に1日または2日」が11.9%となっている。

小学生は、「ほぼ毎日」が45.2%で最も多く、次いで「週に3日～5日」が25.8%、「週に1日または2日」が12.9%となっている。

中学生は、「ほぼ毎日」が45.5%で最も多く、次いで「週に3日～5日」が27.3%となっている。

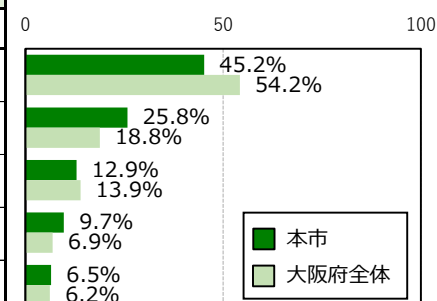
【全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
ほぼ毎日	42名	100.0%	9,054名	100.0%
週に3日～5日	19名	45.2%	4,716名	52.1%
週に1日または2日	11名	26.2%	1,708名	18.9%
1か月に数日	5名	11.9%	1,375名	15.2%
1か月に数日	4名	9.5%	694名	7.7%
無回答	3名	7.1%	561名	6.2%



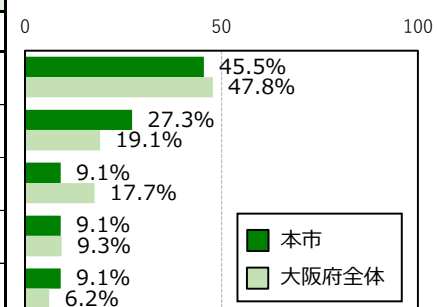
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
ほぼ毎日	31名	100.0%	5,988名	100.0%
ほぼ毎日	14名	45.2%	3,246名	54.2%
週に3日～5日	8名	25.8%	1,125名	18.8%
週に1日または2日	4名	12.9%	832名	13.9%
1か月に数日	3名	9.7%	412名	6.9%
無回答	2名	6.5%	373名	6.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
ほぼ毎日	11名	100.0%	3,045名	100.0%
ほぼ毎日	5名	45.5%	1,455名	47.8%
週に3日～5日	3名	27.3%	582名	19.1%
週に1日または2日	1名	9.1%	538名	17.7%
1か月に数日	1名	9.1%	282名	9.3%
無回答	1名	9.1%	188名	6.2%



あなたのことについて

問26（6）学校がある日に世話をする1日の時間

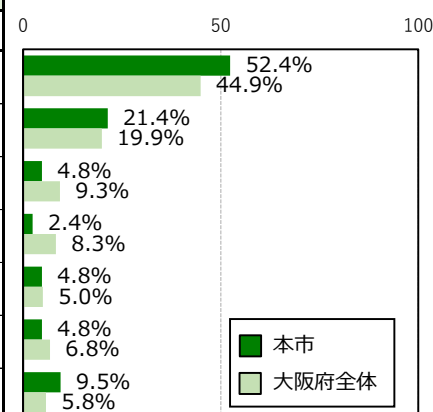
全体は、「1時間より少ない」が52.4%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が21.4%、「2時間以上、3時間より少ない」、「5時間以上、7時間より少ない」、「7時間より多い」がそれぞれ4.8%となっている。

小学生は、「1時間より少ない」が51.6%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が22.6%、「2時間以上、3時間より少ない」、「5時間以上、7時間より少ない」がそれぞれ6.5%となっている。

中学生は、「1時間より少ない」が54.5%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が18.2%となっている。

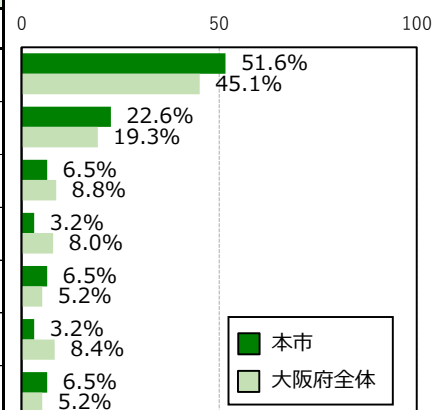
【全体】

	本市		大阪府全体	
	42名	100.0%	9,054名	100.0%
1時間より少ない	22名	52.4%	4,062名	44.9%
1時間以上、2時間より少ない	9名	21.4%	1,805名	19.9%
2時間以上、3時間より少ない	2名	4.8%	843名	9.3%
3時間以上、5時間より少ない	1名	2.4%	751名	8.3%
5時間以上、7時間より少ない	2名	4.8%	450名	5.0%
7時間より多い	2名	4.8%	617名	6.8%
無回答	4名	9.5%	526名	5.8%



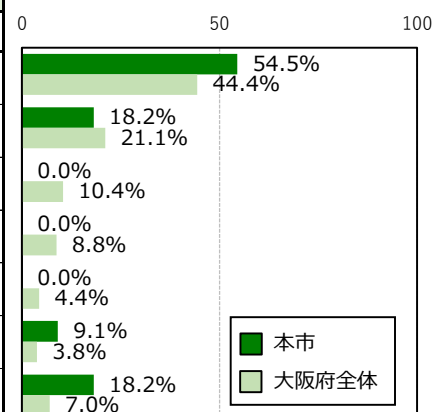
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	31名	100.0%	5,988名	100.0%
1時間より少ない	16名	51.6%	2,700名	45.1%
1時間以上、2時間より少ない	7名	22.6%	1,156名	19.3%
2時間以上、3時間より少ない	2名	6.5%	525名	8.8%
3時間以上、5時間より少ない	1名	3.2%	482名	8.0%
5時間以上、7時間より少ない	2名	6.5%	314名	5.2%
7時間より多い	1名	3.2%	500名	8.4%
無回答	2名	6.5%	311名	5.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	11名	100.0%	3,045名	100.0%
1時間より少ない	6名	54.5%	1,353名	44.4%
1時間以上、2時間より少ない	2名	18.2%	644名	21.1%
2時間以上、3時間より少ない	-	-	316名	10.4%
3時間以上、5時間より少ない	-	-	267名	8.8%
5時間以上、7時間より少ない	-	-	135名	4.4%
7時間より多い	1名	9.1%	116名	3.8%
無回答	2名	18.2%	214名	7.0%



あなたのことについて

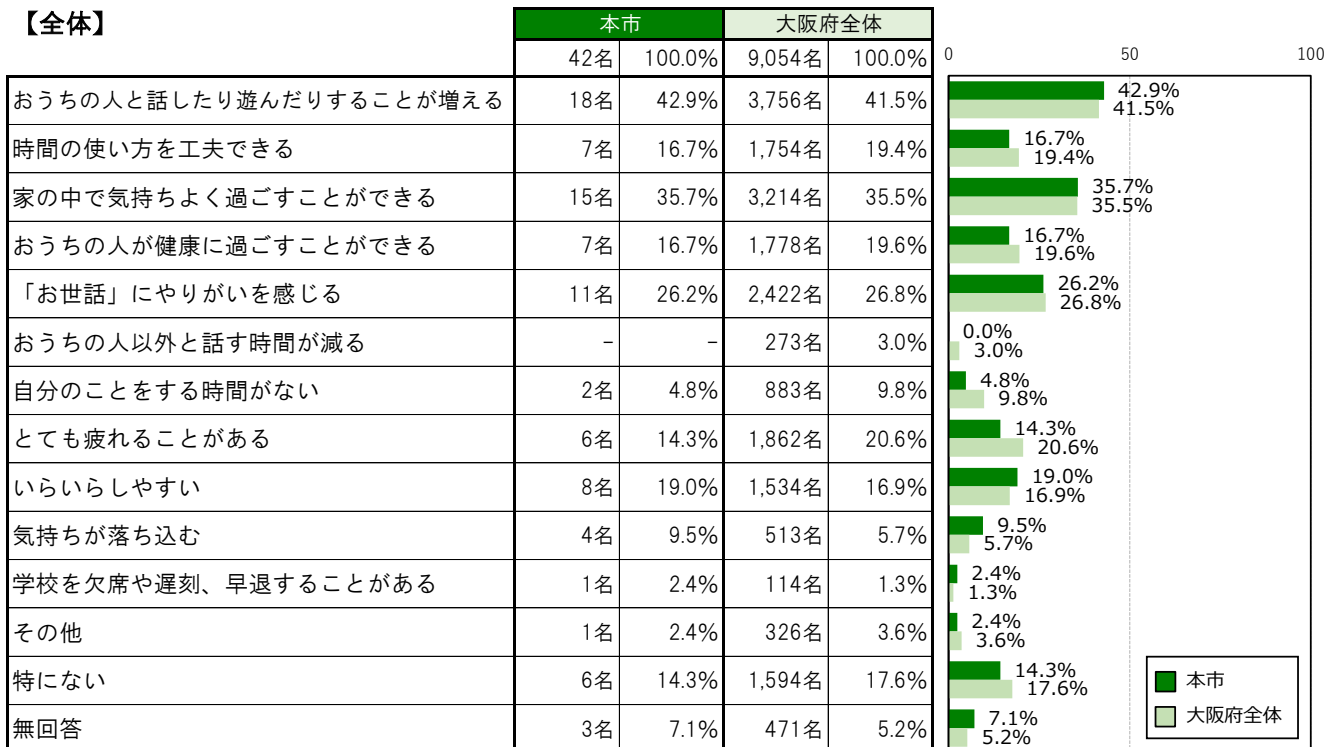
問26（7）世話をしていることの影響

全体は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が42.9%で最も多く、次いで「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が35.7%、「「お世話」にやりがいを感じる」が26.2%、「いらいらしやすい」が19.0%となっている。

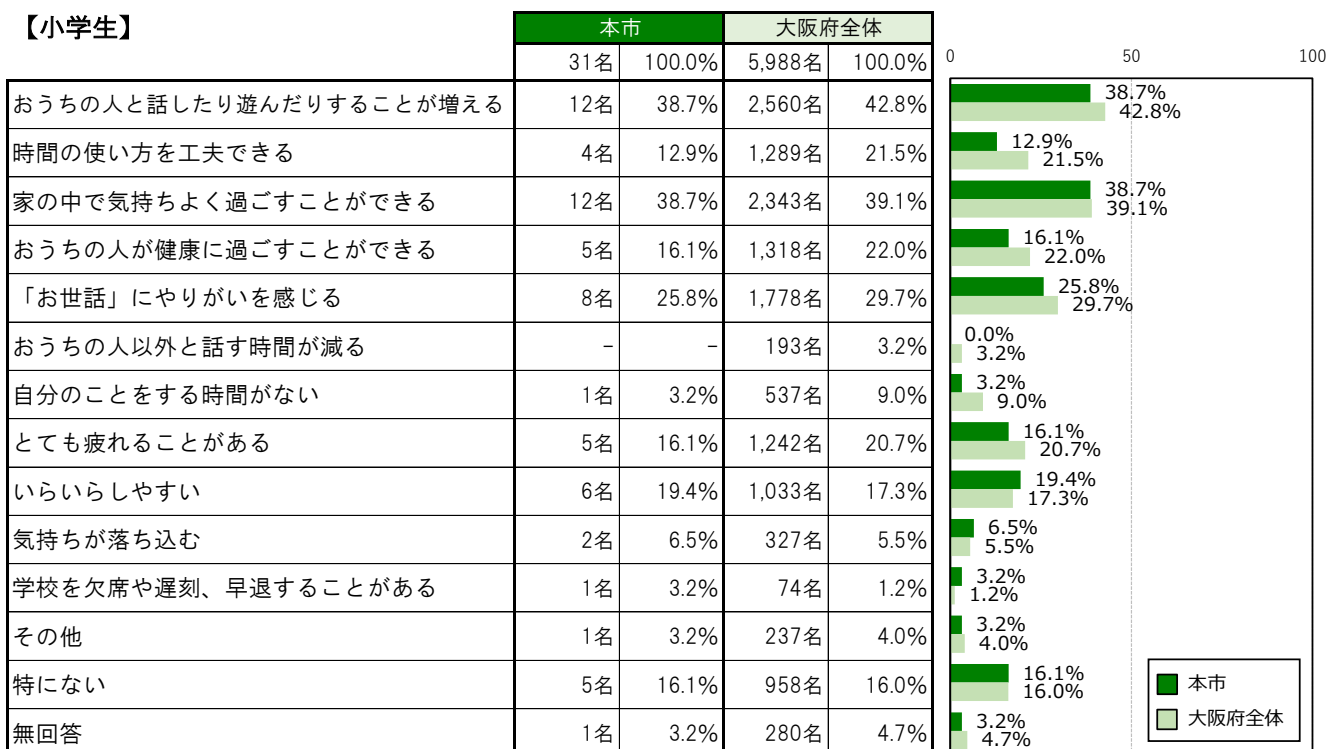
小学生は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」、「家の中で気持ちよく過ごすことができる」がそれぞれ38.7%で最も多く、次いで「「お世話」にやりがいを感じる」が25.8%、「いらいらしやすい」が19.4%、「おうちの人健康に過ごすことができる」、「とても疲れることがある」がそれぞれ16.1%となっている。

中学生は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が54.5%で最も多く、次いで「時間の使い方を工夫できる」、「家の中で気持ちよく過ごすことができる」、「「お世話」にやりがいを感じる」がそれぞれ27.3%となっている。

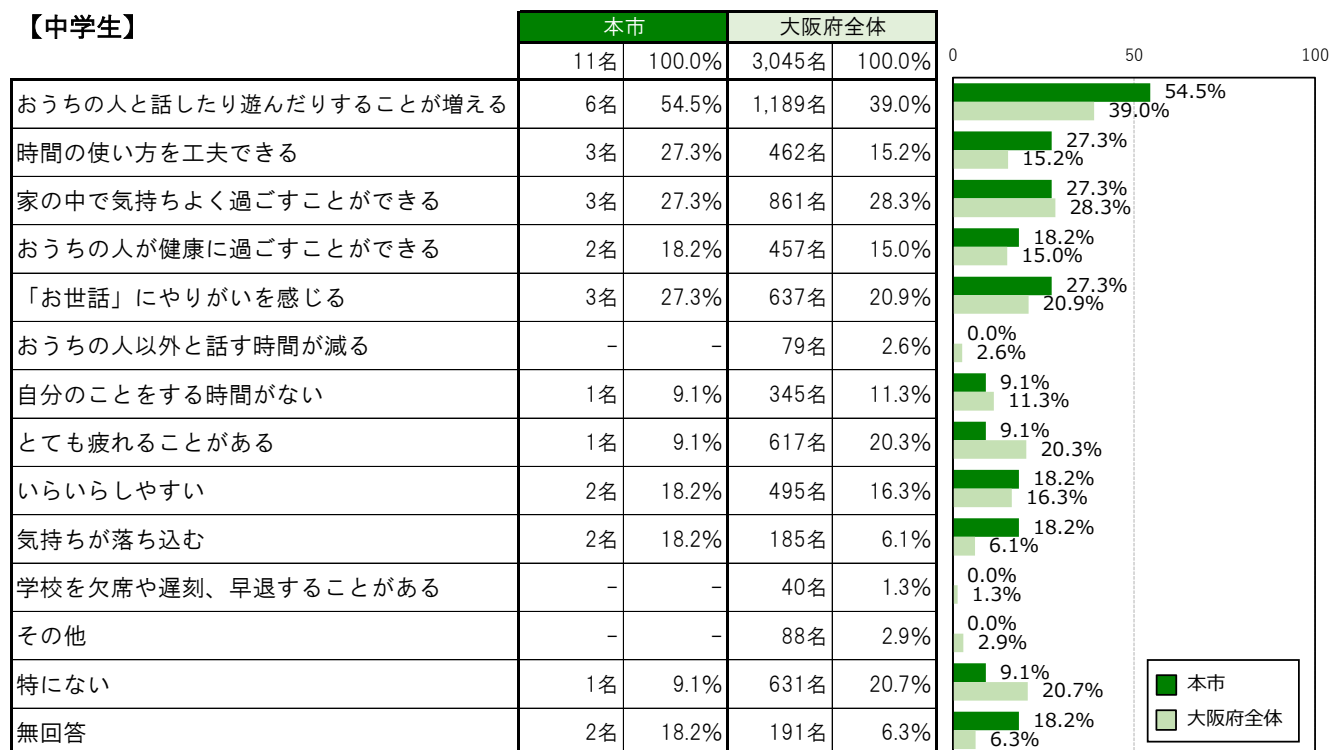
【全体】



【小学生】



【中学生】



2. 単純集計結果〔保護者〕

四條畷市

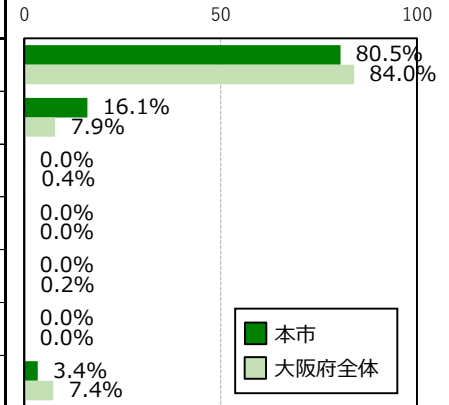
子どもとの関係について

問1 子どもとの続柄

保護者全体は、「お母さん」が80.5%で最も多く、次いで「お父さん」が16.1%となっている。
小学生の保護者は、「お母さん」が80.5%で最も多く、次いで「お父さん」が15.3%となっている。
中学生の保護者は、「お母さん」が81.5%で最も多く、次いで「お父さん」が15.1%となっている。

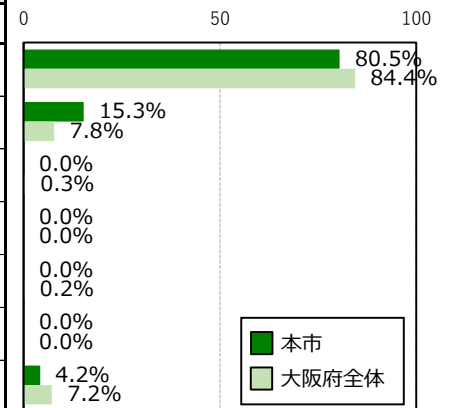
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,358名	100.0%
お母さん	215名	80.5%	36,436名	84.0%
お父さん	43名	16.1%	3,426名	7.9%
おじいさん・おばあさん	-	-	154名	0.4%
おじ、おばなど親戚	-	-	15名	0.0%
施設職員・ファミリーホーム・里親	-	-	91名	0.2%
その他の人	-	-	14名	0.0%
無回答	9名	3.4%	3,222名	7.4%



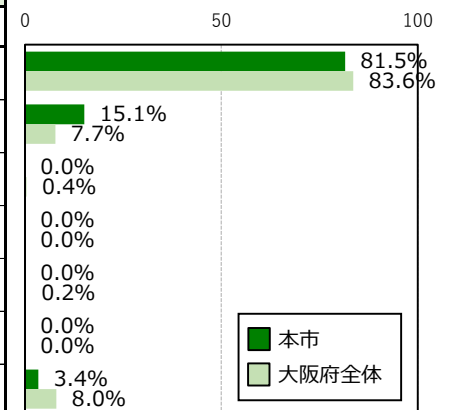
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,819名	100.0%
お母さん	95名	80.5%	19,261名	84.4%
お父さん	18名	15.3%	1,776名	7.8%
おじいさん・おばあさん	-	-	75名	0.3%
おじ、おばなど親戚	-	-	7名	0.0%
施設職員・ファミリーホーム・里親	-	-	47名	0.2%
その他の人	-	-	3名	0.0%
無回答	5名	4.2%	1,650名	7.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,390名	100.0%
お母さん	97名	81.5%	16,208名	83.6%
お父さん	18名	15.1%	1,488名	7.7%
おじいさん・おばあさん	-	-	77名	0.4%
おじ、おばなど親戚	-	-	7名	0.0%
施設職員・ファミリーホーム・里親	-	-	44名	0.2%
その他の人	-	-	8名	0.0%
無回答	4名	3.4%	1,558名	8.0%



世帯の状況について

問2 世帯構成 ①おばあさん

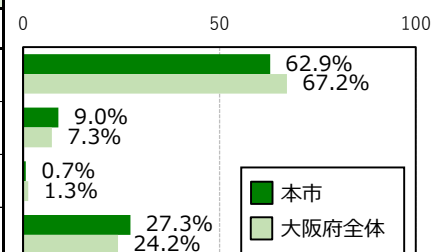
保護者全体は、「いない」が62.9%で最も多く、次いで「1人」が9.0%、「2人」が0.7%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が60.2%で最も多く、次いで「1人」が9.3%、「2人」が0.8%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が67.2%で最も多く、次いで「1人」が9.2%、「2人」が0.8%となっている。

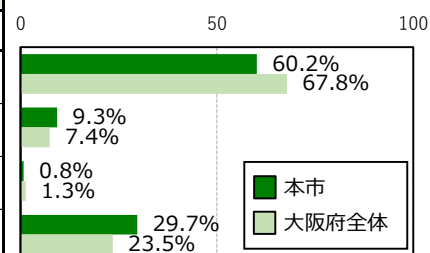
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	168名	62.9%	29,081名	67.2%
1人	24名	9.0%	3,181名	7.3%
2人	2名	0.7%	555名	1.3%
無回答	73名	27.3%	10,483名	24.2%



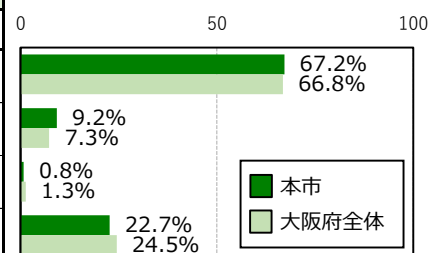
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	71名	60.2%	15,456名	67.8%
1人	11名	9.3%	1,681名	7.4%
2人	1名	0.8%	286名	1.3%
無回答	35名	29.7%	5,363名	23.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	80名	67.2%	12,942名	66.8%
1人	11名	9.2%	1,422名	7.3%
2人	1名	0.8%	257名	1.3%
無回答	27名	22.7%	4,744名	24.5%



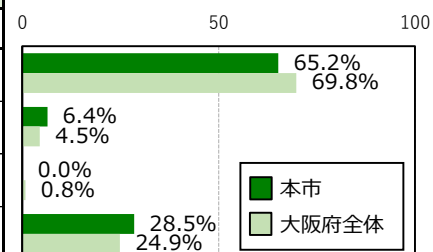
世帯の状況について

問2 世帯構成 ②おじいさん

保護者全体は、「いない」が65.2%で最も多く、次いで「1人」が6.4%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が61.9%で最も多く、次いで「1人」が6.8%となっている。
 中学生の保護者は、「いない」が70.6%で最も多く、次いで「1人」が6.7%となっている。

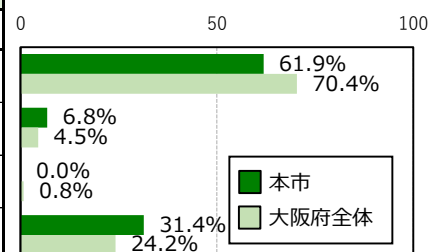
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	174名	65.2%	30,230名	69.8%
1人	17名	6.4%	1,932名	4.5%
2人	-	-	340名	0.8%
無回答	76名	28.5%	10,798名	24.9%



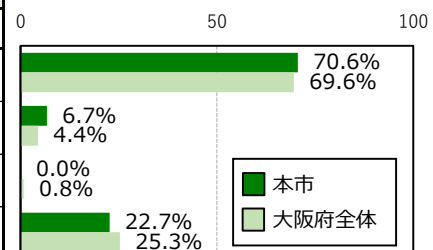
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	73名	61.9%	16,050名	70.4%
1人	8名	6.8%	1,031名	4.5%
2人	-	-	186名	0.8%
無回答	37名	31.4%	5,519名	24.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いない	84名	70.6%	13,474名	69.6%
1人	8名	6.7%	853名	4.4%
2人	-	-	148名	0.8%
無回答	27名	22.7%	4,890名	25.3%



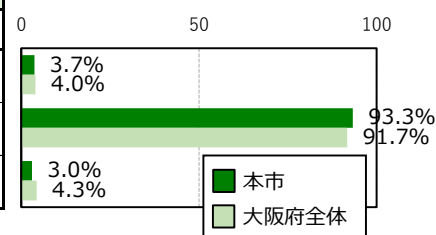
世帯の状況について

問2 世帯構成 ③お母さん

保護者全体は、「1人」が93.3%で最も多く、次いで「いない」が3.7%となっている。
 小学生の保護者は、「1人」が92.4%で最も多く、次いで「いない」が3.4%となっている。
 中学生の保護者は、「1人」が92.4%で最も多く、次いで「いない」が5.0%となっている。

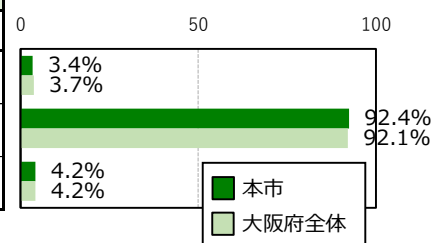
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,300名	100.0%
いない	10名	3.7%	1,729名	4.0%
1人	249名	93.3%	39,706名	91.7%
無回答	8名	3.0%	1,865名	4.3%



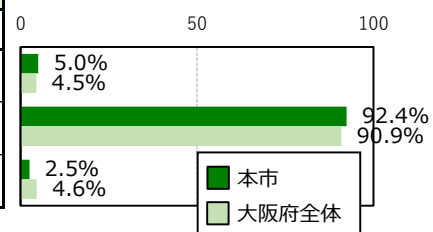
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,786名	100.0%
いない	4名	3.4%	841名	3.7%
1人	109名	92.4%	20,990名	92.1%
無回答	5名	4.2%	955名	4.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,365名	100.0%
いない	6名	5.0%	872名	4.5%
1人	110名	92.4%	17,597名	90.9%
無回答	3名	2.5%	896名	4.6%



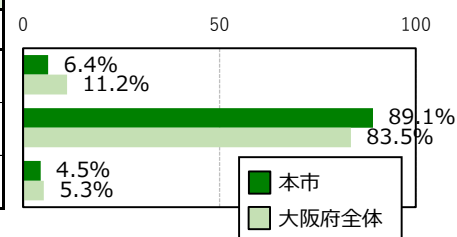
世帯の状況について

問2 世帯構成 ④お父さん

保護者全体は、「1人」が89.1%で最も多く、次いで「いない」が6.4%となっている。
 小学生の保護者は、「1人」が89.0%で最も多く、次いで「いない」が6.8%となっている。
 中学生の保護者は、「1人」が86.6%で最も多く、次いで「いない」が7.6%となっている。

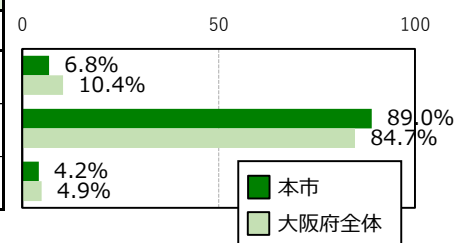
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,300名	100.0%
いない	17名	6.4%	4,852名	11.2%
1人	238名	89.1%	36,166名	83.5%
無回答	12名	4.5%	2,282名	5.3%



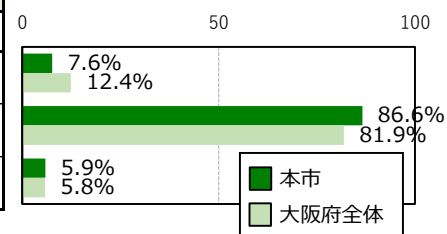
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,786名	100.0%
いない	8名	6.8%	2,372名	10.4%
1人	105名	89.0%	19,301名	84.7%
無回答	5名	4.2%	1,113名	4.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,365名	100.0%
いない	9名	7.6%	2,394名	12.4%
1人	103名	86.6%	15,852名	81.9%
無回答	7名	5.9%	1,119名	5.8%



世帯の状況について

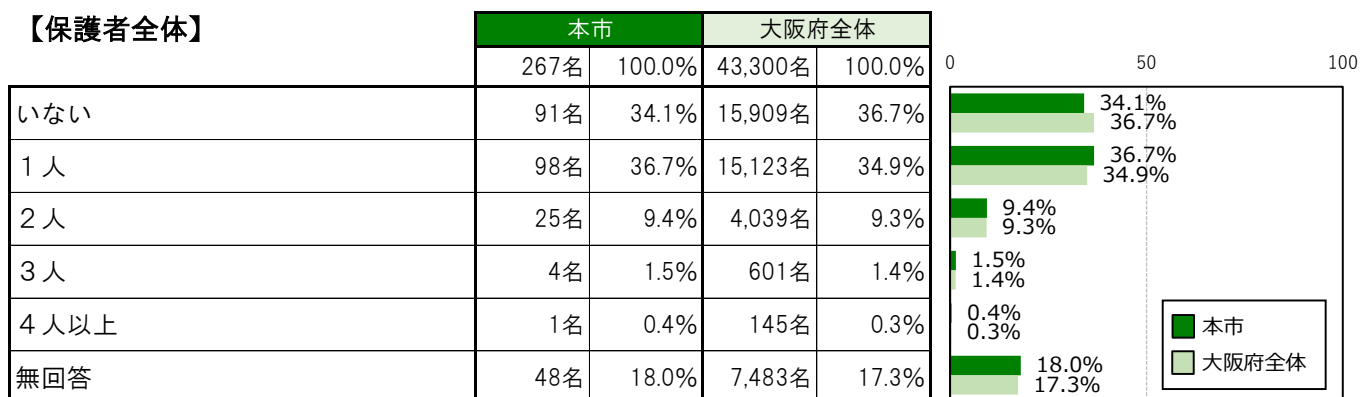
問2 世帯構成 ⑤姉・兄

保護者全体は、「1人」が36.7%で最も多く、次いで「いない」が34.1%、「2人」が9.4%、「3人」が1.5%となっている。

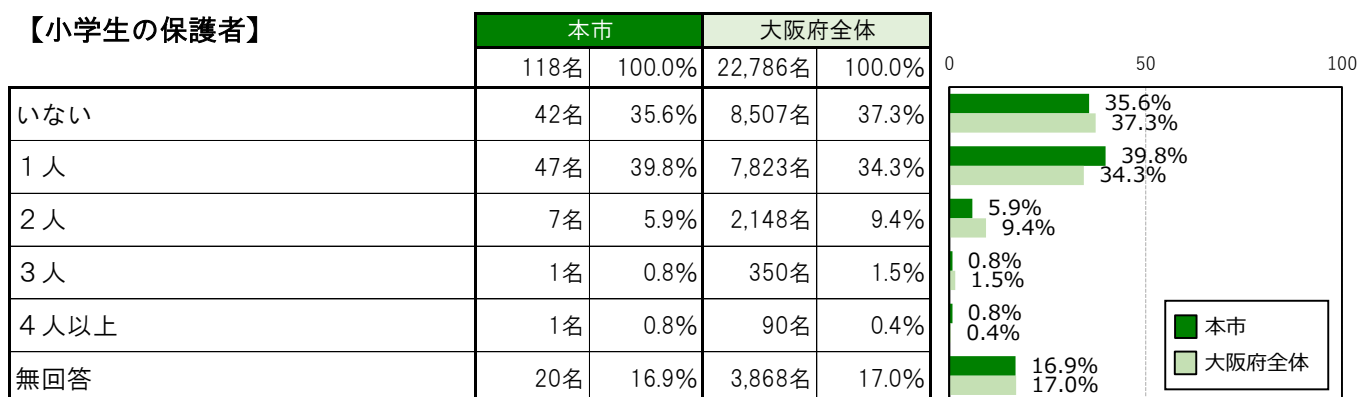
小学生の保護者は、「1人」が39.8%で最も多く、次いで「いない」が35.6%、「2人」が5.9%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が35.3%で最も多く、次いで「1人」が31.1%、「2人」が12.6%となっている。

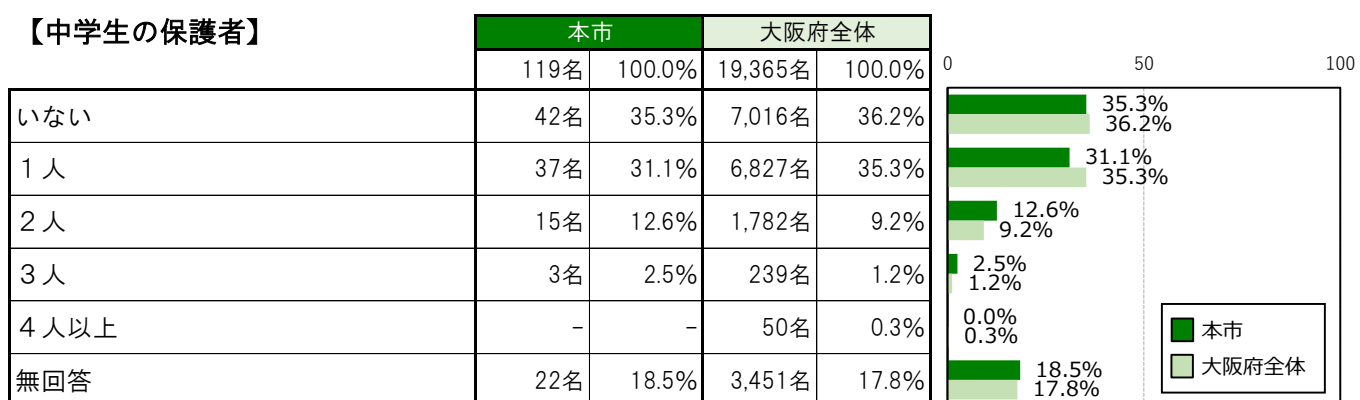
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

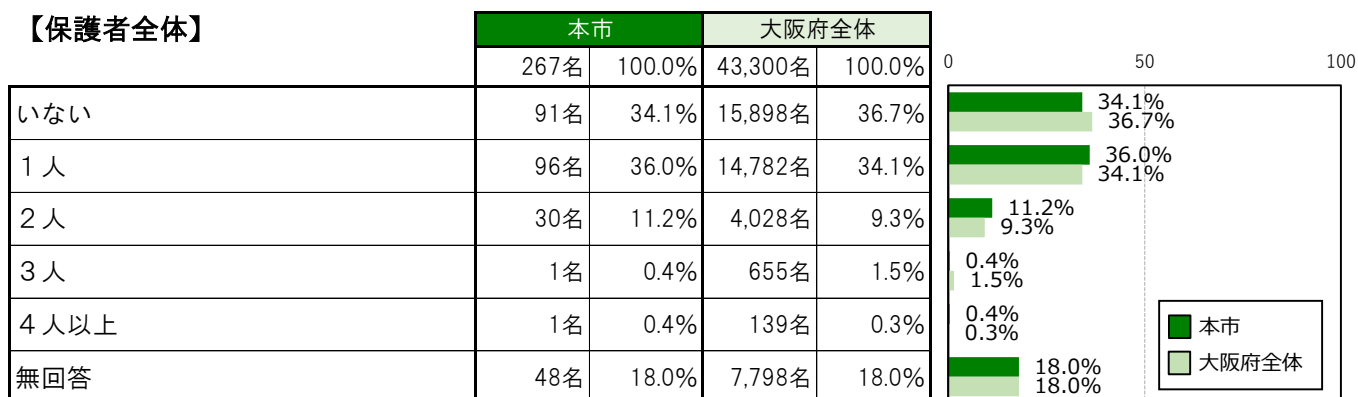
問2 世帯構成 ⑥妹・弟

保護者全体は、「1人」が36.0%で最も多く、次いで「いない」が34.1%、「2人」が11.2%となっている。

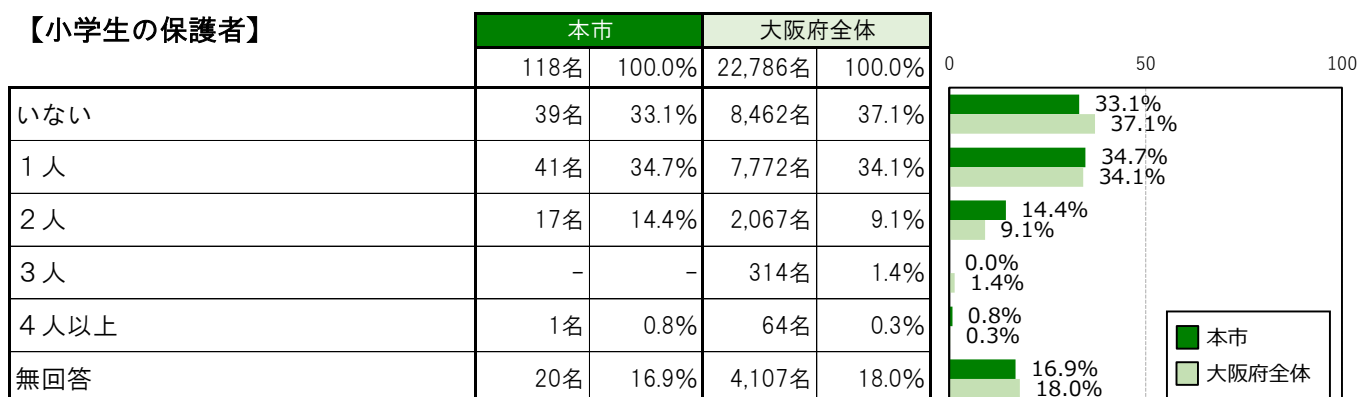
小学生の保護者は、「1人」が34.7%で最も多く、次いで「いない」が33.1%、「2人」が14.4%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が37.0%で最も多く、次いで「1人」が33.6%、「2人」が10.1%となっている。

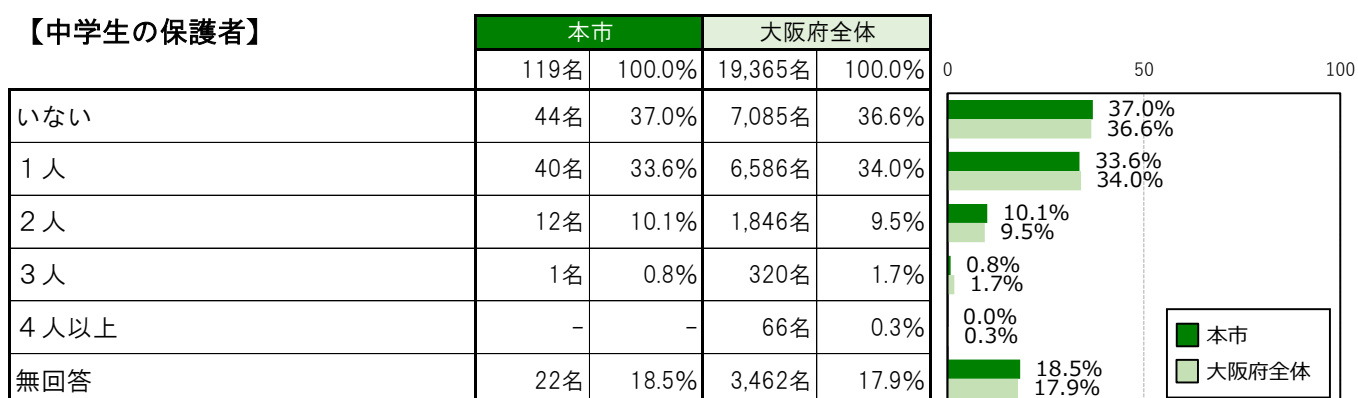
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問2 世帯構成 ⑦その他

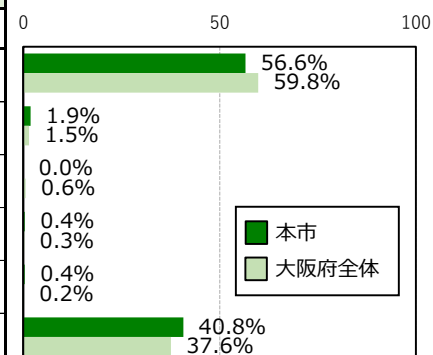
保護者全体は、「いない」が56.6%で最も多く、次いで「1人」が1.9%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が58.5%で最も多く、次いで「1人」、「3人」がそれぞれ0.8%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が58.8%で最も多く、次いで「1人」が2.5%となっている。

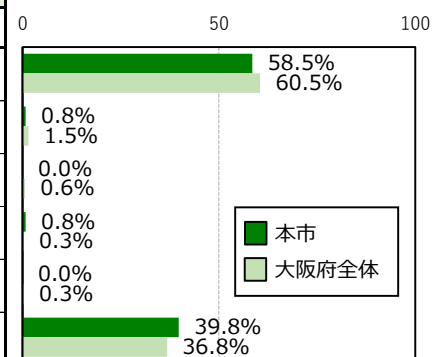
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,300名	100.0%
いない	151名	56.6%	25,890名	59.8%
1人	5名	1.9%	628名	1.5%
2人	-	-	261名	0.6%
3人	1名	0.4%	133名	0.3%
4人以上	1名	0.4%	98名	0.2%
無回答	109名	40.8%	16,290名	37.6%



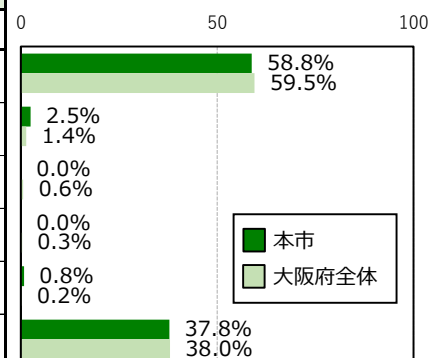
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,786名	100.0%
いない	69名	58.5%	13,780名	60.5%
1人	1名	0.8%	347名	1.5%
2人	-	-	139名	0.6%
3人	1名	0.8%	73名	0.3%
4人以上	-	-	59名	0.3%
無回答	47名	39.8%	8,388名	36.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,365名	100.0%
いない	70名	58.8%	11,529名	59.5%
1人	3名	2.5%	275名	1.4%
2人	-	-	119名	0.6%
3人	-	-	55名	0.3%
4人以上	1名	0.8%	36名	0.2%
無回答	45名	37.8%	7,351名	38.0%



世帯の状況について

問2 世帯構成 <世帯員の続柄>

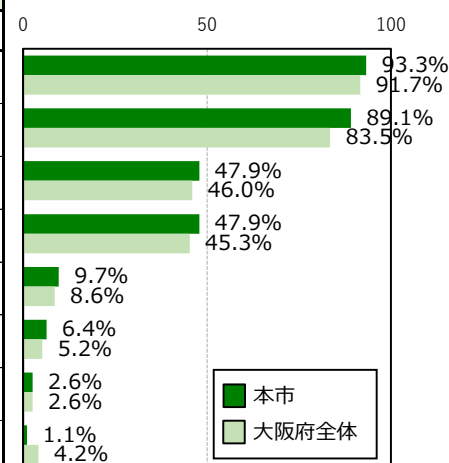
保護者全体は、「お母さん」が93.3%で最も多く、次いで「お父さん」が89.1%、「姉・兄」、「妹・弟」がそれぞれ47.9%、「おばあさん」が9.7%となっている。

小学生の保護者は、「お母さん」が92.4%で最も多く、次いで「お父さん」が89.0%、「妹・弟」が50.0%、「姉・兄」が47.5%となっている。

中学生の保護者は、「お母さん」が92.4%で最も多く、次いで「お父さん」が86.6%、「姉・兄」が46.2%、「妹・弟」が44.5%となっている。

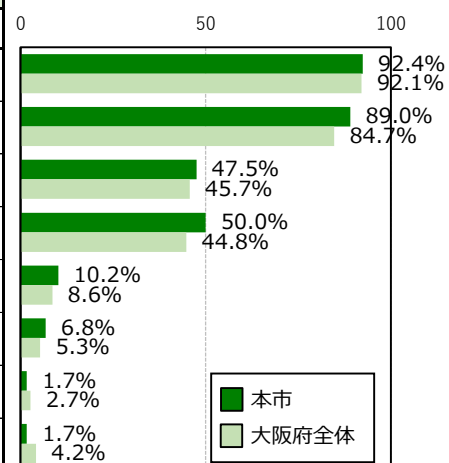
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,300名	100.0%
お母さん	249名	93.3%	39,706名	91.7%
お父さん	238名	89.1%	36,166名	83.5%
姉・兄	128名	47.9%	19,908名	46.0%
妹・弟	128名	47.9%	19,604名	45.3%
おばあさん	26名	9.7%	3,736名	8.6%
おじいさん	17名	6.4%	2,272名	5.2%
その他	7名	2.6%	1,120名	2.6%
無回答	3名	1.1%	1,839名	4.2%



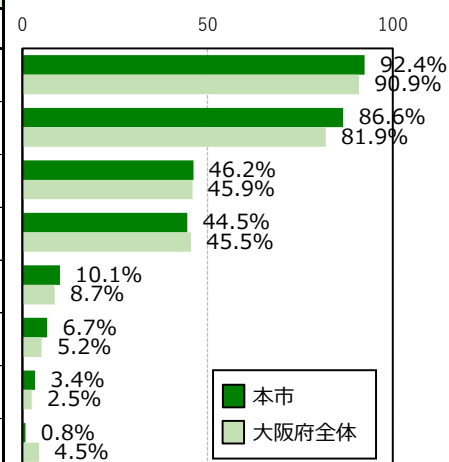
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,786名	100.0%
お母さん	109名	92.4%	20,990名	92.1%
お父さん	105名	89.0%	19,301名	84.7%
姉・兄	56名	47.5%	10,411名	45.7%
妹・弟	59名	50.0%	10,217名	44.8%
おばあさん	12名	10.2%	1,967名	8.6%
おじいさん	8名	6.8%	1,217名	5.3%
その他	2名	1.7%	618名	2.7%
無回答	2名	1.7%	953名	4.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,365名	100.0%
お母さん	110名	92.4%	17,597名	90.9%
お父さん	103名	86.6%	15,852名	81.9%
姉・兄	55名	46.2%	8,898名	45.9%
妹・弟	53名	44.5%	8,818名	45.5%
おばあさん	12名	10.1%	1,679名	8.7%
おじいさん	8名	6.7%	1,001名	5.2%
その他	4名	3.4%	485名	2.5%
無回答	1名	0.8%	876名	4.5%



世帯の状況について

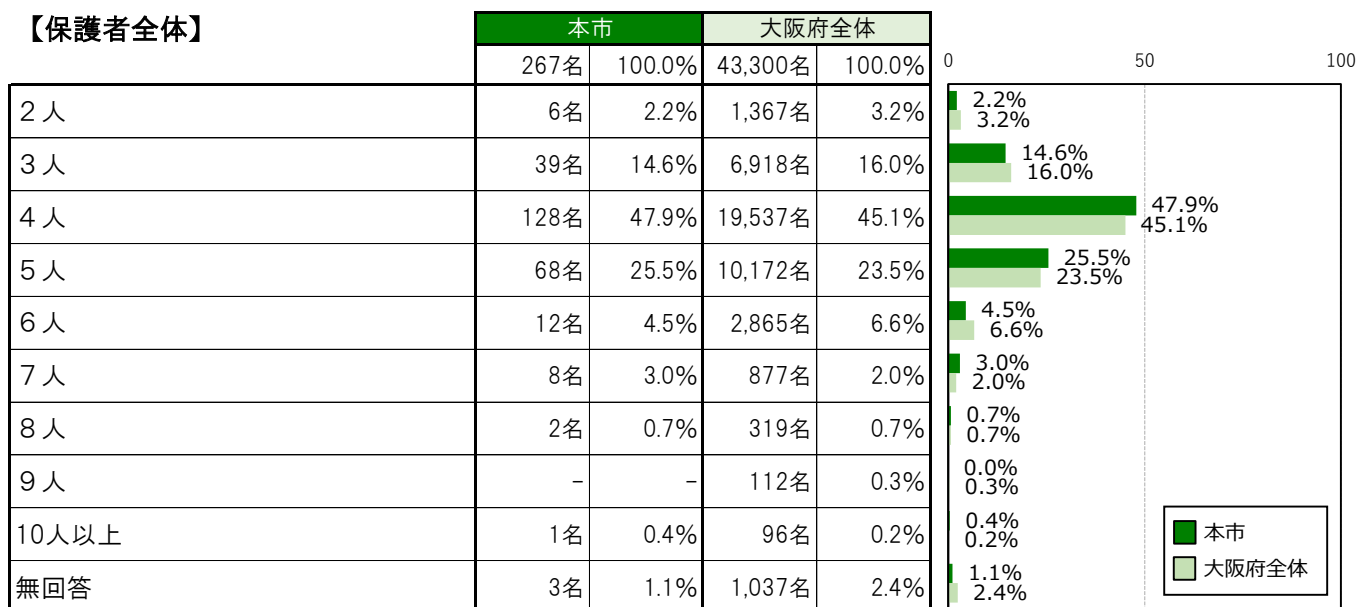
問2 世帯構成 ⑧世帯人数

保護者全体は、「4人」が47.9%で最も多く、次いで「5人」が25.5%、「3人」が14.6%、「6人」が4.5%となっている。

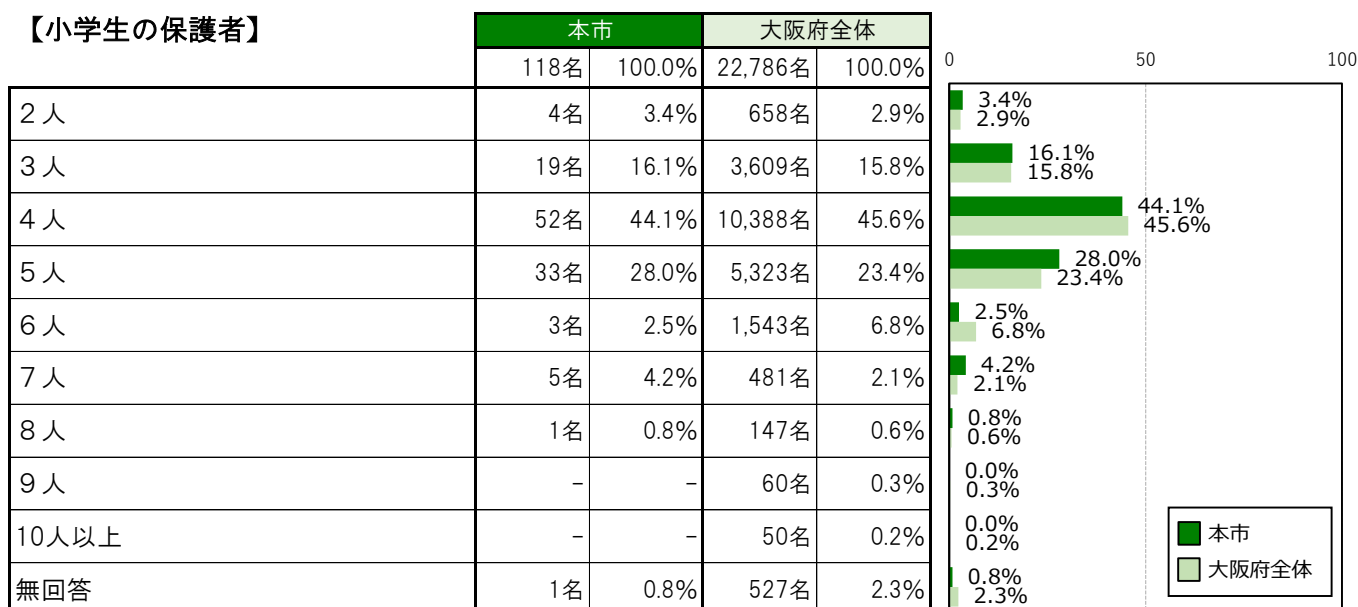
小学生の保護者は、「4人」が44.1%で最も多く、次いで「5人」が28.0%、「3人」が16.1%、「7人」が4.2%となっている。

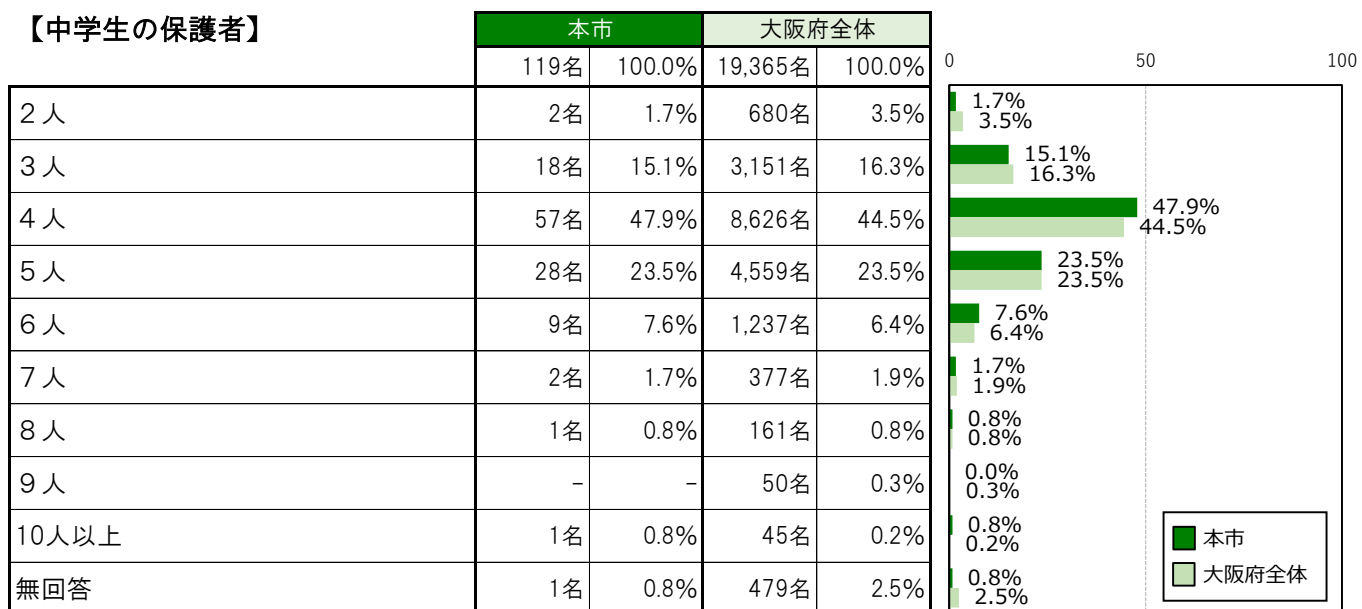
中学生の保護者は、「4人」が47.9%で最も多く、次いで「5人」が23.5%、「3人」が15.1%、「6人」が7.6%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】





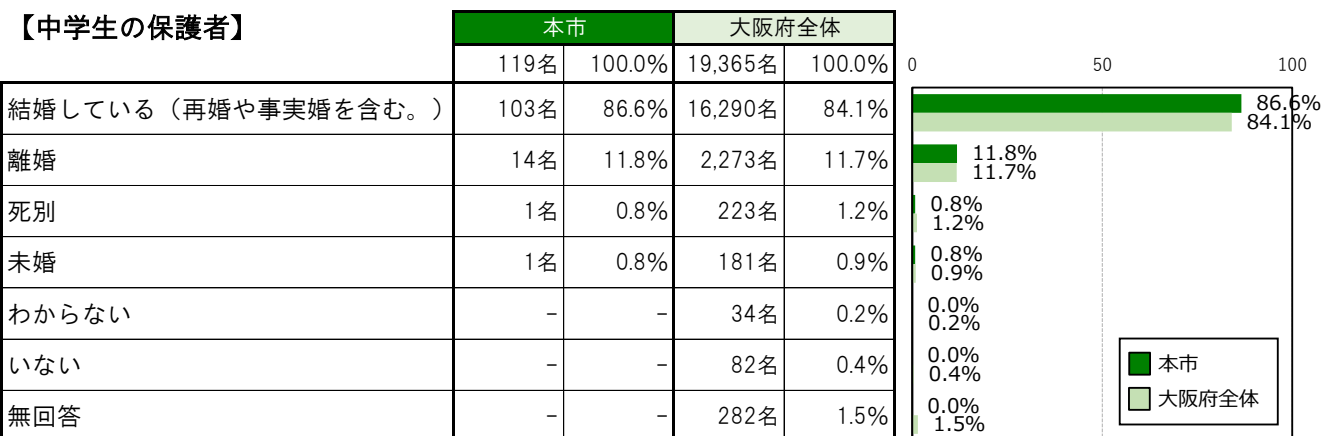
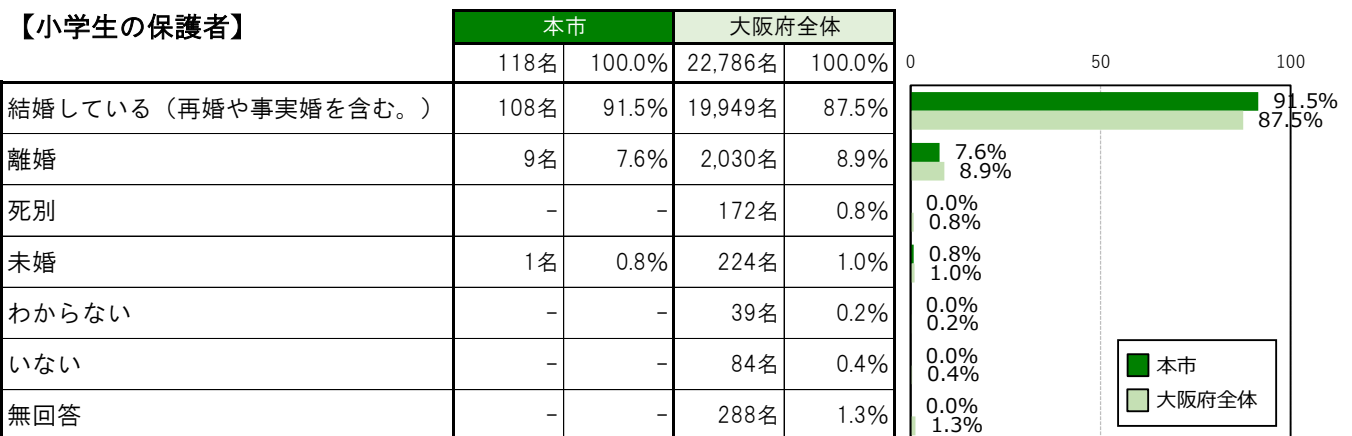
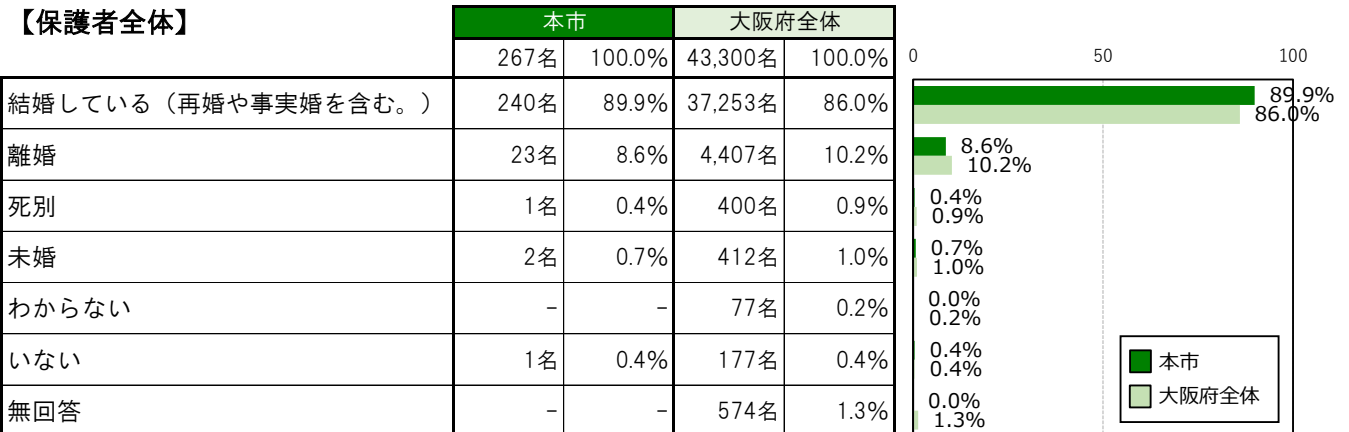
世帯の状況について

問3 親の婚姻状況

保護者全体は、「結婚している（再婚や事実婚を含む）」が89.9%で最も多く、次いで「離婚」が8.6%となっている。

小学生の保護者は、「結婚している（再婚や事実婚を含む）」が91.5%で最も多く、次いで「離婚」が7.6%となっている。

中学生の保護者は、「結婚している（再婚や事実婚を含む）」が86.6%で最も多く、次いで「離婚」が11.8%となっている。



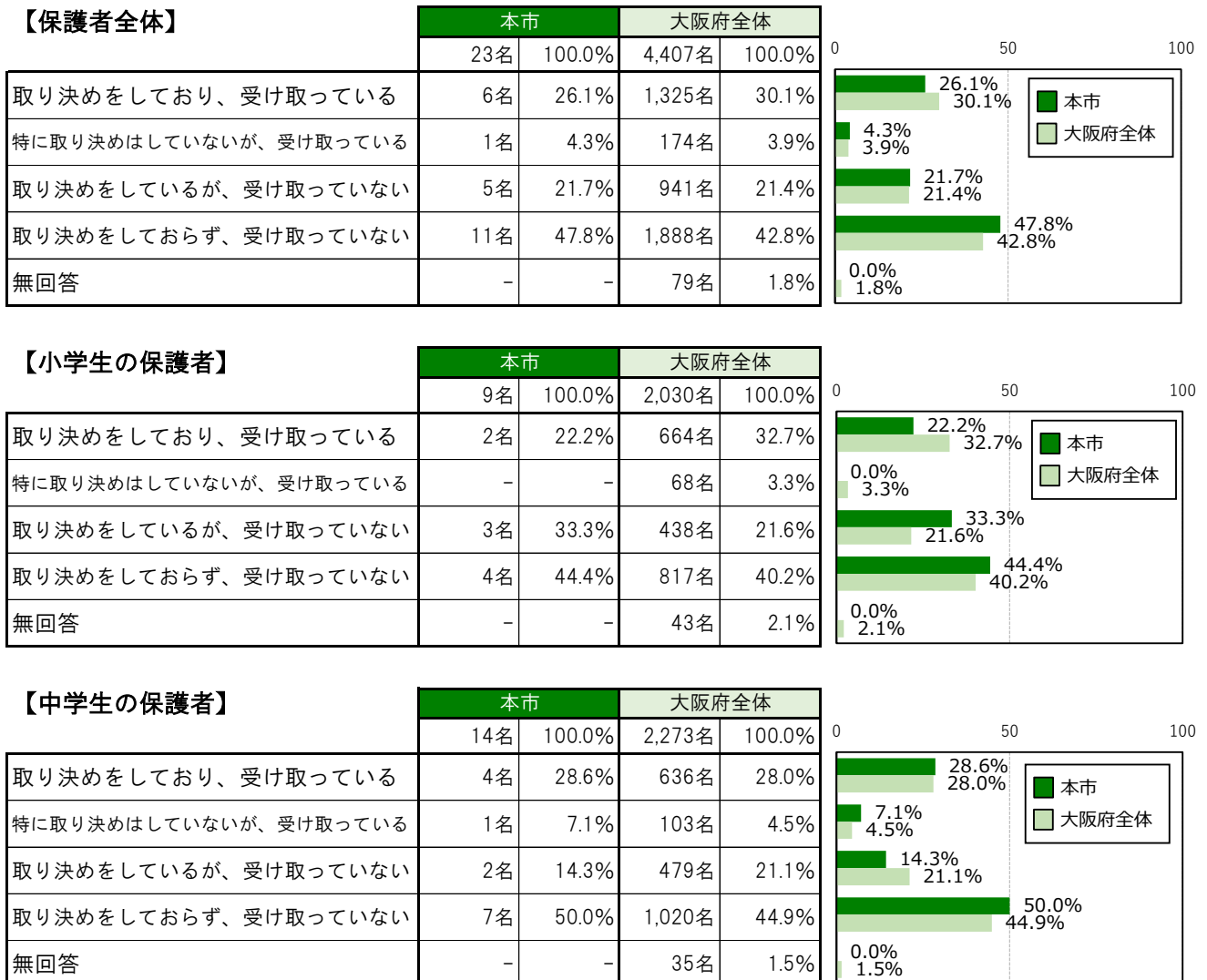
世帯の状況について

問4 離婚相手との養育費の取り決めや受け取り

保護者全体は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が47.8%で最も多く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」が26.1%、「取り決めをしているが、受け取っていない」が21.7%となっている。

小学生の保護者は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が44.4%で最も多く、次いで「取り決めをしているが、受け取っていない」が33.3%となっている。

中学生の保護者は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が50.0%で最も多く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」が28.6%、「取り決めをしているが、受け取っていない」が14.3%となっている。



世帯の状況について

問5 住居形態

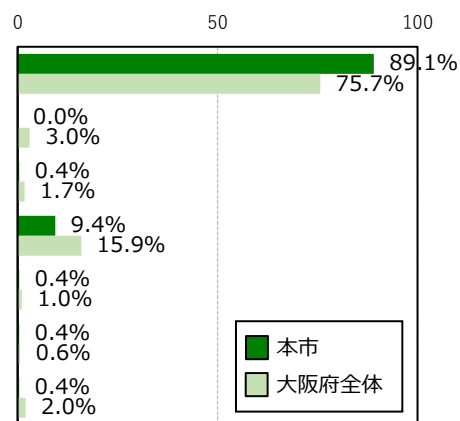
保護者全体は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が89.1%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が9.4%となっている。

小学生の保護者は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が88.1%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が10.2%となっている。

中学生の保護者は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が89.9%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が8.4%となっている。

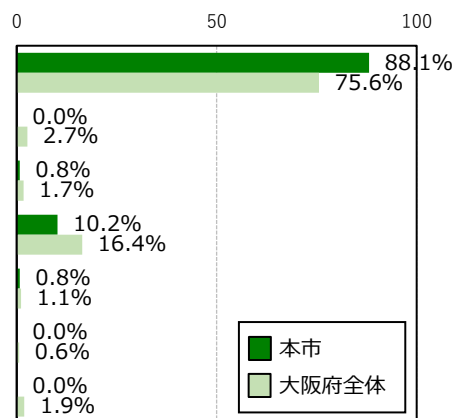
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,300名	100.0%
持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	238名	89.1%	32,784名	75.7%
府営・市営の住宅	-	-	1,316名	3.0%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	1名	0.4%	752名	1.7%
民間の賃貸住宅	25名	9.4%	6,890名	15.9%
官舎・社宅	1名	0.4%	438名	1.0%
その他	1名	0.4%	257名	0.6%
無回答	1名	0.4%	863名	2.0%



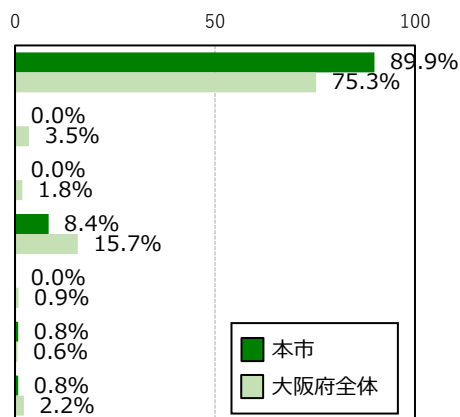
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,786名	100.0%
持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	104名	88.1%	17,221名	75.6%
府営・市営の住宅	-	-	620名	2.7%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	1名	0.8%	386名	1.7%
民間の賃貸住宅	12名	10.2%	3,738名	16.4%
官舎・社宅	1名	0.8%	255名	1.1%
その他	-	-	129名	0.6%
無回答	-	-	437名	1.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,365名	100.0%
持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	107名	89.9%	14,585名	75.3%
府営・市営の住宅	-	-	676名	3.5%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	-	-	356名	1.8%
民間の賃貸住宅	10名	8.4%	3,036名	15.7%
官舎・社宅	-	-	171名	0.9%
その他	1名	0.8%	121名	0.6%
無回答	1名	0.8%	420名	2.2%



世帯の状況について

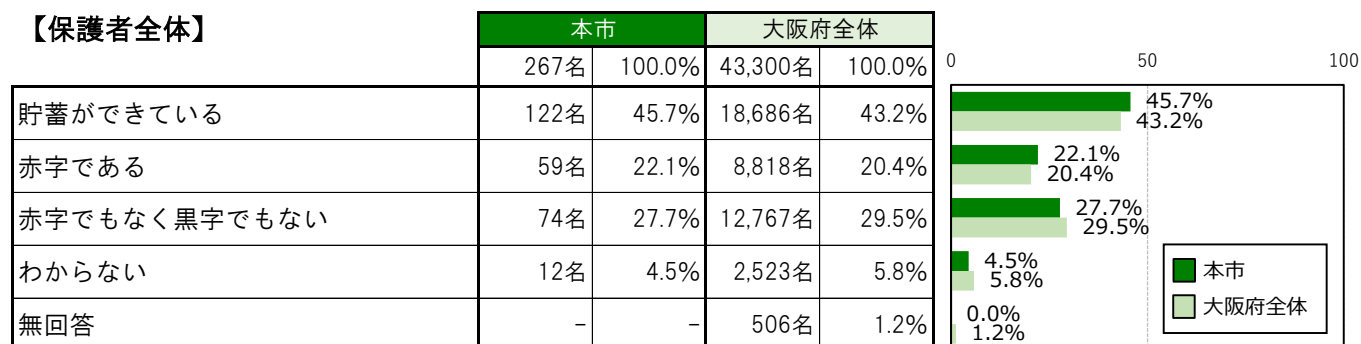
問6（1）家計の状況

保護者全体は、「貯蓄ができています」が45.7%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が27.7%となっている。

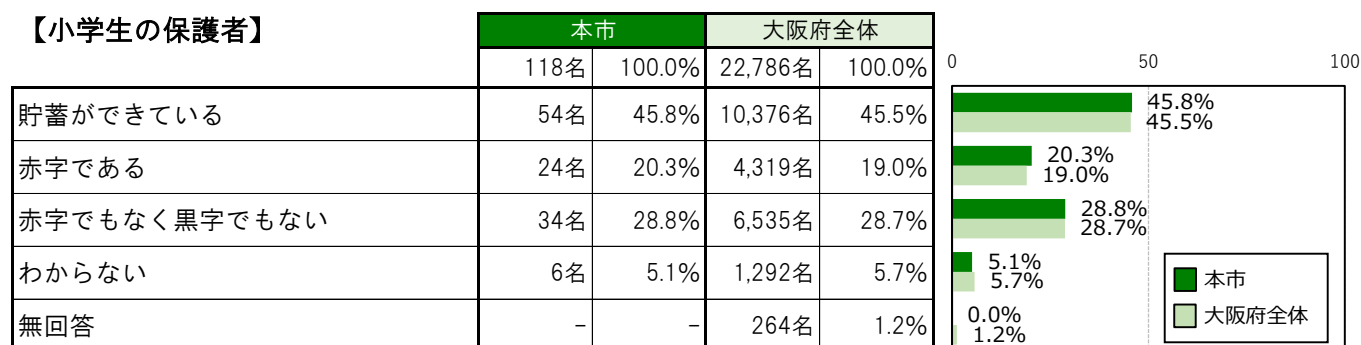
小学生の保護者は、「貯蓄ができています」が45.8%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が28.8%となっている。

中学生の保護者は、「貯蓄ができています」が42.0%で最も多く、次いで「赤字である」、「赤字でもなく黒字でもない」がそれぞれ26.9%となっている。

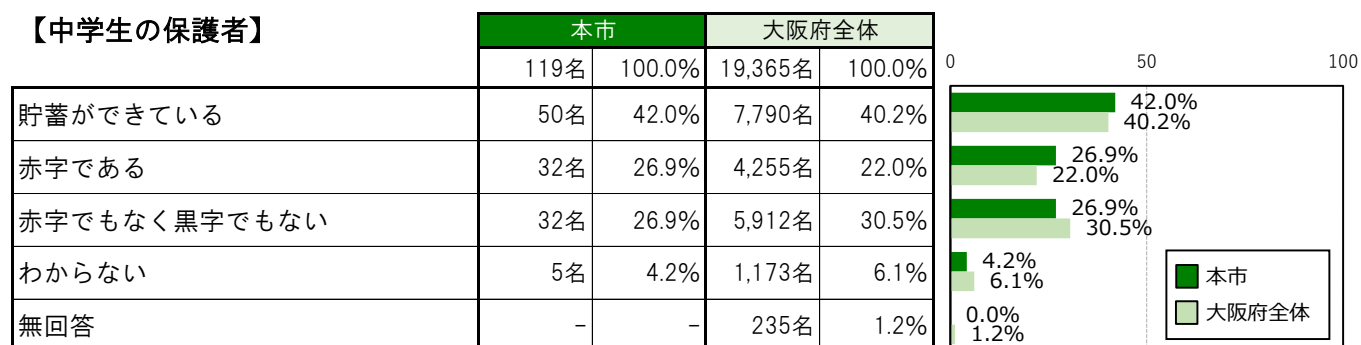
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問6（2）子どもの将来のための貯蓄状況

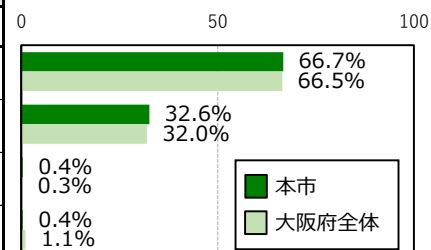
保護者全体は、「貯蓄をしている」が66.7%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が32.6%となっている。

小学生の保護者は、「貯蓄をしている」が69.5%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が29.7%となっている。

中学生の保護者は、「貯蓄をしている」が61.3%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が37.8%となっている。

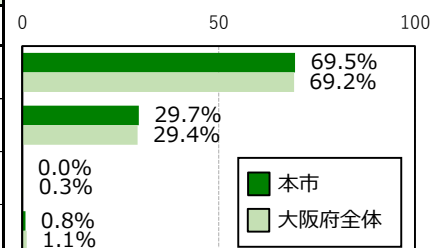
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
貯蓄をしている	178名	66.7%	28,802名	66.5%
貯蓄をしたいが、できていない	87名	32.6%	13,877名	32.0%
貯蓄をするつもりはない	1名	0.4%	138名	0.3%
無回答	1名	0.4%	483名	1.1%



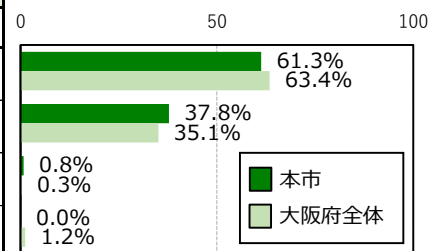
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
貯蓄をしている	82名	69.5%	15,765名	69.2%
貯蓄をしたいが、できていない	35名	29.7%	6,698名	29.4%
貯蓄をするつもりはない	-	-	74名	0.3%
無回答	1名	0.8%	249名	1.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
貯蓄をしている	73名	61.3%	12,277名	63.4%
貯蓄をしたいが、できていない	45名	37.8%	6,798名	35.1%
貯蓄をするつもりはない	1名	0.8%	63名	0.3%
無回答	-	-	227名	1.2%



世帯の状況について

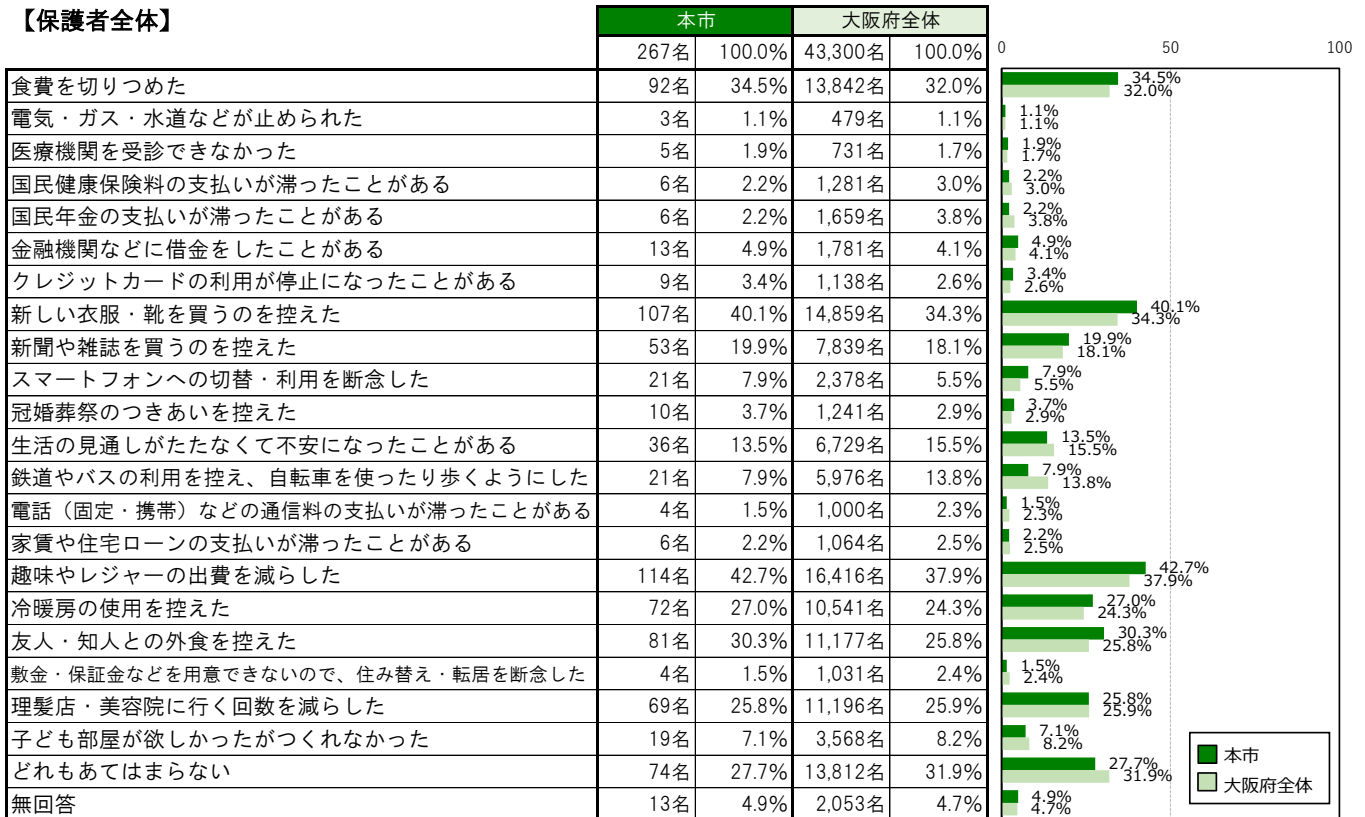
問7 経済的な理由による経験

保護者全体は、「趣味やレジャーの出費を減らした」が42.7%で最も多く、次いで「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が40.1%、「食費を切りつめた」が34.5%、「友人・知人との外食を控えた」が30.3%となっている。

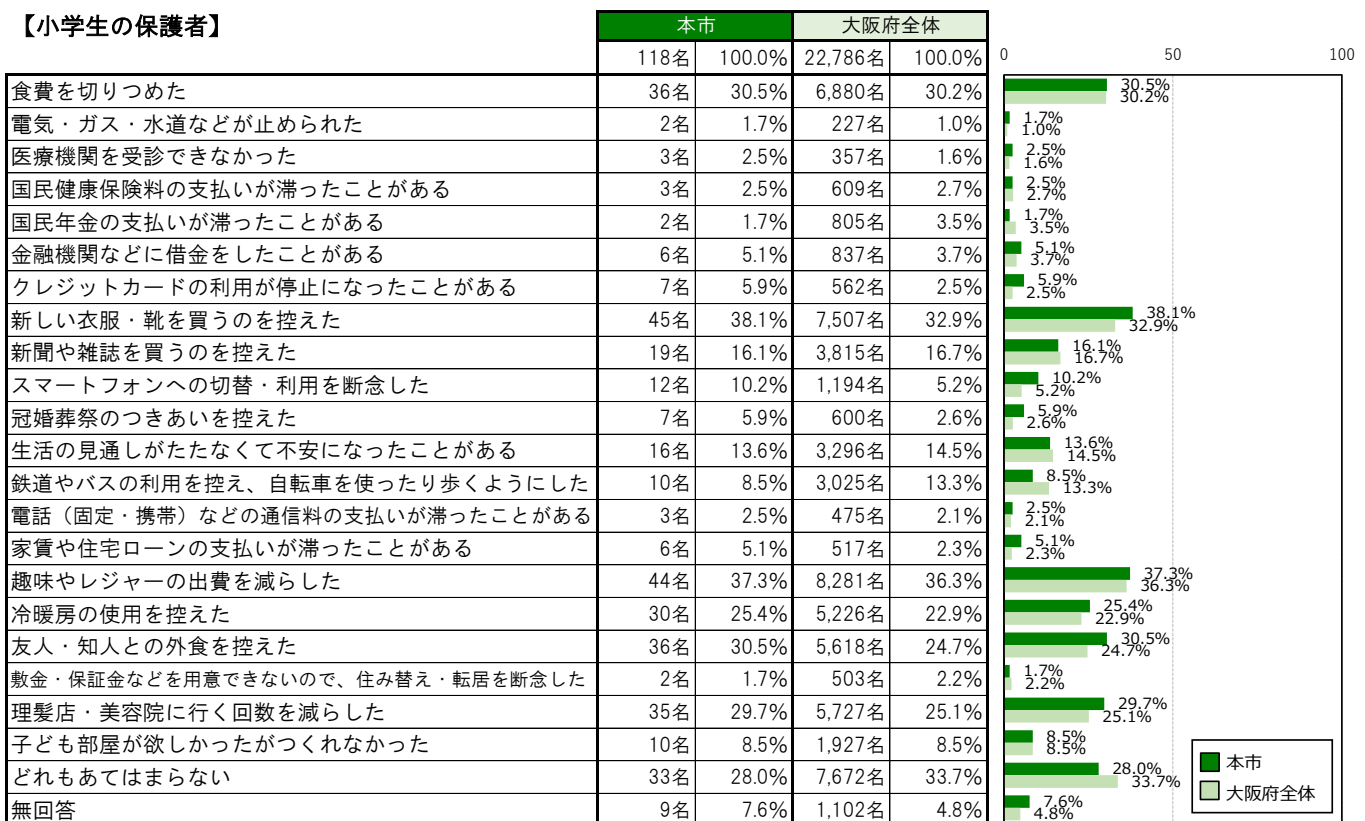
小学生の保護者は、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が38.1%で最も多く、次いで「趣味やレジャーの出費を減らした」が37.3%、「食費を切りつめた」、「友人・知人との外食を控えた」がそれぞれ30.5%、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」が29.7%となっている。

中学生の保護者は、「趣味やレジャーの出費を減らした」が47.9%で最も多く、次いで「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が45.4%、「食費を切りつめた」が41.2%、「友人・知人との外食を控えた」が32.8%となっている。

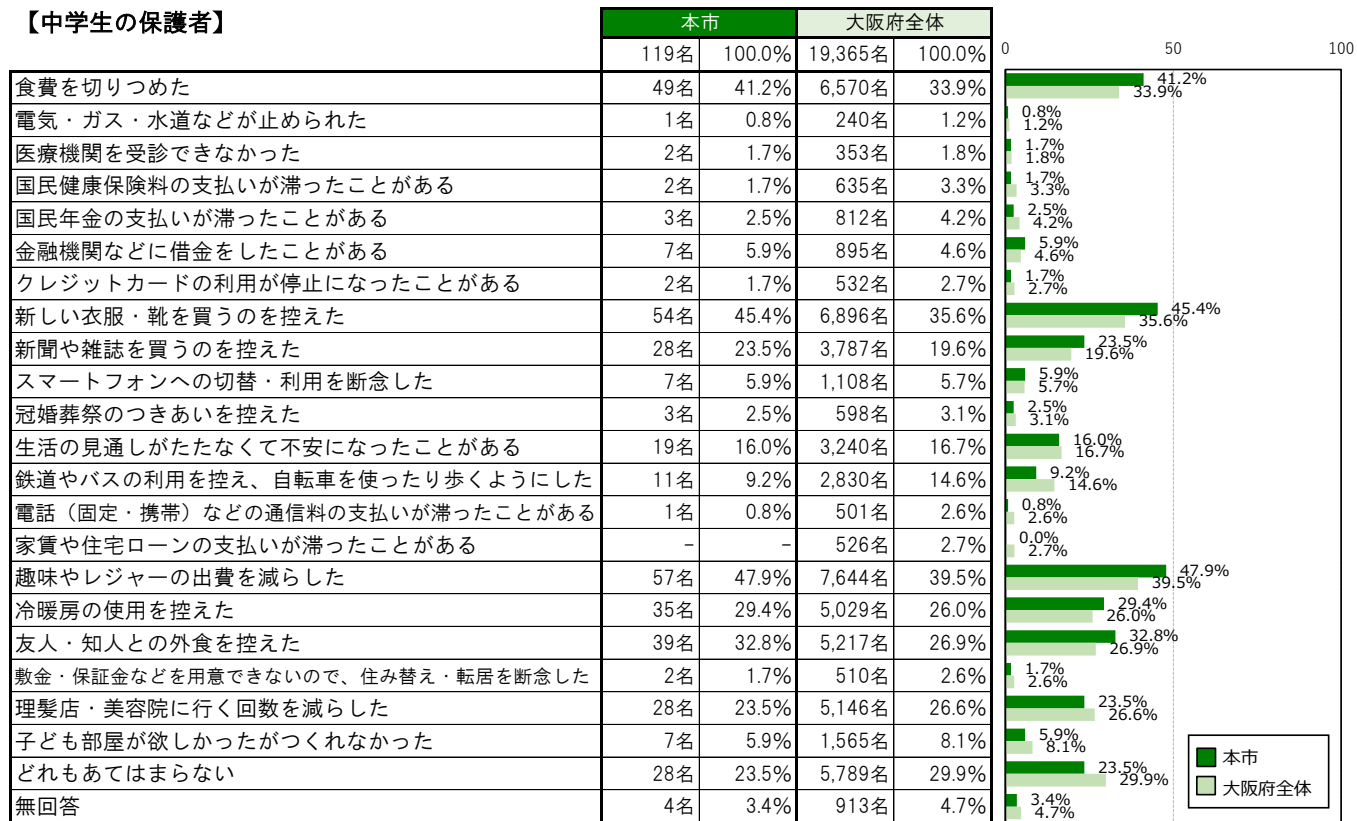
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問7 経済的な理由による経験（はく奪指標）

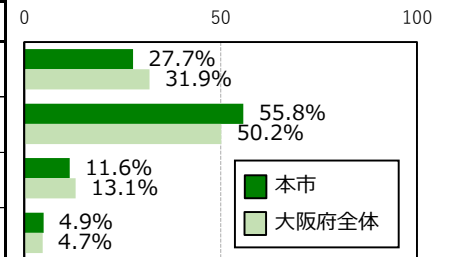
経済的な理由による経験について、はく奪指標でみると、保護者全体は、「1～6個に該当」が55.8%で最も多く、次いで「該当なし」が27.7%、「7個以上に該当」が11.6%となっている。

小学生の保護者は、「1～6個に該当」が51.7%で最も多く、次いで「該当なし」が28.0%、「7個以上に該当」が12.7%となっている。

中学生の保護者は、「1～6個に該当」が60.5%で最も多く、次いで「該当なし」が23.5%、「7個以上に該当」が12.6%となっている。

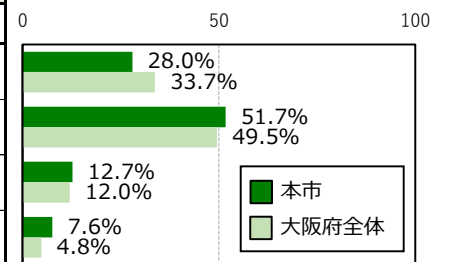
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,300名	100.0%
該当なし	74名	27.7%	13,812名	31.9%
1～6個に該当	149名	55.8%	21,747名	50.2%
7個以上に該当	31名	11.6%	5,688名	13.1%
無回答	13名	4.9%	2,053名	4.7%



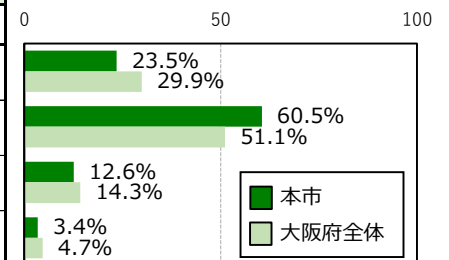
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,786名	100.0%
該当なし	33名	28.0%	7,672名	33.7%
1～6個に該当	61名	51.7%	11,270名	49.5%
7個以上に該当	15名	12.7%	2,742名	12.0%
無回答	9名	7.6%	1,102名	4.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,365名	100.0%
該当なし	28名	23.5%	5,789名	29.9%
1～6個に該当	72名	60.5%	9,888名	51.1%
7個以上に該当	15名	12.6%	2,775名	14.3%
無回答	4名	3.4%	913名	4.7%



世帯の状況について

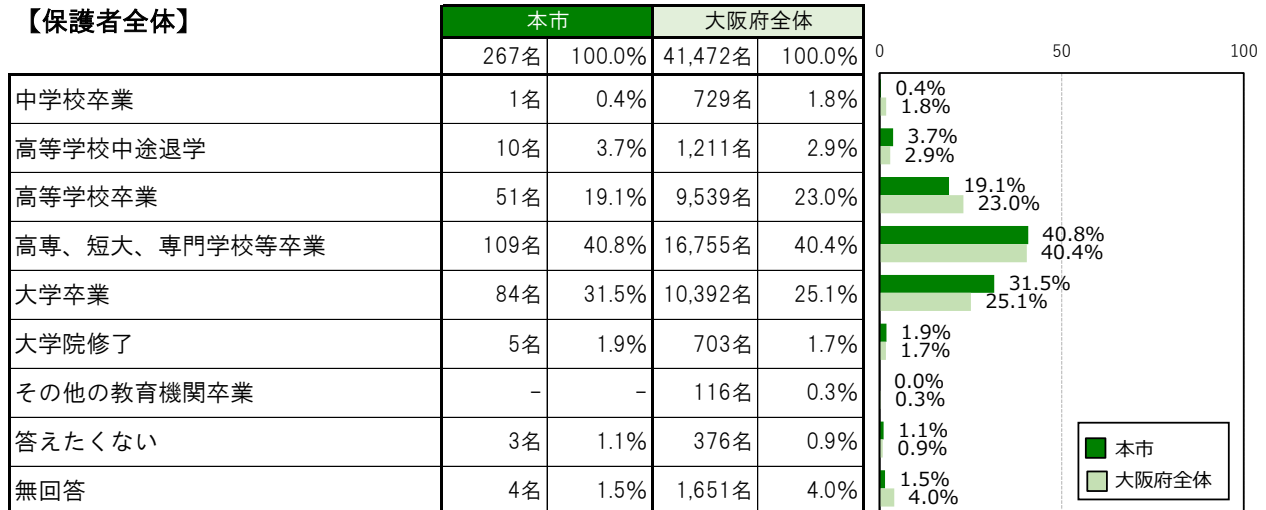
問8 お母さんの最終学歴

保護者全体は、「高専、短大、専門学校等卒業」が40.8%で最も多く、次いで「大学卒業」が31.5%、「高等学校卒業」が19.1%、「高等学校中途退学」が3.7%となっている。

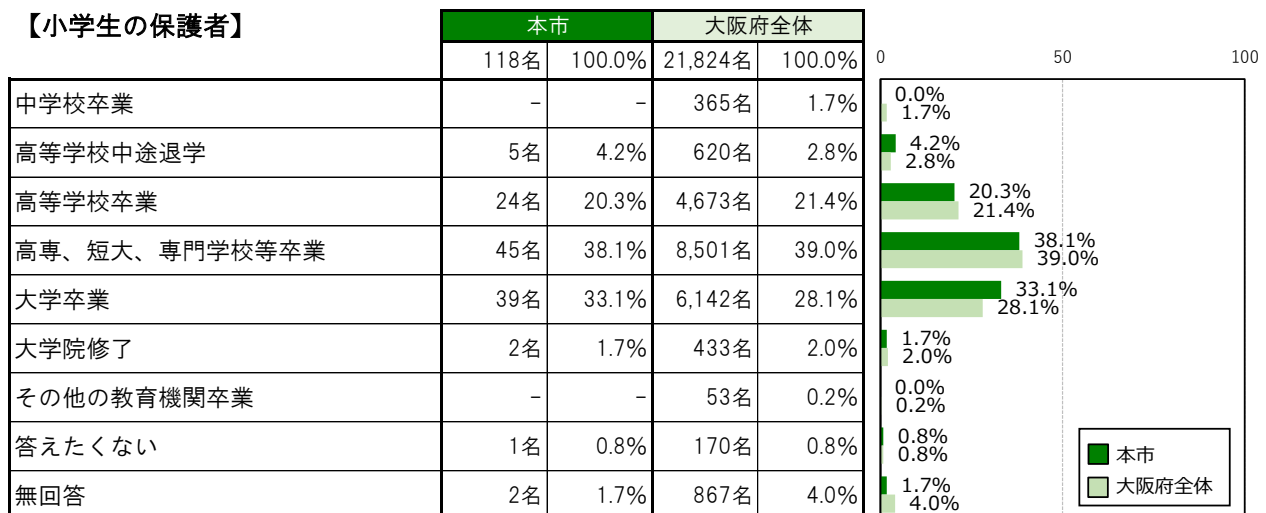
小学生の保護者は、「高専、短大、専門学校等卒業」が38.1%で最も多く、次いで「大学卒業」が33.1%、「高等学校卒業」が20.3%、「高等学校中途退学」が4.2%となっている。

中学生の保護者は、「高専、短大、専門学校等卒業」が42.0%で最も多く、次いで「大学卒業」が27.7%、「高等学校卒業」が19.3%、「高等学校中途退学」が4.2%となっている。

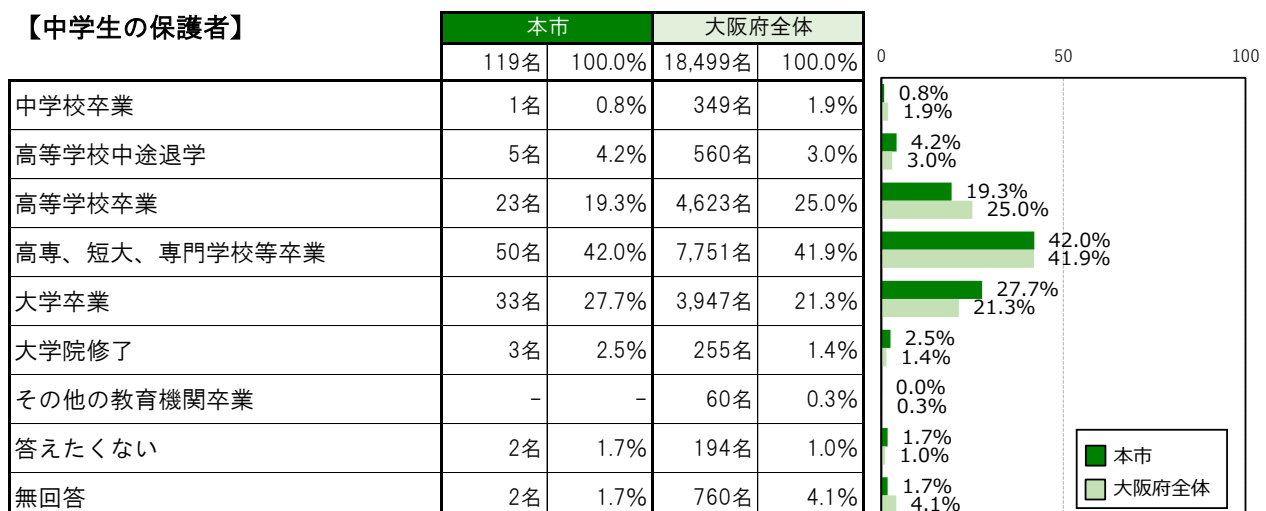
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

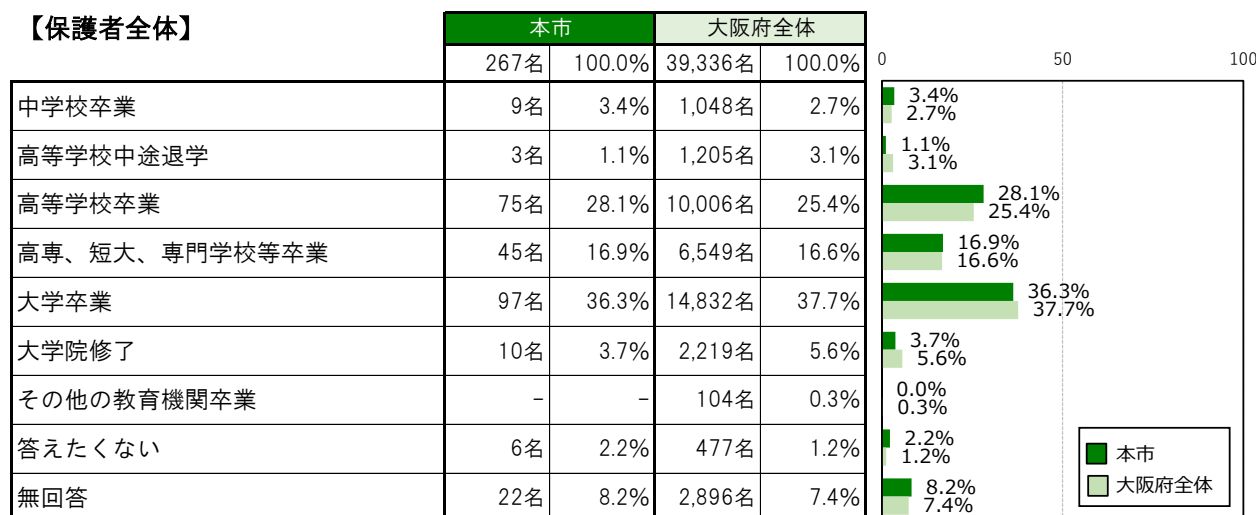
問 8 お父さんの最終学歴

保護者全体は、「大学卒業」が36.3%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が28.1%、「高専、短大、専門学校等卒業」が16.9%、「大学院修了」が3.7%となっている。

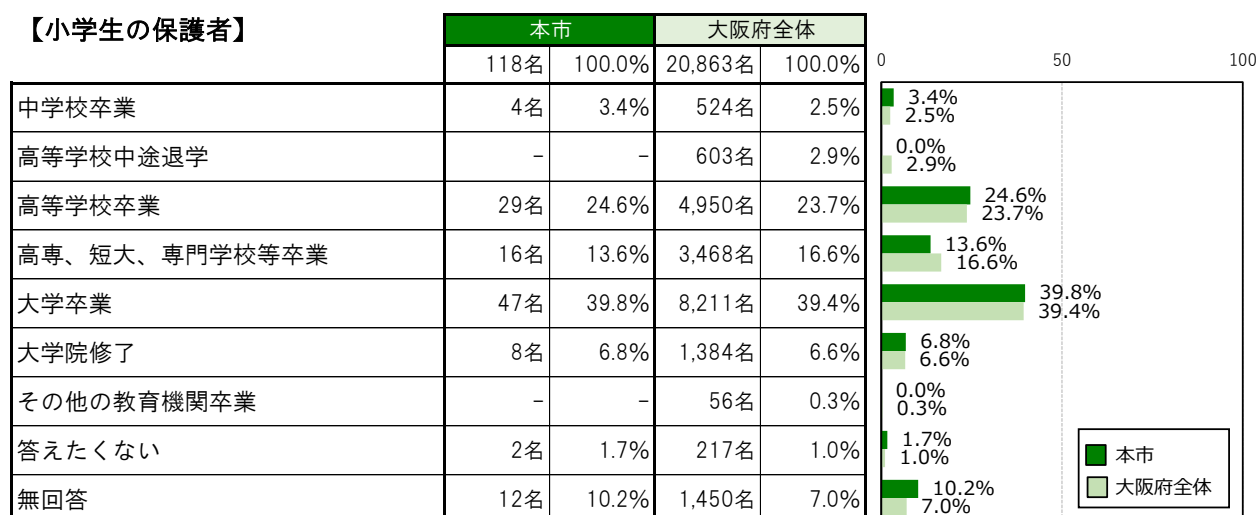
小学生の保護者は、「大学卒業」が39.8%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が24.6%、「高専、短大、専門学校等卒業」が13.6%、「大学院修了」が6.8%となっている。

中学生の保護者は、「高等学校卒業」が30.3%で最も多く、次いで「大学卒業」が29.4%、「高専、短大、専門学校等卒業」が20.2%、「中学校卒業」が4.2%となっている。

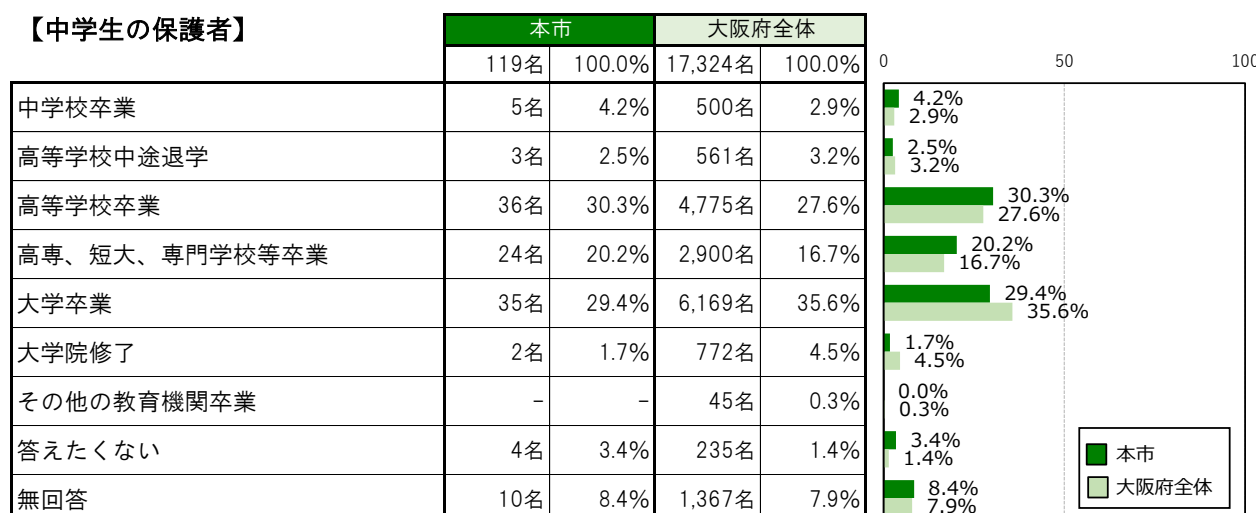
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



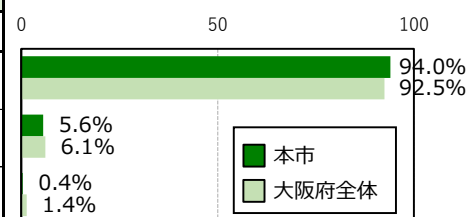
世帯の状況について

問9 お母さんの有無

保護者全体は、「いる」が94.0%、「いない」が5.6%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が95.8%、「いない」が4.2%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が93.3%、「いない」が5.9%となっている。

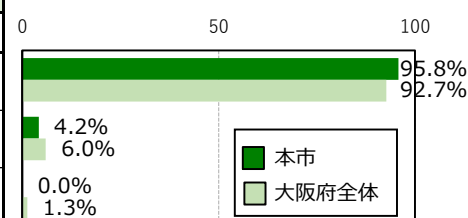
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,300名	100.0%
いる	251名	94.0%	40,053名	92.5%
いない	15名	5.6%	2,634名	6.1%
無回答	1名	0.4%	613名	1.4%



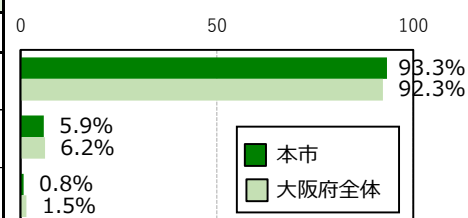
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,786名	100.0%
いる	113名	95.8%	21,115名	92.7%
いない	5名	4.2%	1,368名	6.0%
無回答	-	-	303名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,365名	100.0%
いる	111名	93.3%	17,877名	92.3%
いない	7名	5.9%	1,192名	6.2%
無回答	1名	0.8%	296名	1.5%



世帯の状況について

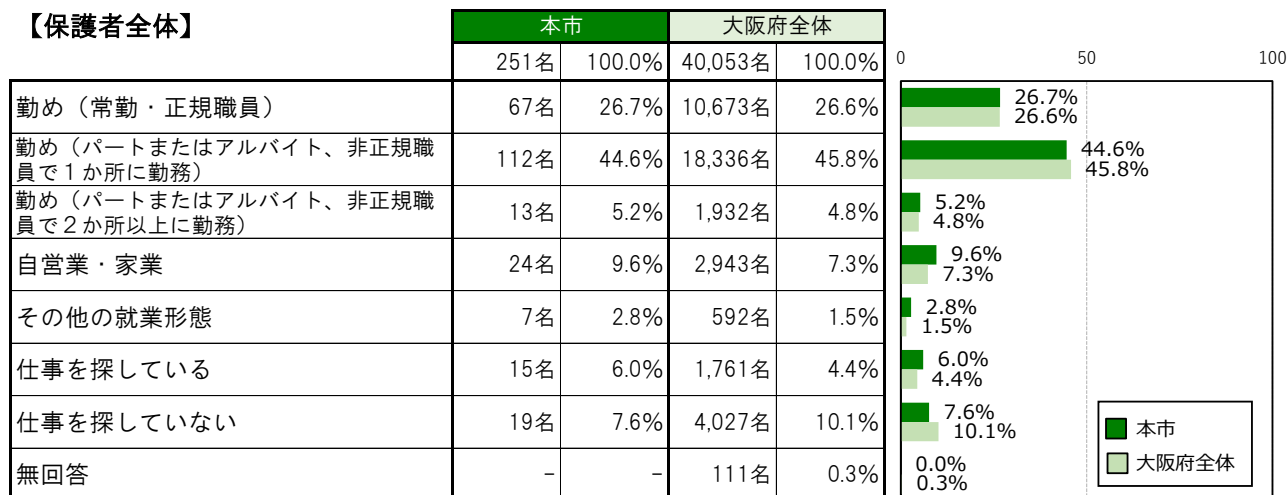
問9 お母さんの就業状況

保護者全体は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が44.6%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が26.7%、「自営業・家業」が9.6%、「仕事を探していない」が7.6%となっている。

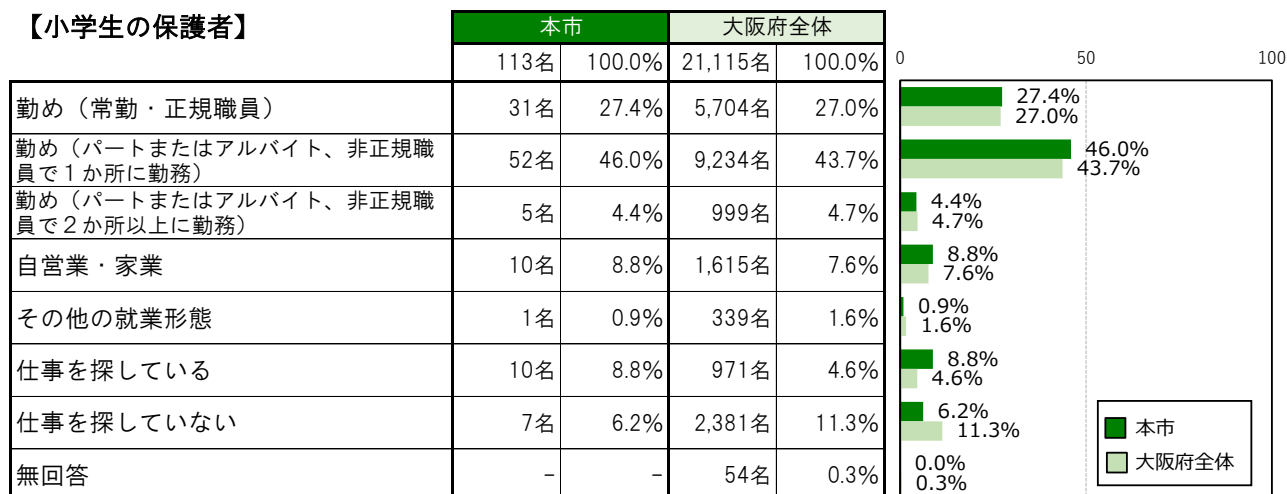
小学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が46.0%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が27.4%、「自営業・家業」、「仕事を探している」がそれぞれ8.8%、「仕事を探していない」が6.2%となっている。

中学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が45.0%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が21.6%、「自営業・家業」が11.7%、「仕事を探していない」が9.9%となっている。

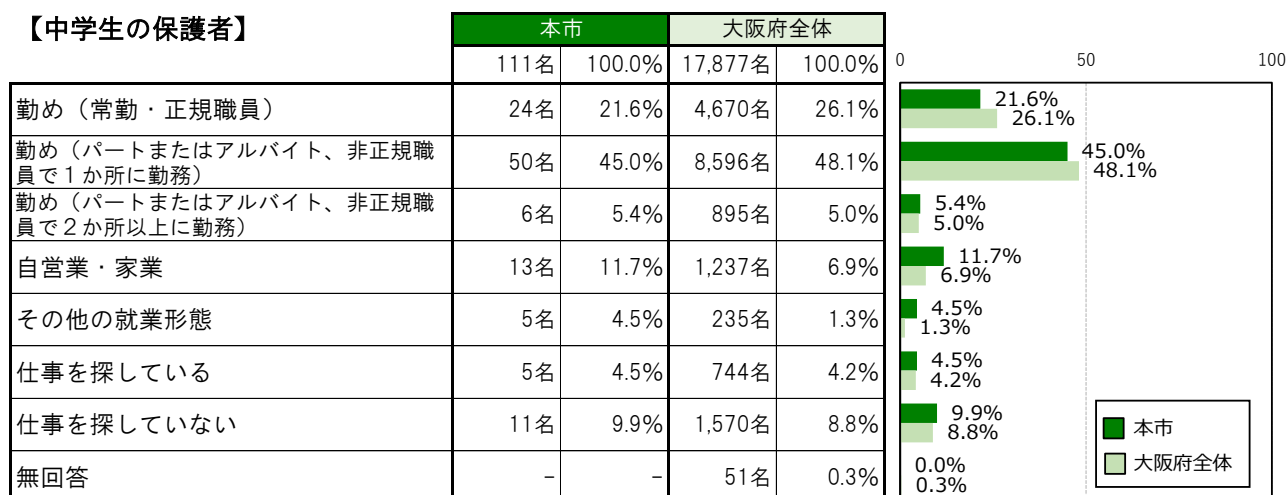
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問9 お母さんが仕事を探していない理由

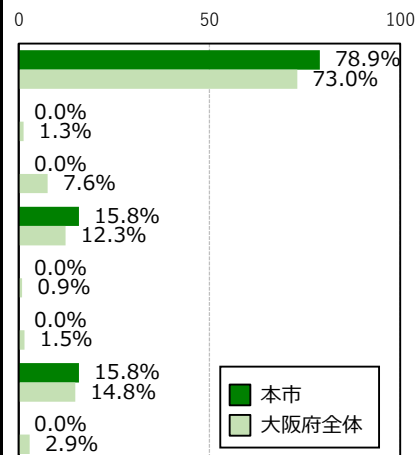
保護者全体は、「家事や育児に専念したいため」が78.9%で最も多く、次いで「病気療養のため」が15.8%となっている。

小学生の保護者は、「家事や育児に専念したいため」が100.0%となっている。

中学生の保護者は、「家事や育児に専念したいため」が63.6%で最も多く、次いで「病気療養のため」が27.3%となっている。

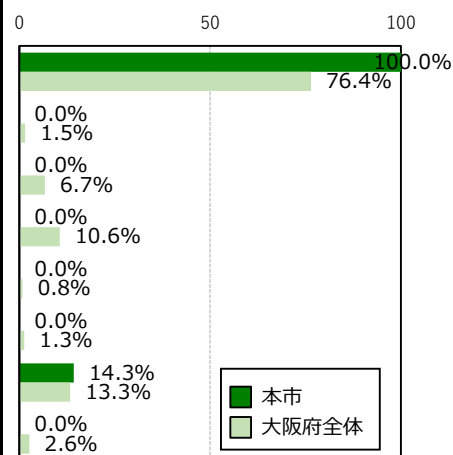
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	19名	100.0%	4,027名	100.0%
家事や育児に専念したいため	15名	78.9%	2,939名	73.0%
学生のため	-	-	51名	1.3%
おうちの人の介護や介助のため	-	-	307名	7.6%
病気療養のため	3名	15.8%	496名	12.3%
年金収入があるため	-	-	35名	0.9%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	-	-	62名	1.5%
その他	3名	15.8%	595名	14.8%
無回答	-	-	115名	2.9%



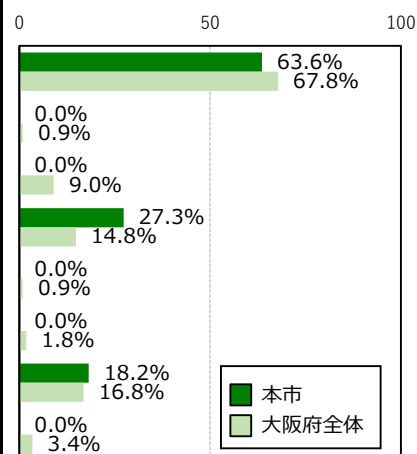
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	7名	100.0%	2,381名	100.0%
家事や育児に専念したいため	7名	100.0%	1,820名	76.4%
学生のため	-	-	36名	1.5%
おうちの人の介護や介助のため	-	-	160名	6.7%
病気療養のため	-	-	252名	10.6%
年金収入があるため	-	-	20名	0.8%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	-	-	32名	1.3%
その他	1名	14.3%	317名	13.3%
無回答	-	-	61名	2.6%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	11名	100.0%	1,570名	100.0%
家事や育児に専念したいため	7名	63.6%	1,064名	67.8%
学生のため	-	-	14名	0.9%
おうちの人の介護や介助のため	-	-	141名	9.0%
病気療養のため	3名	27.3%	232名	14.8%
年金収入があるため	-	-	14名	0.9%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	-	-	29名	1.8%
その他	2名	18.2%	263名	16.8%
無回答	-	-	54名	3.4%



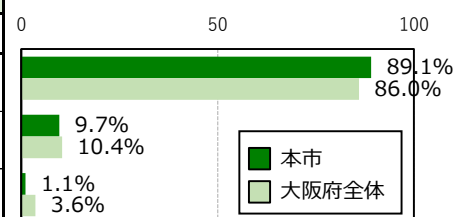
世帯の状況について

問9 お父さんの有無

保護者全体は、「いる」が89.1%、「いない」が9.7%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が89.0%、「いない」が10.2%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が86.6%、「いない」が11.8%となっている。

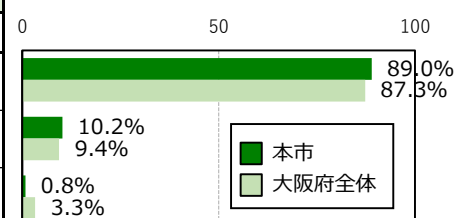
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,300名	100.0%
いる	238名	89.1%	37,256名	86.0%
いない	26名	9.7%	4,504名	10.4%
無回答	3名	1.1%	1,540名	3.6%



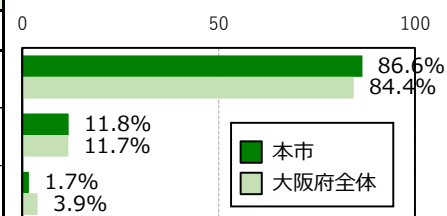
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,786名	100.0%
いる	105名	89.0%	19,882名	87.3%
いない	12名	10.2%	2,149名	9.4%
無回答	1名	0.8%	755名	3.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,365名	100.0%
いる	103名	86.6%	16,352名	84.4%
いない	14名	11.8%	2,261名	11.7%
無回答	2名	1.7%	752名	3.9%



世帯の状況について

問9 お父さんの就業状況

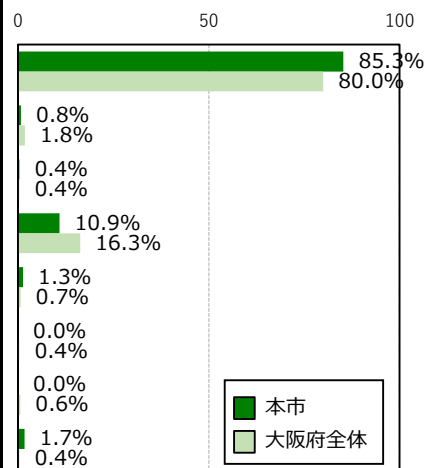
保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」が85.3%で最も多く、次いで「自営業・家業」が10.9%、「その他の就業形態」が1.3%となっている。

小学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が87.6%で最も多く、次いで「自営業・家業」が9.5%となっている。

中学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が80.6%で最も多く、次いで「自営業・家業」が14.6%、「その他の就業形態」が1.9%となっている。

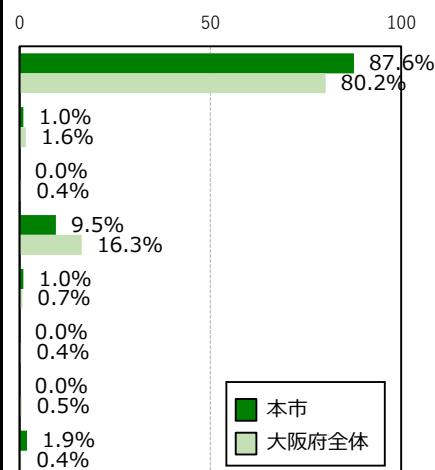
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	238名	100.0%	37,256名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	203名	85.3%	29,790名	80.0%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	2名	0.8%	660名	1.8%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	1名	0.4%	161名	0.4%
自営業・家業	26名	10.9%	6,063名	16.3%
その他の就業形態	3名	1.3%	258名	0.7%
仕事を探している	-	-	154名	0.4%
仕事を探していない	-	-	206名	0.6%
無回答	4名	1.7%	163名	0.4%



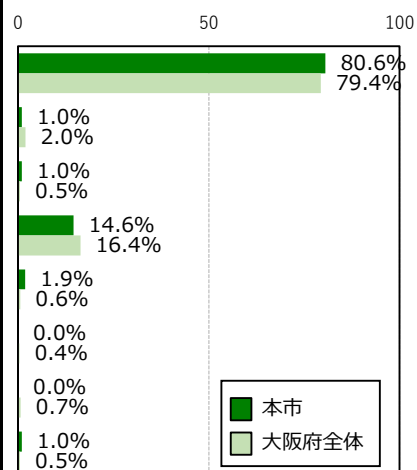
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	105名	100.0%	19,882名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	92名	87.6%	15,955名	80.2%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	1名	1.0%	324名	1.6%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	-	-	80名	0.4%
自営業・家業	10名	9.5%	3,232名	16.3%
その他の就業形態	1名	1.0%	143名	0.7%
仕事を探している	-	-	80名	0.4%
仕事を探していない	-	-	95名	0.5%
無回答	2名	1.9%	77名	0.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	103名	100.0%	16,352名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	83名	80.6%	12,988名	79.4%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	1名	1.0%	323名	2.0%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	1名	1.0%	79名	0.5%
自営業・家業	15名	14.6%	2,675名	16.4%
その他の就業形態	2名	1.9%	106名	0.6%
仕事を探している	-	-	72名	0.4%
仕事を探していない	-	-	109名	0.7%
無回答	1名	1.0%	82名	0.5%



世帯の状況について

問9 お父さんが仕事を探していない理由

保護者全体、小学生の保護者、中学生の保護者で回答者はいなかった。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



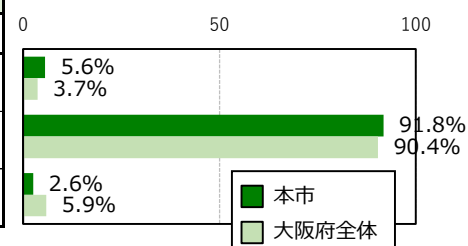
世帯の状況について

問9 親以外に主として家計を支えている人の有無

保護者全体は、「いる」が5.6%、「いない」が91.8%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が5.1%、「いない」が92.4%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が5.9%、「いない」が91.6%となっている。

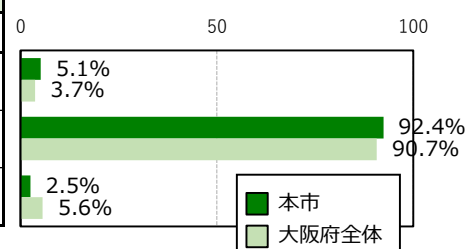
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,300名	100.0%
いる	15名	5.6%	1,611名	3.7%
いない	245名	91.8%	39,140名	90.4%
無回答	7名	2.6%	2,549名	5.9%



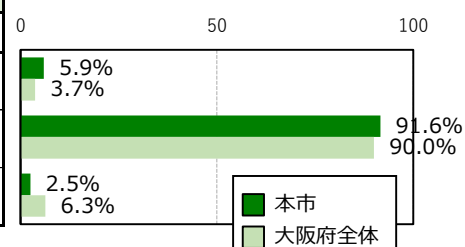
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,786名	100.0%
いる	6名	5.1%	854名	3.7%
いない	109名	92.4%	20,666名	90.7%
無回答	3名	2.5%	1,266名	5.6%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,365名	100.0%
いる	7名	5.9%	718名	3.7%
いない	109名	91.6%	17,432名	90.0%
無回答	3名	2.5%	1,215名	6.3%



世帯の状況について

問9 親以外に主として家計を支えている人の就業状況

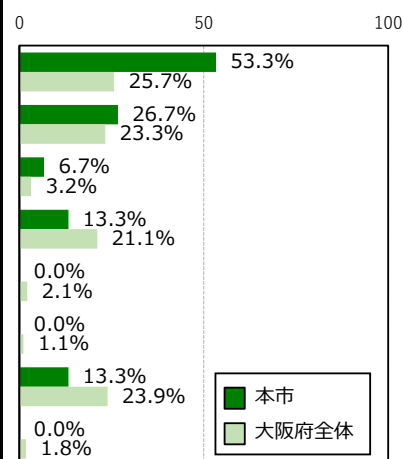
保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」が53.3%で最も多く、次いで「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が26.7%、「自営業・家業」、「仕事を探していない」がそれぞれ13.3%となっている。

小学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が66.7%で最も多く、次いで「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）」がそれぞれ16.7%となっている。

中学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が57.1%で最も多く、次いで「自営業・家業」、「仕事を探していない」がそれぞれ28.6%となっている。

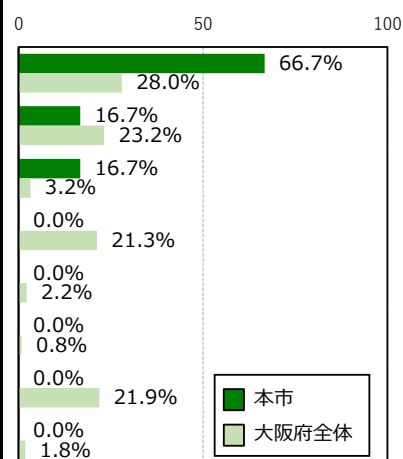
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	15名	100.0%	1,611名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	8名	53.3%	414名	25.7%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	4名	26.7%	375名	23.3%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	1名	6.7%	51名	3.2%
自営業・家業	2名	13.3%	340名	21.1%
その他の就業形態	-	-	34名	2.1%
仕事を探している	-	-	18名	1.1%
仕事を探していない	2名	13.3%	385名	23.9%
無回答	-	-	29名	1.8%



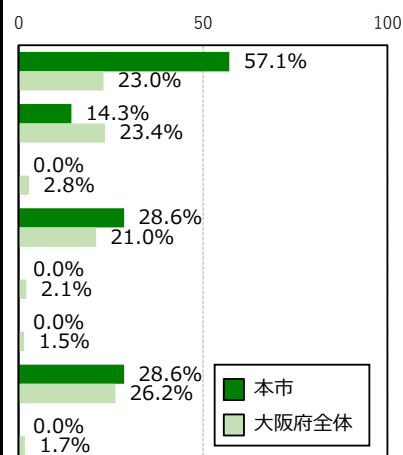
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	6名	100.0%	854名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	4名	66.7%	239名	28.0%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	1名	16.7%	198名	23.2%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	1名	16.7%	27名	3.2%
自営業・家業	-	-	182名	21.3%
その他の就業形態	-	-	19名	2.2%
仕事を探している	-	-	7名	0.8%
仕事を探していない	-	-	187名	21.9%
無回答	-	-	15名	1.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	7名	100.0%	718名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	4名	57.1%	165名	23.0%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	1名	14.3%	168名	23.4%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	-	-	20名	2.8%
自営業・家業	2名	28.6%	151名	21.0%
その他の就業形態	-	-	15名	2.1%
仕事を探している	-	-	11名	1.5%
仕事を探していない	2名	28.6%	188名	26.2%
無回答	-	-	12名	1.7%



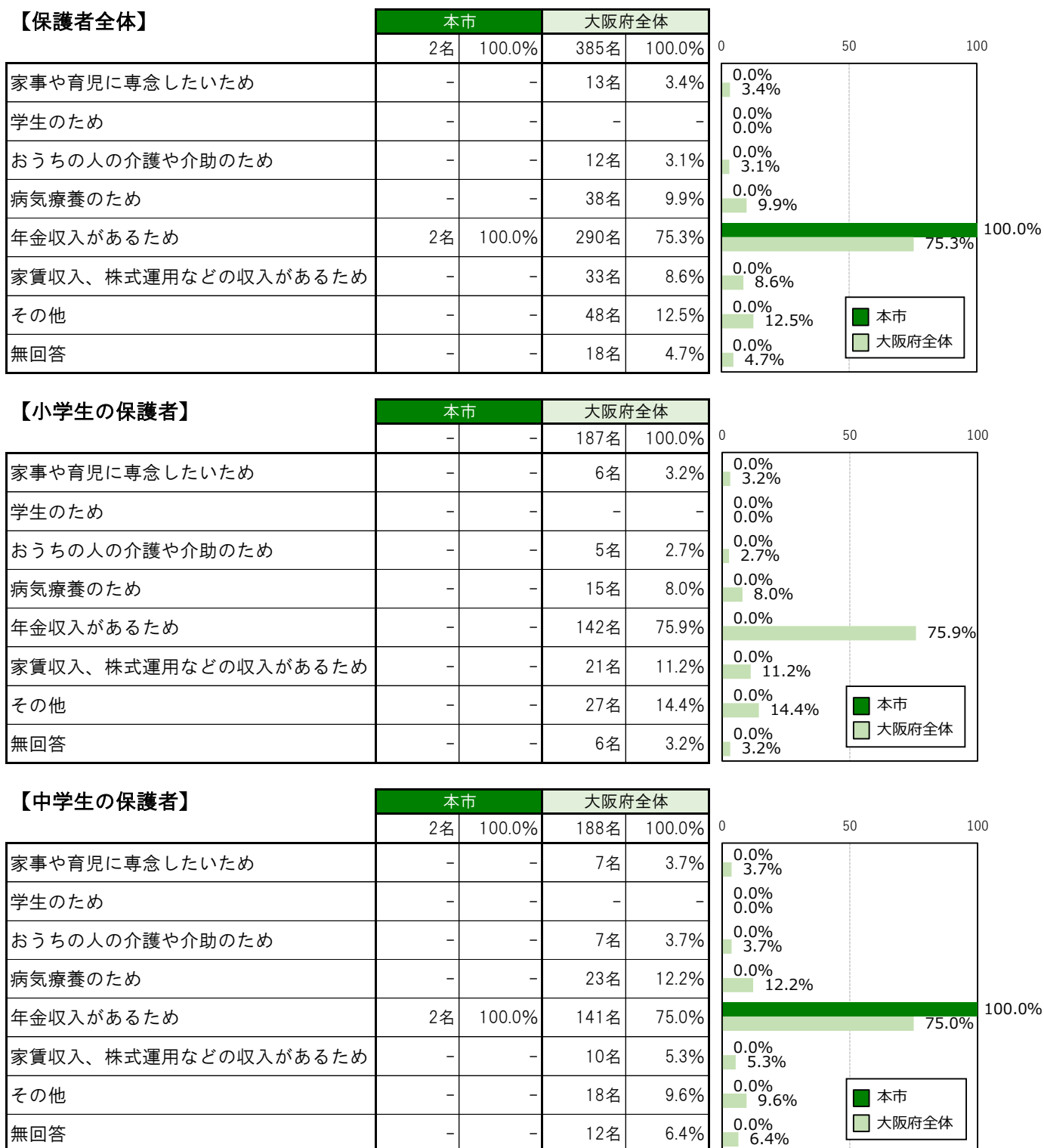
世帯の状況について

問9 親以外に主として家計を支えている人が仕事を探していない理由

保護者全体は、「年金収入があるため」が100.0%（2名）となっている。

小学生の保護者で回答者はいなかった。

中学生の保護者は、「年金収入があるため」が100.0%（2名）となっている。



世帯の状況について

問10 保護者が家にいる時間帯

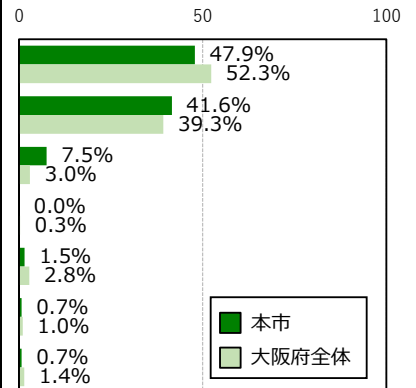
保護者全体は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が47.9%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が41.6%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が7.5%となっている。

小学生の保護者は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が50.8%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が39.8%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が5.1%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が47.1%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が42.9%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が8.4%となっている。

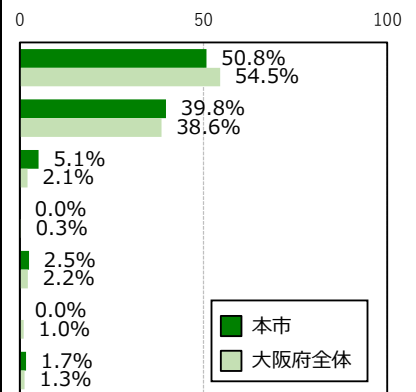
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,300名	100.0%
お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	128名	47.9%	22,638名	52.3%
お子さんの夕食時間には家にいる	111名	41.6%	17,029名	39.3%
お子さんの寝る時間には家にいる	20名	7.5%	1,283名	3.0%
お子さんが寝た後に帰ってくる	-	-	129名	0.3%
帰宅時間が決まっていない	4名	1.5%	1,212名	2.8%
その他	2名	0.7%	416名	1.0%
無回答	2名	0.7%	593名	1.4%



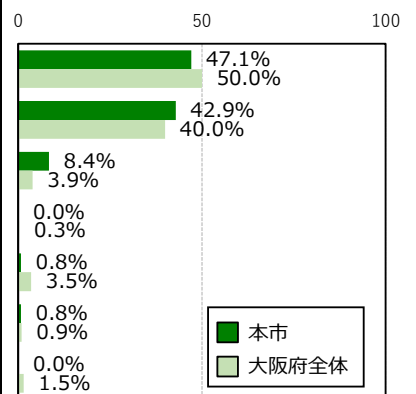
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,786名	100.0%
お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	60名	50.8%	12,408名	54.5%
お子さんの夕食時間には家にいる	47名	39.8%	8,796名	38.6%
お子さんの寝る時間には家にいる	6名	5.1%	489名	2.1%
お子さんが寝た後に帰ってくる	-	-	66名	0.3%
帰宅時間が決まっていない	3名	2.5%	505名	2.2%
その他	-	-	222名	1.0%
無回答	2名	1.7%	300名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,365名	100.0%
お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	56名	47.1%	9,674名	50.0%
お子さんの夕食時間には家にいる	51名	42.9%	7,739名	40.0%
お子さんの寝る時間には家にいる	10名	8.4%	747名	3.9%
お子さんが寝た後に帰ってくる	-	-	61名	0.3%
帰宅時間が決まっていない	1名	0.8%	676名	3.5%
その他	1名	0.8%	182名	0.9%
無回答	-	-	286名	1.5%



世帯の状況について

問11 日本語以外の言語の使用状況

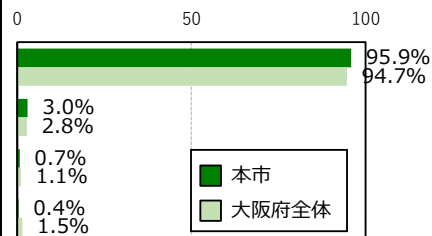
保護者全体は、「日本語のみを使用している」が95.9%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が3.0%となっている。

小学生の保護者は、「日本語のみを使用している」が95.8%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が2.5%となっている。

中学生の保護者は、「日本語のみを使用している」が96.6%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が2.5%となっている。

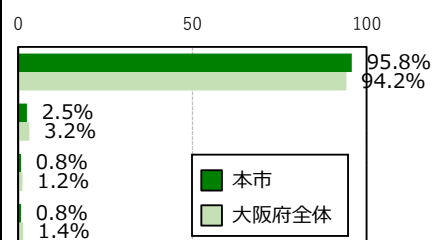
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,300名	100.0%
日本語のみを使用している	256名	95.9%	40,991名	94.7%
日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い	8名	3.0%	1,201名	2.8%
日本語以外の言語を使うことが多い	2名	0.7%	476名	1.1%
無回答	1名	0.4%	632名	1.5%



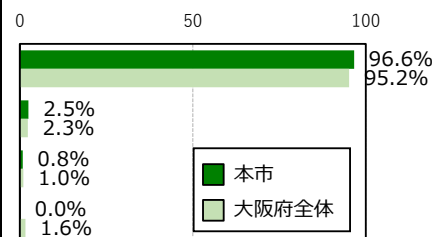
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,786名	100.0%
日本語のみを使用している	113名	95.8%	21,457名	94.2%
日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い	3名	2.5%	729名	3.2%
日本語以外の言語を使うことが多い	1名	0.8%	280名	1.2%
無回答	1名	0.8%	320名	1.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,365名	100.0%
日本語のみを使用している	115名	96.6%	18,426名	95.2%
日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い	3名	2.5%	446名	2.3%
日本語以外の言語を使うことが多い	1名	0.8%	188名	1.0%
無回答	-	-	305名	1.6%



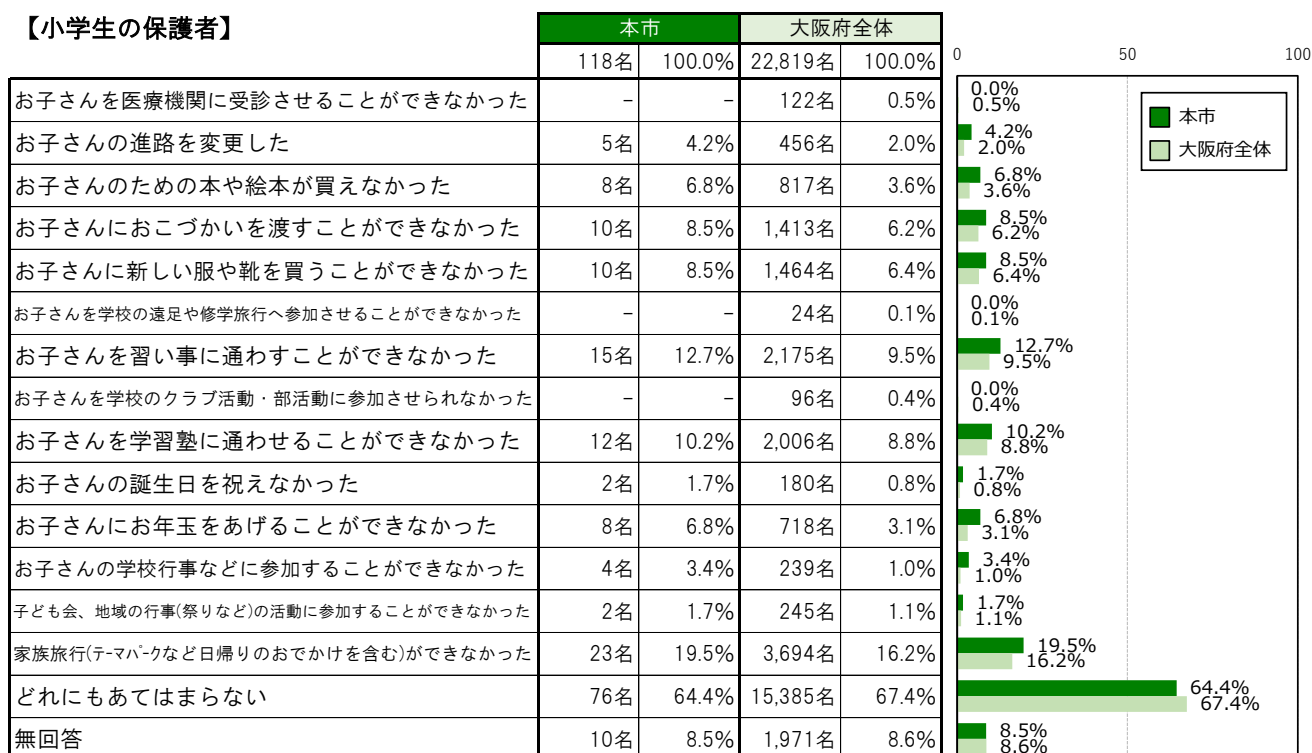
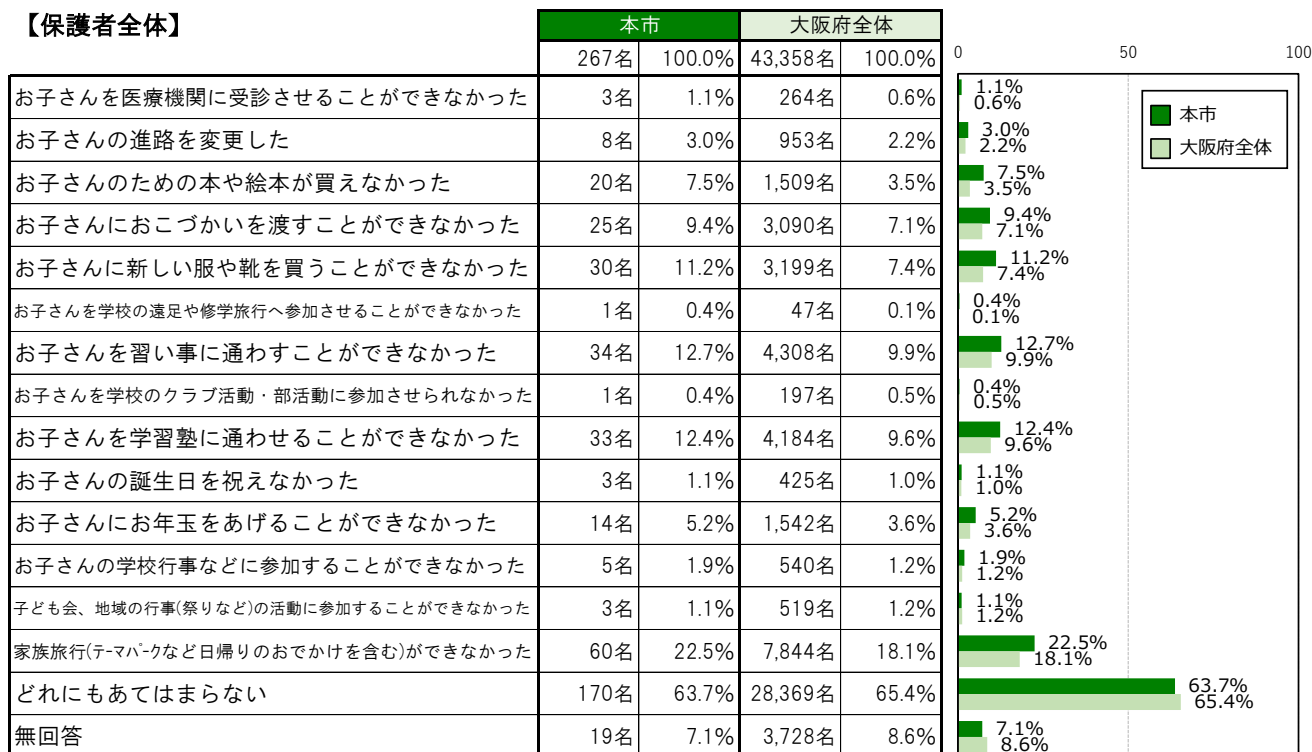
子どもに関することについて

問12 経済的な理由による子どもに関する経験

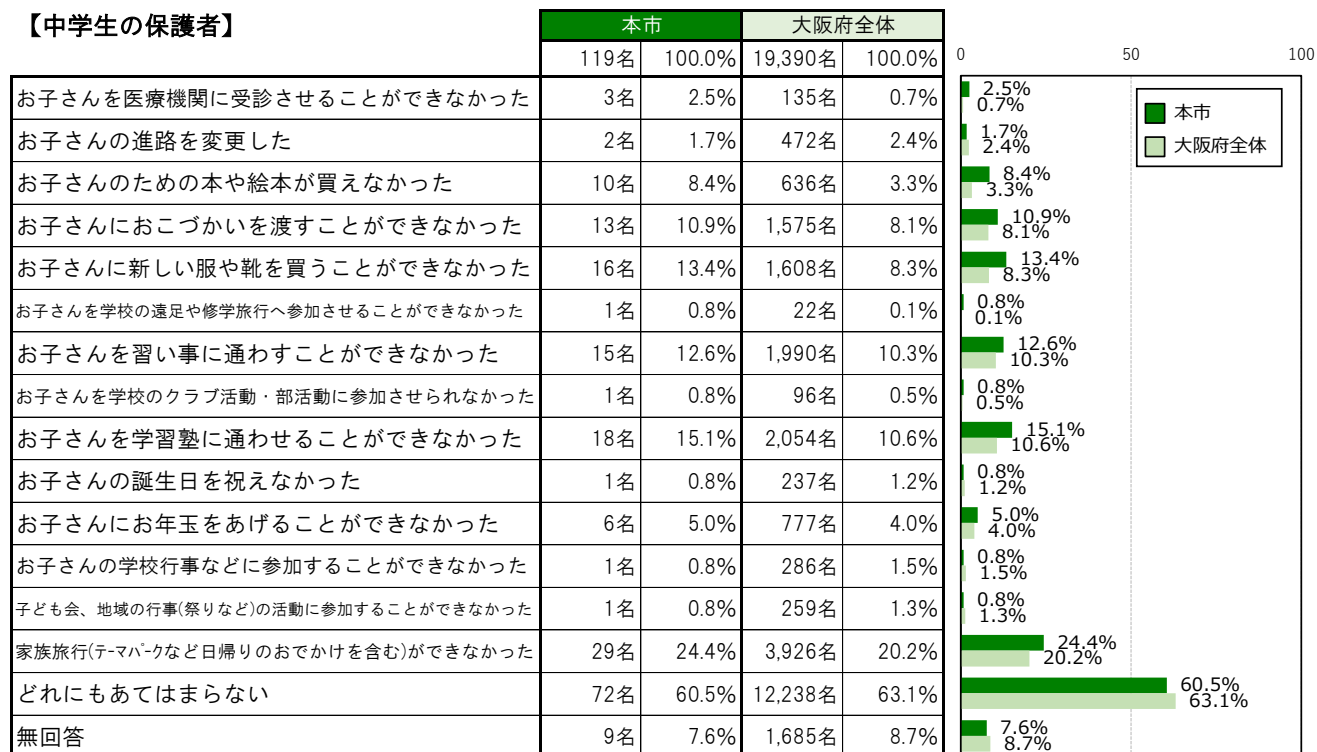
保護者全体は、「どれにもあてはまらない」が63.7%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が22.5%、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」が12.7%、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」が12.4%となっている。

小学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が64.4%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が19.5%、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」が12.7%、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」が10.2%となっている。

中学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が60.5%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が24.4%、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」が15.1%、「お子さんに新しい服や靴を買うことができなかった」が13.4%となっている。



【中学生の保護者】



子どもに関することについて

問13（１）子どもへの信頼度

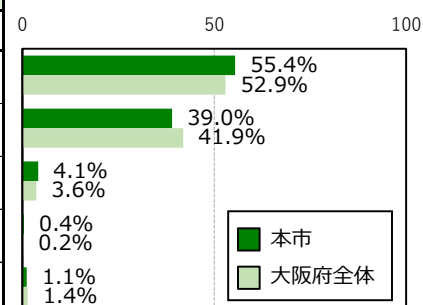
保護者全体は、「とても信頼している」が55.4%で最も多く、次いで「信頼している」が39.0%、「あまり信頼していない」が4.1%となっている。

小学生の保護者は、「とても信頼している」が61.0%で最も多く、次いで「信頼している」が33.1%、「あまり信頼していない」が4.2%となっている。

中学生の保護者は、「とても信頼している」が54.6%で最も多く、次いで「信頼している」が41.2%となっている。

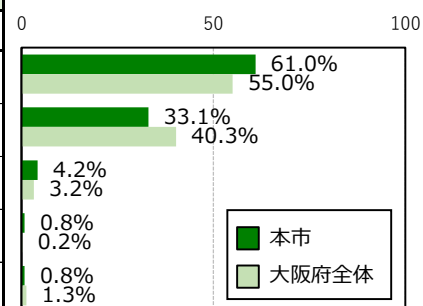
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても信頼している	148名	55.4%	22,948名	52.9%
信頼している	104名	39.0%	18,151名	41.9%
あまり信頼していない	11名	4.1%	1,566名	3.6%
信頼していない	1名	0.4%	101名	0.2%
無回答	3名	1.1%	592名	1.4%



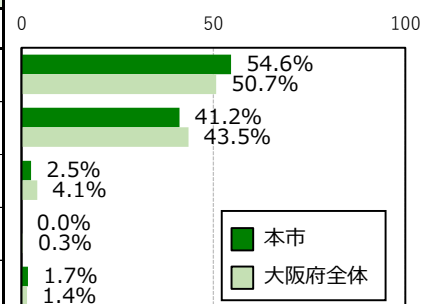
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても信頼している	72名	61.0%	12,553名	55.0%
信頼している	39名	33.1%	9,191名	40.3%
あまり信頼していない	5名	4.2%	720名	3.2%
信頼していない	1名	0.8%	48名	0.2%
無回答	1名	0.8%	307名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても信頼している	65名	54.6%	9,835名	50.7%
信頼している	49名	41.2%	8,429名	43.5%
あまり信頼していない	3名	2.5%	796名	4.1%
信頼していない	-	-	50名	0.3%
無回答	2名	1.7%	280名	1.4%



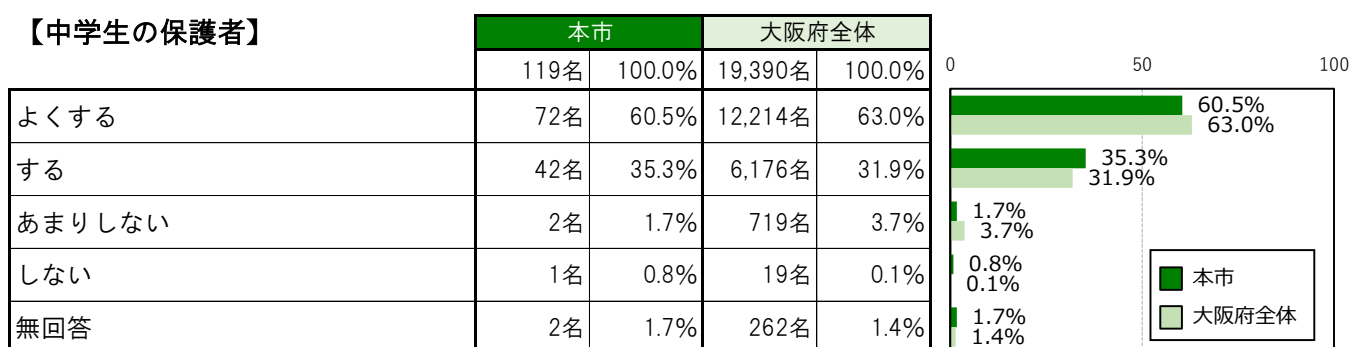
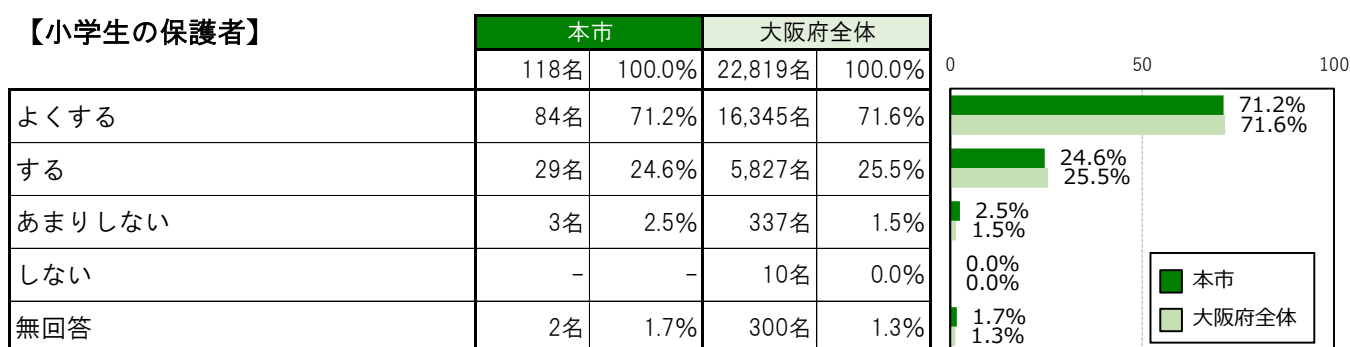
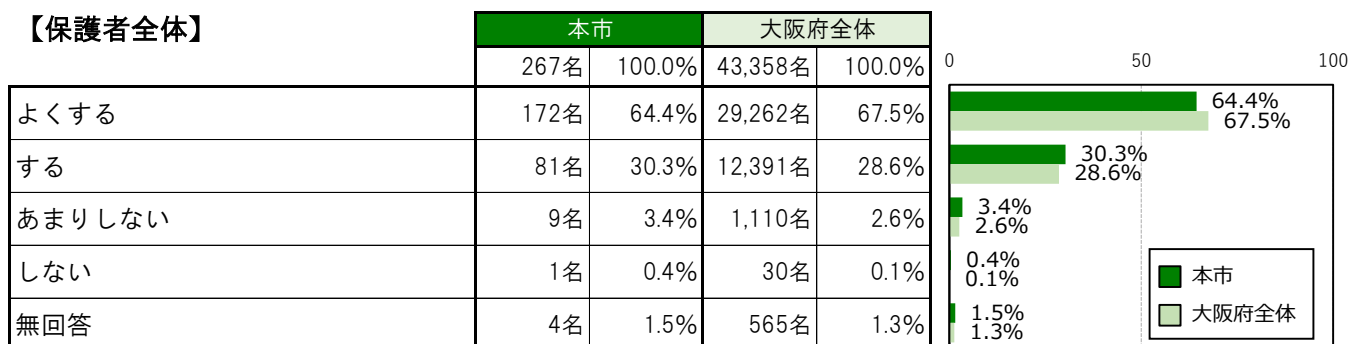
子どもに関することについて

問13（２）子どもとの会話頻度

保護者全体は、「よくする」が64.4%で最も多く、次いで「する」が30.3%、「あまりしない」が3.4%となっている。

小学生の保護者は、「よくする」が71.2%で最も多く、次いで「する」が24.6%となっている。

中学生の保護者は、「よくする」が60.5%で最も多く、次いで「する」が35.3%、「あまりしない」が1.7%となっている。



子どもに関することについて

問13（３）平日での子どもとの関わり時間

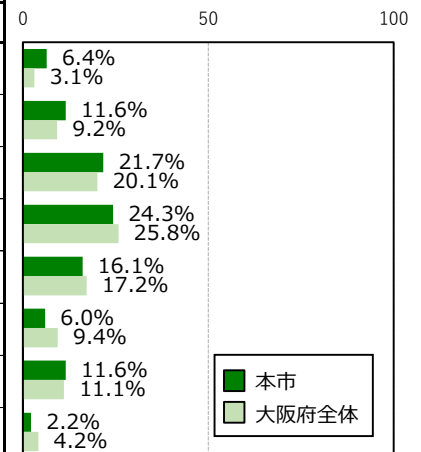
保護者全体は、「１時間～２時間未満」が24.3%で最も多く、次いで「30分～１時間未満」が21.7%、「２時間～３時間未満」が16.1%となっている。

小学生の保護者は、「１時間～２時間未満」が22.9%で最も多く、次いで「２時間～３時間未満」が20.3%、「４時間以上」が15.3%となっている。

中学生の保護者は、「30分～１時間未満」が28.6%で最も多く、次いで「１時間～２時間未満」が25.2%、「２時間～３時間未満」が13.4%となっている。

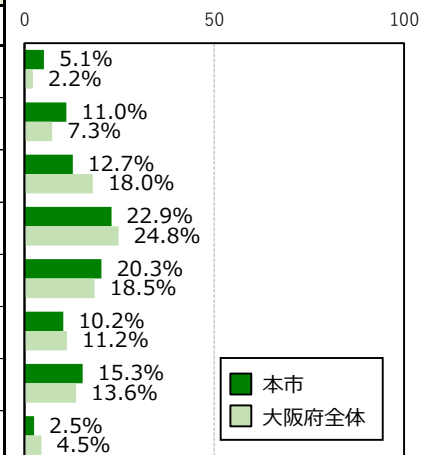
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,358名	100.0%
0～15分未満	17名	6.4%	1,323名	3.1%
15分～30分未満	31名	11.6%	3,978名	9.2%
30分～１時間未満	58名	21.7%	8,701名	20.1%
１時間～２時間未満	65名	24.3%	11,171名	25.8%
２時間～３時間未満	43名	16.1%	7,479名	17.2%
３時間～４時間未満	16名	6.0%	4,091名	9.4%
４時間以上	31名	11.6%	4,813名	11.1%
無回答	6名	2.2%	1,802名	4.2%



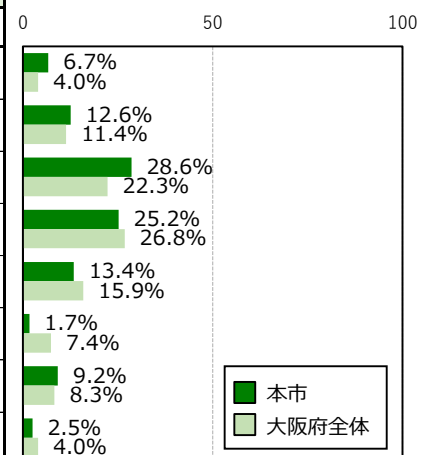
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,819名	100.0%
0～15分未満	6名	5.1%	494名	2.2%
15分～30分未満	13名	11.0%	1,662名	7.3%
30分～１時間未満	15名	12.7%	4,099名	18.0%
１時間～２時間未満	27名	22.9%	5,657名	24.8%
２時間～３時間未満	24名	20.3%	4,224名	18.5%
３時間～４時間未満	12名	10.2%	2,561名	11.2%
４時間以上	18名	15.3%	3,100名	13.6%
無回答	3名	2.5%	1,022名	4.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,390名	100.0%
0～15分未満	8名	6.7%	771名	4.0%
15分～30分未満	15名	12.6%	2,205名	11.4%
30分～１時間未満	34名	28.6%	4,316名	22.3%
１時間～２時間未満	30名	25.2%	5,203名	26.8%
２時間～３時間未満	16名	13.4%	3,075名	15.9%
３時間～４時間未満	2名	1.7%	1,435名	7.4%
４時間以上	11名	9.2%	1,617名	8.3%
無回答	3名	2.5%	768名	4.0%



子どもに関することについて

問13（３）休日での子どもとの関わり時間

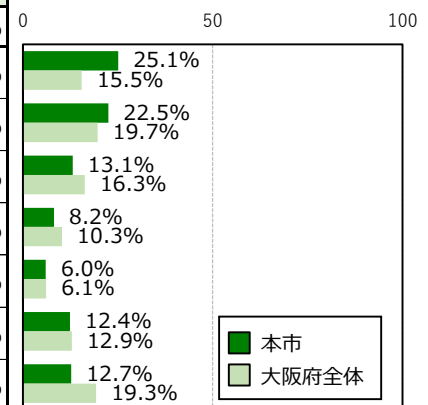
保護者全体は、「２時間未満」が25.1%で最も多く、次いで「２時間～４時間未満」が22.5%、「４時間～６時間未満」が13.1%、「１０時間以上」が12.4%となっている。

小学生の保護者は、「２時間～４時間未満」が20.3%で最も多く、次いで「１０時間以上」が19.5%、「４時間～６時間未満」が12.7%となっている。

中学生の保護者は、「２時間未満」が34.5%で最も多く、次いで「２時間～４時間未満」が26.1%、「４時間～６時間未満」が11.8%、「１０時間以上」が5.9%となっている。

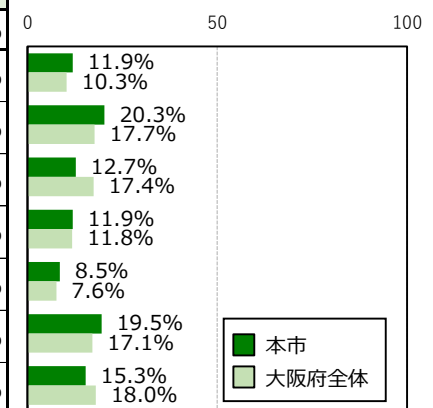
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,358名	100.0%
２時間未満	67名	25.1%	6,723名	15.5%
２時間～４時間未満	60名	22.5%	8,521名	19.7%
４時間～６時間未満	35名	13.1%	7,050名	16.3%
６時間～８時間未満	22名	8.2%	4,454名	10.3%
８時間～１０時間未満	16名	6.0%	2,659名	6.1%
１０時間以上	33名	12.4%	5,577名	12.9%
無回答	34名	12.7%	8,374名	19.3%



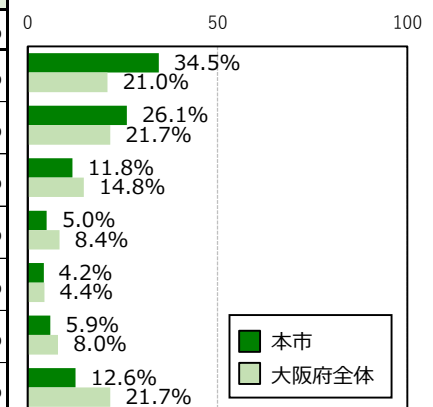
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,819名	100.0%
２時間未満	14名	11.9%	2,357名	10.3%
２時間～４時間未満	24名	20.3%	4,031名	17.7%
４時間～６時間未満	15名	12.7%	3,977名	17.4%
６時間～８時間未満	14名	11.9%	2,700名	11.8%
８時間～１０時間未満	10名	8.5%	1,740名	7.6%
１０時間以上	23名	19.5%	3,896名	17.1%
無回答	18名	15.3%	4,118名	18.0%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,390名	100.0%
２時間未満	41名	34.5%	4,070名	21.0%
２時間～４時間未満	31名	26.1%	4,216名	21.7%
４時間～６時間未満	14名	11.8%	2,876名	14.8%
６時間～８時間未満	6名	5.0%	1,632名	8.4%
８時間～１０時間未満	5名	4.2%	845名	4.4%
１０時間以上	7名	5.9%	1,542名	8.0%
無回答	15名	12.6%	4,209名	21.7%



子どもに関することについて

問13（４）子どもの将来への期待度

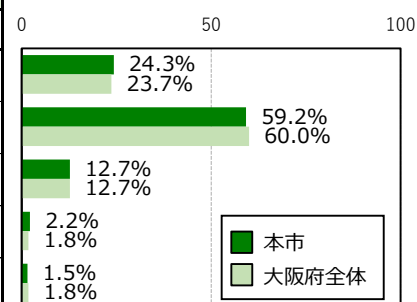
保護者全体は、「期待している」が59.2%で最も多く、次いで「とても期待している」が24.3%、「あまり期待していない」が12.7%となっている。

小学生の保護者は、「期待している」が57.6%で最も多く、次いで「とても期待している」が28.0%、「あまり期待していない」が11.9%となっている。

中学生の保護者は、「期待している」が57.1%で最も多く、次いで「とても期待している」が26.1%、「あまり期待していない」が11.8%となっている。

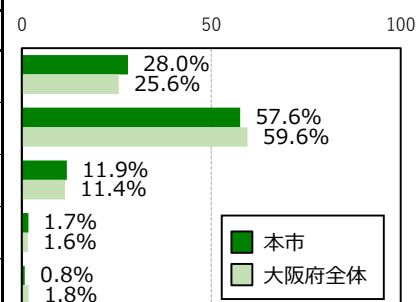
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても期待している	65名	24.3%	10,264名	23.7%
期待している	158名	59.2%	26,035名	60.0%
あまり期待していない	34名	12.7%	5,485名	12.7%
期待していない	6名	2.2%	779名	1.8%
無回答	4名	1.5%	795名	1.8%



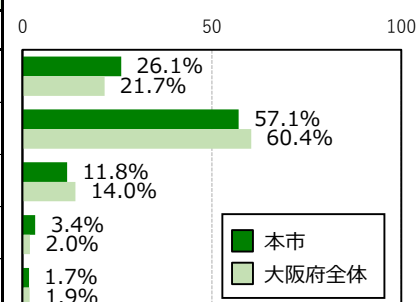
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても期待している	33名	28.0%	5,831名	25.6%
期待している	68名	57.6%	13,610名	59.6%
あまり期待していない	14名	11.9%	2,603名	11.4%
期待していない	2名	1.7%	363名	1.6%
無回答	1名	0.8%	412名	1.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても期待している	31名	26.1%	4,207名	21.7%
期待している	68名	57.1%	11,704名	60.4%
あまり期待していない	14名	11.8%	2,717名	14.0%
期待していない	4名	3.4%	388名	2.0%
無回答	2名	1.7%	374名	1.9%



子どもに関することについて

問13（５）子どもの授業参観や運動会などの学校行事への参加状況

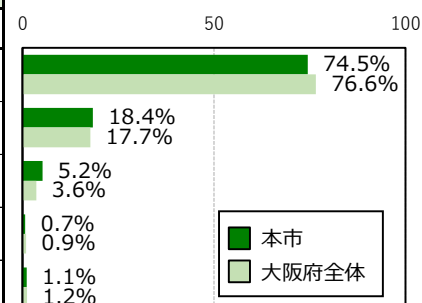
保護者全体は、「よく参加している」が74.5%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が18.4%、「あまり参加していない」が5.2%となっている。

小学生の保護者は、「よく参加している」が87.3%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が7.6%となっている。

中学生の保護者は、「よく参加している」が60.5%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が28.6%、「あまり参加していない」が7.6%となっている。

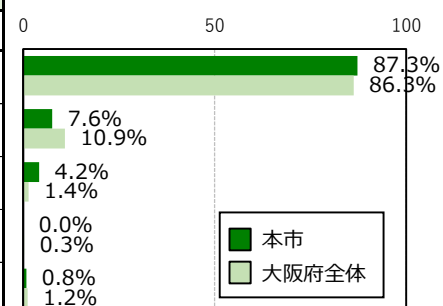
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よく参加している	199名	74.5%	33,215名	76.6%
ときどき参加している	49名	18.4%	7,691名	17.7%
あまり参加していない	14名	5.2%	1,550名	3.6%
まったく参加していない	2名	0.7%	376名	0.9%
無回答	3名	1.1%	526名	1.2%



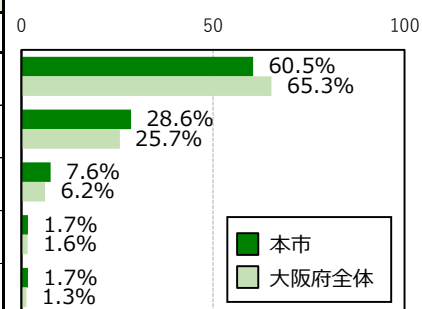
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よく参加している	103名	87.3%	19,697名	86.3%
ときどき参加している	9名	7.6%	2,477名	10.9%
あまり参加していない	5名	4.2%	309名	1.4%
まったく参加していない	-	-	58名	0.3%
無回答	1名	0.8%	278名	1.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よく参加している	72名	60.5%	12,665名	65.3%
ときどき参加している	34名	28.6%	4,975名	25.7%
あまり参加していない	9名	7.6%	1,202名	6.2%
まったく参加していない	2名	1.7%	304名	1.6%
無回答	2名	1.7%	244名	1.3%



子どもに関することについて

問14 子どもに希望する進学

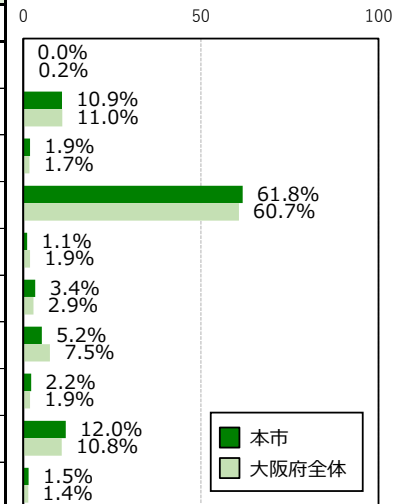
保護者全体は、「大学」が61.8%で最も多く、次いで「高校」が10.9%、「専門学校・高等専門学校」が5.2%、「留学」が3.4%となっている。

小学生の保護者は、「大学」が61.9%で最も多く、次いで「高校」が9.3%、「留学」、「専門学校・高等専門学校」、「考えたことがない」がそれぞれ5.1%となっている。

中学生の保護者は、「大学」が59.7%で最も多く、次いで「高校」が13.4%、「短期大学」、「専門学校・高等専門学校」がそれぞれ4.2%となっている。

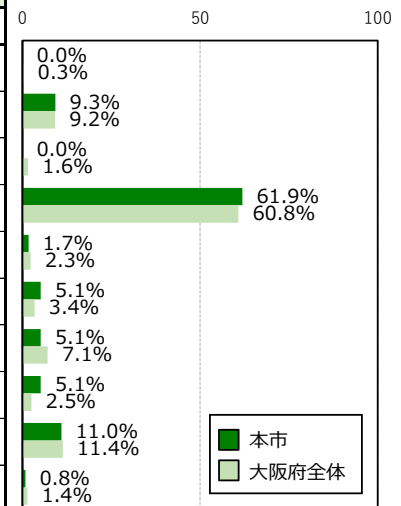
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,358名	100.0%
中学校	-	-	106名	0.2%
高校	29名	10.9%	4,765名	11.0%
短期大学	5名	1.9%	716名	1.7%
大学	165名	61.8%	26,334名	60.7%
大学院	3名	1.1%	827名	1.9%
留学	9名	3.4%	1,261名	2.9%
専門学校・高等専門学校	14名	5.2%	3,262名	7.5%
考えたことがない	6名	2.2%	818名	1.9%
わからない	32名	12.0%	4,674名	10.8%
無回答	4名	1.5%	595名	1.4%



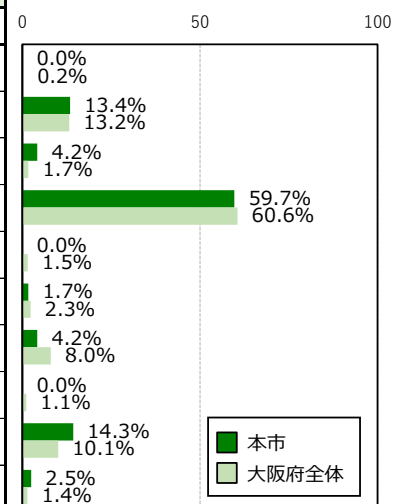
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,819名	100.0%
中学校	-	-	72名	0.3%
高校	11名	9.3%	2,090名	9.2%
短期大学	-	-	366名	1.6%
大学	73名	61.9%	13,868名	60.8%
大学院	2名	1.7%	519名	2.3%
留学	6名	5.1%	786名	3.4%
専門学校・高等専門学校	6名	5.1%	1,631名	7.1%
考えたことがない	6名	5.1%	579名	2.5%
わからない	13名	11.0%	2,592名	11.4%
無回答	1名	0.8%	316名	1.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,390名	100.0%
中学校	-	-	31名	0.2%
高校	16名	13.4%	2,557名	13.2%
短期大学	5名	4.2%	322名	1.7%
大学	71名	59.7%	11,753名	60.6%
大学院	-	-	285名	1.5%
留学	2名	1.7%	451名	2.3%
専門学校・高等専門学校	5名	4.2%	1,548名	8.0%
考えたことがない	-	-	219名	1.1%
わからない	17名	14.3%	1,951名	10.1%
無回答	3名	2.5%	273名	1.4%



子どもに関することについて

問15 子どもの通学状況

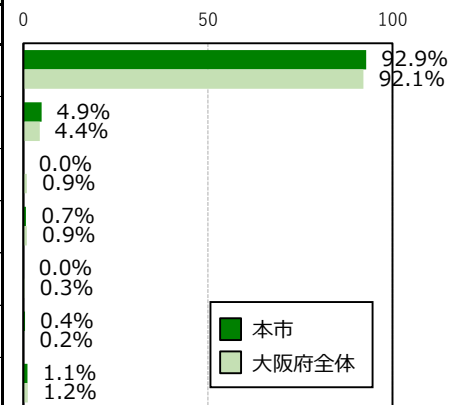
保護者全体は、「ほぼ毎日通っている」が92.9%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が4.9%となっている。

小学生の保護者は、「ほぼ毎日通っている」が91.5%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が6.8%となっている。

中学生の保護者は、「ほぼ毎日通っている」が93.3%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が4.2%となっている。

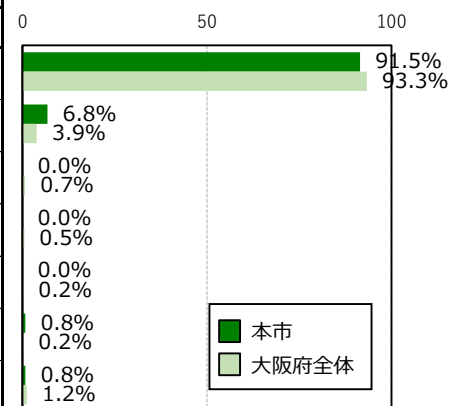
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,358名	100.0%
ほぼ毎日通っている	248名	92.9%	39,916名	92.1%
欠席は年間30日未満である	13名	4.9%	1,900名	4.4%
欠席が年間30日以上、60日未満である	-	-	406名	0.9%
欠席が年間60日以上、1年未満である	2名	0.7%	379名	0.9%
欠席が1年以上続いている	-	-	127名	0.3%
わからない	1名	0.4%	108名	0.2%
無回答	3名	1.1%	522名	1.2%



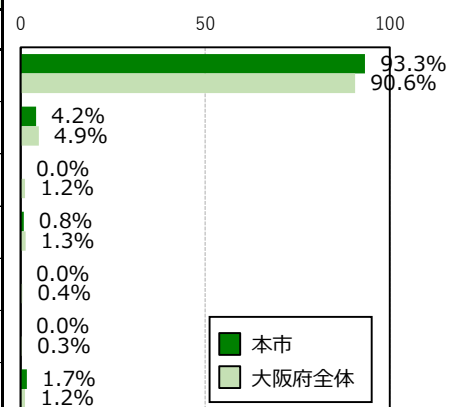
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,819名	100.0%
ほぼ毎日通っている	108名	91.5%	21,301名	93.3%
欠席は年間30日未満である	8名	6.8%	895名	3.9%
欠席が年間30日以上、60日未満である	-	-	158名	0.7%
欠席が年間60日以上、1年未満である	-	-	107名	0.5%
欠席が1年以上続いている	-	-	36名	0.2%
わからない	1名	0.8%	44名	0.2%
無回答	1名	0.8%	278名	1.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,390名	100.0%
ほぼ毎日通っている	111名	93.3%	17,568名	90.6%
欠席は年間30日未満である	5名	4.2%	945名	4.9%
欠席が年間30日以上、60日未満である	-	-	232名	1.2%
欠席が年間60日以上、1年未満である	1名	0.8%	257名	1.3%
欠席が1年以上続いている	-	-	86名	0.4%
わからない	-	-	62名	0.3%
無回答	2名	1.7%	240名	1.2%



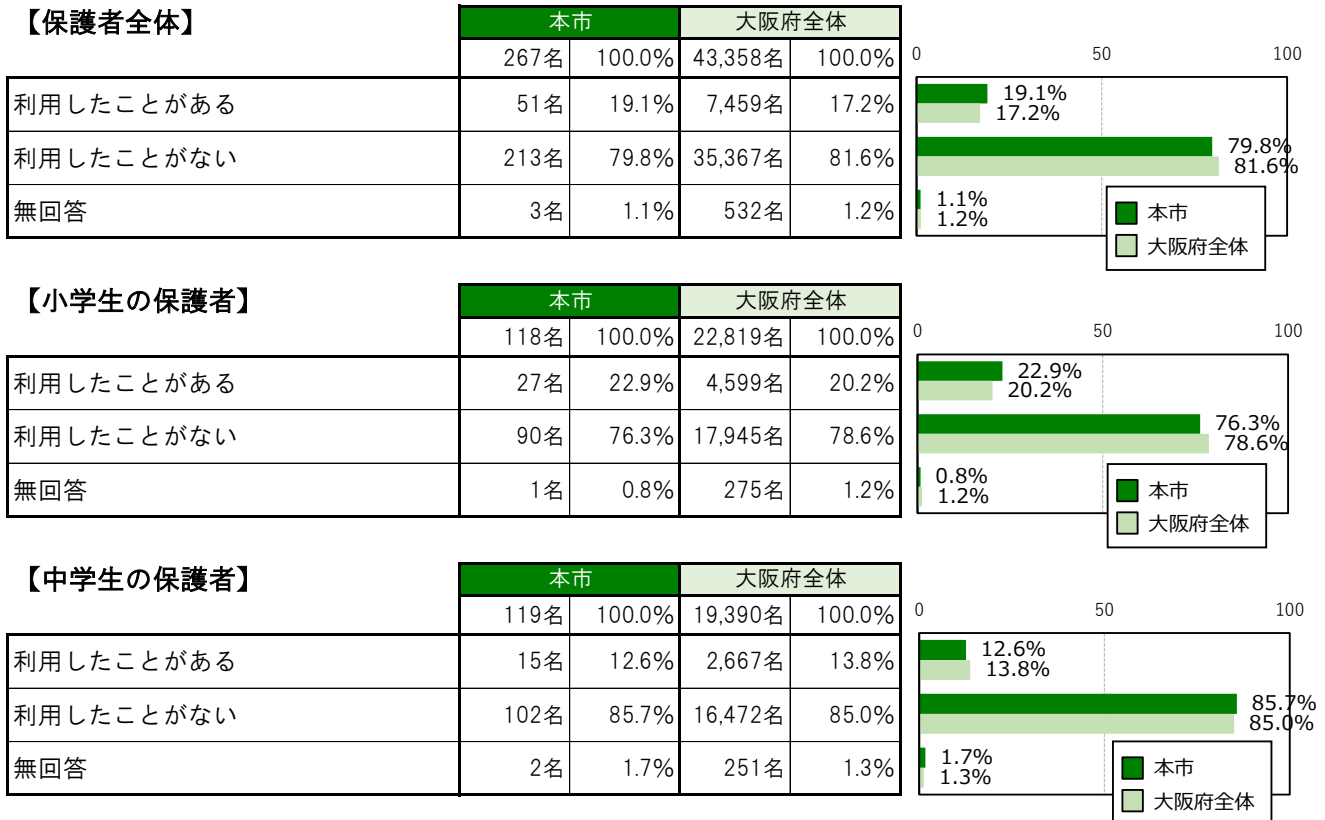
子どもに関することについて

問16（１）子どもの居場所の利用経験

保護者全体は、「利用したことがある」が19.1%、「利用したことがない」が79.8%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがある」が22.9%、「利用したことがない」が76.3%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがある」が12.6%、「利用したことがない」が85.7%となっている。



子どもに関することについて

問16（2）子どもの居場所を利用することで良いと思うこと

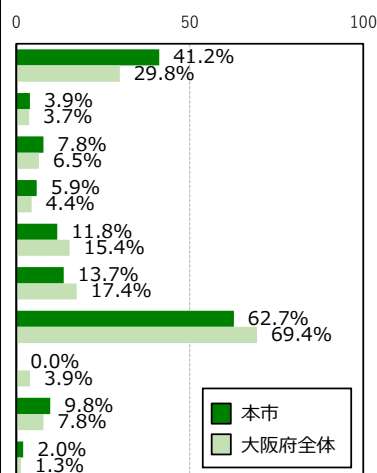
保護者全体は、「お子さんが楽しんでいるから」が62.7%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が41.2%、「宿題など勉強を見てくれるから」が13.7%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」が11.8%となっている。

小学生の保護者は、「お子さんが楽しんでいるから」が77.8%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が40.7%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」が18.5%、「栄養バランスがとれた食事がとれるから」が7.8%、「宿題など勉強を見てくれるから」がそれぞれ14.8%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんが楽しんでいるから」が46.7%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が26.7%、「運営者が相談に乗ってくれるから」、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」、「宿題など勉強を見てくれるから」がそれぞれ6.7%となっている。

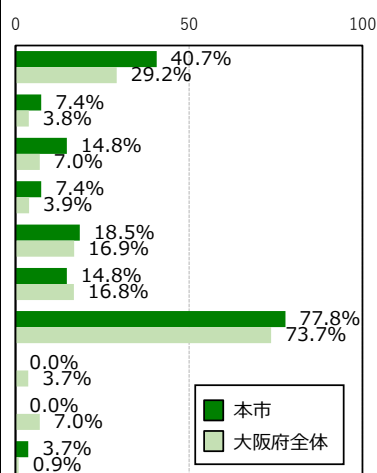
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	51名	100.0%	7,459名	100.0%
地域の人とつながれるから	21名	41.2%	2,226名	29.8%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	2名	3.9%	275名	3.7%
栄養バランスがとれた食事がとれるから	4名	7.8%	484名	6.5%
運営者が相談に乗ってくれるから	3名	5.9%	329名	4.4%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	6名	11.8%	1,152名	15.4%
宿題など勉強を見てくれるから	7名	13.7%	1,301名	17.4%
お子さんが楽しんでいるから	32名	62.7%	5,178名	69.4%
特になし	-	-	291名	3.9%
その他	5名	9.8%	579名	7.8%
無回答	1名	2.0%	95名	1.3%



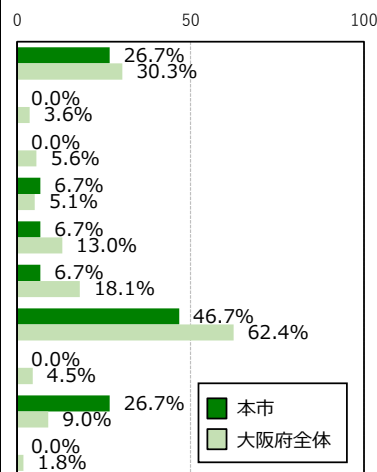
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	27名	100.0%	4,599名	100.0%
地域の人とつながれるから	11名	40.7%	1,344名	29.2%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	2名	7.4%	173名	3.8%
栄養バランスがとれた食事がとれるから	4名	14.8%	322名	7.0%
運営者が相談に乗ってくれるから	2名	7.4%	180名	3.9%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	5名	18.5%	778名	16.9%
宿題など勉強を見てくれるから	4名	14.8%	773名	16.8%
お子さんが楽しんでいるから	21名	77.8%	3,388名	73.7%
特になし	-	-	168名	3.7%
その他	-	-	324名	7.0%
無回答	1名	3.7%	43名	0.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	15名	100.0%	2,667名	100.0%
地域の人とつながれるから	4名	26.7%	808名	30.3%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	-	-	97名	3.6%
栄養バランスがとれた食事がとれるから	-	-	150名	5.6%
運営者が相談に乗ってくれるから	1名	6.7%	136名	5.1%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	1名	6.7%	348名	13.0%
宿題など勉強を見てくれるから	1名	6.7%	482名	18.1%
お子さんが楽しんでいるから	7名	46.7%	1,664名	62.4%
特になし	-	-	120名	4.5%
その他	4名	26.7%	241名	9.0%
無回答	-	-	47名	1.8%



子どもに関することについて

問16（3）子どもの居場所を利用しない理由

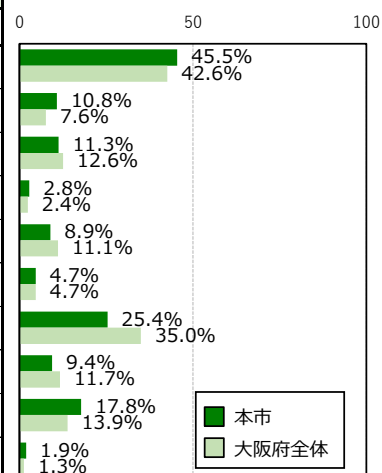
保護者全体は、「どこにあるか知らないから」が45.5%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が25.4%、「家で過ごしてほしいと思うから」が11.3%、「家の近く（小学校区内）にないから」が10.8%となっている。

小学生の保護者は、「どこにあるか知らないから」が50.0%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が21.1%、「家の近く（小学校区内）にないから」が14.4%、「家で過ごしてほしいと思うから」が11.1%となっている。

中学生の保護者は、「どこにあるか知らないから」が43.1%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が28.4%、「家で過ごしてほしいと思うから」が12.7%、「お子さんが「行きたくない」と言っているから」、「何をしているかわからないから」がそれぞれ11.8%となっている。

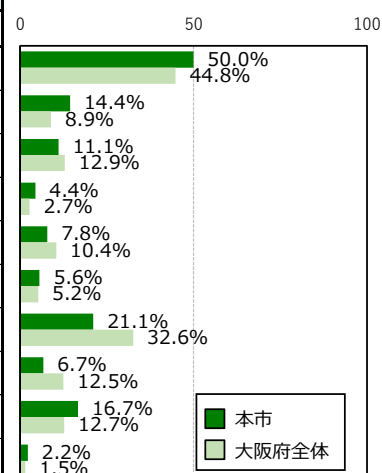
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	213名	100.0%	35,367名	100.0%
どこにあるか知らないから	97名	45.5%	15,060名	42.6%
家の近く（小学校区内）にないから	23名	10.8%	2,697名	7.6%
家で過ごしてほしいと思うから	24名	11.3%	4,452名	12.6%
居場所のイメージがよくないから	6名	2.8%	862名	2.4%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	19名	8.9%	3,936名	11.1%
行きたい日・時間に開いていないから	10名	4.7%	1,647名	4.7%
利用したいと思わないから	54名	25.4%	12,386名	35.0%
何をしているかわからないから	20名	9.4%	4,149名	11.7%
その他	38名	17.8%	4,908名	13.9%
無回答	4名	1.9%	473名	1.3%



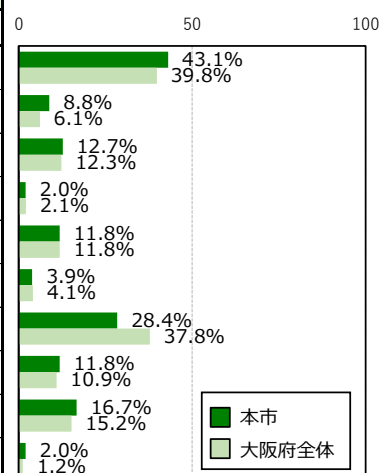
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	90名	100.0%	17,945名	100.0%
どこにあるか知らないから	45名	50.0%	8,048名	44.8%
家の近く（小学校区内）にないから	13名	14.4%	1,594名	8.9%
家で過ごしてほしいと思うから	10名	11.1%	2,318名	12.9%
居場所のイメージがよくないから	4名	4.4%	476名	2.7%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	7名	7.8%	1,873名	10.4%
行きたい日・時間に開いていないから	5名	5.6%	936名	5.2%
利用したいと思わないから	19名	21.1%	5,849名	32.6%
何をしているかわからないから	6名	6.7%	2,243名	12.5%
その他	15名	16.7%	2,278名	12.7%
無回答	2名	2.2%	261名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	102名	100.0%	16,472名	100.0%
どこにあるか知らないから	44名	43.1%	6,563名	39.8%
家の近く（小学校区内）にないから	9名	8.8%	1,006名	6.1%
家で過ごしてほしいと思うから	13名	12.7%	2,030名	12.3%
居場所のイメージがよくないから	2名	2.0%	347名	2.1%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	12名	11.8%	1,950名	11.8%
行きたい日・時間に開いていないから	4名	3.9%	673名	4.1%
利用したいと思わないから	29名	28.4%	6,227名	37.8%
何をしているかわからないから	12名	11.8%	1,797名	10.9%
その他	17名	16.7%	2,509名	15.2%
無回答	2名	2.0%	195名	1.2%



保護者のことについて

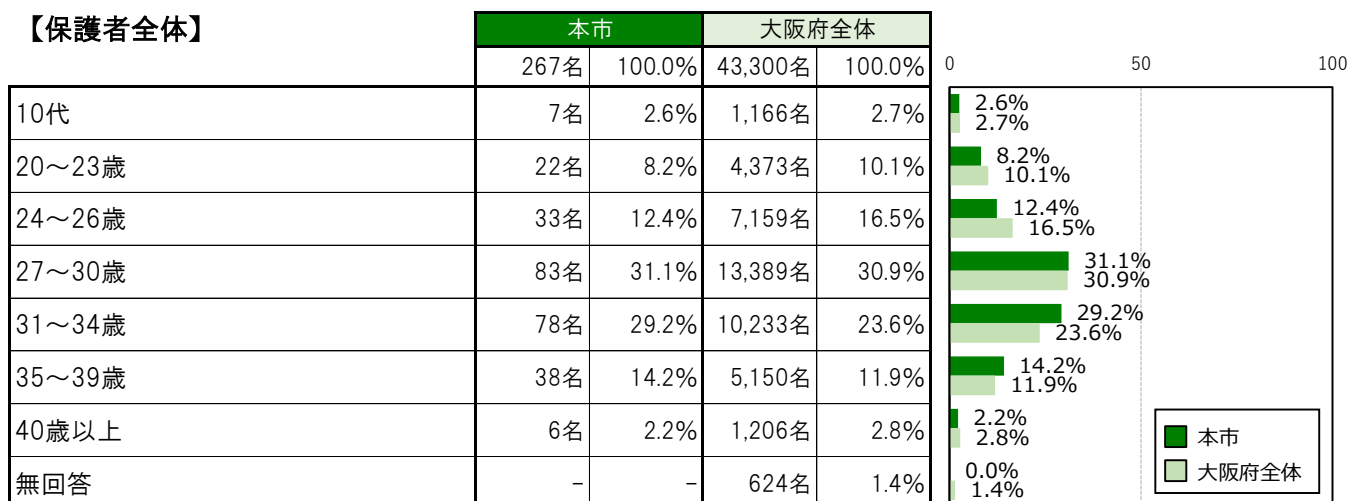
問17 初めて親となった年齢

保護者全体は、「27～30歳」が31.1%で最も多く、次いで「31～34歳」が29.2%、「35～39歳」が14.2%、「24～26歳」が12.4%となっている。

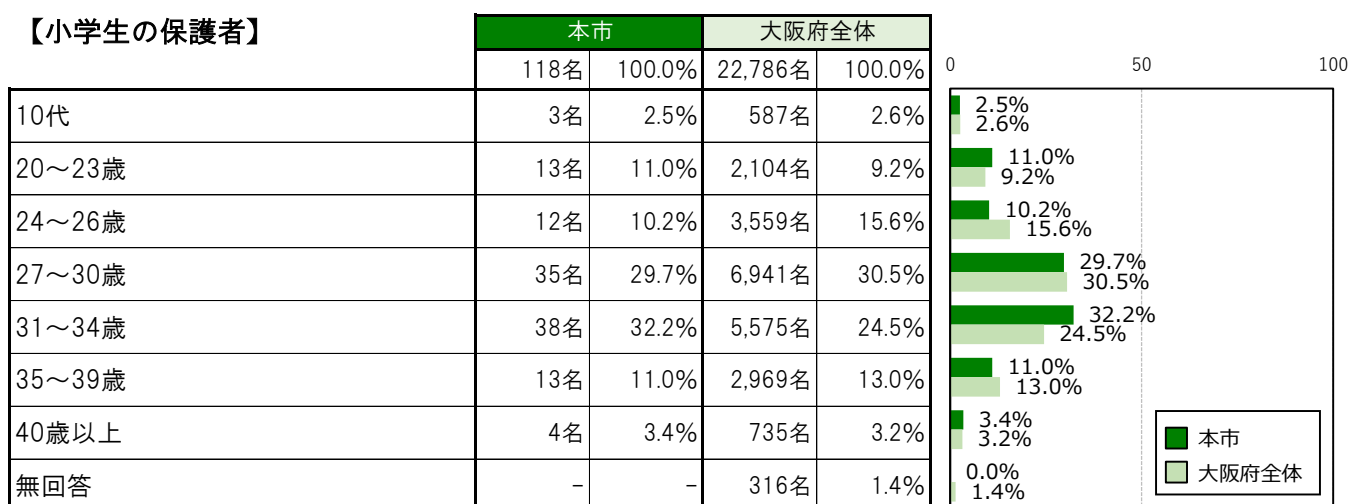
小学生の保護者は、「31～34歳」が32.2%で最も多く、次いで「27～30歳」が29.7%、「20～23歳」、「35～39歳」がそれぞれ11.0%、「24～26歳」が10.2%となっている。

中学生の保護者は、「27～30歳」が32.8%で最も多く、次いで「31～34歳」が26.9%、「35～39歳」が16.0%、「24～26歳」が12.6%となっている。

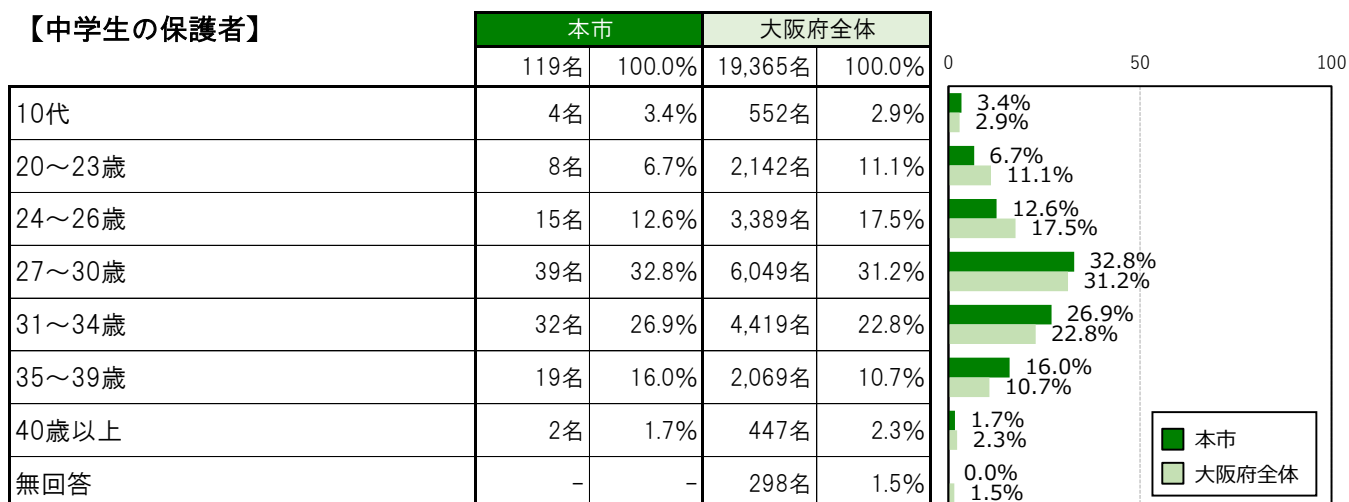
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

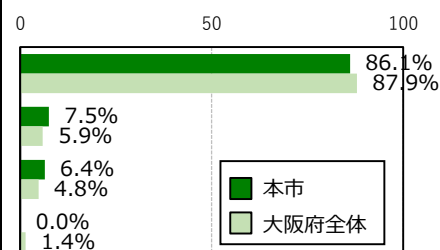
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

①心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人

保護者全体は、「いる」が86.1%、「いない」が7.5%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が85.6%、「いない」が9.3%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が85.7%、「いない」が5.9%となっている。

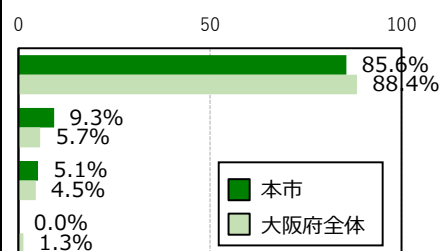
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	230名	86.1%	38,049名	87.9%
いない	20名	7.5%	2,548名	5.9%
わからない	17名	6.4%	2,099名	4.8%
無回答	-	-	604名	1.4%



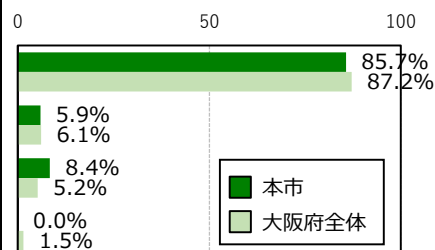
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	101名	85.6%	20,150名	88.4%
いない	11名	9.3%	1,304名	5.7%
わからない	6名	5.1%	1,026名	4.5%
無回答	-	-	306名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	102名	85.7%	16,885名	87.2%
いない	7名	5.9%	1,173名	6.1%
わからない	10名	8.4%	1,016名	5.2%
無回答	-	-	291名	1.5%



保護者のことについて

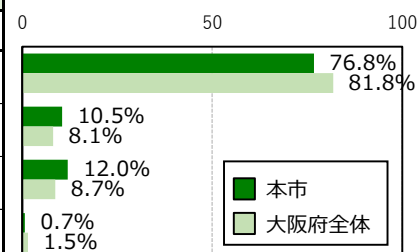
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

②気持ちを察して思いやってくれる人

保護者全体は、「いる」が76.8%、「いない」が10.5%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が74.6%、「いない」が11.9%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が76.5%、「いない」が10.9%となっている。

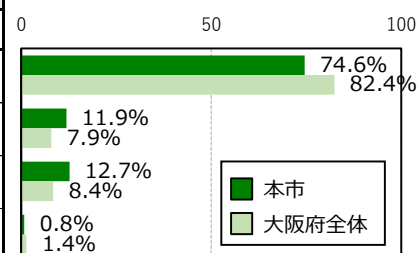
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	205名	76.8%	35,406名	81.8%
いない	28名	10.5%	3,491名	8.1%
わからない	32名	12.0%	3,748名	8.7%
無回答	2名	0.7%	655名	1.5%



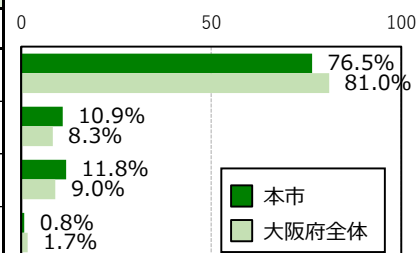
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	88名	74.6%	18,767名	82.4%
いない	14名	11.9%	1,791名	7.9%
わからない	15名	12.7%	1,904名	8.4%
無回答	1名	0.8%	324名	1.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	91名	76.5%	15,691名	81.0%
いない	13名	10.9%	1,610名	8.3%
わからない	14名	11.8%	1,741名	9.0%
無回答	1名	0.8%	323名	1.7%



保護者のことについて

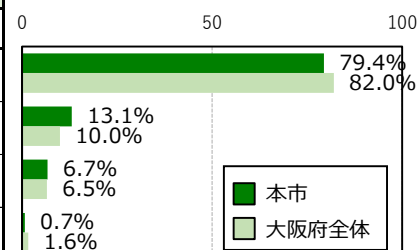
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

③趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人

保護者全体は、「いる」が79.4%、「いない」が13.1%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が78.8%、「いない」が11.9%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が78.2%、「いない」が15.1%となっている。

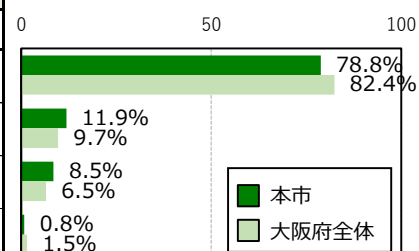
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	212名	79.4%	35,496名	82.0%
いない	35名	13.1%	4,317名	10.0%
わからない	18名	6.7%	2,806名	6.5%
無回答	2名	0.7%	681名	1.6%



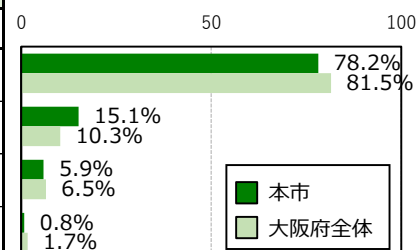
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	93名	78.8%	18,771名	82.4%
いない	14名	11.9%	2,201名	9.7%
わからない	10名	8.5%	1,474名	6.5%
無回答	1名	0.8%	340名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	93名	78.2%	15,782名	81.5%
いない	18名	15.1%	1,990名	10.3%
わからない	7名	5.9%	1,259名	6.5%
無回答	1名	0.8%	334名	1.7%



保護者のことについて

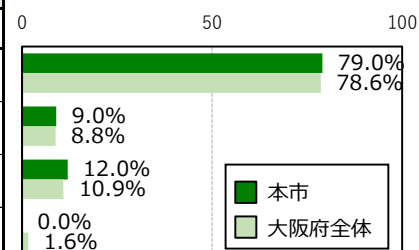
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

④子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人

保護者全体は、「いる」が79.0%、「いない」が9.0%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が78.8%、「いない」が9.3%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が77.3%、「いない」が10.1%となっている。

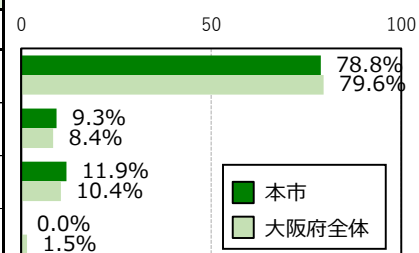
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	211名	79.0%	34,034名	78.6%
いない	24名	9.0%	3,824名	8.8%
わからない	32名	12.0%	4,731名	10.9%
無回答	-	-	711名	1.6%



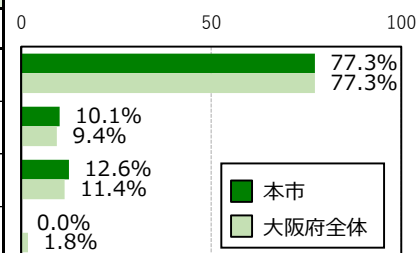
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	93名	78.8%	18,149名	79.6%
いない	11名	9.3%	1,912名	8.4%
わからない	14名	11.9%	2,381名	10.4%
無回答	-	-	344名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	92名	77.3%	14,966名	77.3%
いない	12名	10.1%	1,826名	9.4%
わからない	15名	12.6%	2,217名	11.4%
無回答	-	-	356名	1.8%



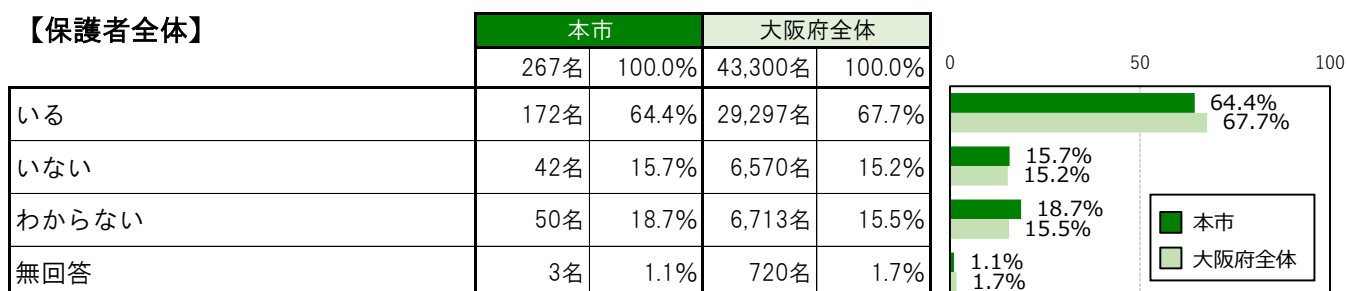
保護者のことについて

問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑤子どもの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）

保護者全体は、「いる」が64.4%、「いない」が15.7%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が69.5%、「いない」が11.9%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が58.8%、「いない」が18.5%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

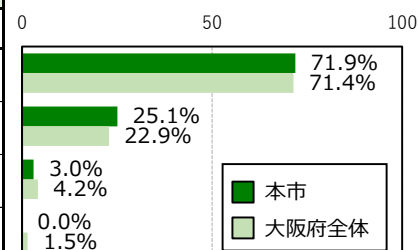
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑥子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人

保護者全体は、「いる」が71.9%、「いない」が25.1%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が71.2%、「いない」が24.6%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が70.6%、「いない」が26.9%となっている。

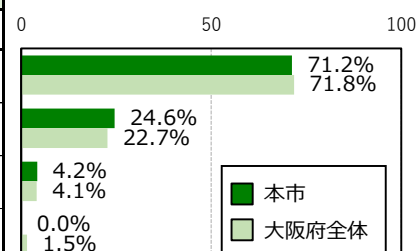
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,300名	100.0%
いる	192名	71.9%	30,902名	71.4%
いない	67名	25.1%	9,922名	22.9%
わからない	8名	3.0%	1,822名	4.2%
無回答	-	-	654名	1.5%



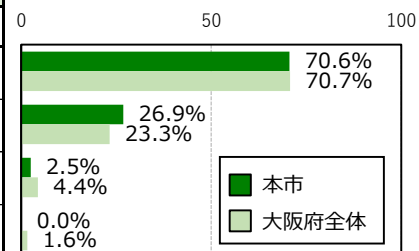
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,786名	100.0%
いる	84名	71.2%	16,360名	71.8%
いない	29名	24.6%	5,164名	22.7%
わからない	5名	4.2%	930名	4.1%
無回答	-	-	332名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,365名	100.0%
いる	84名	70.6%	13,687名	70.7%
いない	32名	26.9%	4,519名	23.3%
わからない	3名	2.5%	850名	4.4%
無回答	-	-	309名	1.6%



保護者のことについて

問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

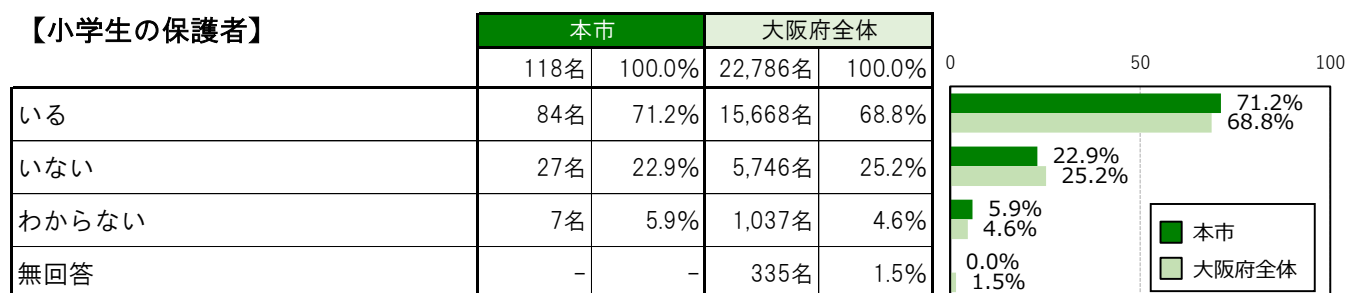
⑦留守を頼める人

保護者全体は、「いる」が67.8%、「いない」が26.2%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が71.2%、「いない」が22.9%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が63.0%、「いない」が31.1%となっている。

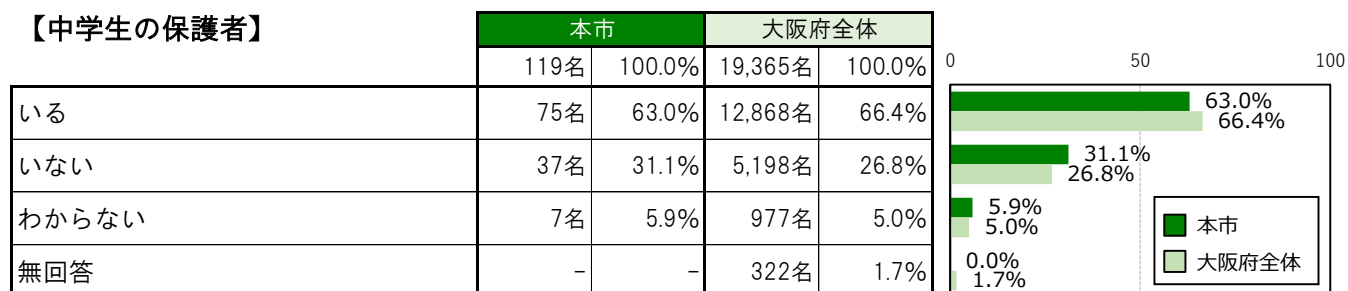
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

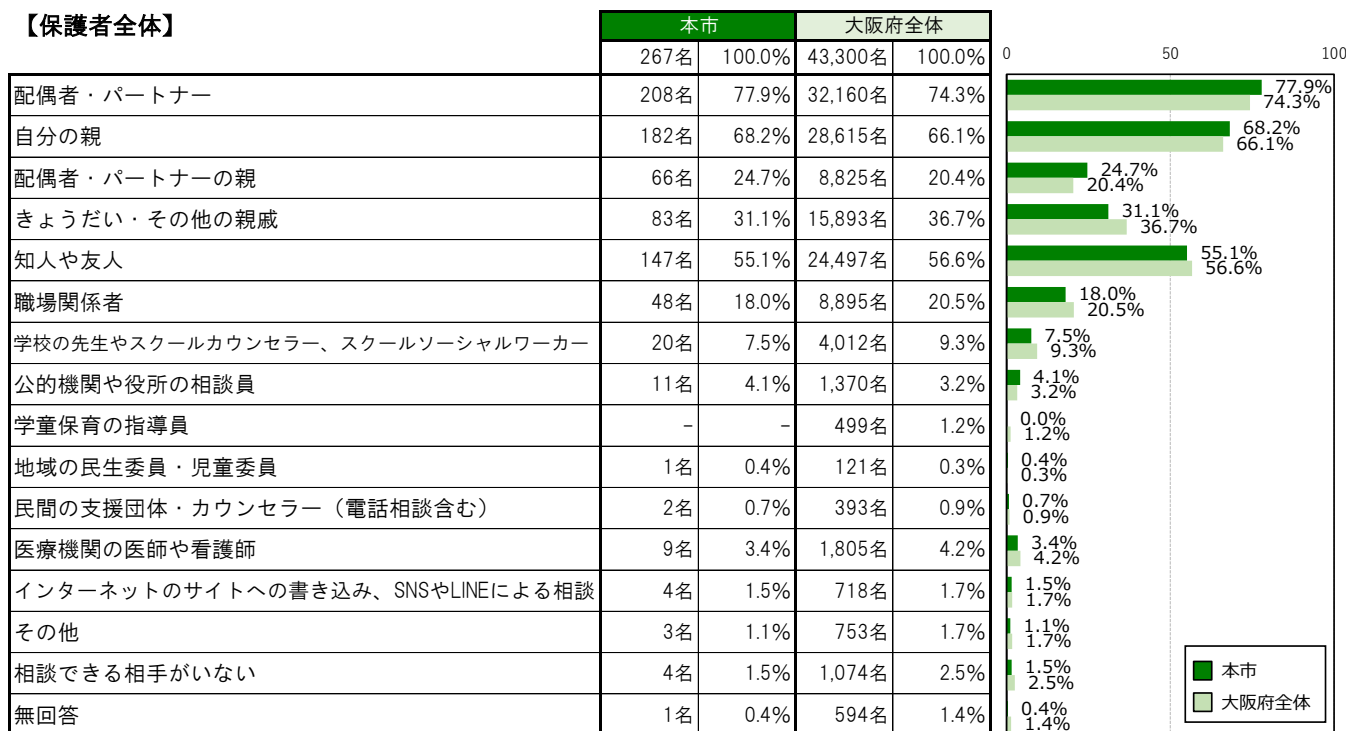
問19 本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

保護者全体は、「配偶者・パートナー」が77.9%で最も多く、次いで「自分の親」が68.2%、「知人や友人」が55.1%、「きょうだい・その他の親戚」が31.1%となっている。

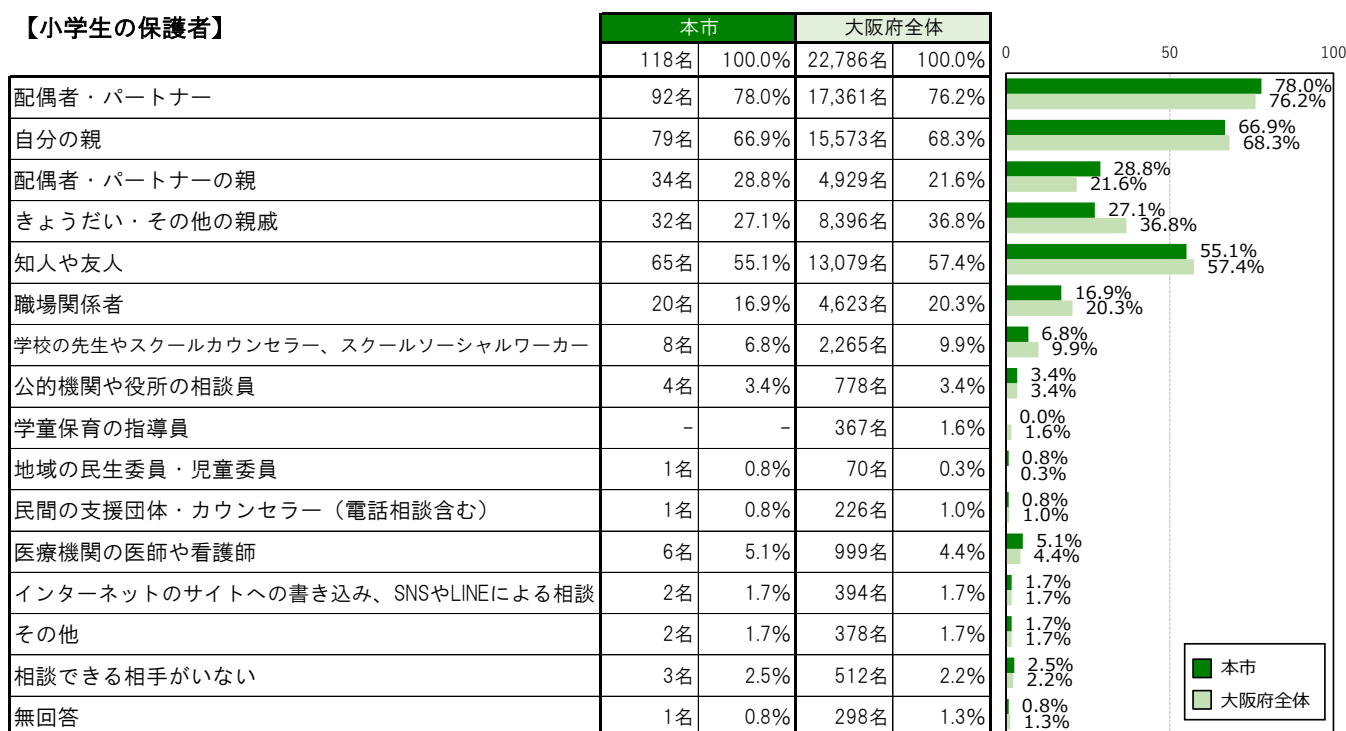
小学生の保護者は、「配偶者・パートナー」が78.0%で最も多く、次いで「自分の親」が66.9%、「知人や友人」が55.1%、「配偶者・パートナーの親」が28.8%となっている。

中学生の保護者は、「配偶者・パートナー」が78.2%で最も多く、次いで「自分の親」が68.9%、「知人や友人」が58.0%、「きょうだい・その他の親戚」が37.0%となっている。

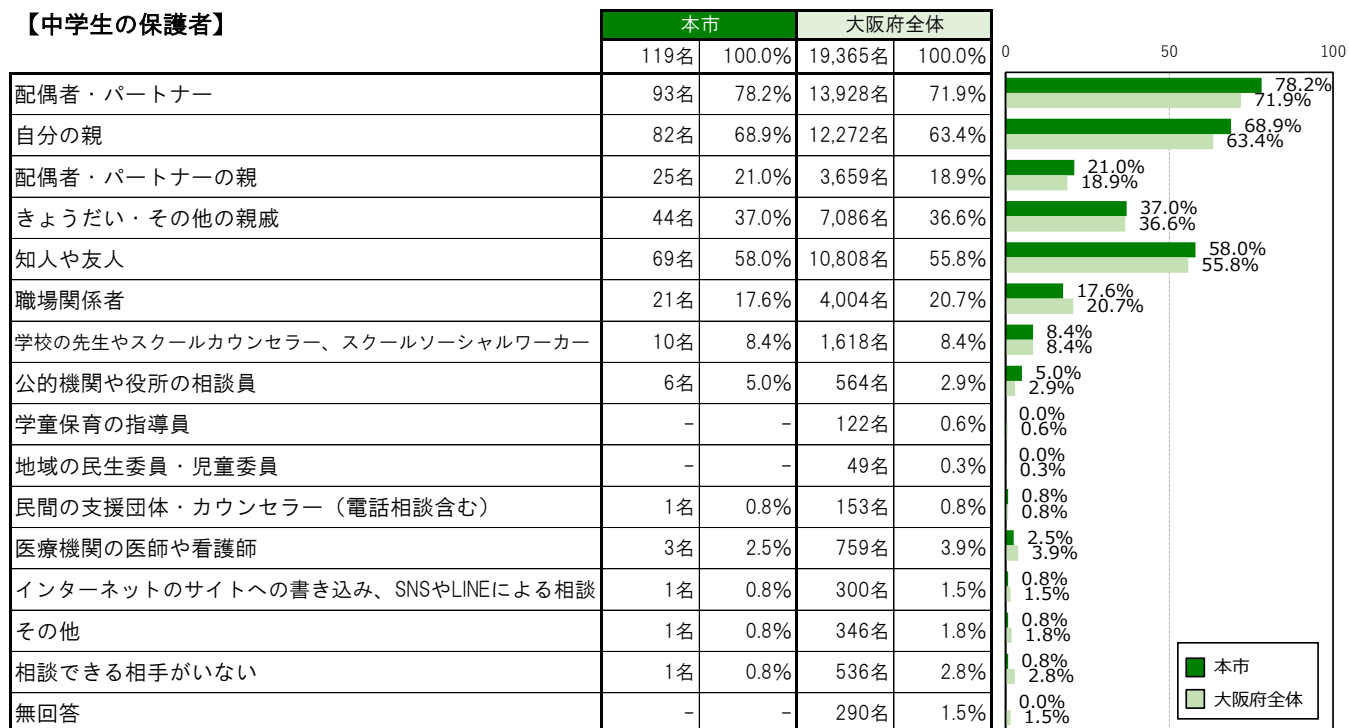
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



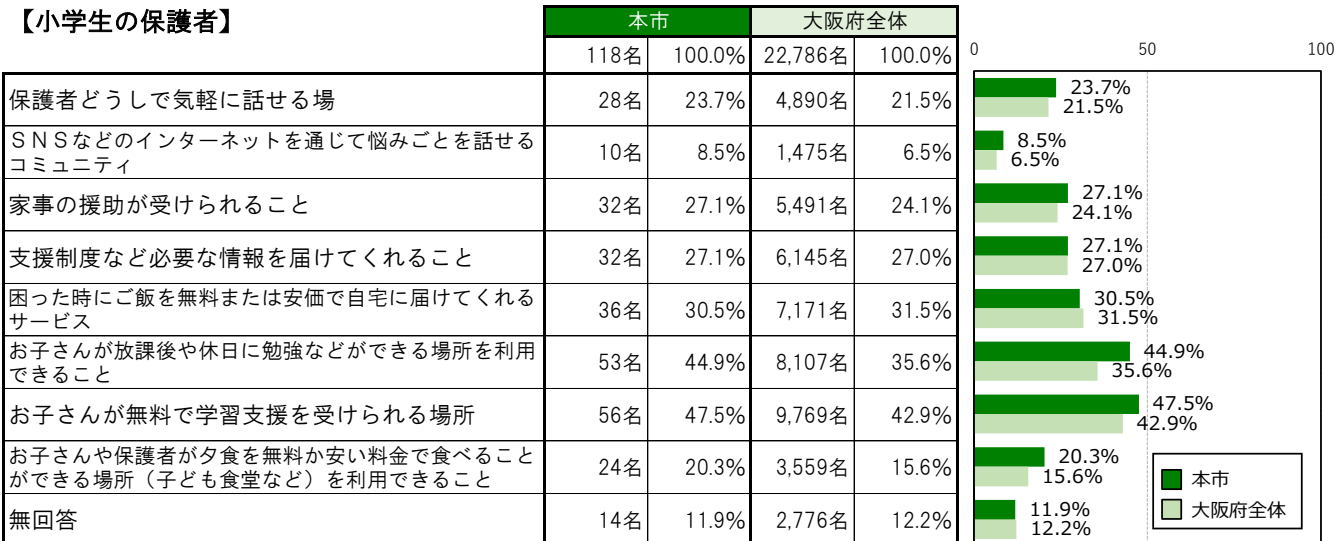
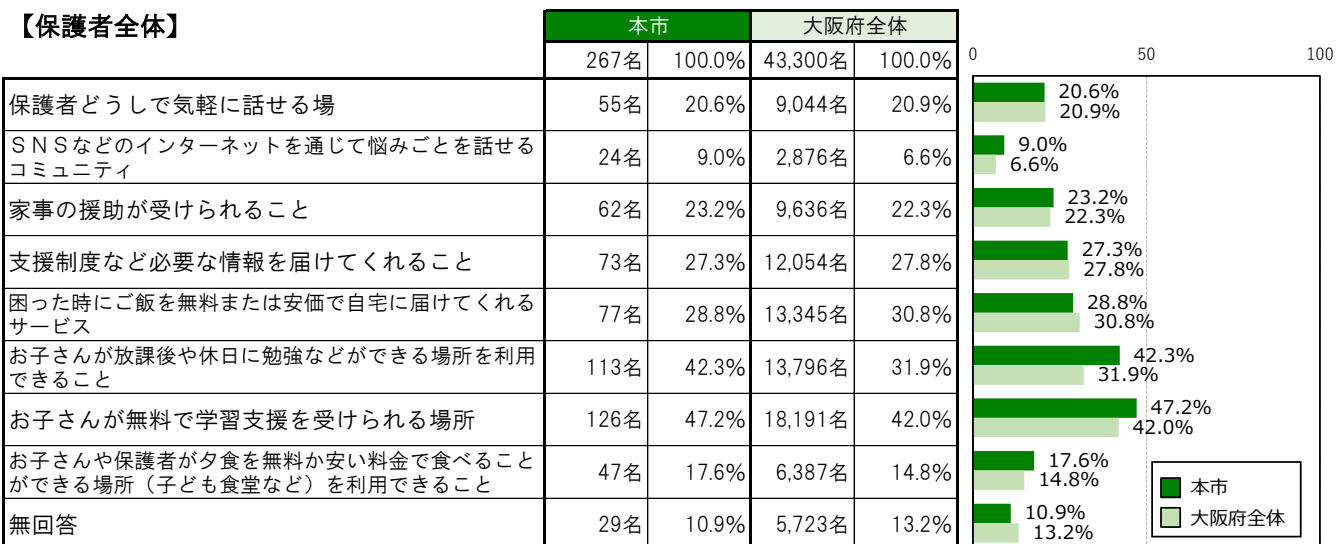
保護者のことについて

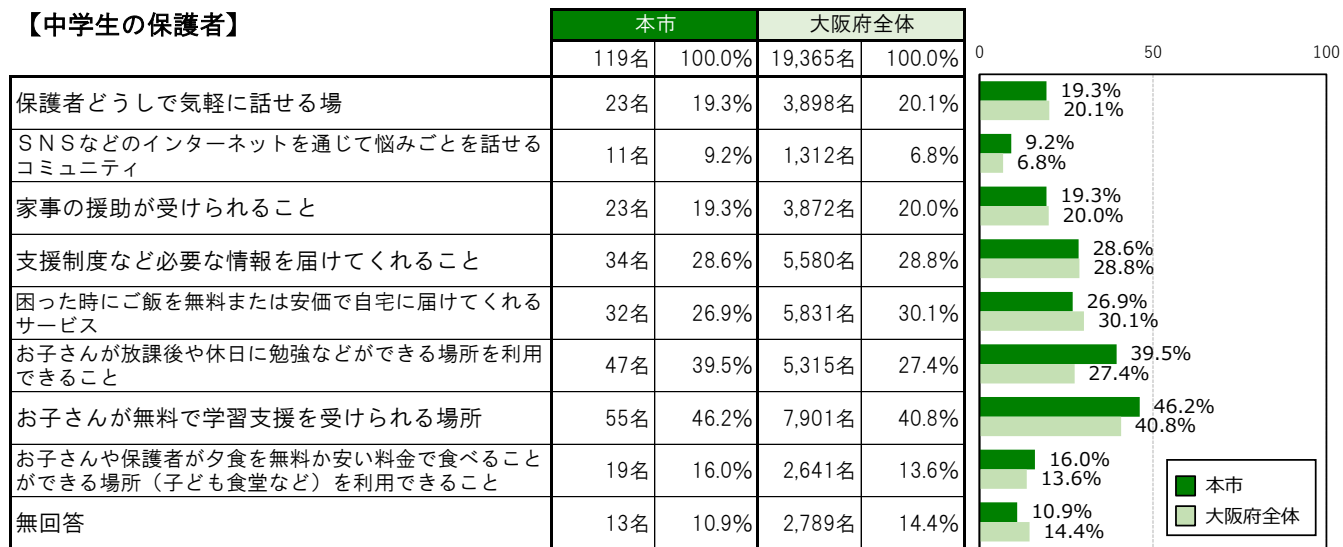
問20 身近にあると思うこと

保護者全体は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が47.2%で最も多く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が42.3%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が28.8%となっている。

小学生の保護者は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が47.5%で最も多く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が44.9%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が30.5%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が46.2%で最も多く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が39.5%、「支援制度など必要な情報を届けてくれること」が28.6%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が26.9%となっている。





保護者のことについて

問21（１）生活を楽しんでいるか

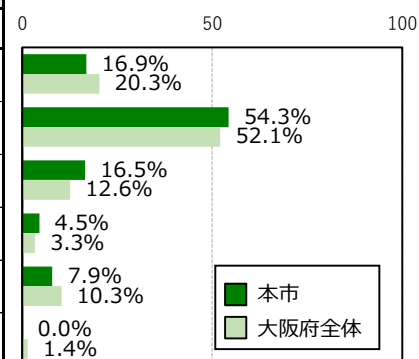
保護者全体は、「楽しんでいる」が54.3%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が16.9%、「あまり楽しんでいない」が16.5%となっている。

小学生の保護者は、「楽しんでいる」が59.3%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が16.1%、「あまり楽しんでいない」が12.7%となっている。

中学生の保護者は、「楽しんでいる」が48.7%で最も多く、次いで「あまり楽しんでいない」が21.0%、「とても楽しんでいる」が18.5%となっている。

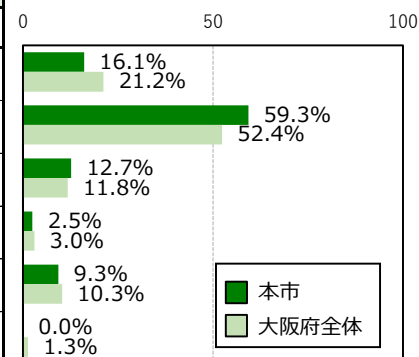
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,300名	100.0%
とても楽しんでいる	45名	16.9%	8,791名	20.3%
楽しんでいる	145名	54.3%	22,555名	52.1%
あまり楽しんでいない	44名	16.5%	5,466名	12.6%
楽しんでいない	12名	4.5%	1,411名	3.3%
わからない	21名	7.9%	4,473名	10.3%
無回答	-	-	604名	1.4%



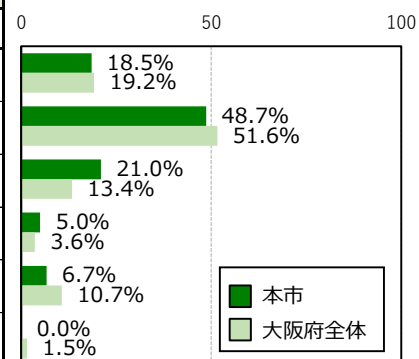
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,786名	100.0%
とても楽しんでいる	19名	16.1%	4,835名	21.2%
楽しんでいる	70名	59.3%	11,934名	52.4%
あまり楽しんでいない	15名	12.7%	2,699名	11.8%
楽しんでいない	3名	2.5%	680名	3.0%
わからない	11名	9.3%	2,340名	10.3%
無回答	-	-	298名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,365名	100.0%
とても楽しんでいる	22名	18.5%	3,719名	19.2%
楽しんでいる	58名	48.7%	9,994名	51.6%
あまり楽しんでいない	25名	21.0%	2,592名	13.4%
楽しんでいない	6名	5.0%	690名	3.6%
わからない	8名	6.7%	2,070名	10.7%
無回答	-	-	300名	1.5%



保護者のことについて

問21（２）将来に対して希望を持っているか

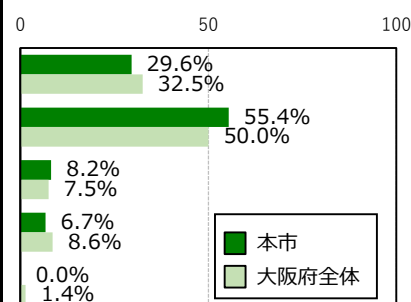
保護者全体は、「希望が持てる」ときもあるが、持てないときもある」が55.4%で最も多く、次いで「希望が持てる」が29.6%となっている。

小学生の保護者は、「希望が持てる」ときもあるが、持てないときもある」が52.5%で最も多く、次いで「希望が持てる」が33.1%となっている。

中学生の保護者は、「希望が持てる」ときもあるが、持てないときもある」が57.1%で最も多く、次いで「希望が持てる」が27.7%となっている。

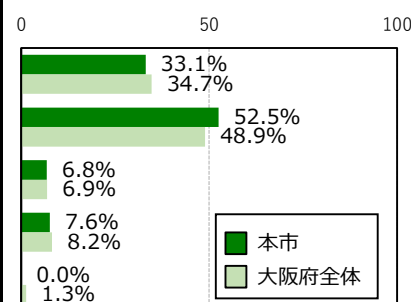
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
希望が持てる	79名	29.6%	14,080名	32.5%
希望が持てる」ときもあるが、持てないときもある	148名	55.4%	21,662名	50.0%
希望が持てない	22名	8.2%	3,239名	7.5%
わからない	18名	6.7%	3,718名	8.6%
無回答	-	-	601名	1.4%



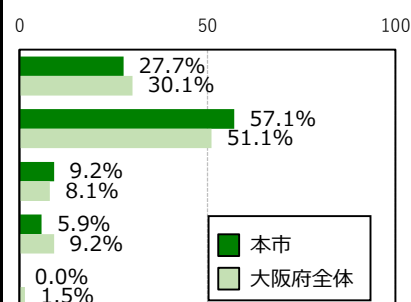
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
希望が持てる	39名	33.1%	7,896名	34.7%
希望が持てる」ときもあるが、持てないときもある	62名	52.5%	11,142名	48.9%
希望が持てない	8名	6.8%	1,575名	6.9%
わからない	9名	7.6%	1,874名	8.2%
無回答	-	-	299名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
希望が持てる	33名	27.7%	5,831名	30.1%
希望が持てる」ときもあるが、持てないときもある	68名	57.1%	9,890名	51.1%
希望が持てない	11名	9.2%	1,574名	8.1%
わからない	7名	5.9%	1,774名	9.2%
無回答	-	-	296名	1.5%



保護者のことについて

問21（3）ストレスを発散できるものがあるか

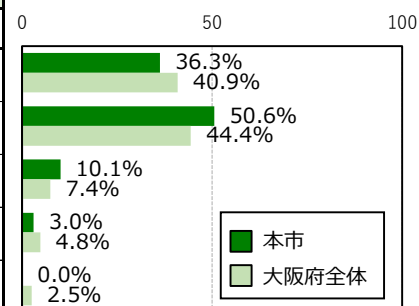
保護者全体は、「あるときもあれば、ないときもある」が50.6%で最も多く、次いで「ある」が36.3%となっている。

小学生の保護者は、「あるときもあれば、ないときもある」が45.8%で最も多く、次いで「ある」が39.8%となっている。

中学生の保護者は、「あるときもあれば、ないときもある」が56.3%で最も多く、次いで「ある」が31.1%となっている。

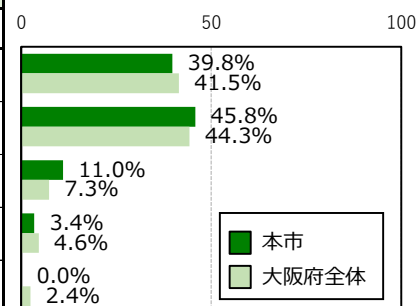
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	97名	36.3%	17,707名	40.9%
あるときもあれば、ないときもある	135名	50.6%	19,240名	44.4%
ない	27名	10.1%	3,221名	7.4%
わからない	8名	3.0%	2,061名	4.8%
無回答	-	-	1,071名	2.5%



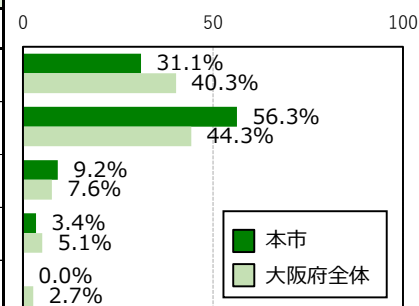
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	47名	39.8%	9,455名	41.5%
あるときもあれば、ないときもある	54名	45.8%	10,090名	44.3%
ない	13名	11.0%	1,668名	7.3%
わからない	4名	3.4%	1,037名	4.6%
無回答	-	-	536名	2.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ある	37名	31.1%	7,803名	40.3%
あるときもあれば、ないときもある	67名	56.3%	8,576名	44.3%
ない	11名	9.2%	1,467名	7.6%
わからない	4名	3.4%	990名	5.1%
無回答	-	-	529名	2.7%



保護者のことについて

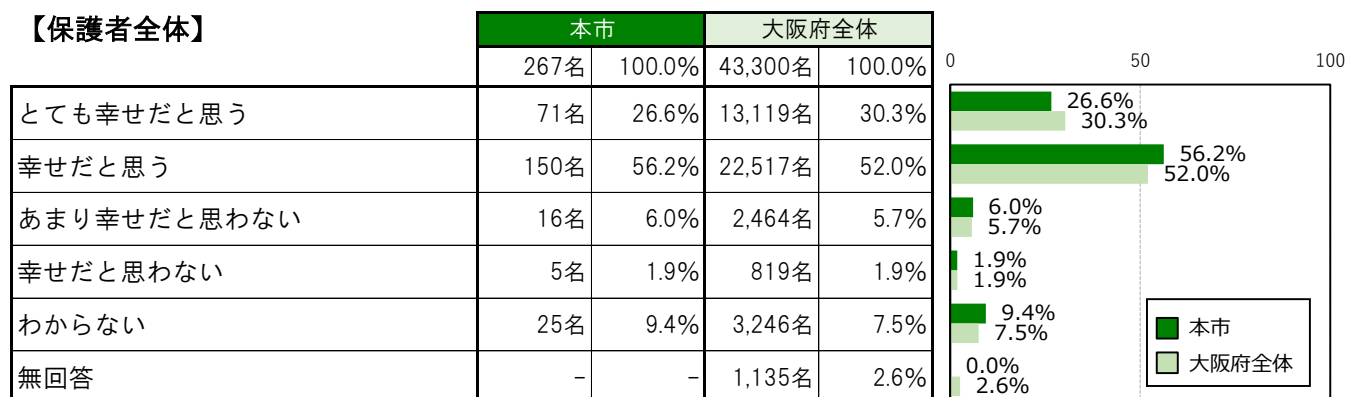
問21（４）自分が幸せだと思うか

保護者全体は、「幸せだと思う」が56.2%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が26.6%、「あまり幸せだと思わない」が6.0%となっている。

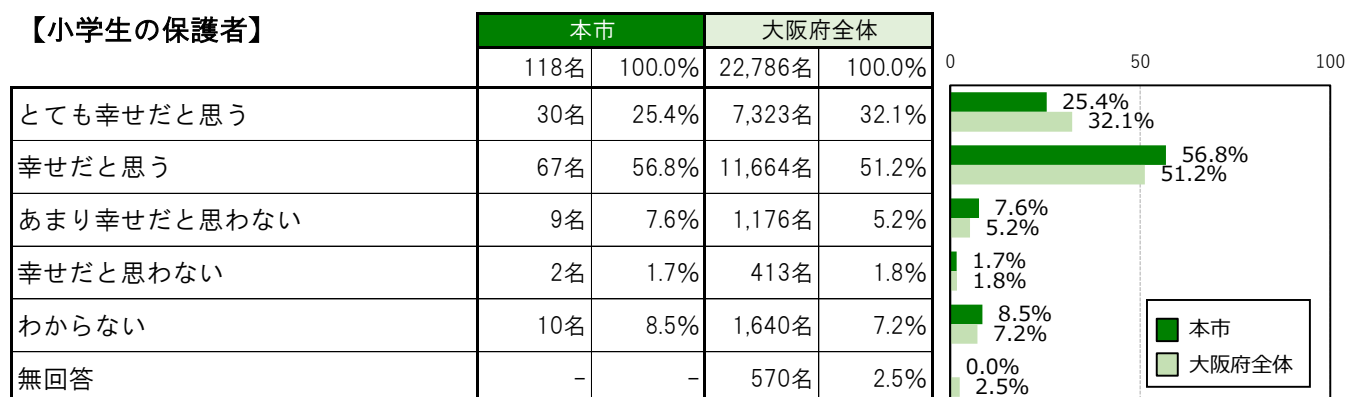
小学生の保護者は、「幸せだと思う」が56.8%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が25.4%、「あまり幸せだと思わない」が7.6%となっている。

中学生の保護者は、「幸せだと思う」が53.8%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が30.3%、「あまり幸せだと思わない」が4.2%となっている。

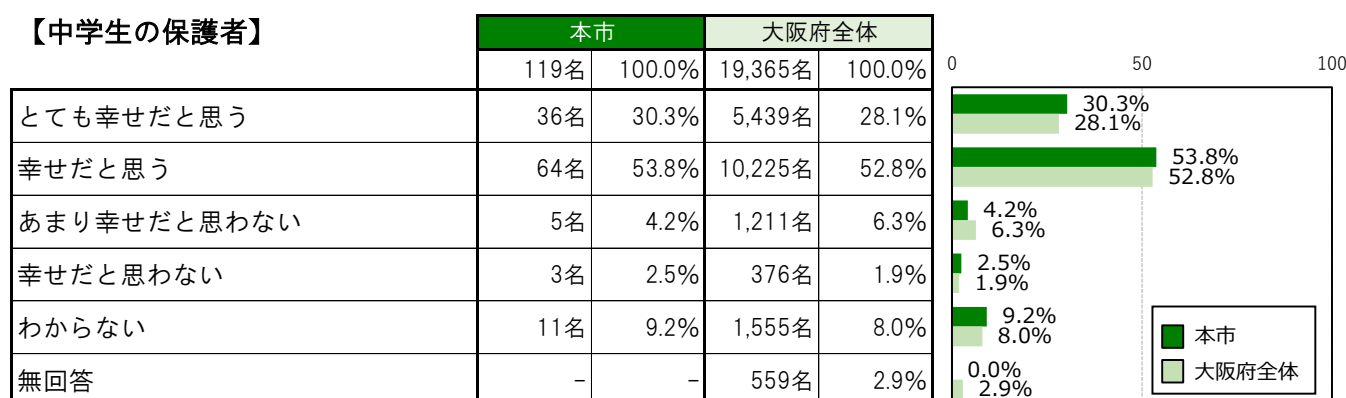
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



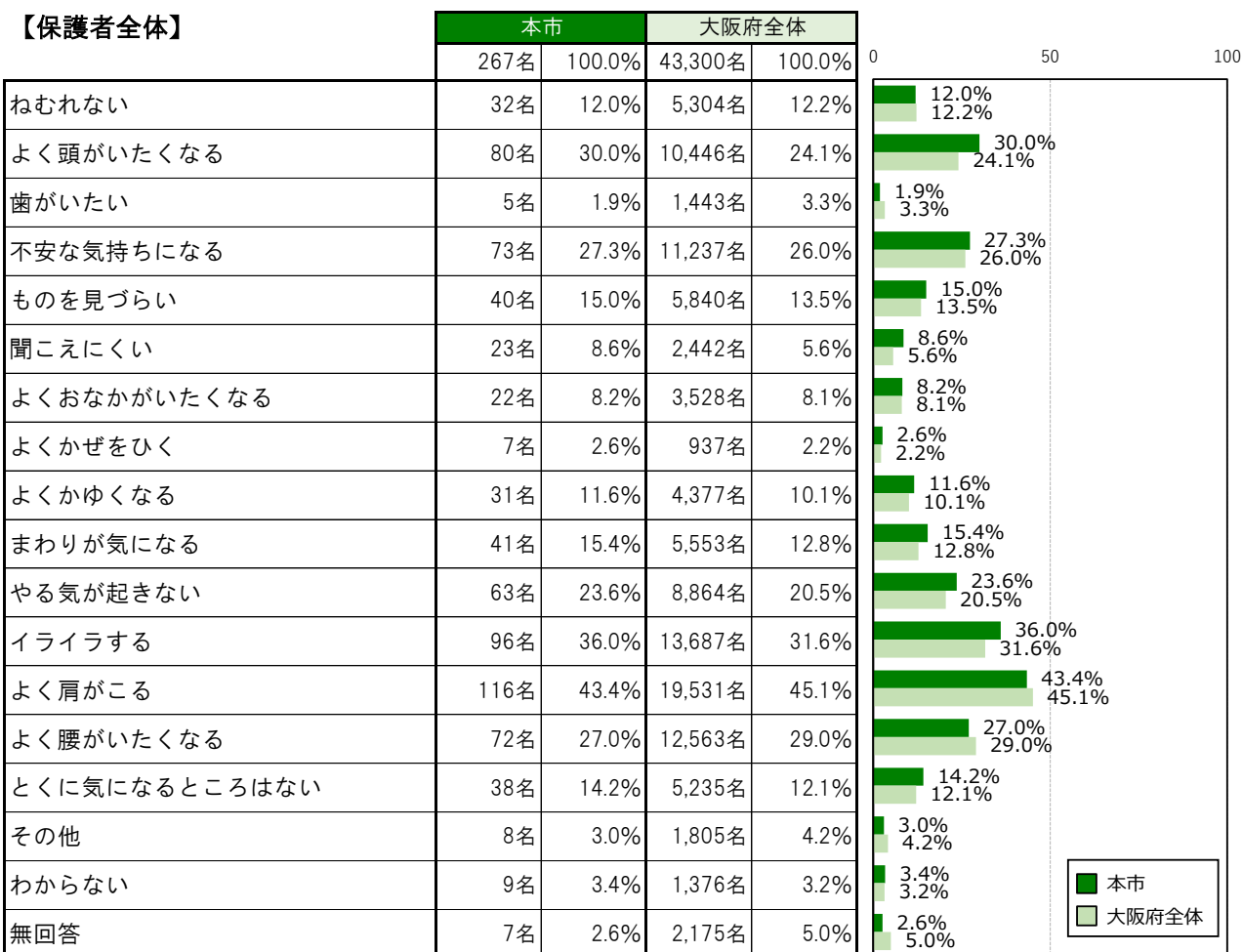
保護者のことについて

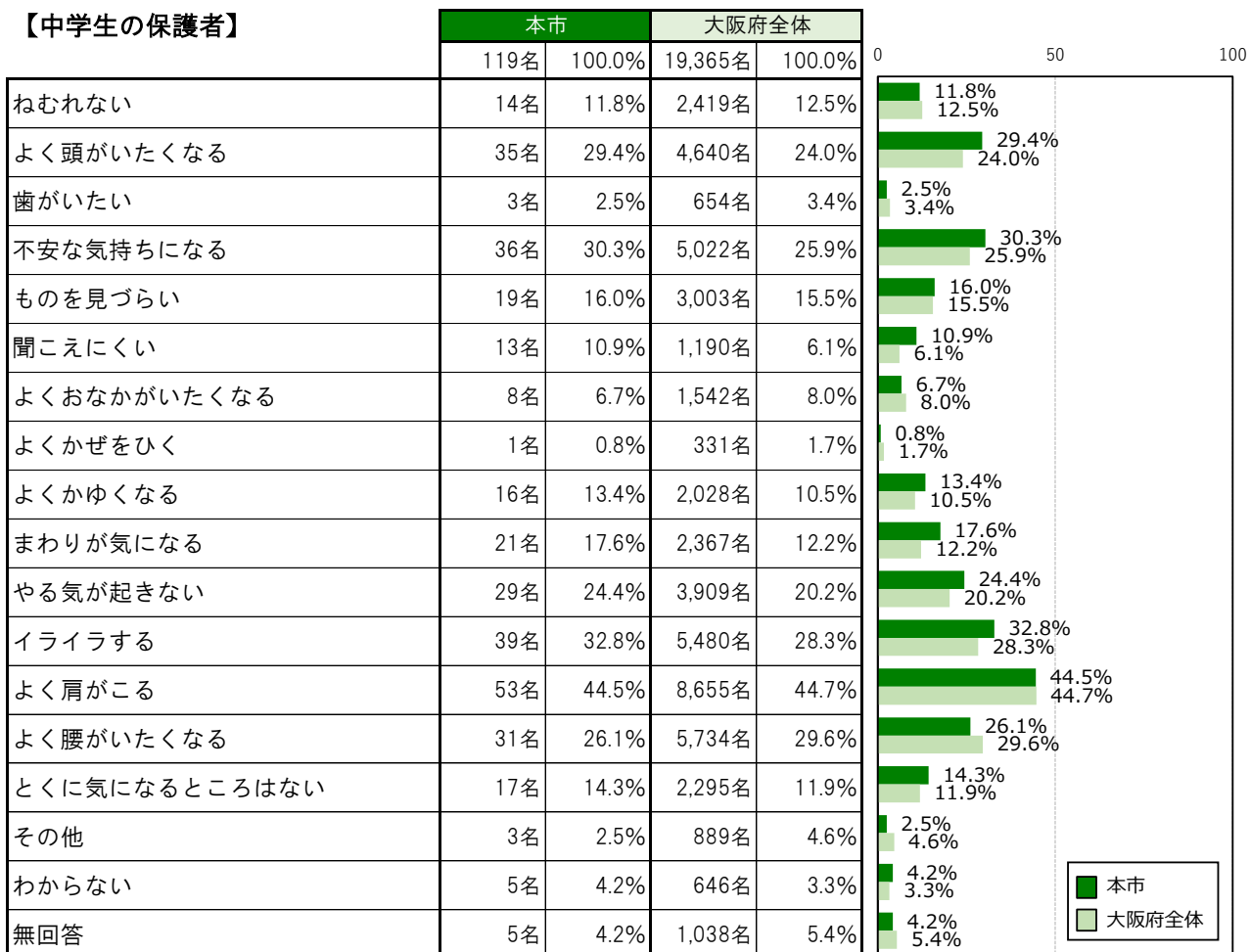
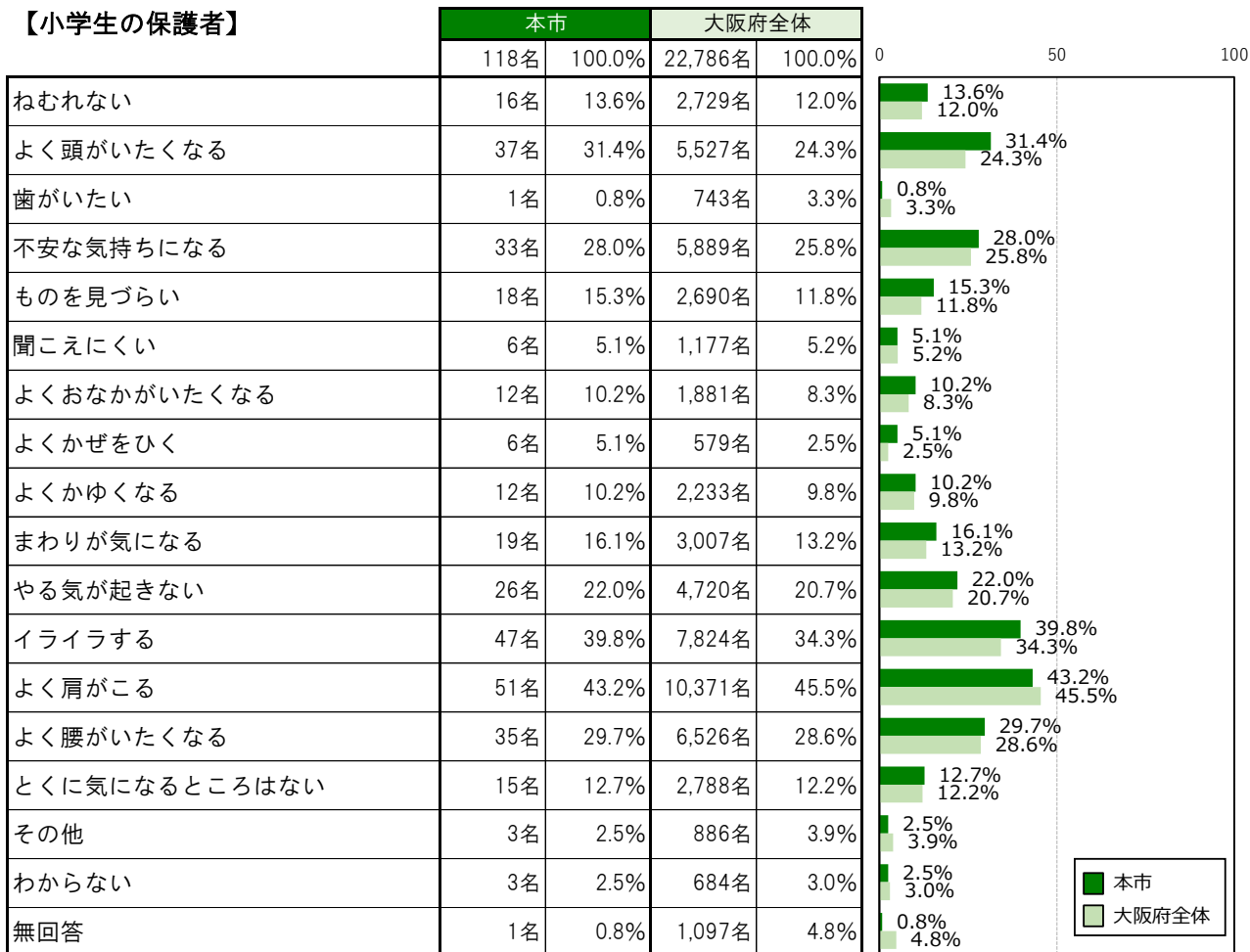
問22 自分の体や気持ちで気になること

保護者全体は、「よく肩がこる」が43.4%で最も多く、次いで「イライラする」が36.0%、「よく頭がいたくなる」が30.0%、「不安な気持ちになる」が27.3%となっている。

小学生の保護者は、「よく肩がこる」が43.2%で最も多く、次いで「イライラする」が39.8%、「よく頭がいたくなる」が31.4%、「よく腰がいたくなる」が29.7%となっている。

中学生の保護者は、「よく肩がこる」が44.5%で最も多く、次いで「イライラする」が32.8%、「不安な気持ちになる」が30.3%、「よく頭がいたくなる」が29.4%となっている。





保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 a 就学援助

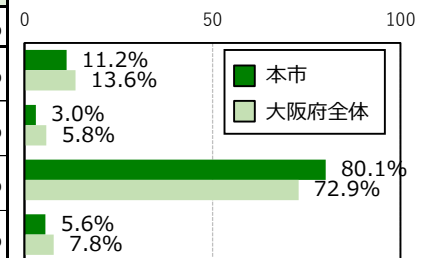
保護者全体は、「利用したことがない」が80.1%で最も多く、次いで「現在利用している」が11.2%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3.0%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が78.8%で最も多く、次いで「現在利用している」が8.5%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3.4%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が76.5%で最も多く、次いで「現在利用している」が16.8%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が3.4%となっている。

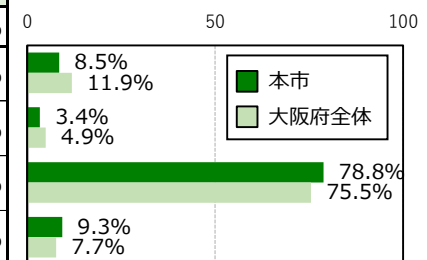
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,300名	100.0%
現在利用している	30名	11.2%	5,869名	13.6%
現在利用していないが、以前利用したことがある	8名	3.0%	2,503名	5.8%
利用したことがない	214名	80.1%	31,557名	72.9%
無回答	15名	5.6%	3,371名	7.8%



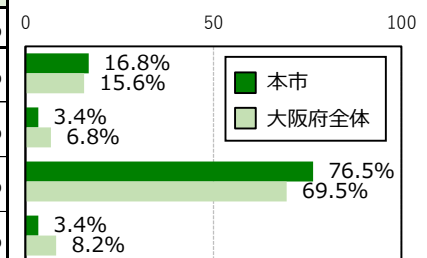
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,786名	100.0%
現在利用している	10名	8.5%	2,714名	11.9%
現在利用していないが、以前利用したことがある	4名	3.4%	1,110名	4.9%
利用したことがない	93名	78.8%	17,198名	75.5%
無回答	11名	9.3%	1,764名	7.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,365名	100.0%
現在利用している	20名	16.8%	3,020名	15.6%
現在利用していないが、以前利用したことがある	4名	3.4%	1,308名	6.8%
利用したことがない	91名	76.5%	13,453名	69.5%
無回答	4名	3.4%	1,584名	8.2%



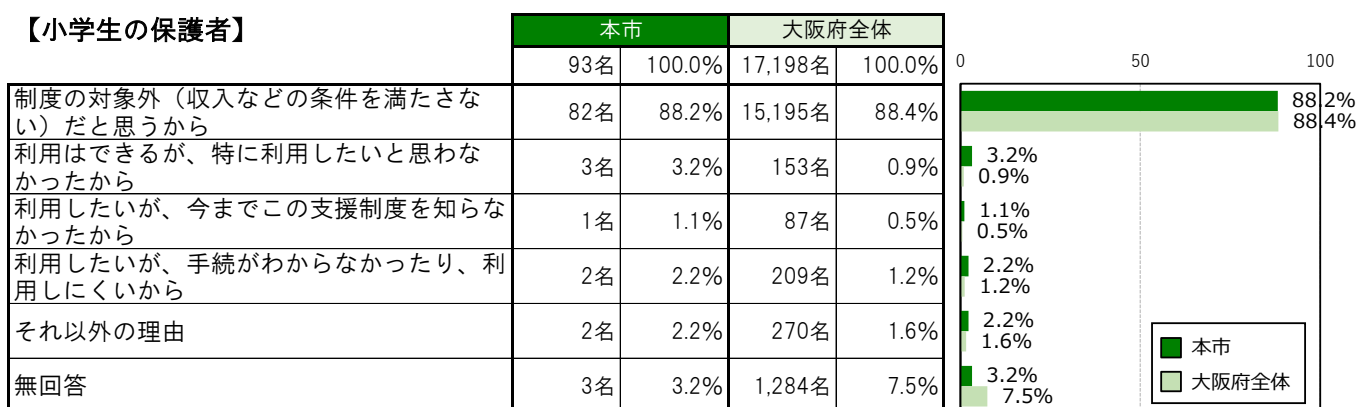
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 a 就学援助 <利用したことがない理由>

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が91.6%で最も多く、次いで「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.9%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.4%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.2%で最も多く、次いで「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が3.2%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」、「それ以外の理由」がそれぞれ2.2%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が93.4%で最も多く、次いで「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」がそれぞれ1.1%となっている。



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 b 生活保護

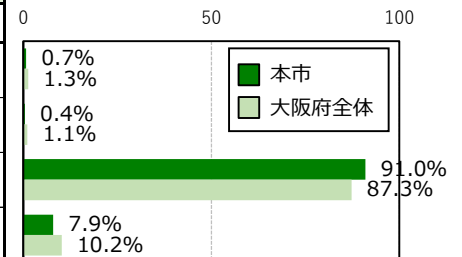
保護者全体は、「利用したことがない」が91.0%で最も多くなっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が87.3%で最も多くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が92.4%で最も多く、次いで「現在利用している」が1.7%となっている。

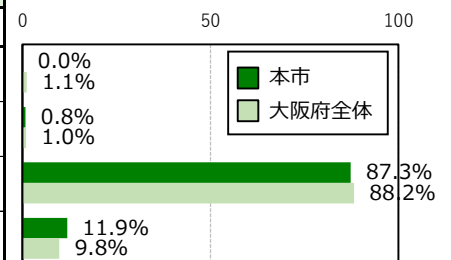
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,300名	100.0%
現在利用している	2名	0.7%	580名	1.3%
現在利用していないが、以前利用したことがある	1名	0.4%	497名	1.1%
利用したことがない	243名	91.0%	37,793名	87.3%
無回答	21名	7.9%	4,430名	10.2%



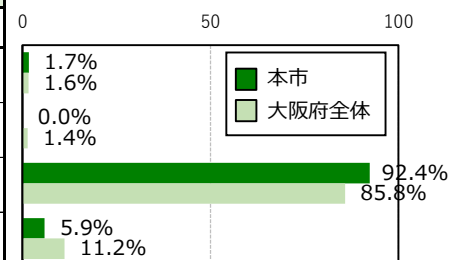
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,786名	100.0%
現在利用している	-	-	254名	1.1%
現在利用していないが、以前利用したことがある	1名	0.8%	218名	1.0%
利用したことがない	103名	87.3%	20,090名	88.2%
無回答	14名	11.9%	2,224名	9.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,365名	100.0%
現在利用している	2名	1.7%	316名	1.6%
現在利用していないが、以前利用したことがある	-	-	267名	1.4%
利用したことがない	110名	92.4%	16,608名	85.8%
無回答	7名	5.9%	2,174名	11.2%



保護者のことについて

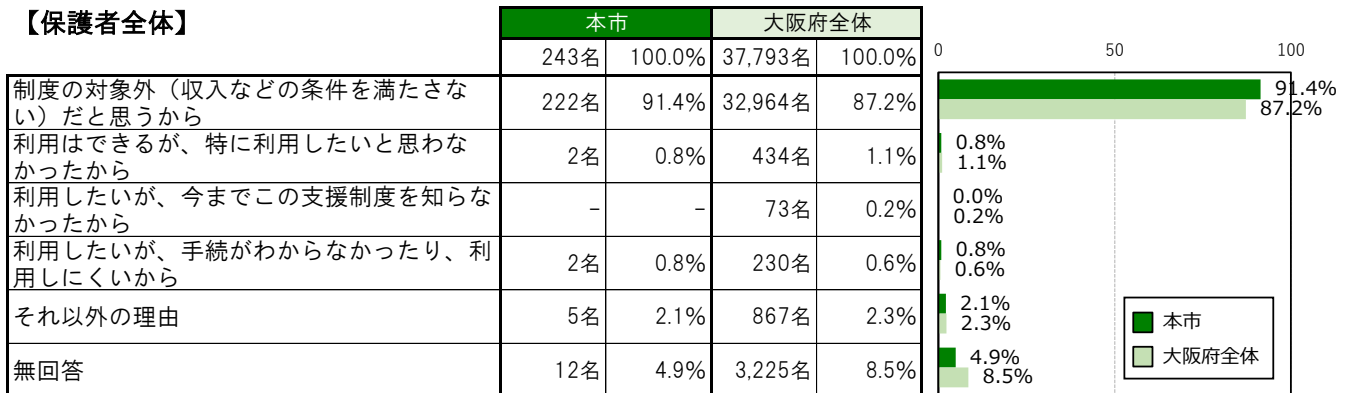
問23 支援制度の利用状況 b 生活保護 <利用したことがない理由>

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が91.4%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.1%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.3%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.9%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.9%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が92.7%で最も多くなっている。

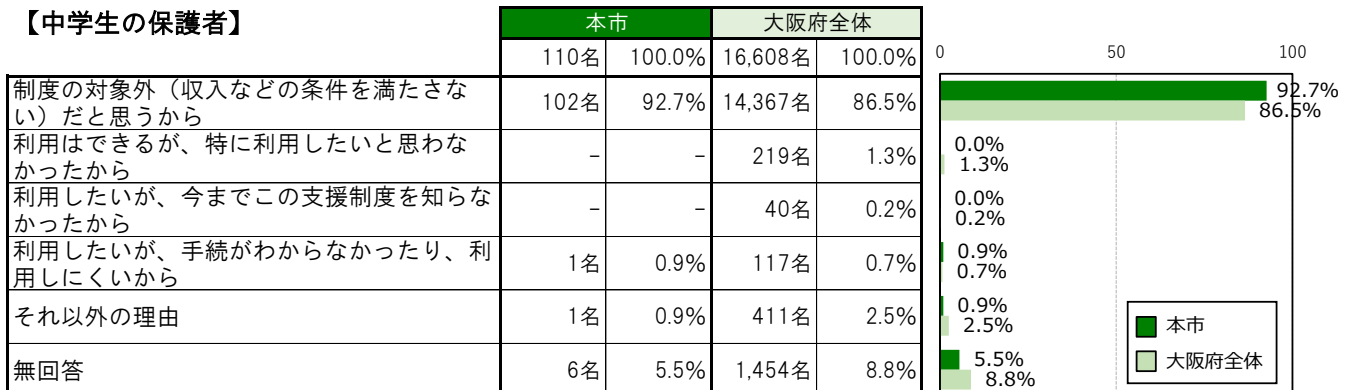
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 c 生活困窮者の自立支援相談窓口

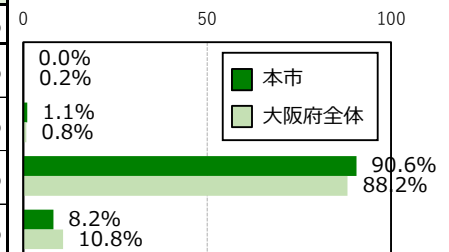
保護者全体は、「利用したことがない」が90.6%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.1%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が87.3%で最も多くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が91.6%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.7%となっている。

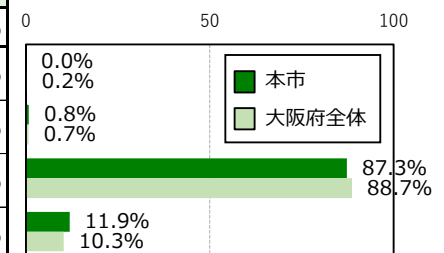
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,300名	100.0%
現在利用している	-	-	101名	0.2%
現在利用していないが、以前利用したことがある	3名	1.1%	338名	0.8%
利用したことがない	242名	90.6%	38,173名	88.2%
無回答	22名	8.2%	4,688名	10.8%



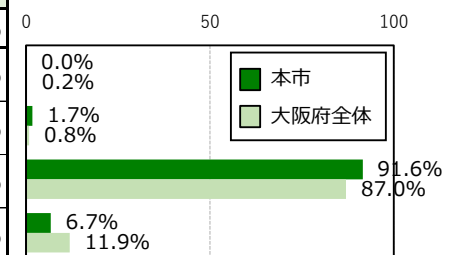
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,786名	100.0%
現在利用している	-	-	55名	0.2%
現在利用していないが、以前利用したことがある	1名	0.8%	163名	0.7%
利用したことがない	103名	87.3%	20,220名	88.7%
無回答	14名	11.9%	2,348名	10.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,365名	100.0%
現在利用している	-	-	44名	0.2%
現在利用していないが、以前利用したことがある	2名	1.7%	162名	0.8%
利用したことがない	109名	91.6%	16,851名	87.0%
無回答	8名	6.7%	2,308名	11.9%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 c 生活困窮者の自立支援相談窓口 <利用したことがない理由>

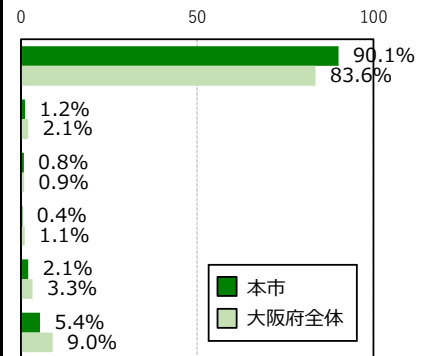
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.1%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.1%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.2%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が89.3%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.9%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.9%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が89.0%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.8%となっている。

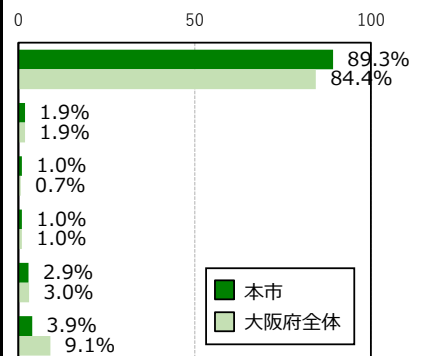
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	242名	100.0%	38,173名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	218名	90.1%	31,919名	83.6%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	3名	1.2%	790名	2.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	2名	0.8%	332名	0.9%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1名	0.4%	410名	1.1%
それ以外の理由	5名	2.1%	1,275名	3.3%
無回答	13名	5.4%	3,447名	9.0%



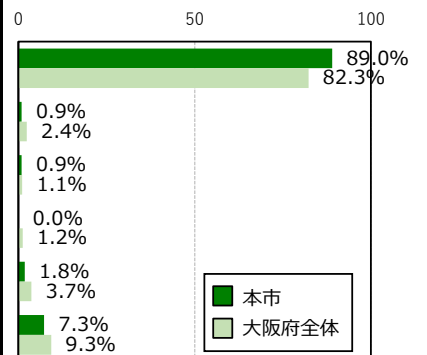
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	103名	100.0%	20,220名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	92名	89.3%	17,059名	84.4%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	2名	1.9%	382名	1.9%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	1名	1.0%	134名	0.7%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1名	1.0%	193名	1.0%
それ以外の理由	3名	2.9%	609名	3.0%
無回答	4名	3.9%	1,843名	9.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	109名	100.0%	16,851名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	97名	89.0%	13,863名	82.3%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	1名	0.9%	397名	2.4%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	1名	0.9%	192名	1.1%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	-	-	204名	1.2%
それ以外の理由	2名	1.8%	625名	3.7%
無回答	8名	7.3%	1,570名	9.3%



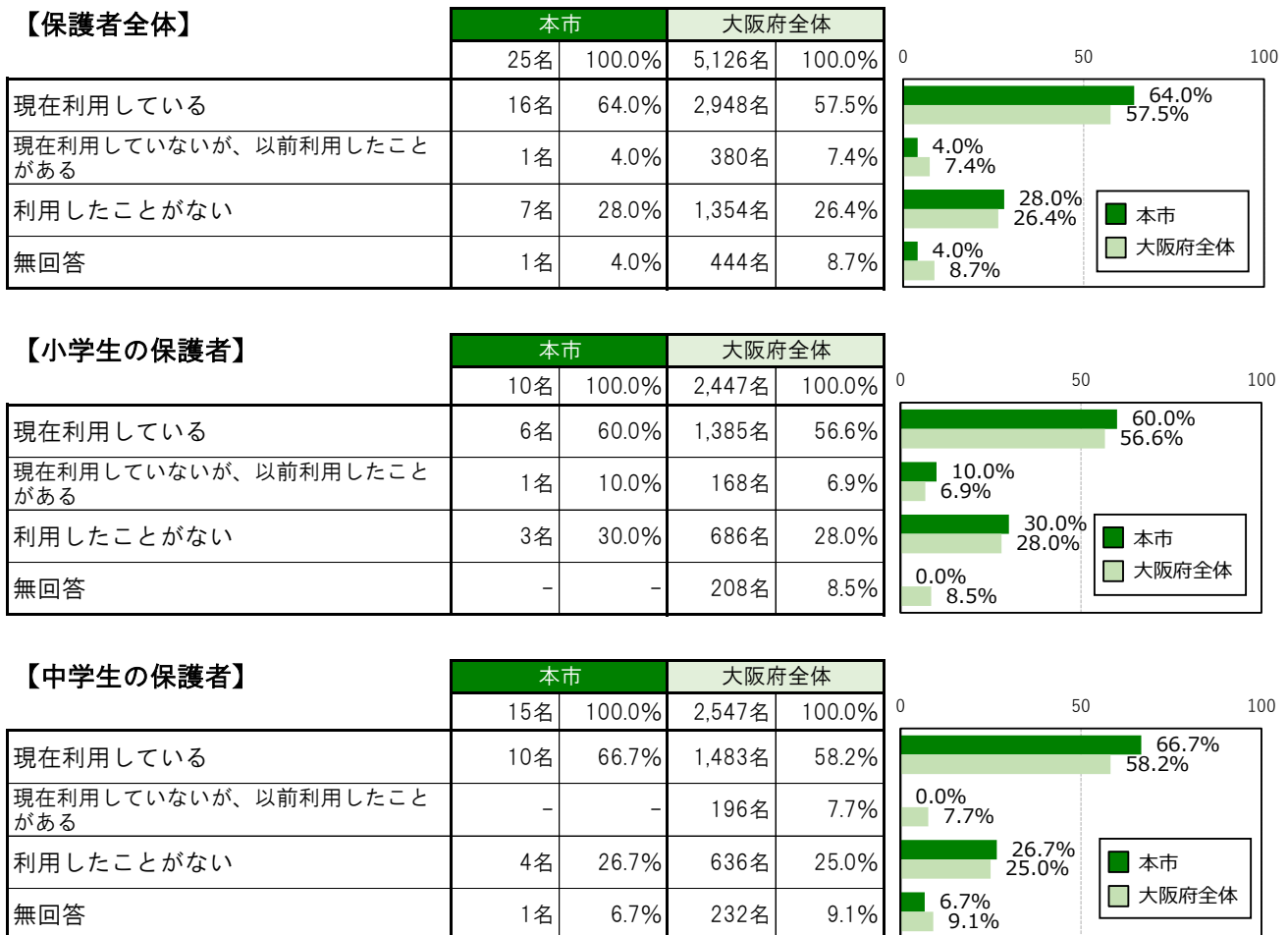
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 d 児童扶養手当（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯のみでみると、保護者全体は、「現在利用している」が64.0%で最も多く、次いで「利用したことがない」が28.0%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が4.0%となっている。

小学生の保護者は、「現在利用している」が60.0%で最も多く、次いで「利用したことがない」が30.0%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が10.0%となっている。

中学生の保護者は、「現在利用している」が66.7%で最も多く、次いで「利用したことがない」が26.7%となっている。

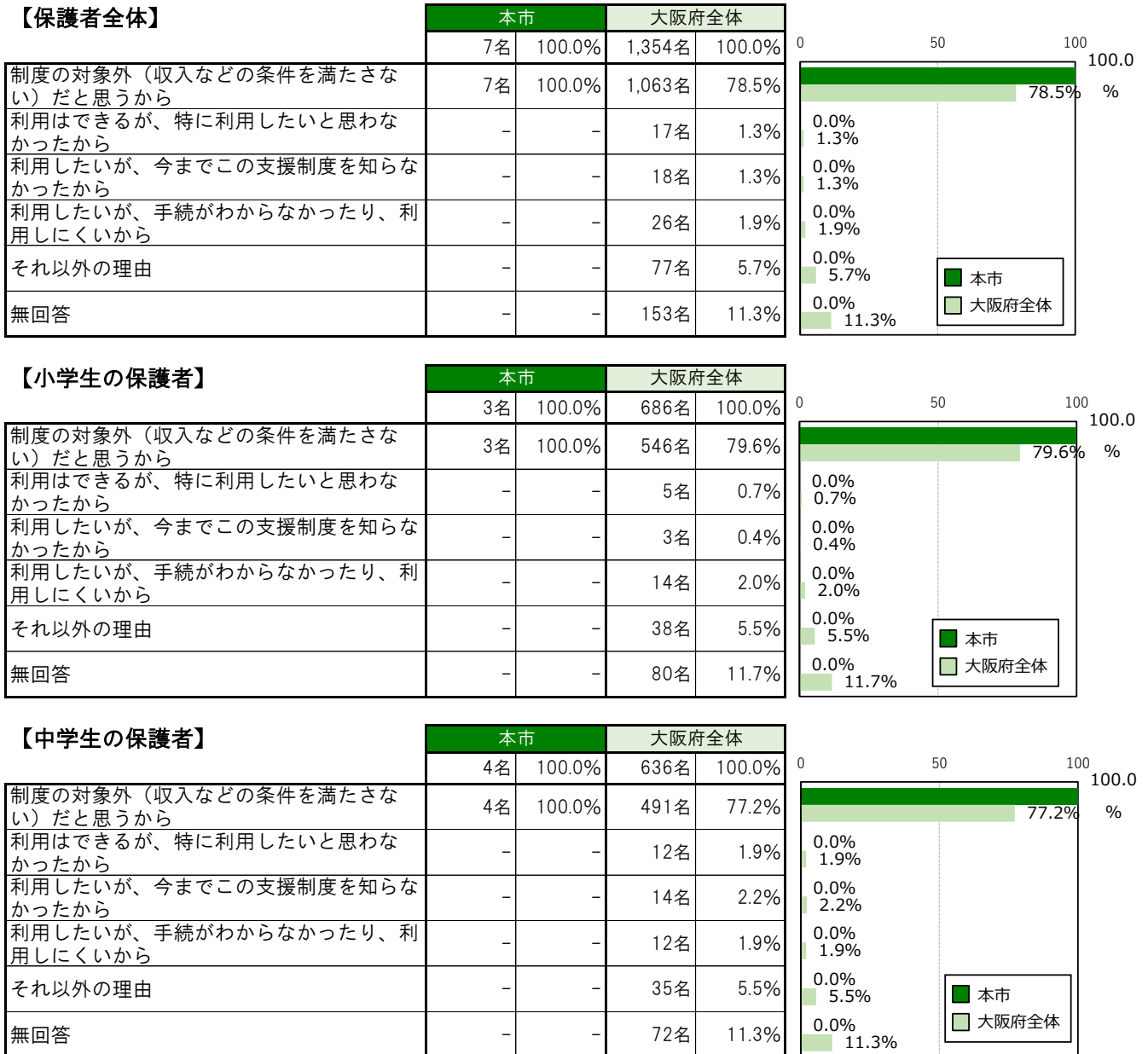


※ ひとり親世帯のみで集計。

保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 d 児童扶養手当 <利用したことがない理由> (ひとり親世帯のみ)

ひとり親世帯のみでみると、保護者全体、小学生の保護者、中学生の保護者はいずれも「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が100.0%となっている。



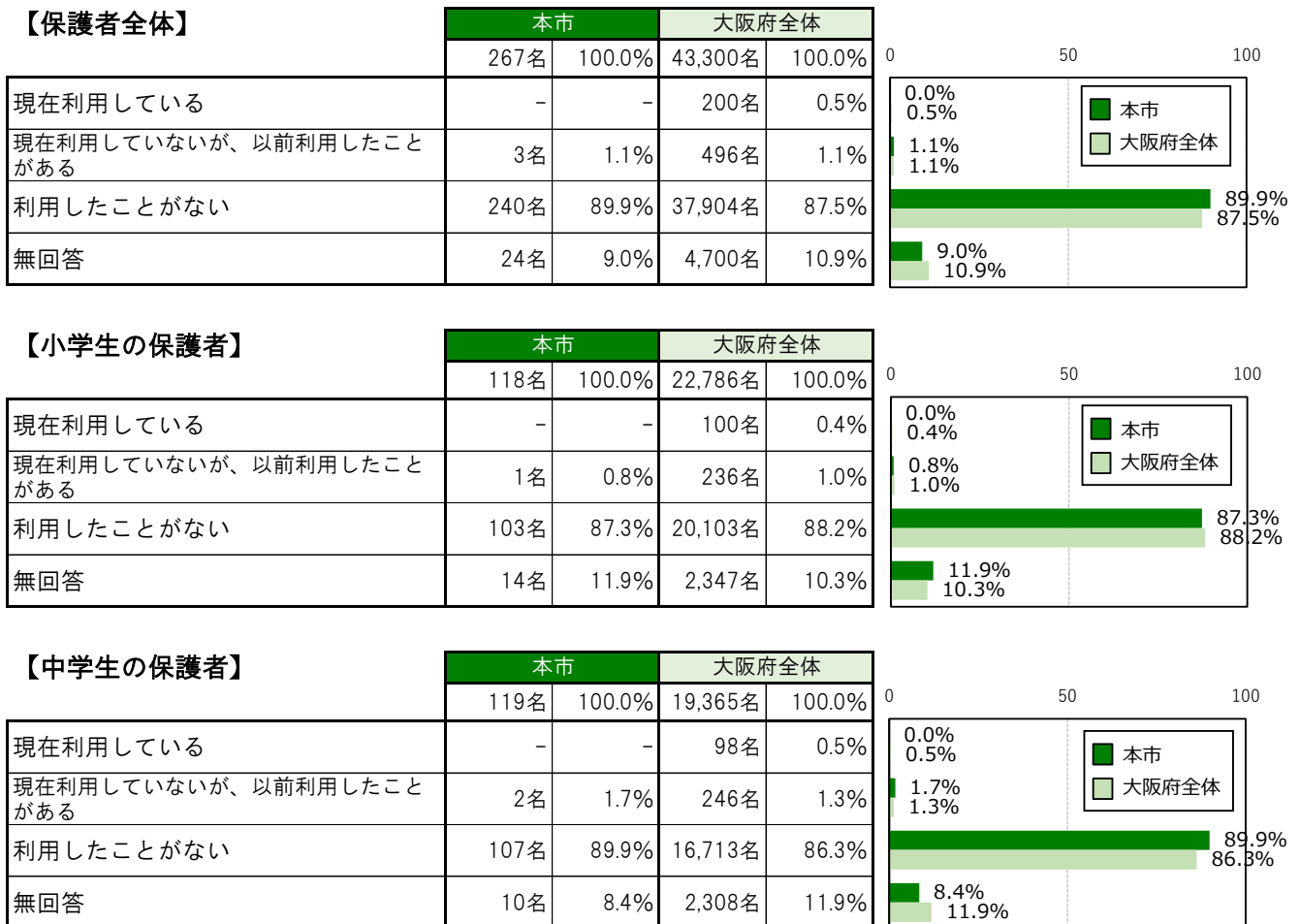
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 e 母子家庭等就業・自立支援センター

保護者全体は、「利用したことがない」が89.9%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.1%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が87.3%で最も多くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が89.9%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.7%となっている。



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 e 母子家庭等就業・自立支援センター <利用したことがない理由>

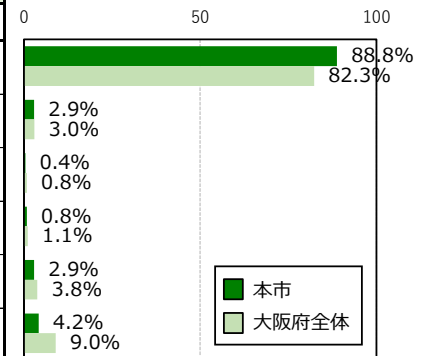
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.8%で最も多く、次いで「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」、「それ以外の理由」がそれぞれ2.9%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が86.4%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.9%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.9%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.8%で最も多く、次いで「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が3.7%、「それ以外の理由」が1.9%となっている。

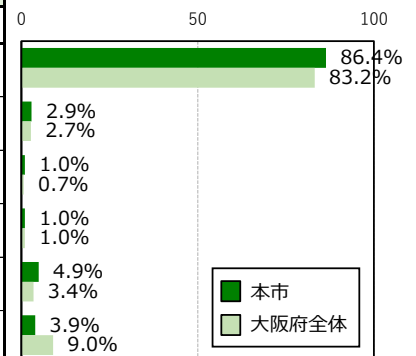
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	240名	100.0%	37,904名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	213名	88.8%	31,197名	82.3%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	7名	2.9%	1,139名	3.0%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	1名	0.4%	316名	0.8%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	2名	0.8%	401名	1.1%
それ以外の理由	7名	2.9%	1,448名	3.8%
無回答	10名	4.2%	3,403名	9.0%



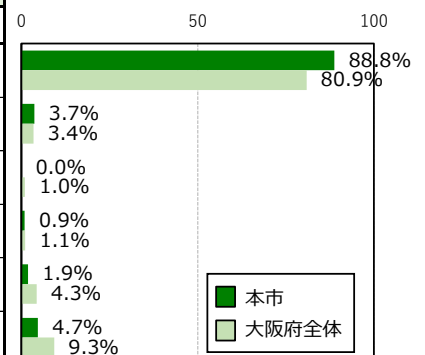
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	103名	100.0%	20,103名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	89名	86.4%	16,718名	83.2%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	3名	2.9%	540名	2.7%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	1名	1.0%	138名	0.7%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1名	1.0%	203名	1.0%
それ以外の理由	5名	4.9%	686名	3.4%
無回答	4名	3.9%	1,818名	9.0%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	107名	100.0%	16,713名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	95名	88.8%	13,516名	80.9%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	4名	3.7%	572名	3.4%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	169名	1.0%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1名	0.9%	188名	1.1%
それ以外の理由	2名	1.9%	714名	4.3%
無回答	5名	4.7%	1,554名	9.3%



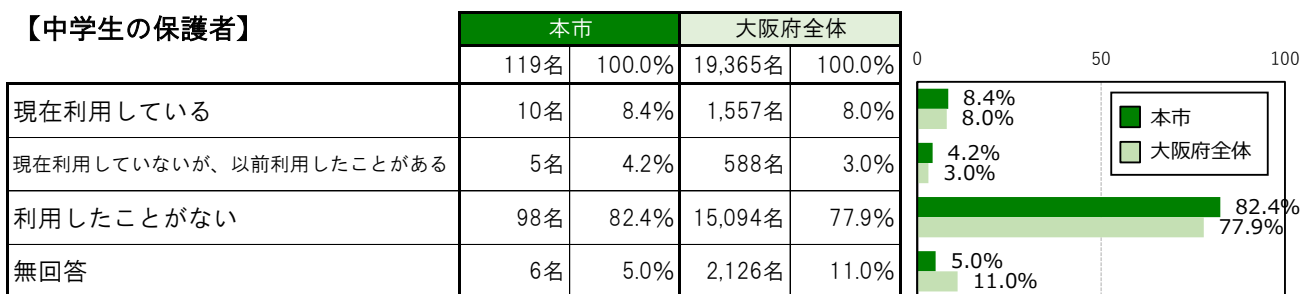
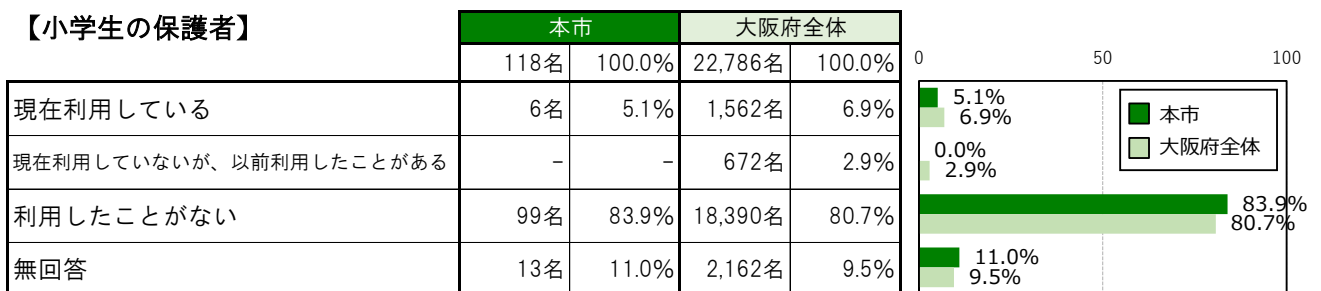
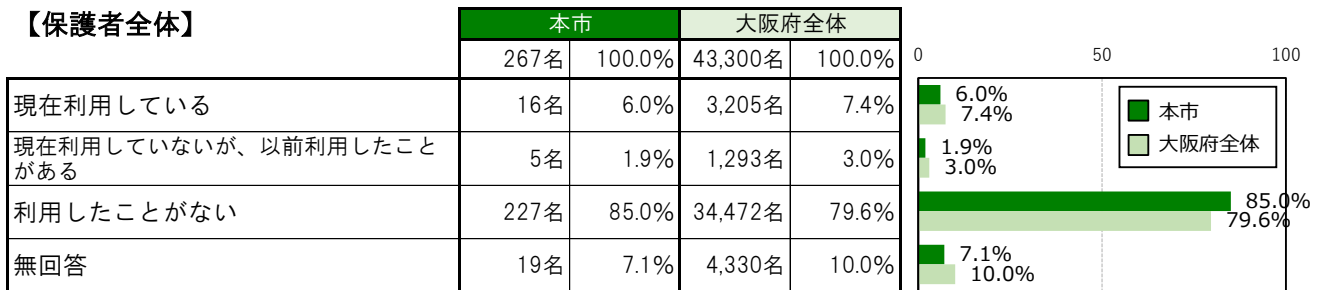
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 f 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金

保護者全体は、「利用したことがない」が85.0%で最も多く、次いで「現在利用している」が6.0%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.9%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が83.9%で最も多く、次いで「現在利用している」が5.1%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が82.4%で最も多く、次いで「現在利用している」が8.4%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が4.2%となっている。



保護者のことについて

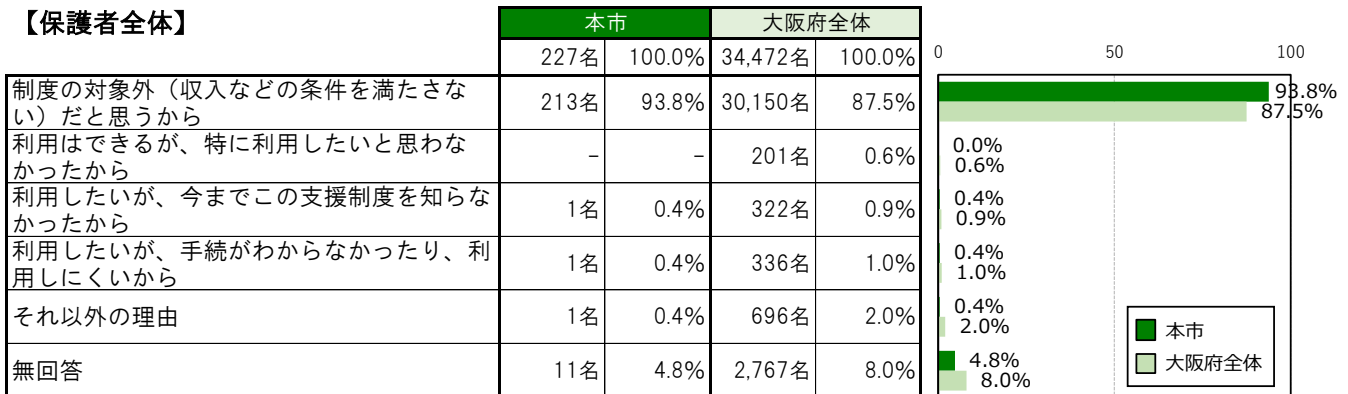
問23 支援制度の利用状況 f 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金
＜利用したことがない理由＞

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が93.8%で最も多くなっている。

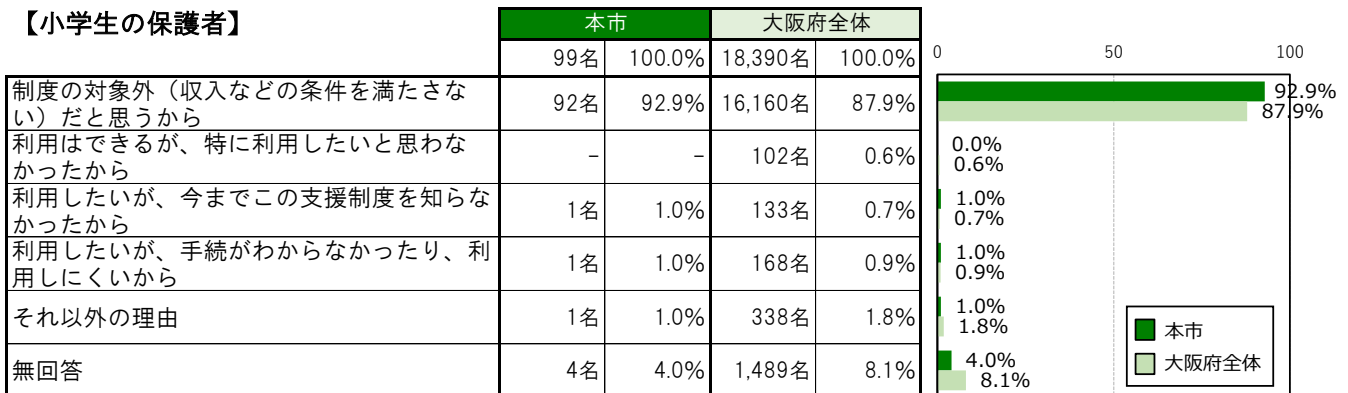
小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が92.9%で最も多く、次いで「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」、「それ以外の理由」がそれぞれ1.0%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が93.9%と最も多くなっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



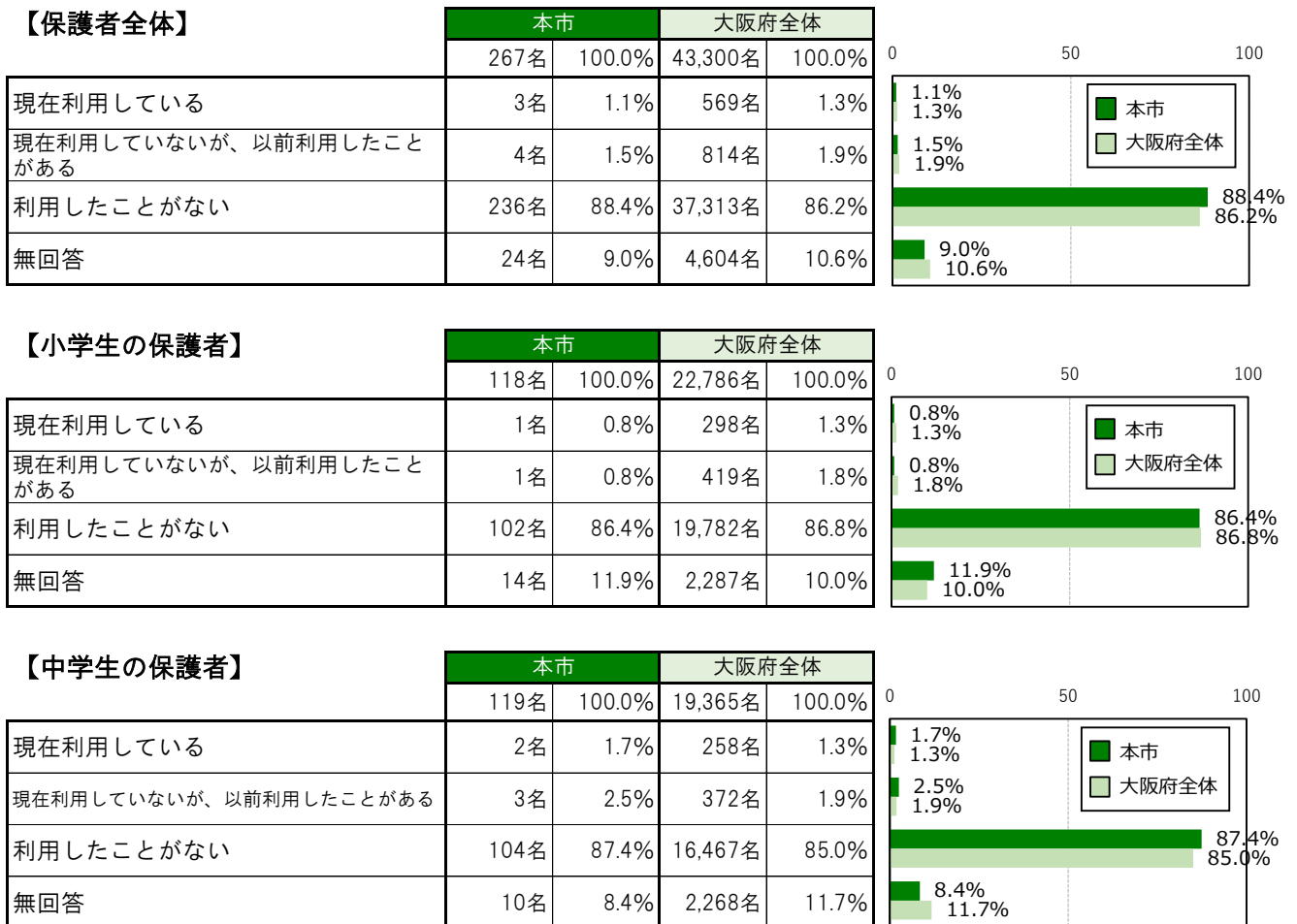
保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 g 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）

保護者全体は、「利用したことがない」が88.4%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.5%、「現在利用している」が1.1%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が86.4%で最も多くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が87.4%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.5%、「現在利用している」が1.7%となっている。



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 g 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）
＜利用したことがない理由＞

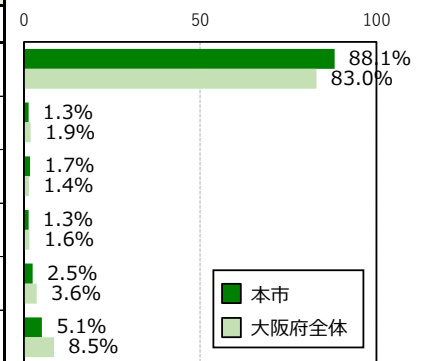
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.1%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.5%、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が1.7%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が86.3%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.9%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が2.9%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.0%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が87.5%で最も多く、次いで「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」が2.9%、「それ以外の理由」が1.9%となっている。

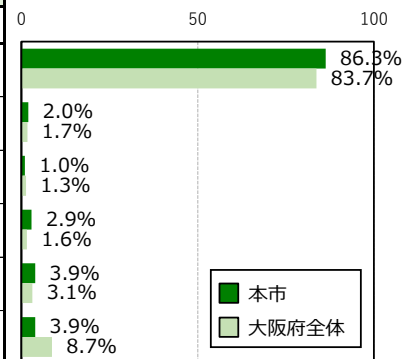
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	236名	100.0%	37,313名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	208名	88.1%	30,971名	83.0%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	3名	1.3%	708名	1.9%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	4名	1.7%	529名	1.4%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	3名	1.3%	611名	1.6%
それ以外の理由	6名	2.5%	1,331名	3.6%
無回答	12名	5.1%	3,163名	8.5%



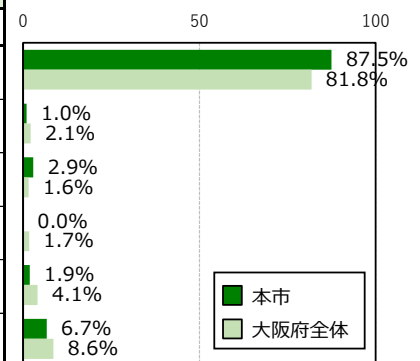
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	102名	100.0%	19,782名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	88名	86.3%	16,548名	83.7%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	2名	2.0%	343名	1.7%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	1名	1.0%	258名	1.3%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	3名	2.9%	308名	1.6%
それ以外の理由	4名	3.9%	613名	3.1%
無回答	4名	3.9%	1,712名	8.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	104名	100.0%	16,467名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	91名	87.5%	13,474名	81.8%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	1名	1.0%	350名	2.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	3名	2.9%	263名	1.6%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	-	-	284名	1.7%
それ以外の理由	2名	1.9%	675名	4.1%
無回答	7名	6.7%	1,421名	8.6%



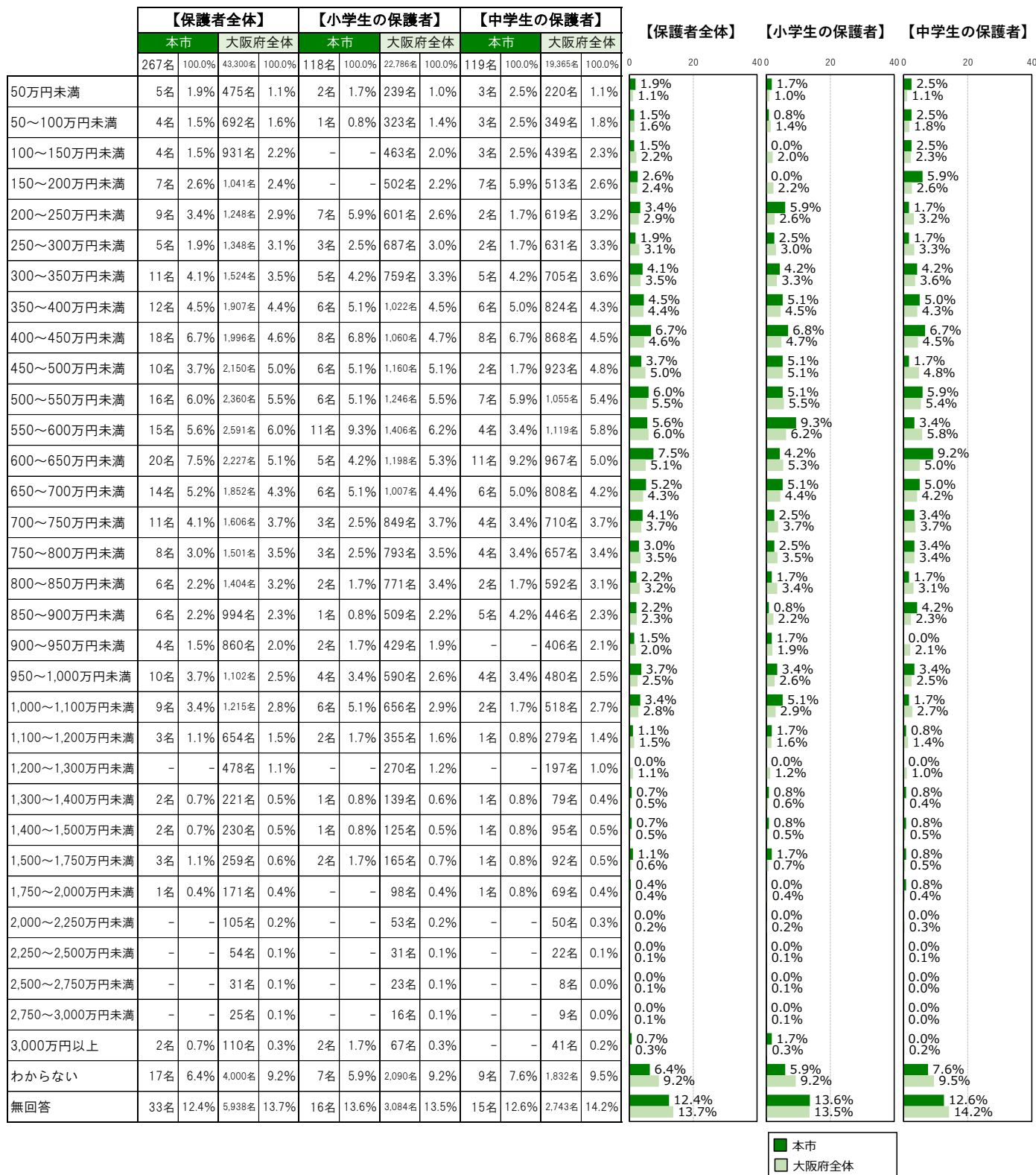
保護者のことについて

問24 世帯収入

保護者全体は、「600～650万円未満」が7.5%で最も多く、次いで「400～450万円未満」が6.7%、「500～550万円未満」が6.0%、「550～600万円未満」が5.6%となっている。

小学生の保護者は、「550～600万円未満」が9.3%で最も多く、次いで「400～450万円未満」が6.8%、「200～250万円未満」が5.9%、「350～400万円未満」、「450～500万円未満」、「500～550万円未満」、「650～700万円未満」、「1,000～1,100万円未満」がそれぞれ5.1%となっている。

中学生の保護者は、「600～650万円未満」が9.2%で最も多く、次いで「400～450万円未満」が6.7%、「150～200万円未満」、「500～550万円未満」がそれぞれ5.9%、「350～400万円未満」、「650～700万円未満」がそれぞれ5.0%となっている。



世帯収入額と世帯人数に基づく等価可処分所得

今回の調査において世帯所得をたずねているが、この回答のみで世帯の困窮の状態を測ることはできない。実際の生活上の体験や困りごとを把握するため、多面的に貧困を測る指標として、「等価可処分所得」およびそれらを基に区分した「困窮度」を用いている。

国民生活基礎調査における相対的貧困率は、一定基準（貧困線）を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合をいう。貧困線とは、等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額をいう。算出方法は、OECD（経済協力開発機構）の作成基準に基づく。EU、ユニセフ（ただし、常に60%基準採用ではない）は60%を採用している。

世帯の可処分所得はその世帯の世帯人員数に影響されるので、世帯人員数で調整する必要がある。最も簡単なのは「世帯の可処分所得÷世帯人員数」とすることであるが、生活水準を考えた場合、世帯人員数が少ない方が生活コストが割高になることを考慮する必要がある、このため、世帯人員数の違いを調整するにあたって「世帯人員数の平方根」を用いている。

出典：厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/20-21a-01.pdf>

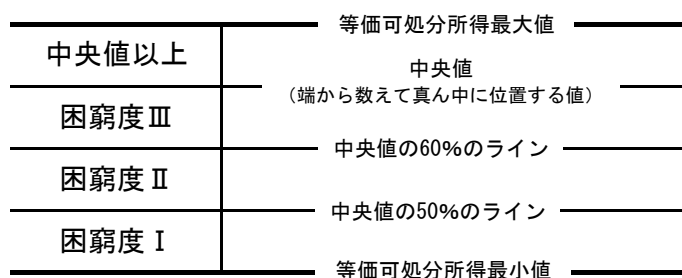
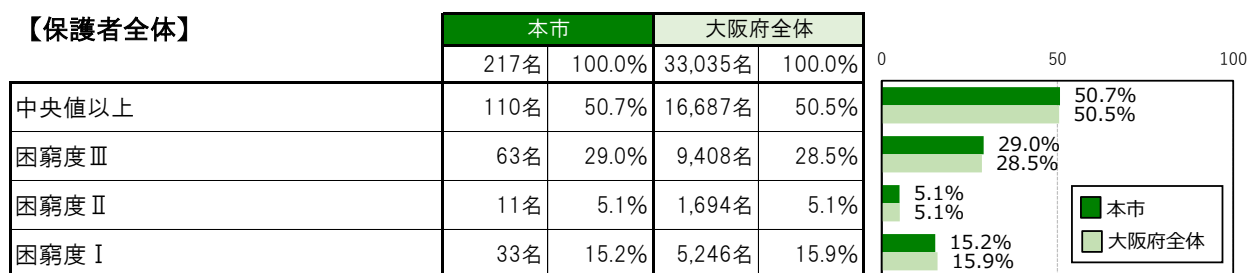


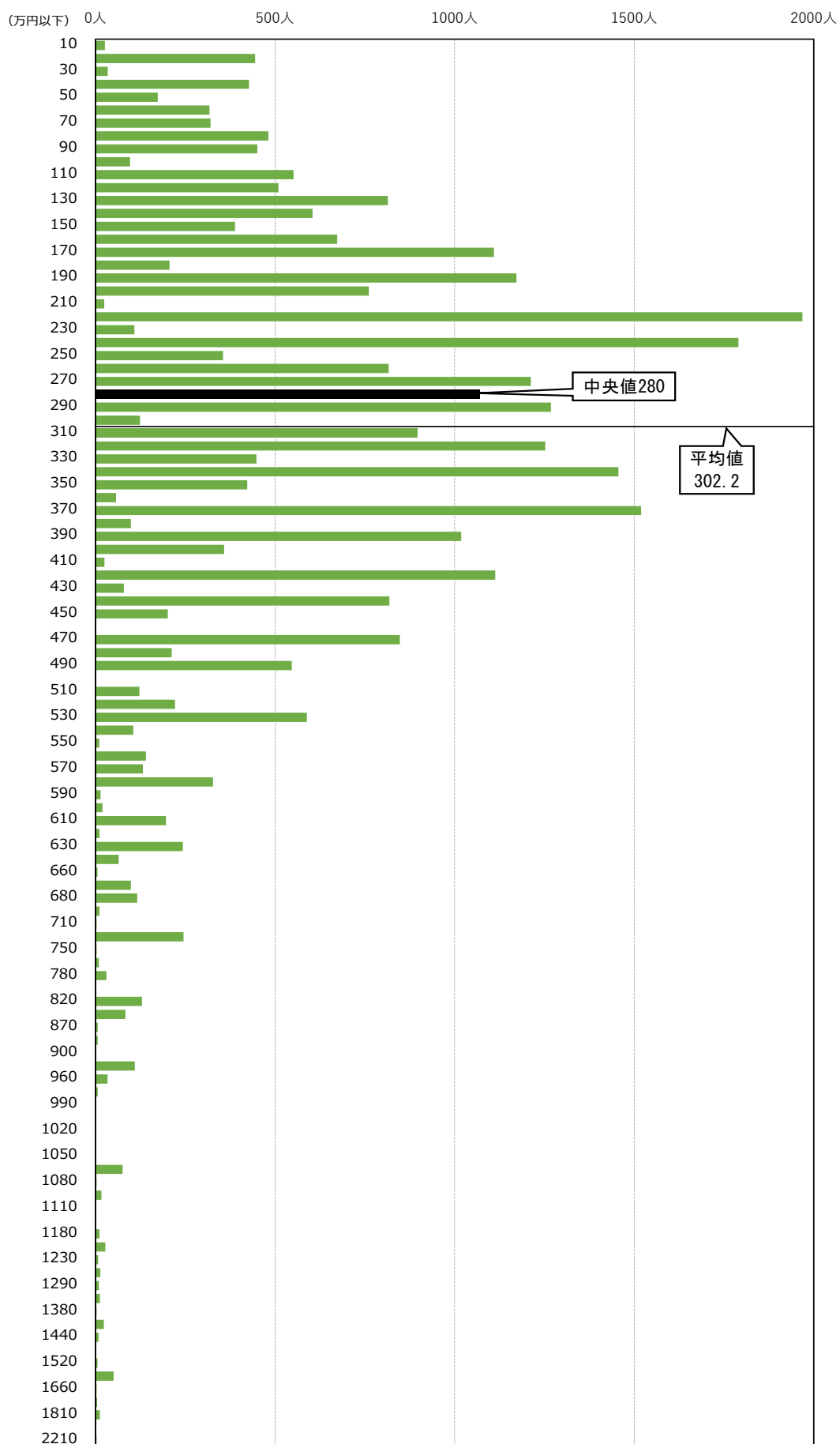
図 困窮度の分類と基準

中央値は280万円、国の定める基準で行くと相対的貧困率は15.2%であった。
なお、大阪府内全自治体における相対的貧困率は15.9%であった。

【保護者全体】



保護者全体は、「中央値以上」が50.7%で最も多く、次いで「困窮度Ⅲ」が29.0%、「困窮度Ⅰ」が15.2%、「困窮度Ⅱ」が5.1%となっている。



※ 2016年度調査では、中央値255万円、平均値272.7万円であった。
注) 2023年度調査ではグラフ作成方法を改訂している。

図 大阪府内全自治体における等価可処分所得の分布

保護者のことについて

問25 同居家族が新型コロナウイルスに感染した延べ回数

保護者全体は、「いない」が29.6%で最も多く、次いで「1回」が19.5%、「3回」、「4回」がそれぞれ13.9%、「2回」が10.1%となっている。

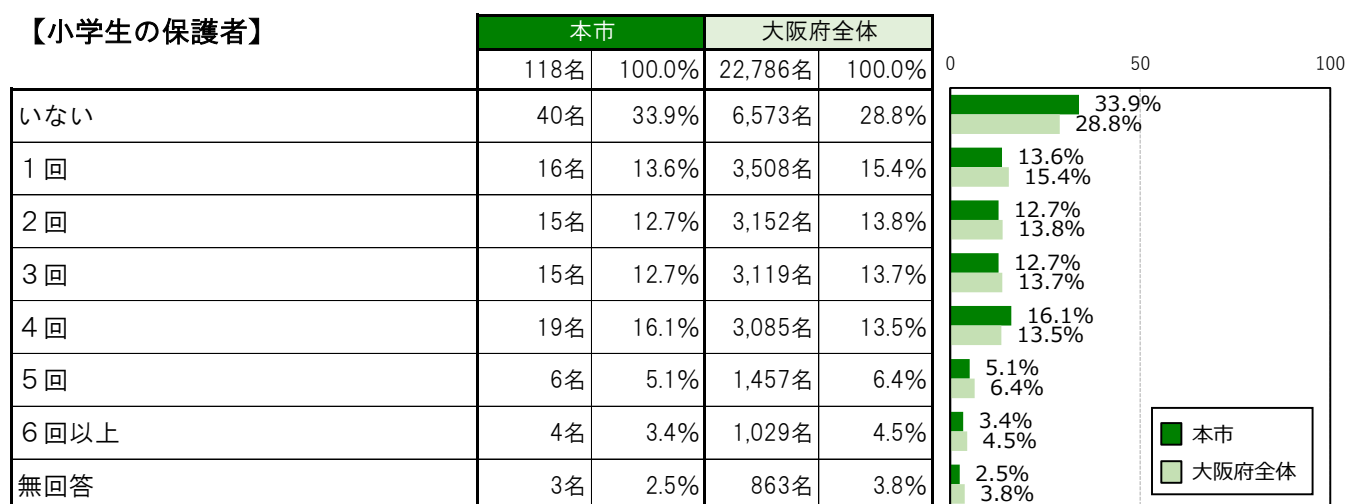
小学生の保護者は、「いない」が33.9%で最も多く、次いで「4回」が16.1%、「1回」が13.6%、「2回」、「3回」がそれぞれ12.7%となっている。

中学生の保護者は、「1回」が25.2%で最も多く、次いで「いない」が24.4%、「3回」が16.0%、「4回」が10.9%となっている。

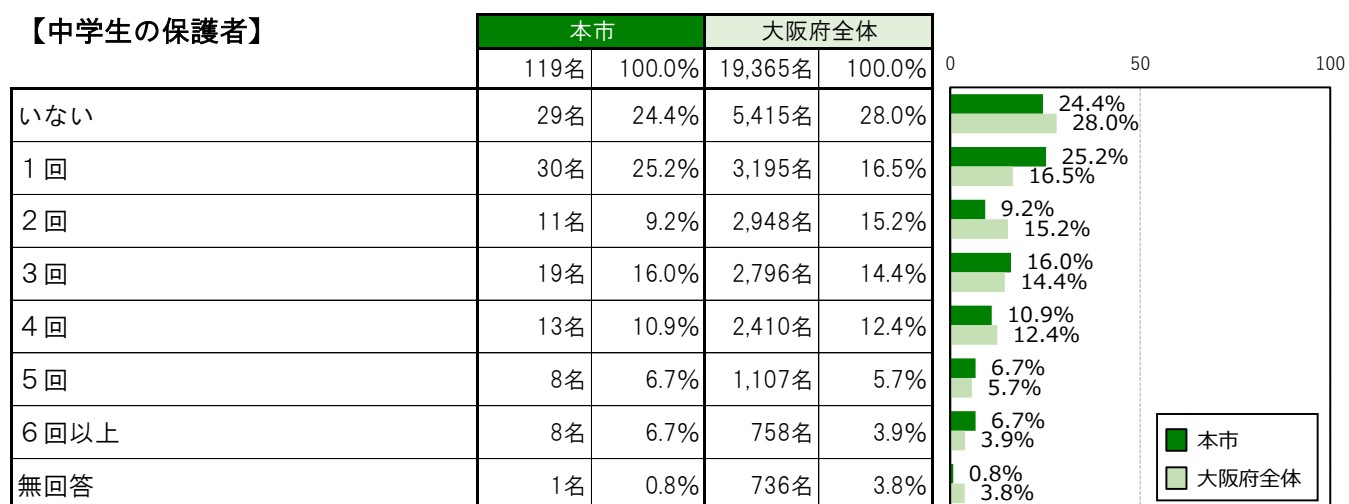
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問26（１）住居の間取り

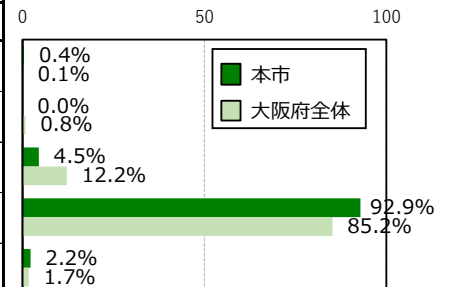
保護者全体は、「居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上」が92.9%で最も多く、次いで「居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）」が4.5%となっている。

小学生の保護者は、「居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上」が93.2%で最も多く、次いで「居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）」が2.5%となっている。

中学生の保護者は、「居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上」が94.1%で最も多く、次いで「居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）」が5.0%となっている。

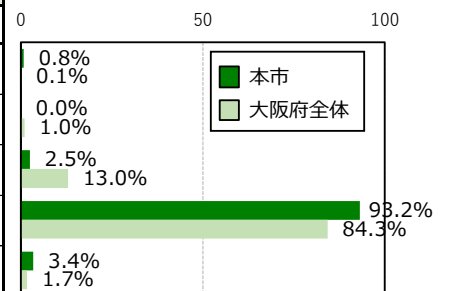
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	267名	100.0%	43,300名	100.0%
ワンルーム	1名	0.4%	43名	0.1%
居室１部屋（１Ｋ、１ＤＫ、１ＬＤＫ）	-	-	358名	0.8%
居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）	12名	4.5%	5,272名	12.2%
居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上	248名	92.9%	36,876名	85.2%
無回答	6名	2.2%	751名	1.7%



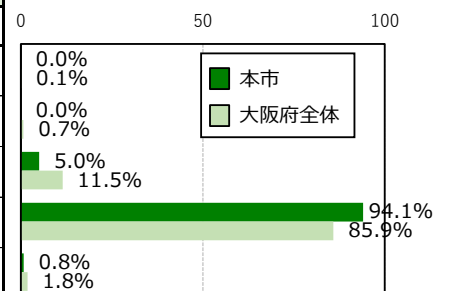
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	118名	100.0%	22,786名	100.0%
ワンルーム	1名	0.8%	21名	0.1%
居室１部屋（１Ｋ、１ＤＫ、１ＬＤＫ）	-	-	217名	1.0%
居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）	3名	2.5%	2,951名	13.0%
居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上	110名	93.2%	19,206名	84.3%
無回答	4名	3.4%	391名	1.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	119名	100.0%	19,365名	100.0%
ワンルーム	-	-	21名	0.1%
居室１部屋（１Ｋ、１ＤＫ、１ＬＤＫ）	-	-	134名	0.7%
居室２部屋（２Ｋ、２ＤＫ、２ＬＤＫ）	6名	5.0%	2,233名	11.5%
居室３部屋（３Ｋ、３ＤＫ、３ＬＤＫ）以上	112名	94.1%	16,638名	85.9%
無回答	1名	0.8%	339名	1.8%



保護者のことについて

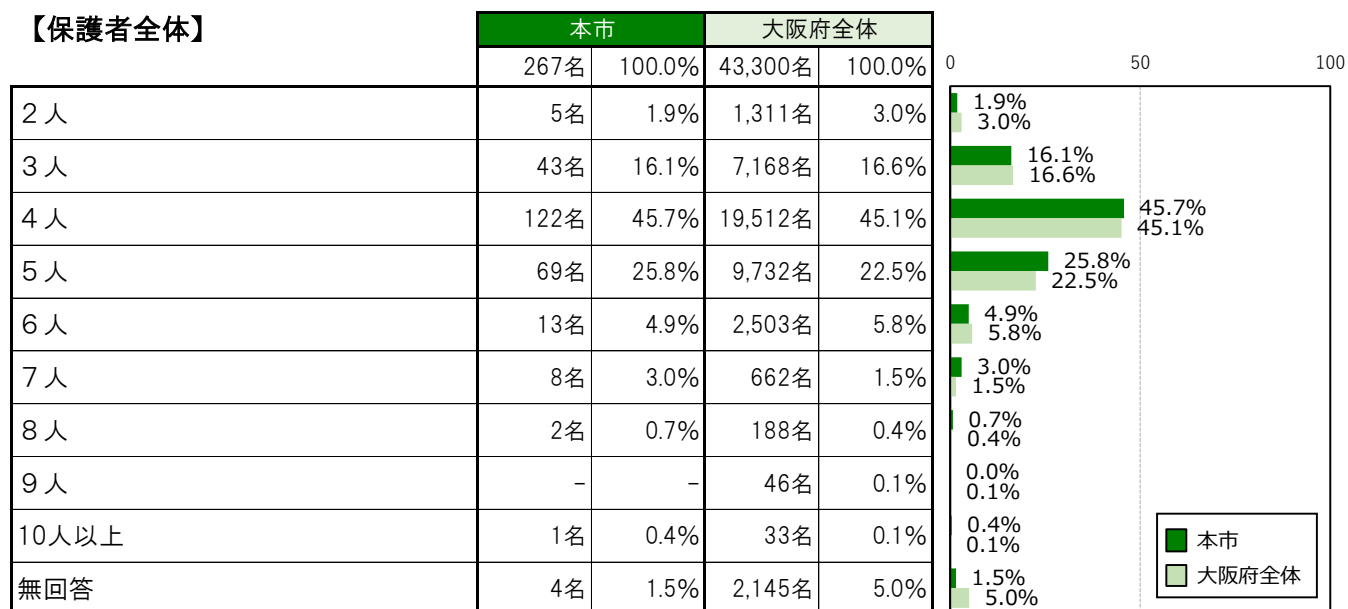
問26（2）同居人数

保護者全体は、「4人」が45.7%で最も多く、次いで「5人」が25.8%、「3人」が16.1%、「6人」が4.9%となっている。

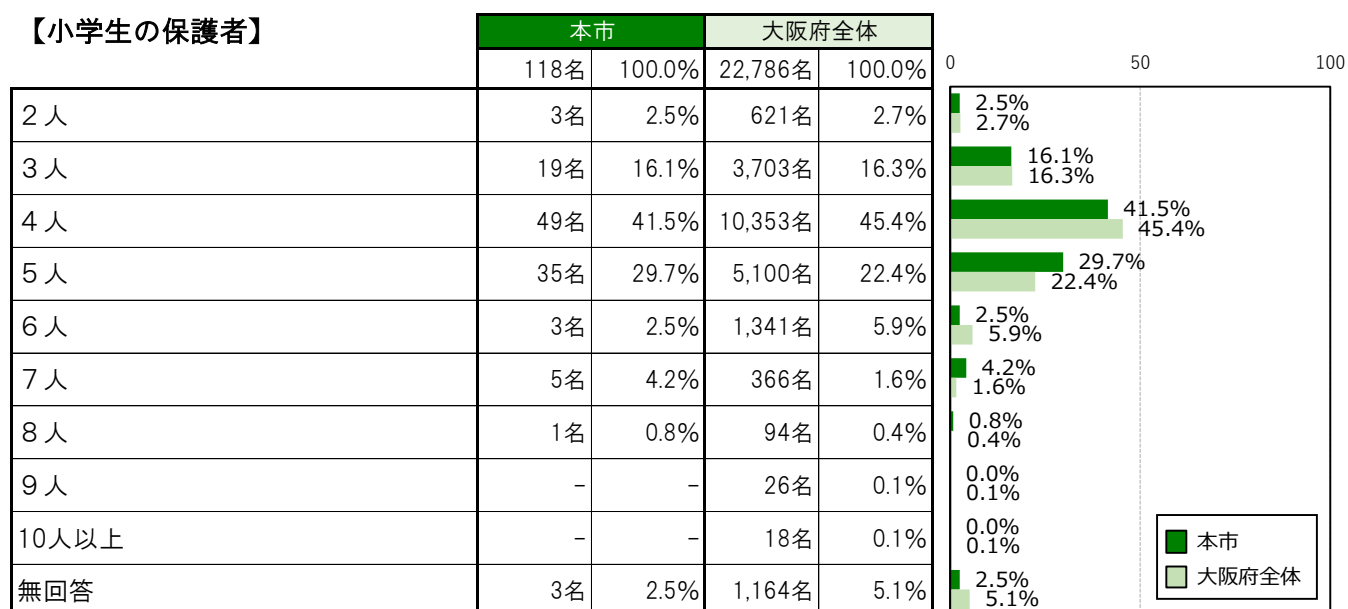
小学生の保護者は、「4人」が41.5%で最も多く、次いで「5人」が29.7%、「3人」が16.1%、「7人」が4.2%となっている。

中学生の保護者は、「4人」が46.2%で最も多く、次いで「5人」が22.7%、「3人」が18.5%、「6人」が7.6%となっている。

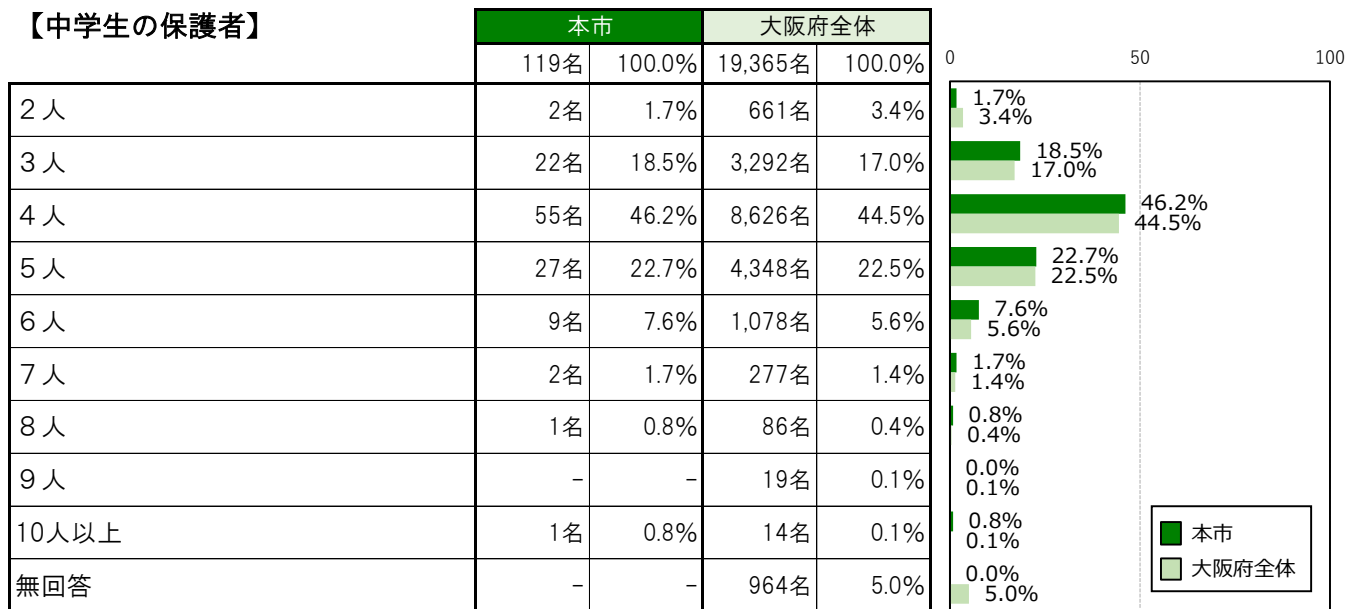
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



3. クロス集計および分析結果

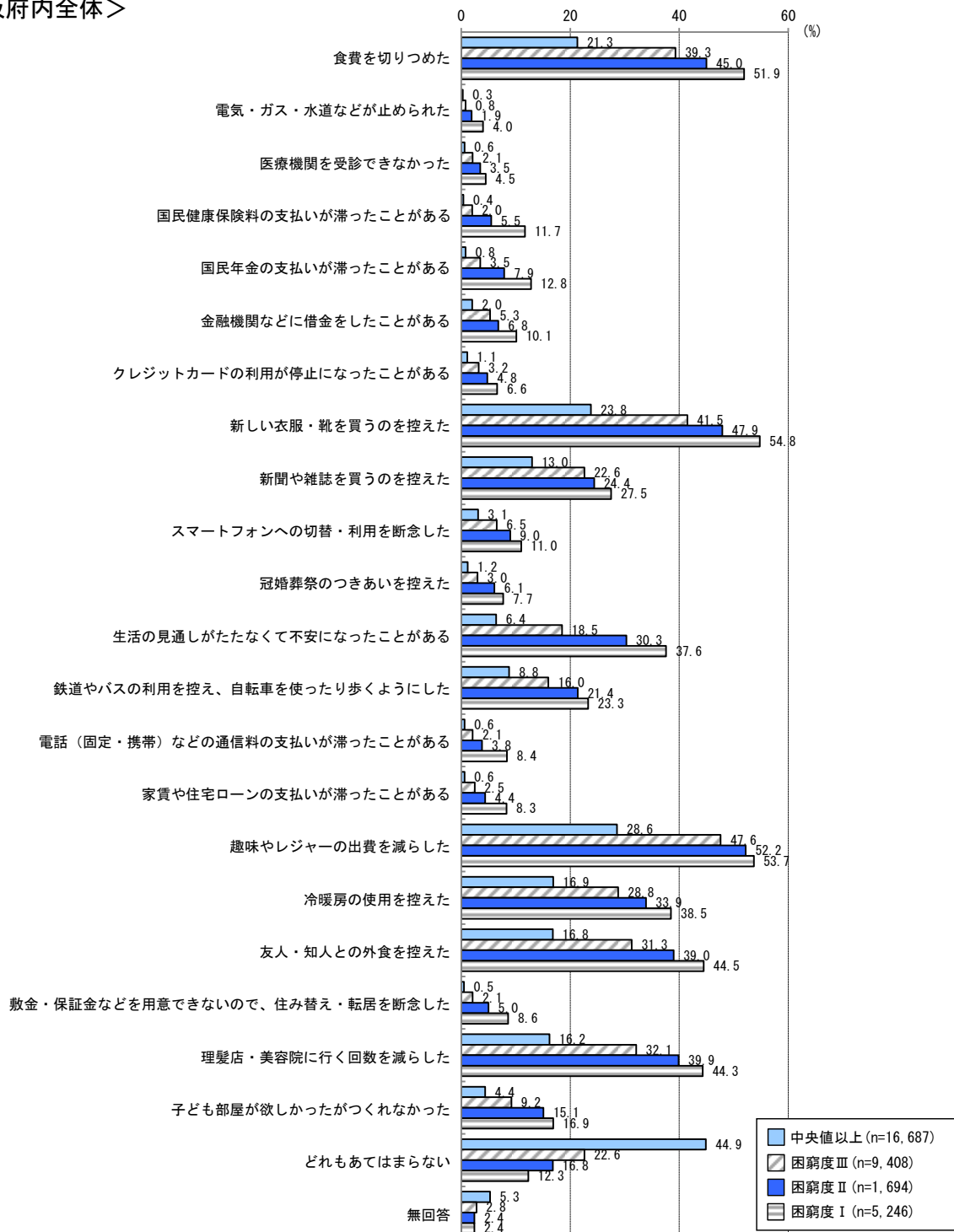
以下のグラフは、主に困窮度別に示している。大阪府内全自治体の傾向については記述していないが、多くにおいて、本自治体調査結果と同様の傾向が見られる。さらに顕著な傾向が見られるものもある。

3-1. 基本情報

(1) 経済状況

困窮度別に見た、経済的な理由による経験（保護者票問7）

<大阪府内全体>



＜四條畷市＞

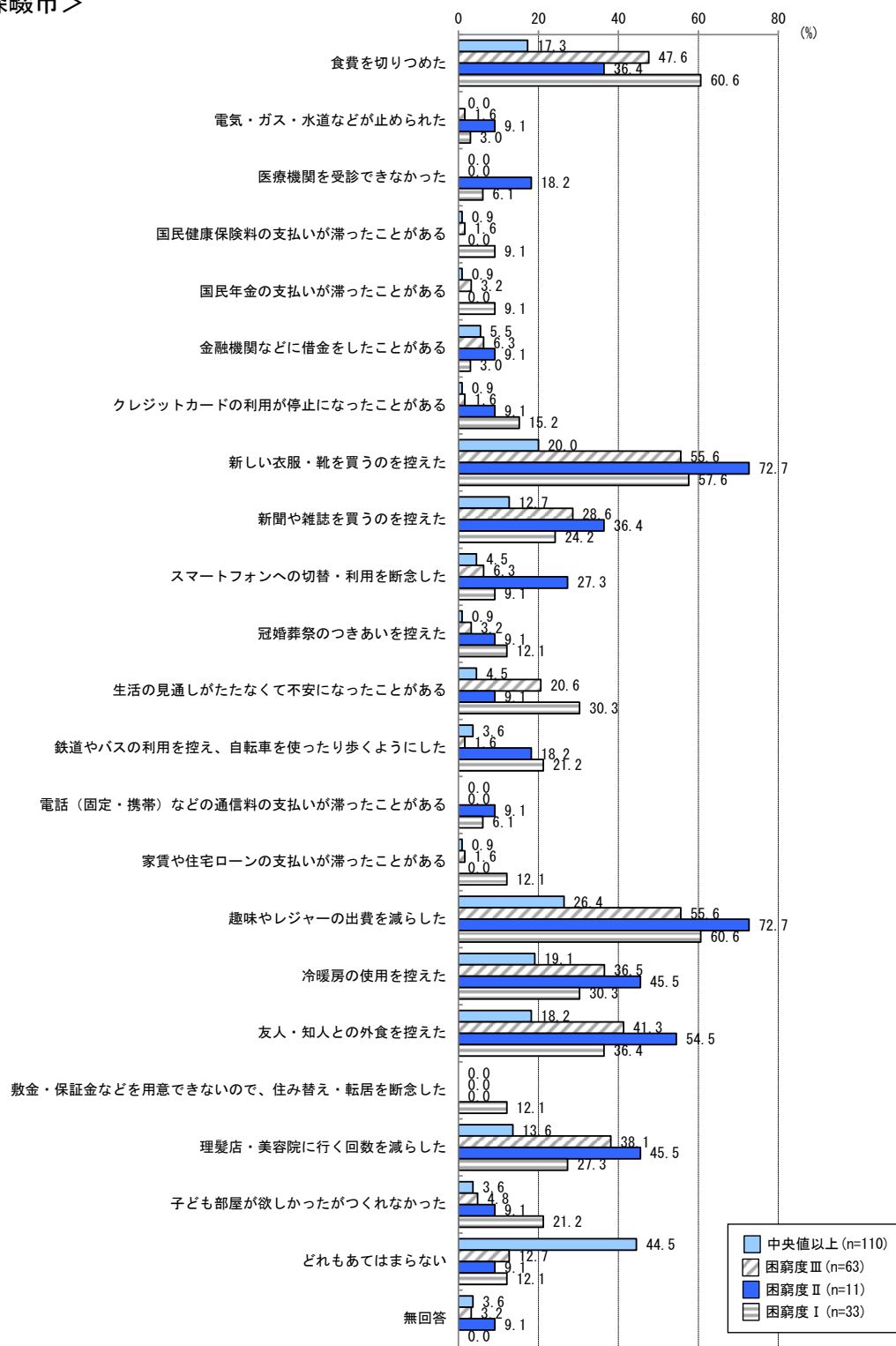
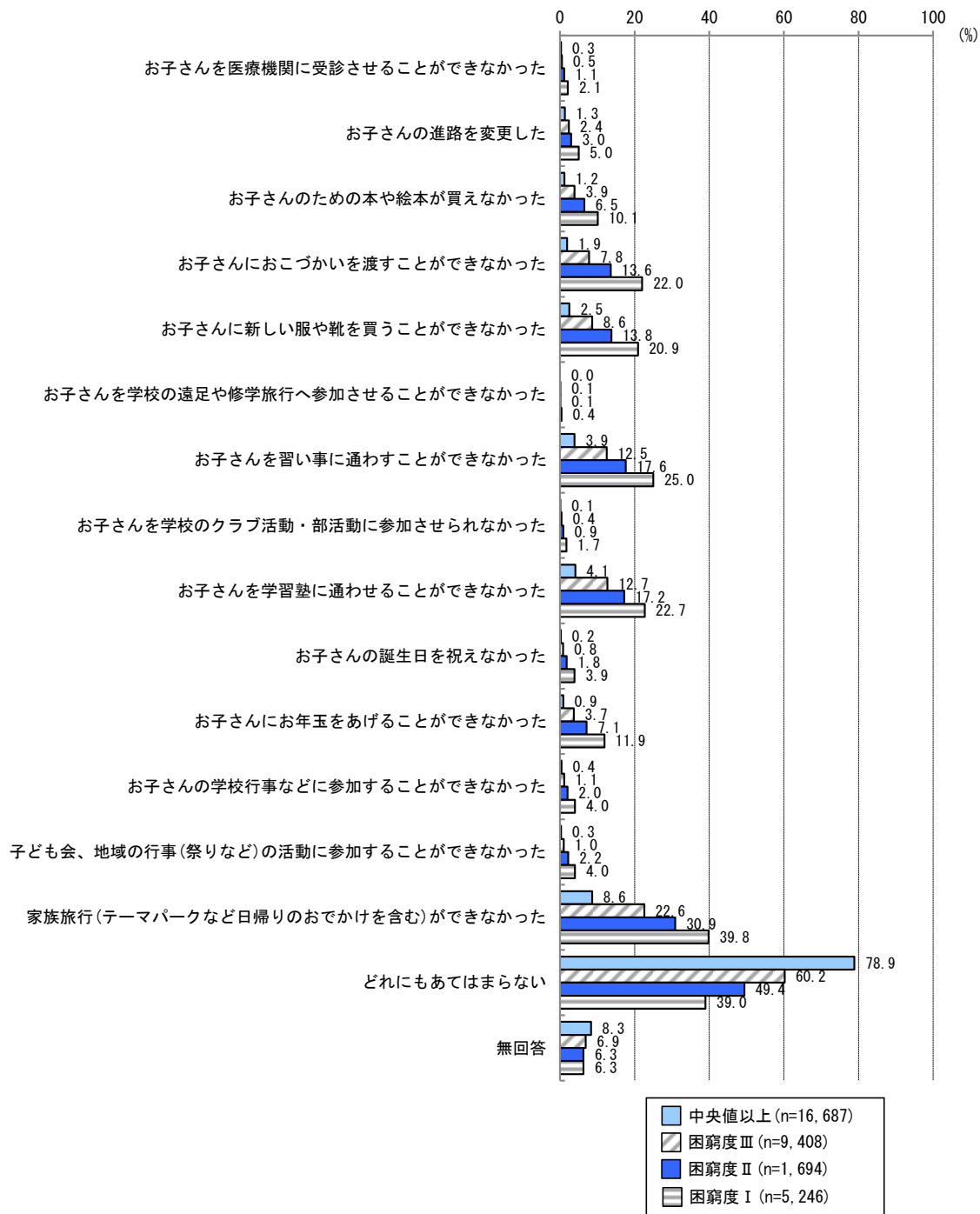


図 1. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験

困窮度別に経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「クレジットカードの利用が停止になったことがある」が15.2%（中央値以上群に対して16.9倍）、「冠婚葬祭のつきあいを控えた」が12.1%（同じく13.4倍）、「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」が12.1%（同じく13.4倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。また「どれもあてはまらない」は中央値以上群で44.5%に対して、困窮度Ⅰ群において12.1%だった。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

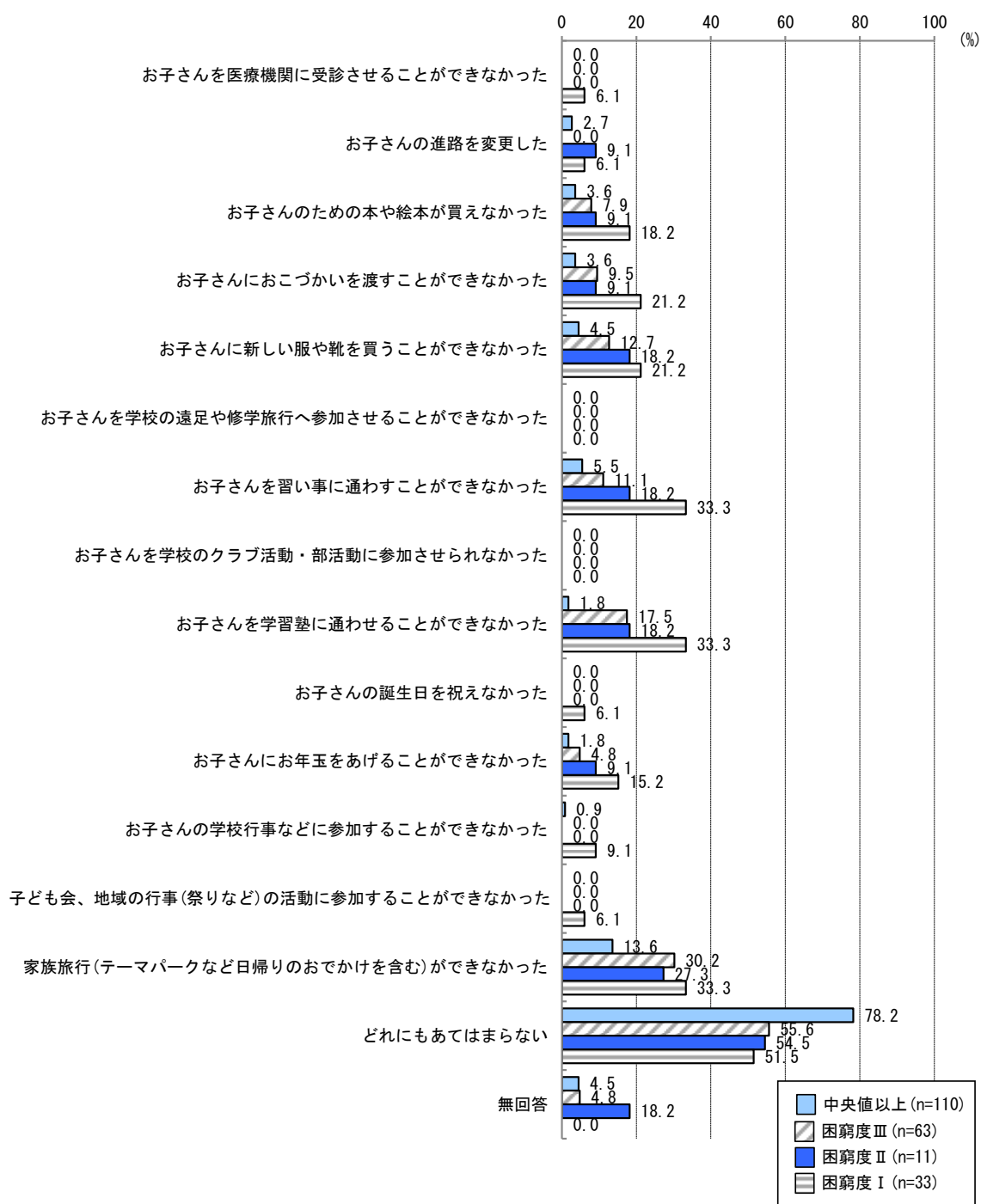


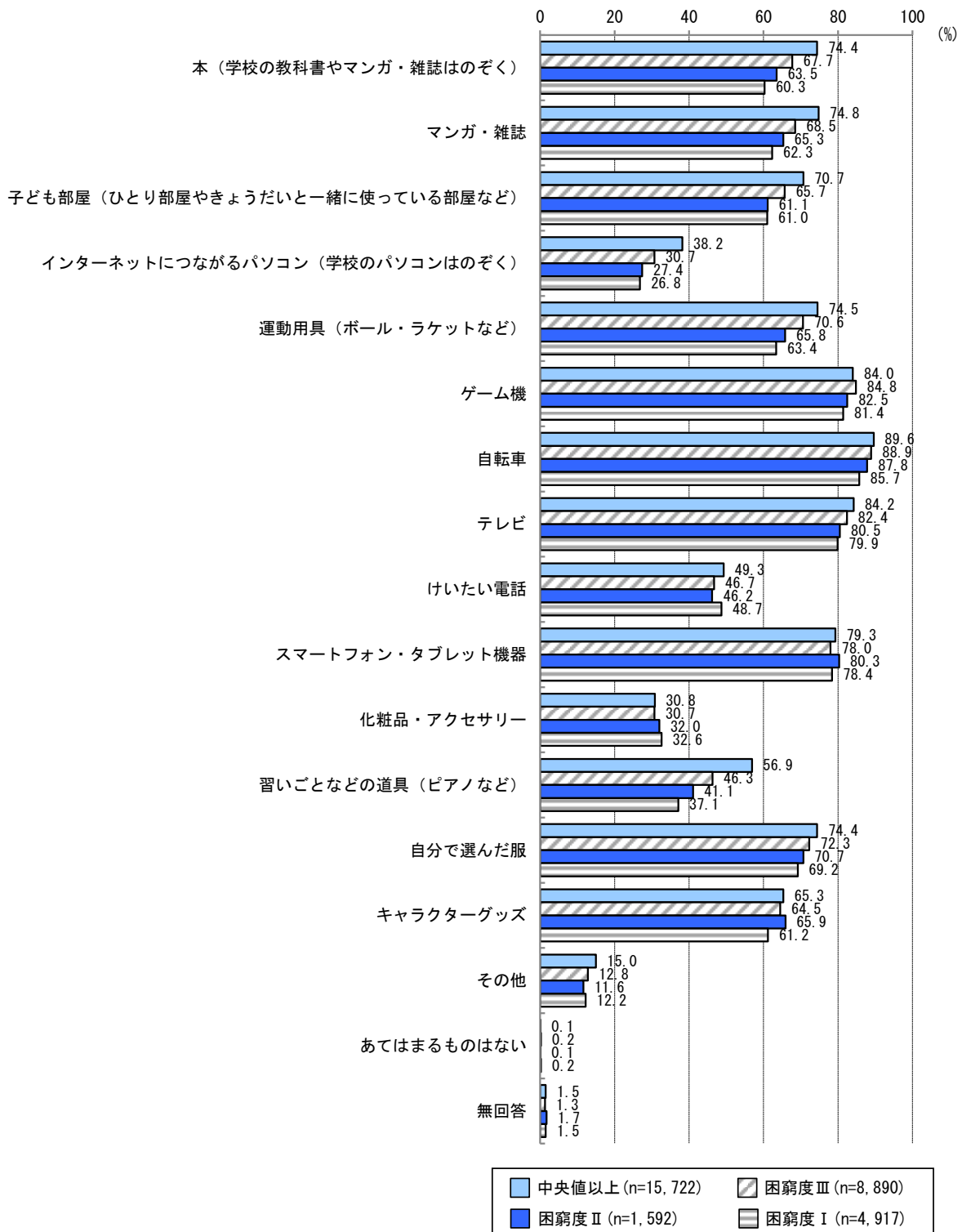
図 2. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験

困窮度別に子どもへの経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」が33.3%（中央値以上群に対して18.5倍）、「お子さんの学校行事などに参加することができなかった」が9.1%（同じく10.1倍）となっている。

また、「どれにもあてはまらない」は中央値以上群で78.2%に対して、困窮度Ⅰ群において51.5%だった。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

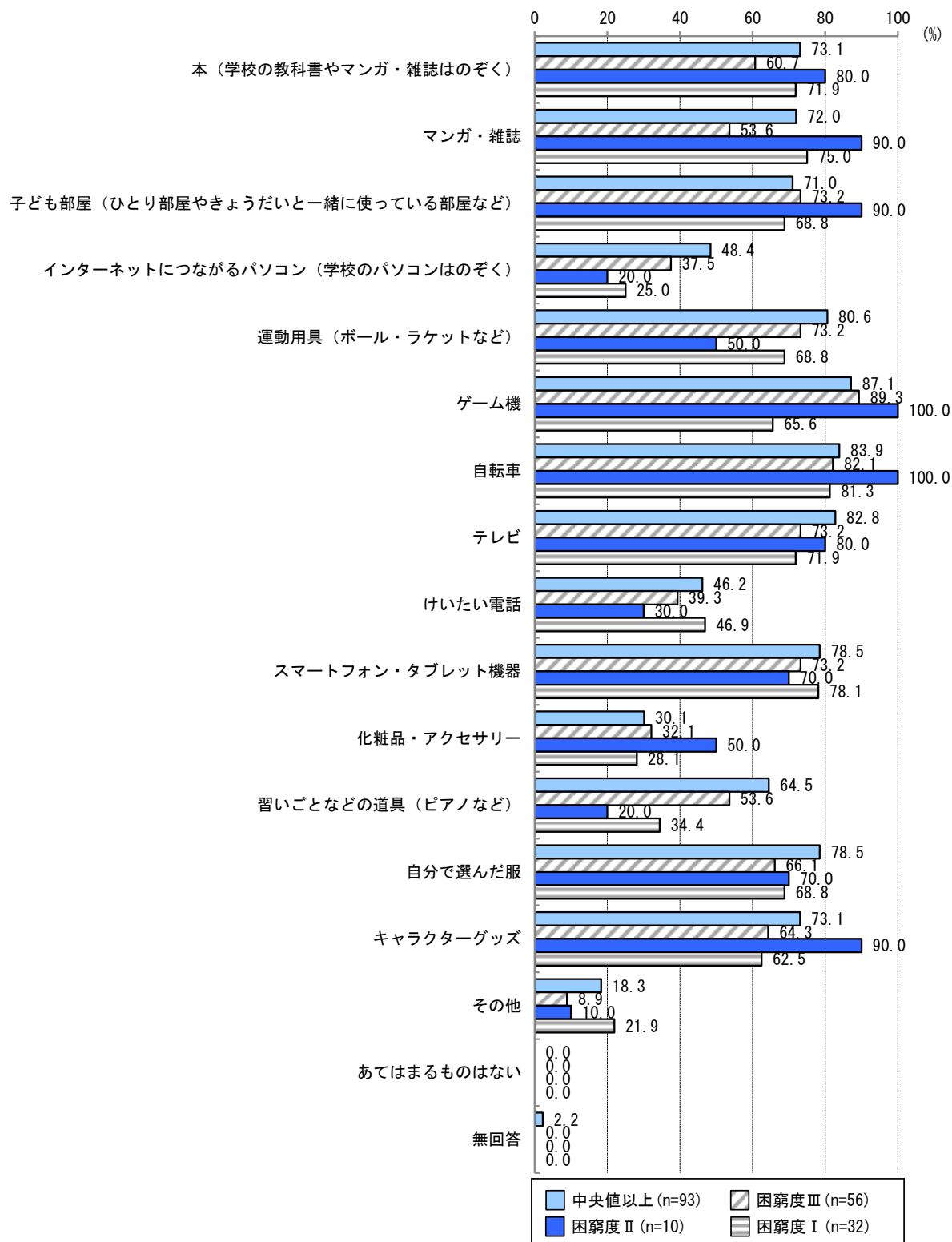
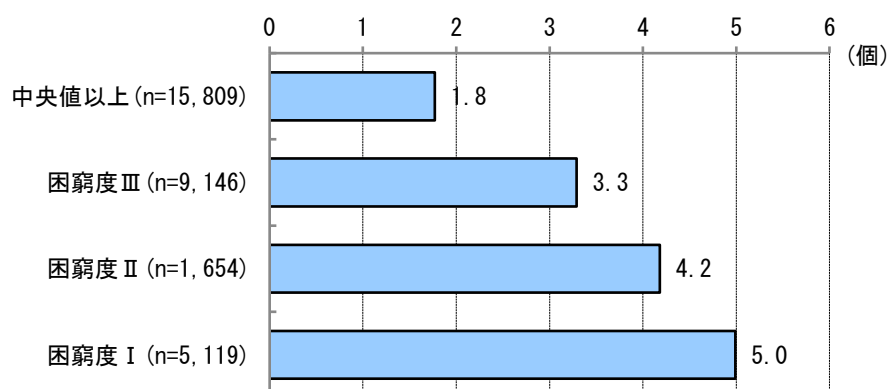


図 3. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群を見ると、「インターネットにつながるパソコン（学校のパソコンはのぞく）」が48.4%（困窮度Ⅰ群に対して1.9倍）、「習いごとなどの道具（ピアノなど）」が64.5%（同じく1.9倍）、「ゲーム機」が87.1%（同じく1.3倍）となり、中央値以上群において高い項目、すなわち困窮度Ⅰ群においては低い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問7）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

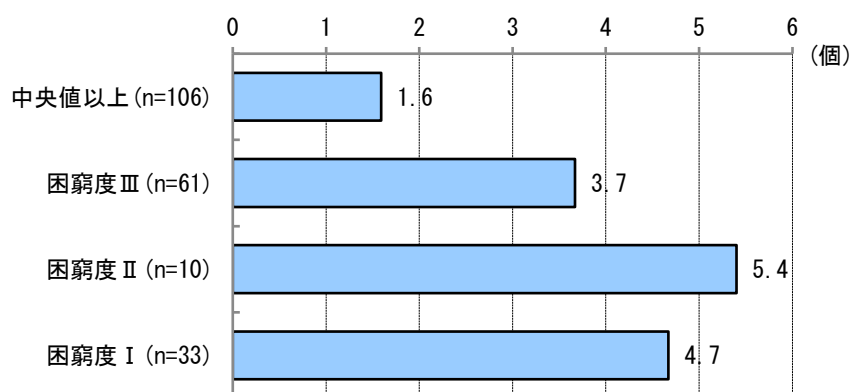


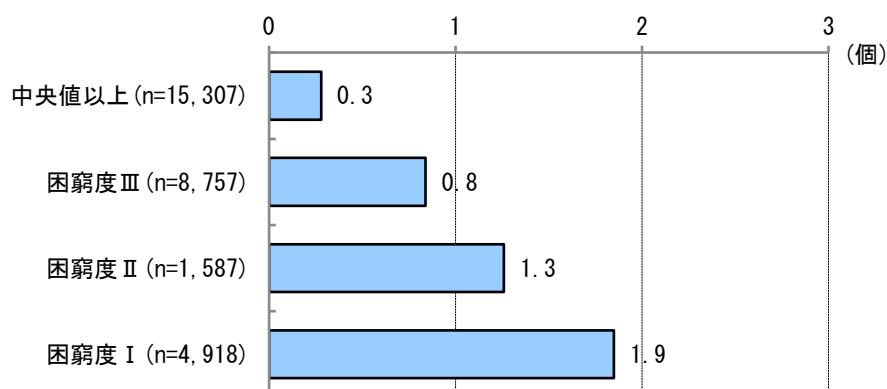
図 4. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均

経済的な理由による経験として示した21個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、概ね困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由による経験の該当数は多くなっているが、困窮度Ⅰ群では少なく、困窮度Ⅱ群が5.4個で最も多くなっている。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

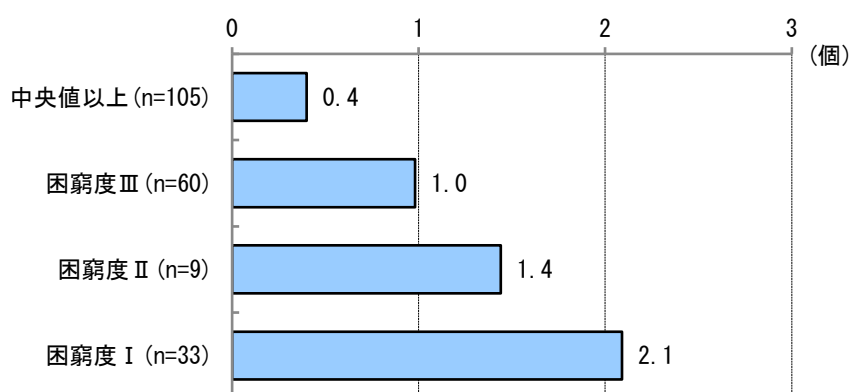


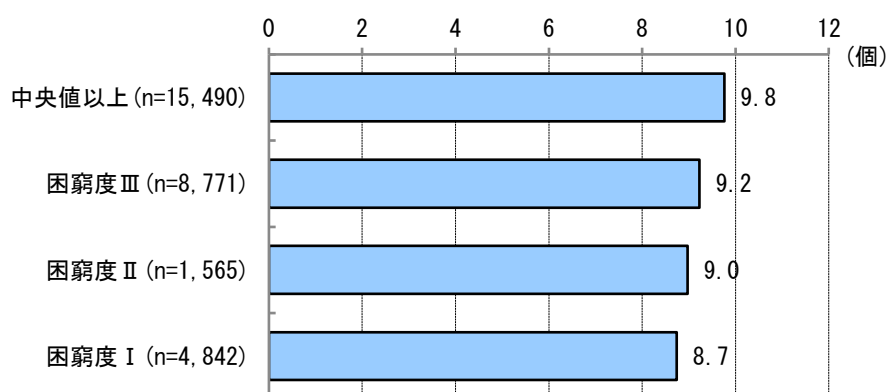
図 5. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均

子どもに関して経済的な理由による経験として示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由で子どもにできなかったことの該当数は多くなっていることがみられた。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

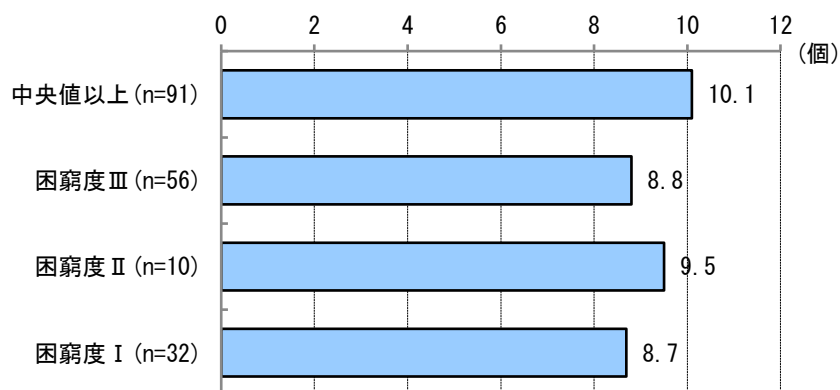


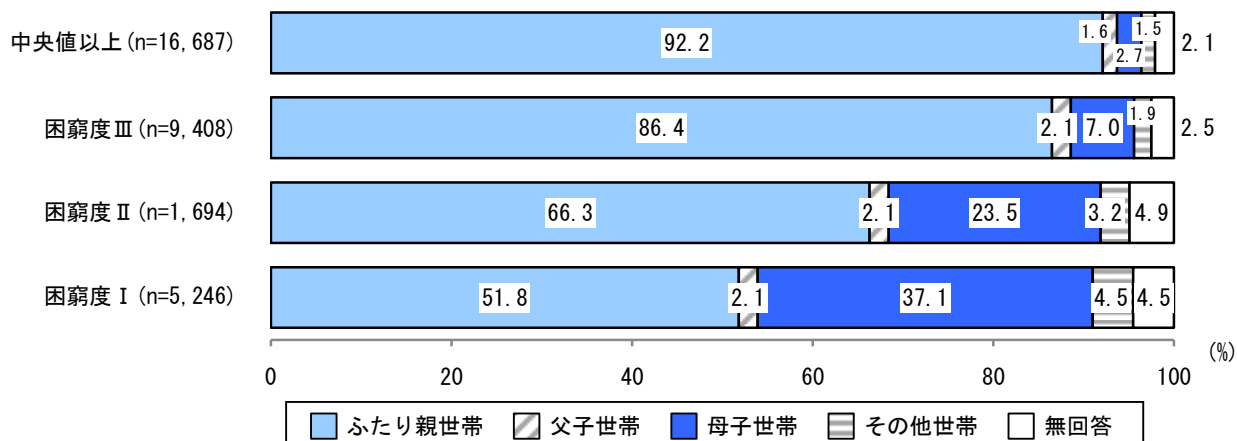
図 6. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均

子どもの持っているもの、使うことができるものとして示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、概ね困窮度が高くなるにつれ、持っているもの、使うことができるものの該当数は少なくなっているが、困窮度Ⅱ群では9.5個で、困窮度Ⅲ群より多くなっている。

困窮度別に見た、世帯員の構成（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

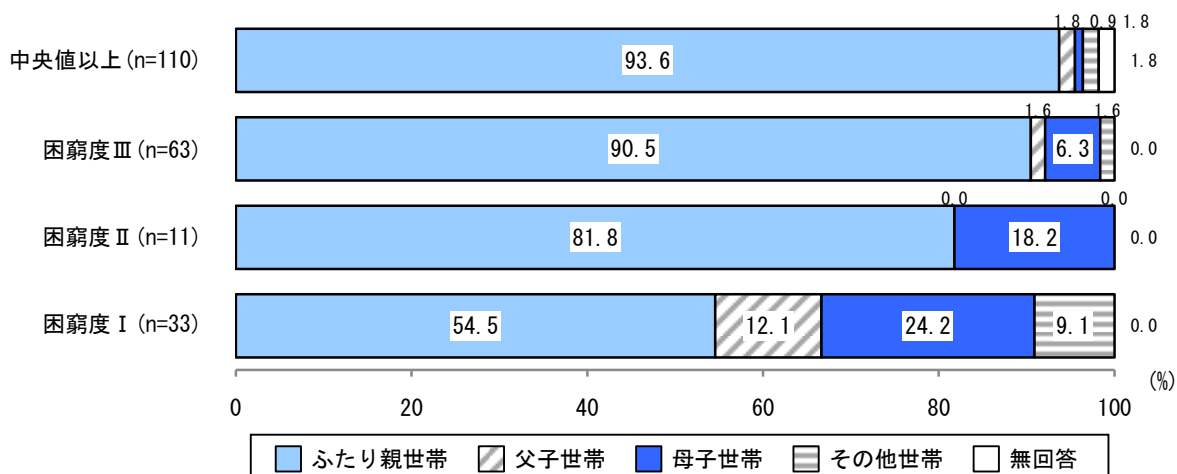
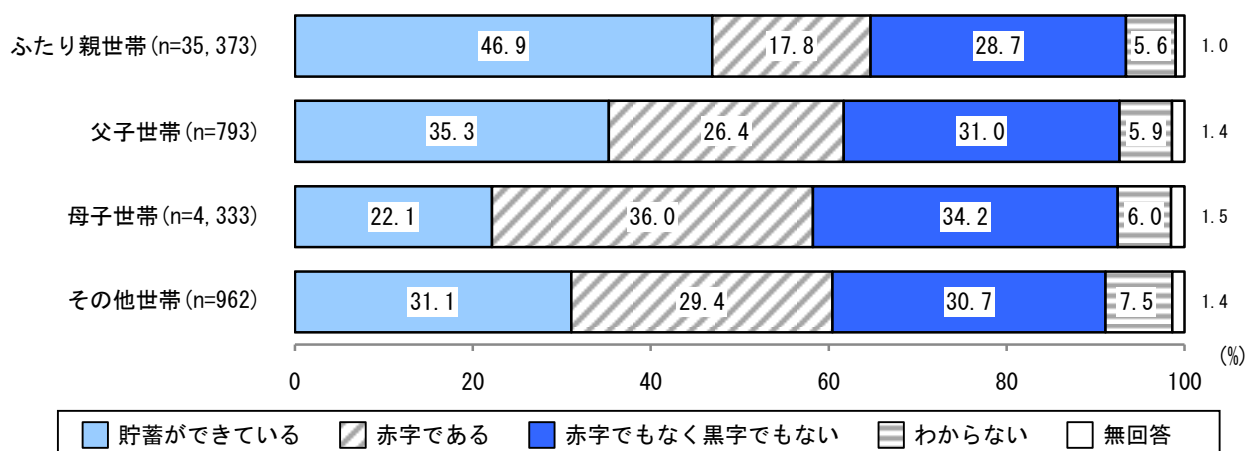


図 7. 困窮度別に見た、世帯員の構成

困窮度別に世帯員の構成を見ると、「ふたり親世帯」と回答したのは、中央値以上群が93.6%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は54.5%だった。また、「母子世帯」と回答したのは、中央値以上群が0.9%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は24.2%だった。

世帯構成別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

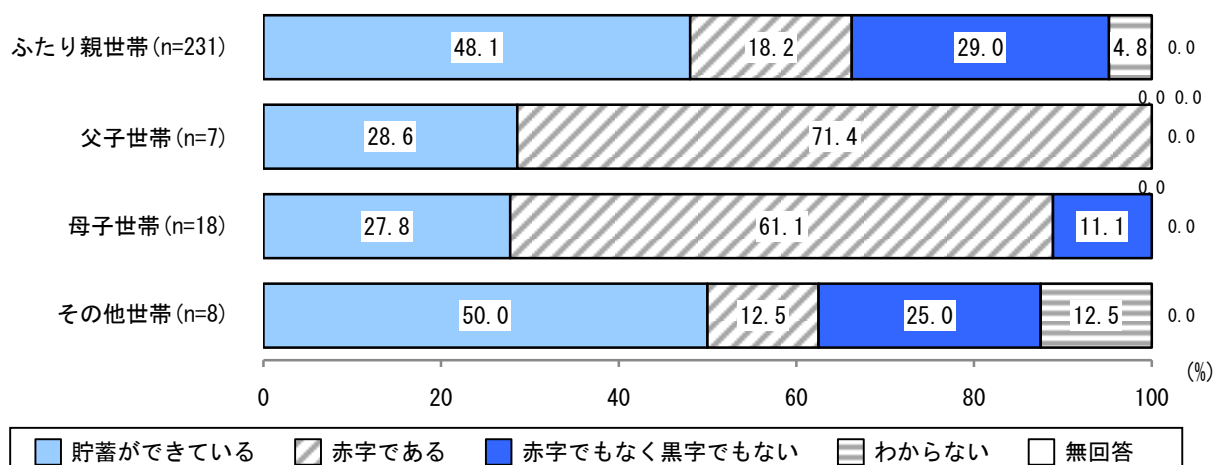
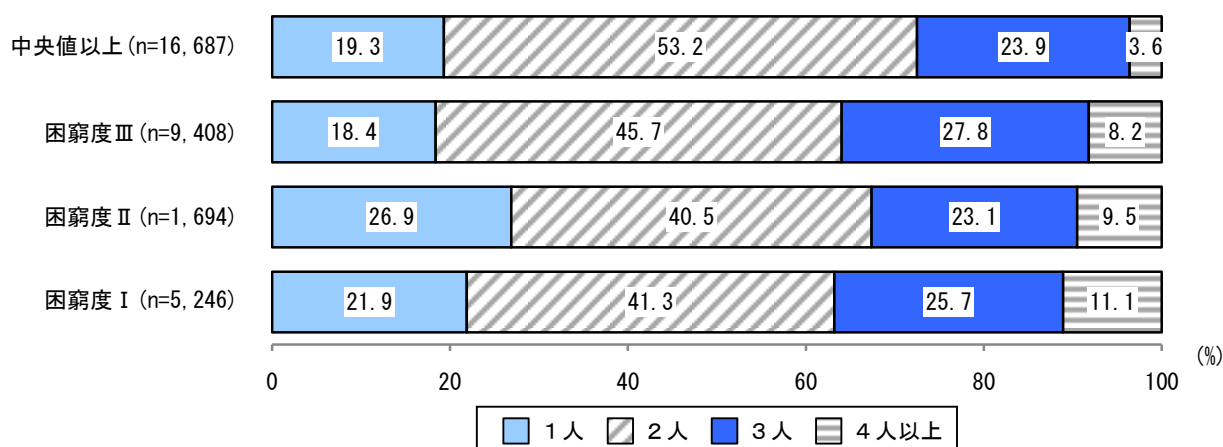


図 8. 世帯構成別に見た、家計の状況

世帯構成別に家計の状況を見ると、「貯蓄ができていない」と回答した割合は、ふたり親世帯が48.1%なのに対して、母子世帯27.8%、父子世帯28.6%だった。また、「赤字である」と回答したのは、ふたり親世帯が18.2%なのに対して、母子世帯は61.1%、父子世帯71.4%だった。

困窮度別に見た、子どもの人数（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

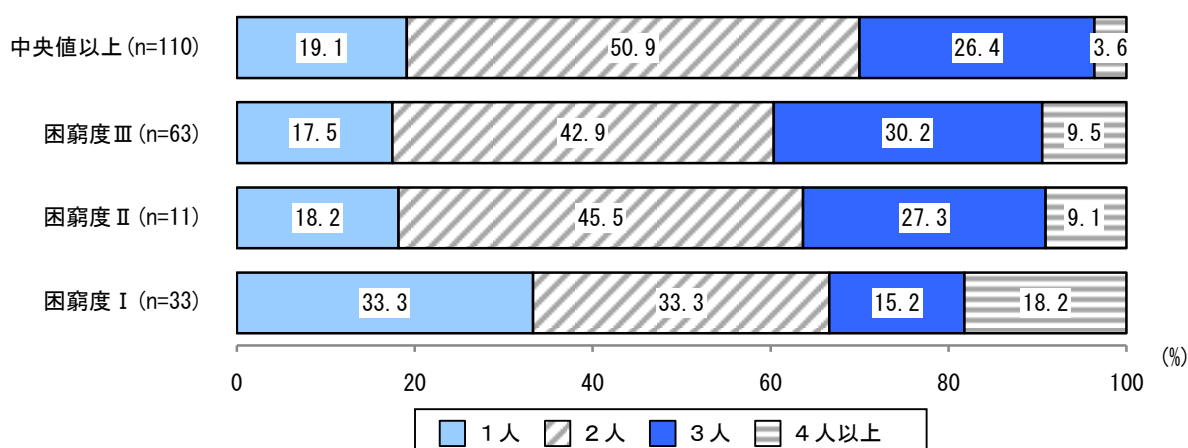
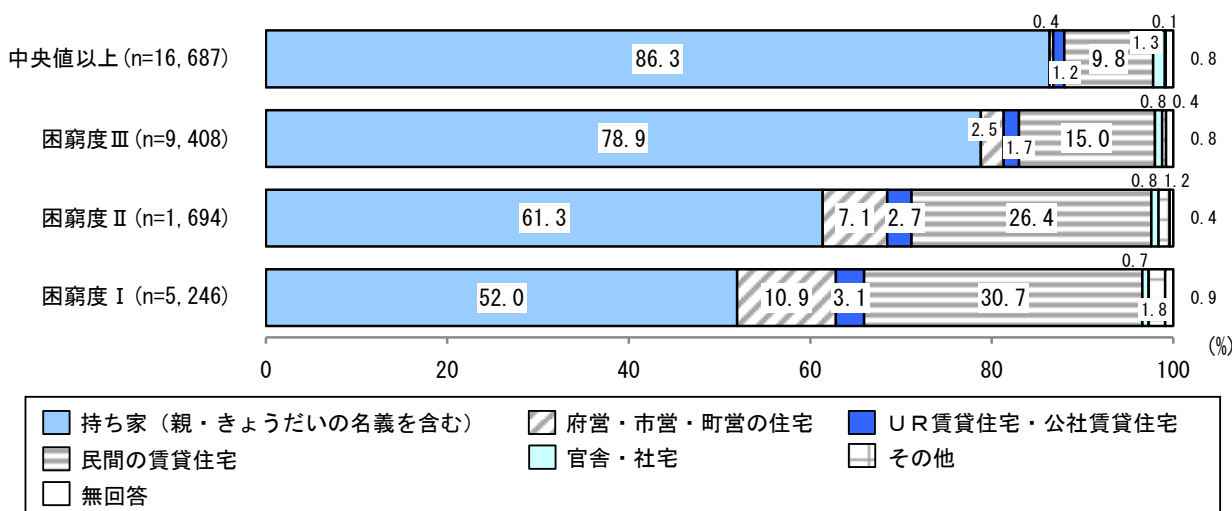


図 9. 困窮度別に見た、子どもの人数

困窮度別に子どもの人数を見ると、中央値以上群において4人以上が3.6%であるのに対して、困窮度Ⅰ群では4人以上が18.2%と高くなっている。

困窮度別に見た、住居形態（保護者票問5）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

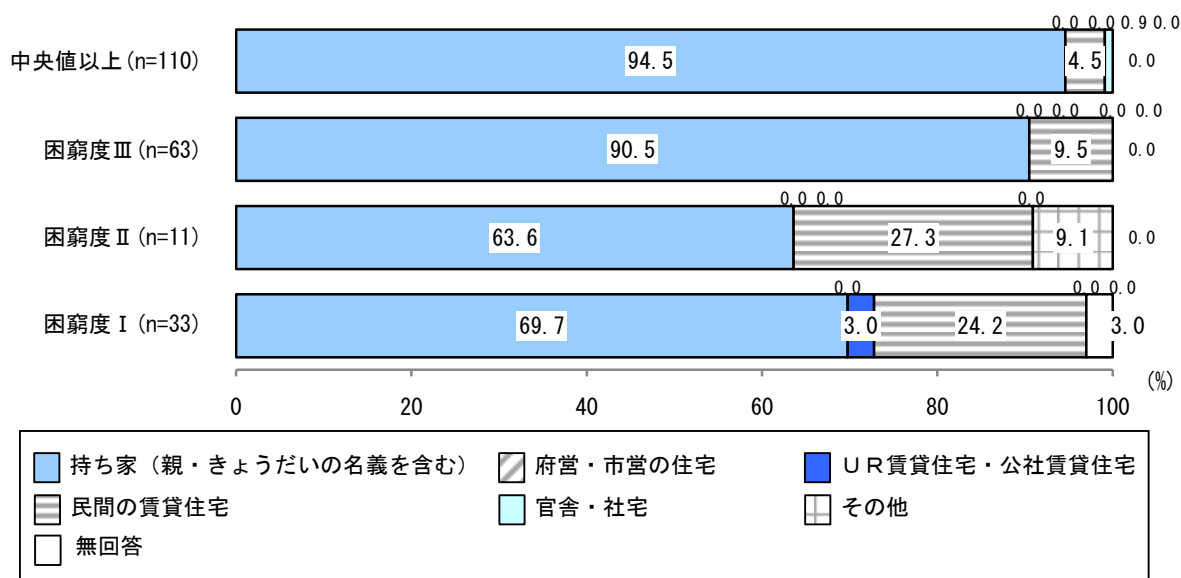
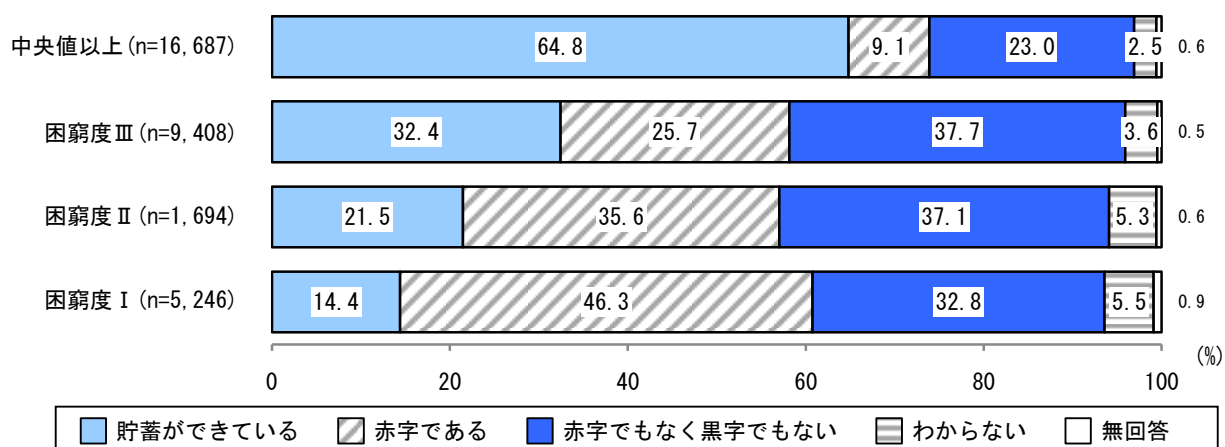


図 10. 困窮度別に見た、住居形態

困窮度別に住居形態を見ると、概ね困窮度が高まるにつれ、持ち家の保有率は低くなっている。中央値以上群では、「持ち家」と回答した割合は94.5%であるのに対して、困窮度Ⅰ群では69.7%、困窮度Ⅱ群では63.6%にとどまっている。

困窮度別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

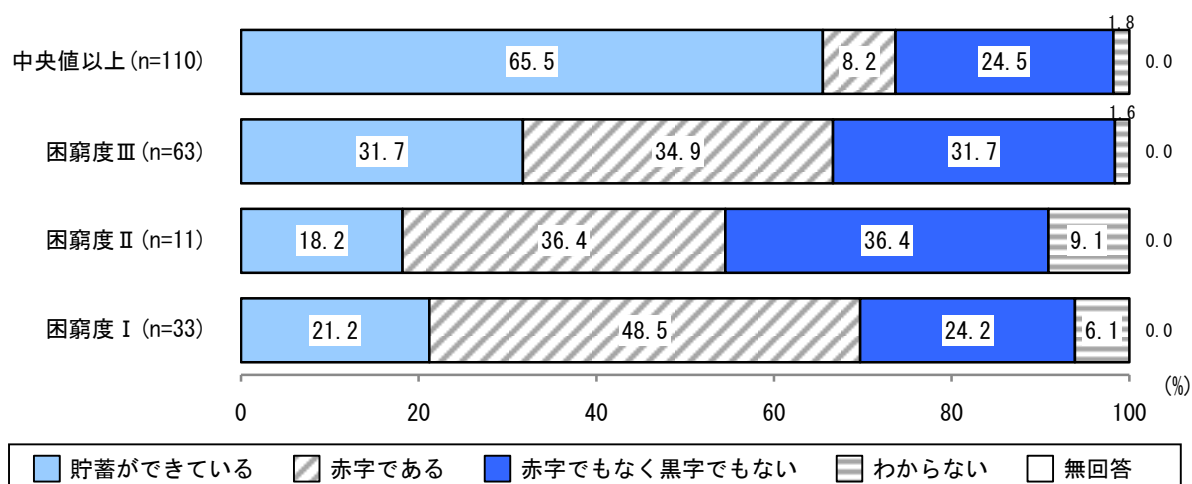
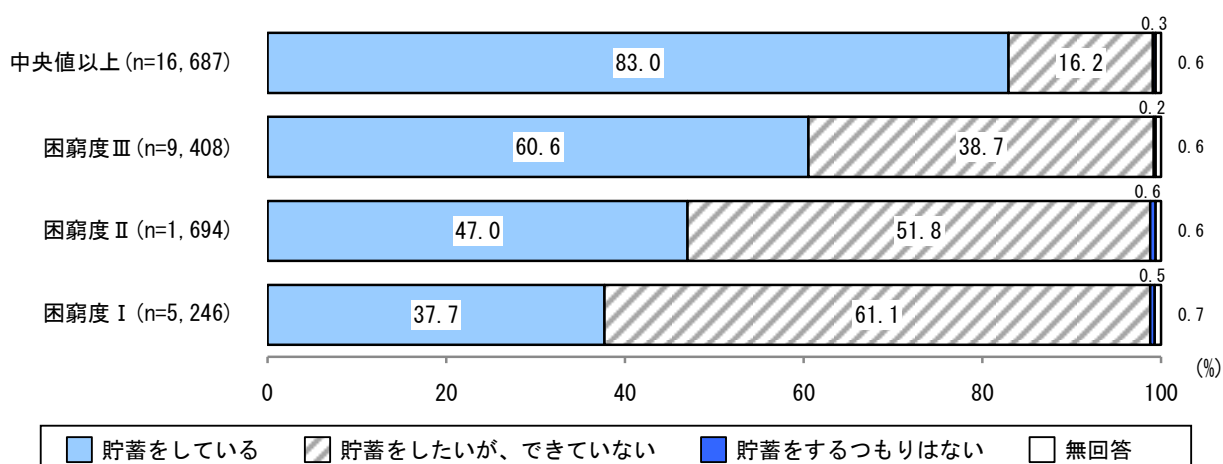


図 11. 困窮度別に見た、家計の状況

困窮度別に家計の状況を見ると、概ね困窮度が高まるにつれて、「貯蓄ができています」と回答する割合が低くなり、逆に、「赤字である」という回答が高くなっている。中央値以上群では、「赤字である」と回答した世帯の割合は、8.2%であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、48.5%となり、4割を超えている。

困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問 6(2)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

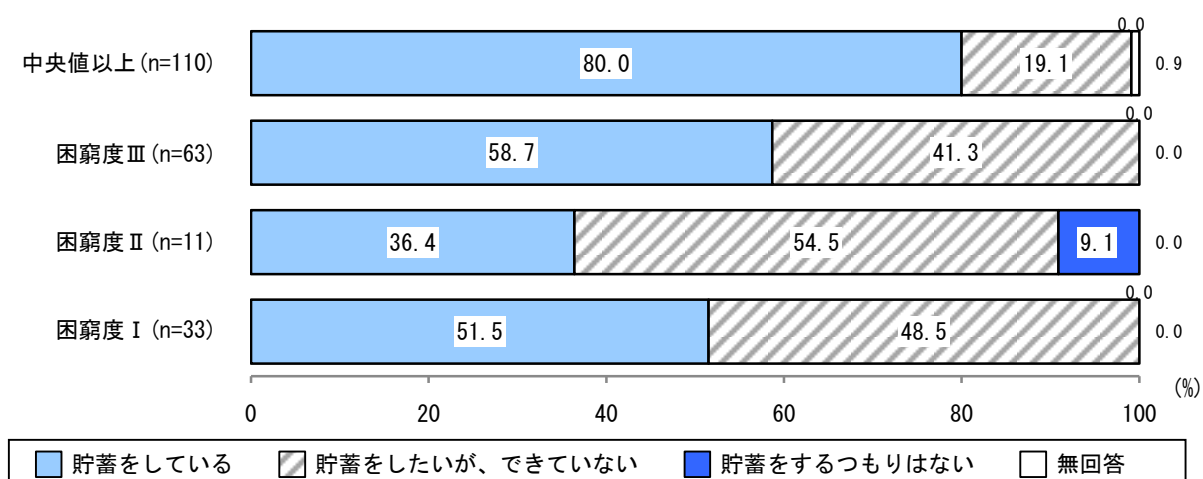
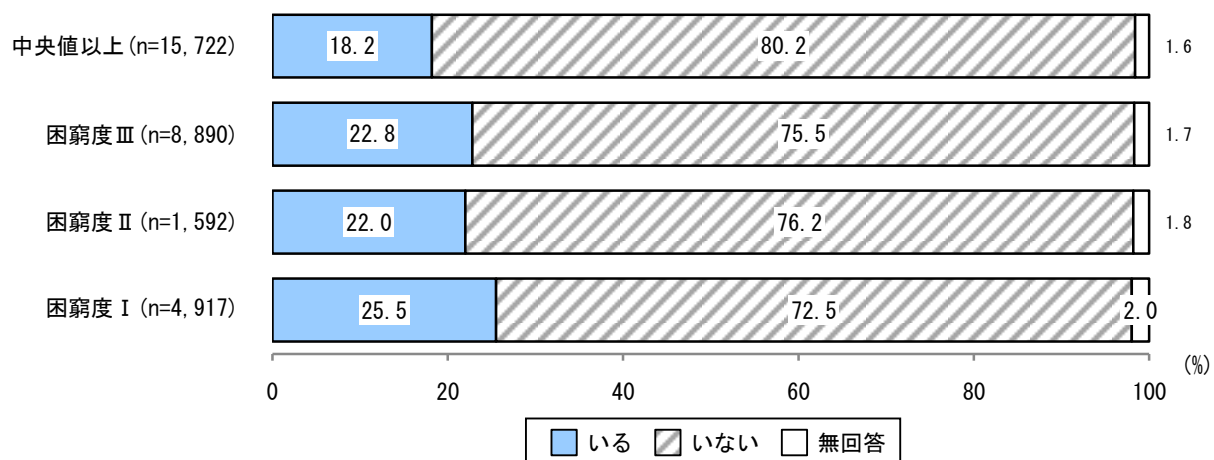


図 12. 困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

困窮度別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、概ね困窮度が高まるにつれ、「貯蓄をしたいが、できていない」という回答が高くなっている。中央値以上群では、「貯蓄をしている」と回答する割合が80.0%を占めているが、困窮度Ⅱ群では36.4%にとどまり、「貯蓄をしたいが、できていない」が54.5%となっている。

困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無（子ども票問 26(1)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

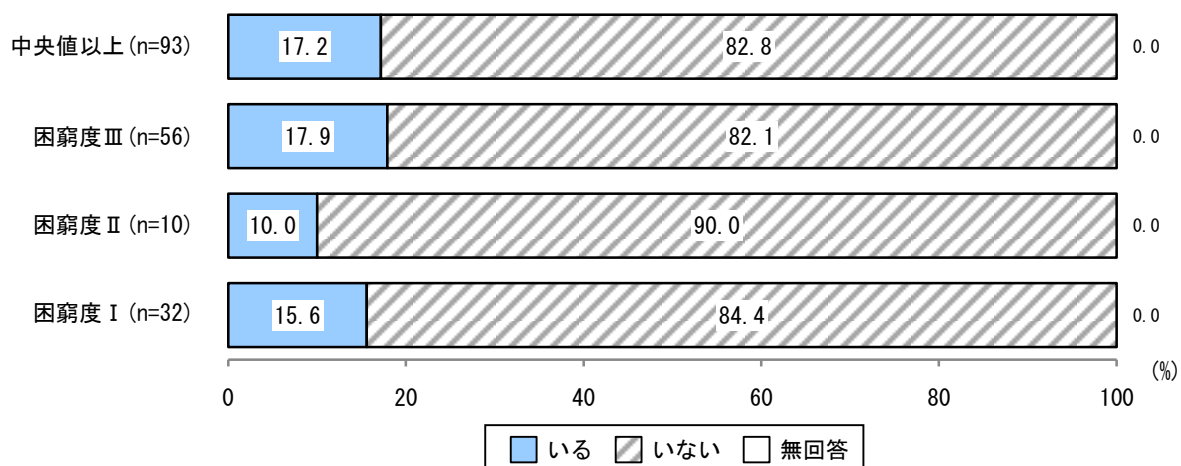


図 13. 困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無

困窮度別に自分が世話をしている人の有無を見ると、自分が世話をしている人が「いる」と回答した割合は困窮度Ⅲ群で17.9%と最も高くなっている。

＜経済状況に関する考察＞

経済的理由で生じた生活上の困難についての質問項目は、現在の日本社会において、「通常であれば可能な生活」を基準に設定している。「どれもあてはまらない」という回答は、その基準に達していることを示すものであるが、中央値以上群で44.5%に対して、困窮度Ⅰ群では12.1%にすぎない。一方、困窮度が深刻化するにしたがい経済的理由から生活面での困難は増す傾向にあり、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「電気・ガス・水道などが止められた」(3.0%対0%)、「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」(12.1%対0.9%)、「電話（固定・携帯）など通信料の支払いが滞ったことがある」(6.1%対0%)と回答した割合が高くなっており、生活面で大きな格差が存在する。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「国民年金の支払いが滞ったことがある」(9.1%対0.9%)と回答した割合が高くなっており、子どもの親（保護者）の将来（老後）の生活困窮を示唆するデータであると言える。さらに、こういった経済状況は、親の心理的な面にも影響しており、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」(30.3%対4.5%)と回答した割合が高くなっている。これらの結果から、経済的困難な家庭では、生活インフラへの支払いの滞りや年金支払いの義務が果たせなくなることに加え、将来への不安感が多いことが示唆される。

世帯の経済状況は、子どもの教育にも影響を及ぼしていることが確認できる。主な項目をあげると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「お子さんの進路を変更した」(6.1%対2.7%)、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」(33.3%対5.5%)、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」(33.3%対1.8%)と回答した割合が高くなっており、子どもに与える教育の格差が示されている。これらの結果から、経済状況によって、子どもの進路や学習環境、家族以外の社会的交流を行う機会が制限されることが示唆される。

同様に、学校以外での子どもの多用な「体験」の有無は、子どものヒューマンキャピタルの形成に影響を与えることが予想されるが、調査結果では、所得階群によって体験の機会に格差があることが示されている。具体的には、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「家族旅行（日帰りのおでかけを含む）ができなかった」(33.3%対13.6%)といった経験に大きな差がある。その一方、「どれにもあてはまらない」が、中央値以上群では78.2%であり、困窮度Ⅰ群でも51.5%ある。所得階群によって体験の機会に差が見られるが、どの階群においても子どもに対して様々な体験や勉強の機会が提供できている世帯も多数いるという点がデータから読み取れる。

また、「子どもの将来のための貯蓄状況」という質問項目に対して、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「貯蓄をしている」と回答した割合が高くなっている(65.5%対21.2%)。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合が高くなっており(48.5%対19.1%)、貯蓄の状況に大きな差があることが確認できる。これらの結果から、経済的困難な家庭では、貯蓄不足により、将来子どもに起こり得るリスク（病気や進路選択など）に備えることや、子どもに対しての投資が難しくなると予想される。

近年、子どもの貧困やヤングケアラーへの社会的関心が深まりつつあり、厚生労働省と文部科学省が連携して行った全国調査では、ヤングケアラーと思われる子どもは小学6年生で6.5%（令和3年度実施）、中学2年生で5.7%（令和2年度実施）と報告されている（『ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム報告（令和3年5月17日）』）。全国調査の結果より、回答した小学6年生の15人に1人程度、中学2年生の17人に1人程度が家族の世話をしていることが明らかになった。

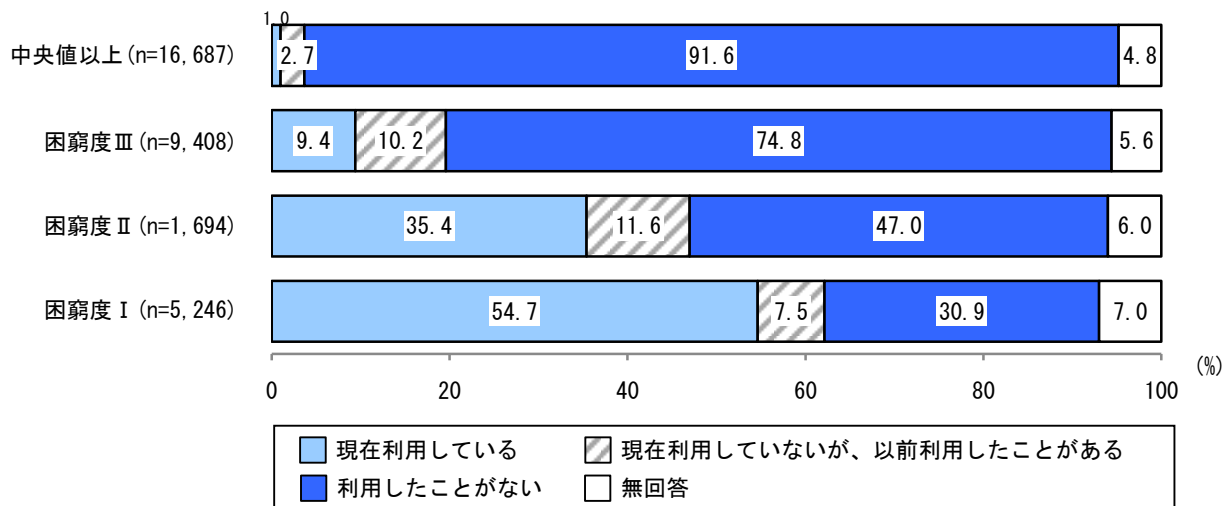
全国の状況を踏まえて、四條畷市が令和5年に実施した、小学5年生、中学2年生を対象とする本調査では、「自分が世話をしている人の有無」という質問に対して「いる」と答えている割合は、

全体においては17.6%であり、困窮度Ⅰ群は（15.6%）と中央値以上群（17.2%）とを比べて大きな差はない。これは、困窮度に関わらず、回答した6人に1人程度が世話をしている人が「いる」と回答していることになる。これらの結果から、四條畷市では大阪府全体と比較してヤングケアラーと思われる子どもの割合は低く、困窮度による差も小さいことが読み取れる。

(2) 家庭状況（制度等）

困窮度別に見た、就学援助の利用状況（保護者票問 23-a）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

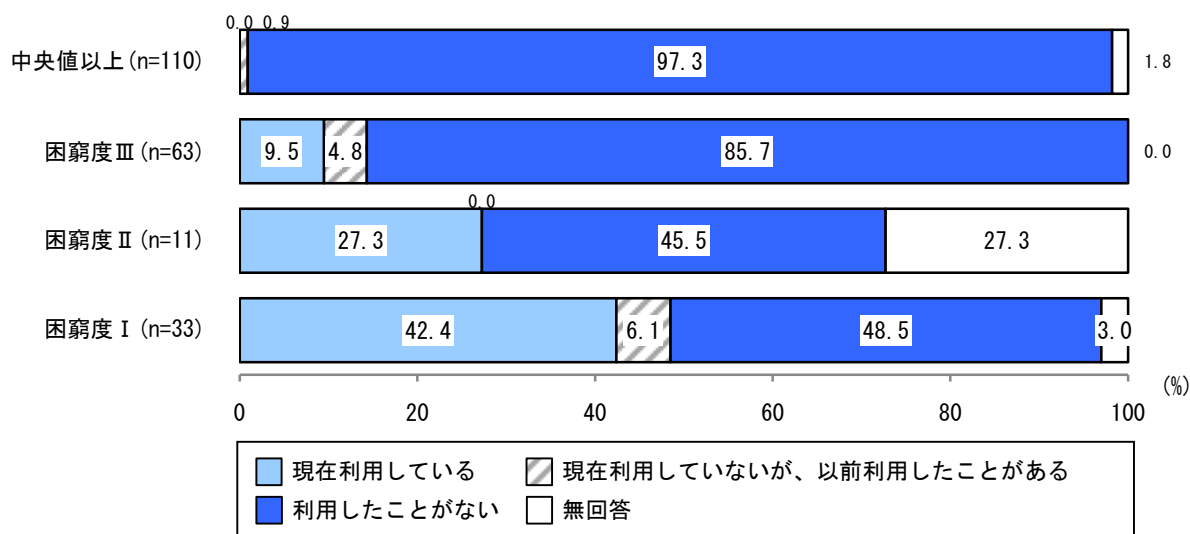
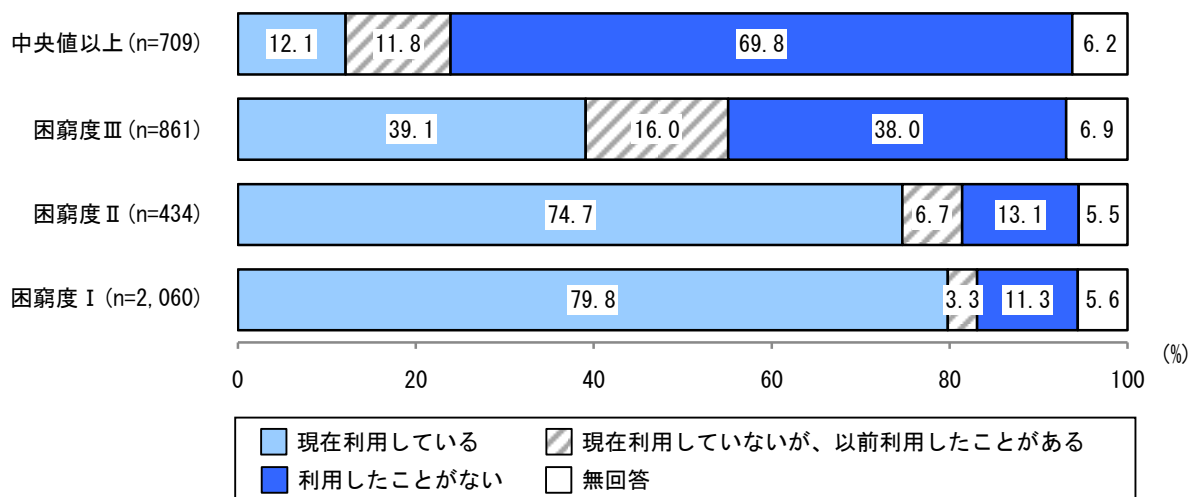


図 14. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況

困窮度別に就学援助の利用状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。

困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（保護者票問 23-d）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<四條畷市>

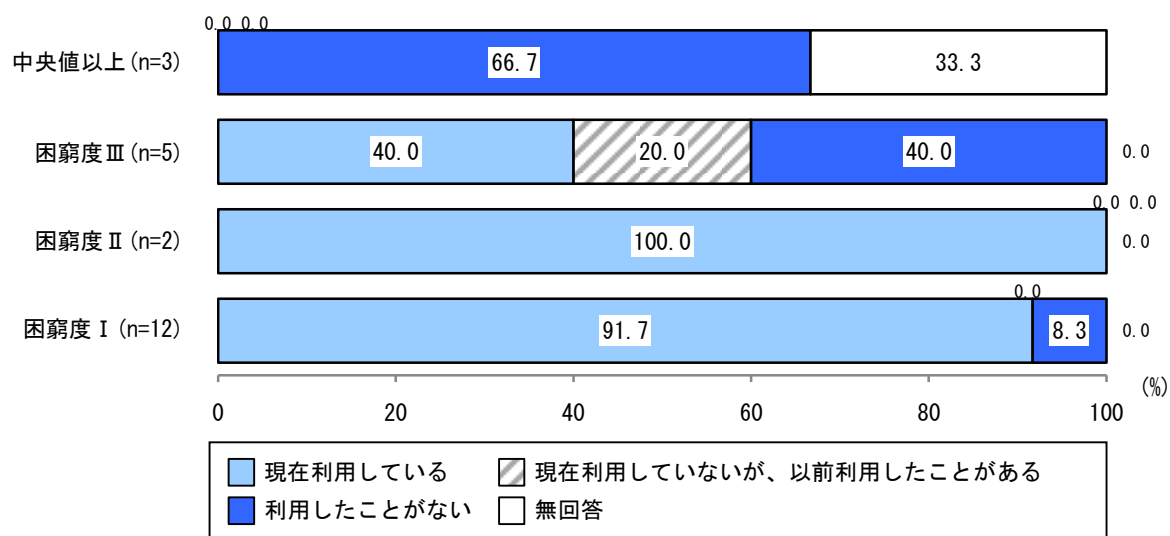
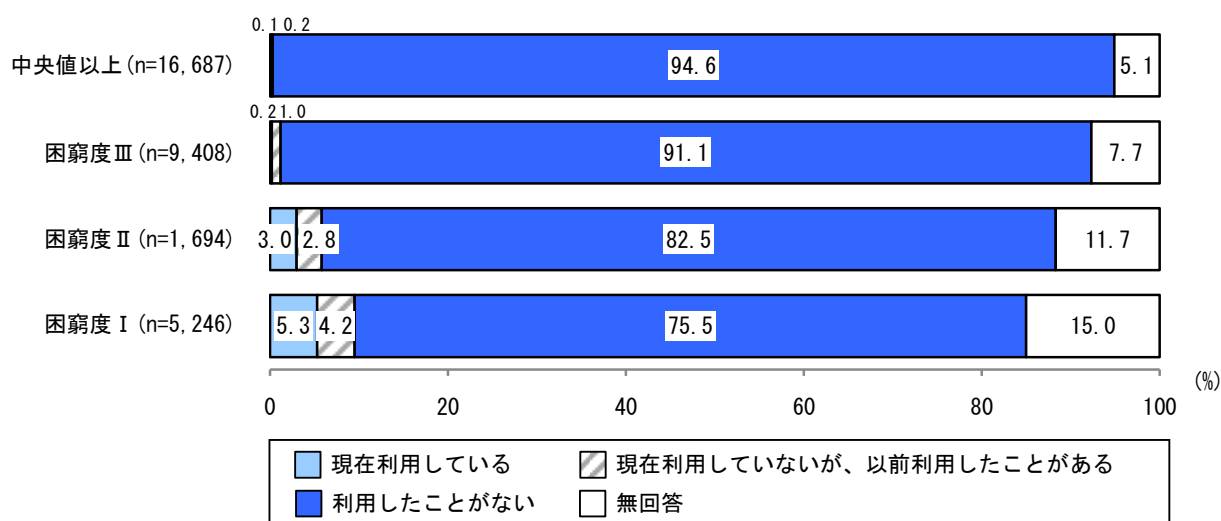


図 15. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に児童扶養手当の利用状況を見ると、概ね困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。中央値以上群では「利用したことがない」と回答した割合が66.7%を占めている。

困窮度別に見た、生活保護の利用状況（保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

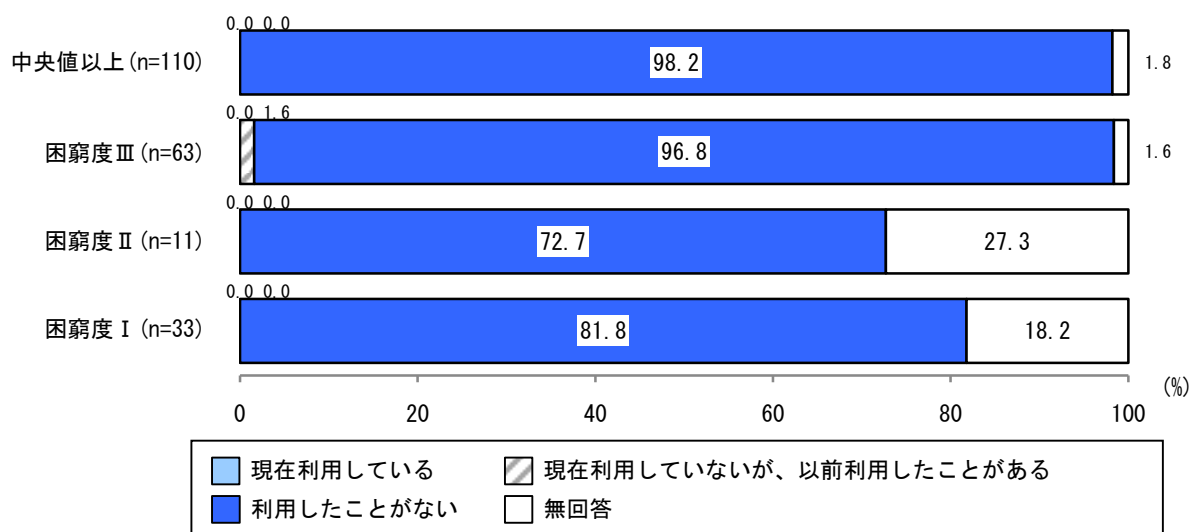
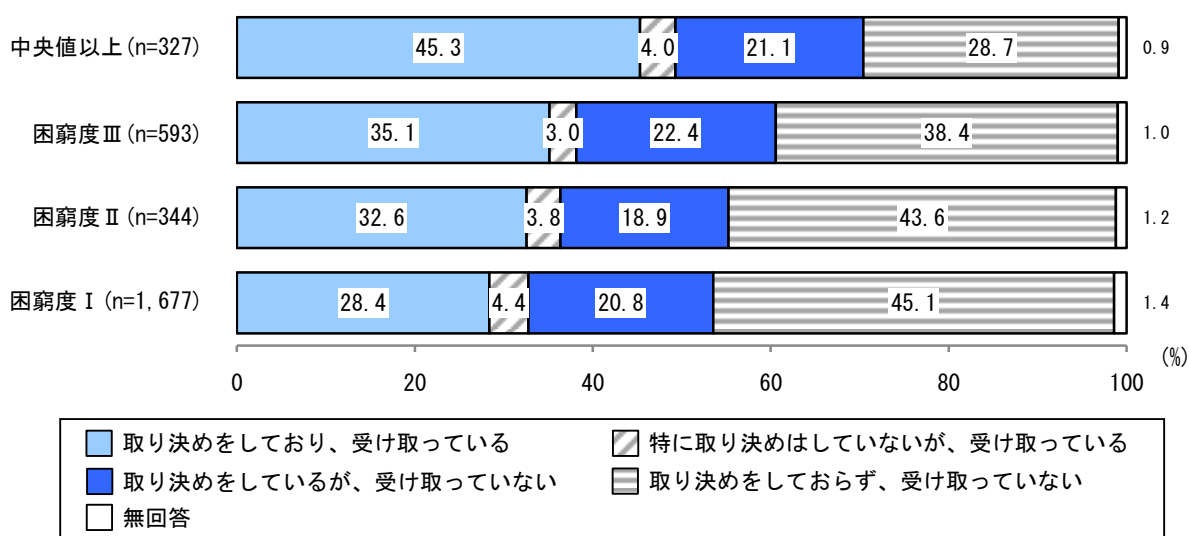


図 16. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況

困窮度別に生活保護の利用状況を見ると、困窮度Ⅱ群においては「利用したことがない」と回答した割合は72.7%と最も低くなっている。また、困窮度Ⅱ群では無回答（27.3%）の割合も高い。

困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（保護者票問4）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<四條畷市>

中央値以上 (n=0)

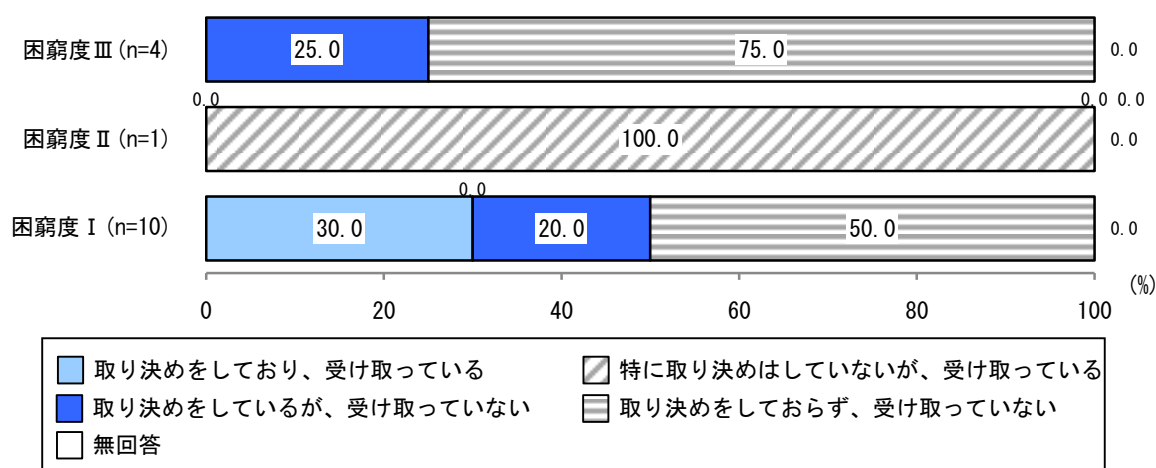
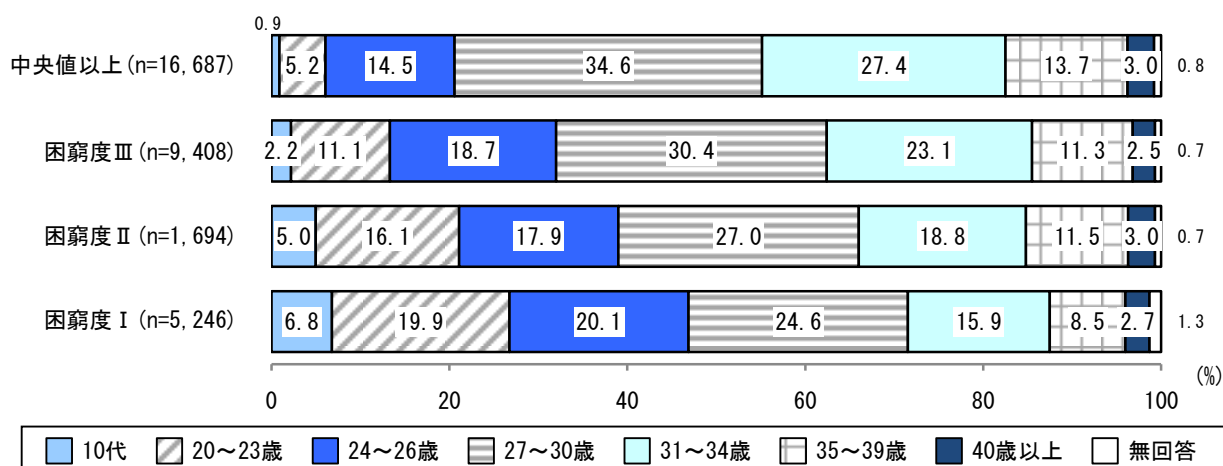


図 17. 困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に離婚相手との養育費の取り決めや受け取りを見ると、困窮度Ⅰ群においては「取り決めをしており、受け取っている」と回答した割合は30.0%であり、「取り決めをしているが、受け取っていない」と「取り決めをしておらず、受け取っていない」をあわせた養育費を受け取っていない人が70.0%となっている。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

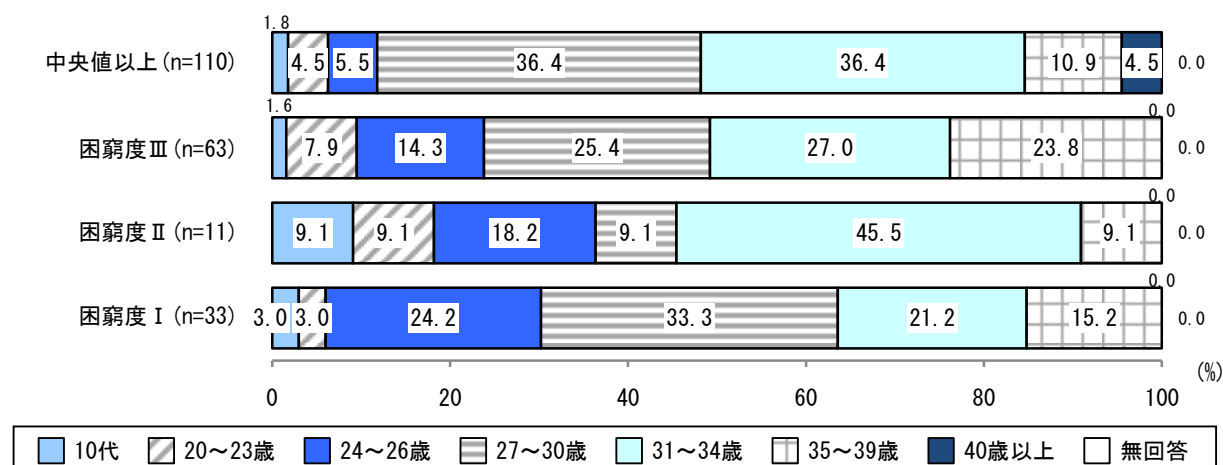
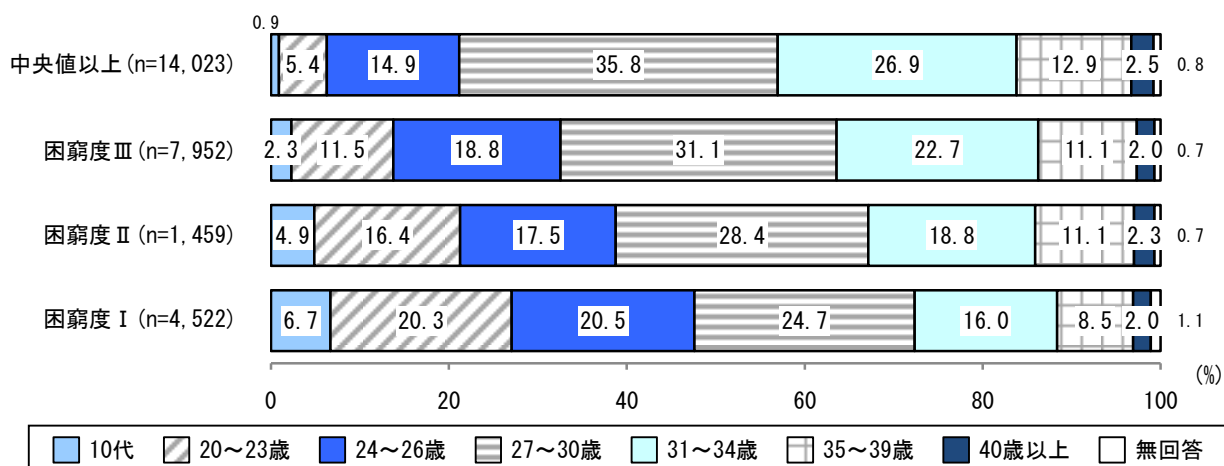


図 18. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

全ての回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、「10代」は困窮度Ⅱが9.1%で最も高く、次いで困窮度Ⅰが3.0%となっている。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）・母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<四條畷市>

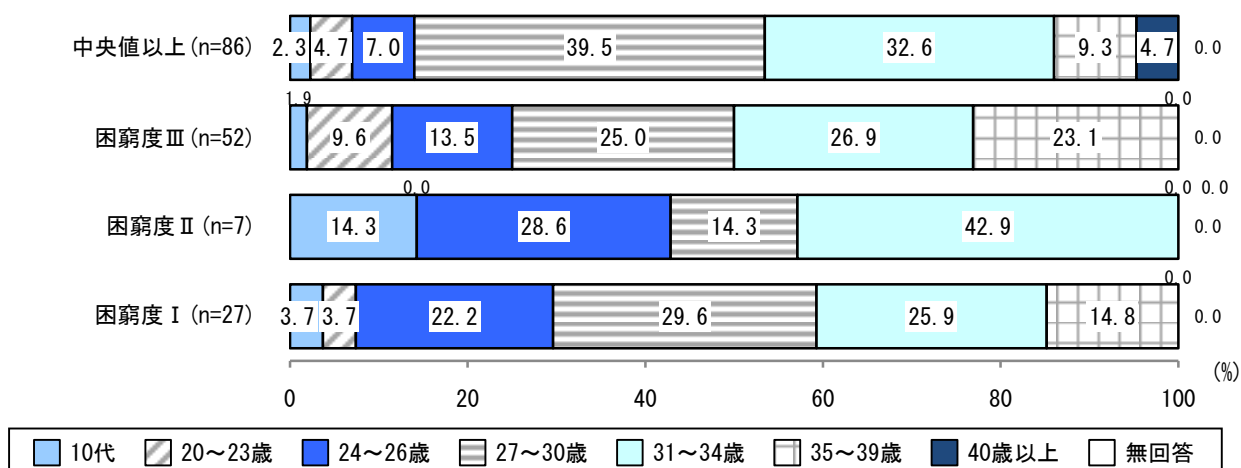
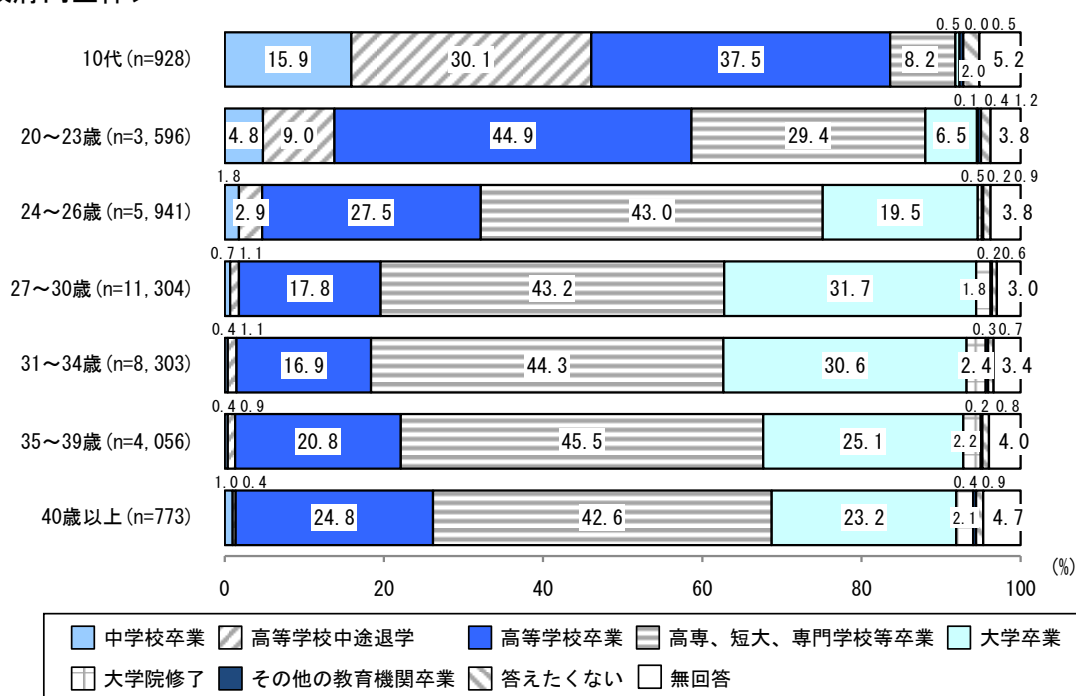


図 19. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、概ね困窮度が高まるにつれ、26歳までに初めて親となったと答えた割合が高くなっている。若くして母親となった人ほど、経済的な問題を抱えている可能性が考えられる。

初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問 17×保護者票問 8）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<四條畷市>

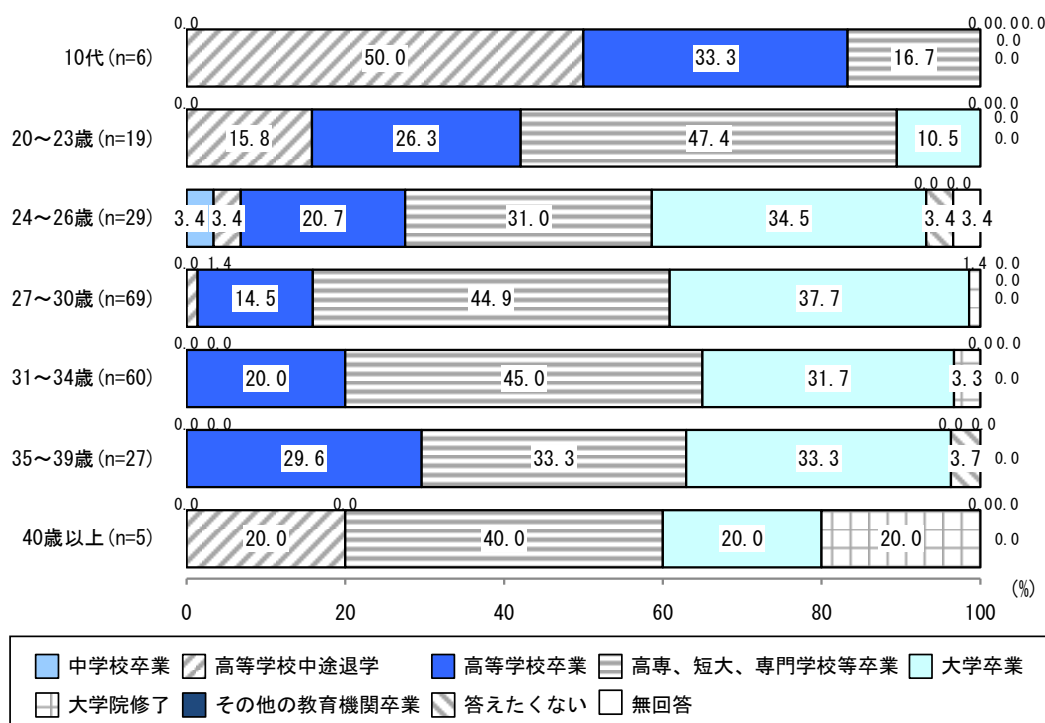
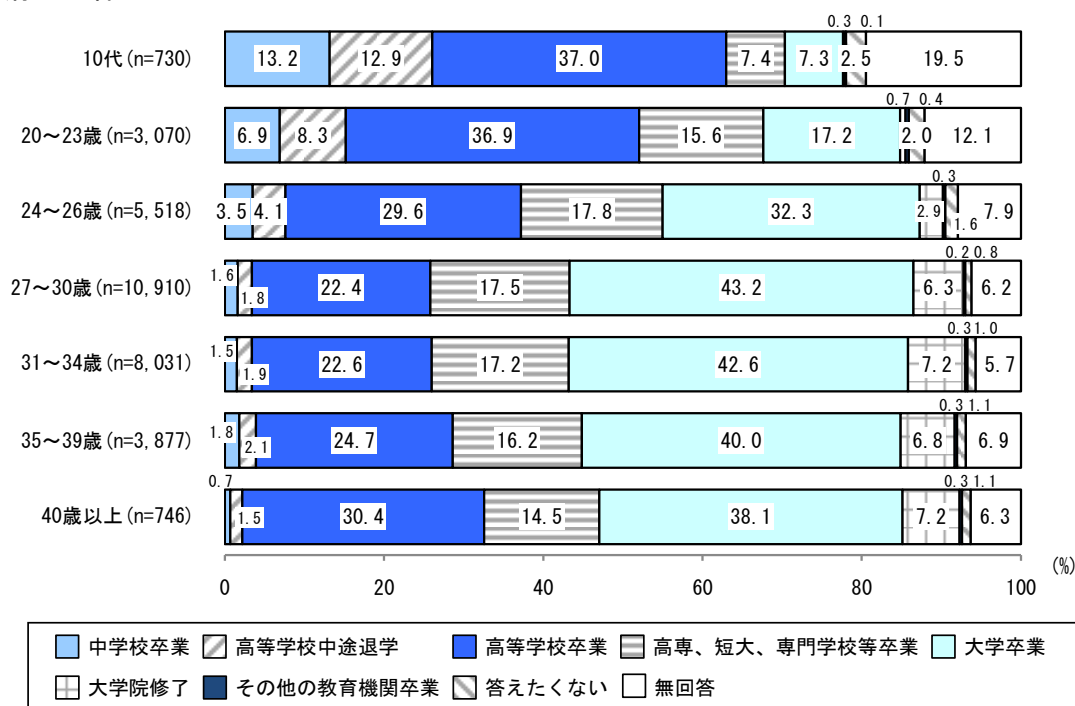


図 20. 初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に母親自身の最終学歴を見ると、10代において「高等学校中途退学」（50.0％）と回答した割合が高かった。

初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問 17×保護者票問 8）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<四條畷市>

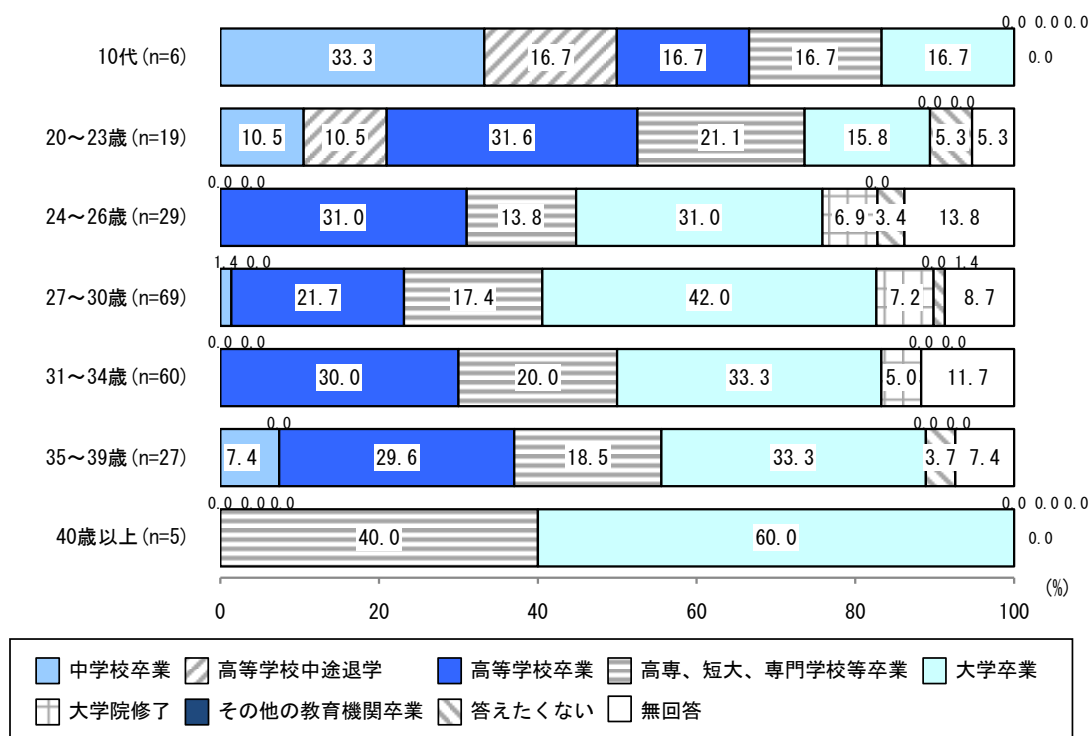
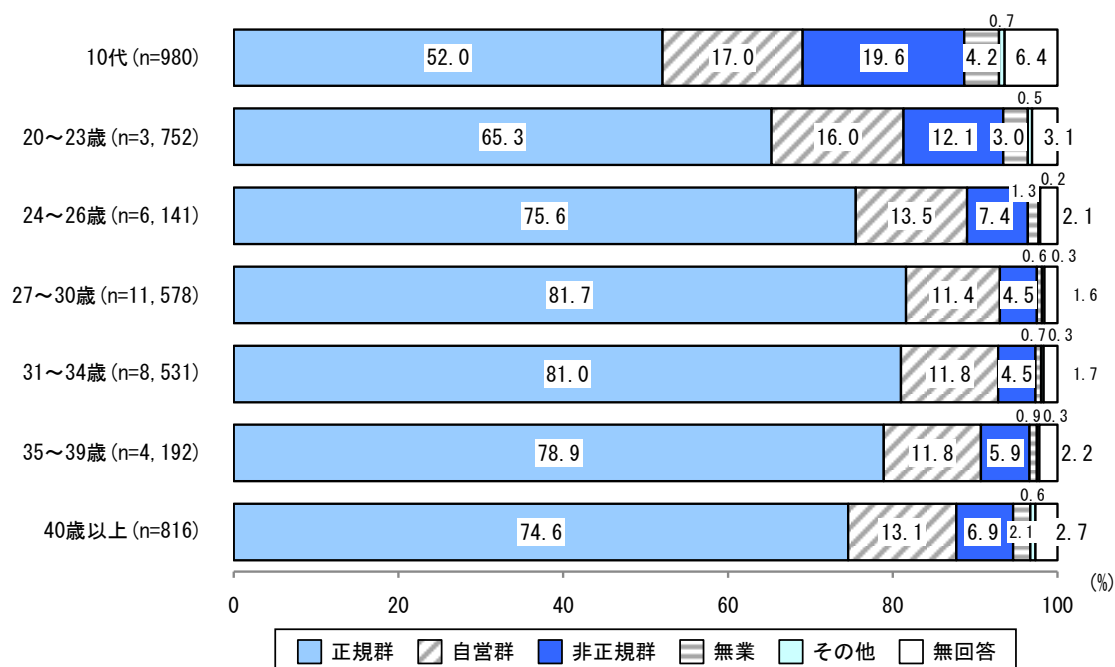


図 21. 初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に父親の最終学歴を見ると、10代において「中学校卒業」（33.3%）と回答した割合が高かった。

初めて親となった年齢別に見た、就労状況（保護者票問 17×保護者票問 9）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<四條畷市>

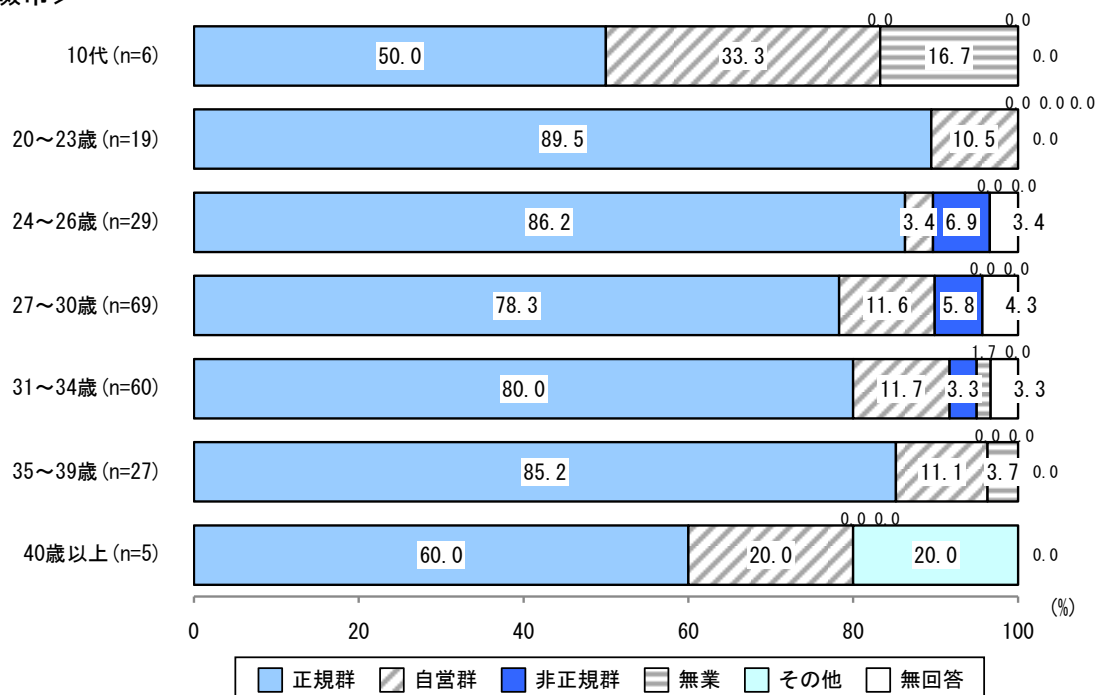
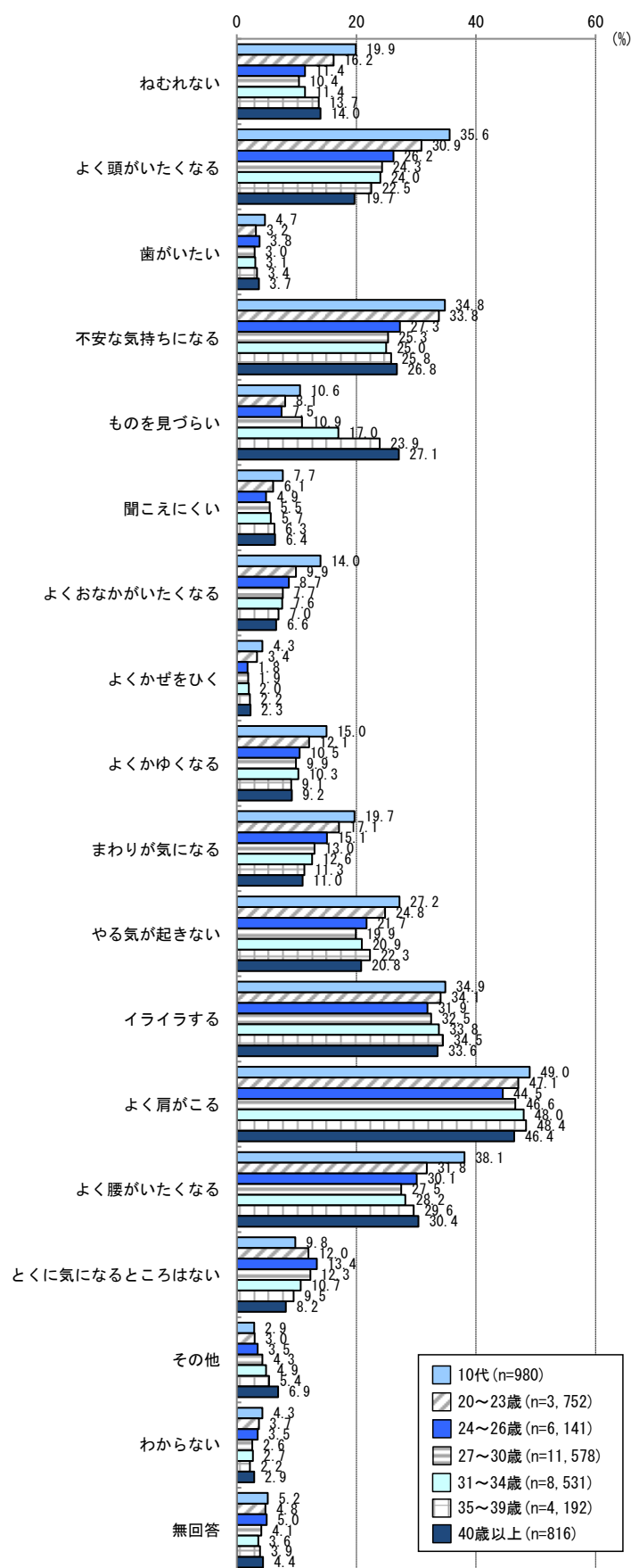


図 22. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況（母親の回答者のみ）

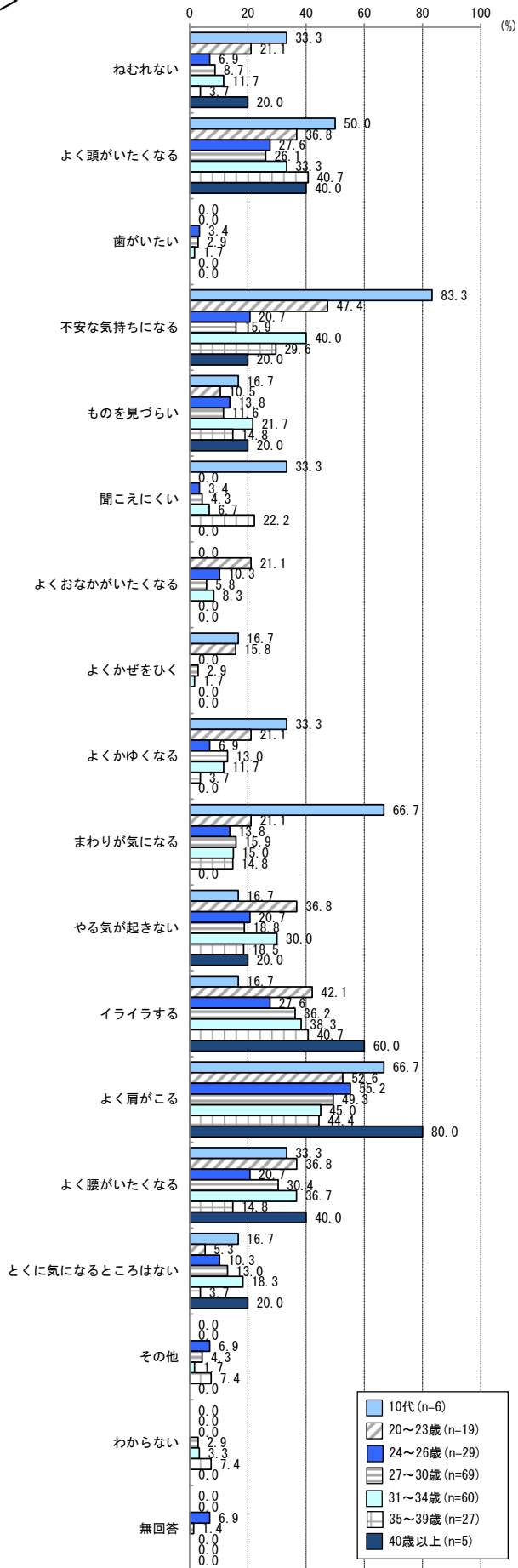
母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に就労状況を見ると、10代は他の群と比較して「正規群」の割合が低く、「無業」の割合が高かった。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
 (保護者票問 17×保護者票問 22) ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



＜四條畷市＞

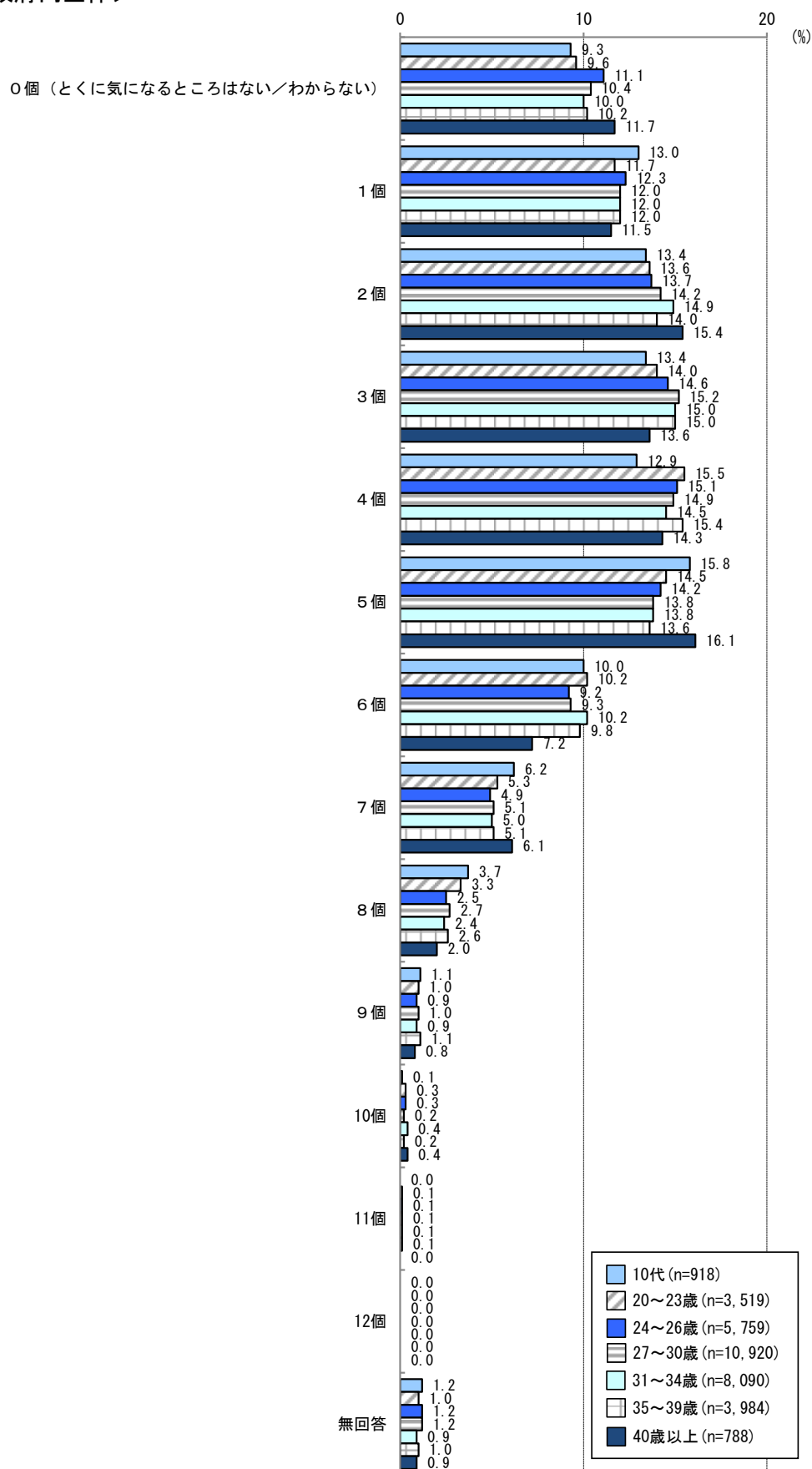


母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、10代は他の年代と比較して「ねむれない」、「よく頭がいたくなる」、「不安な気持ちになる」、「聞こえにくい」、「よくかゆくなる」、「まわりが気になる」の割合が高くなっている。

図 23. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること（母親の回答者のみ）

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問 17
× 子ども票問 19・20） ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<四條畷市>

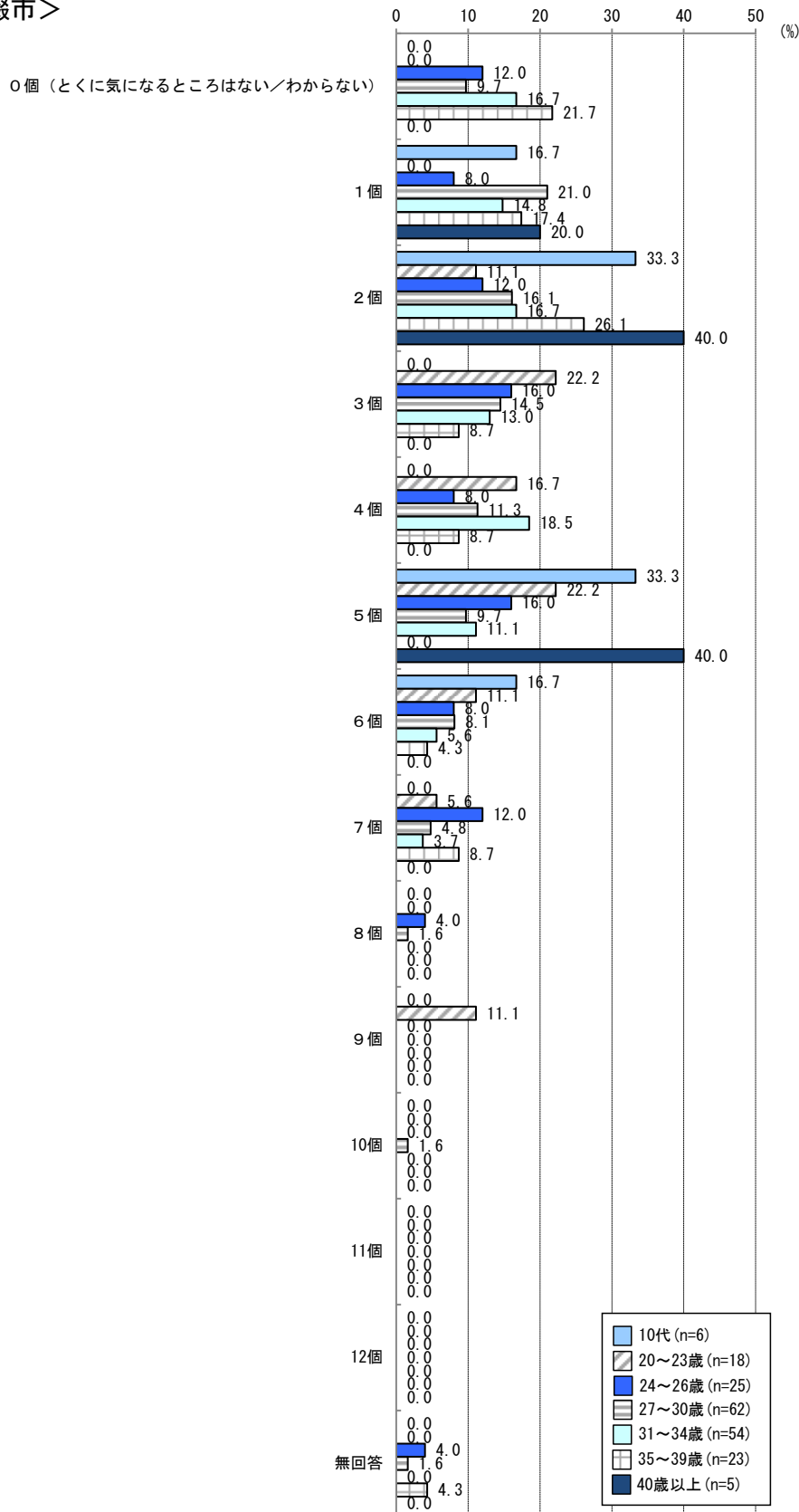
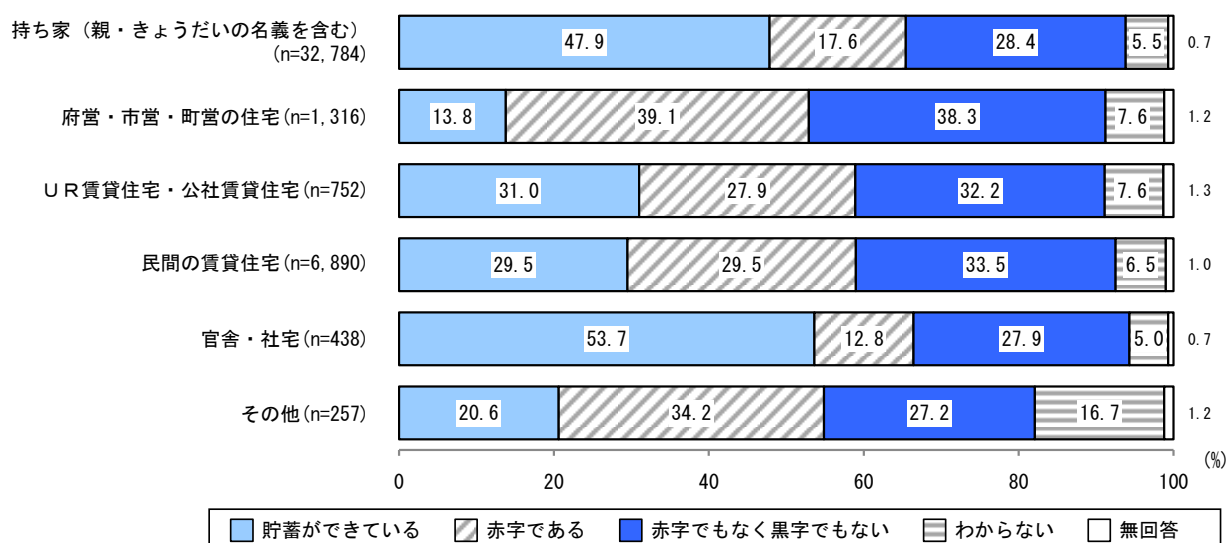


図 24. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10代と40歳以上では、他の年齢と比較して「2個」と「5個」の割合が高くなっている。

住居形態別に見た、家計の状況（保護者票問5×保護者票問6(1)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

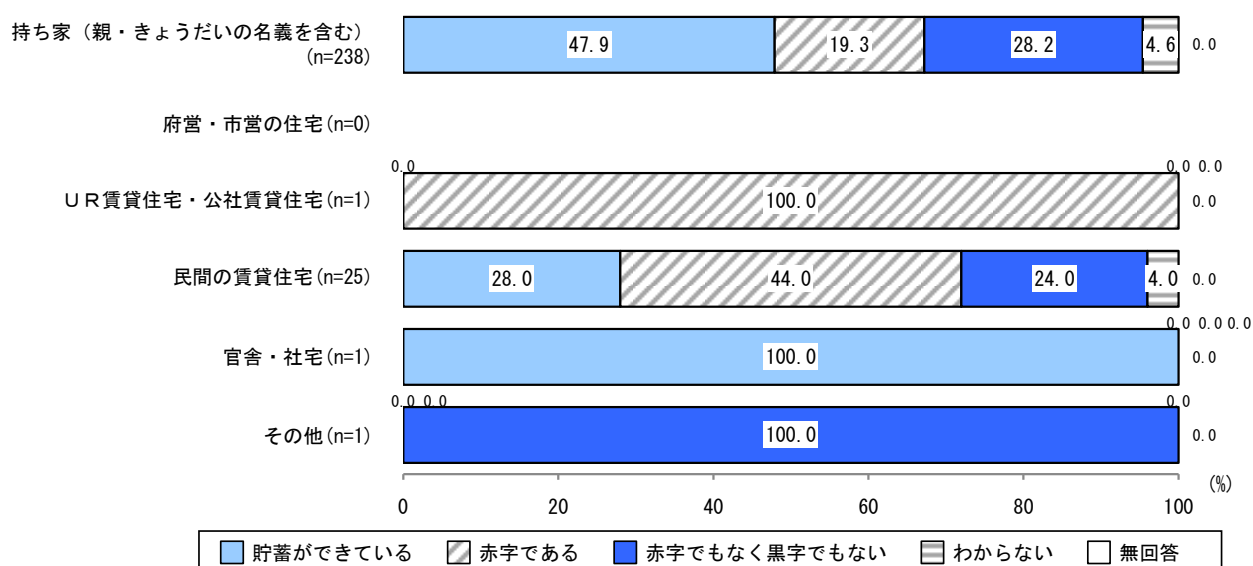
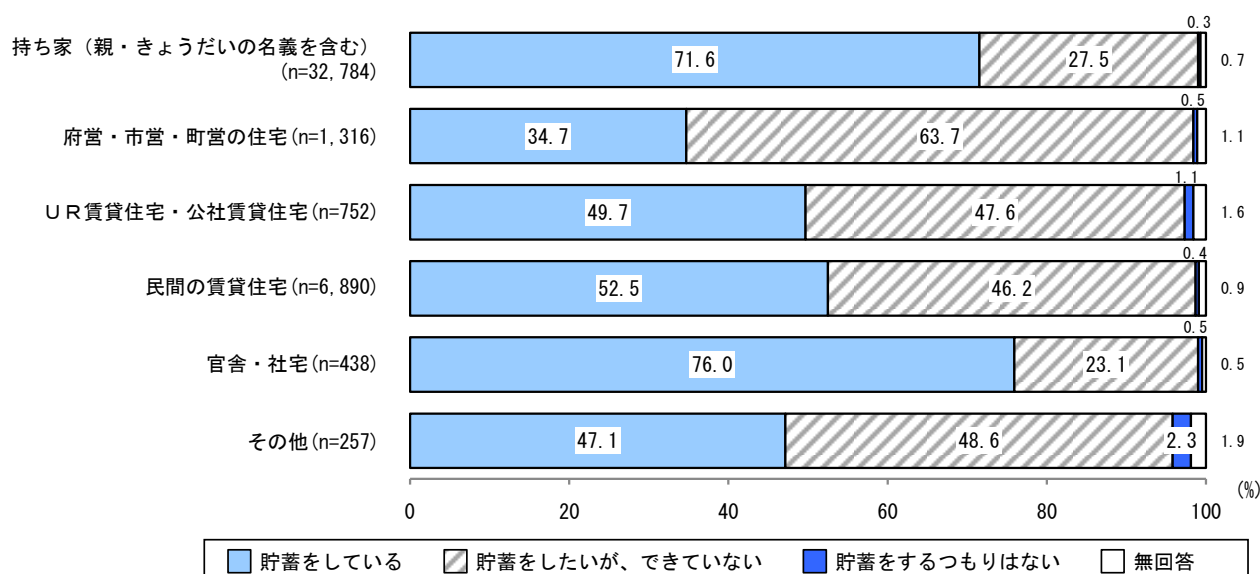


図 25. 住居形態別に見た、家計の状況

住居別到家計状況を見ると、UR賃貸住宅・公社賃貸住宅に住む人で、「赤字である」と回答した割合が100.0%と最も高くなっている。また、持ち家に住む人で「赤字である」と回答した割合は19.3%であった。

住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問5×保護者票問6(2)）

＜大阪府内全体＞



＜四條畷市＞

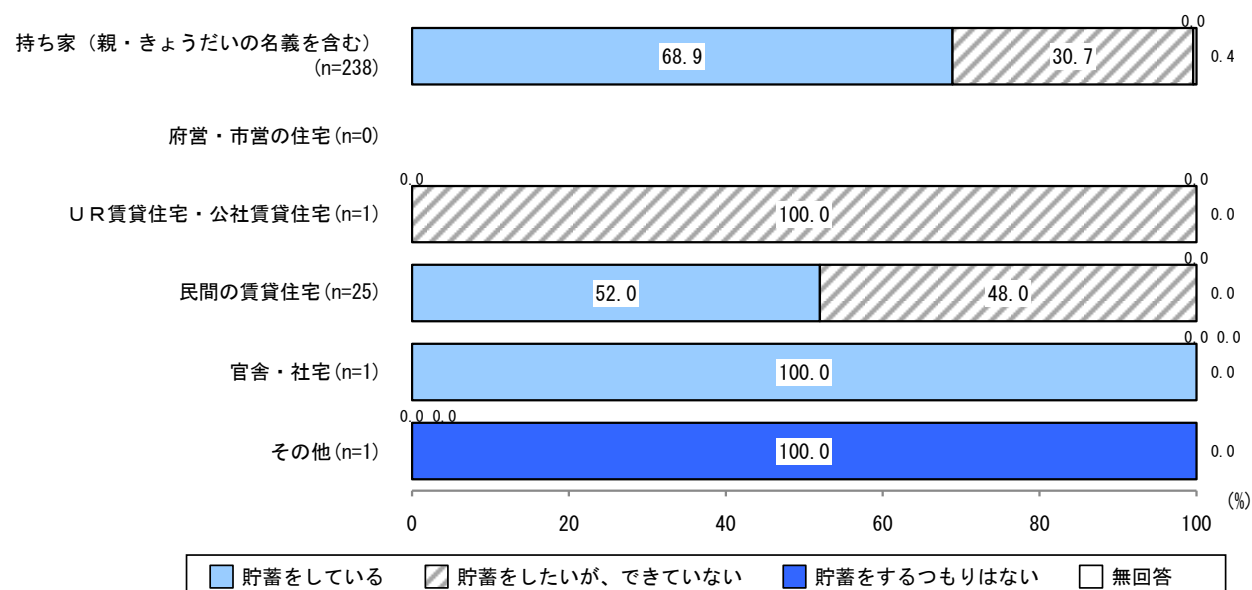
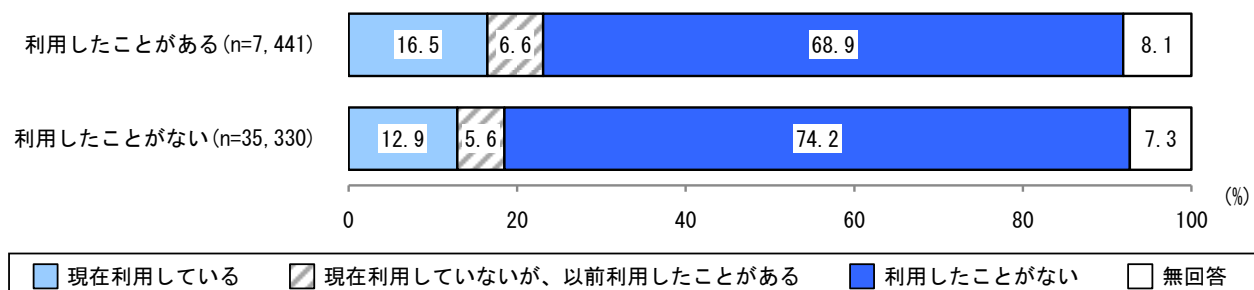


図 26. 住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

住居形態別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、UR賃貸受託・公社賃貸住宅に住む人で、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合が100.0%と最も高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

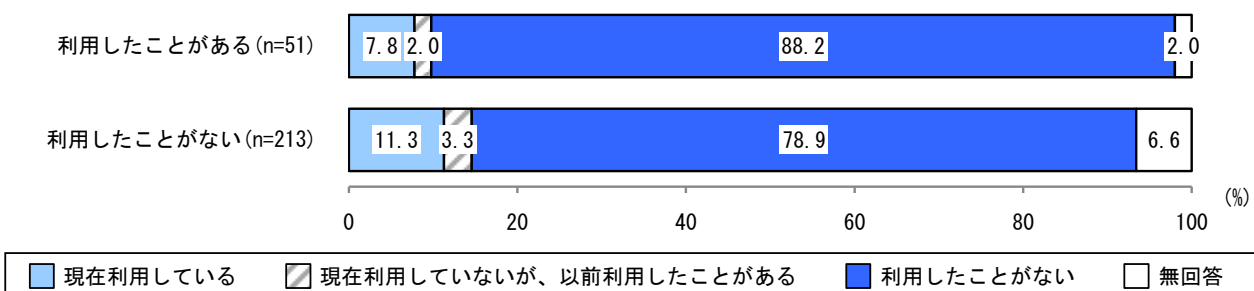
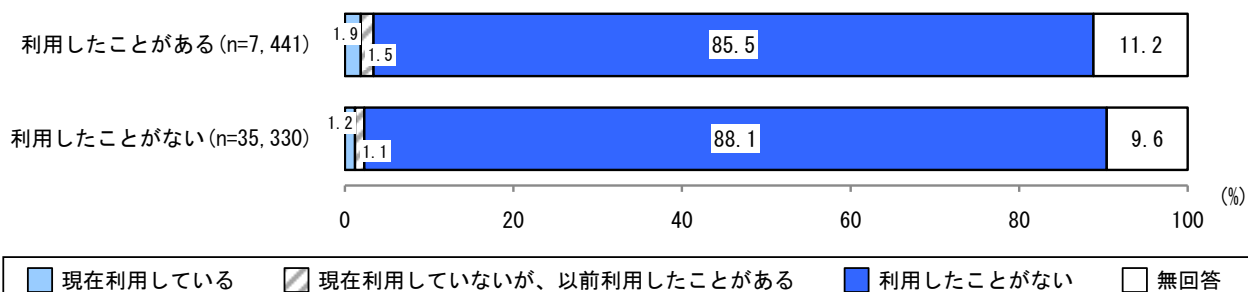


図 27. 子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に就学援助の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが就学援助を「現在利用している」と回答した割合がやや高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

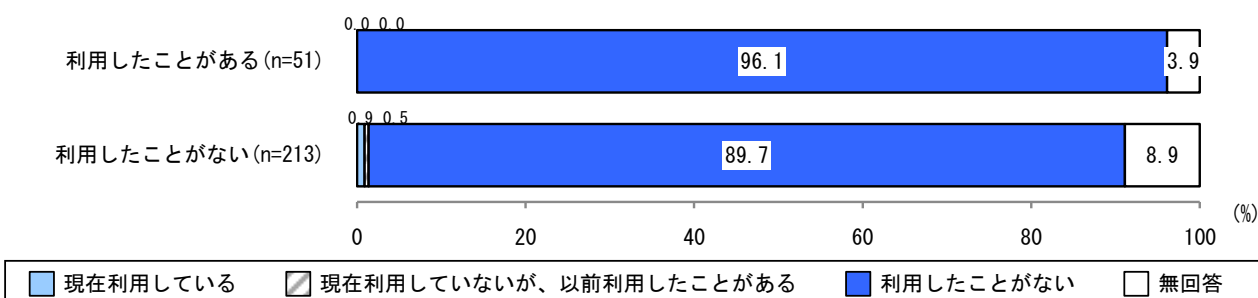
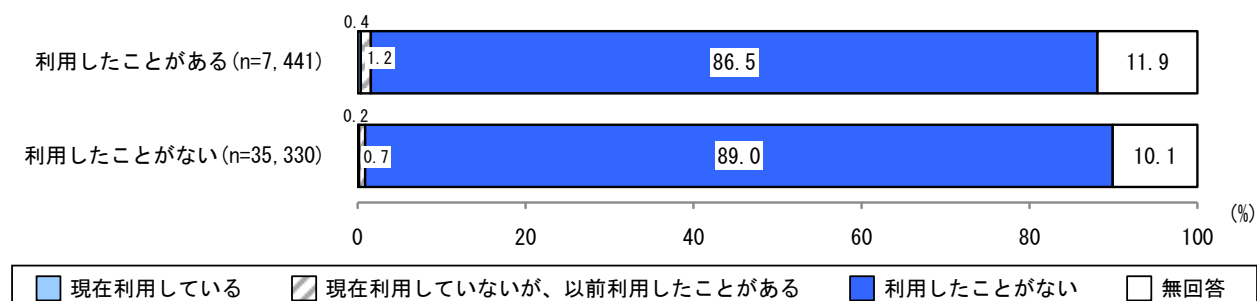


図 28. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活保護の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがない」人より「利用したことがある」人のほうが生活保護を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

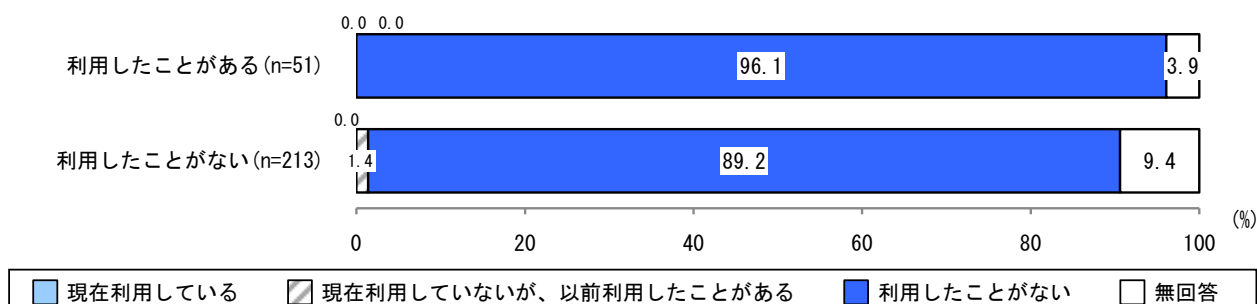
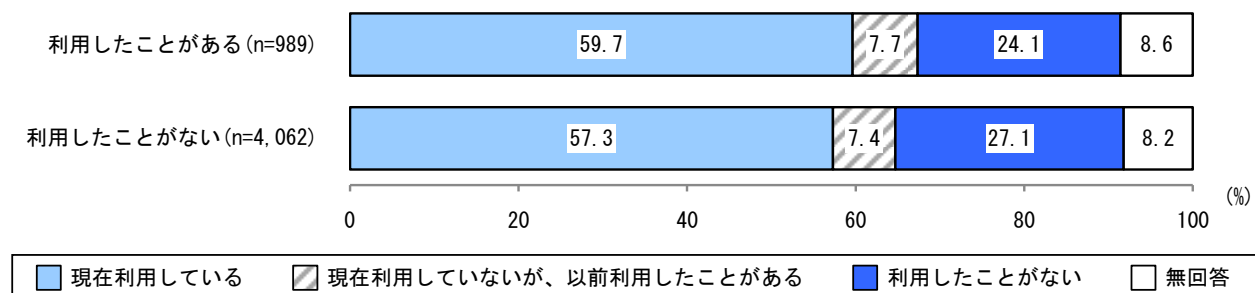


図 29. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがない」人より「利用したことがある」人のほうが生活困窮者の自立支援相談窓口を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-d)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

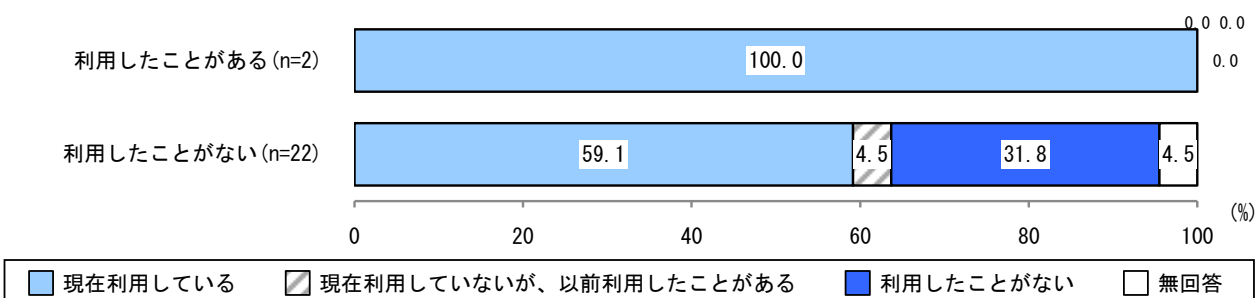
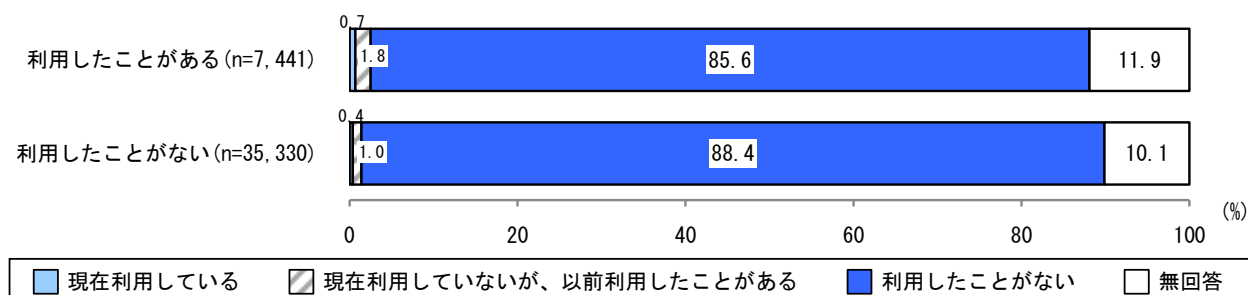


図 30. 子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

子どもの居場所の利用経験別に児童扶養手当の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがない」人より「利用したことがある」人のほうが児童扶養手当を「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

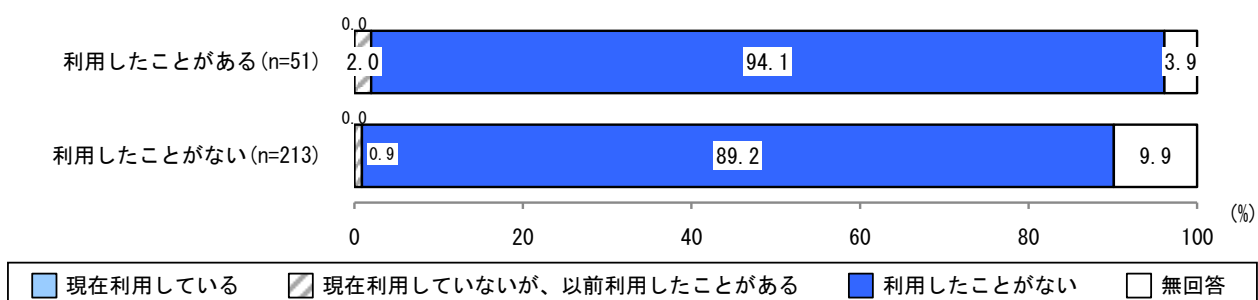
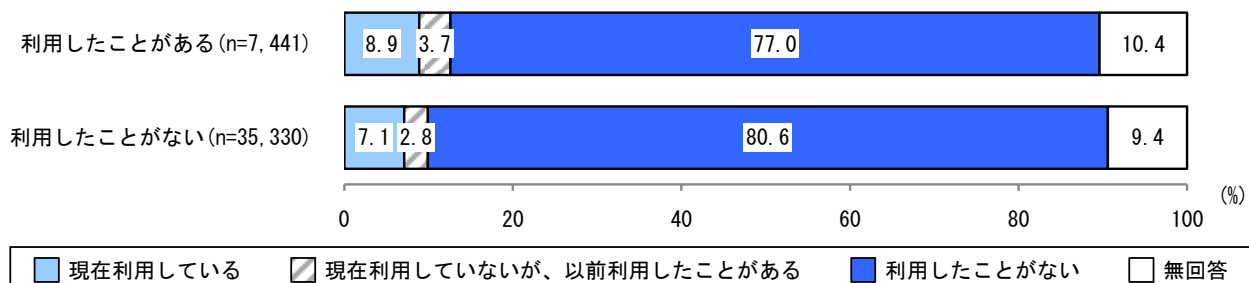


図 31. 子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

子どもの居場所の利用経験別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがない」人より「利用したことがある」人のほうが母子家庭等就業・自立支援センターを「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-f)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

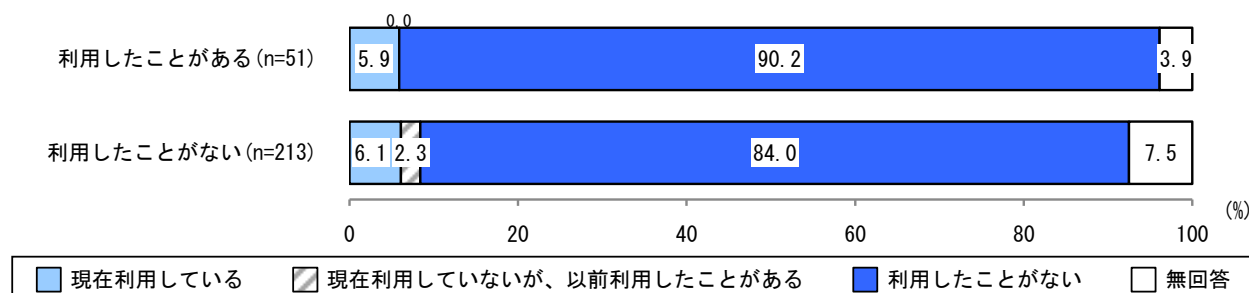
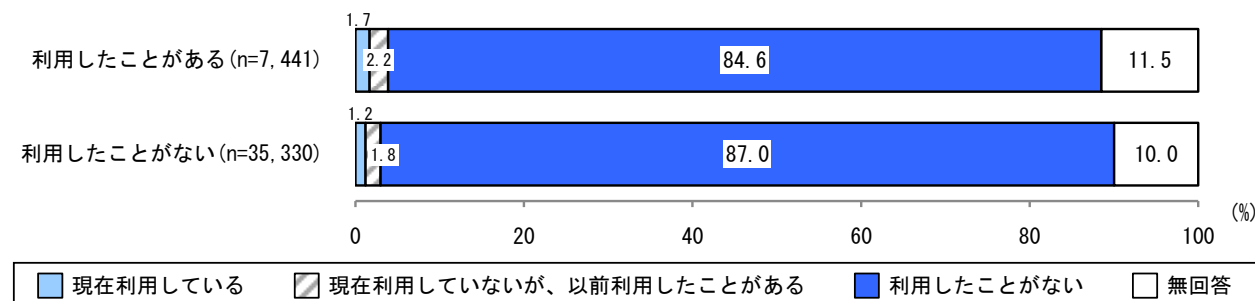


図 32. 子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがない」人より「利用したことがある」人のほうが低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-g)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

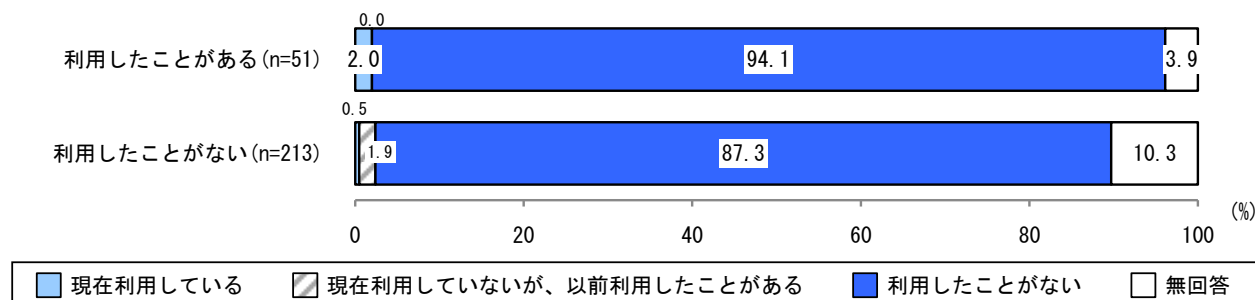
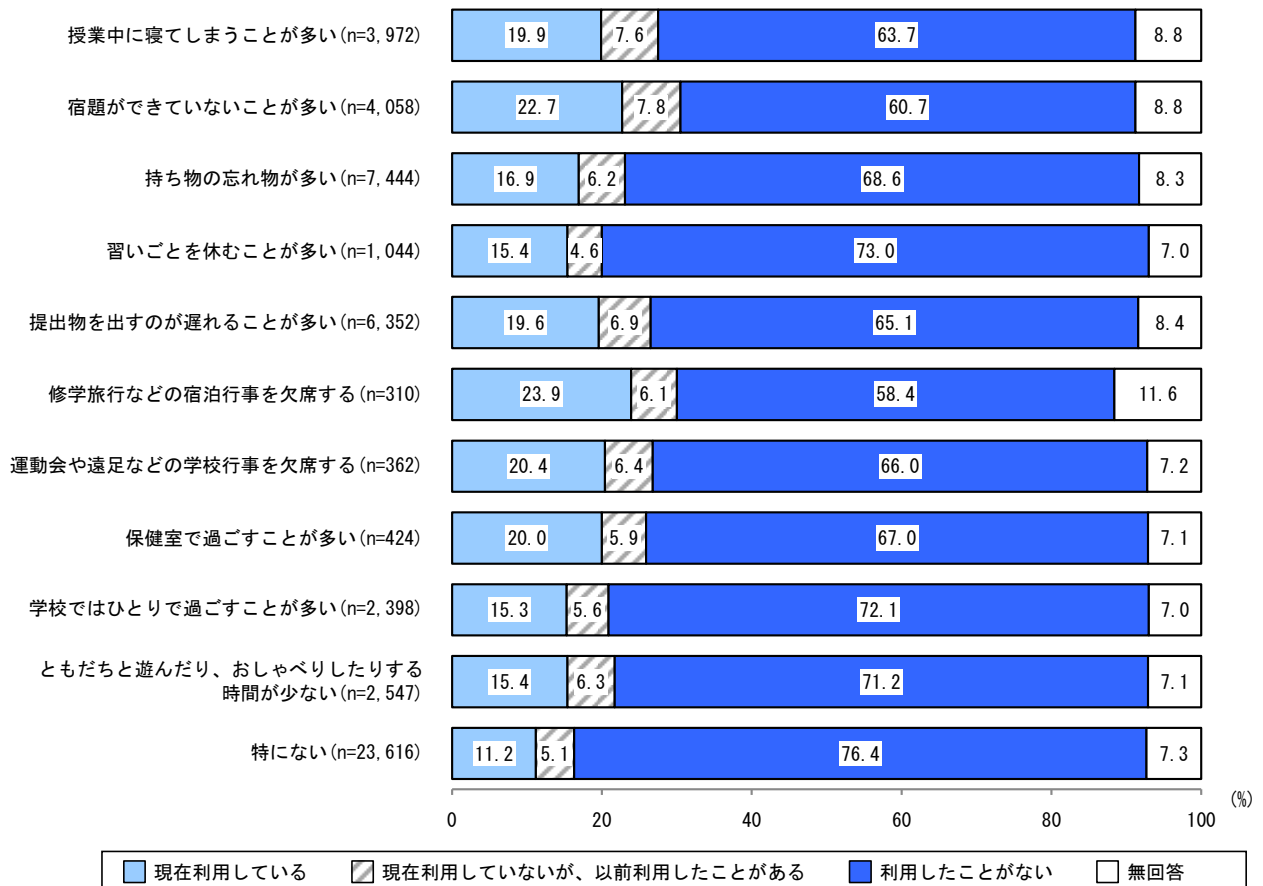


図 33. 子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがない」人より「利用したことがある」人のほうが新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-a）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

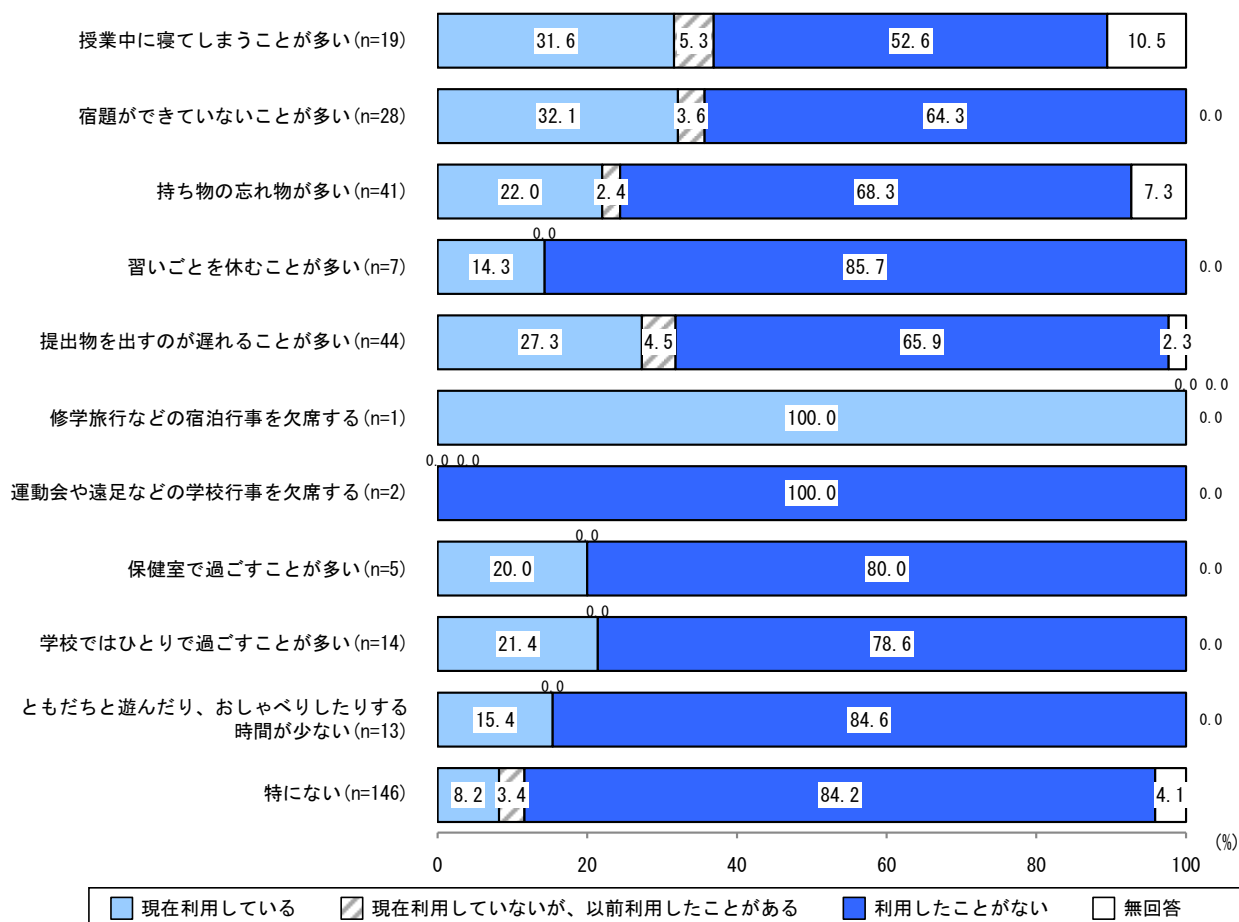
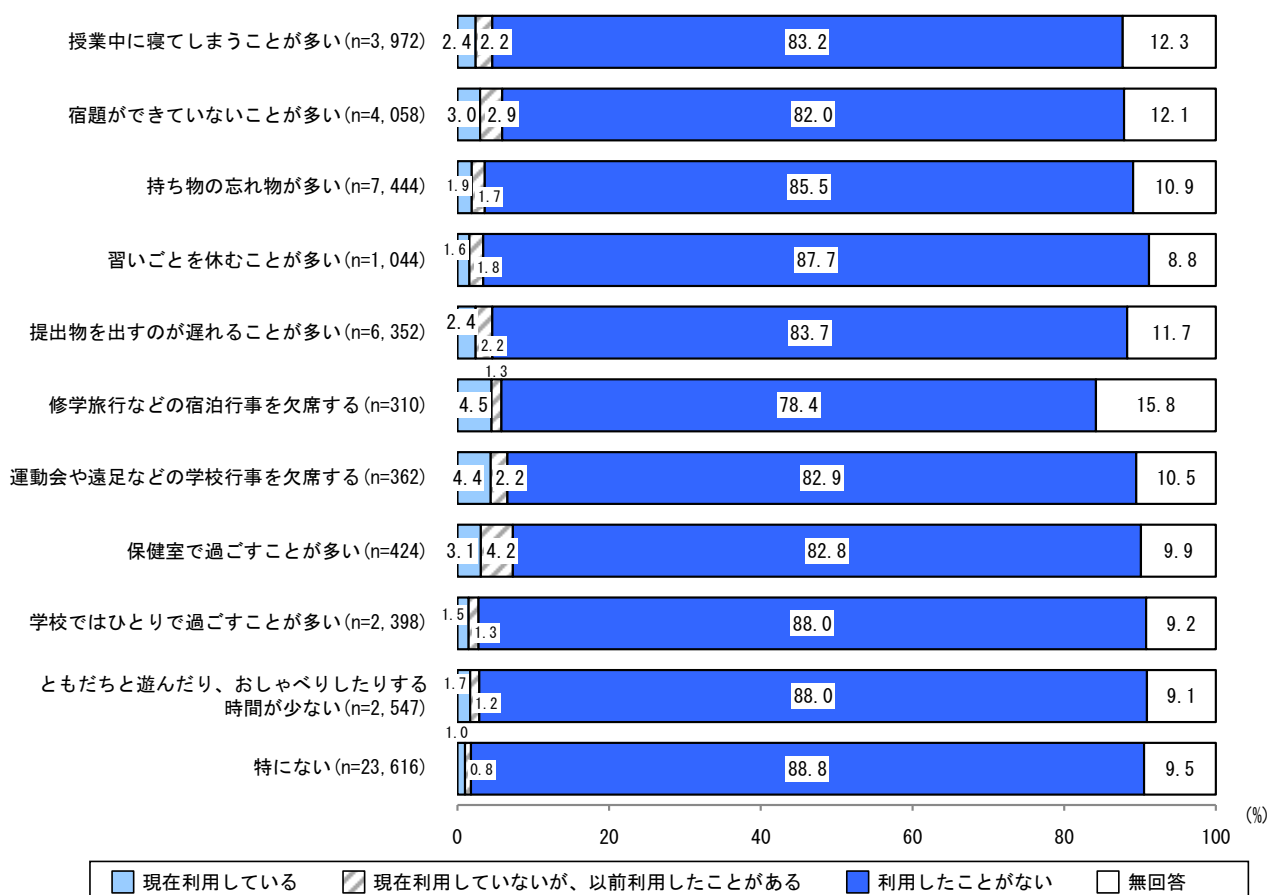


図 34. 学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」と回答した割合が100.0%で最も高く、次いで「宿題ができていないことが多い」が32.1%となっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

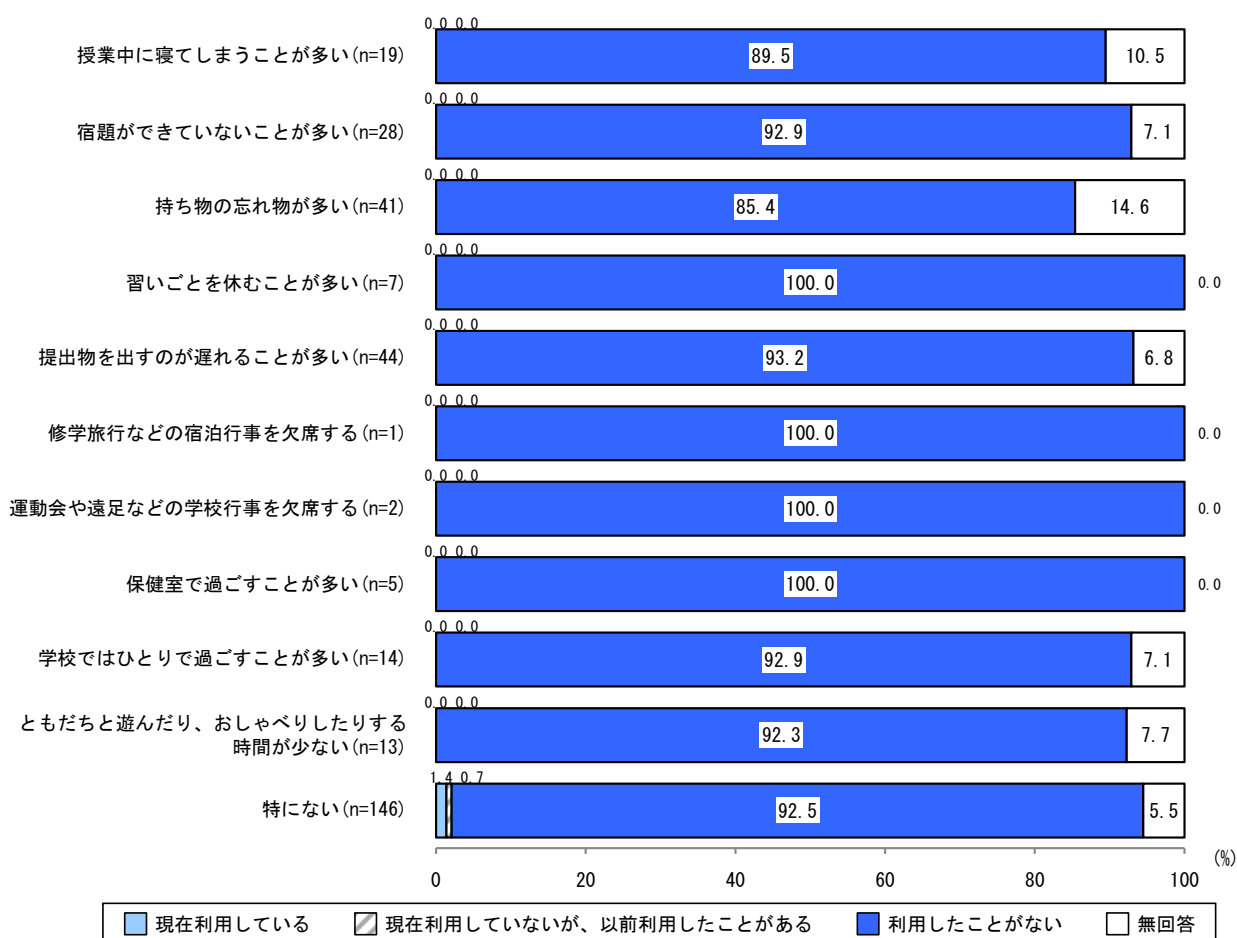
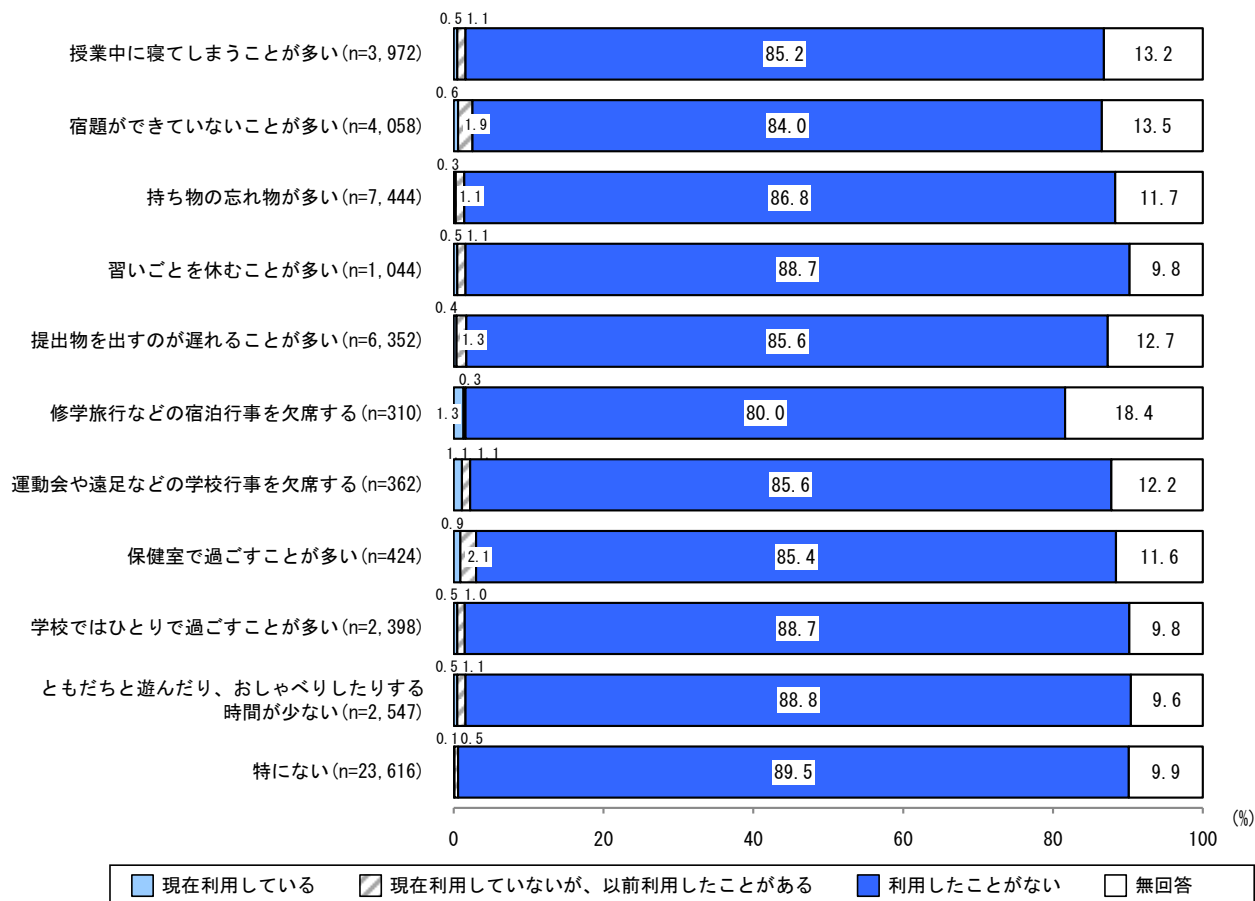


図 35. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活保護の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「特にない」と回答した割合が1.4%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(子ども票問 16×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

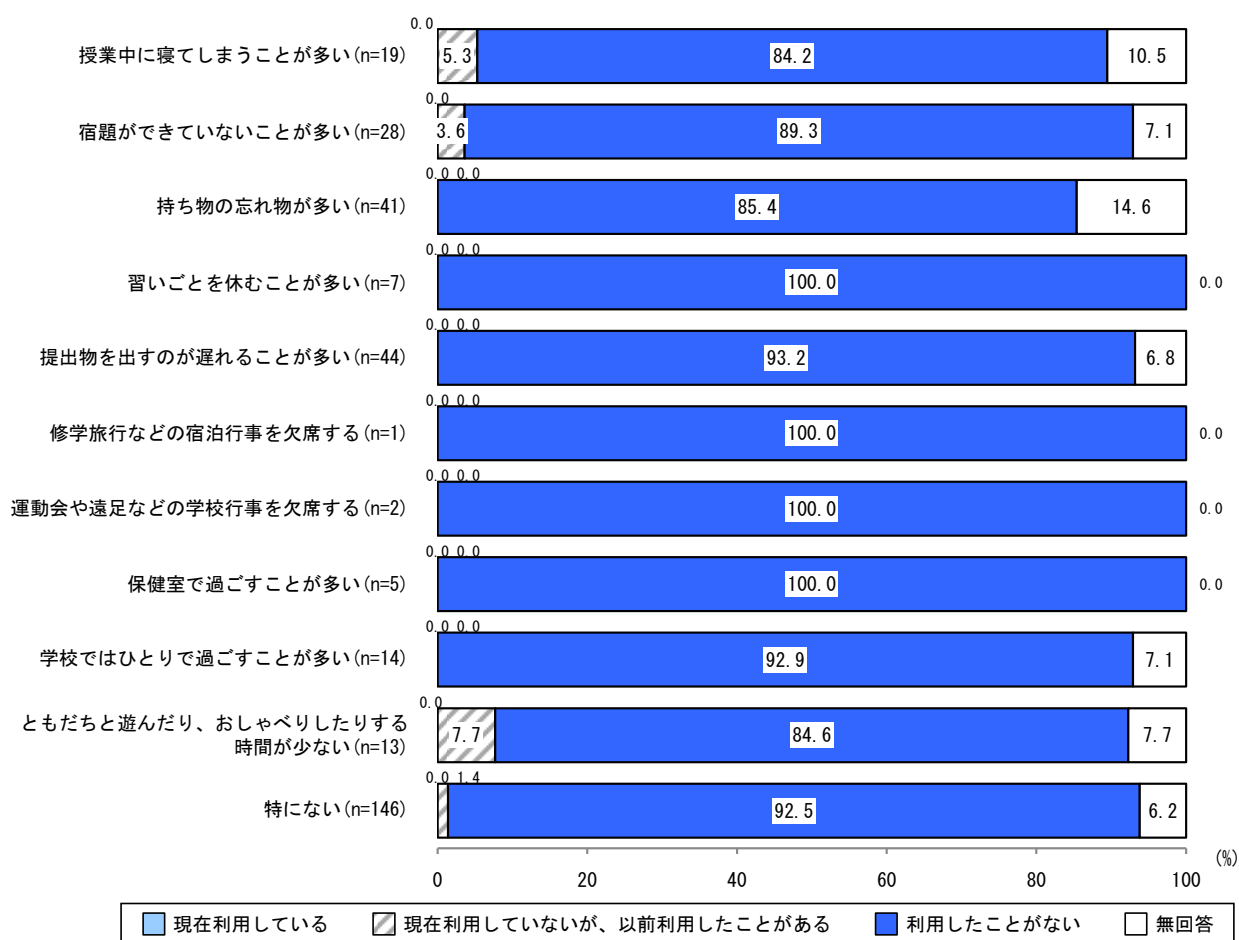
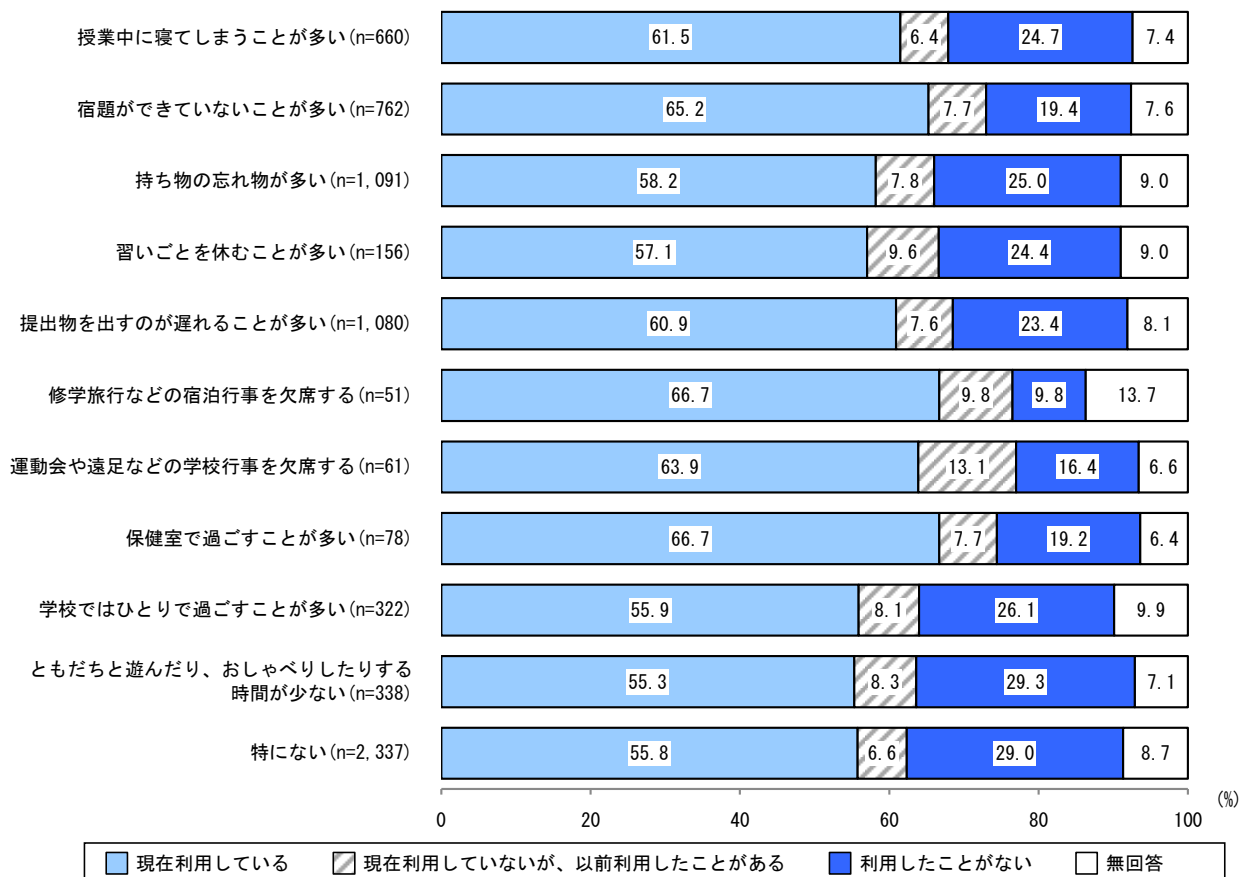


図 36. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、「現在利用していないが、以前利用したことがある」と回答した人の割合は、「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」と回答した割合が7.7%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（子ども票問 16×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

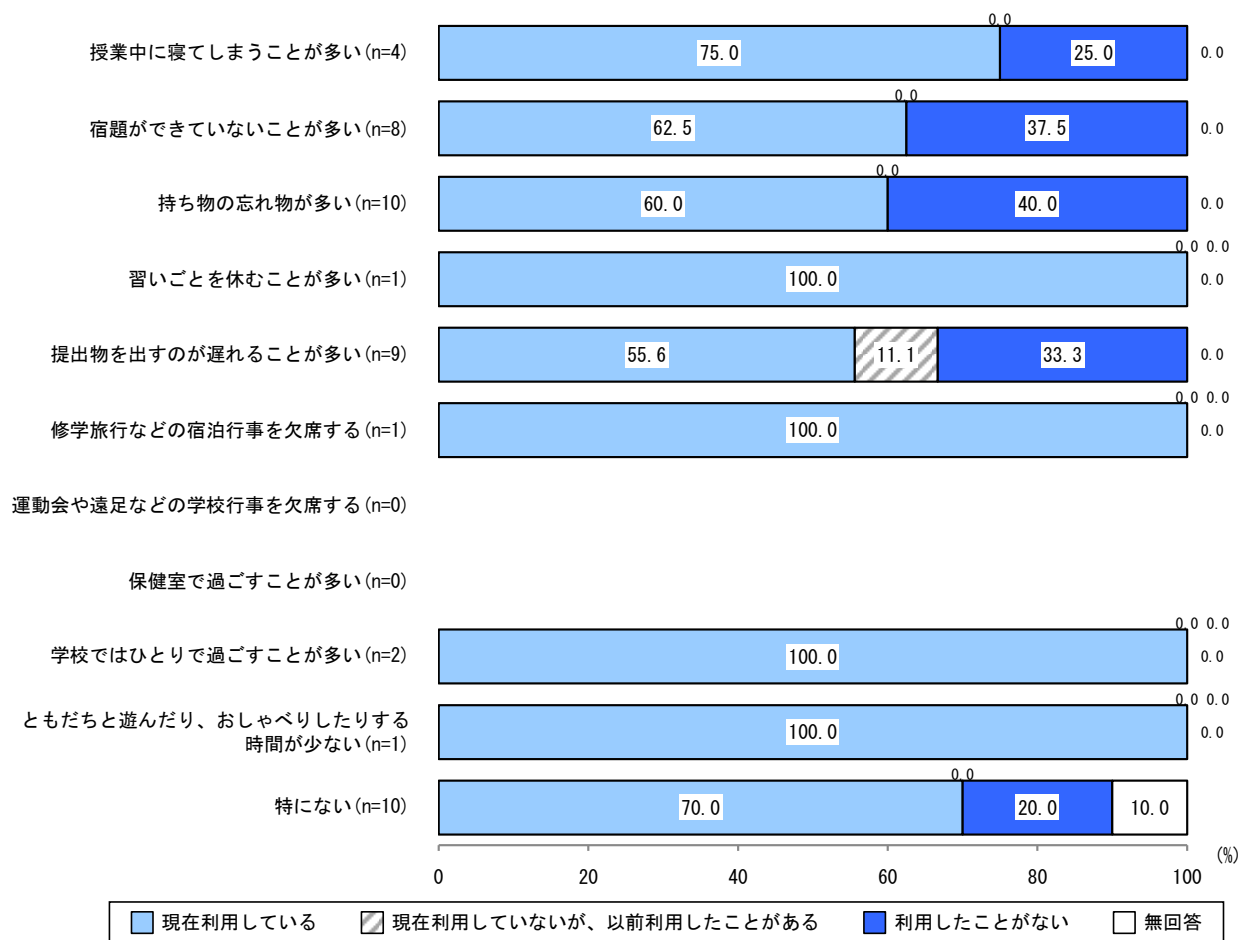
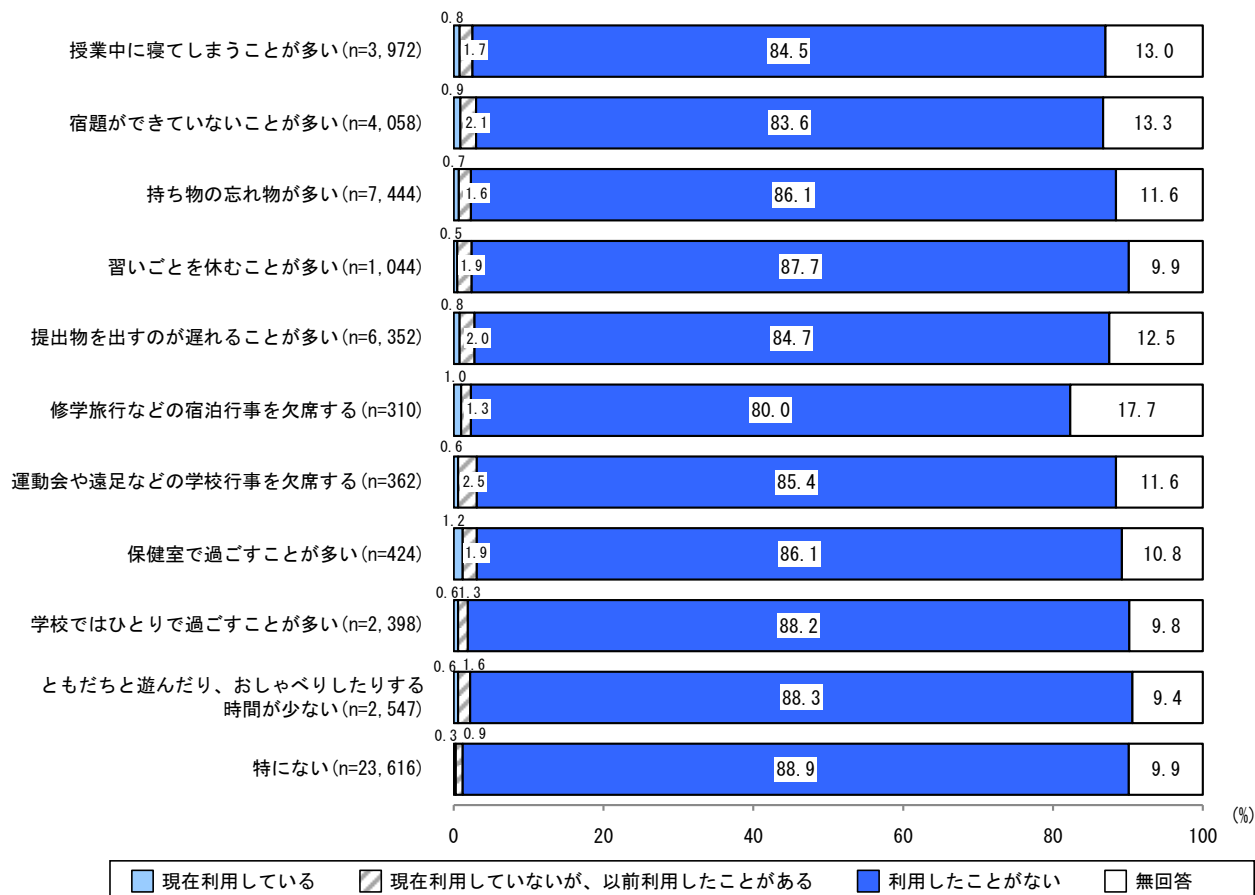


図 37. 学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

学校や学校の行事等の状況別に児童扶養手当の利用状況を見ると、母数が少ないため一概には言えないが、「現在利用している」と回答した人の割合は、「提出物を出すのが遅れることが多い」を除いて6割以上を占めている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(子ども票問 16×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

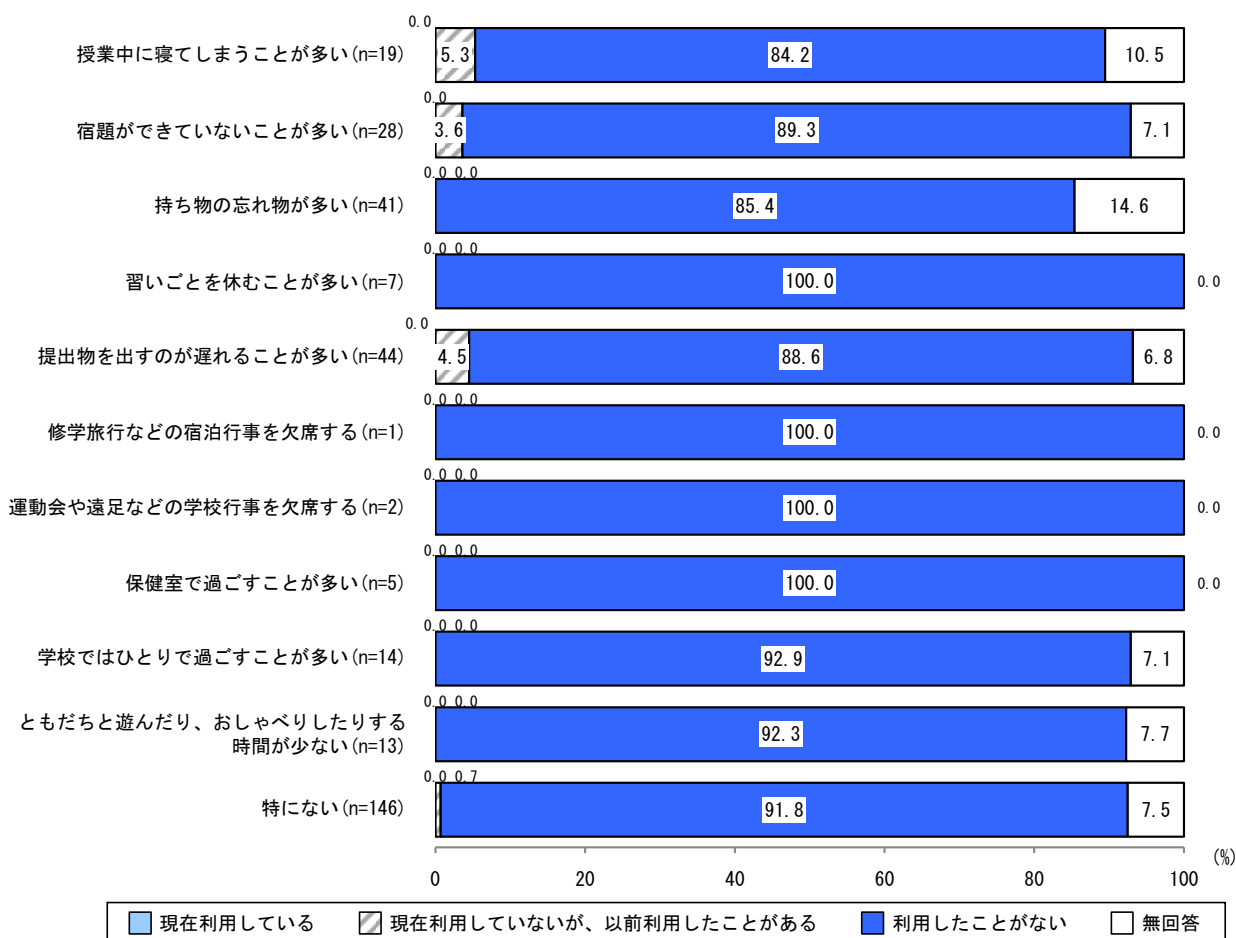
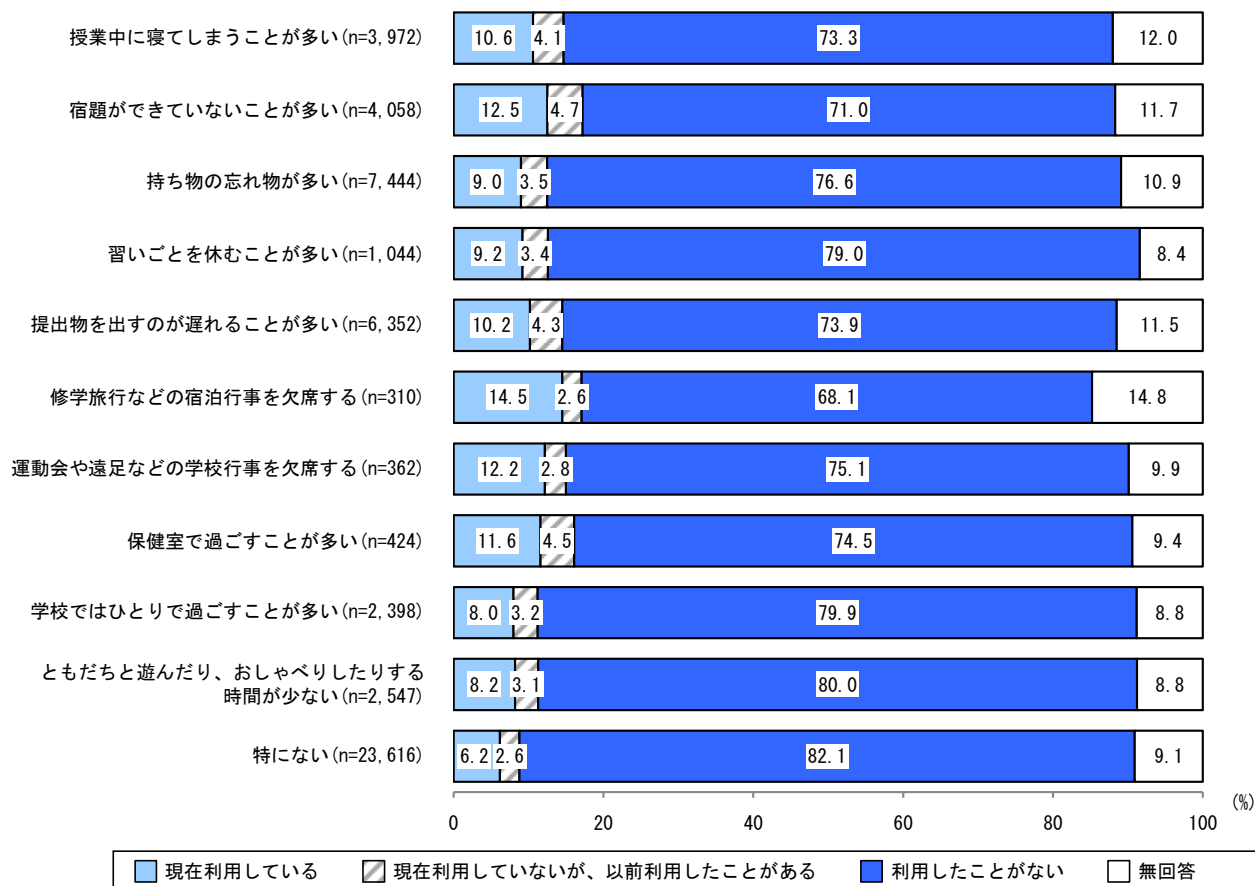


図 38. 学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

学校や学校の行事等の状況別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ると、「現在利用していないが、以前利用したことがある」と回答した人の割合は、「授業中に寝てしまうことが多い」と回答した割合が5.3%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

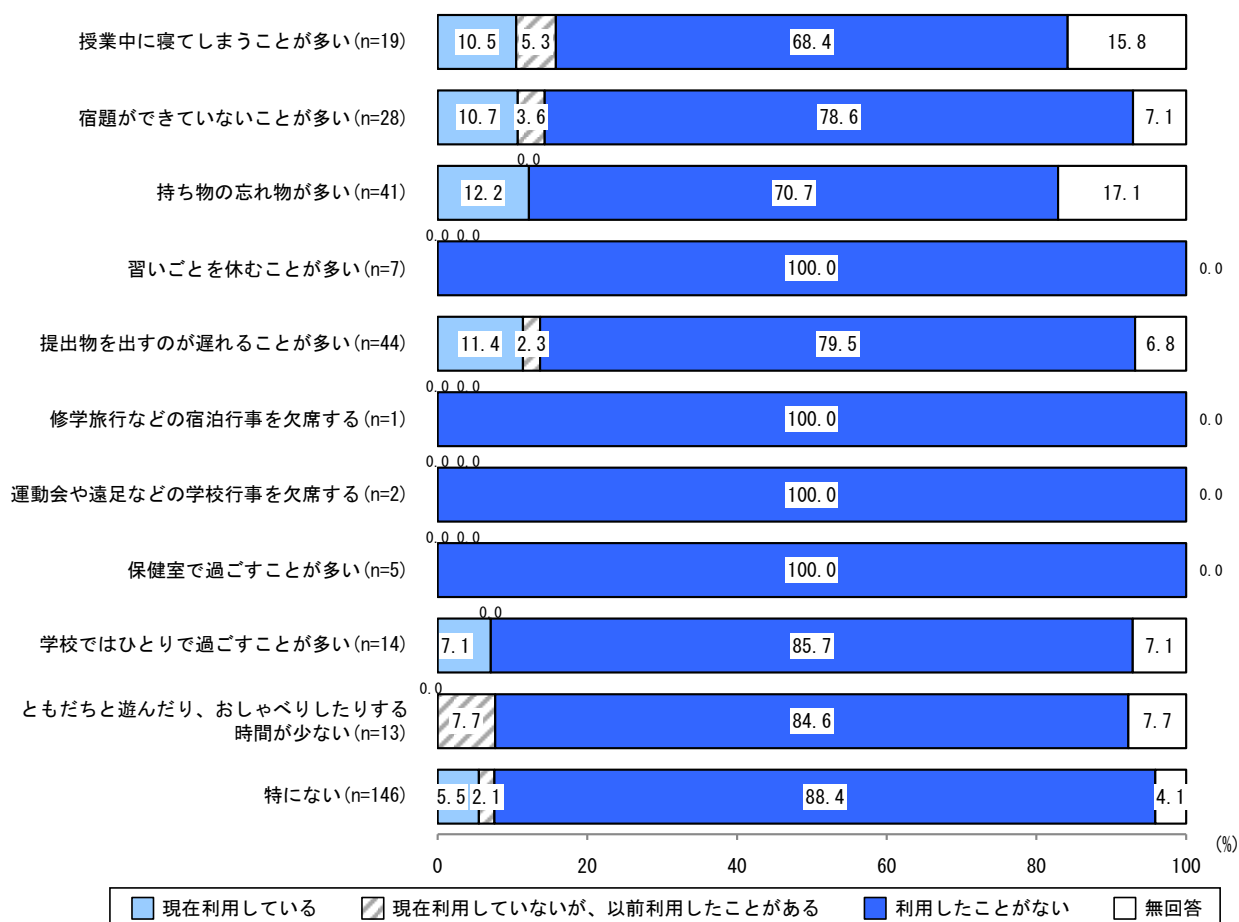
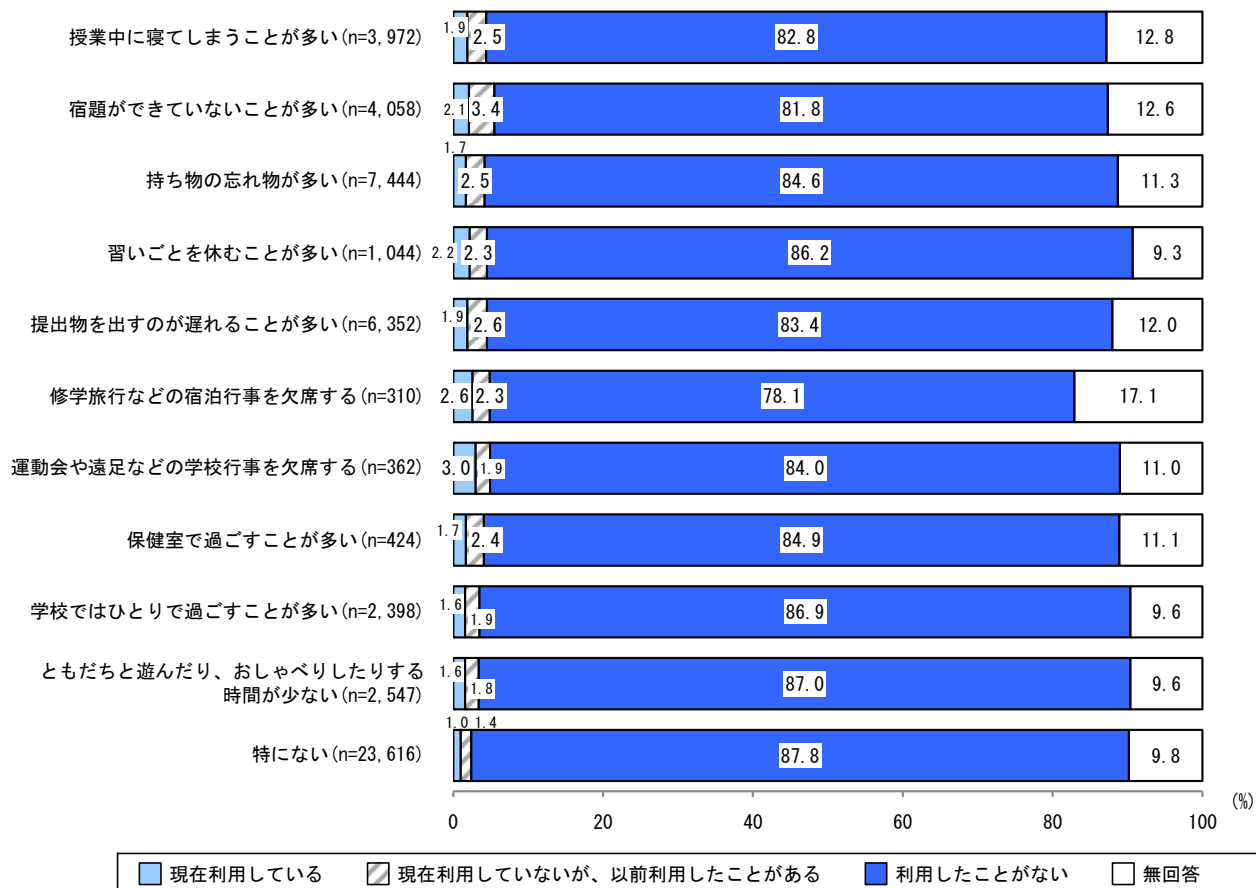


図 39. 学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「持ち物の忘れ物が多い」と回答した割合が12.2%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

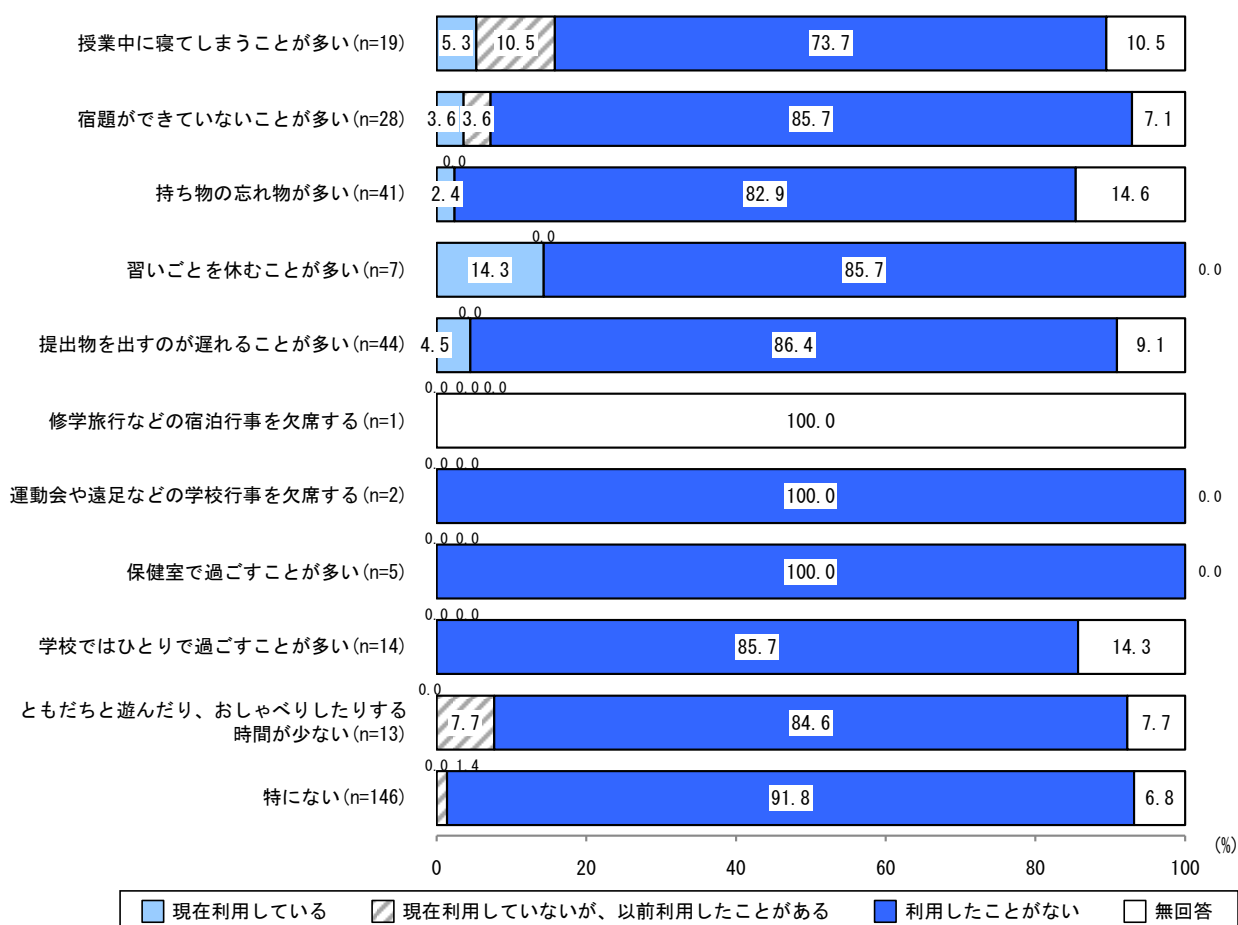
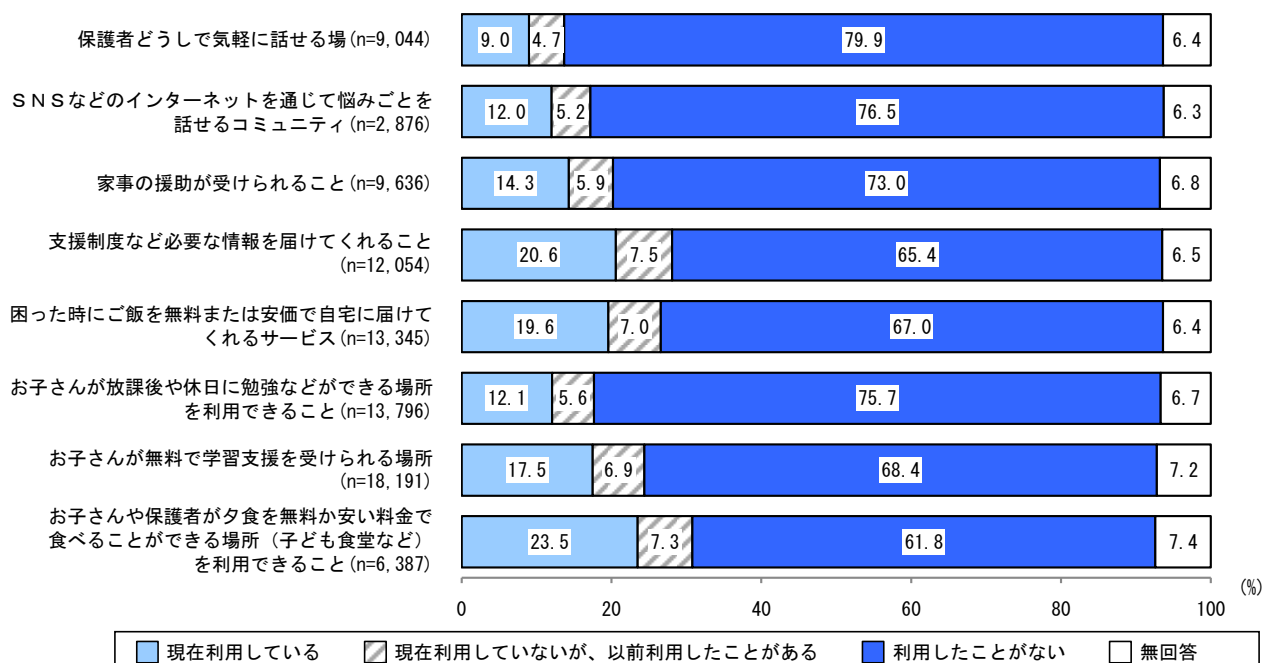


図 40. 学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、現在利用している」と回答した人の割合は、「習いごとを休むことが多い」と回答した割合が14.3%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

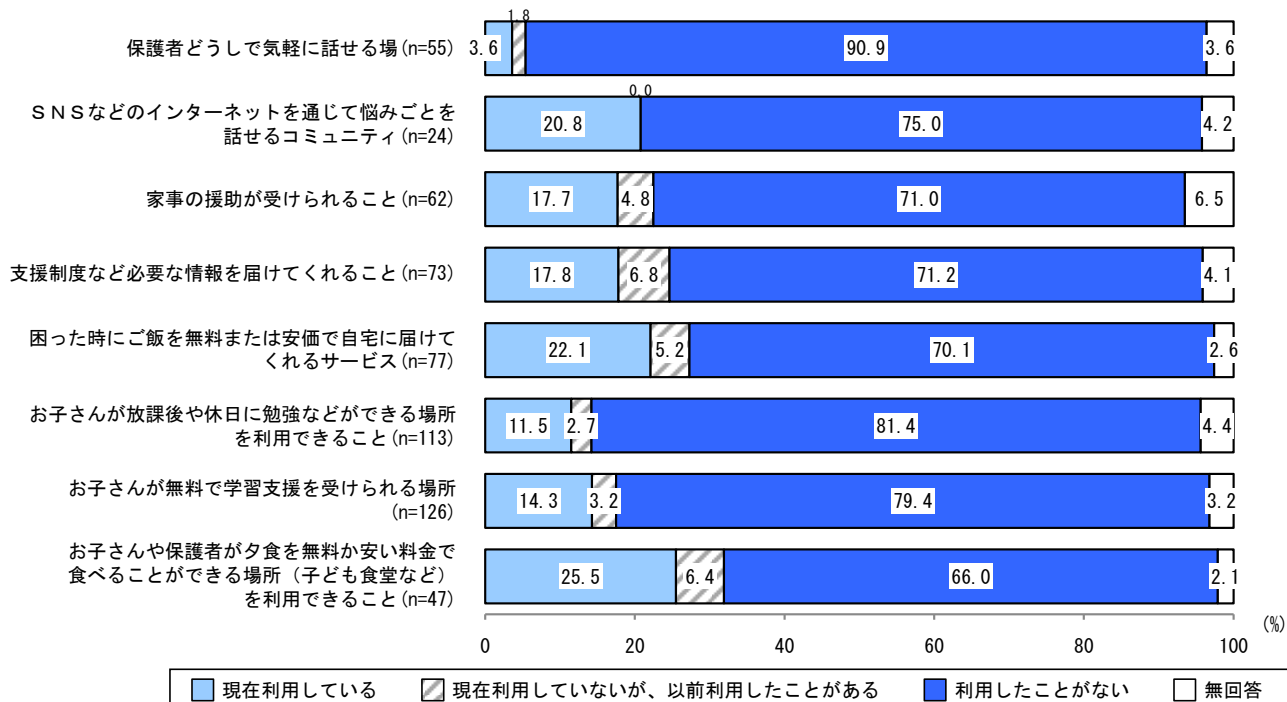
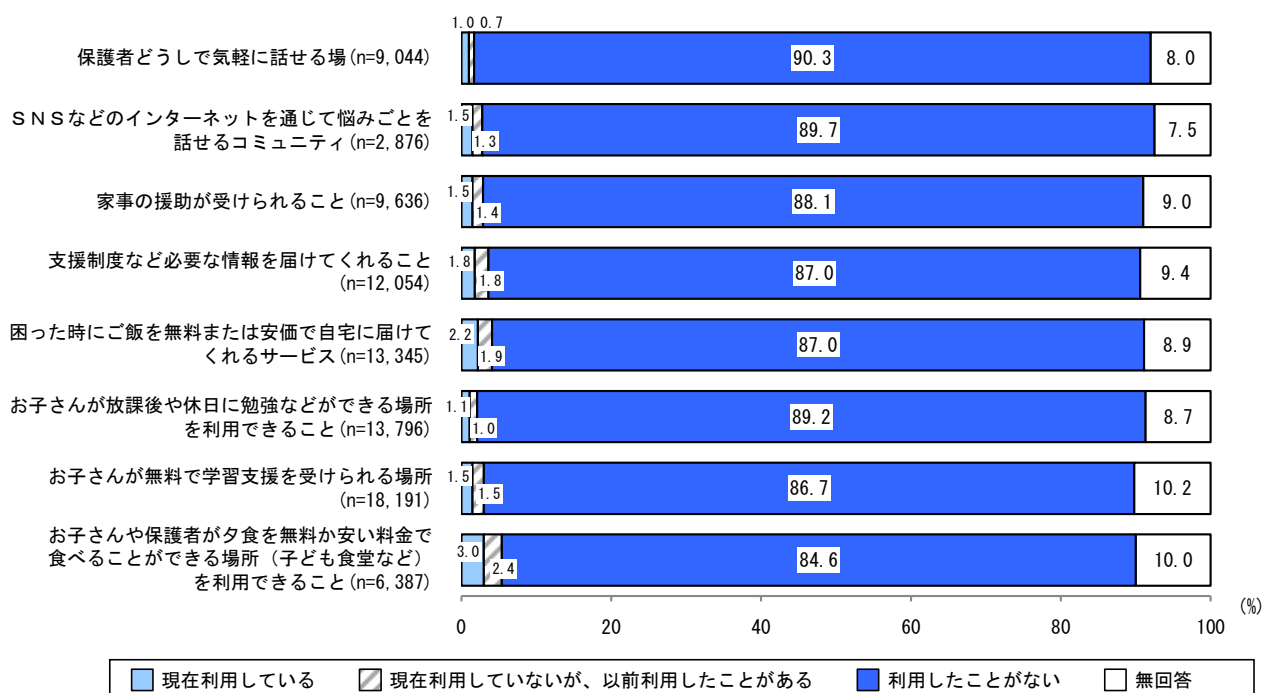


図 41. 身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」と回答した割合が25.5%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

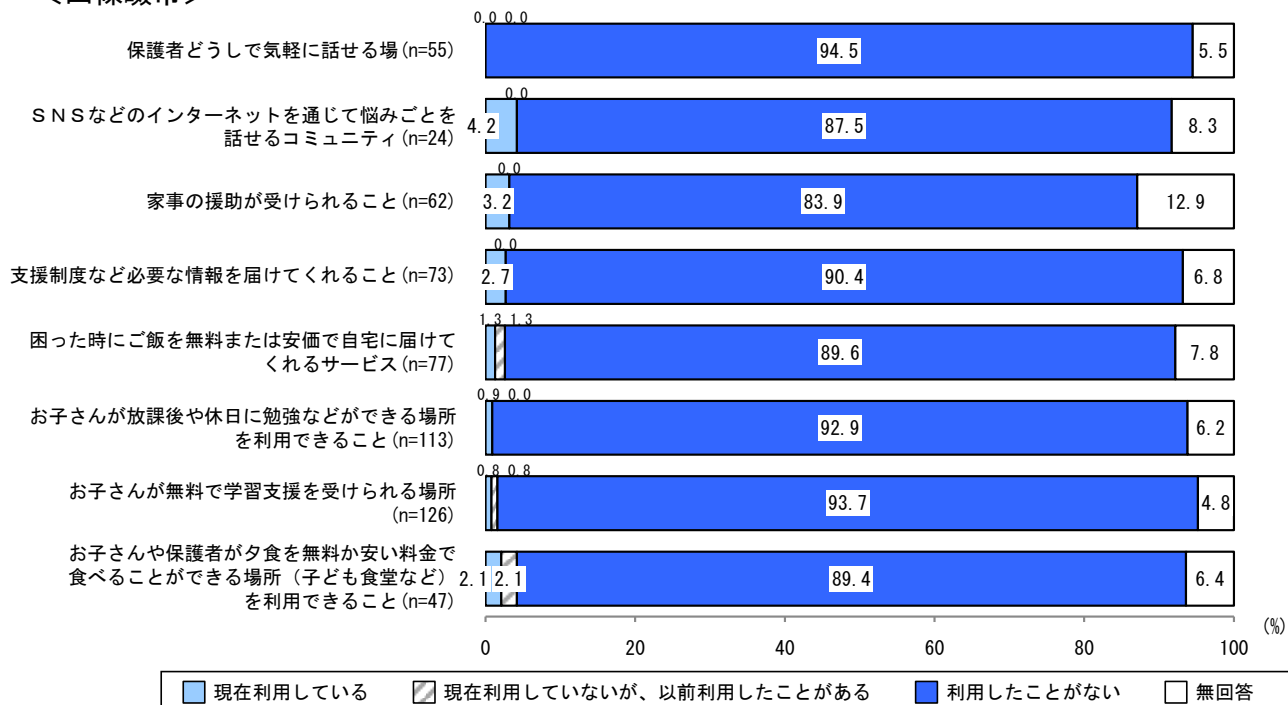
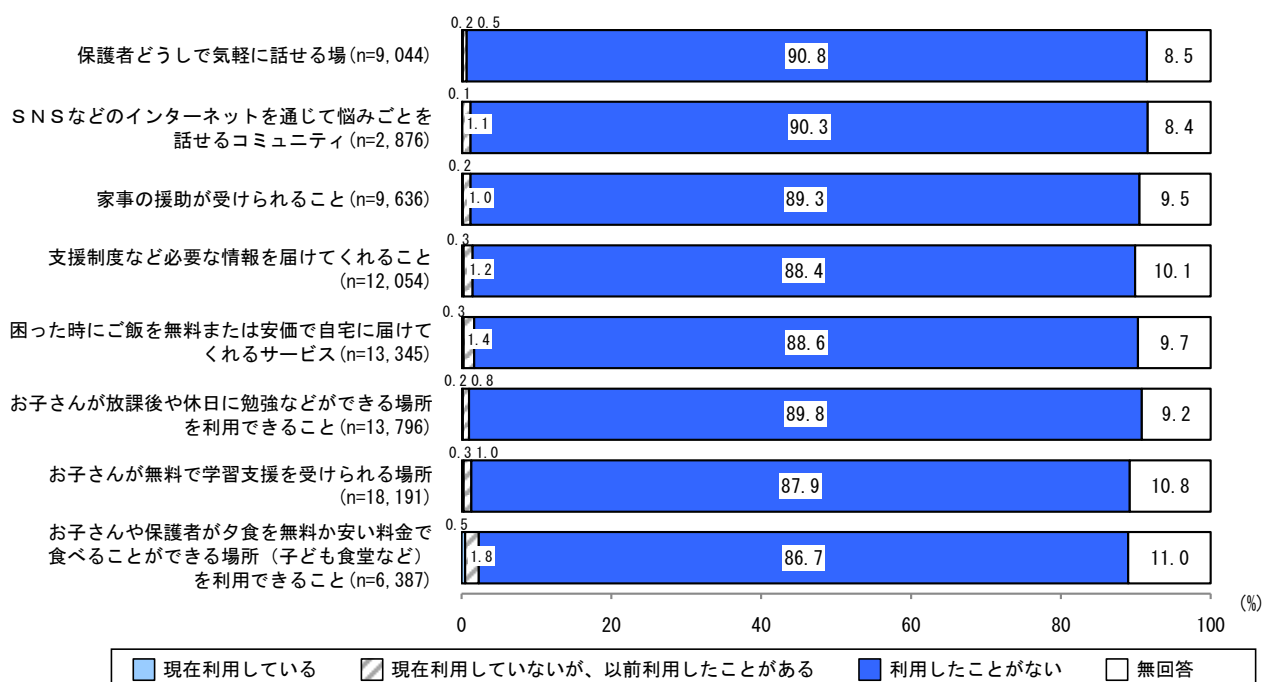


図 42. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活保護の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ」と回答した割合が4.2%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

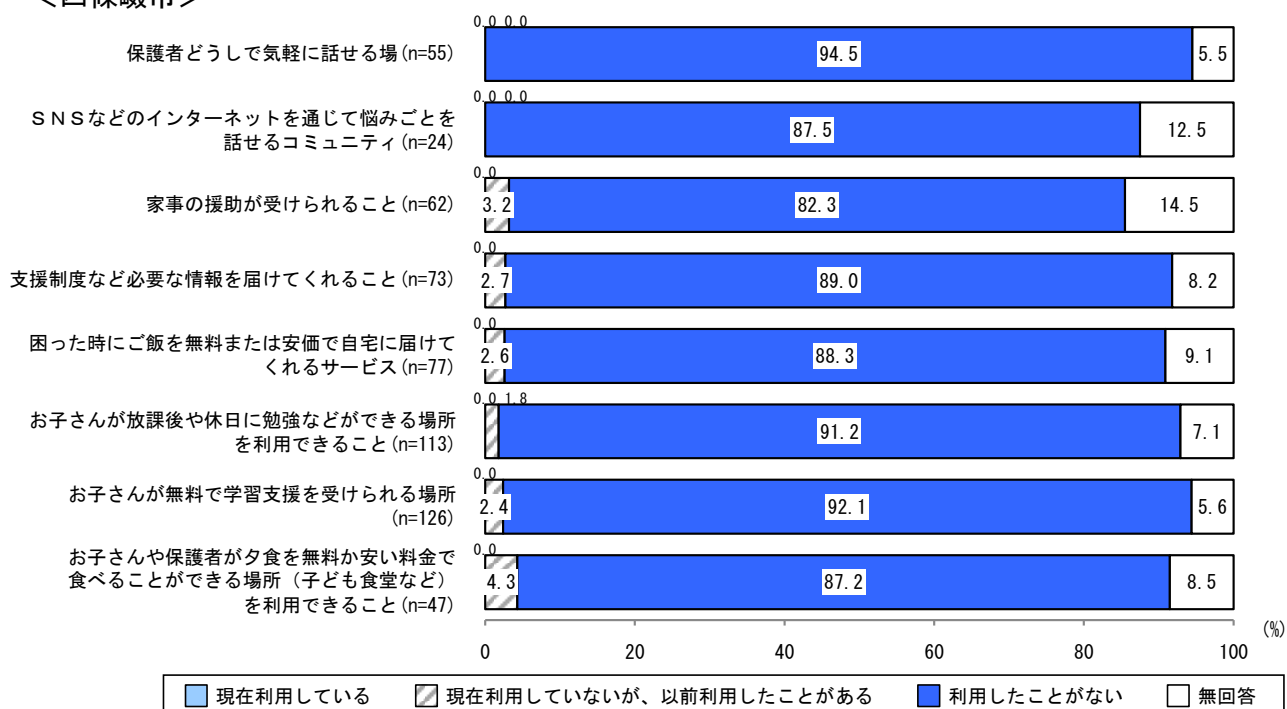
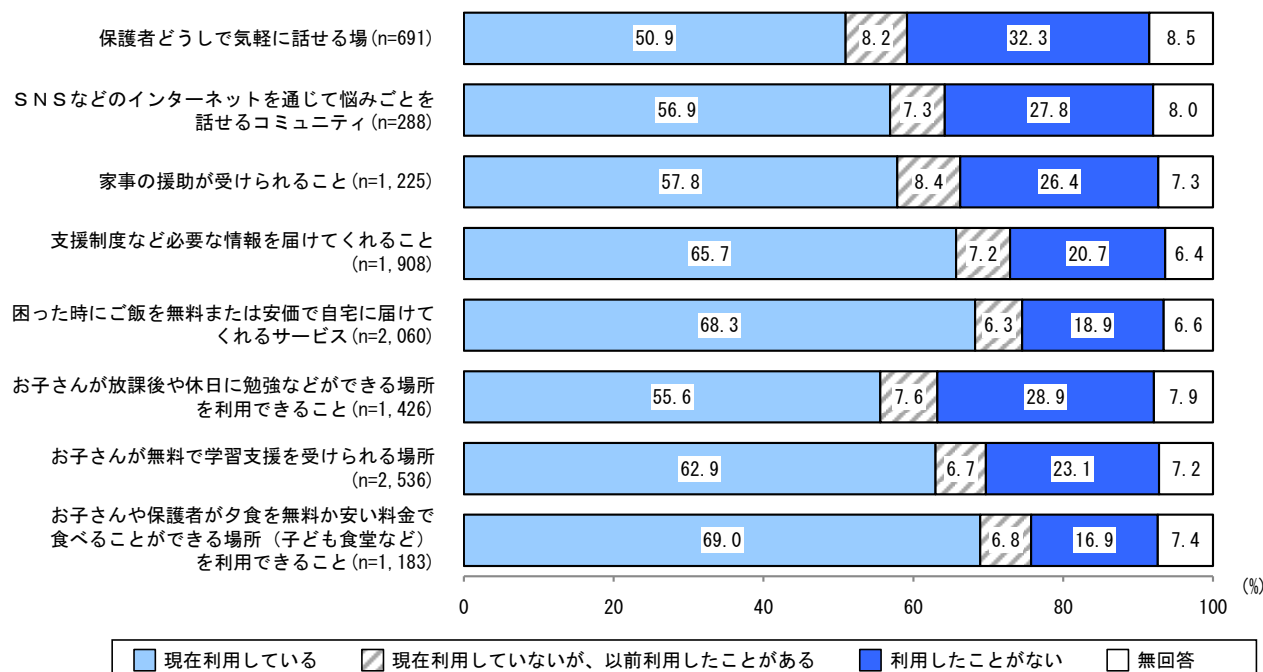


図 43. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、「現在利用していないが、以前利用したことがある」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金を食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」と回答した割合が4.3%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（保護者票問 20×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

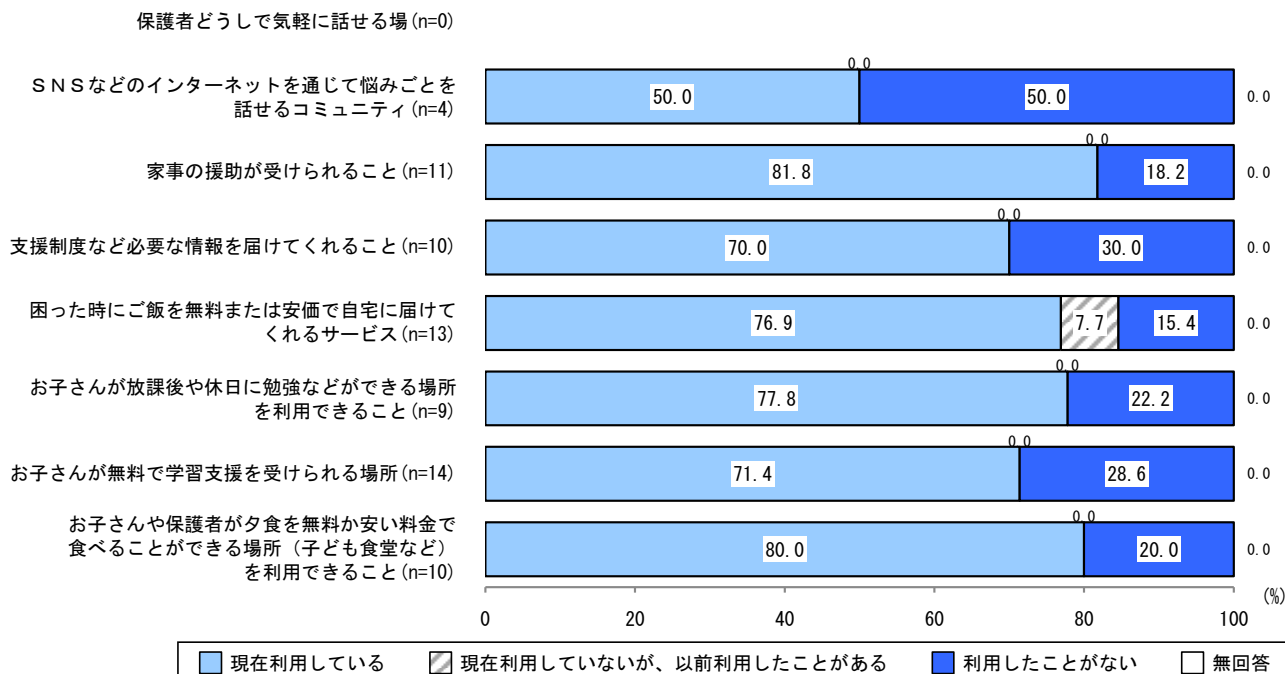
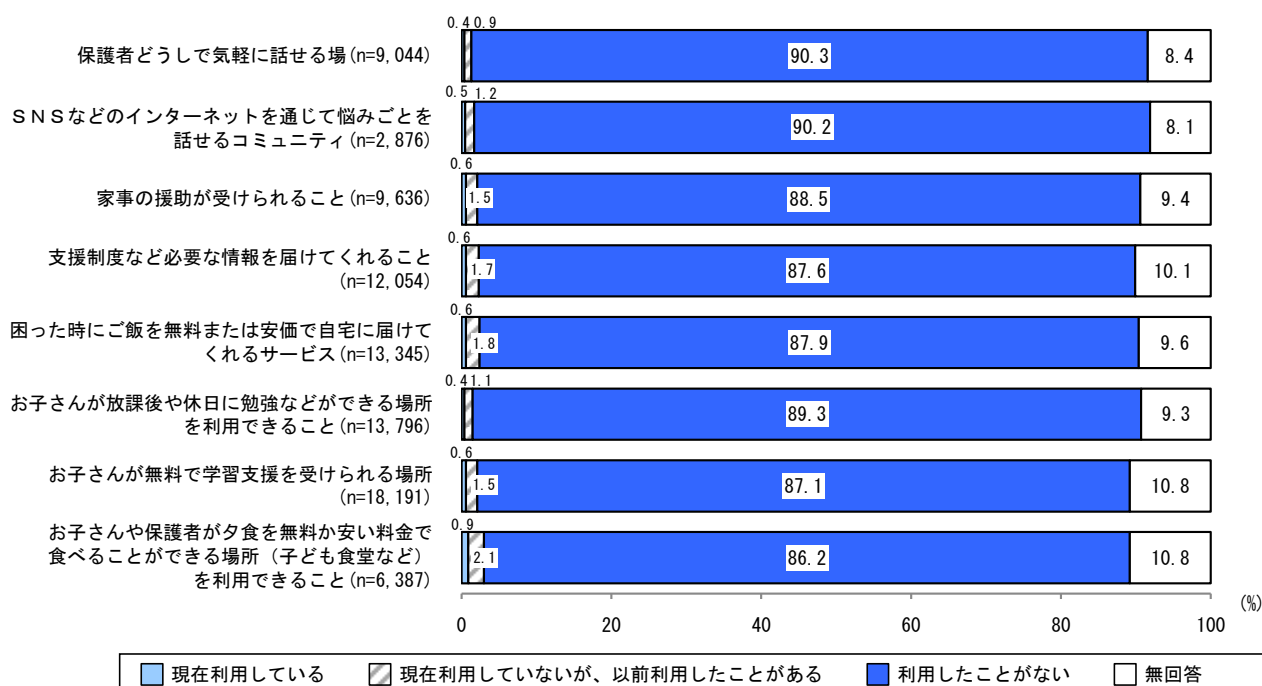


図 44. 身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

身近にあるといいと思うこと別に児童扶養手当の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「家事の援助が受けられること」と回答した割合が81.8%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

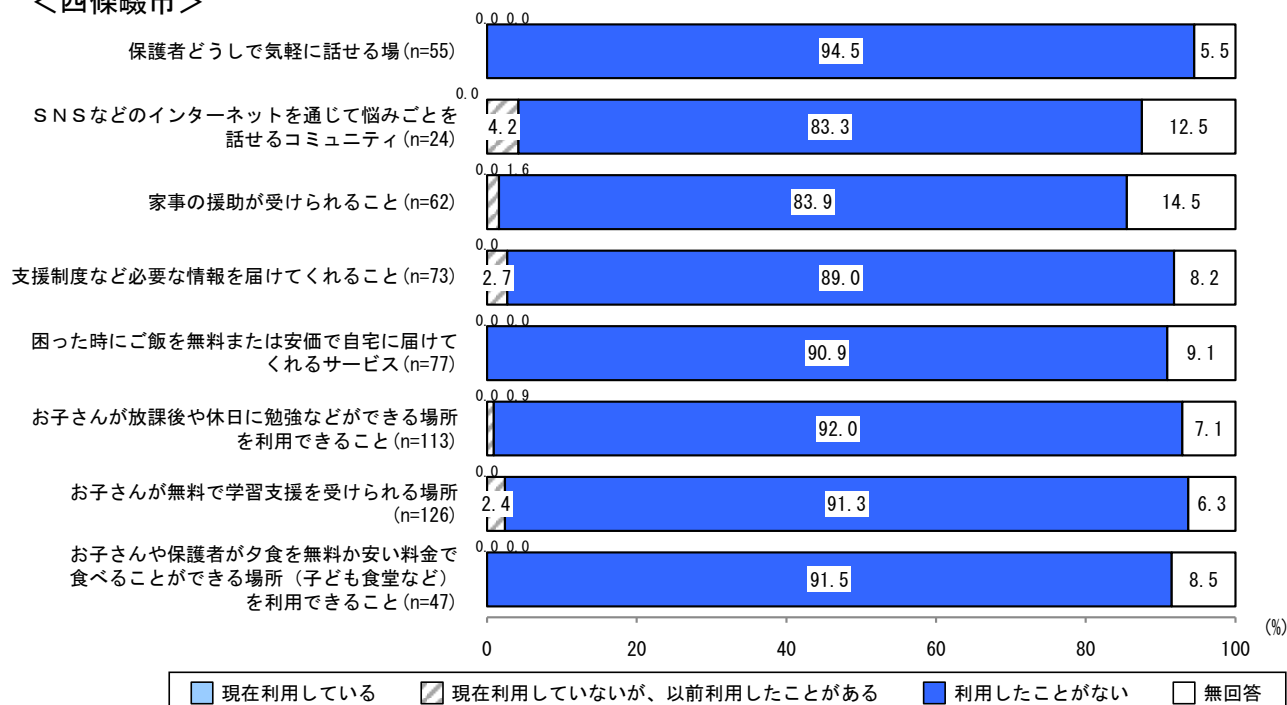
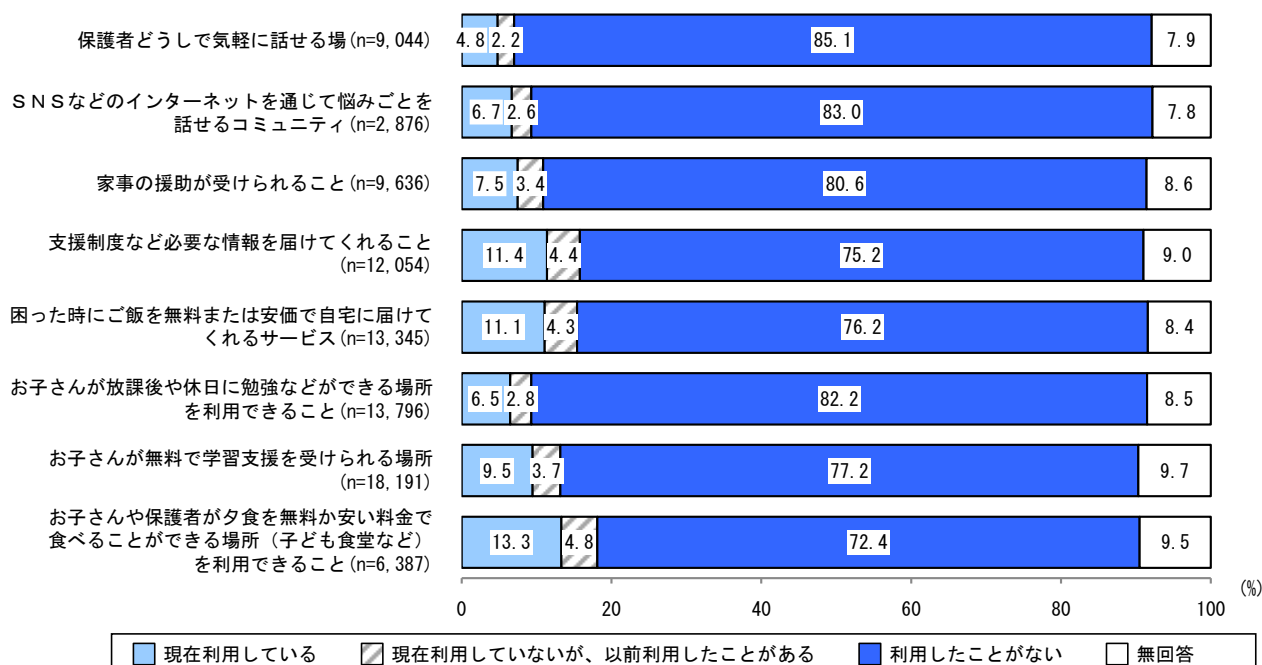


図 45. 身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

身近にあるといいと思うこと別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ると、「現在利用していないが、以前利用したことがある」と回答した人の割合は、「SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ」と回答した割合が4.2%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

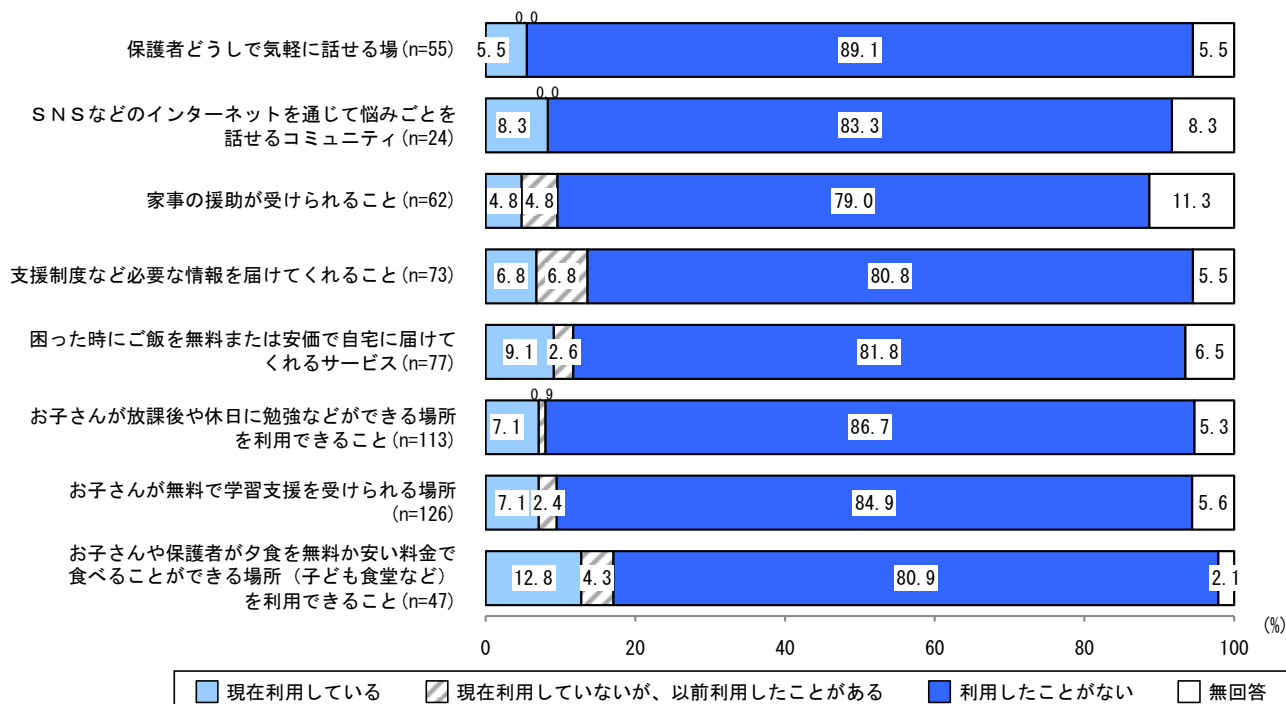
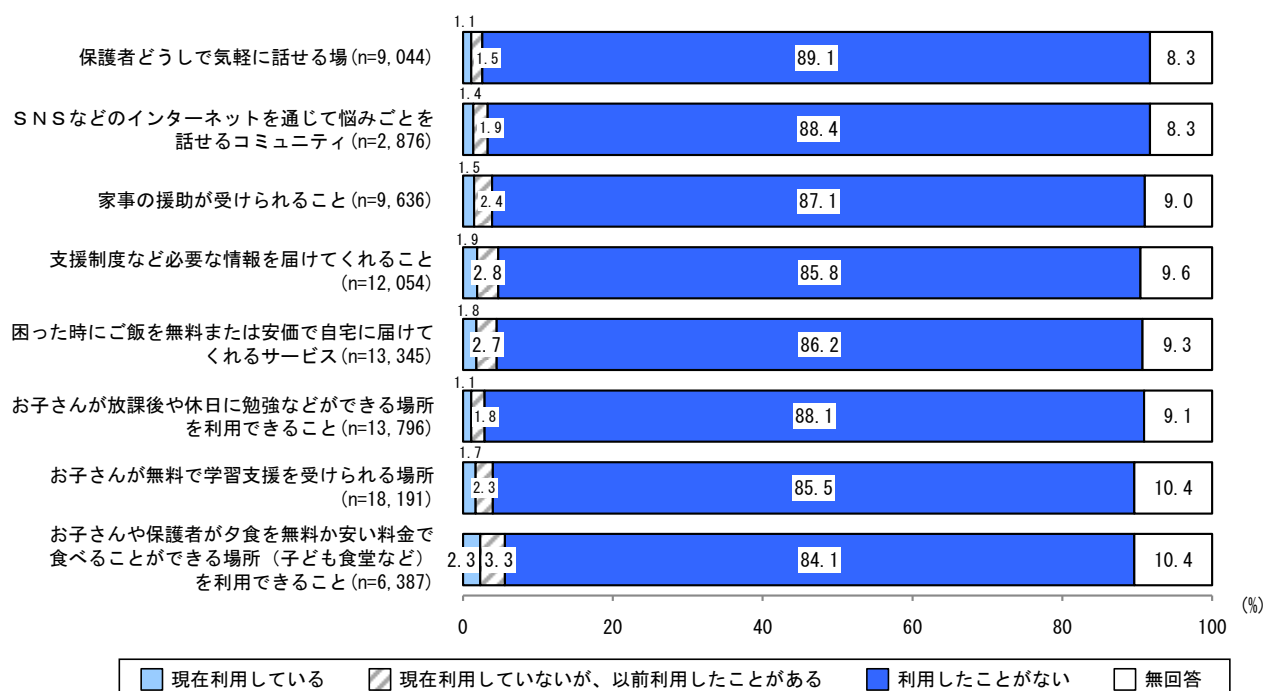


図 46. 身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」と回答した割合が12.8%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

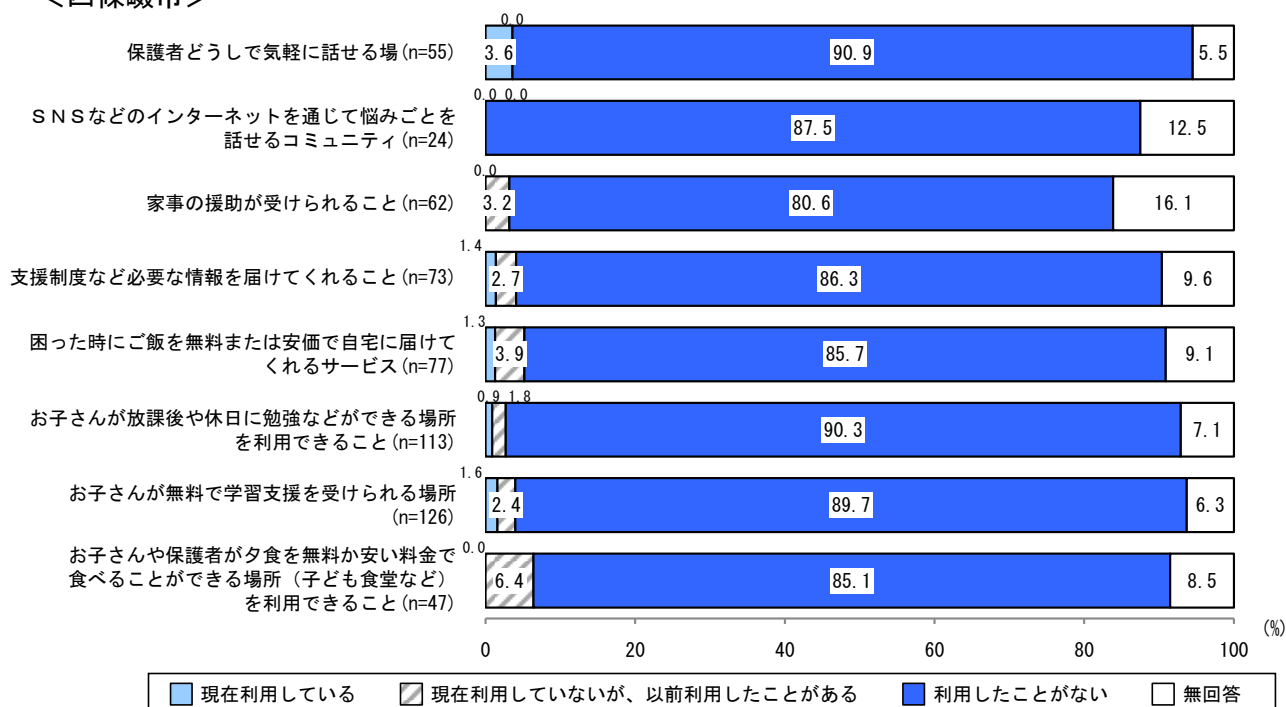


図 47. 身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「保護者どうして気軽に話せる場」と回答した割合が3.6%で最も高くなっている。

＜家庭状況（制度等）に関する考察＞

就学援助の利用状況については、全体で、「現在利用している」が11.2%となっている。困窮度Ⅰ群では、42.4%、困窮度Ⅱ群では、27.3%を占めている。次にひとり親世帯を対象とする児童扶養手当の利用状況は、全体で64.0%、困窮度Ⅰ群で91.7%、困窮度Ⅱ群で100.0%となっている。生活保護制度の利用状況は、全体で0.7%と低水準にとどまっている。困窮度Ⅰ群では、該当なし、困窮度Ⅱ群では該当なしとなっている。今回調査の回答者から一定層の貧困層が漏れ落ちている可能性についても留意しておく必要がある。いずれにしても、社会保障制度の捕捉率を上げるために、給付を必要な世帯が利用しやすいような各制度の要件緩和、手続きの簡素化等の施策が求められている。

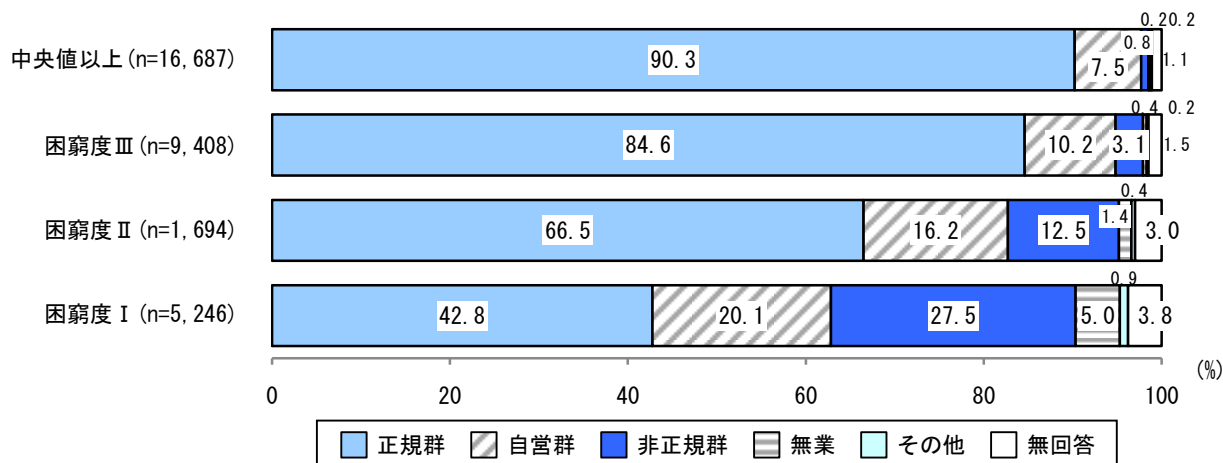
ひとり親世帯について、特に母子世帯に着目すると、養育費の取り決めや受け取りをしている世帯は、全体で28.6%にとどまっている。「取り決めをしておらず、受け取っていない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群で28.6%、困窮度Ⅱ群で該当なしとなっている。離別の場合、生活状況の激変のなか、ひとり親自身が養育費の取り決めを行うことは容易なことではないため、相談機関等の支援策の充実が求められる。

初めて親となった年齢と最終学歴について、特に母親に着目すると、「10代」で中学校卒業が該当なし、高等学校中途退学が50.0%と、他の年齢階層に比べて高くなっている。妊娠・出産しても学修を中断せず継続できるような学修面でのサポート体制、子育て支援が求められる。また学びを一時中断した者についても、あとからでも「学び直し」を可能にするような学修機会の提供等が求められる。

3-2. 雇用

困窮度別に見た、就労状況（保護者票問9より）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

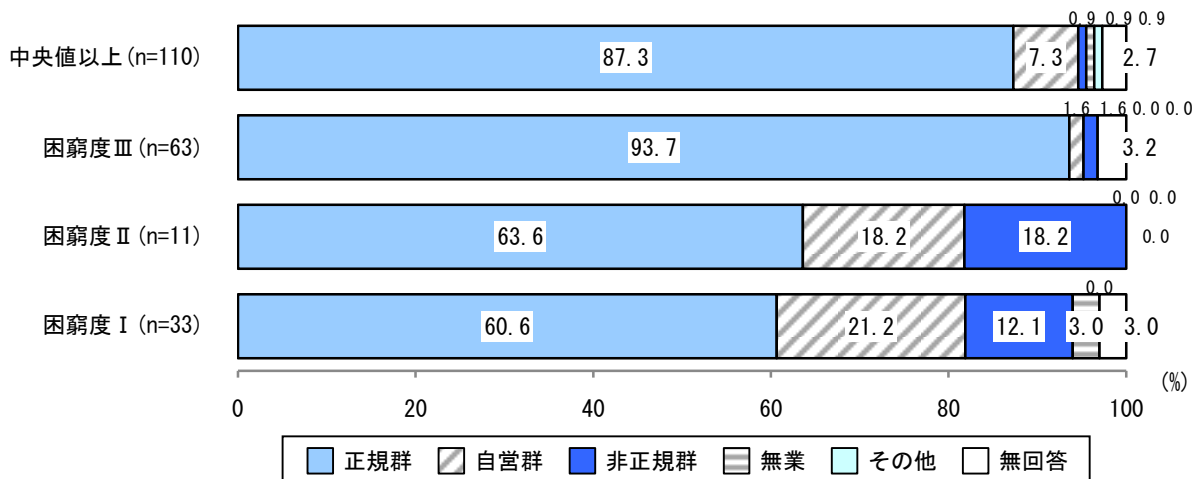


図 48. 困窮度別に見た、就労状況

困窮度別に就労状況を見ると、概ね困窮度が高まるにつれ、「正規群」の割合が低くなり、「自営群」、「非正規群」の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群においては他と比べて「非正規群」の割合が高く21.2%となっている。

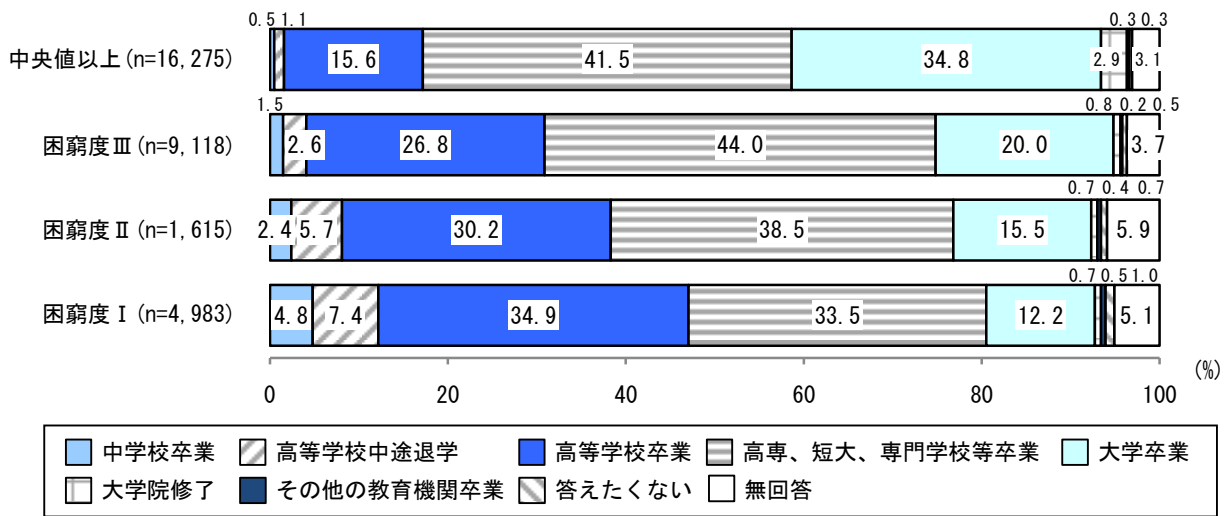
※分類方法は以下の通り。

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれば「正規群」（問9選択肢1）、
上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれば「自営群」（問9選択肢4）、
上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれば「非正規群」（問9選択肢2、3）、
上記以外で、誰も働いていなければ「無業」（問9選択肢6、7）。
上記以外が「その他」となる。

ここでの無業とは、「ふだん仕事をしていない者、すなわち、ふだん全く仕事をしていない者及び臨時的にしか仕事をしていない者」を指す（就業構造基本調査による）。クロス集計で「就労状況」を用いる時は、上記区分による。

困窮度別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問 8）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

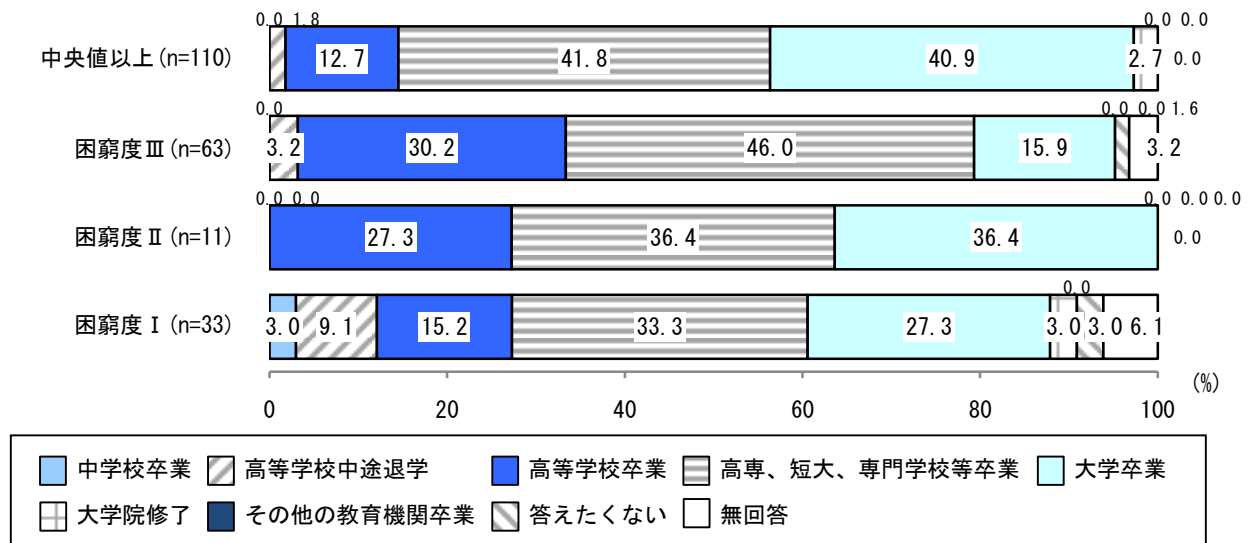
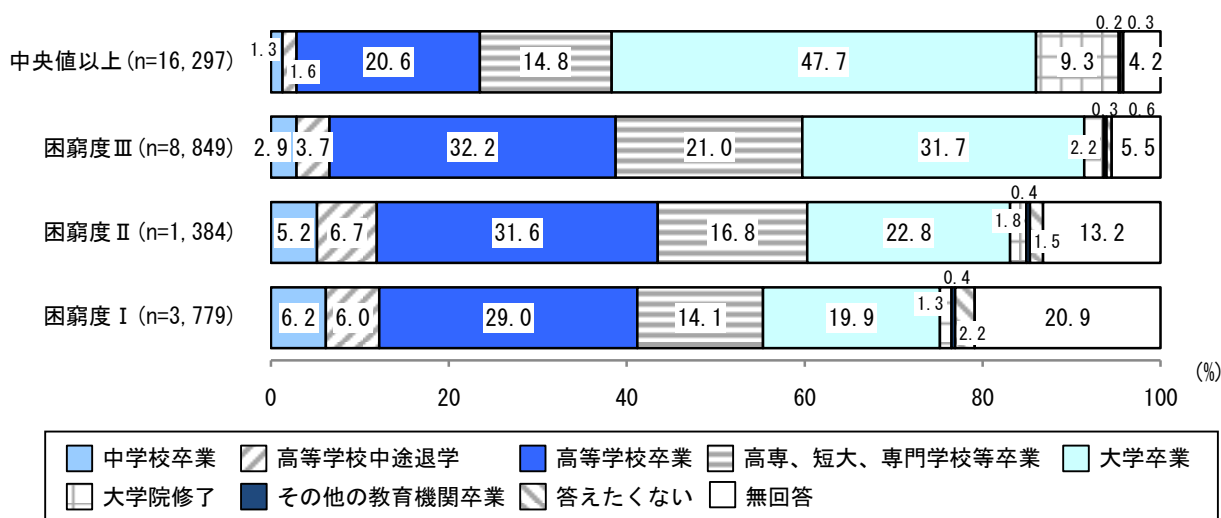


図 49. 困窮度別に見た、お母さんの最終学歴

困窮度別に母親の最終学歴を見ると、「中学校卒業」、「高等学校中途退学」の割合が困窮度Ⅰ群で最も高くなっている。困窮度Ⅰ～Ⅲ群では中央値以上群に比べ、「大学卒業」の割合が低い。

困窮度別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問8）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

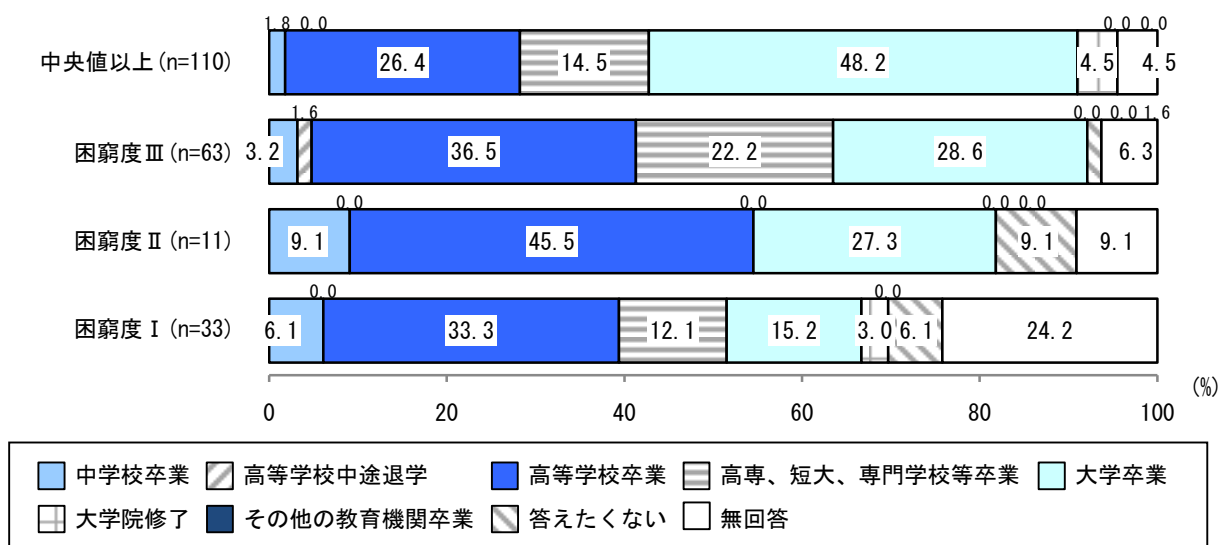
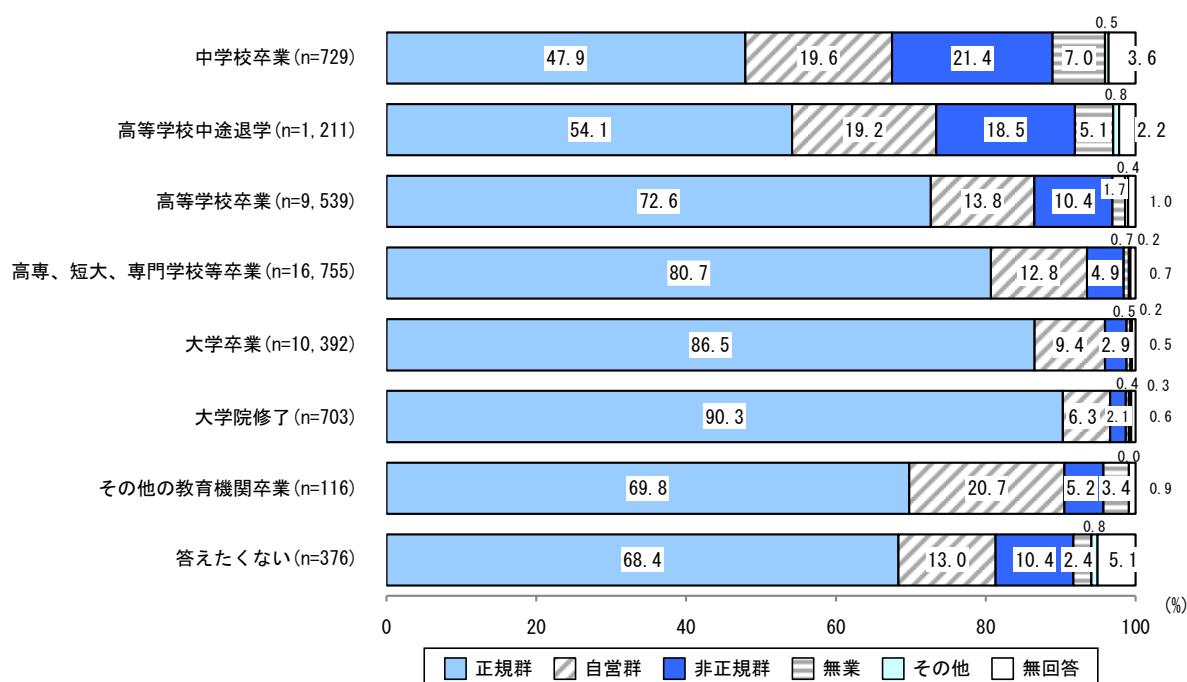


図 50. 困窮度別に見た、お父さんの最終学歴

困窮度別に父親の最終学歴を見ると、「中学校卒業」の割合は困窮度Ⅱ群で最も高くなっている。困窮度Ⅰ群において、「中学校卒業」の割合は6.1%である。また、困窮度Ⅰ群では無回答（24.2%）の割合も高い。

お母さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問8×保護者票問9）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

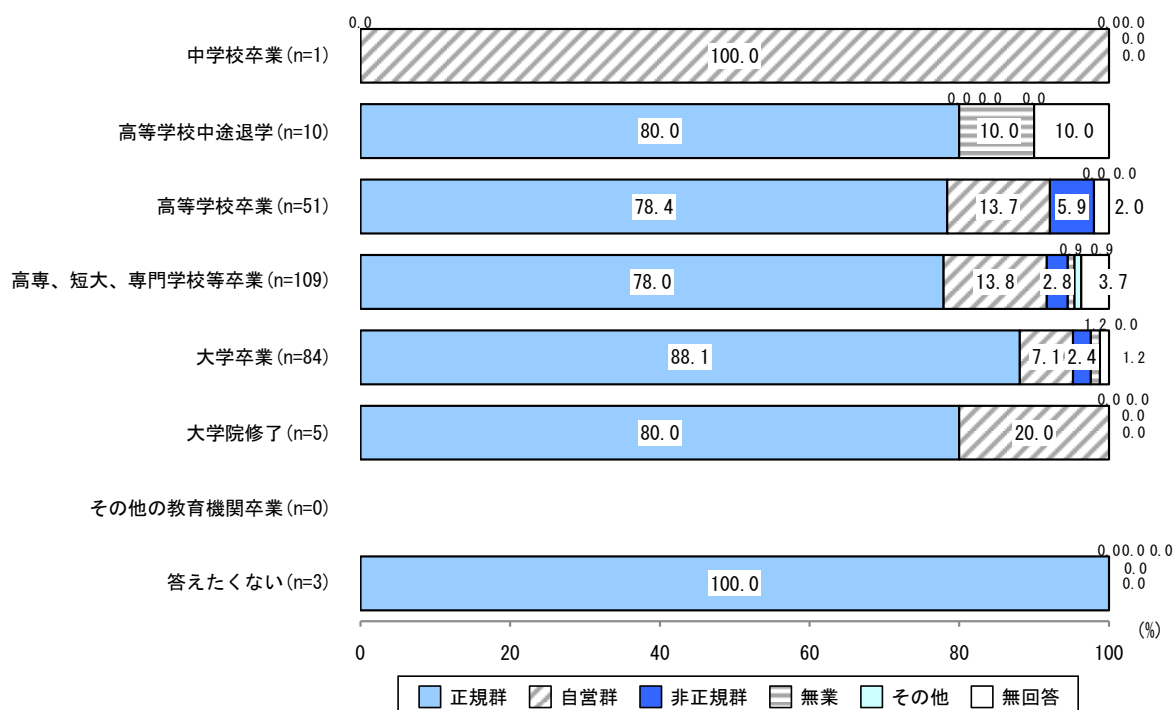
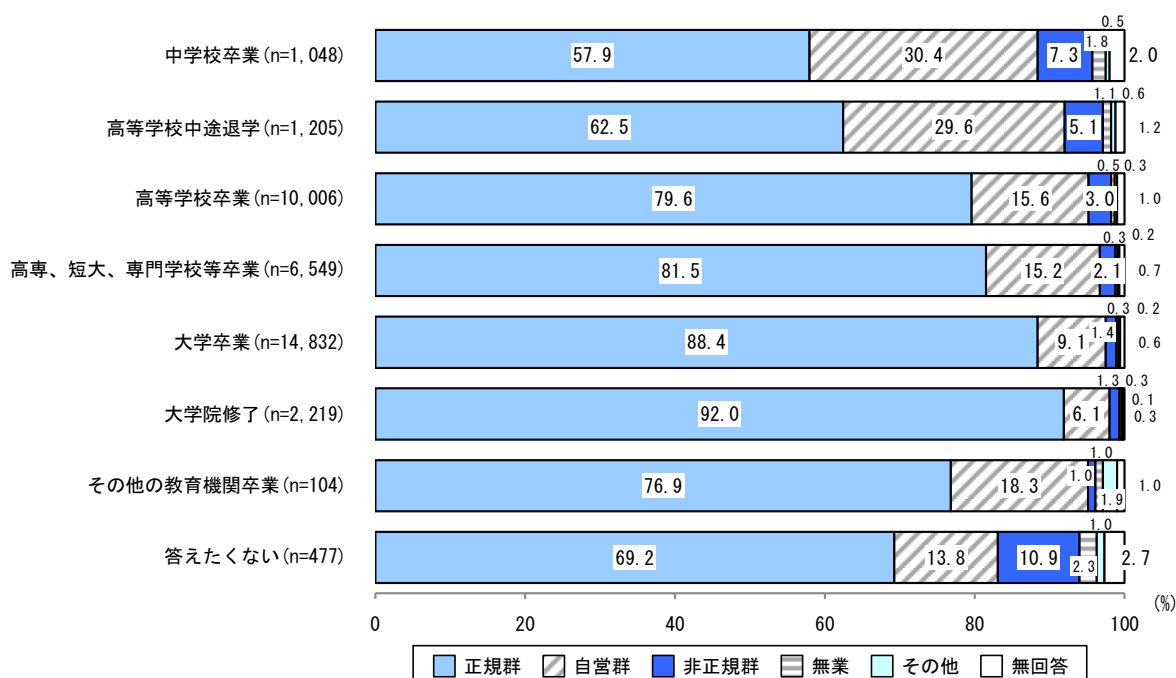


図 51. お母さんの最終学歴別に見た、就労状況

母親の最終学歴別に就労状況を見ると、母親の最終学歴が大学卒業と回答した人で「正規群」の割合が88.1%と最も高くなっている。

お父さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問 8 × 保護者票問 9）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

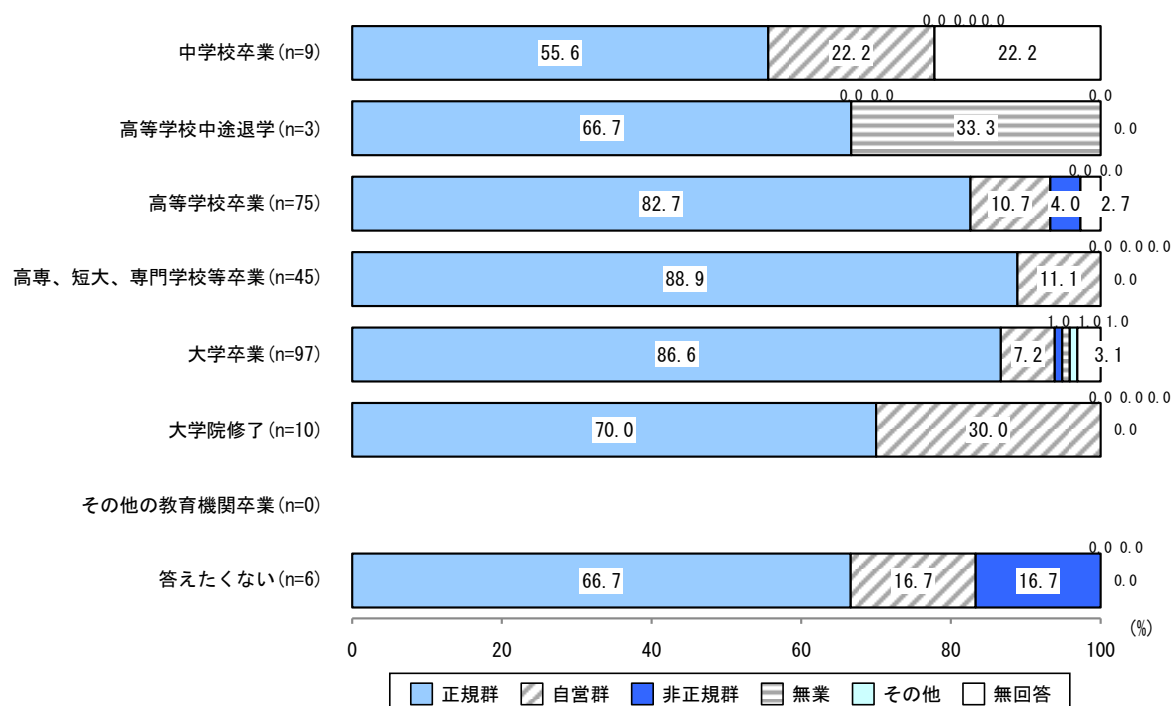
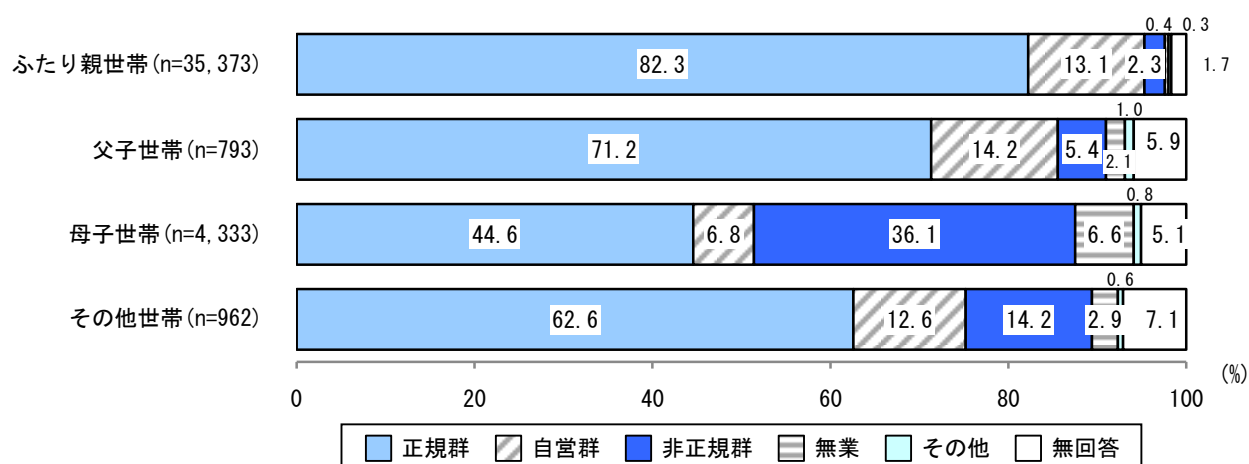


図 52. お父さんの最終学歴別に見た、就労状況

父親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、父親の最終学歴が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

世帯構成別に見た、就労状況（保護者票問2×保護者票問9）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

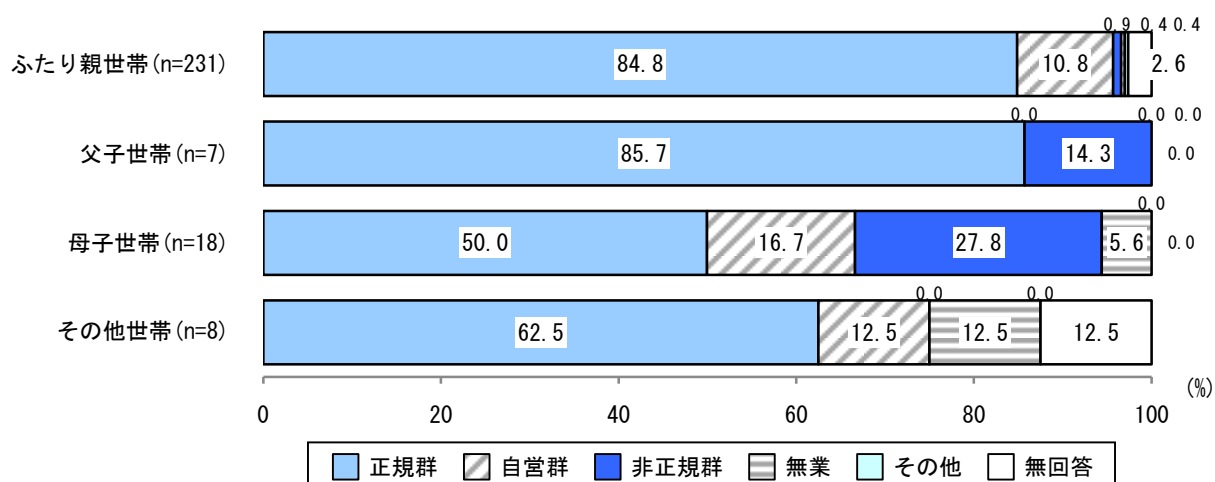
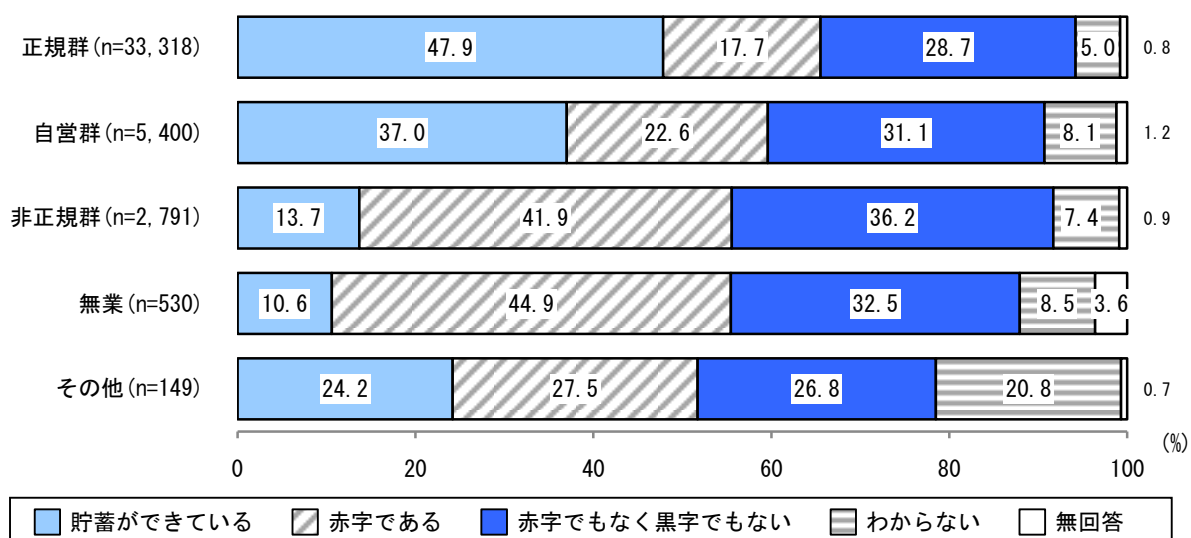


図 53. 世帯構成別に見た、就労状況

世帯構成別に就労状況を見ると、「ふたり親世帯」では「正規群」の割合が84.8%であるが、「母子世帯」では50.0%と低くなる。「非正規群」は、「母子世帯」では27.8%となっている。

就労状況別に見た、家計の状況（保護者票問9×保護者票問6(1)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

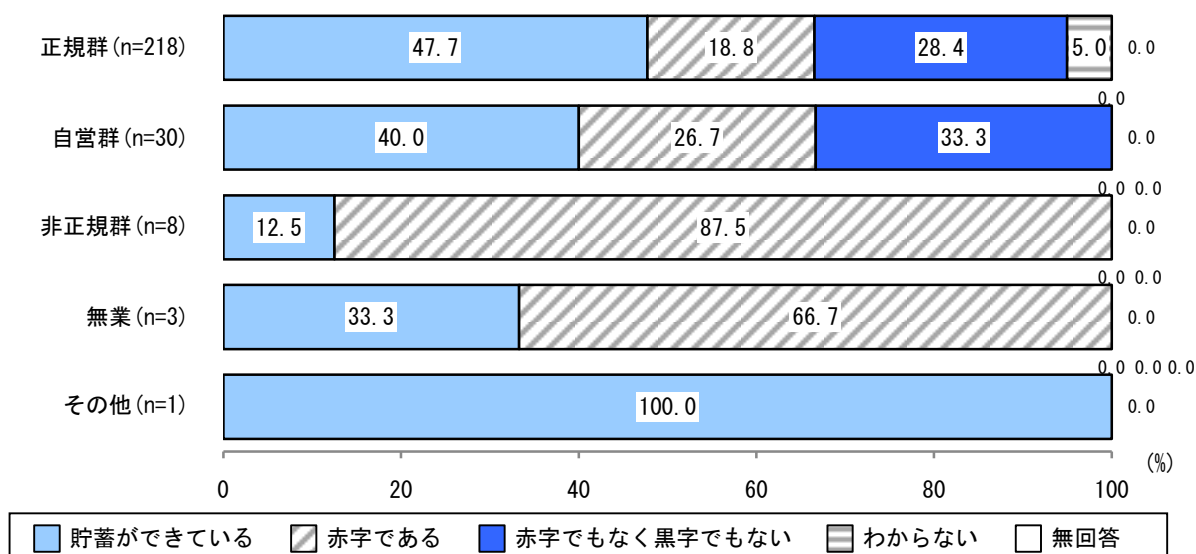


図 54. 就労状況別に見た、家計の状況

就労状況別に家計状況を見ると、「正規群」では「貯蓄ができている」割合が47.7%となっている。「非正規群」では「赤字である」と回答した人が87.5%にのぼっている。

<雇用に関する考察>

はじめに、困窮度別の保護者の就労状況と最終学歴について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間で差が大きい項目に着目して述べる。まず、親の就労状況を困窮度別に見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「正規」群（87.3%対60.6%）が26ポイント以上高く、大きな開きがある。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「非正規」群（12.1%対0.9%）が11ポイント以上高くなっている。母親の最終学歴を困窮度別に見ると、中央値以上群が困窮度Ⅰ群より、高学歴な「大学卒業」群（40.9%対27.3%）で13ポイント以上高くなっている。同様に、父親の最終学歴においても、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、高学歴な「大学卒業」群（48.2%対15.2%）が約33ポイント高くなっている。これらの結果から、経済的に困難な世帯の保護者の雇用形態が所得階層の分布に反映されていることが示された。また、困窮度が高い群では学歴が低い傾向が見られる。

次に、保護者の最終学歴別に就労状況を確認する。母親の就業状況を最終学歴別に見ると、四條畷市ではほぼすべてで7～8割が「正規」群（「大学院修了」群（80.0%）、「大学卒業」群（88.1%）、「高専、短大、専門学校卒業」群（78.0%）、「高等学校卒業」群（78.4%）、「高等学校中途退学」群（80.0%））である。一方で、父親の最終学歴別に就労状況を見ると、「高等学校中途退学」群および「中学校卒業」群の「正規」群の比率は5～6割程度（66.7%、55.6%）にとどまっているのに対し、その他の群では7～8割である。これらの結果、特に父親の場合において、学歴が上がるほど「正規」群における就業比率が上昇する傾向が表れている。

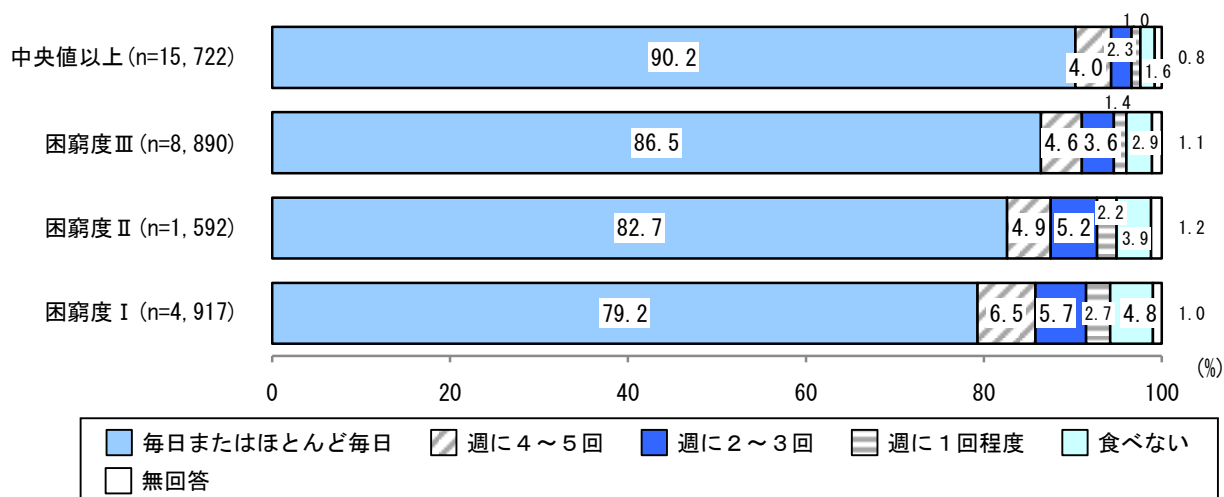
親の就労状況を世帯構成別に見ると、ふたり親世帯は母子世帯に比べ、「正規」群（84.8%対50.5%）が34ポイント以上高くなっている。また、父子世帯は母子世帯と比べ、「正規」群（85.7%対50.5%）が35ポイント以上高く、母子世帯の正規雇用の割合の低さが顕著である。一方で、母子世帯は「非正規」群（27.8%）の割合がその他の世帯構成に比べ非常に高くなっており、不安定な就労状況にあることを示唆している。

最後に、保護者の就労状況別に見る家計の状況に着目する。「正規」群は「非正規」群と比べ、「貯蓄が出来ている」（47.7%対12.5%）は35ポイント高くなっている。また、「非正規」群は「正規」群と比べ、家計状況が「赤字である」（87.5%対18.8%）が4倍以上であるという対照的な状況が示された。この結果から、保護者の就業状況により貯蓄ができるか否かなど生活の安定に大きな影響を及ぼしていることが示唆されている。

3-3. 健康

困窮度別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

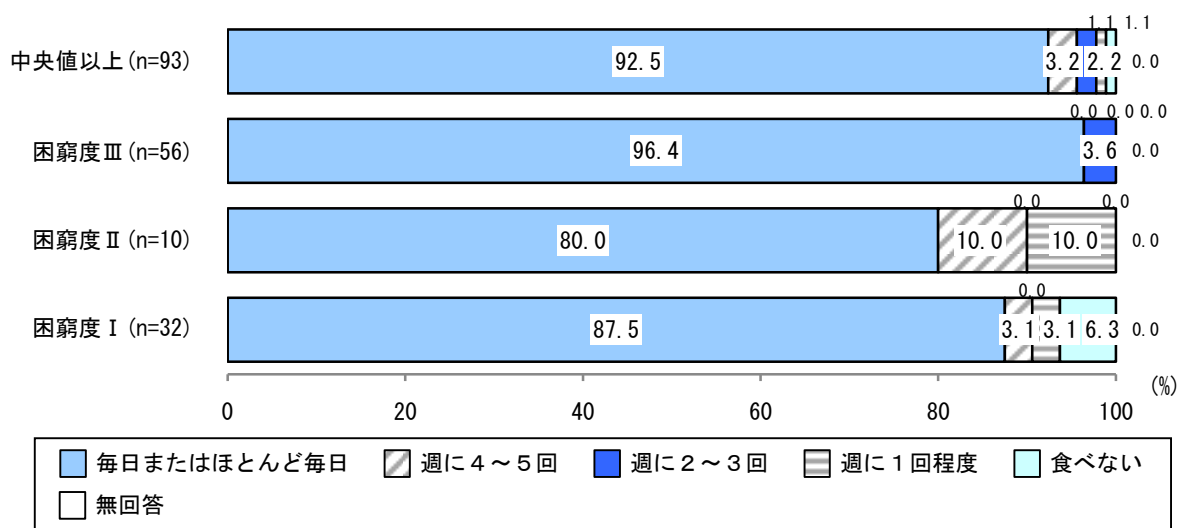
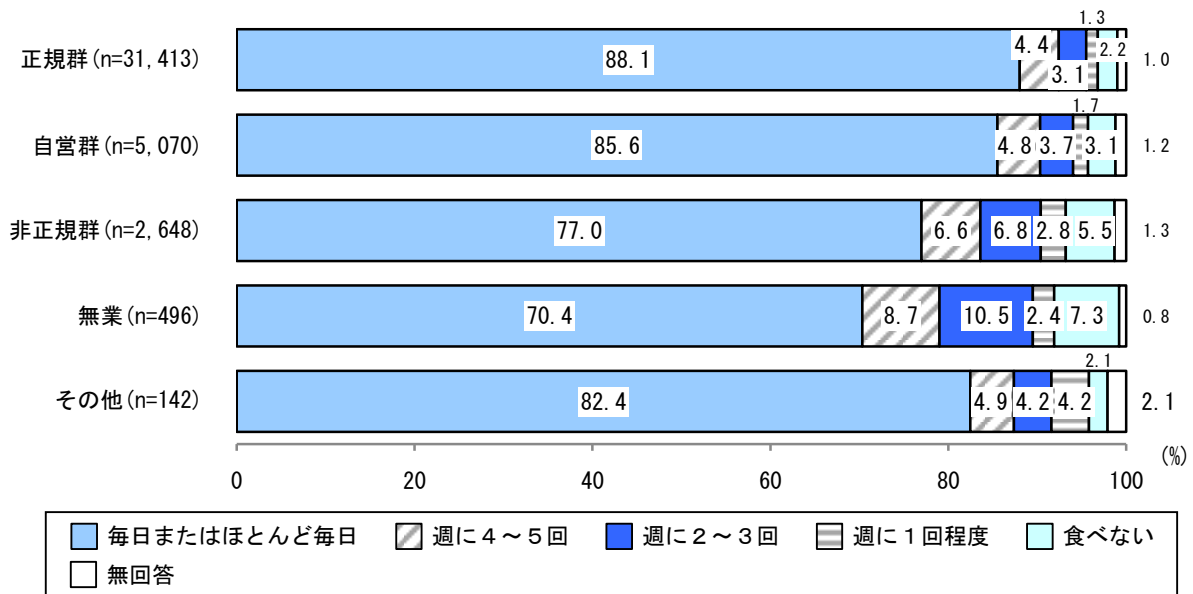


図 55. 困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度別に朝食の頻度を見ると、困窮度Ⅱ群では、20.0%が「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていないと回答しており、最も高くなっている。

就労状況別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

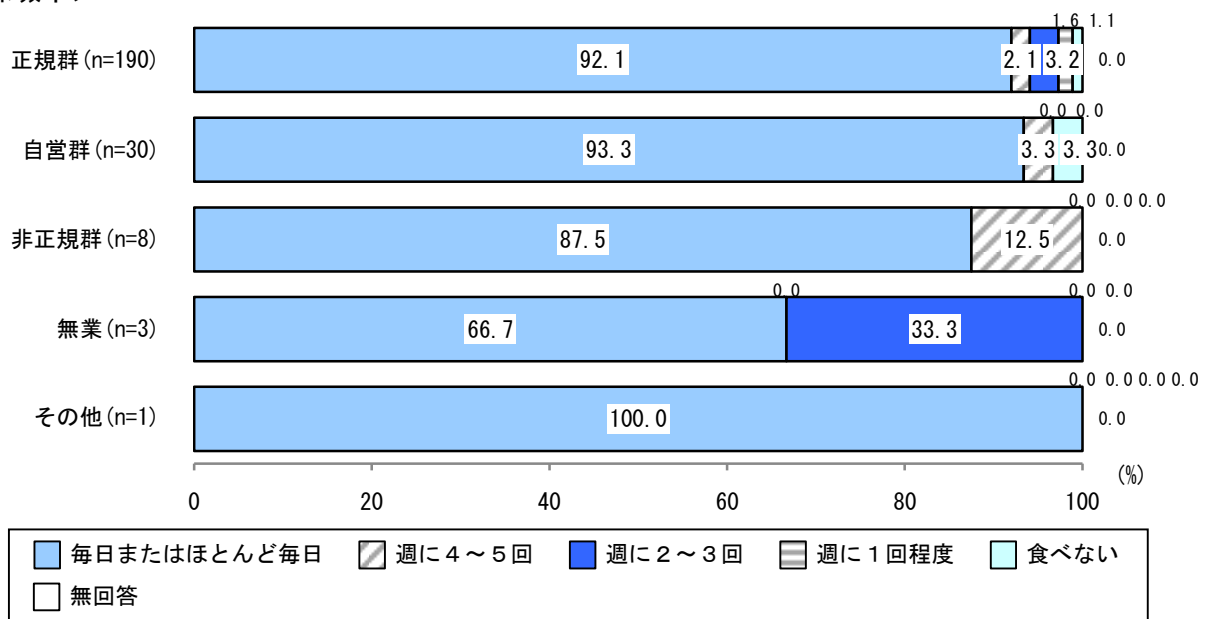
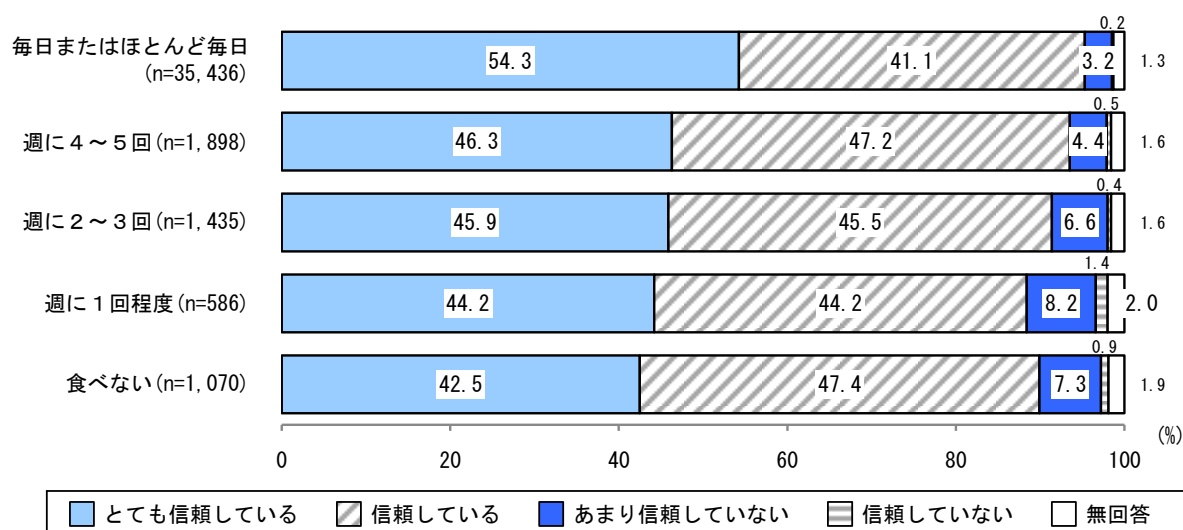


図 56. 就労状況別に見た、朝食の頻度

就労状況別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる割合は、「自営」群（93.3%）が最も高く、次いで、「正規群」（92.1%）、「非正規群」（87.5%）、「無業」（66.7%）の順で朝食の頻度が低くなる。

朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問4(1)×保護者票問13(1)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

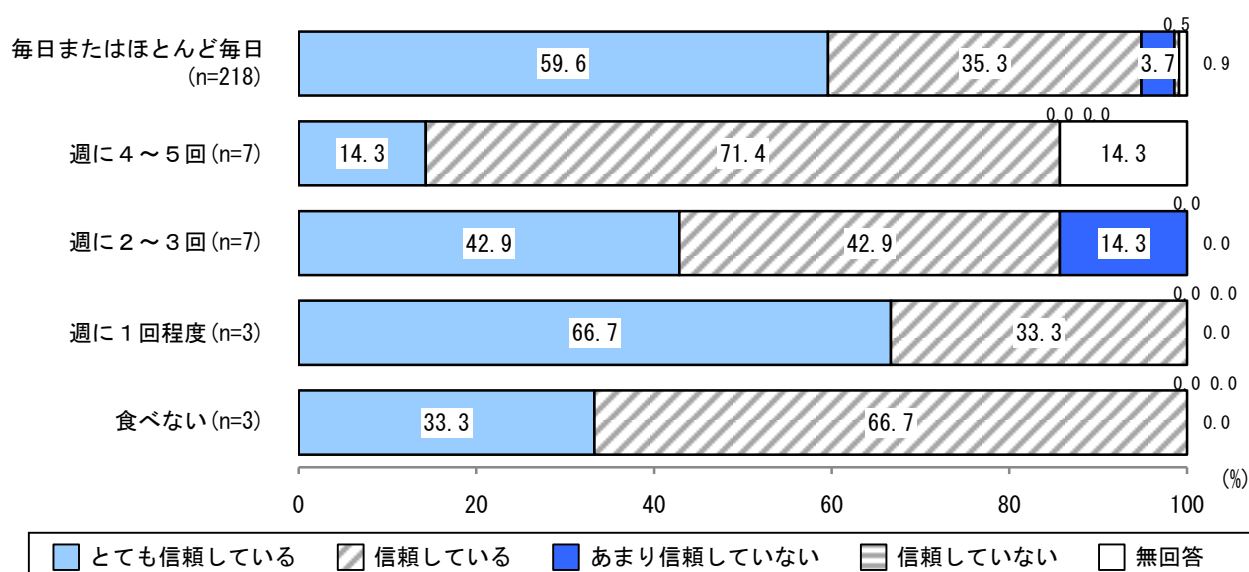
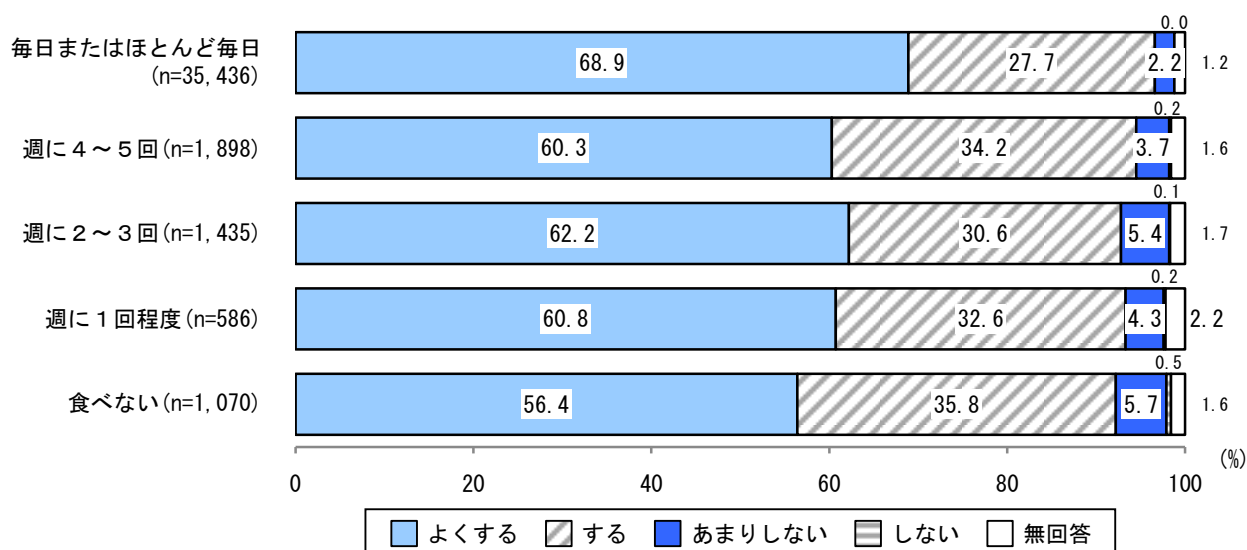


図 57. 朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度

朝食の頻度別に子どもへの信頼度を見ると、「週に4～5回」朝食をとっていると回答した人では、子どもを「とても信頼している」との回答が14.3%と最も低くなっている。

朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問 4 (1) × 保護者票問 13 (2)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

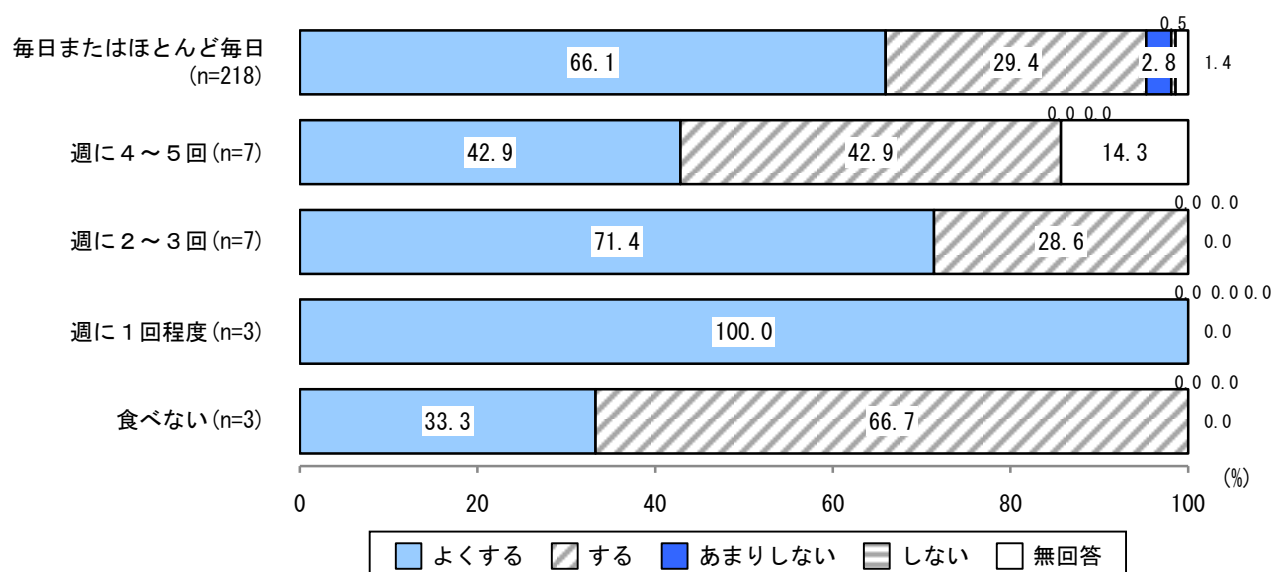
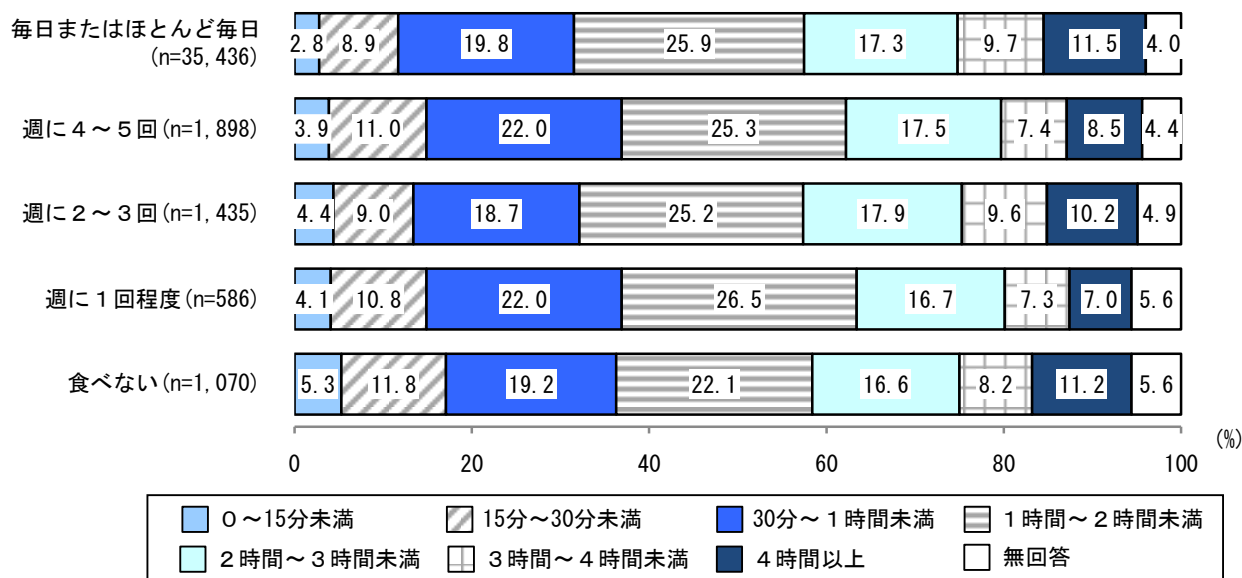


図 58. 朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度

朝食の頻度別に子どもと会話頻度を見ると、朝食を「食べない」と回答した人では、会話を「よくする」との回答が33.3%と最も低くなっている。

朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

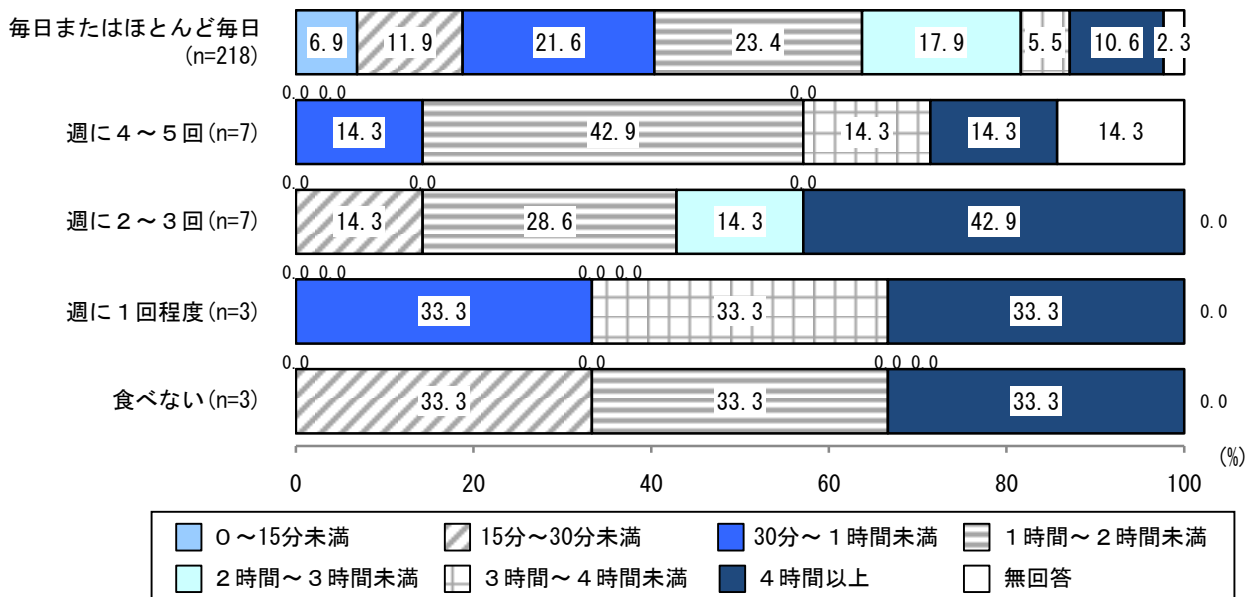
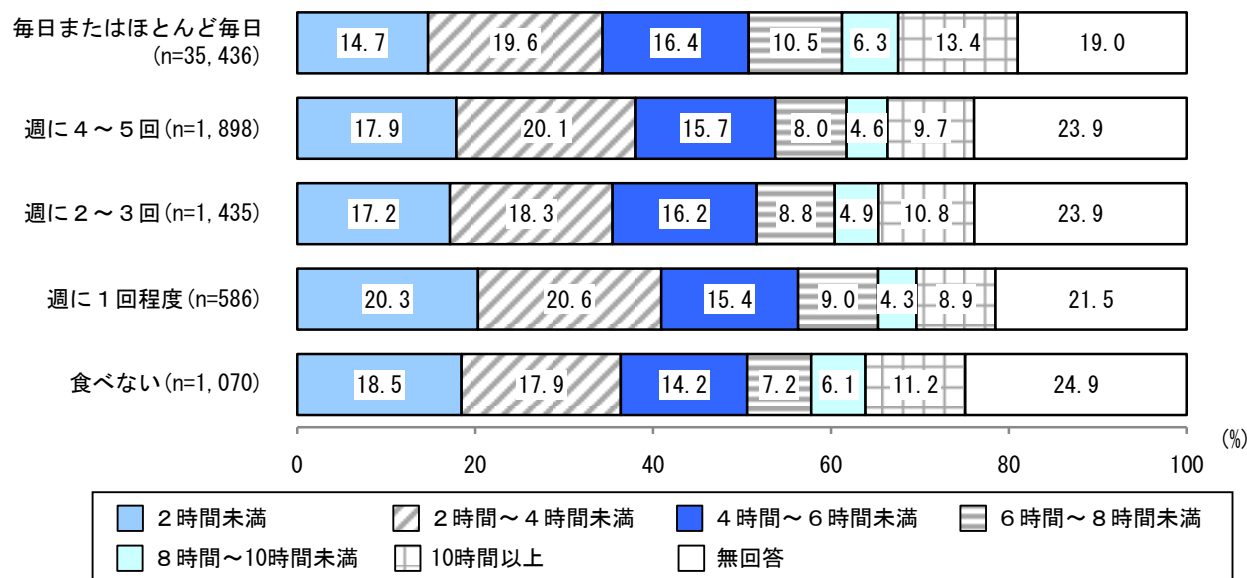


図 59. 朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「週に2～3回」朝食をとっている人で平日に子どもと一緒にいる時間が「4時間以上」の割合が42.9%と最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

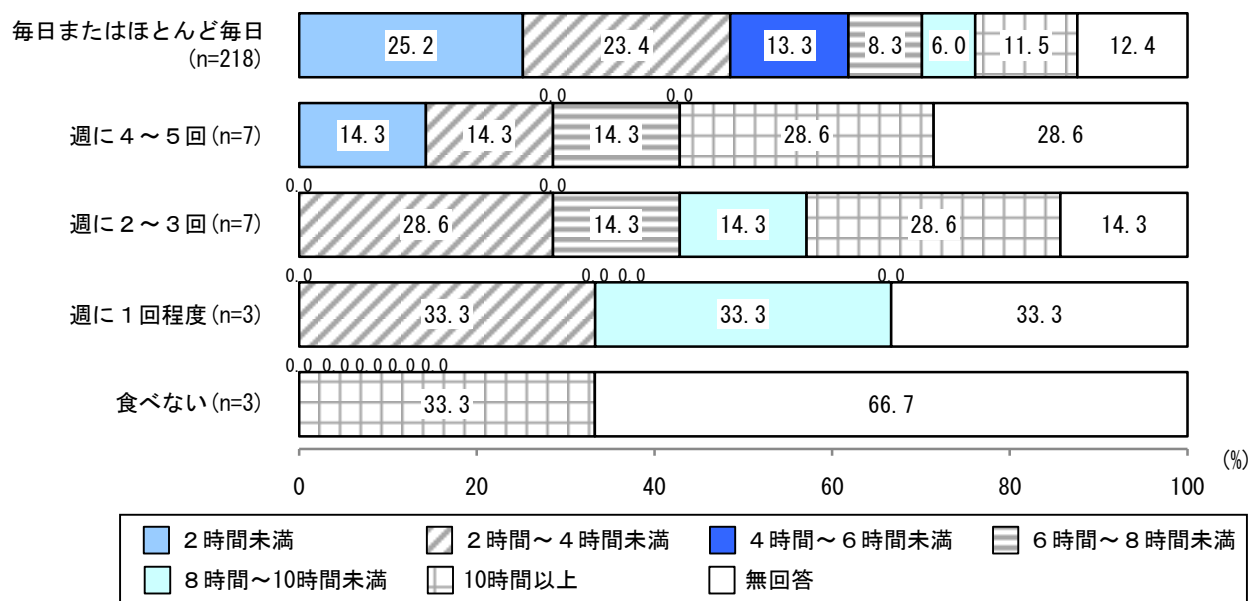
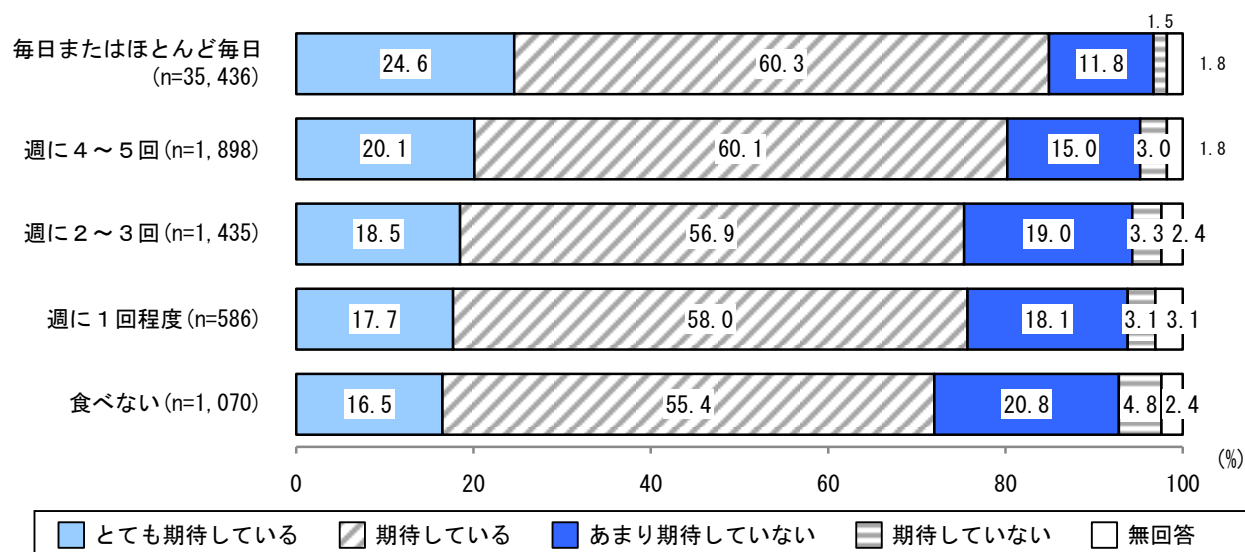


図 60. 朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人で休日に子どもと一緒にいる時間が「2時間未満」の割合が25.2%と最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問 4 (1) × 保護者票問 13 (4)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

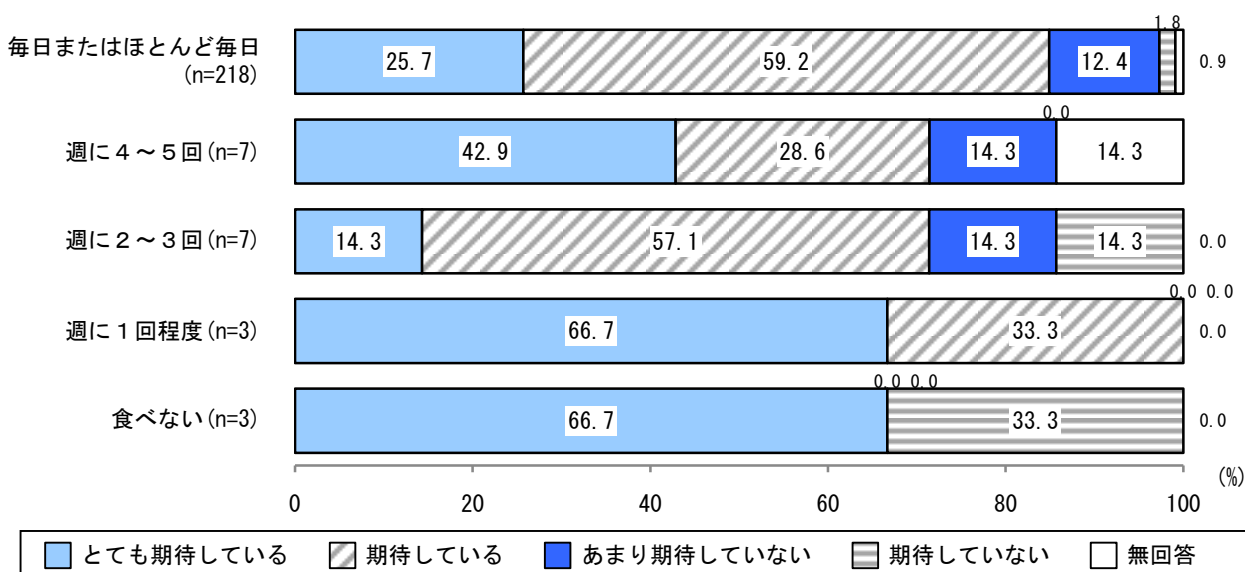


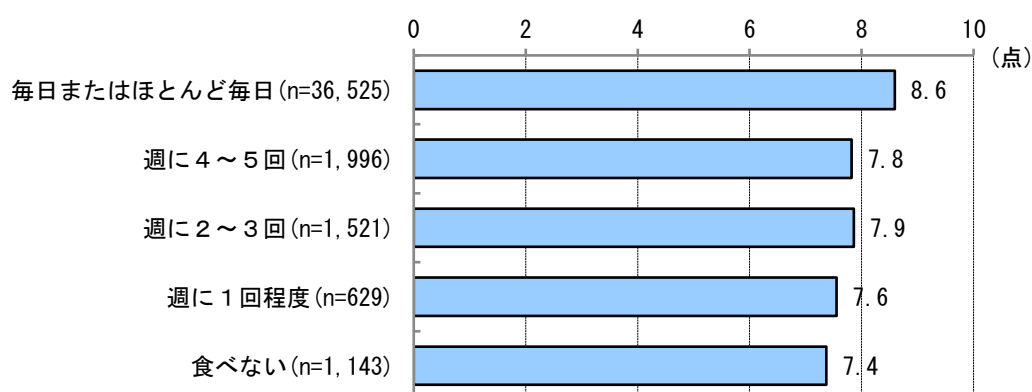
図 61. 朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度

朝食の頻度別に子どもの将来への期待度を見ると、朝食を「食べない」人では、「とても期待している」と「期待している」をあわせた割合が66.7%と最も低くなっている。

朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問4 (1) × 子ども票問23）

※「自分に自信がある」「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」「自分の将来の夢や目標を持っている」の3項目について、それぞれ4段階で評価させ、その値を合計した得点を、セルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

<大阪府内全体>



<四條畷市>

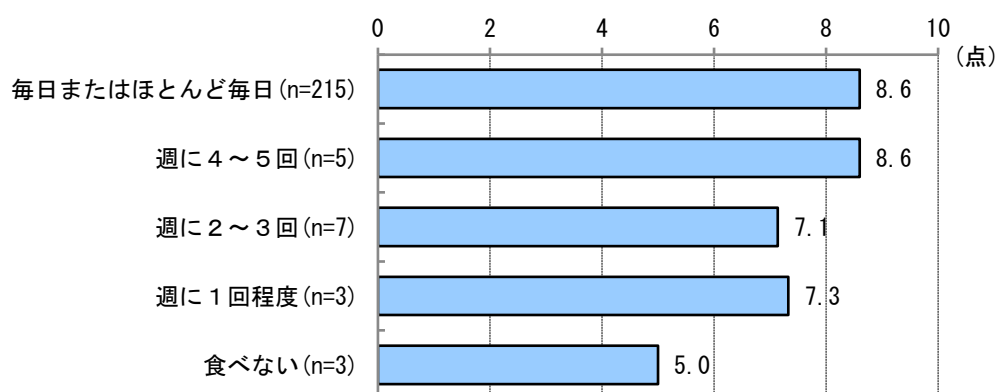
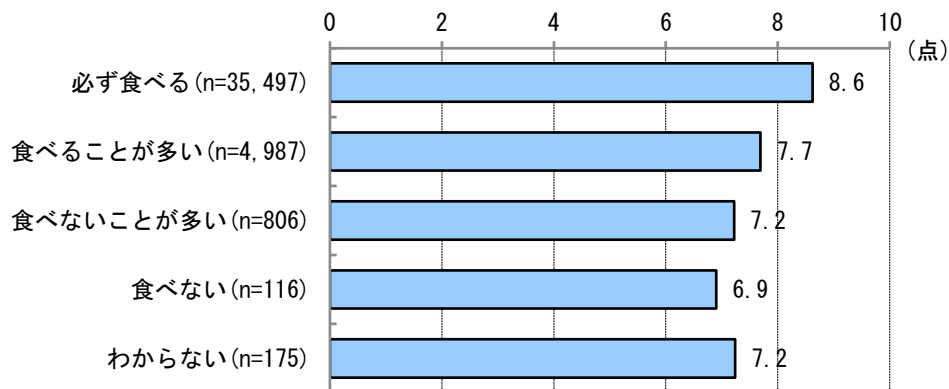


図 62. 朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、8.6点であるのに対して、「食べない」では5.0点と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人のほうが子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。

休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問6(1)×子ども票問23）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

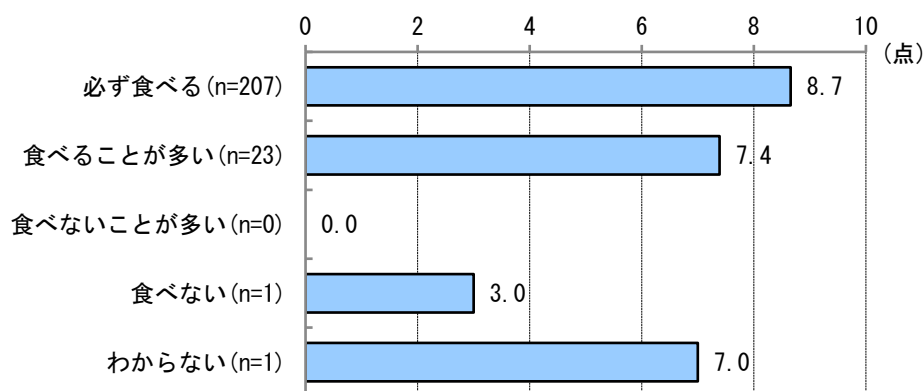
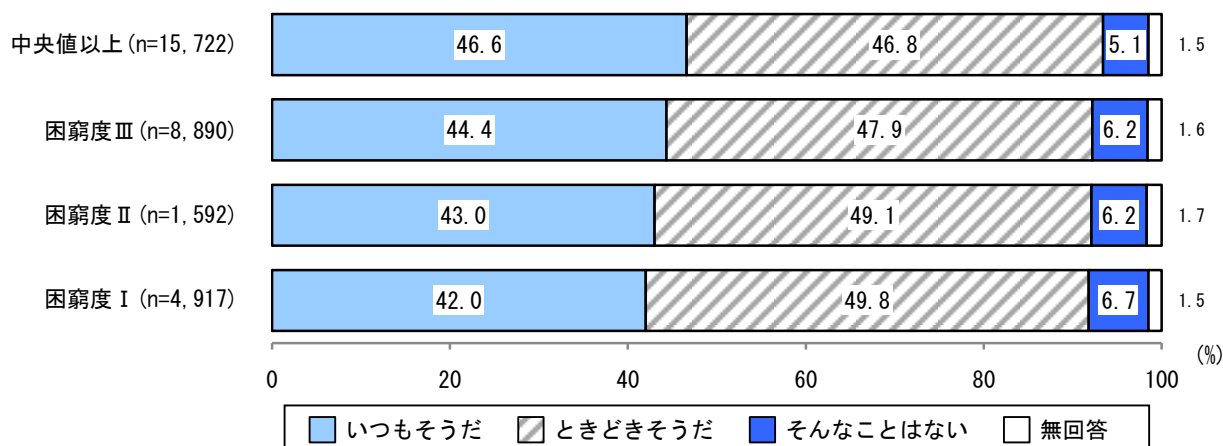


図 63. 休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

休日の昼食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「必ず食べる」と回答した人の得点が8.7点であるのに対して、「食べない」と回答した人は3.0点と、昼食を「必ず食べる」と回答した人のほうが、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある
(子ども票問 19①)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

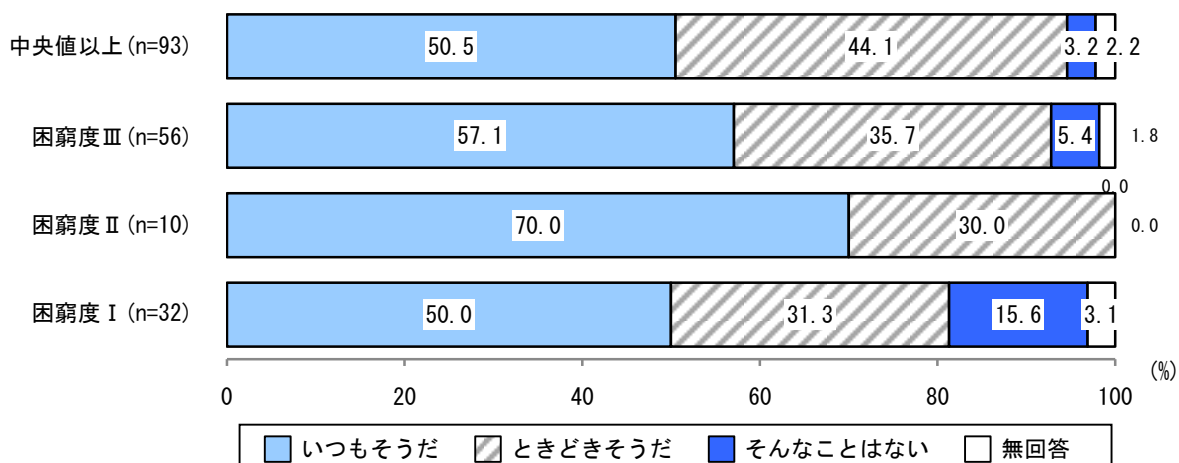
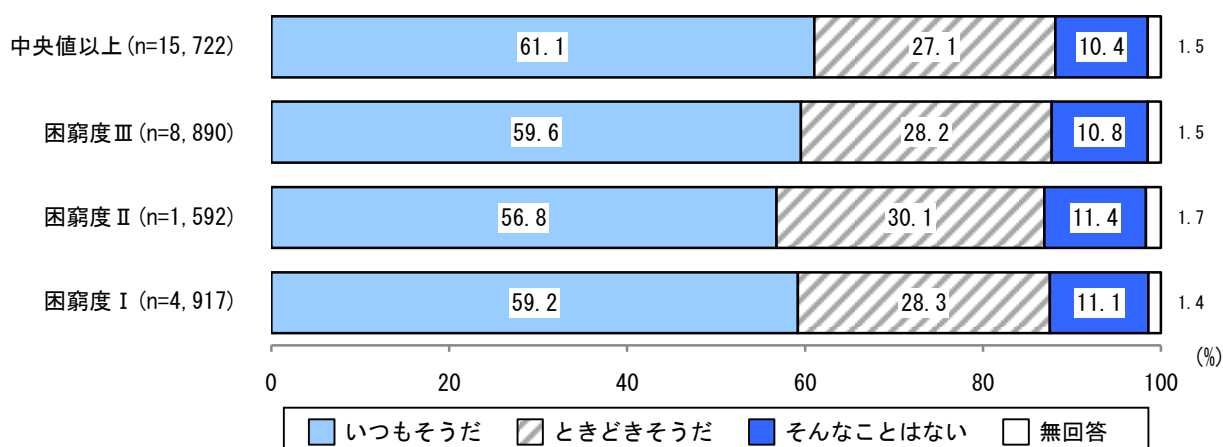


図 64. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、困窮度Ⅱ群が70.0%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ(子ども票問 19②)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

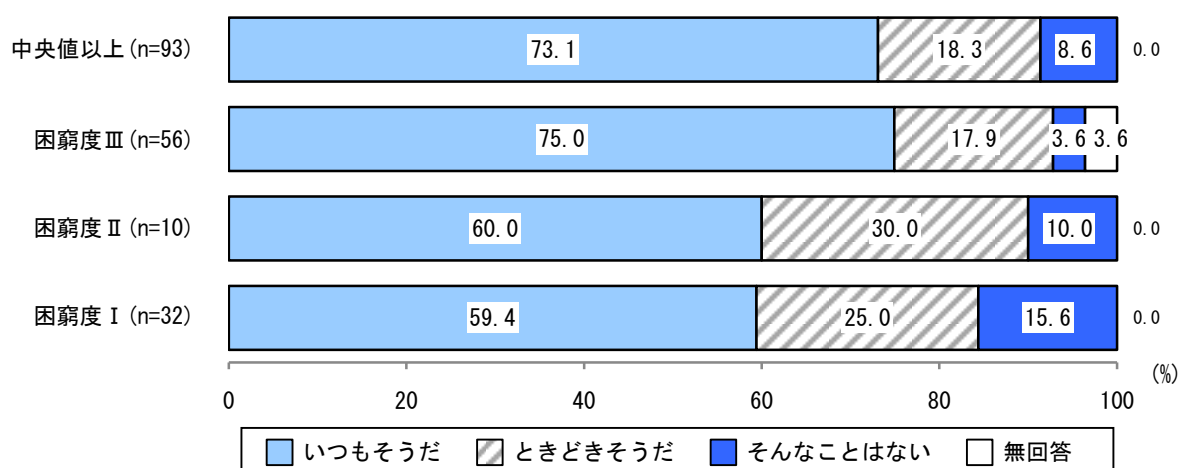
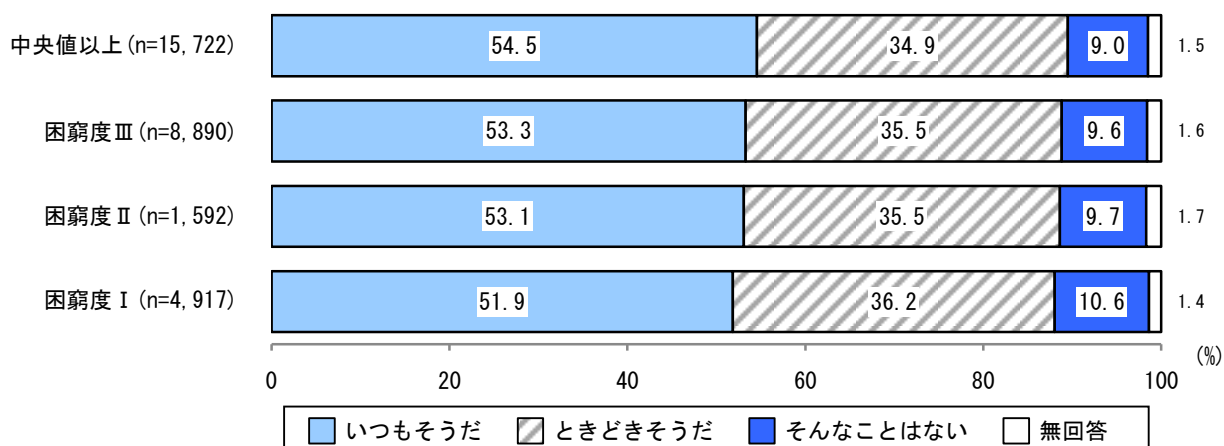


図 65. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、概ね困窮度が高まるにつれて、「いつもそうだ」と回答する割合が低くなり、困窮度Ⅰ群では59.4%となっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい (子ども票問 19③)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

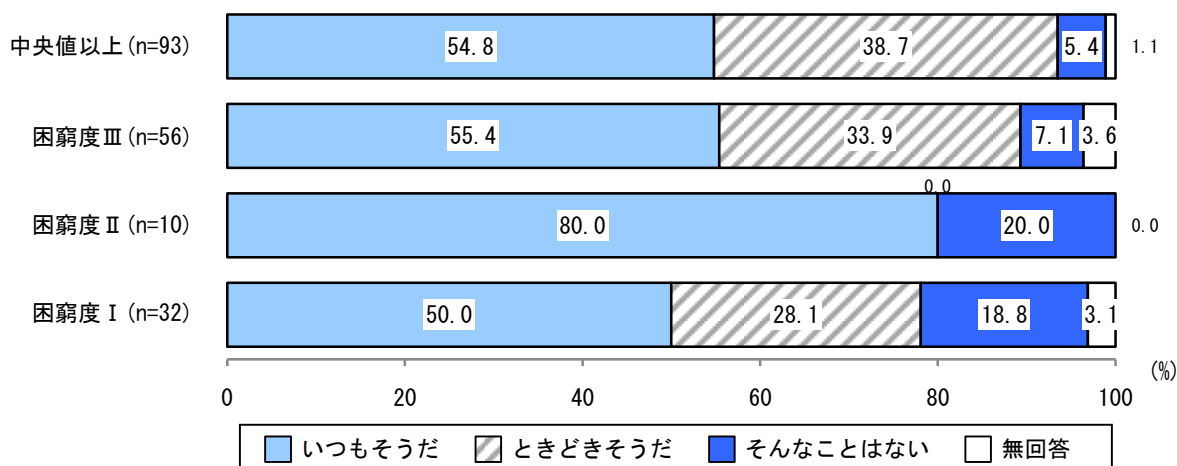
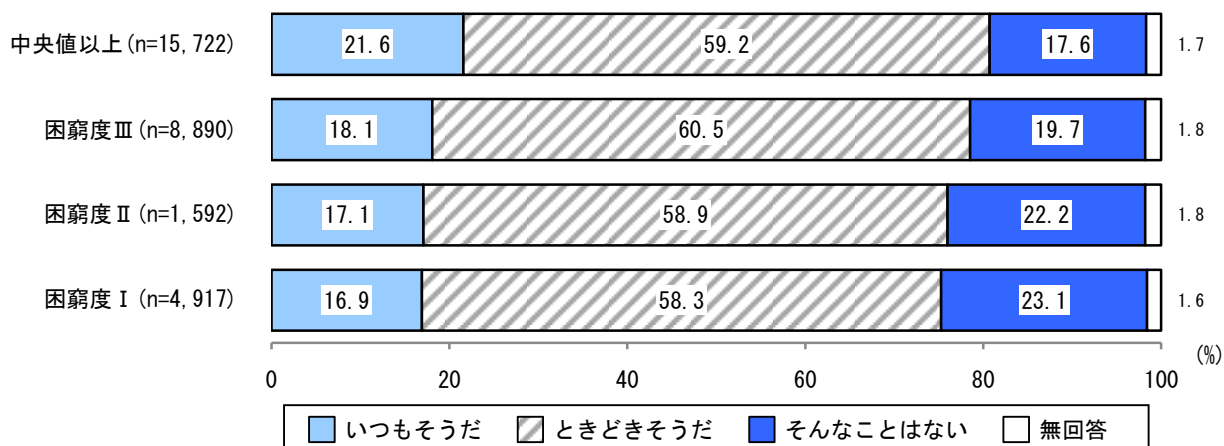


図 66. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっぱいだを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅰ群 (50.0%) で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる
(子ども票問 19④)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

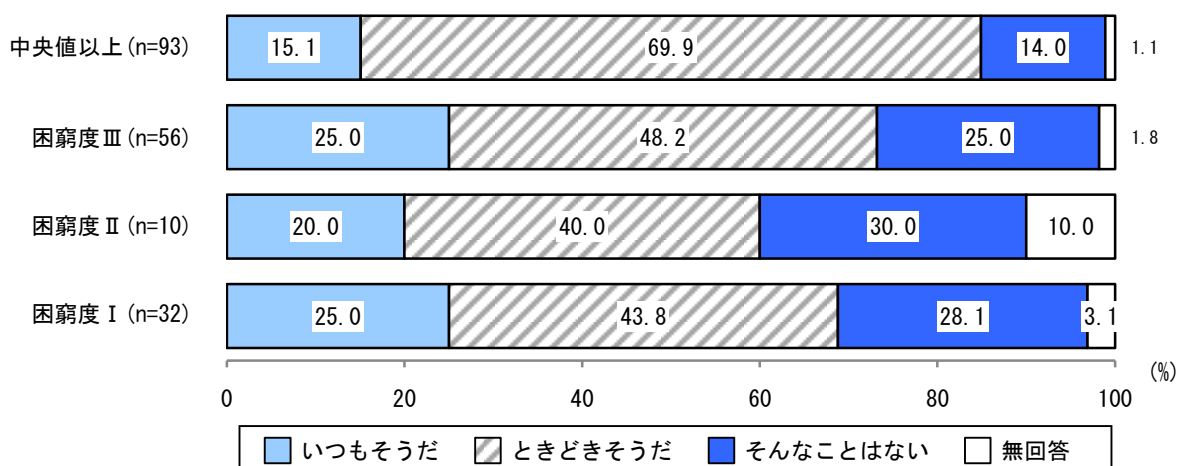
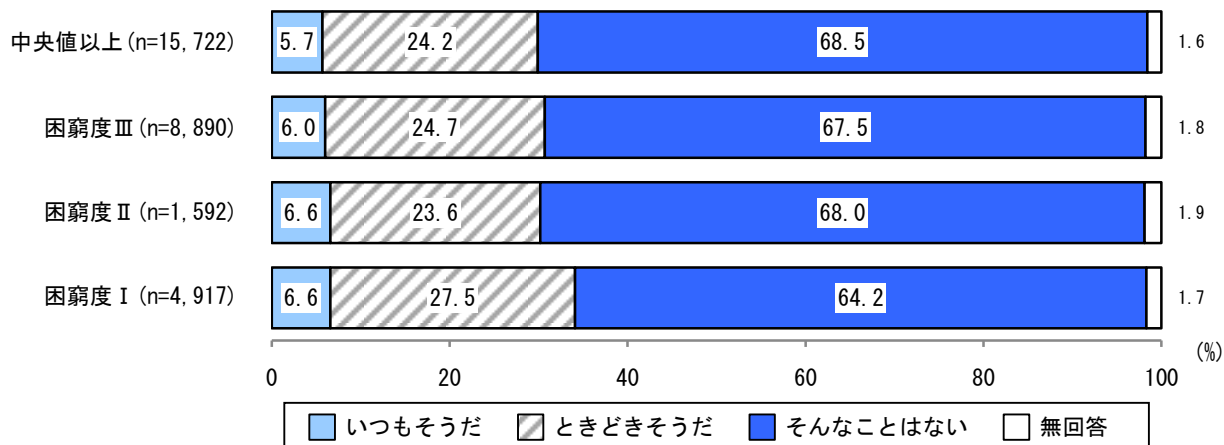


図 67. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は中央値以上群（15.1%）で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする
(子ども票問 19⑤)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

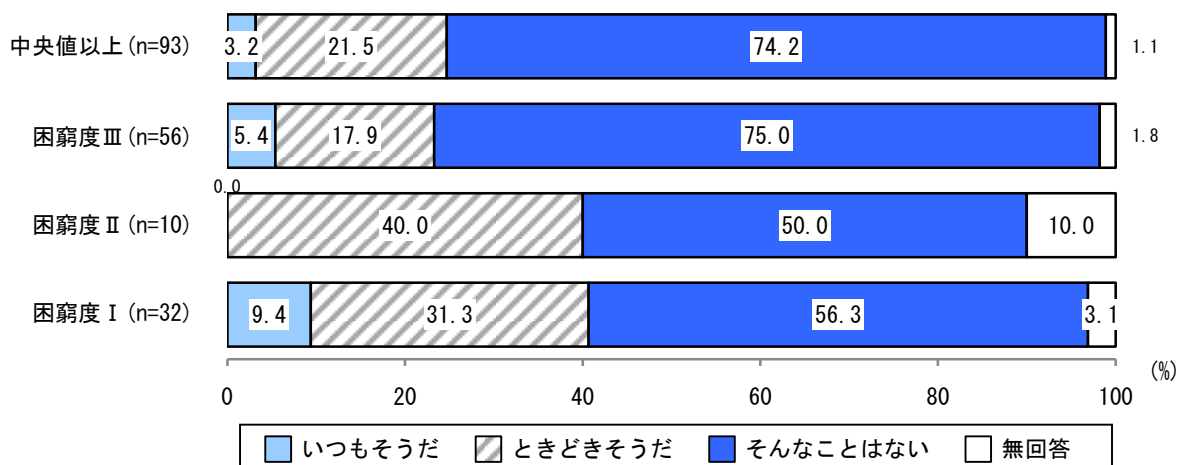
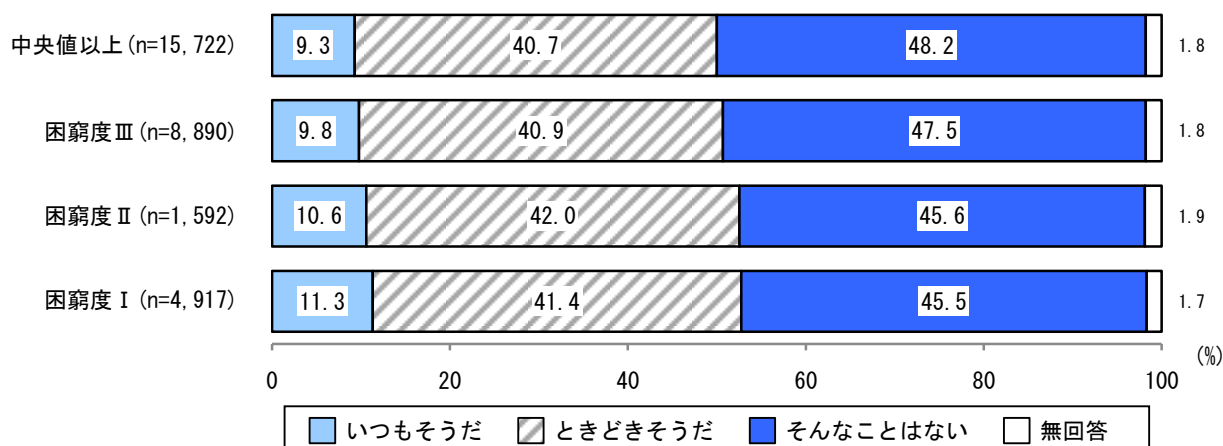


図 68. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅰ群（9.4%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる（子ども票問 19⑥）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

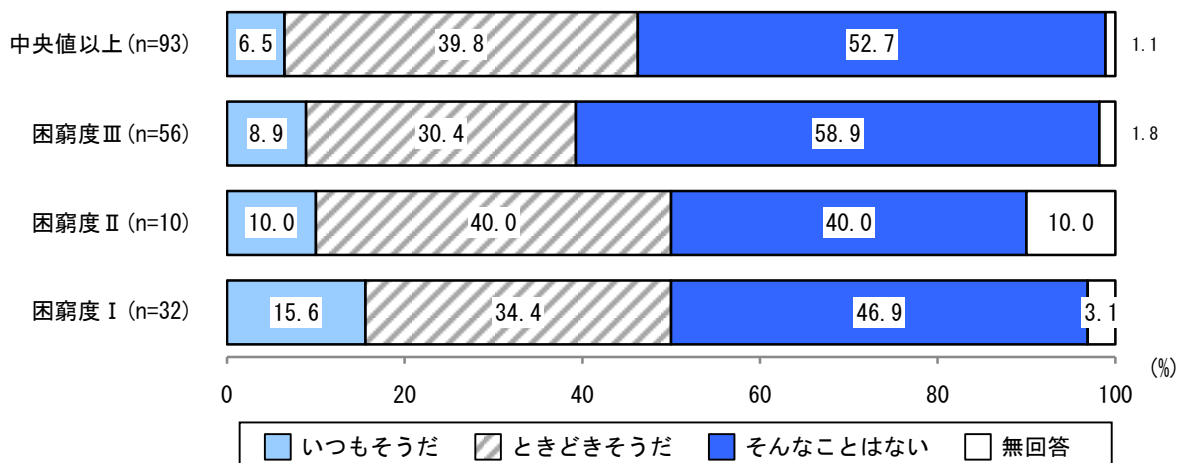
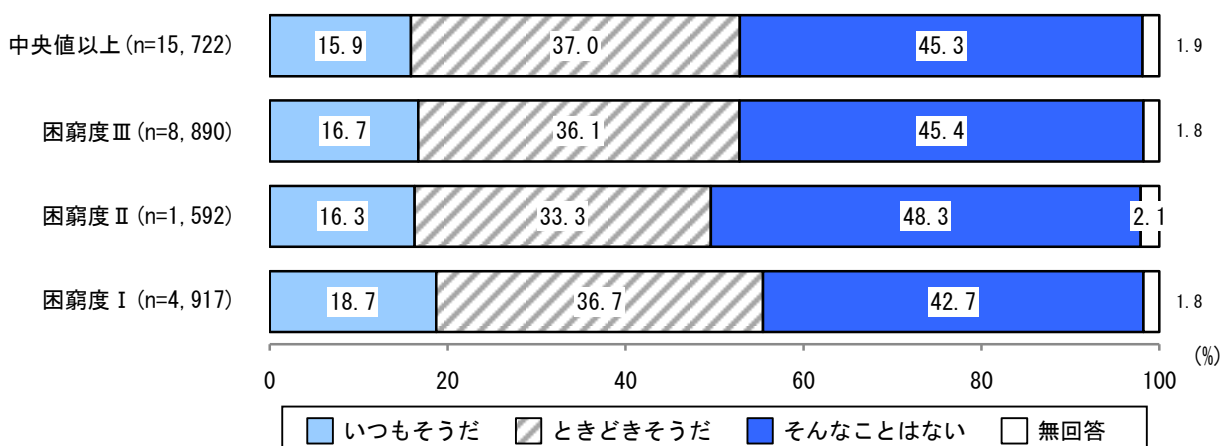


図 69. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになるを見ると、困窮度が高まるにつれて、「いつもそうだ」と回答する割合が高くなり、困窮度Ⅰ群では15.6%となっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる（子ども票問 19⑦）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

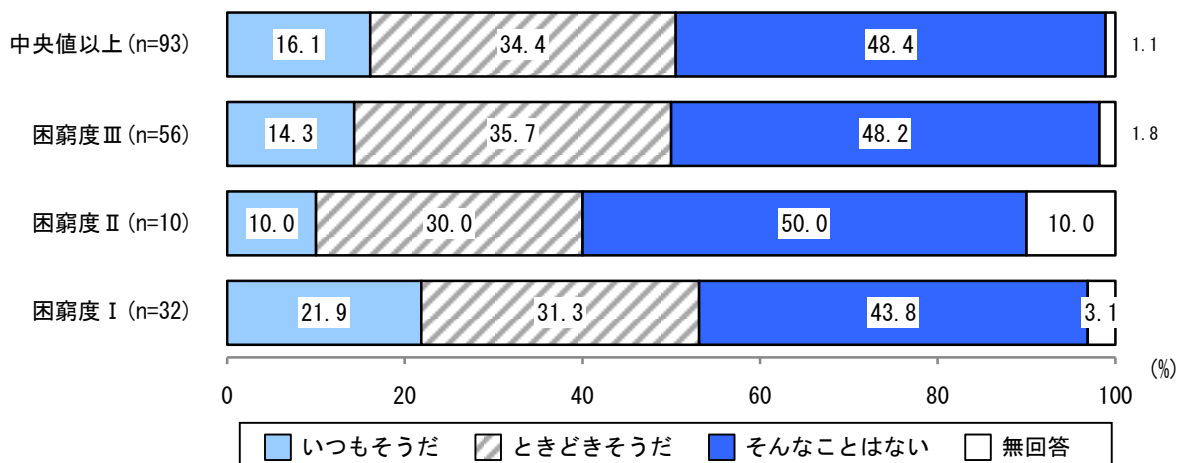
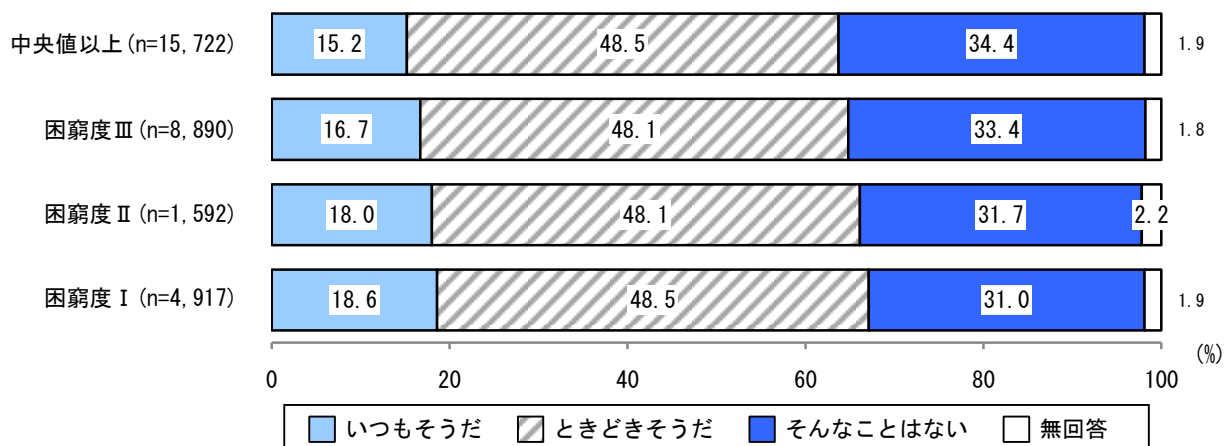


図 70. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅰ群（21.9%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない（子ども票問 19⑧）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

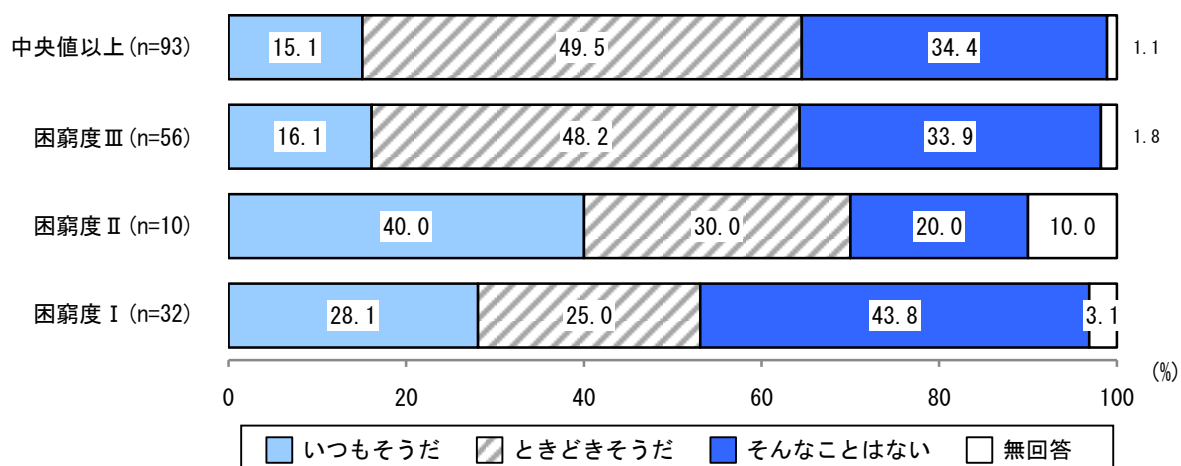
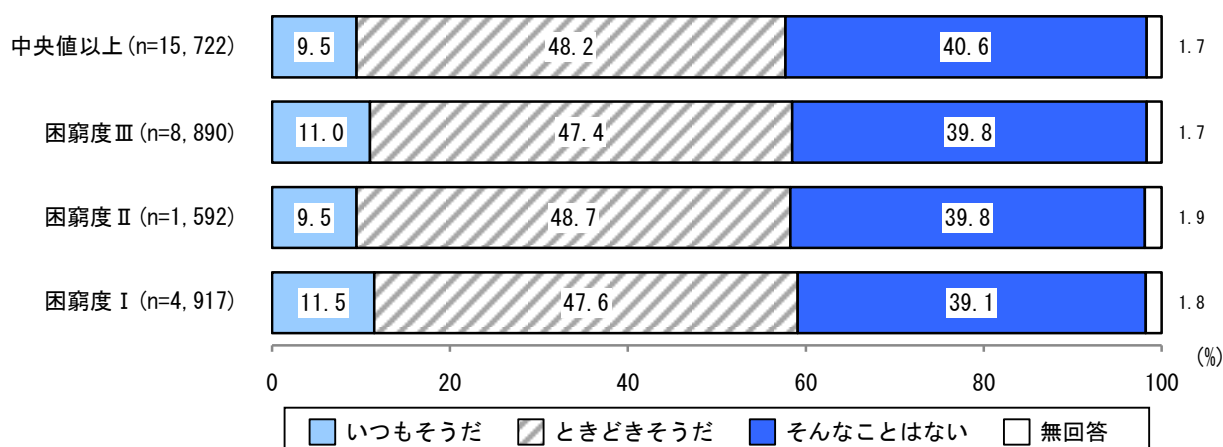


図 71. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅱ群（40.0%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする（子ども票問 19⑨）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

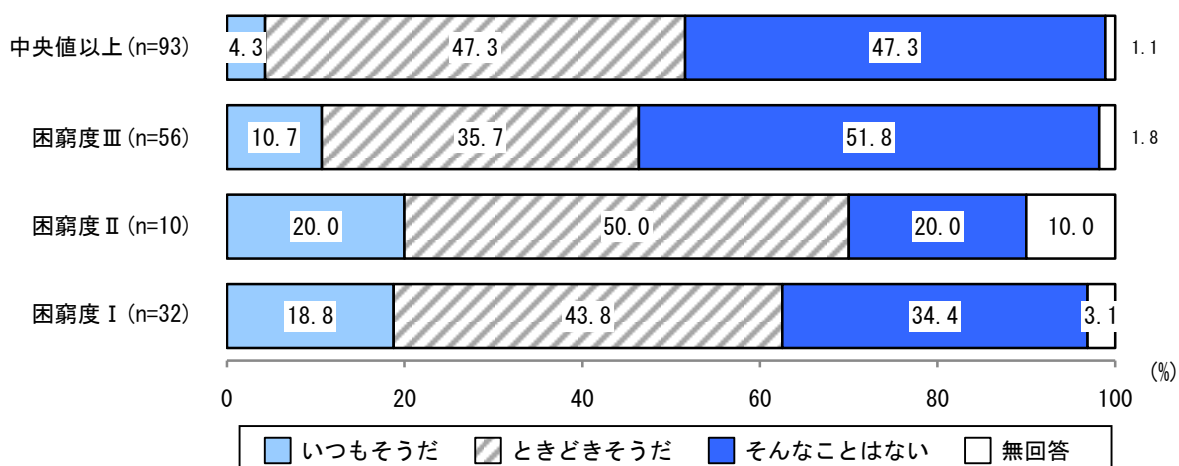
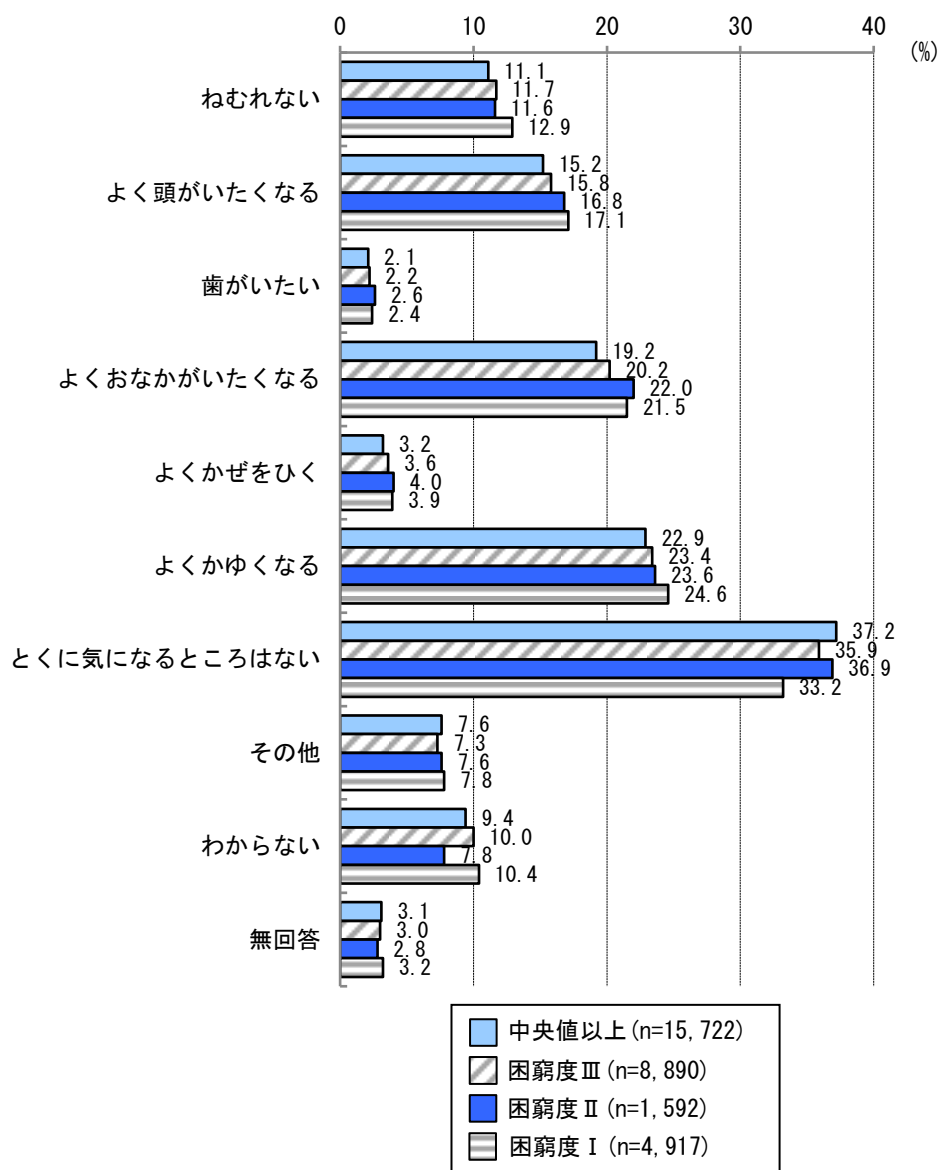


図 72. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でいらいらするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅱ群（20.0%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること（子ども票問 20）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

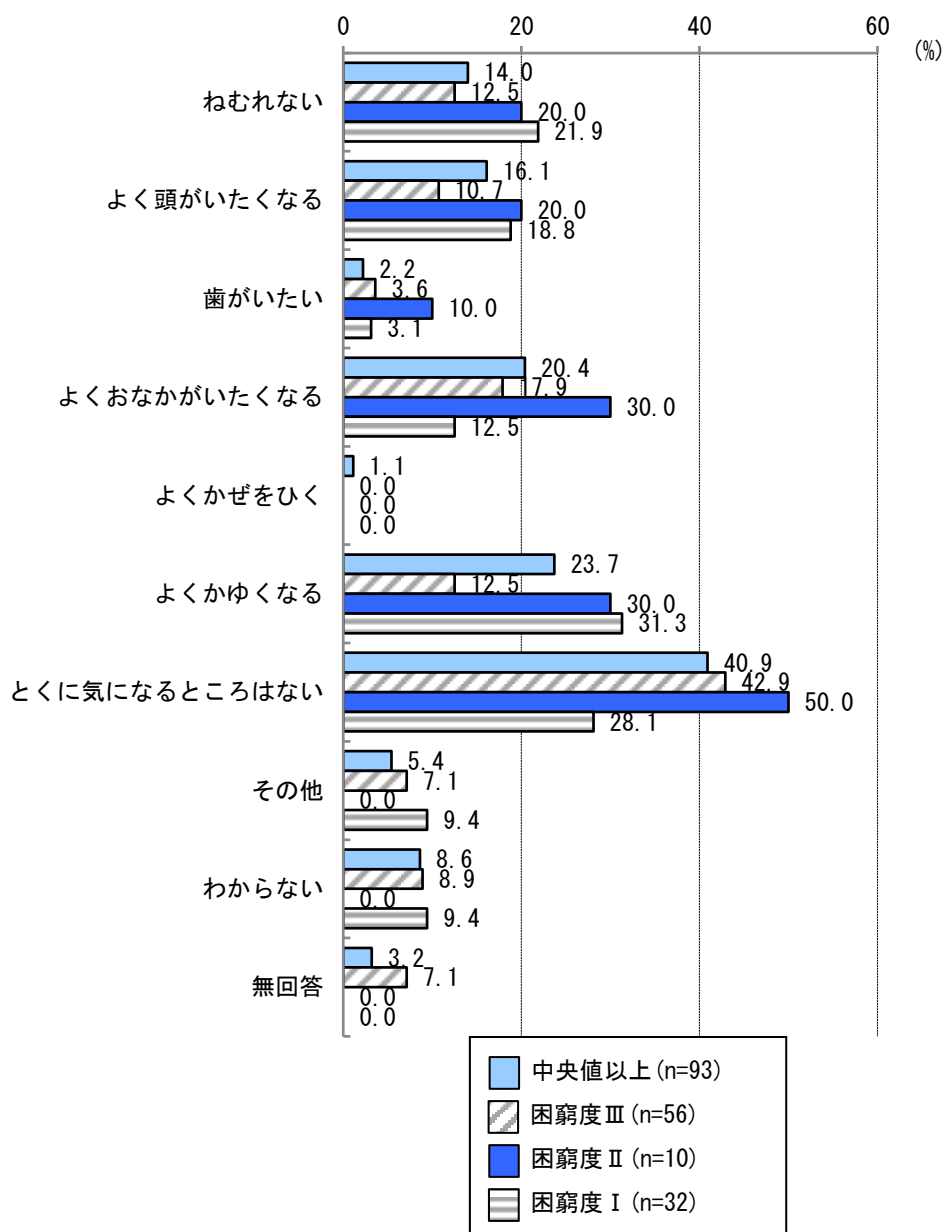
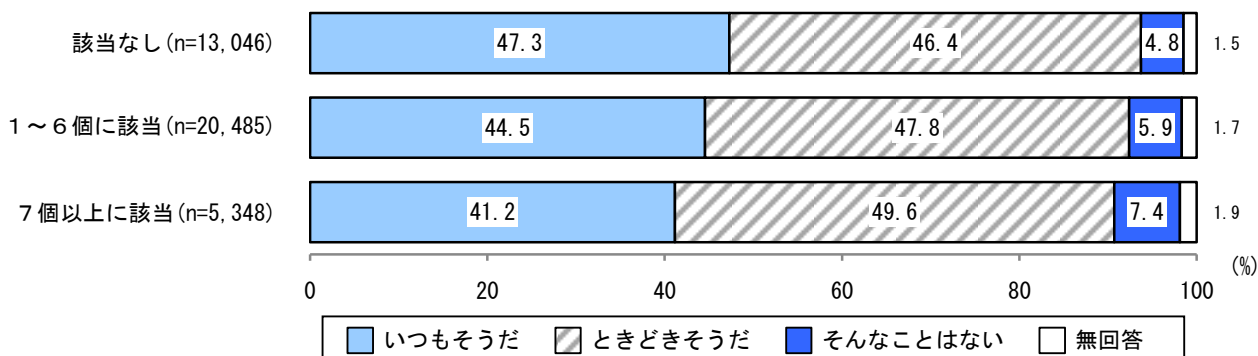


図 73. 困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること

困窮度別に自分の体の状態で気になることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「ねむれない」が21.9%（中央値以上群に対して1.6倍）、「歯がいたい」が3.1%（同じく1.4倍）となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある（保護者票問7×子ども票問19①）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

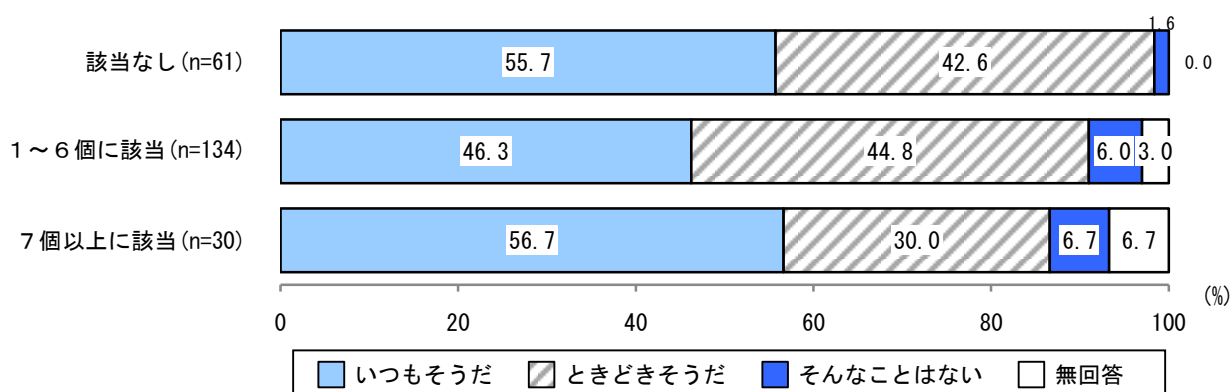


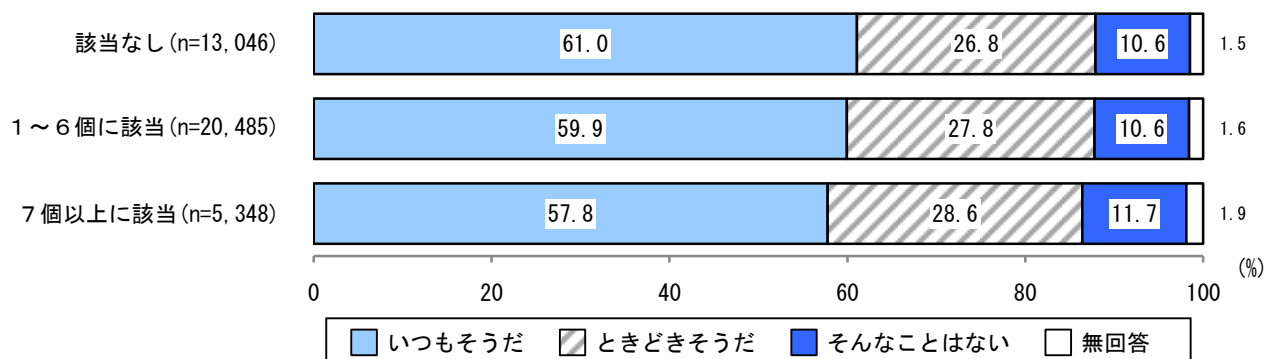
図 74. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況

①楽しみにしていることがたくさんある

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、「1～6個に該当」で「いつもそうだ」と回答した割合が46.3%と最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ（保護者票問7×子ども票問19②）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

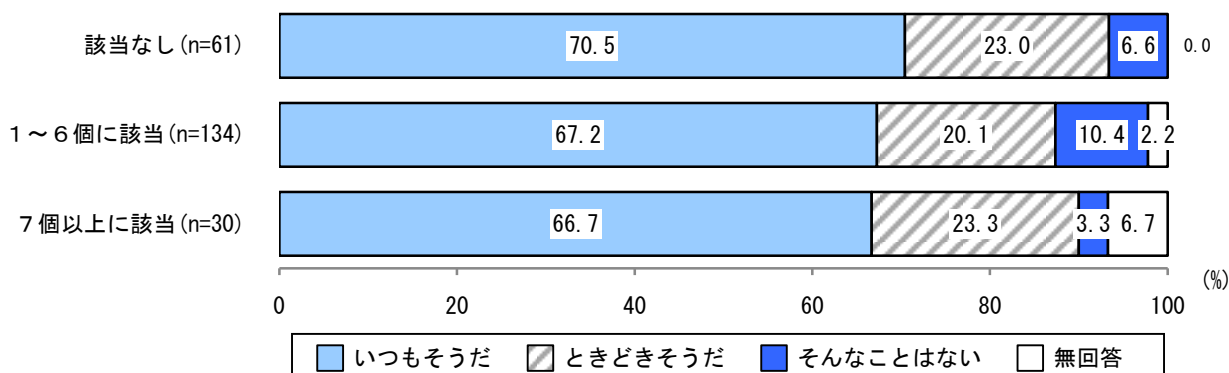
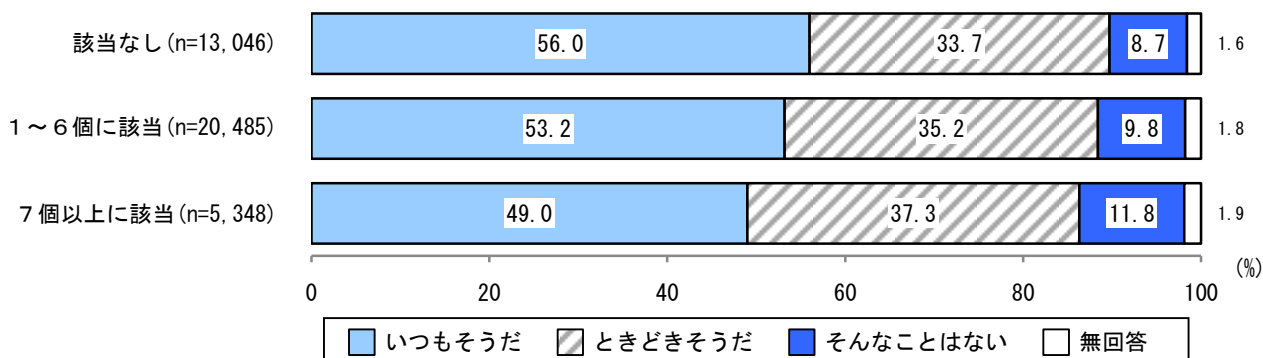


図 75. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
②遊びにでかけるのが好きだ

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は該当数が多い人ほど割合が低く、「7個以上に該当」(66.7%)で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい
(保護者票問7×子ども票問19③)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

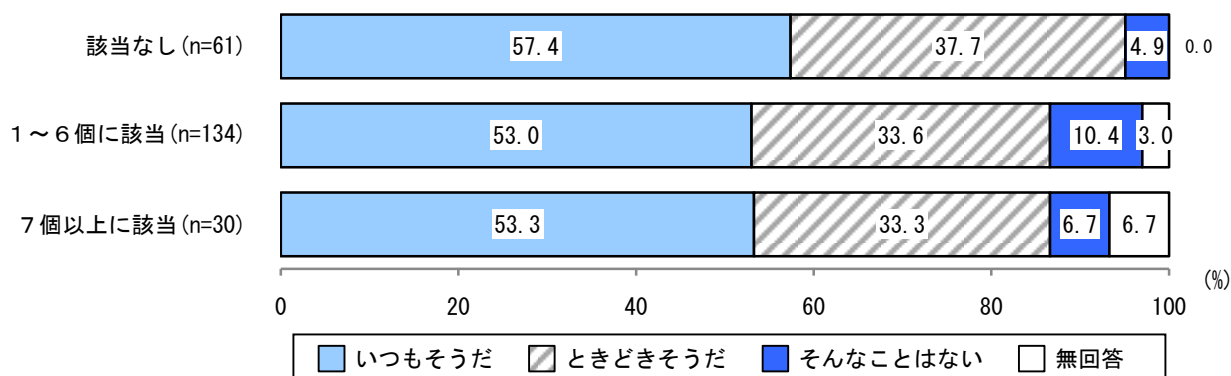
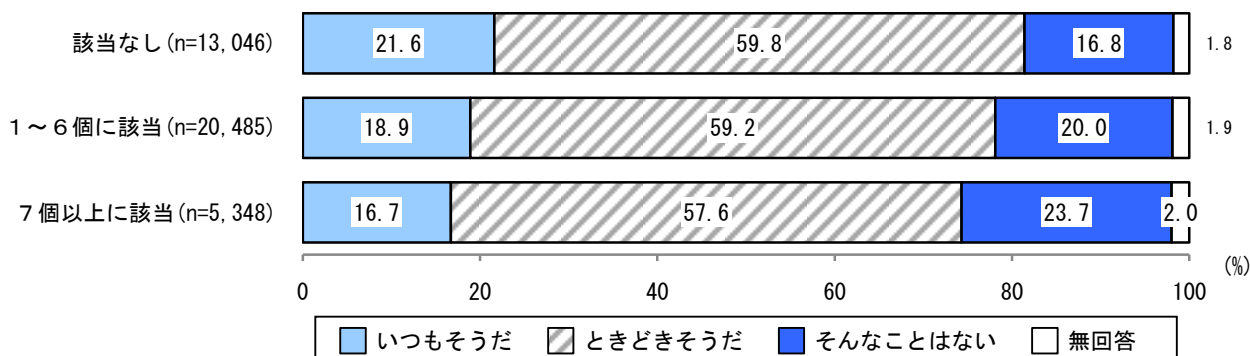


図 76. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっぱいを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「1～6個に該当」が53.0%で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる（保護者票問7×子ども票問19④）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

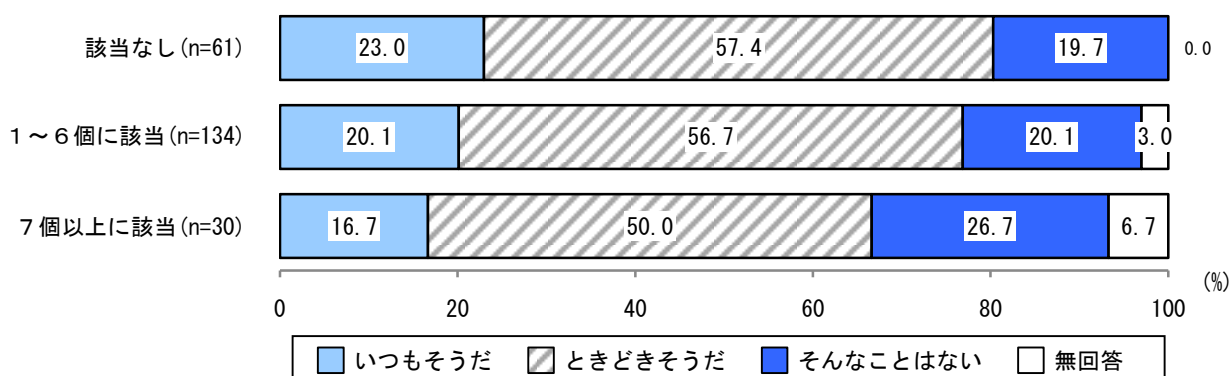
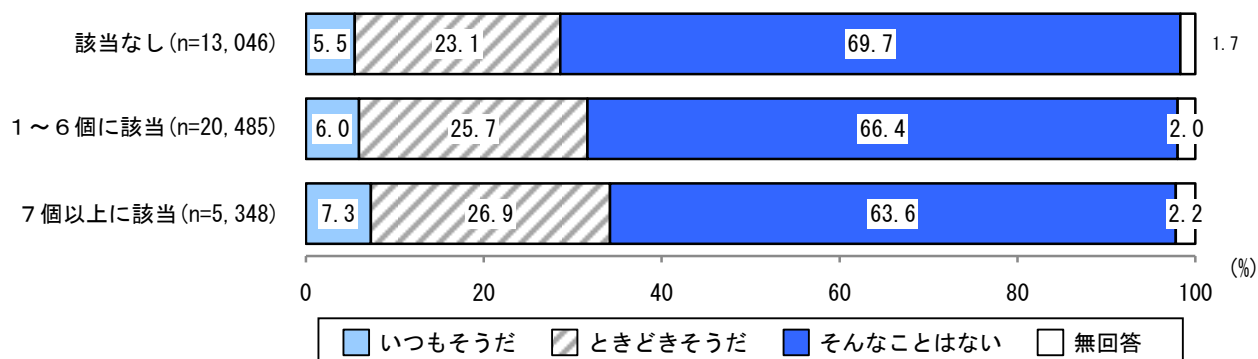


図 77. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
④やろうと思ったことがうまくできる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は該当数が多い人ほど割合が低く、「7個以上に該当」(16.7%)で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする（保護者票問7×子ども票問19⑤）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

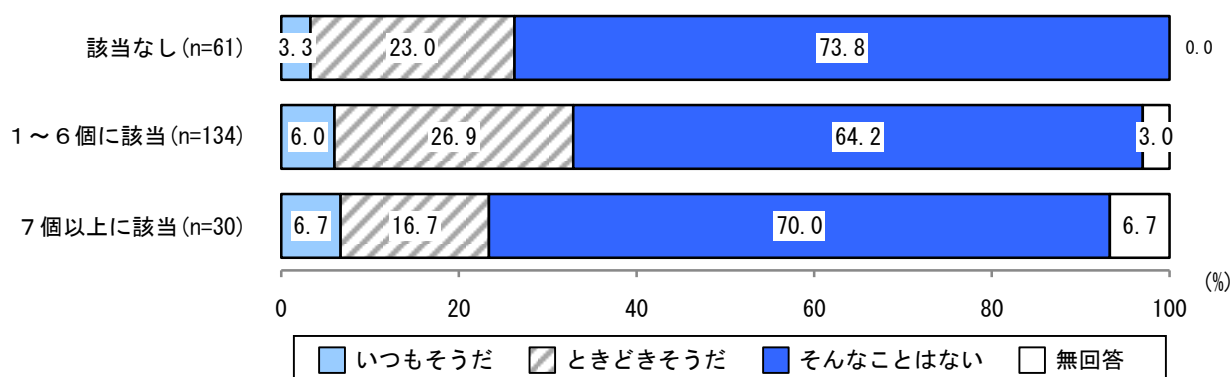


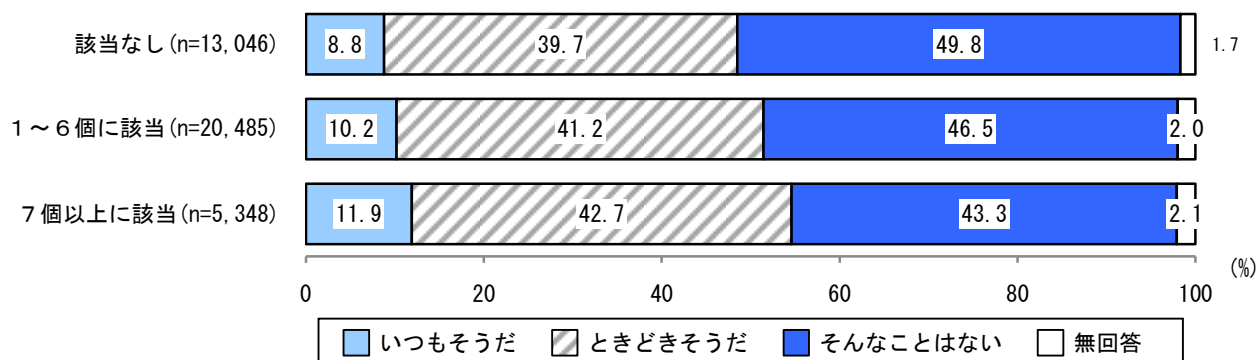
図 78. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
⑤一人ぼっちのような気がする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は該当数が多い人ほど割合が高く、「7個以上に該当」(6.7%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況

⑥不安な気持ちになる（保護者票問7×子ども票問19⑥）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

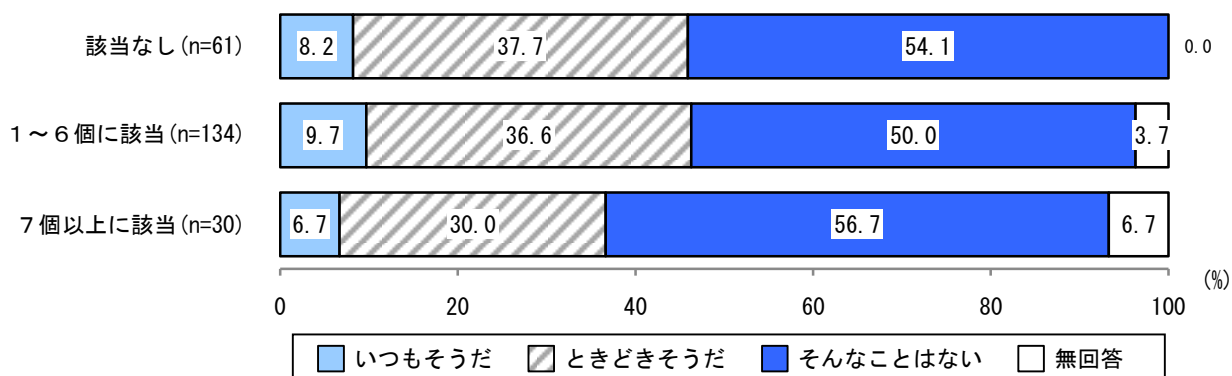
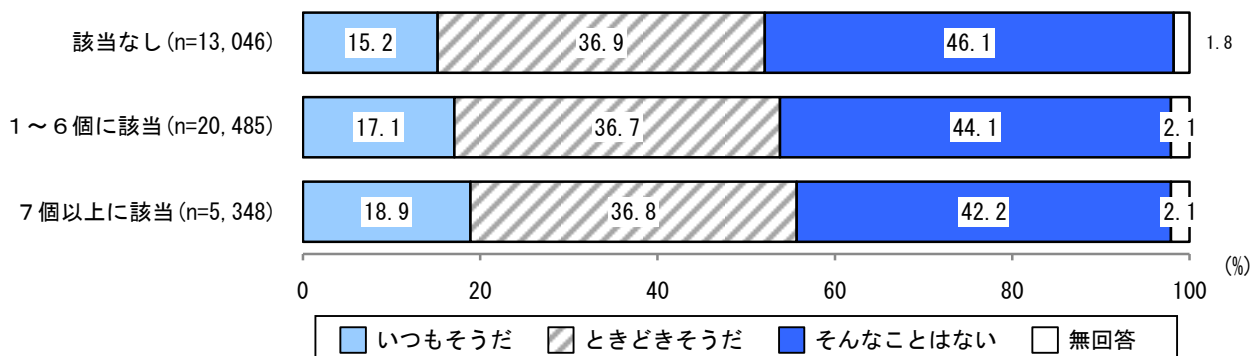


図 79. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「1～6個に該当」(9.7%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる
(保護者票問7×子ども票問19⑦)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

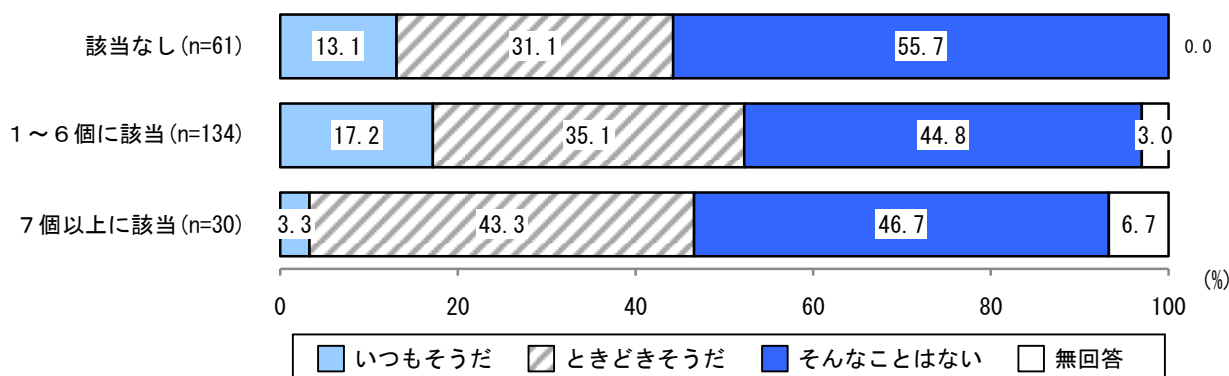
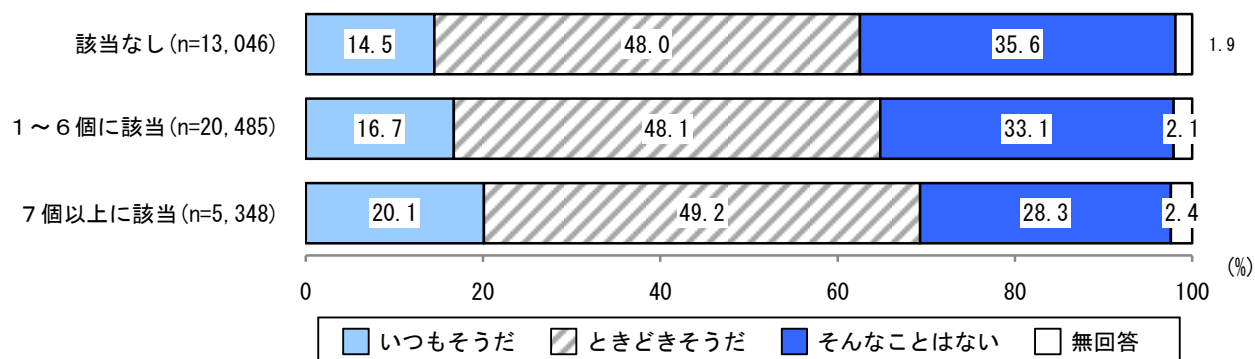


図 80. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「1～6個に該当」(17.2%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない
(保護者票問7×子ども票問19⑧)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

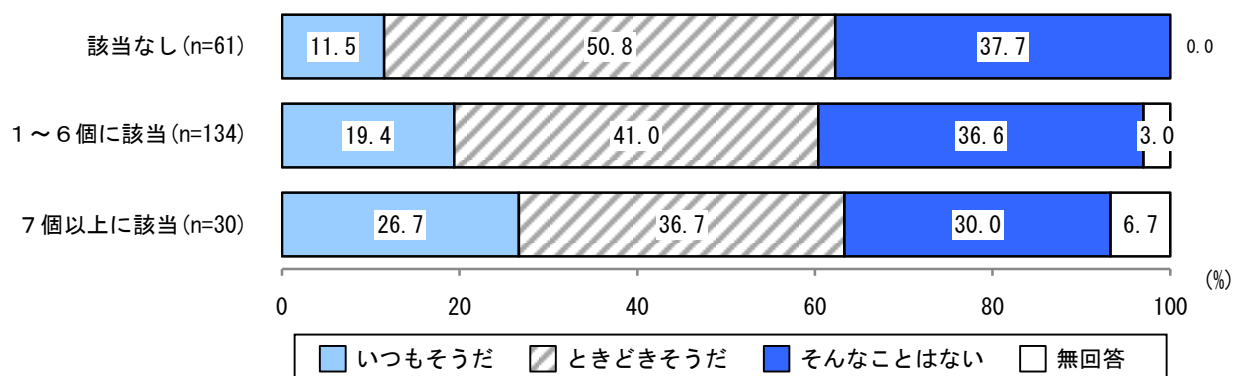
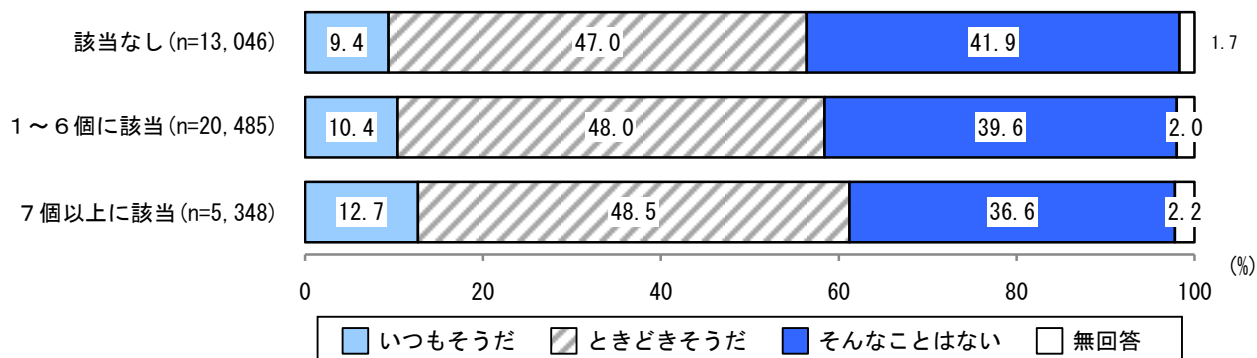


図 81. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は該当数が多い人ほど割合が高く、「7個以上に該当」が26.7%で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする
(保護者票問7×子ども票問19⑨)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

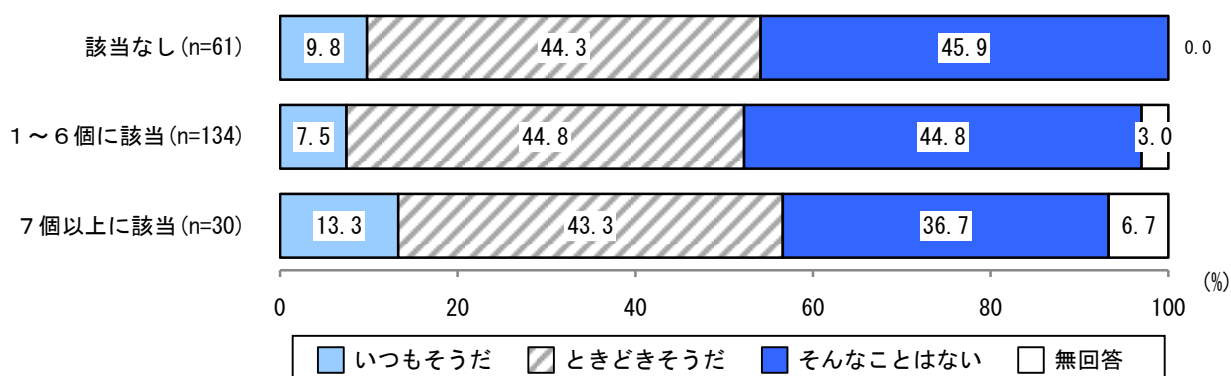
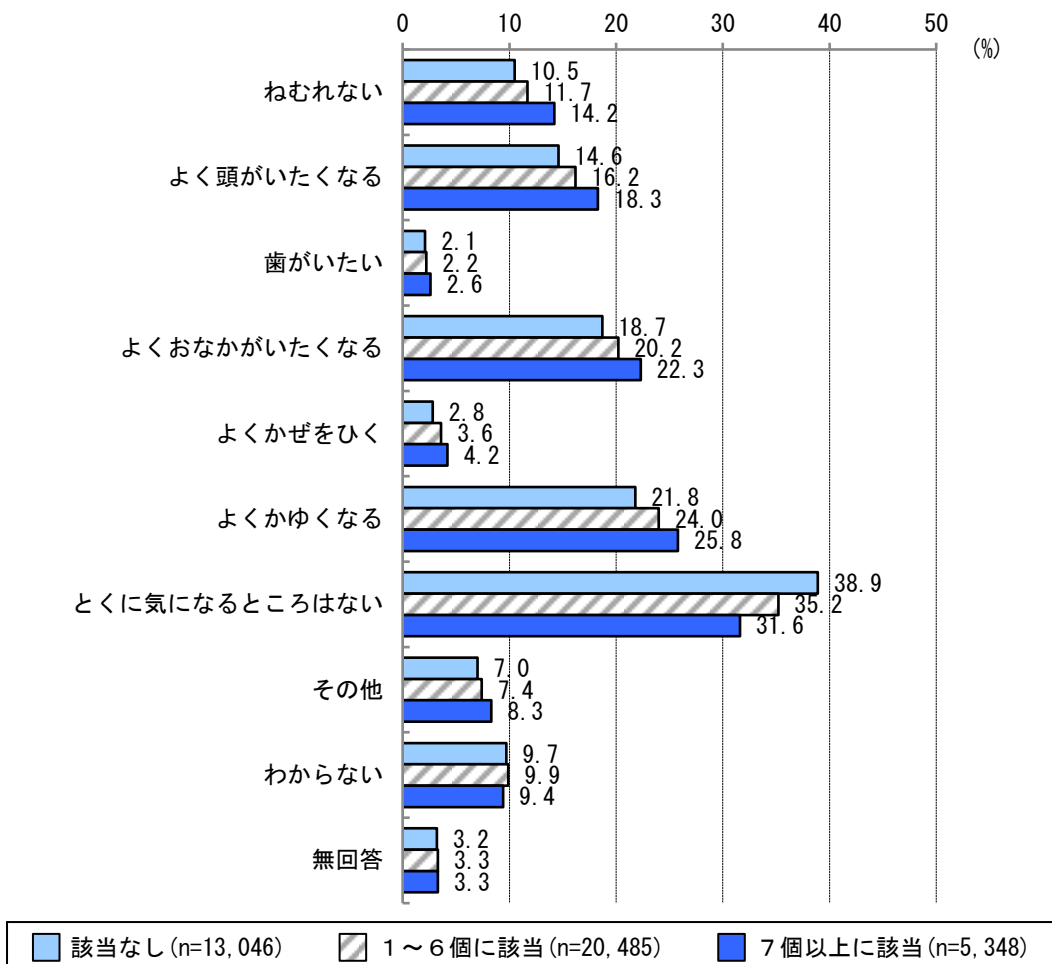


図 82. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でいらいらするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は「7個以上に該当」が13.3%で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること
 (保護者票問7×子ども票問20)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

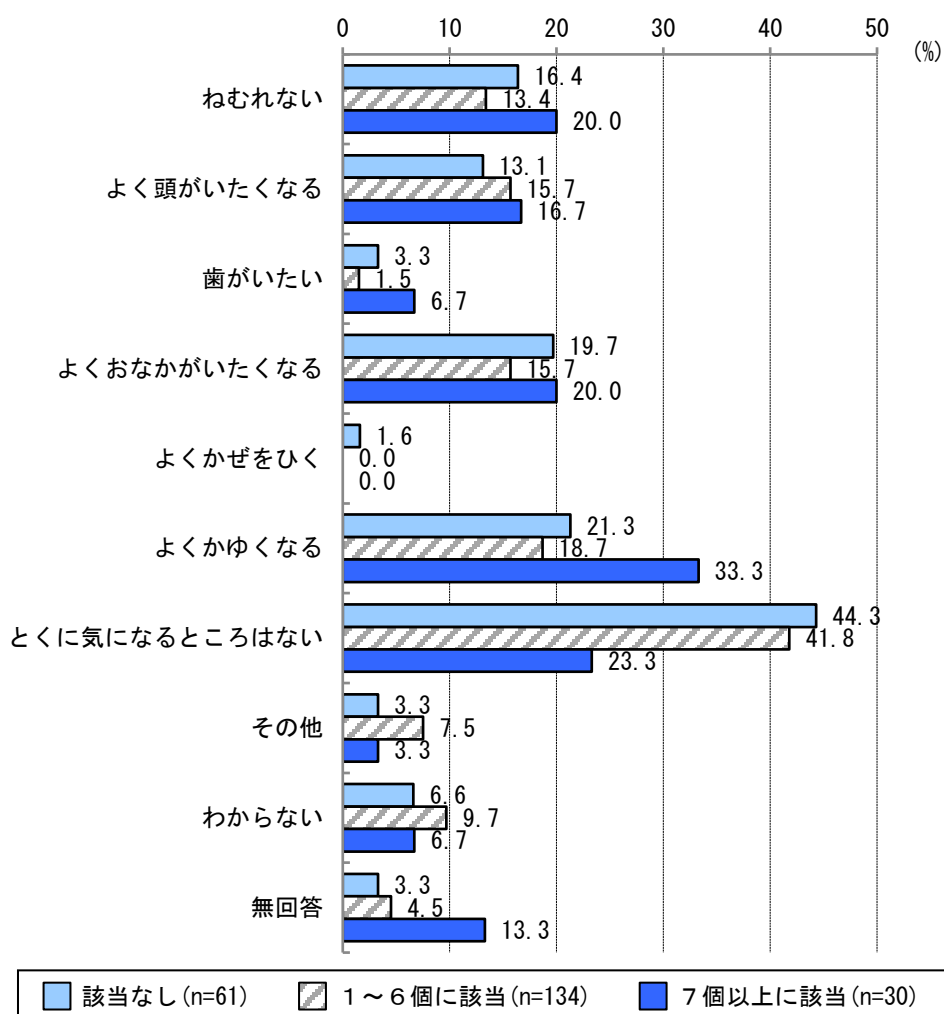
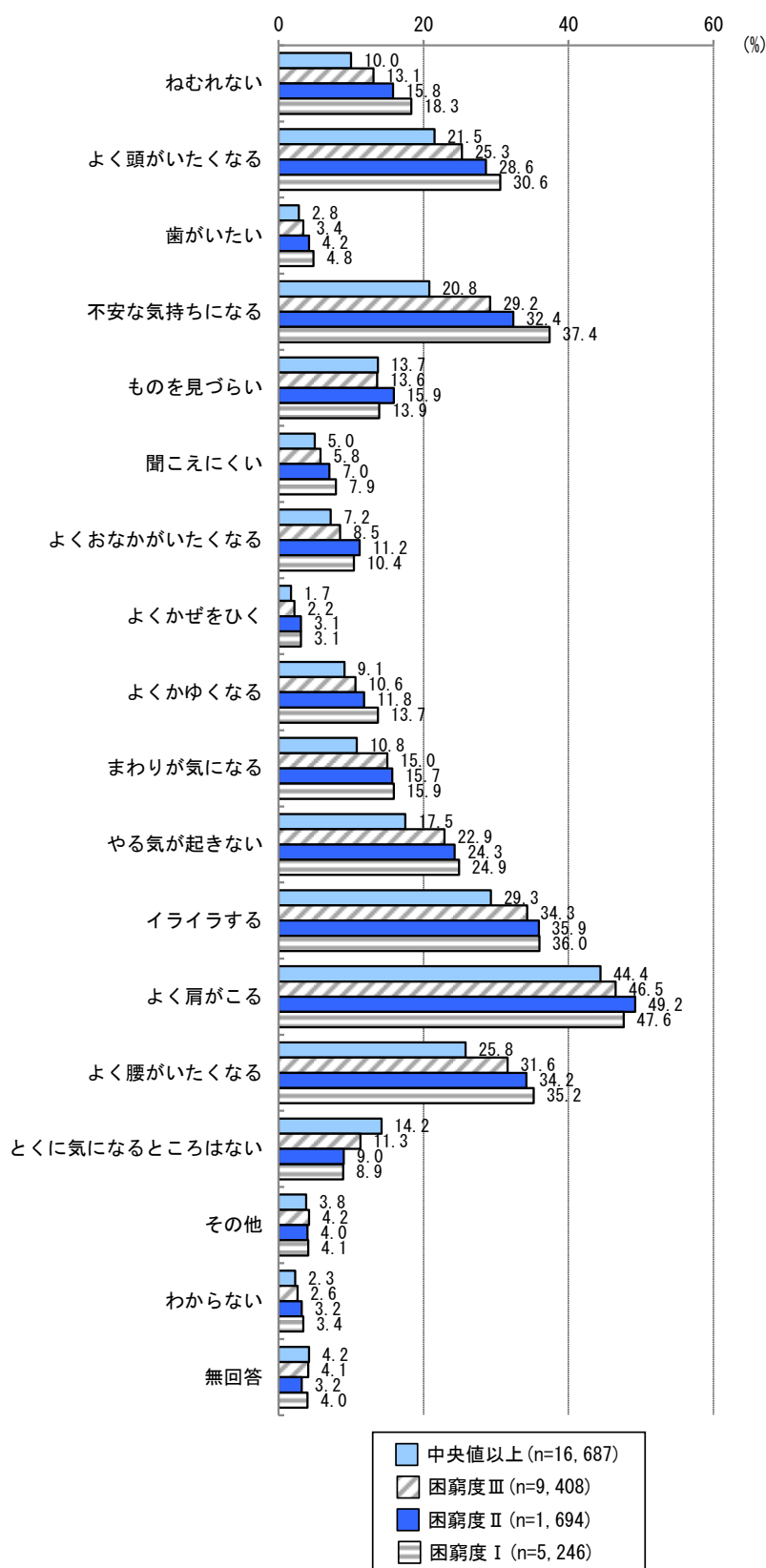


図 83. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体の状態で気になることを見ると、「7個以上に該当」群と「該当なし」群間で差が大きい項目に着目しながら、「7個以上に該当」群の数値を挙げると、「歯がいたい」6.7%（「該当なし」群に対して2.0倍）、「よくかゆくなる」33.3%（同じく1.6倍）となっている。

困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること（保護者票問 22）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

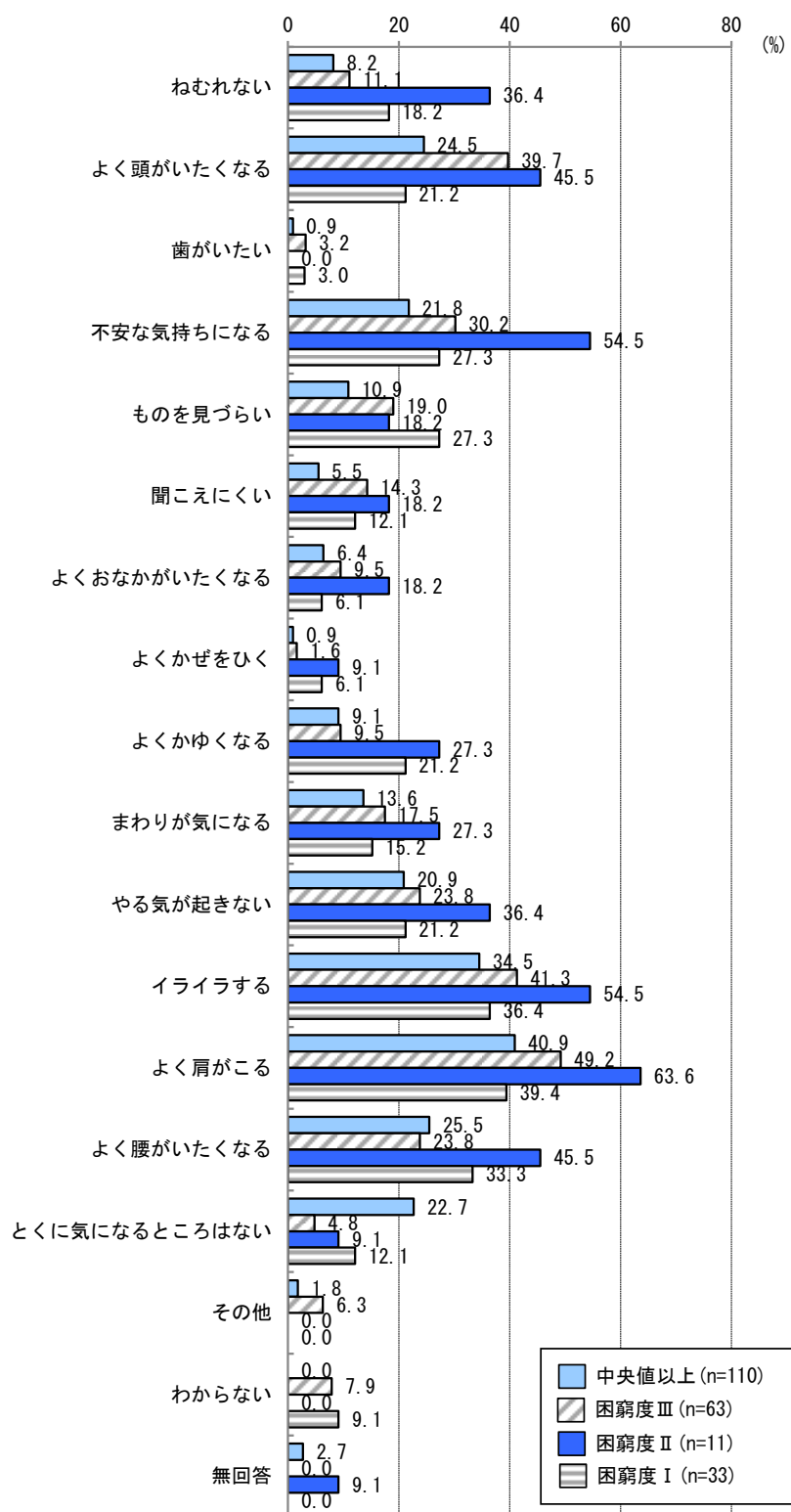
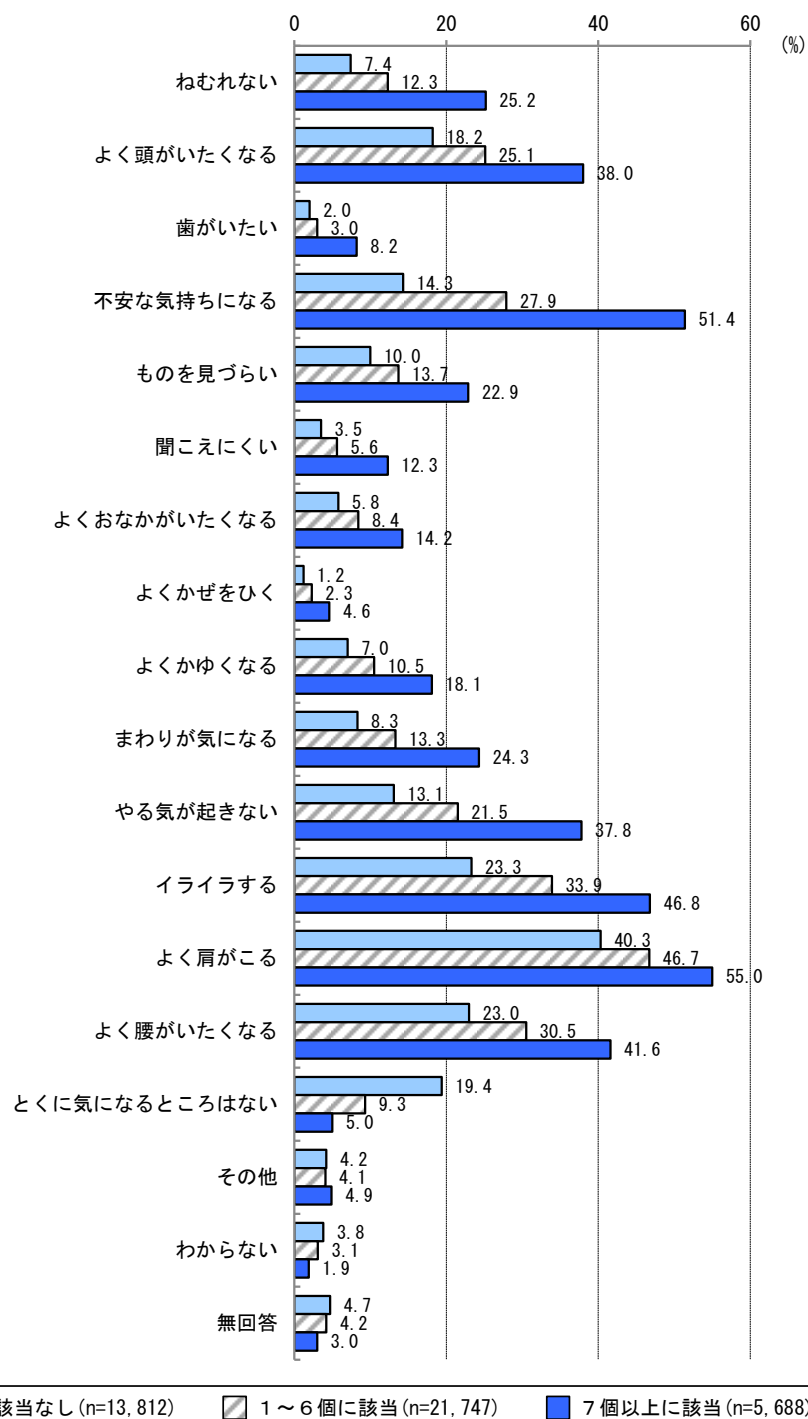


図 84. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

困窮度別に自分の体や気持ちで気になること（保護者）を見ると、「歯がいたい」と「ものを見づらい」を除く項目において、困窮度Ⅱで割合が最も高くなっている。困窮度Ⅰ群に着目して、中央値以上群との差が大きい順に挙げると、「よくかぜをひく」6.1%（中央値以上群に対し、6.8倍）、「歯がいたい」3.0%（同じく3.3倍）となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること
(保護者票問 7 × 保護者票問 22)

<大阪府内全体>



＜四條畷市＞

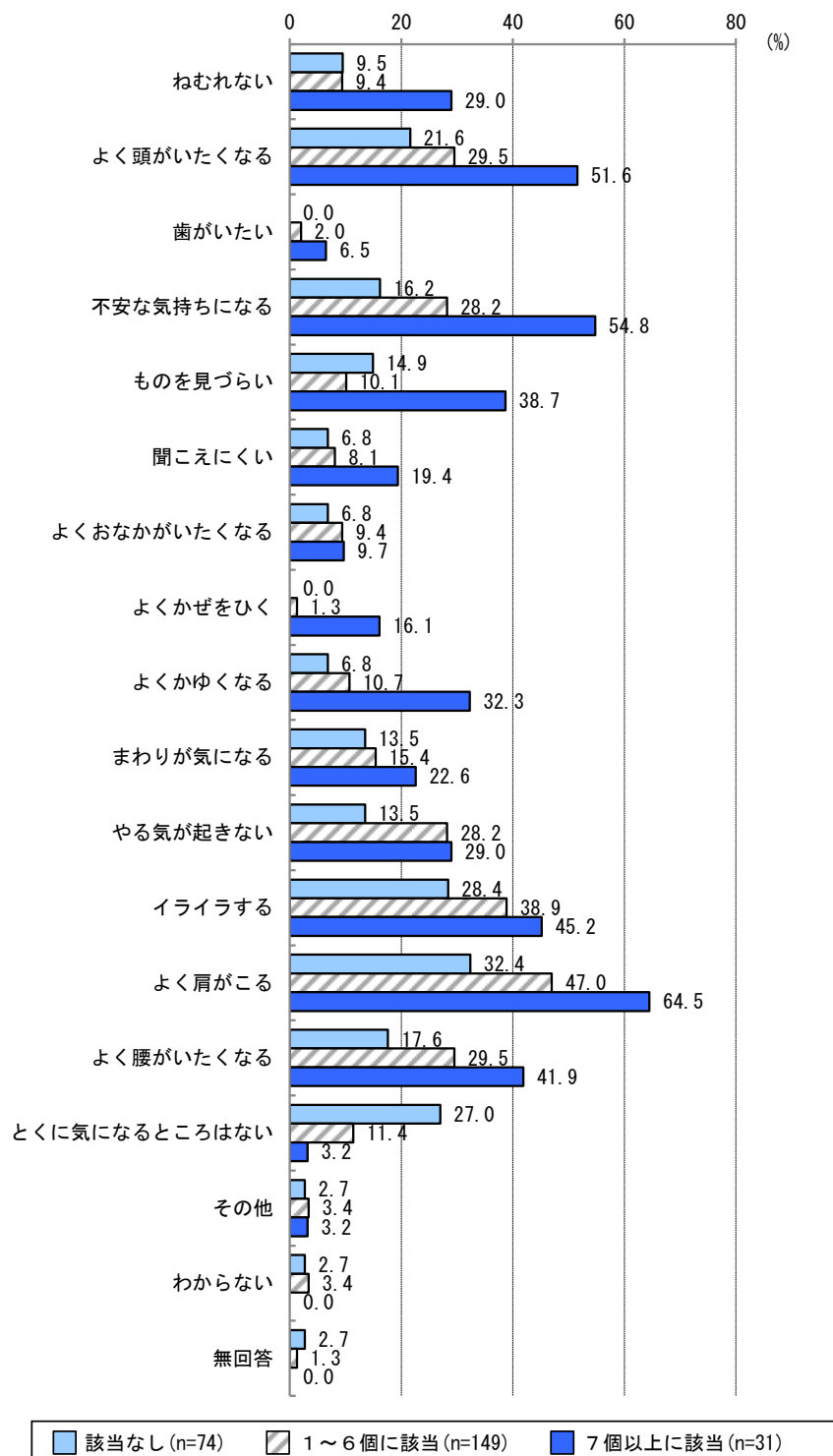
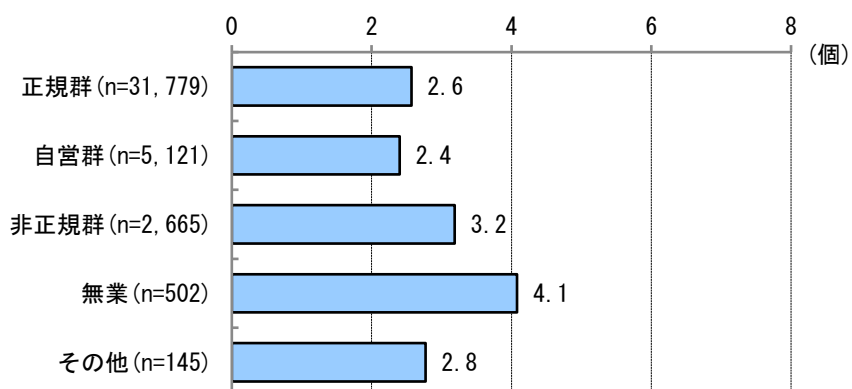


図 85. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になること（保護者）を見ると、「ねむれない」と「ものを見づらい」を除く項目において、経済的な理由による経験の該当数が多くなるにつれて、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に、「7個以上に該当」した人と「該当なし」と回答した人との差が大きく開いている。「7個以上に該当」群について、「該当なし」との差が大きい順に挙げると、「よくかゆくなる」32.3%（「該当なし」に対して4.8倍）、「不安な気持ちになる」54.8%（同じく3.4倍）となっている。

就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問 22）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

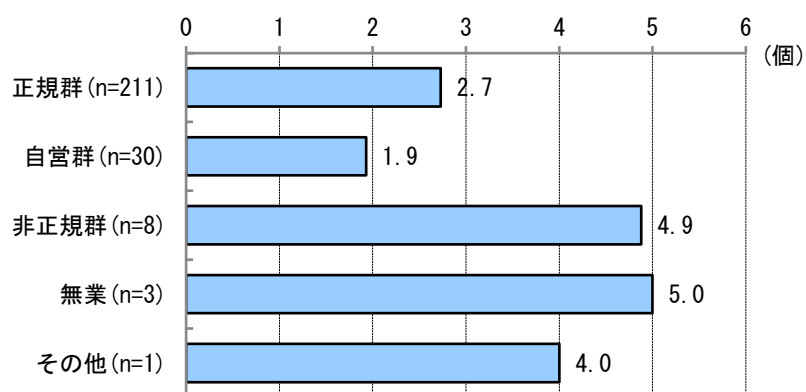


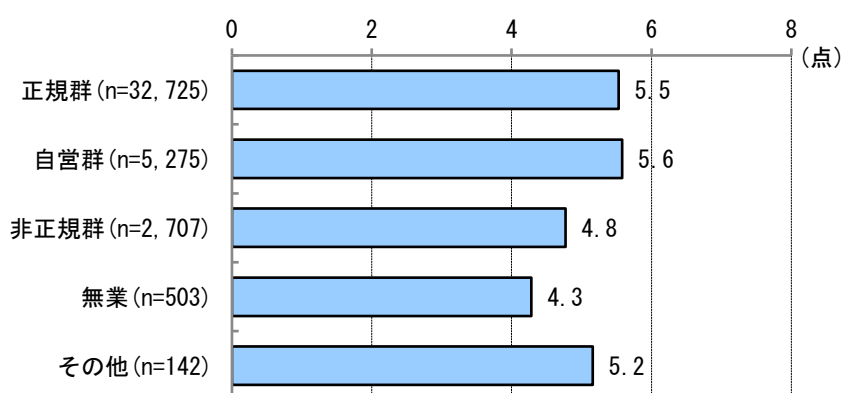
図 86. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

就労状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、「正規群」、「自営業」に対して、「非正規群」、「無業」群において、自分の体や気持ちで気になることの該当個数が増える結果となった。

就労状況別に見た、支えてくれる人得点（保護者票問18）

※「あなたを支え、手伝ってくれる人はいますか」という質問について、「心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人」「あなたの気持ちを察して思いやってくれる人」「趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人」「子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人」「子どもの学びや遊びを豊かにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）」「子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人」「留守を頼める人」の7項目を提示した。それぞれの人物が「いる」か「いない」かで評定させたうえで、「いない」を0点、「いる」を1点とし、7項目の合計得点を「支えてくれる人得点」とした。得点が高いほど、身近に支えてくれる人が多く存在することを表す。

<大阪府内全体>



<四條畷市>

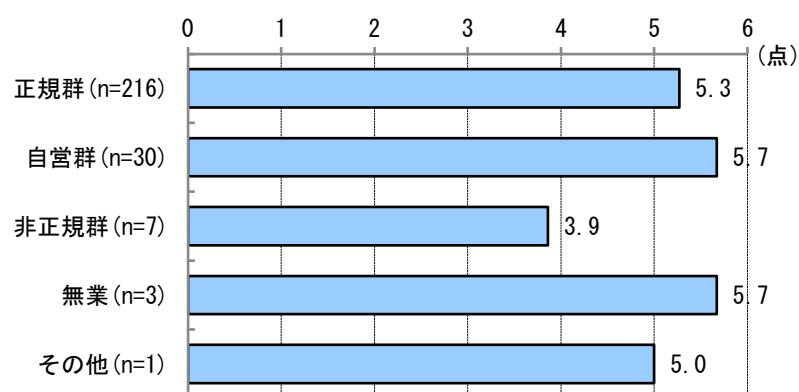
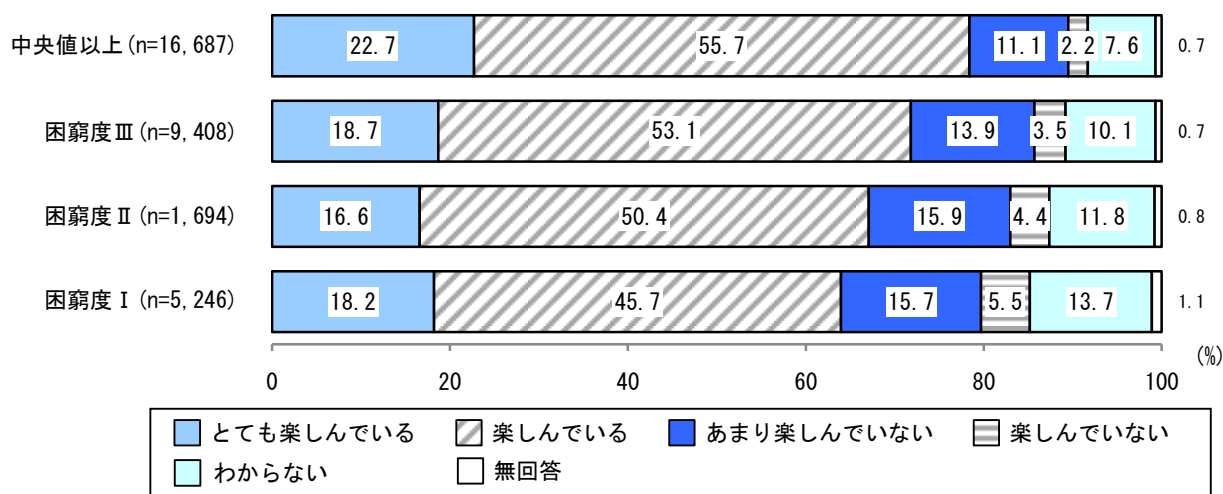


図 87. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点

就労状況別に「支えてくれる人」の有無を得点化し、その平均値を見ると、「自営群」(5.7点)、「無業」(5.7点)が高く、次いで「正規群」で5.3点と低下し、「非正規群」で3.9点と最も低い結果となった。

困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）（保護者票問 21(1)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

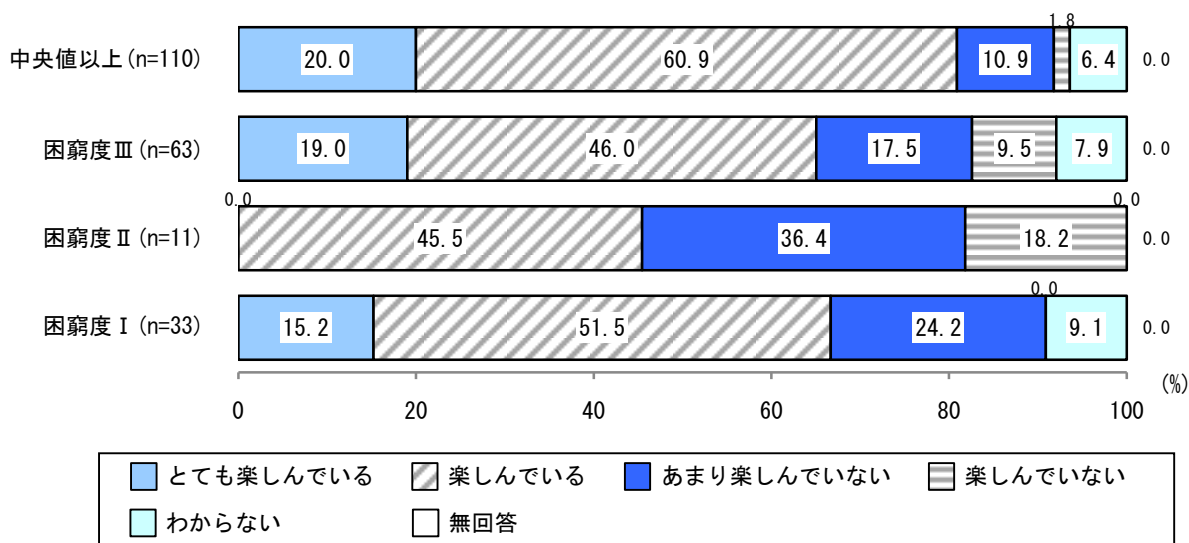
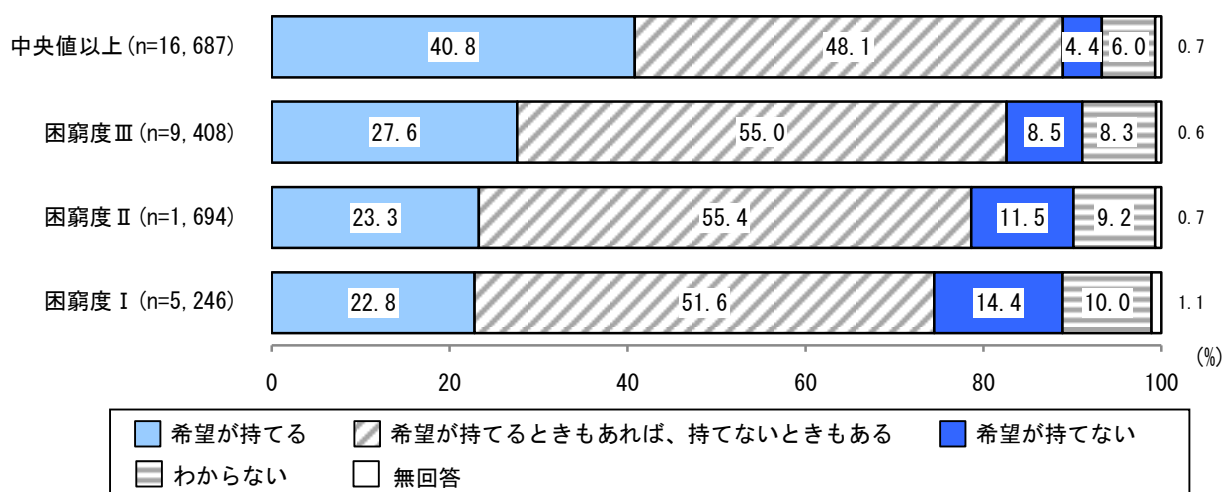


図 88. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

困窮度別に生活を楽しんでいるかを見ると、「とても楽しんでいる」「楽しんでいる」をあわせてなんらか『楽しんでいる』割合では、中央値以上群で80.9%と最も高く、続いて、困窮度Ⅲ群で65.0%、ここでは困窮度Ⅰと困窮度Ⅱ群では逆転し、困窮度Ⅰ群が66.7%、困窮度Ⅱ群において45.5%と最も低くなった。逆に、「楽しんでいる」「あまり楽しんでいる」を合わせた『楽しんでいる』割合は、中央値以上群が12.7%と最も低く、次いで、困窮度Ⅰ群で24.2%、困窮度Ⅲ群で27.0%、困窮度Ⅱ群で54.6%となった。

困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）（保護者票問 21 (2)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

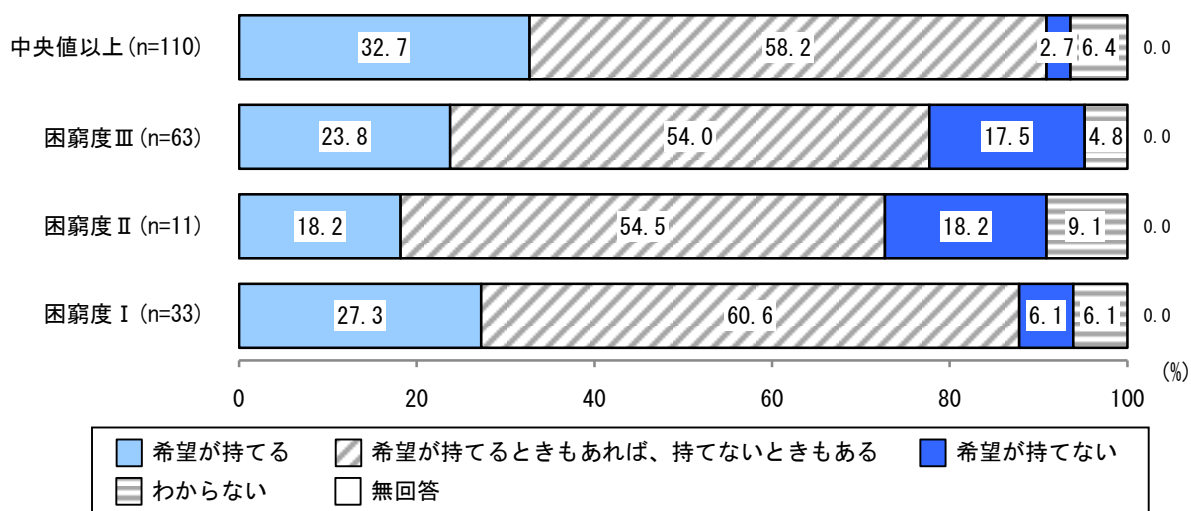
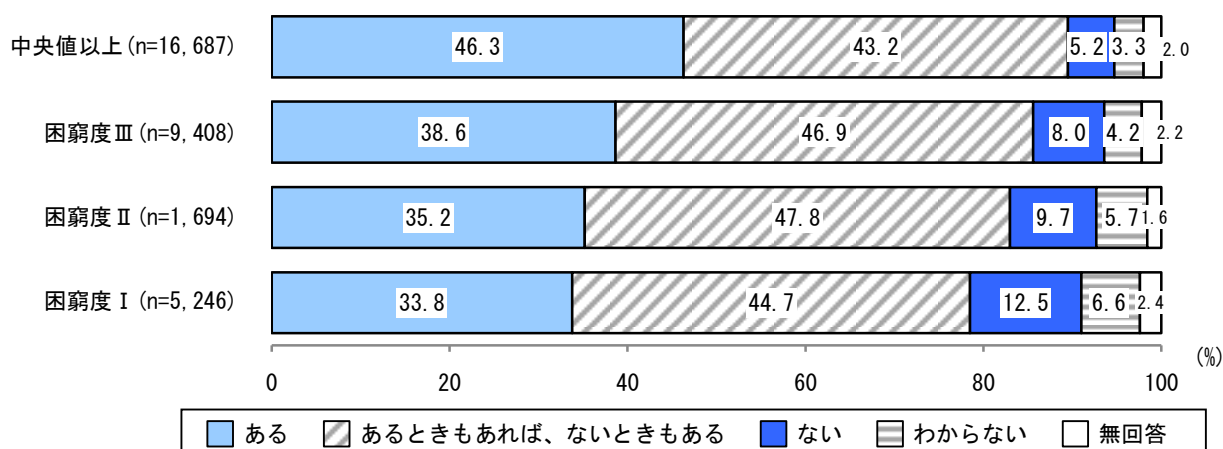


図 89. 困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）

困窮度別に将来への希望を見ると「希望が持てる」と回答する割合は、中央値以上群では32.7%であるのに対し、困窮度Ⅰ群では27.3%、困窮度Ⅲ群が23.8%、困窮度Ⅱ群において18.2%と最も低くなった。

困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）（保護者票問 21(3)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

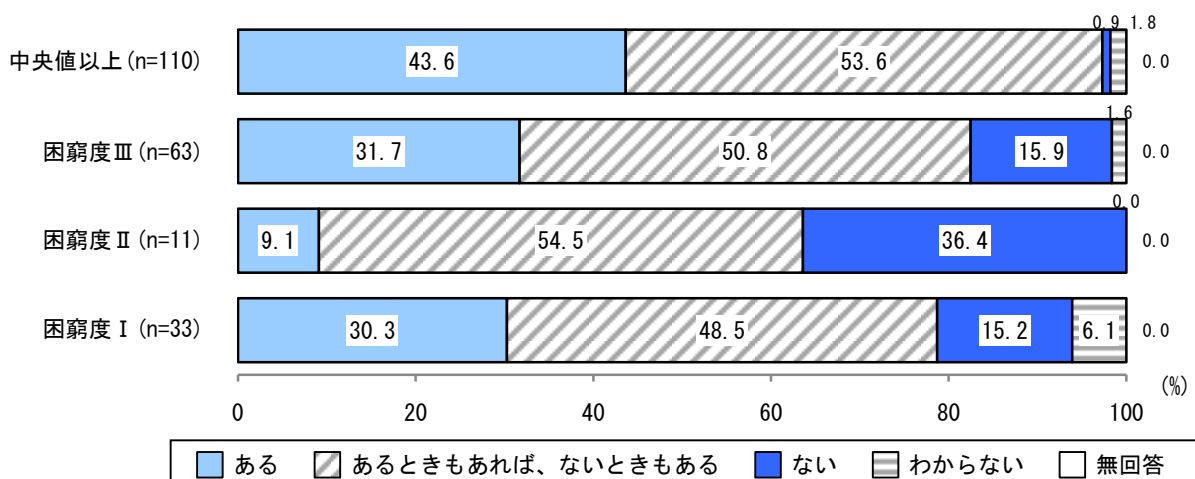
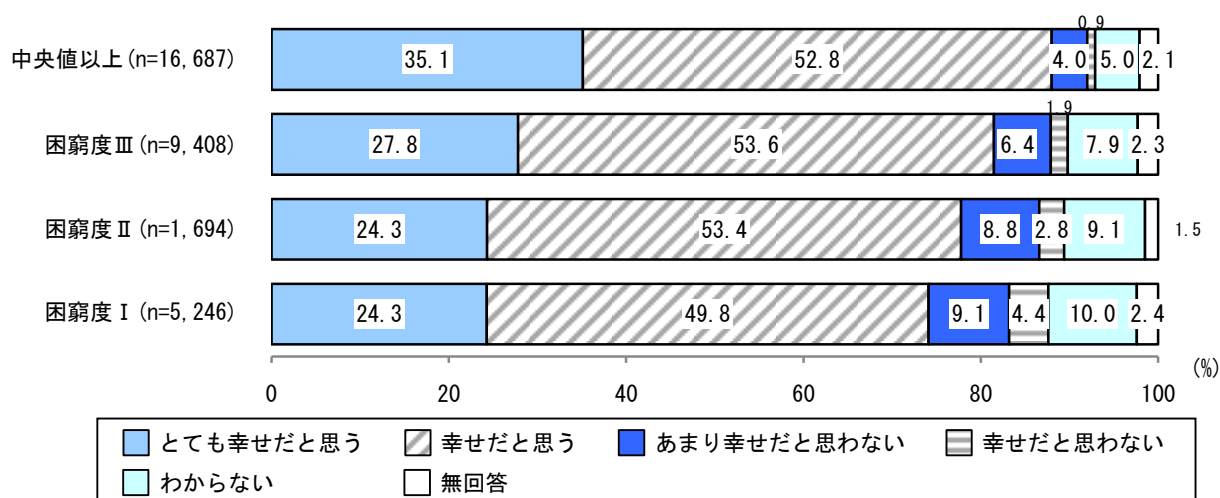


図 90. 困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）

困窮度別にストレスを発散できるものについて、ストレスが発散できるものが「ない」という回答に着目すると、困窮度Ⅱ群が36.4%と、「ない」と回答する割合が最も高くなっている。中央値以上群では0.9%で最も低く、困窮度Ⅰ群が15.2%、困窮度Ⅲ群が15.9%となっている。

困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）（保護者票問 21(4)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

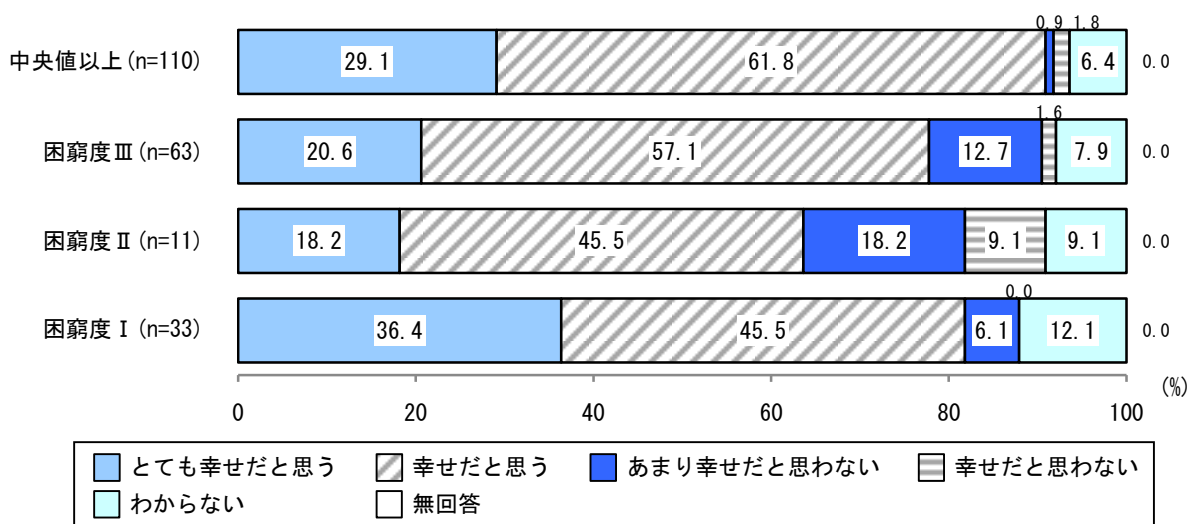


図 91. 困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）

困窮度別に幸せだと思うかを見ると、「とても幸せだと思う」と「幸せだと思う」をあわせて、なんらか『幸せと思う』と回答した割合は、困窮度Ⅱ群（63.7%）で最も低くなっている。逆に、なんらか『幸せではない』（「あまり幸せだと思わない」と「幸せだと思わない」をあわせた割合）と回答する割合は、中央値以上群で2.7%にとどまるのに対して、困窮度Ⅰ群で6.1%、困窮度Ⅲ群で14.3%、困窮度Ⅱ群で27.3%となっている。

<健康に関する考察>

まず、困窮度別に生活習慣と健康状態について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目して述べる。朝食の頻度では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「毎日またはほとんど毎日」(92.5%対87.5%)が5ポイント高くなっている。子どもの自覚症状では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「よくかゆくなる」(31.3%対23.7%)が7ポイント以上高くなっている。一方で、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「とくに気になるところはない」(40.9%対28.1%)が約13ポイント高くなっている。子どものいらいらすることでは、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「いつもそうだ」(18.8%対4.3%)が14ポイント以上高くなっている。保護者の自覚症状では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「ねむれない」(18.2%対8.2%)が10ポイント高く、「よく腰がいたくなる」(33.3%対25.5%)が7ポイント以上高くなっている。また、保護者の心の状態を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、生活を「あまり楽しんでいない」(24.2%対10.9%)が10ポイント以上高くなっている。一方で、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、ストレスを発散できるものが「ある」(43.6%対30.3%)が13ポイント以上、自分が「幸せだと思う」(61.6%対45.5%)が16ポイント高くなっている。

次に、経済的な理由による経験の該当数を見ると、経験の個数と、「元気いっぱいだ」で「いつもそうだ」の割合に明確な傾向は見られない。また経験の個数と、子どもが「よくかゆくなる」など「自分の体の状態で気になること」の各項目との割合にも明確な傾向は見られない。保護者においても、経験の個数と、「ねむれない」「よく頭がいたくなる」「不安な気持ちになる」「よくかゆくなる」「まわりが気になる」「やる気が起きない」「イライラする」「よく肩がこる」「よく腰がいたくなる」など「自分の体の状態で気になること」との割合には明確な傾向は見られない。これらの結果から、経済的に困難な世帯では経済的な理由による経験数とは関係なく、子どものメンタルヘルスに影響が出ている可能性がある。

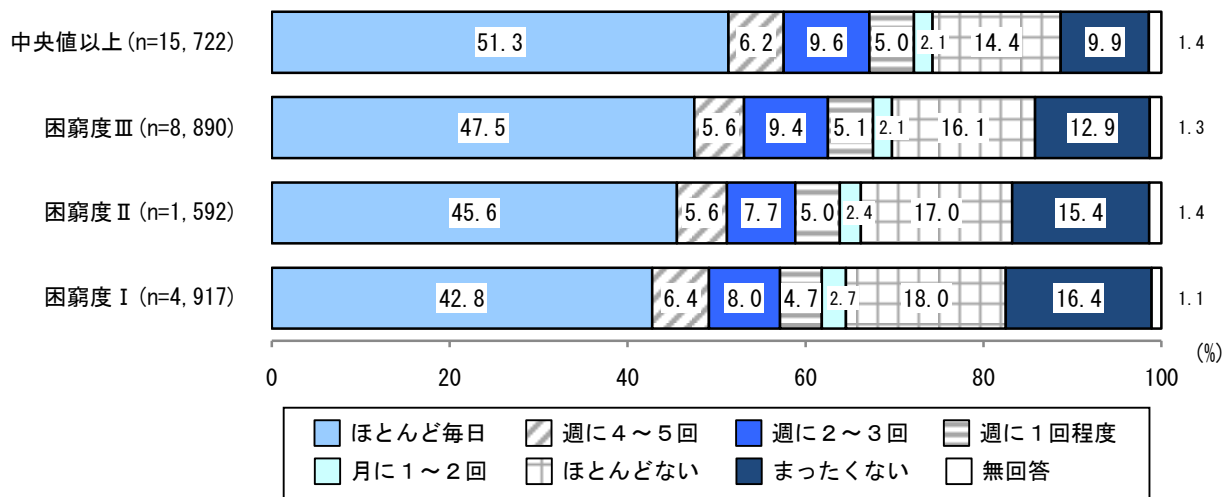
続いて、保護者の就業状況別の生活習慣や健康状態を見てみる。親の就業状況別の朝食の頻度では、「正規」「自営」「非正規」群において、「毎日またはほとんど毎日」朝食を摂っている割合が高く(92.1%、93.3%、87.5%)、「無業」群では80%未満となっている。この結果から、保護者が雇用形態に関わらず何らかの職業に就いている世帯では、きちんと朝食を摂れていることがうかがえる。

最後に、食事習慣別の親子関係や健康状態に着目する。朝食の頻度別に見ると、朝食を「毎日またはほとんど毎日」食べている群では、「食べない」群と比べ、子どもを「とても信頼している」(59.6%対33.3%)割合が約26ポイント、子どもと会話を「よくする」(66.1%対33.3%)割合が約2倍高くなっている。子どもの自己効力感では、朝食を「毎日またはほとんど毎日」食べている群では、「食べない」群と比べ3点以上高くなっており、また学校が休みの日の昼食を「必ず食べる」群では他の群に比べ高い傾向がある。これらの結果から、ほぼ毎日規則正しく朝食・昼食を摂ることは、保護者と子どもの関係をよりよくするとともに、子どもの自己効力感を高める可能性が示唆された。

3-4. 家庭生活、学習

困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか（子ども票問8①）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

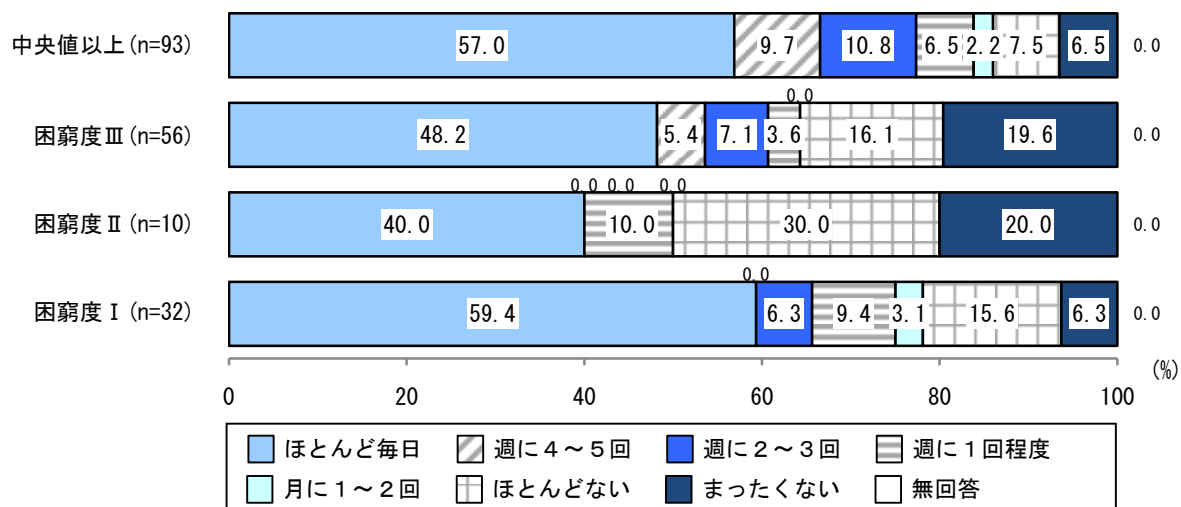
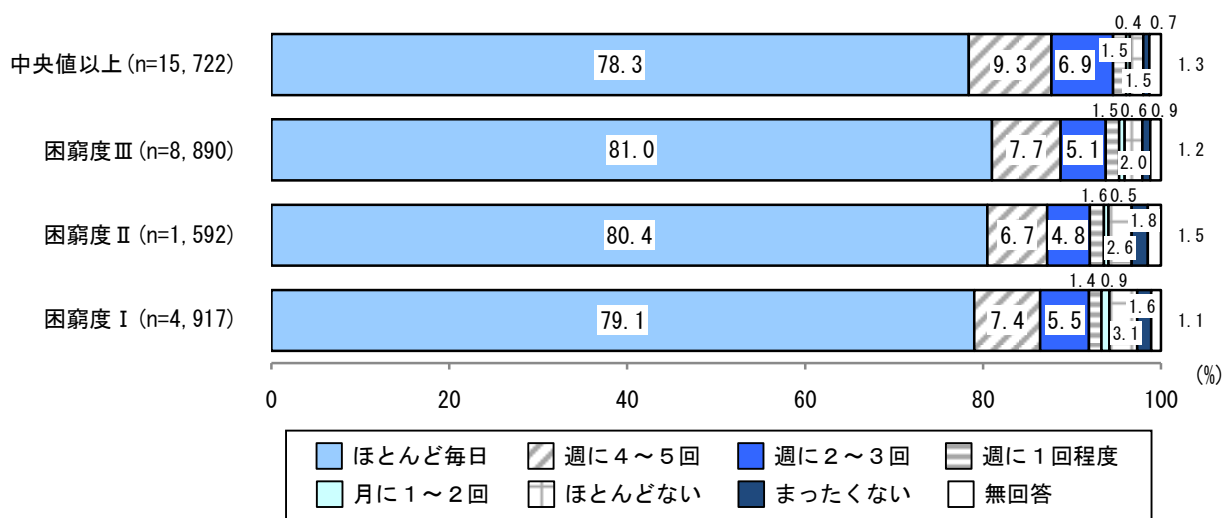


図 92. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は困窮度Ⅰ群が59.4%で最も高く、次いで中央値以上群が57.0%となっている。一方、「まったくない」の割合は困窮度Ⅱ群が20.0%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか（子ども票問8②）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

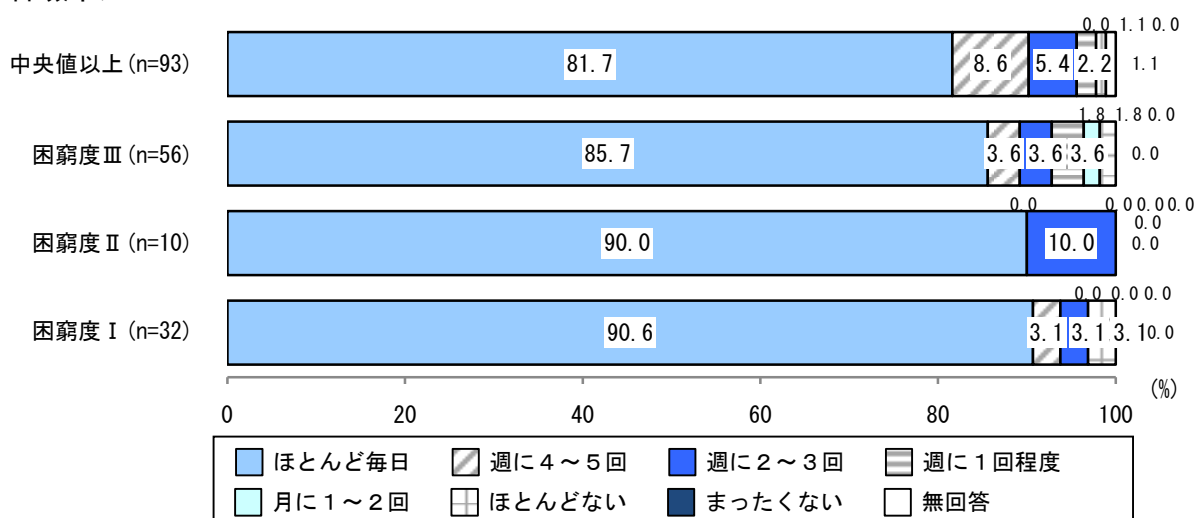
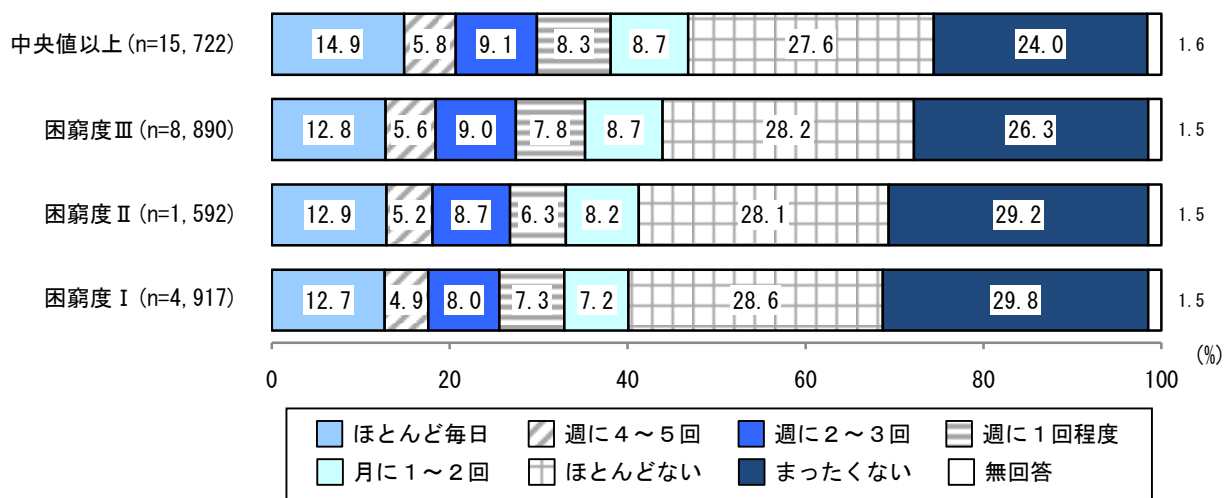


図 93. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、困窮度が高まるにつれて、「ほとんど毎日」と回答する割合が高くなり、困窮度Ⅰ群では90.6%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか（子ども票問8⑤）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

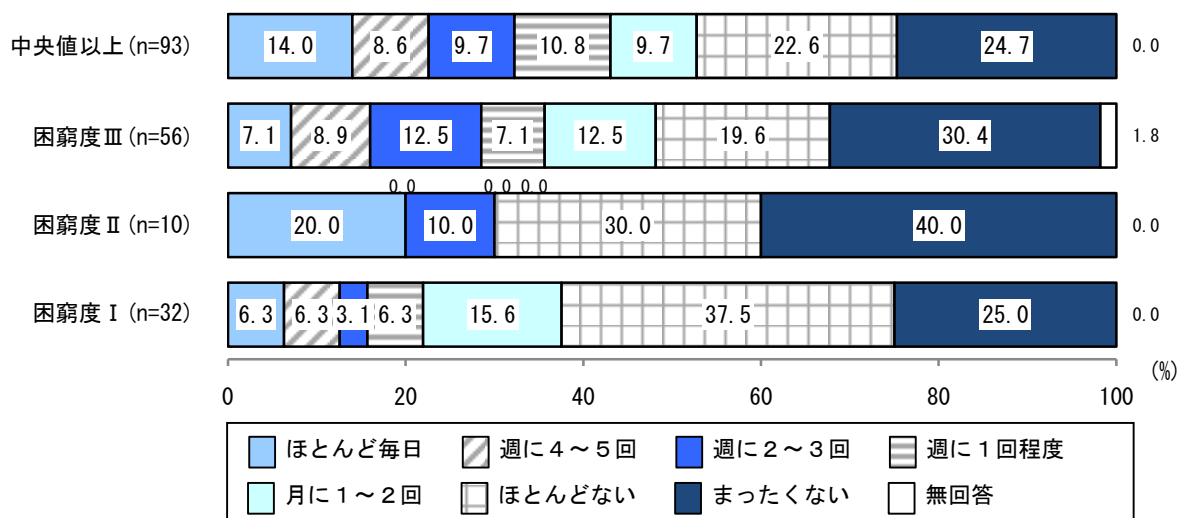
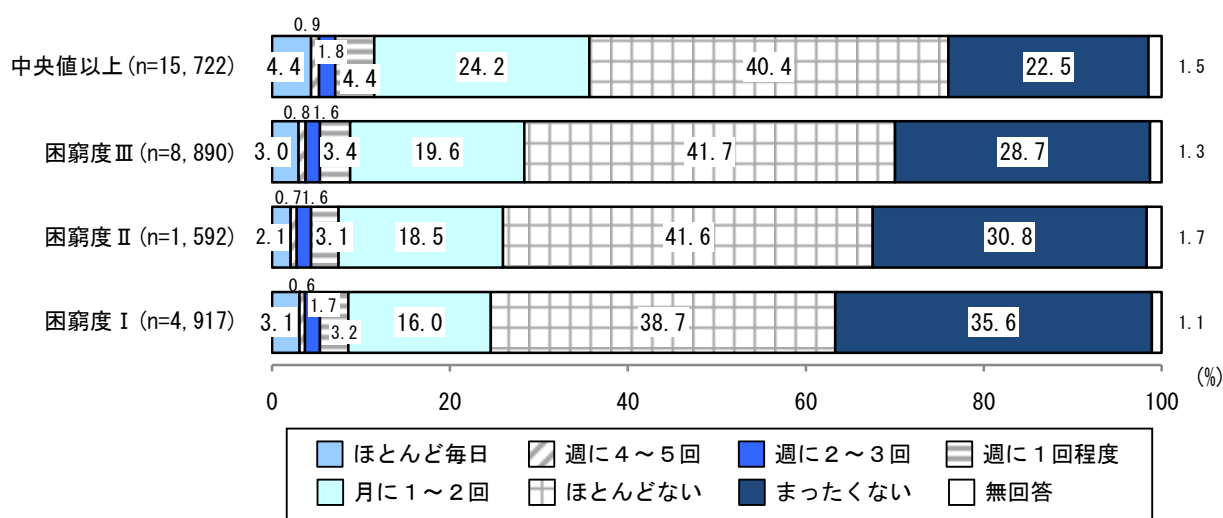


図 94. 困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、困窮度Ⅱ群では、「まったくない」と回答した人は40.0%で最も高くなっている。一方、「ほとんど毎日」は困窮度Ⅱ群が20.0%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか（子ども票問8⑨）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

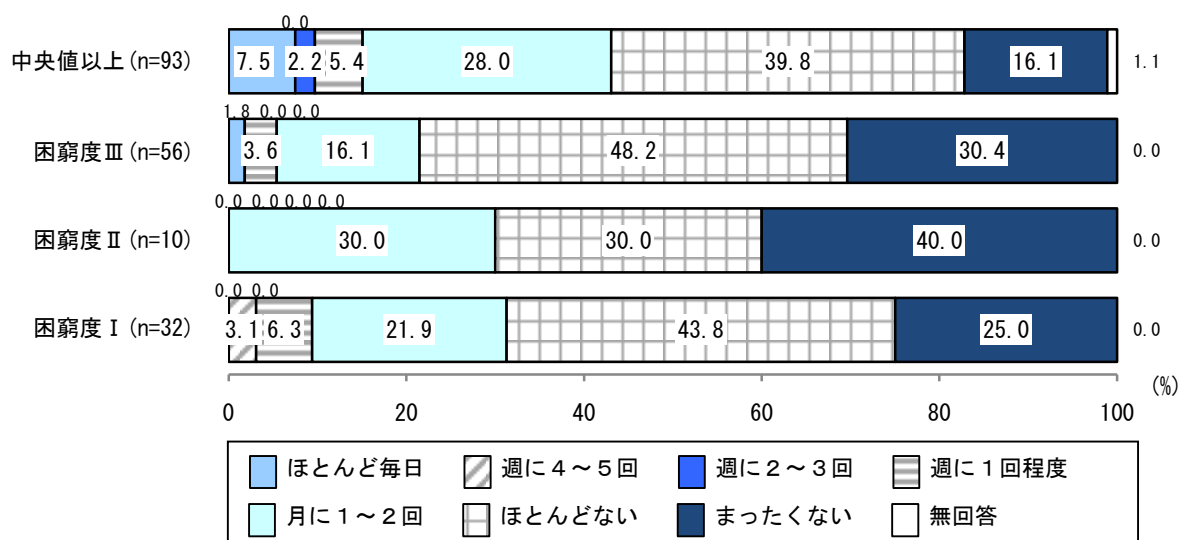
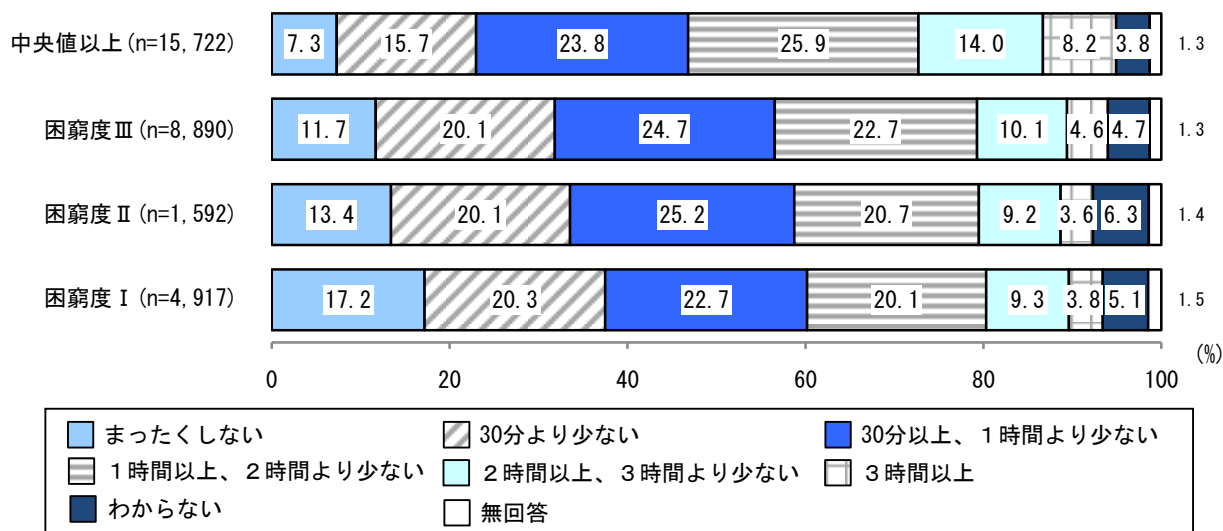


図 95. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

困窮度別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「まったくない」と回答した人は困窮度Ⅱ群が40.0%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の 1 日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）
（子ども票問 13①）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

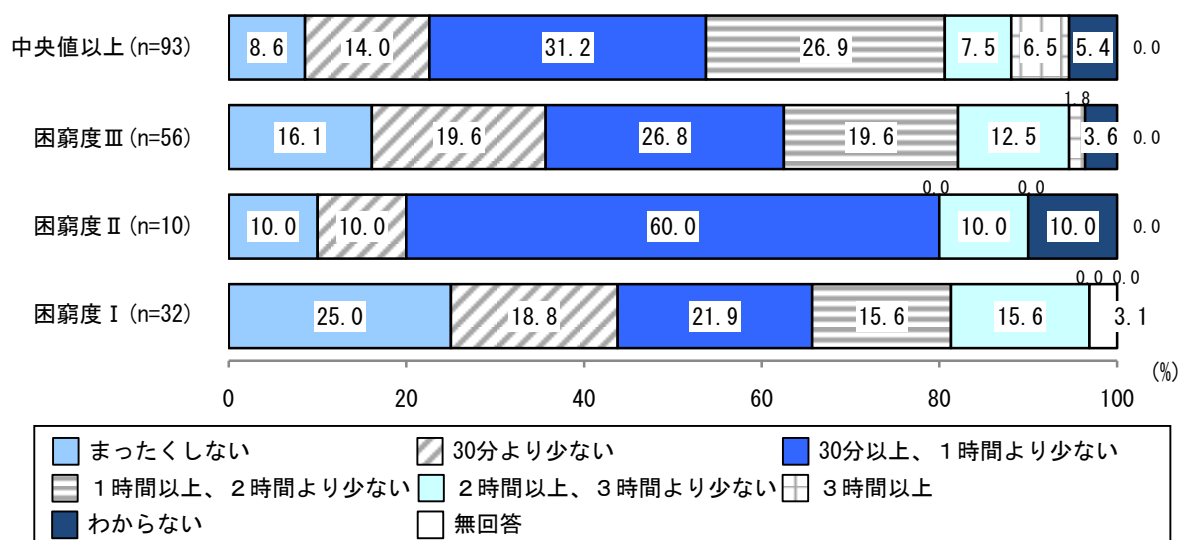
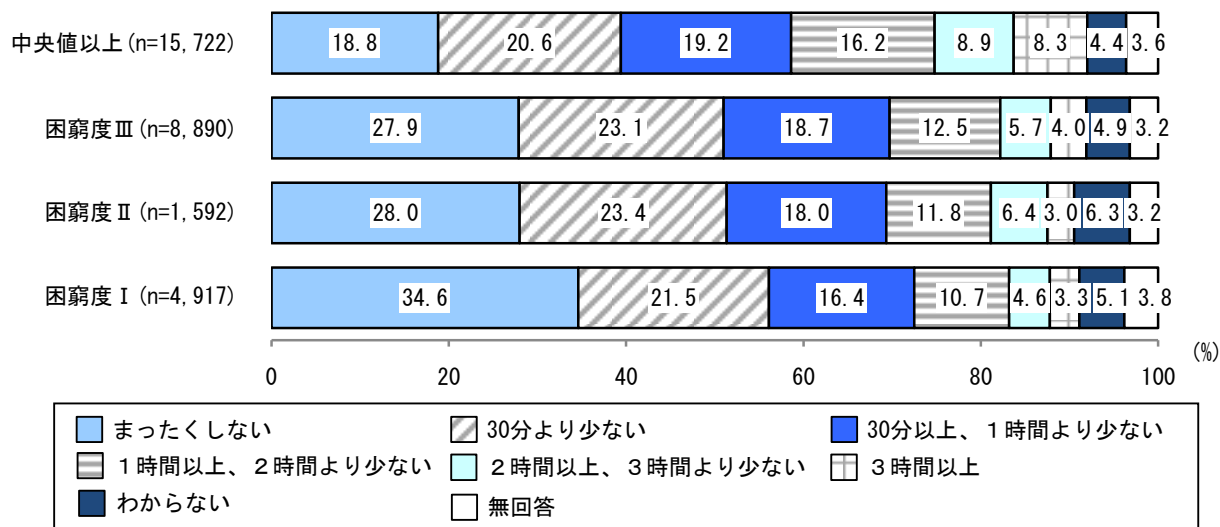


図 96. 困窮度別に見た、授業時間以外の 1 日あたりの勉強時間（学校がある日）

困窮度別に授業以外の勉強時間を見ると、学校のある日では、「まったくしない」と回答した人の割合は困窮度Ⅰ群が25.0%で最も高くなっている。「30分より少ない」と回答した人は困窮度Ⅲ群が19.6%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の１日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）
（子ども票問 13②）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

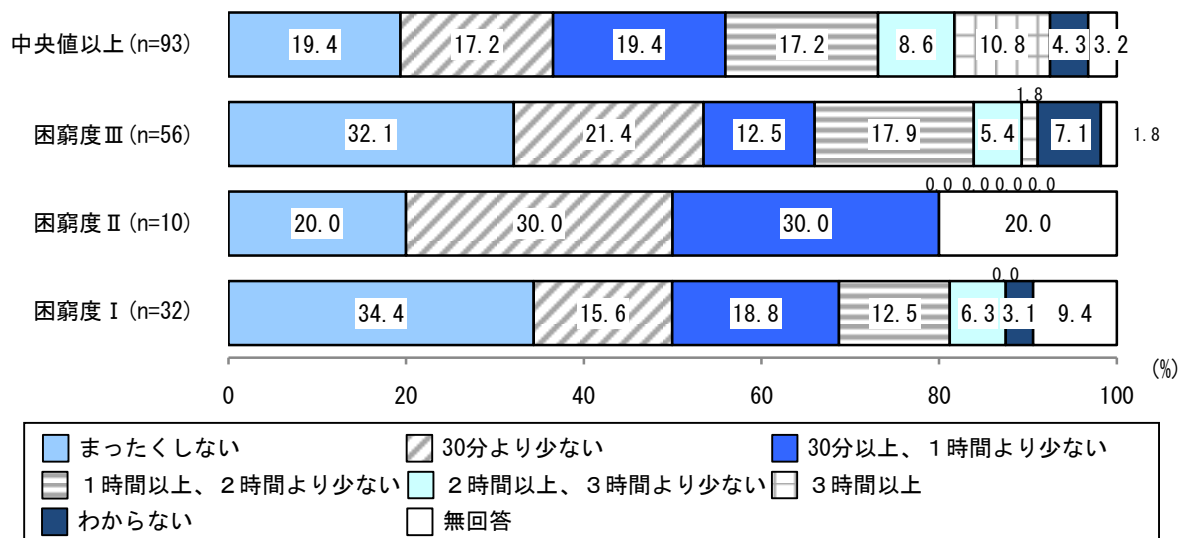
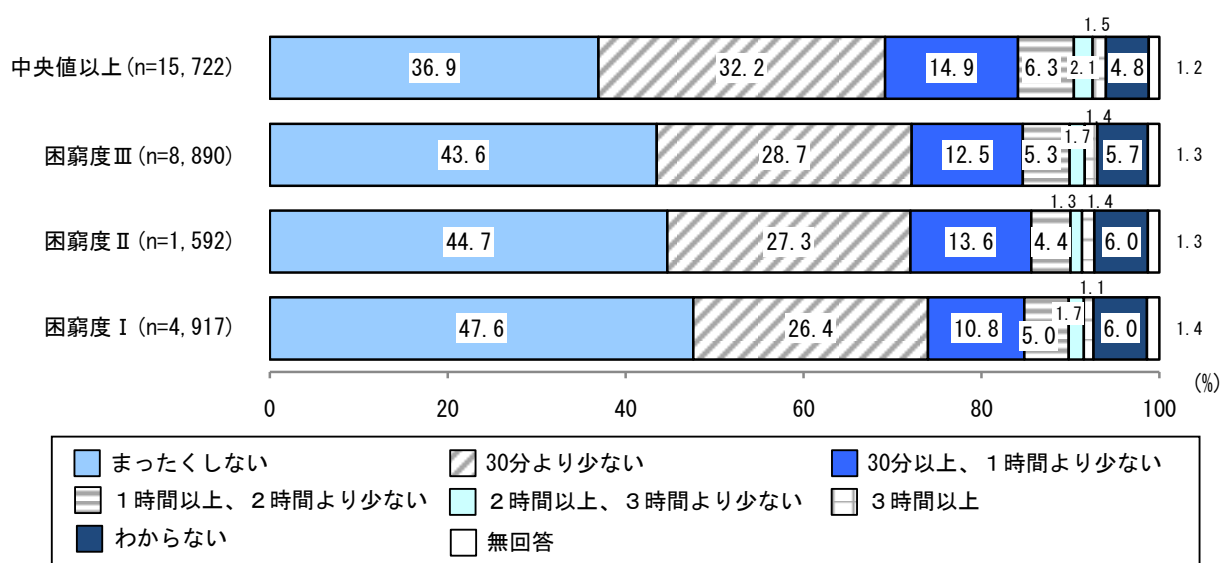


図 97. 困窮度別に見た、授業時間以外の１日あたりの勉強時間（学校がない日）

困窮度別に授業以外の勉強時間を見ると、学校がない日では、困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人は34.4%と最も高く、次いで困窮度Ⅲ群が32.1%となっている。

困窮度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問 15）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

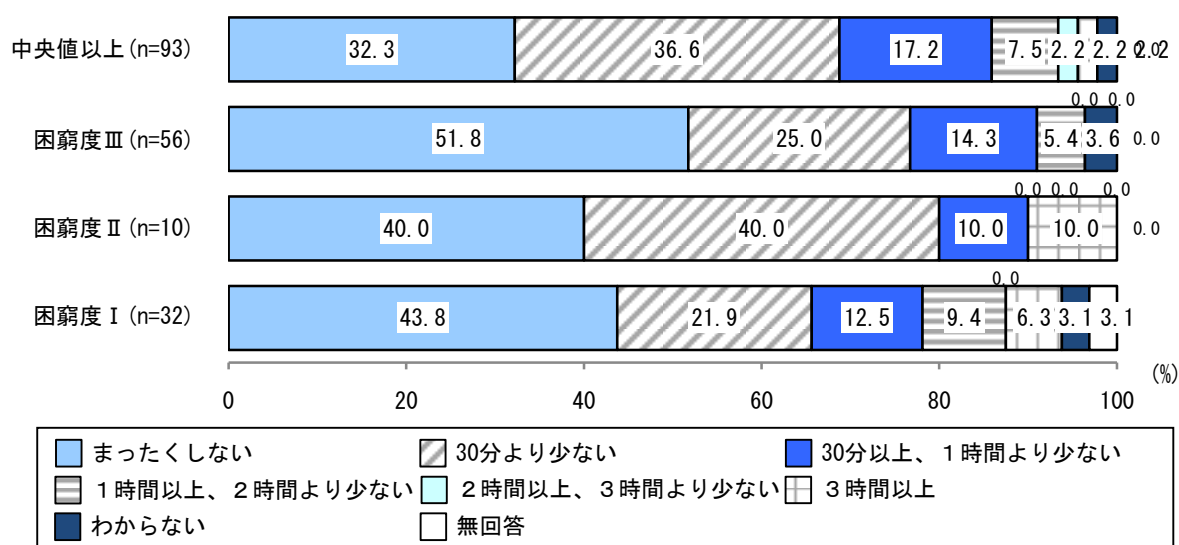
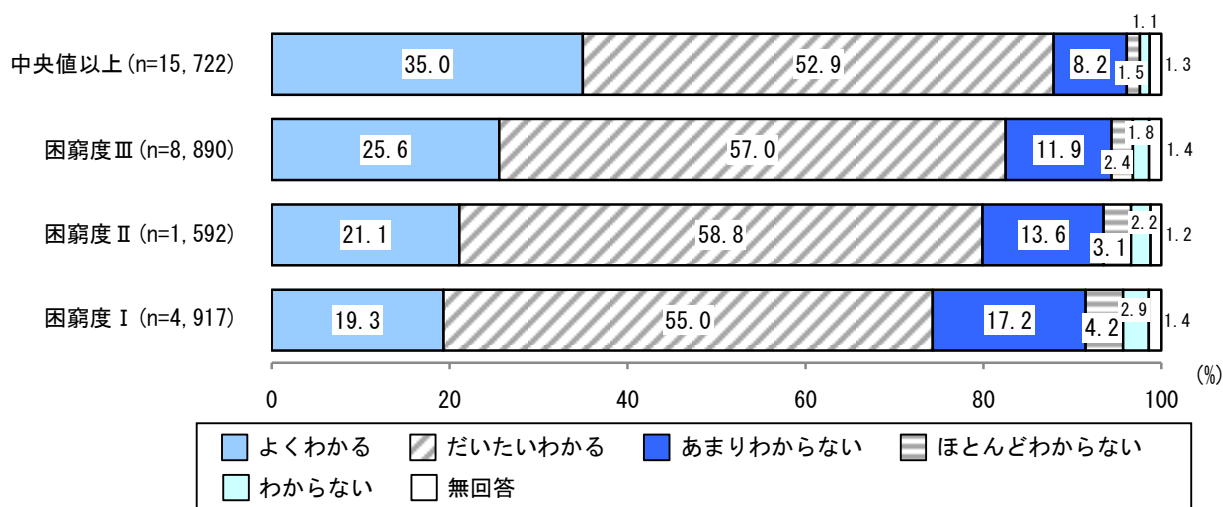


図 98. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間

困窮度別に授業以外の読書時間を見ると、困窮度Ⅲ群では、「まったくしない」と回答した人は51.8%、困窮度Ⅰ群では43.8%となっている。

困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問 14(1)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

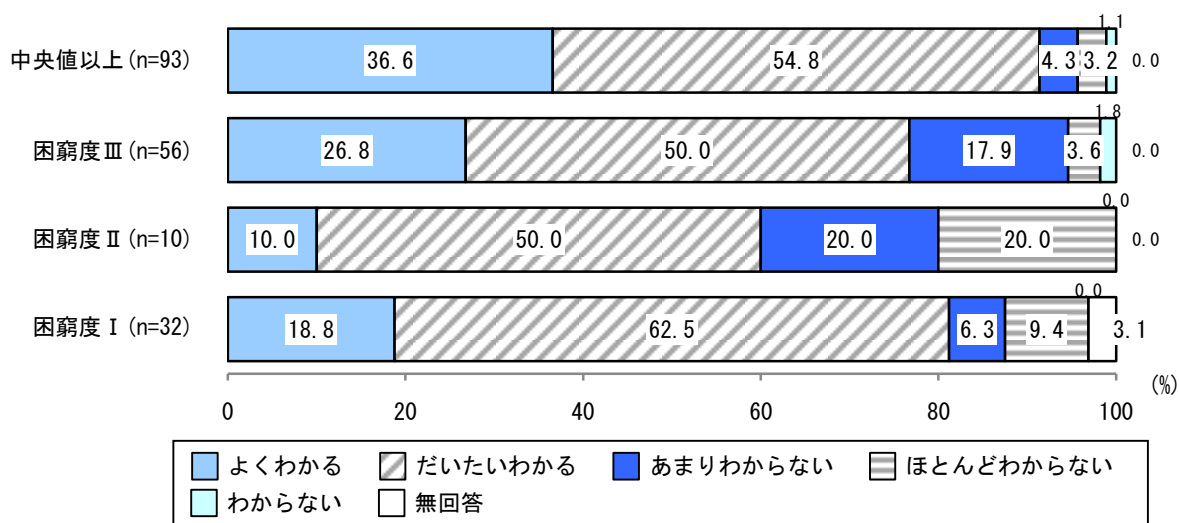


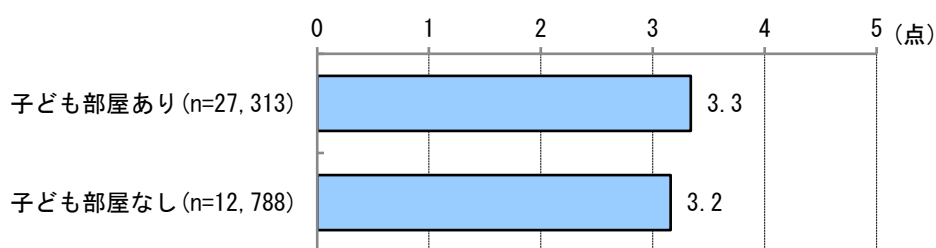
図 99. 困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

困窮度別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、「よくわかる」と回答した人の割合は困窮度Ⅱ群が10.0%で最も低くなっている。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ①学校がある日
(月～金曜日)(子ども票問21×子ども票問13①)

※勉強時間について、「1. まったくしない」「2. 30分より少ない」「3. 30分以上、1時間より少ない」「4. 1時間以上、2時間より少ない」「5. 2時間以上、3時間より少ない」「6. 3時間以上」の6つの時間枠からひとつを選択させた(「7. わからない」は除く)。項目番号を勉強時間の得点とみなし、得点が高いほど、勉強時間が長いことを表す。

<大阪府内全体>



<四條畷市>

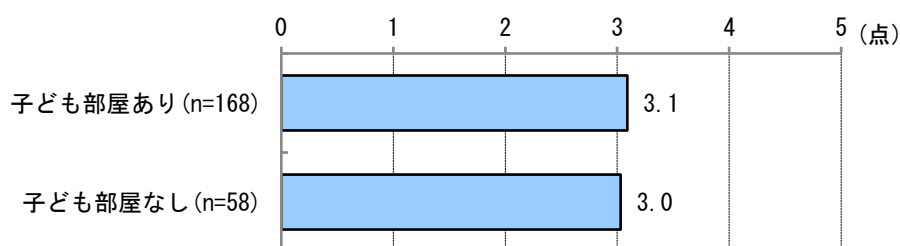
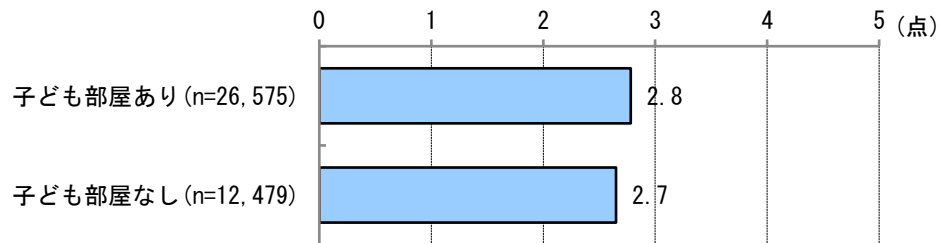


図 100. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がある日)

子ども部屋の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、子ども部屋がある子どもの方が、勉強時間が長い。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ②学校がない日
(土・日曜日・祝日)(子ども票問21×子ども票問13②)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

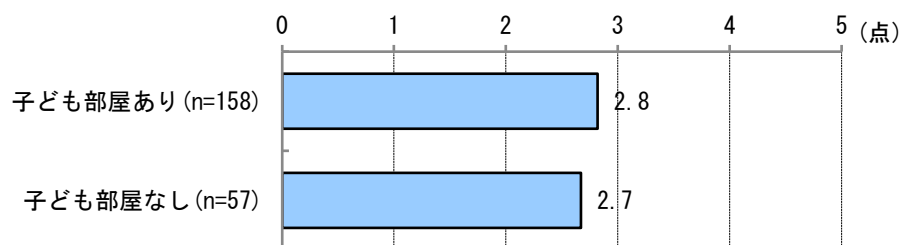
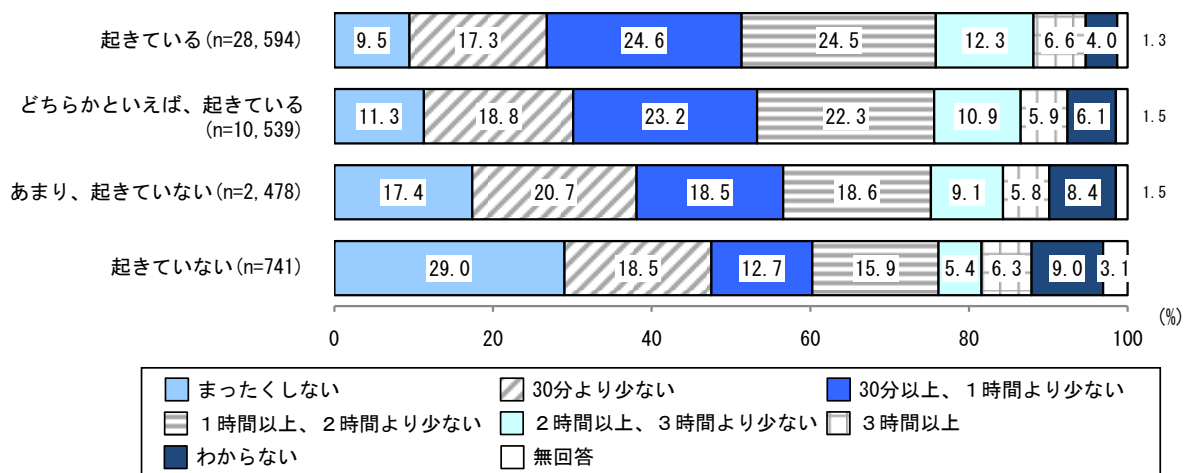


図 101. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がない日)

子ども部屋の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、子ども部屋がある子どもの方が、勉強時間が長い。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問2×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

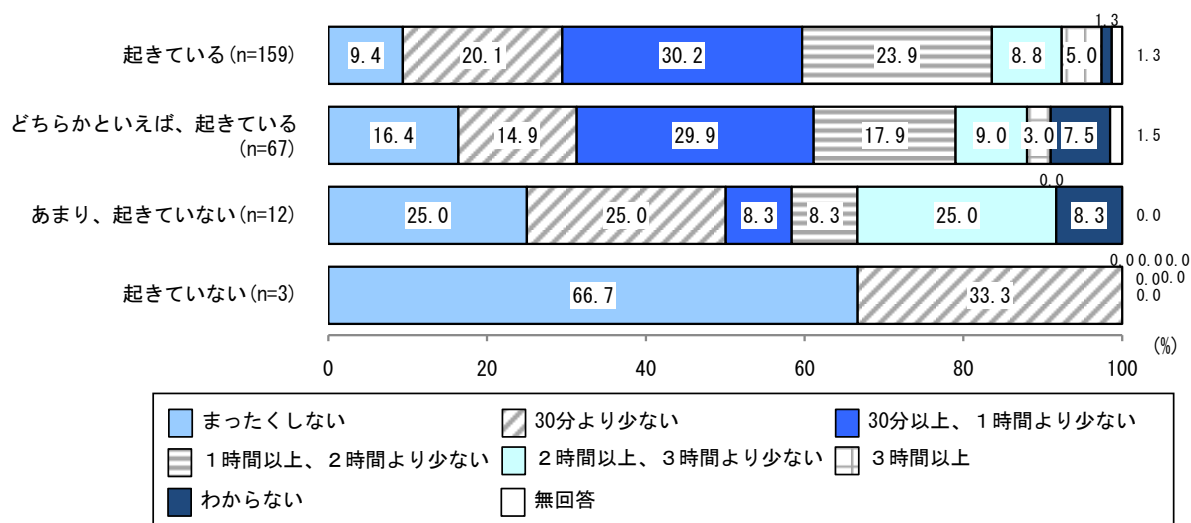
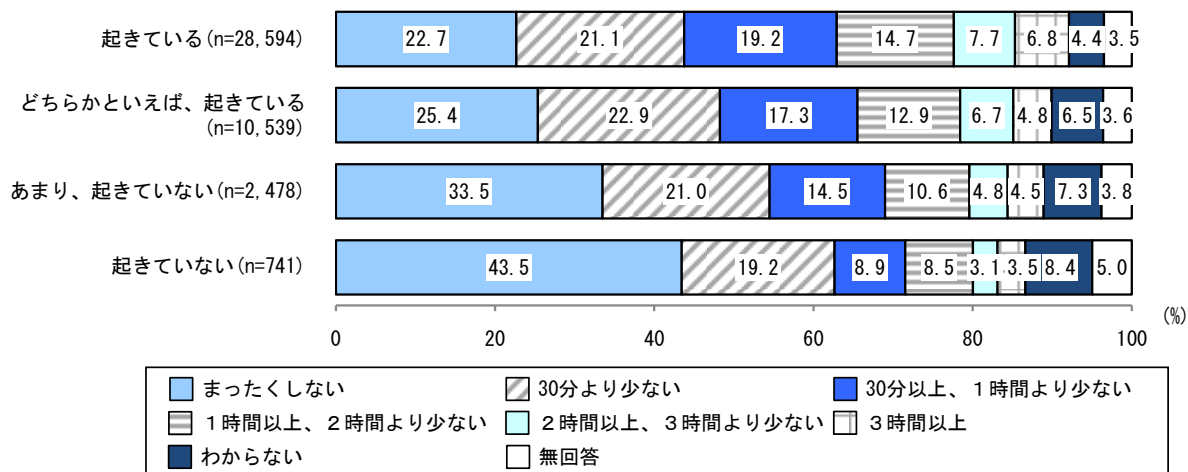


図 102. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

起床時間の規則性別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど「まったくしない」の回答の割合が高く、起きていない人で66.7%と最も高くなっている。「30分より少ない」の割合は起きていない人が33.3%と最も高くなっている。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問2×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

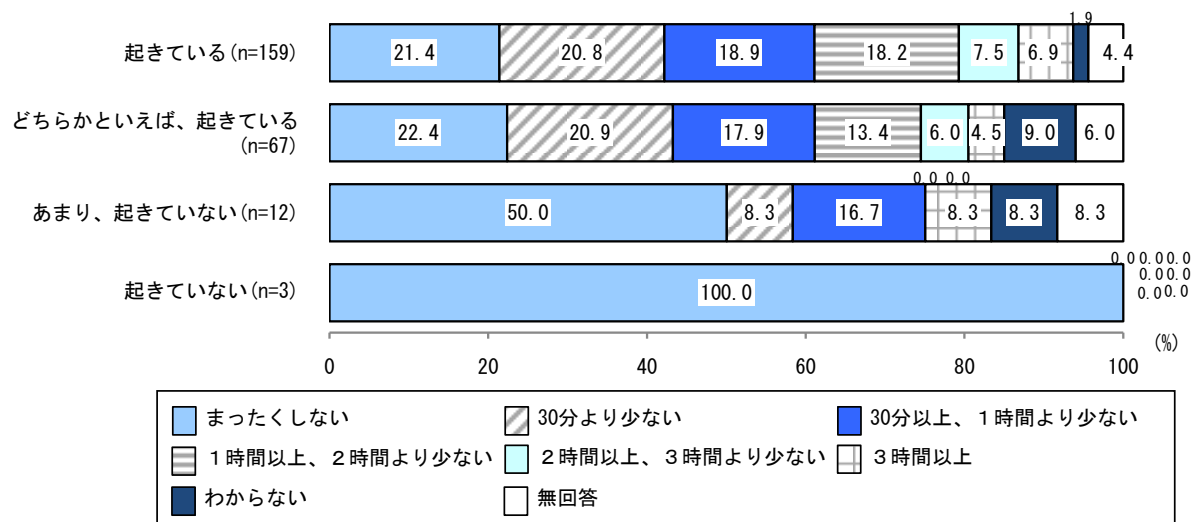
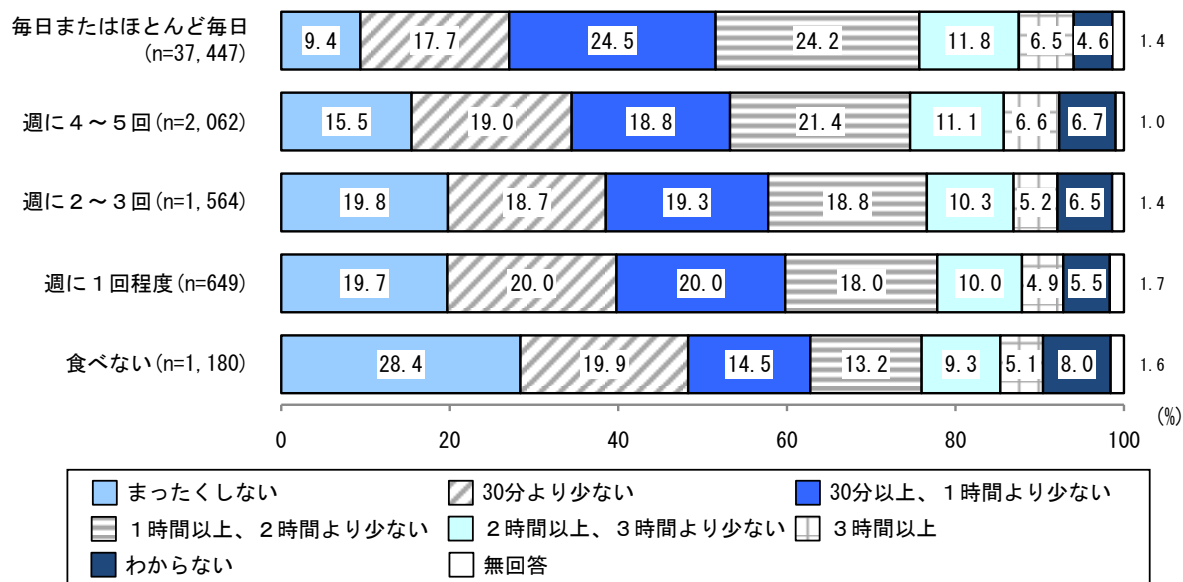


図 103. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

起床時間の規則性別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど「まったくしない」の回答の割合が高く、起きていない人で100.0%と最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）
（子ども票問4(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

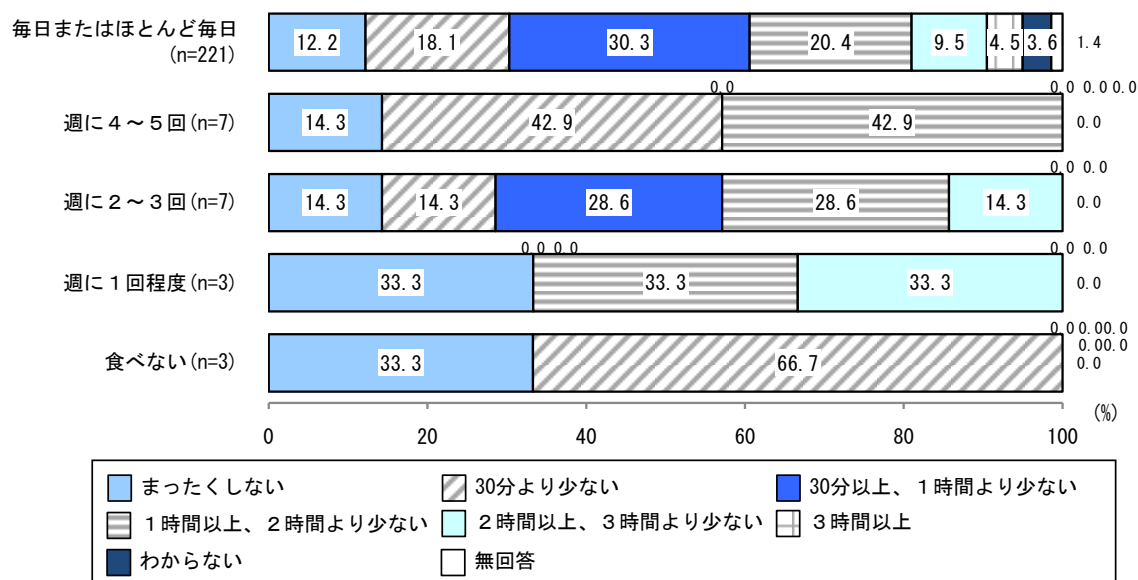
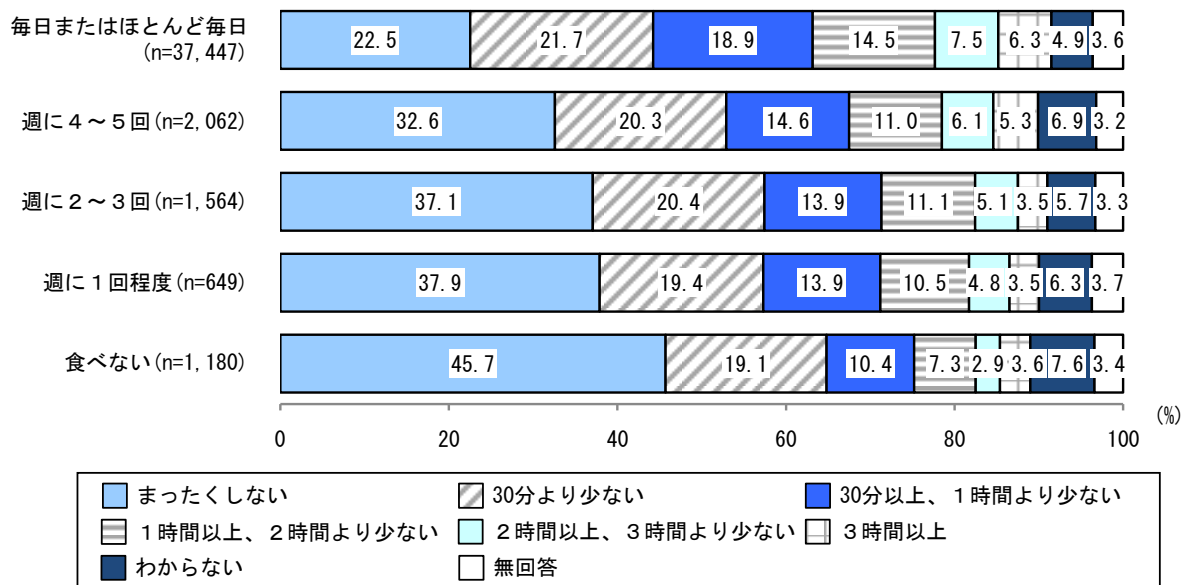


図 104. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

朝食の頻度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、毎日またはほとんど毎日食べる人は、「30分以上、1時間より少ない」と回答した割合が30.3%で最も高くなっている。一方で、朝食を週に1回程度食べる人と食べない人では、「まったくしない」と回答した割合が33.3%と最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問4(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

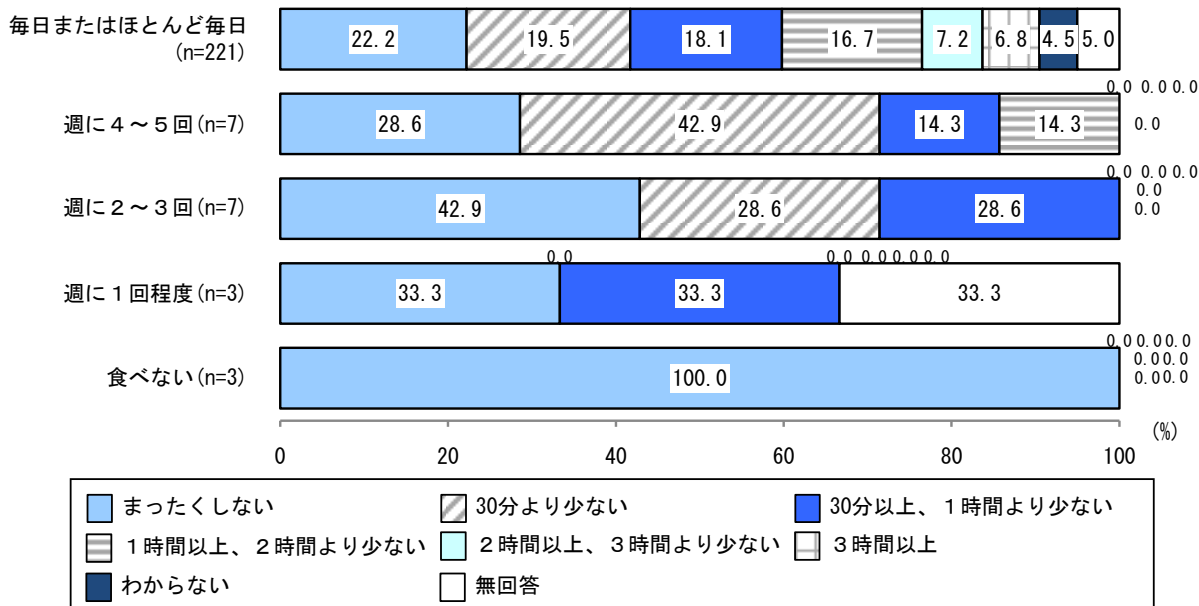
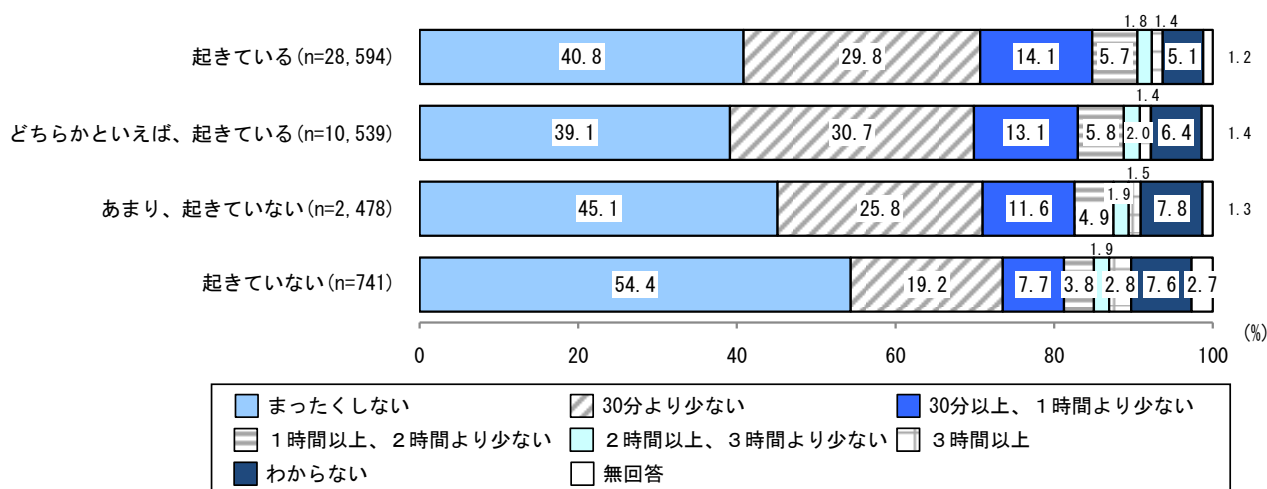


図 105. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

朝食の頻度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、朝食を週に4～5回食べている人は、「30分より少ない」と回答した割合が42.9%で最も高くなっている。一方で、朝食を食べない人は、「まったくしない」と回答した割合が100.0%で最も高くなっている。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問2×子ども票問15）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

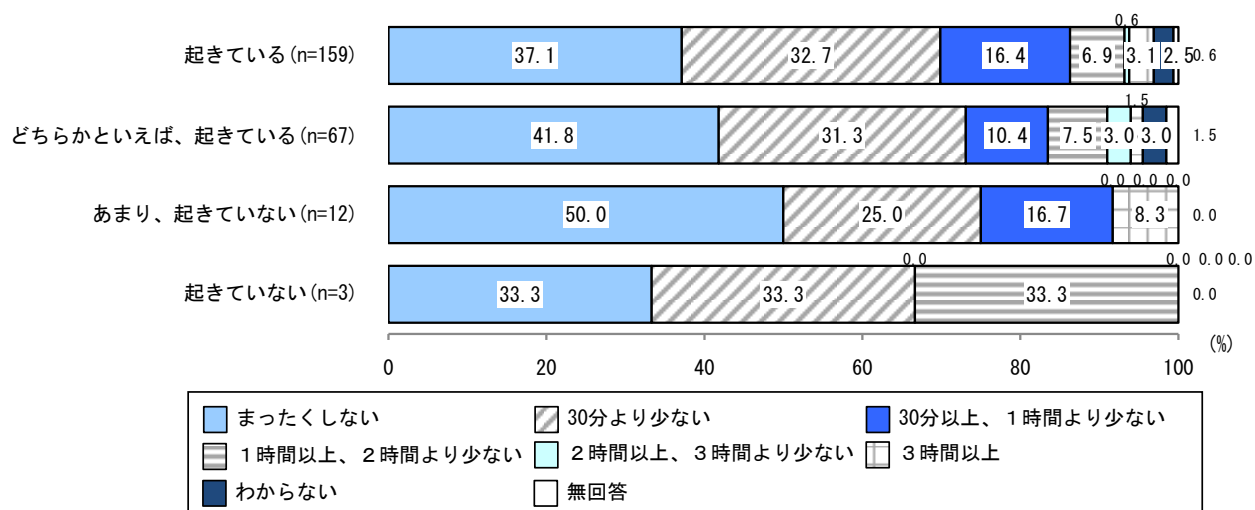
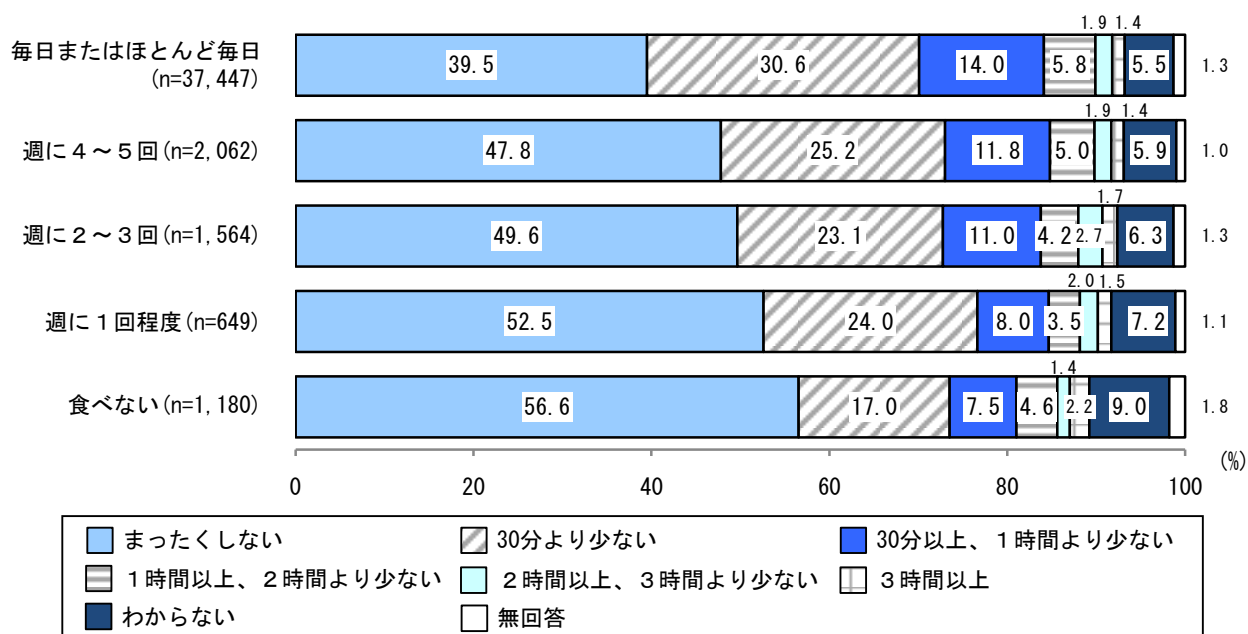


図 106. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間

起床時間の規則性別に授業以外の読書時間を見ると、「あまり、起きていない」人では、「まったくしない」と回答した人は50.0%となっている。

朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問4(1)×子ども票問15)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

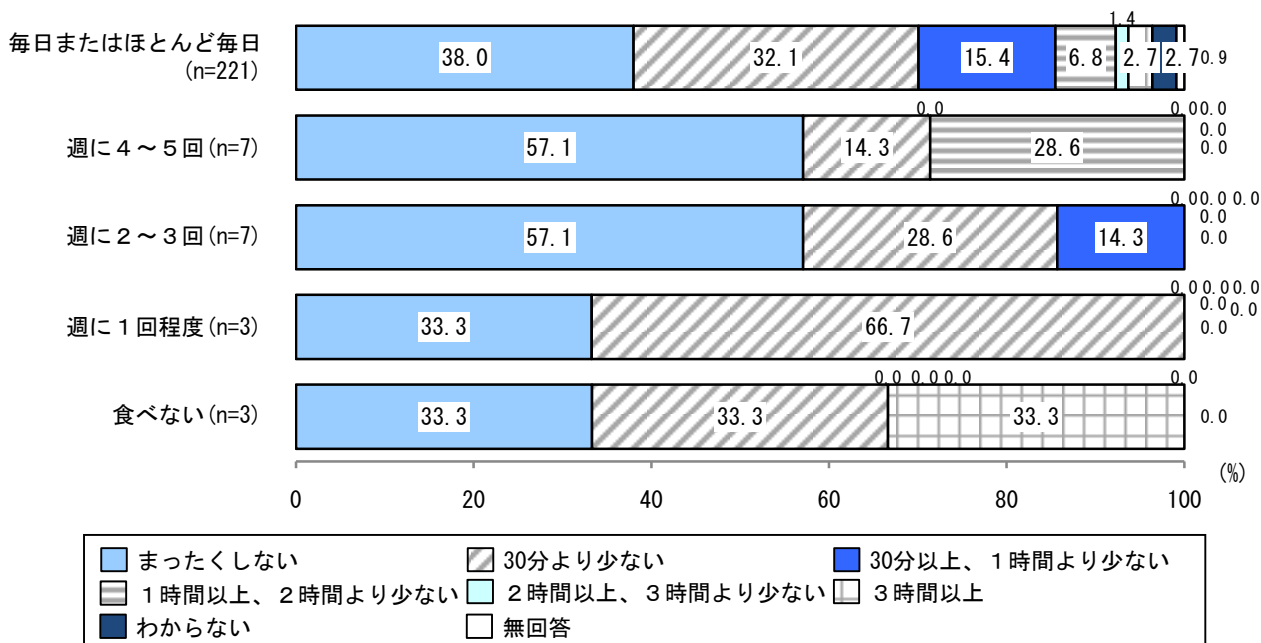
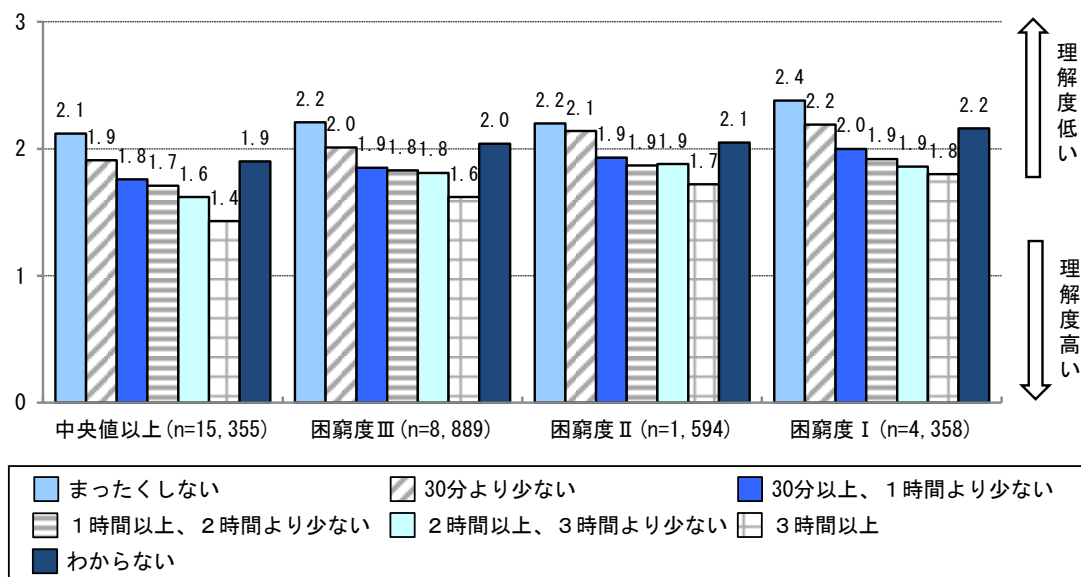


図 107. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間

朝食の頻度別に授業以外の読書時間を見ると、毎日またはほとんど毎日食べる人は「30分以上、1時間より少ない」と回答した割合が15.4%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連
（子ども票問14(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

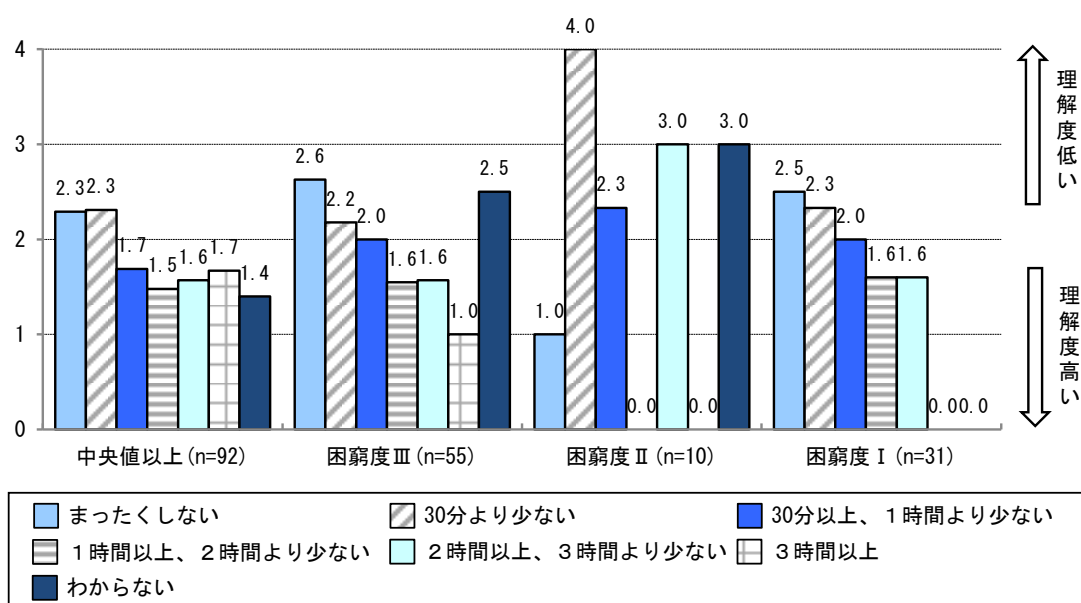
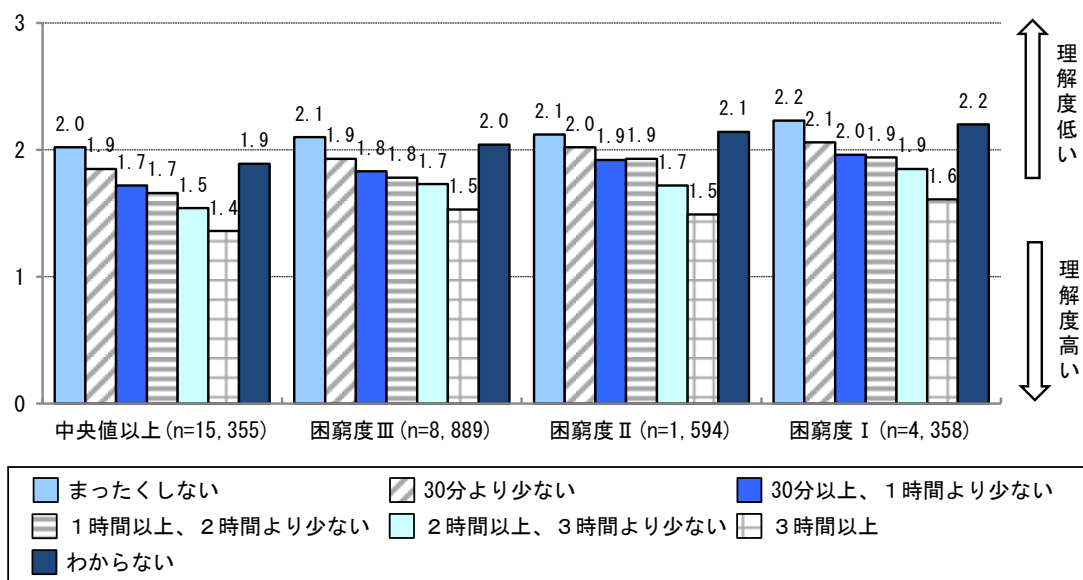


図 108. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ると、中央値以上群、困窮度Ⅲ群、困窮度Ⅰ群の子どもは、勉強時間が長くなるほど、学習理解度が高まるが、困窮度Ⅱ群の子どもでは、学習時間と学習理解度が関連しない。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連
（子ども票問14(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

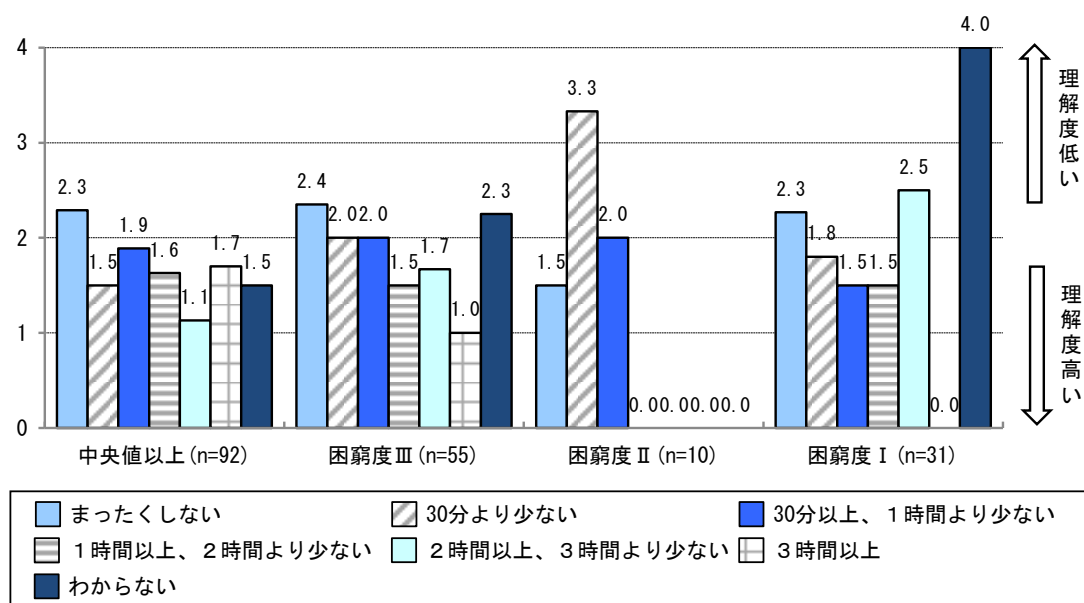
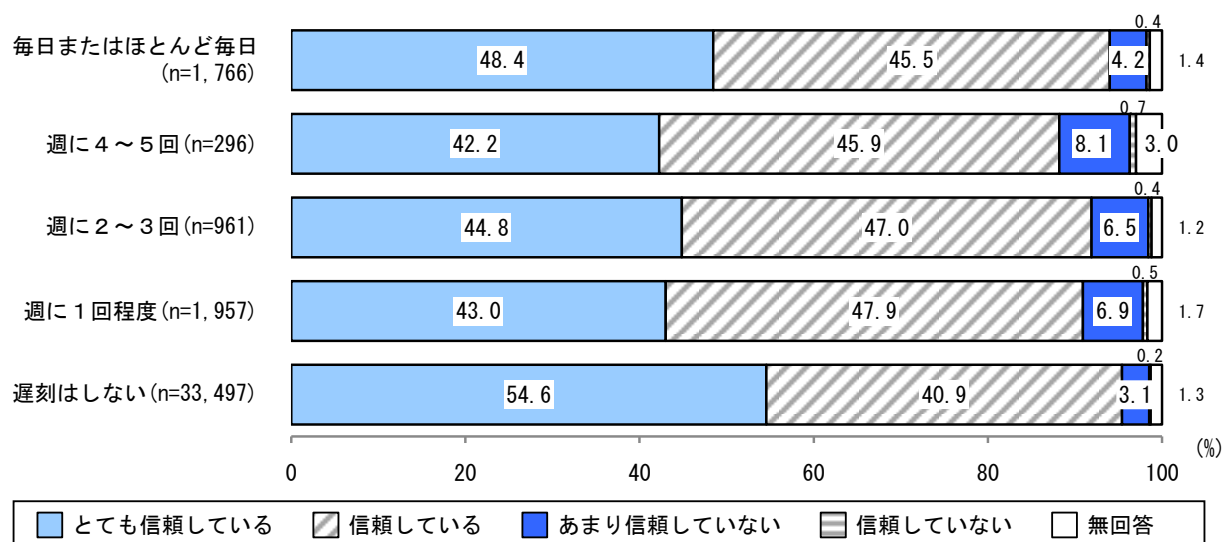


図 109. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ても、学習時間と学習理解度の関連はみられない。

学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問 7 × 保護者票問 13(1)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

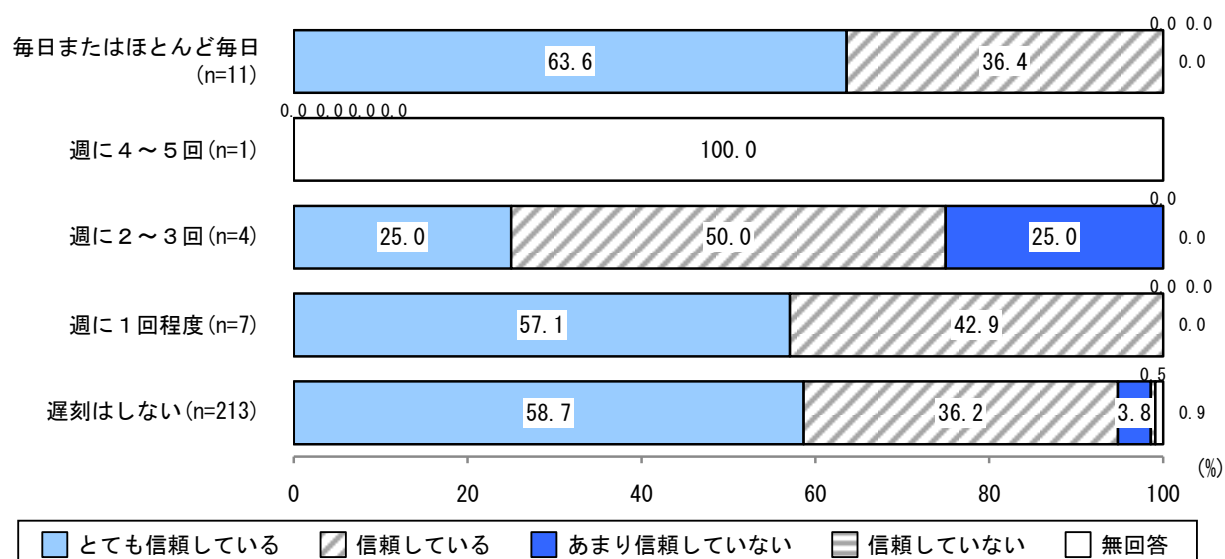
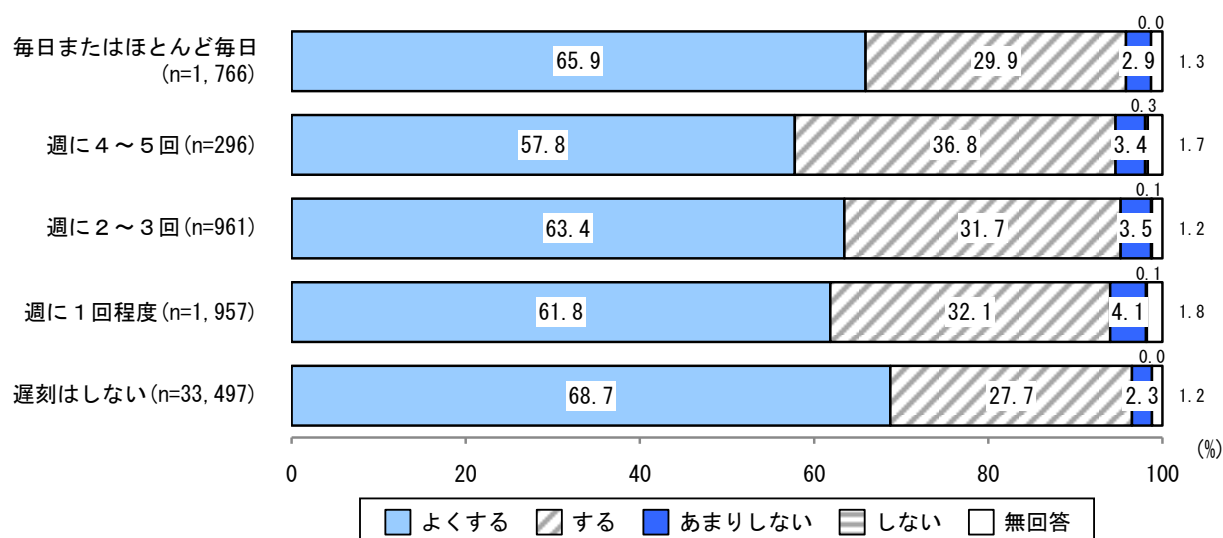


図 110. 学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度

学校への遅刻別に子どもへの信頼度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」の子どもにおいては、保護者は「とても信頼している」割合が高く63.6%となっている。「週に 2 ~ 3 回」の子どもにおいては、保護者は「あまり信頼していない」割合が高く25.0%となっている。

学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問 7 × 保護者票問 13(2)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

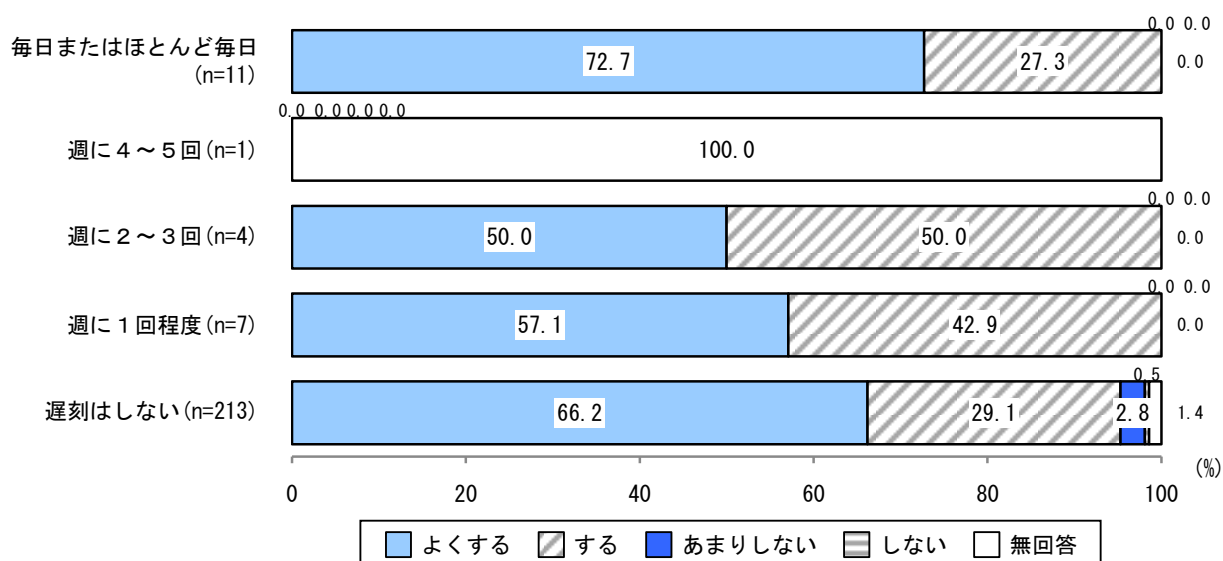
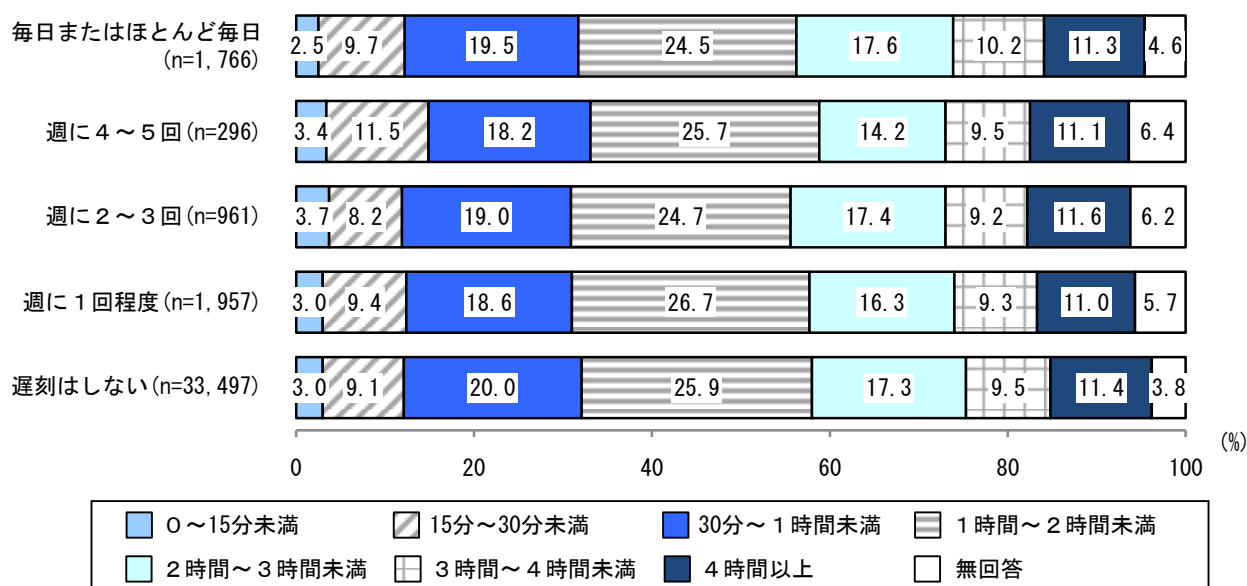


図 111. 学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度

学校への遅刻別に子どもとの会話頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」の子どもにおいては、会話を「よくする」割合が高く72.7%となっている。

学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

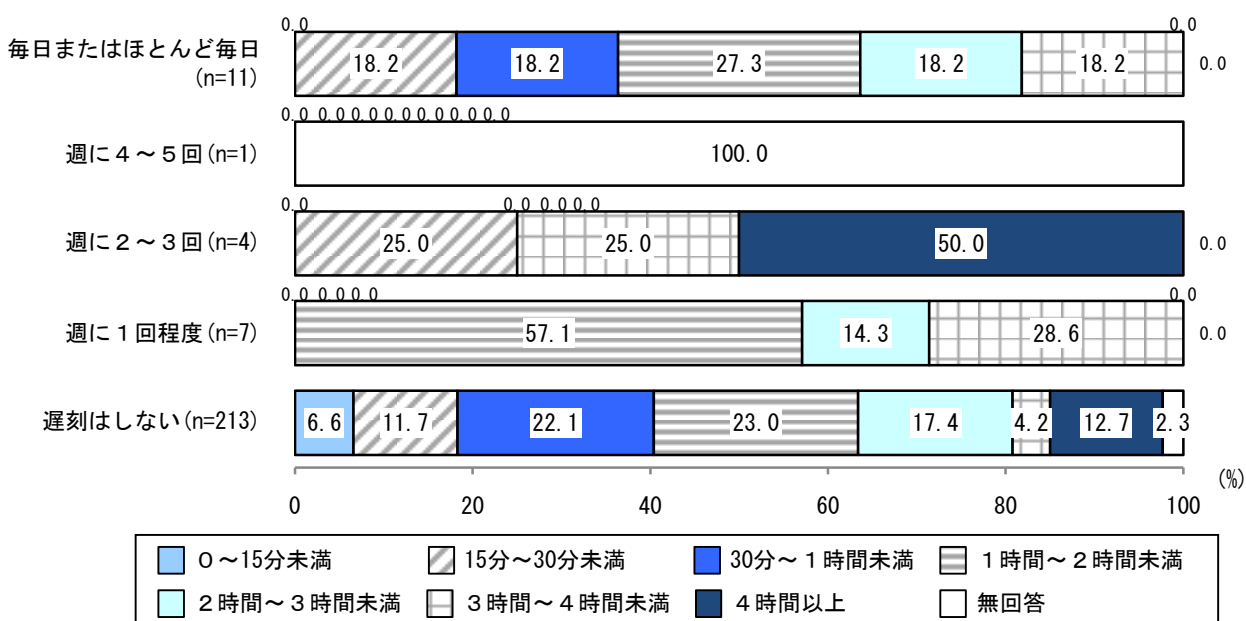
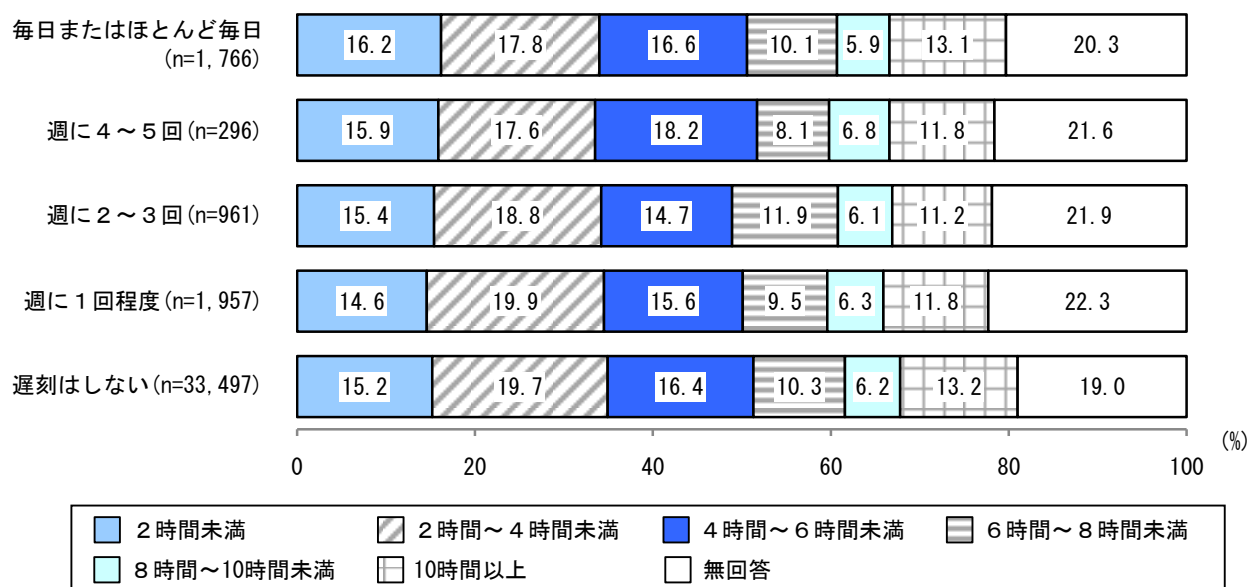


図 112. 学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」の子どもにおいては、「2時間～3時間」と回答した人の割合が18.2%で最も高くなっている。「遅刻はしない」子どもでは「0～15分未満」と回答した人の割合が6.6%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

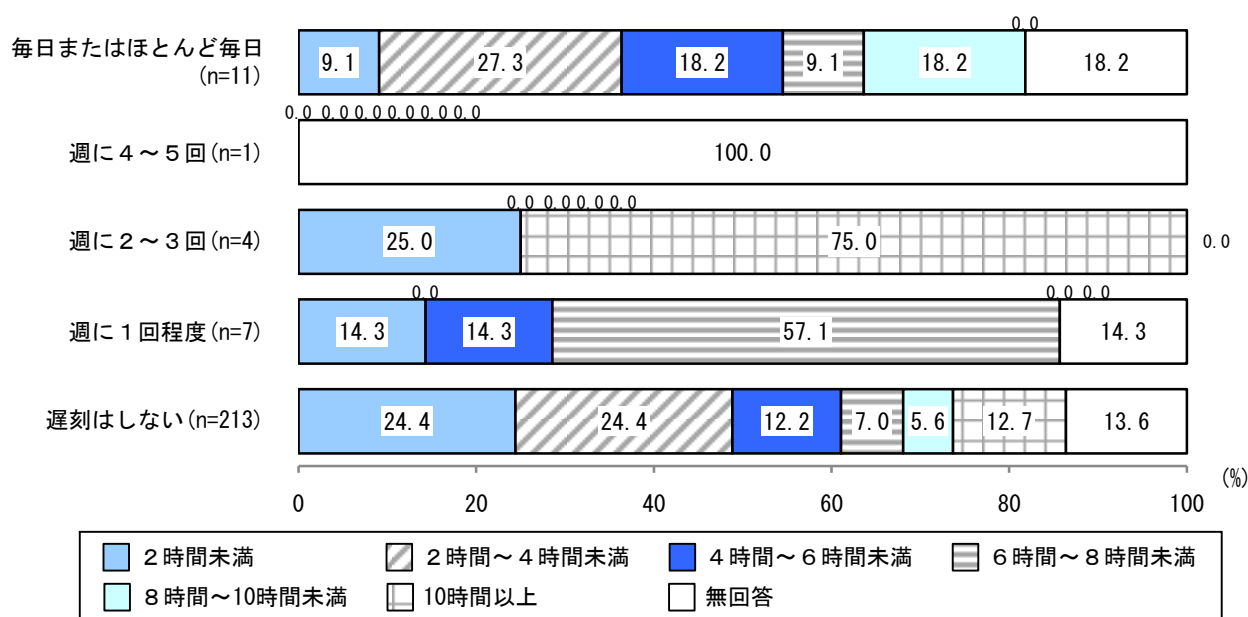
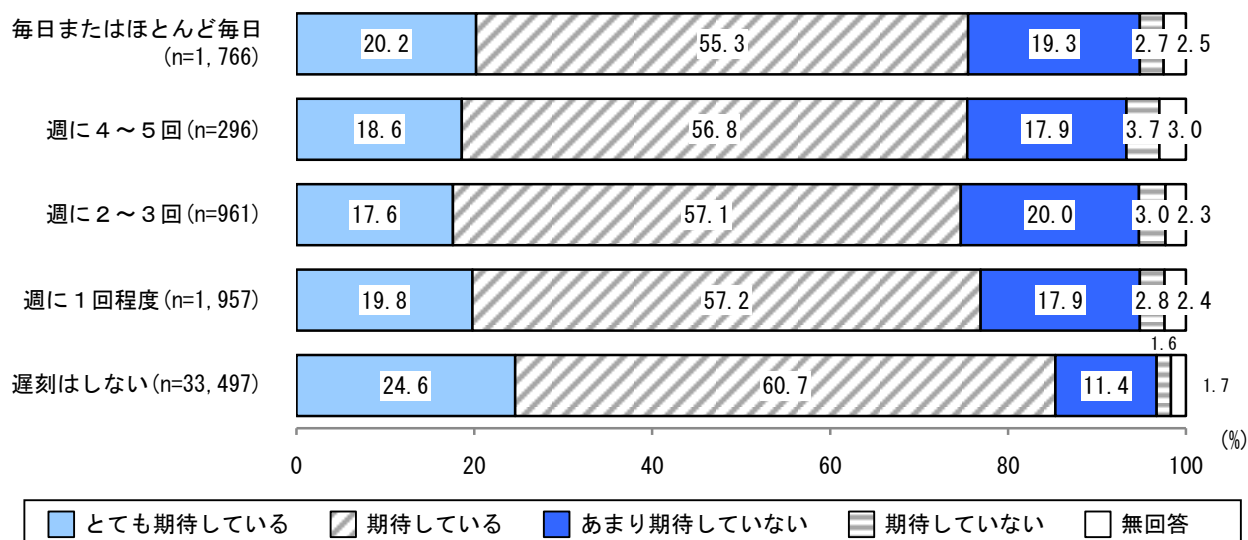


図 113. 学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」の子どもにおいては、「8時間～10時間未満」と回答した人の割合が18.2%で最も高くなっている。「週に2～3回」、「遅刻はしない」の子どもにおいては、「2時間未満」と回答した人の割合が、それぞれ25.0%、24.4%で高くなっている。

学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問 7 × 保護者票問 13(4)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

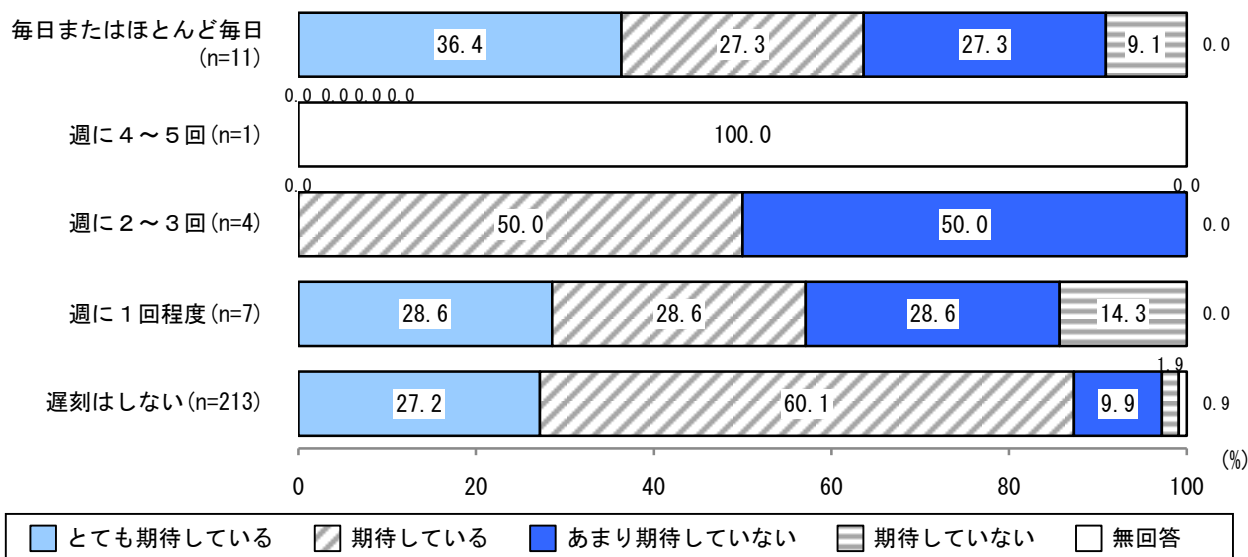
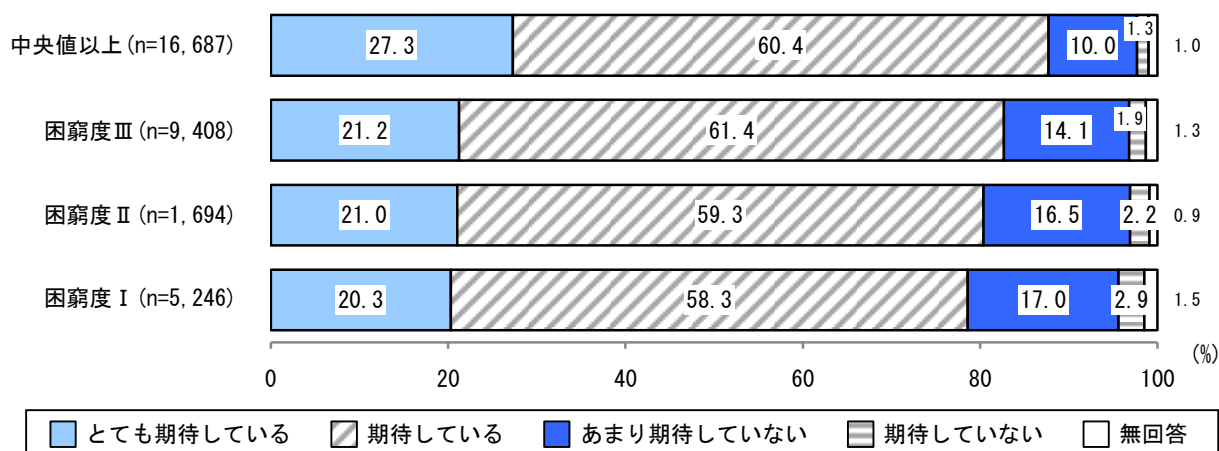


図 114. 学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度

学校への遅刻別に子どもの将来への期待度を見ると、「とても期待している」の割合は、「毎日またはほとんど毎日」の子どもにおいて36.4%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの将来への期待度（保護者票問 13(4)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

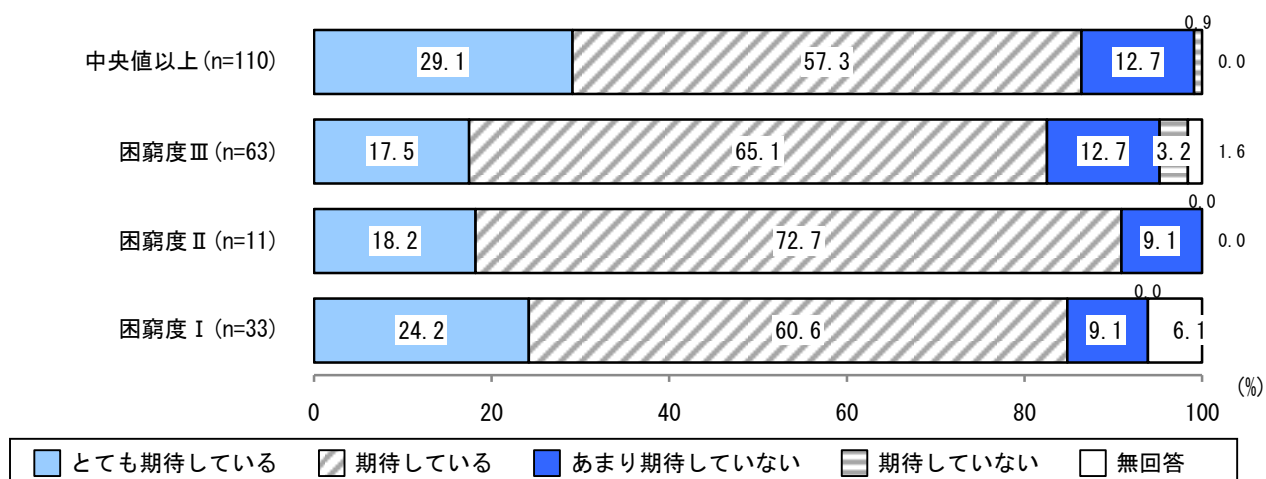
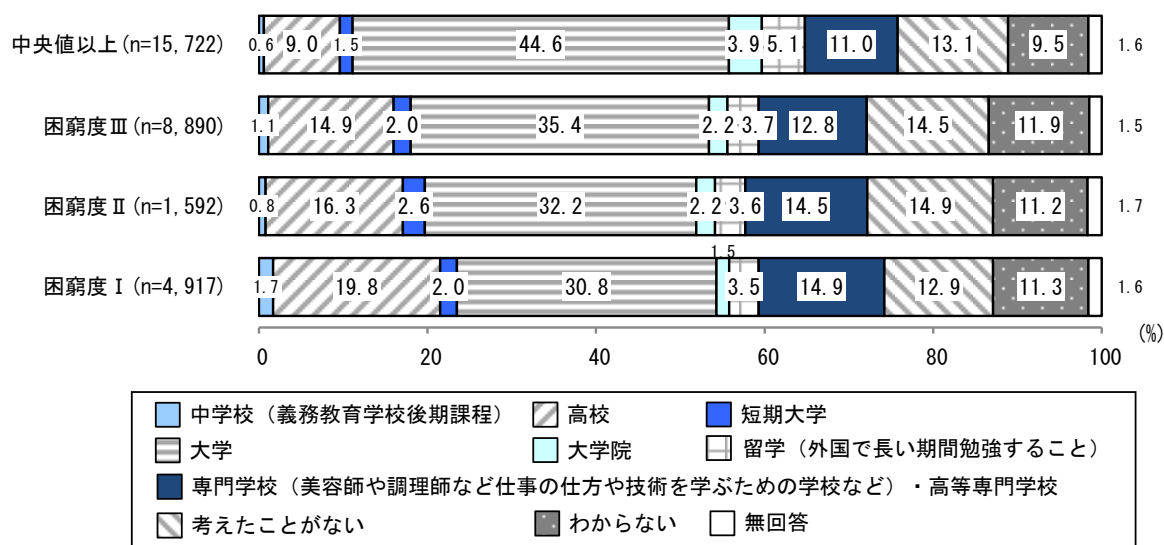


図 115. 困窮度別に見た、子どもの将来への期待度

困窮度別に子どもの将来への期待度を見ると、「とても期待している」の割合は、中央値以上群の子どもにおいて29.1%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、希望する進学先（子ども票問 24）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

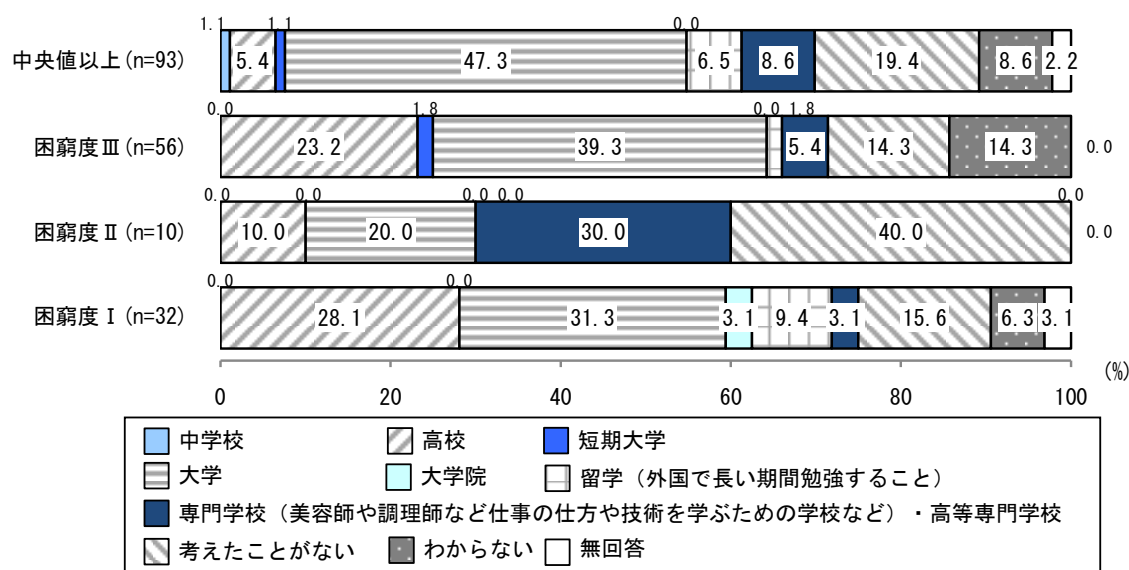
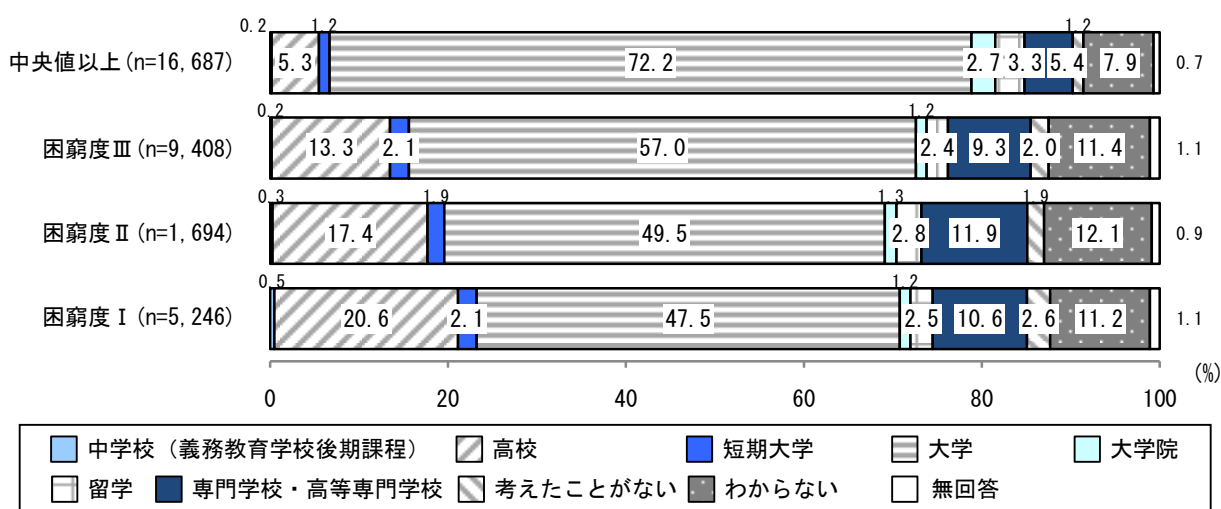


図 116. 困窮度別に見た、希望する進学先

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、困窮度Ⅲ及び困窮度Ⅰで高校卒業までの割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「大学」と回答した子どもは31.3%である。中央値以上群において「大学」と回答した割合は高く、47.3%である。

困窮度別に見た、子どもに希望する進学（保護者票問 14）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

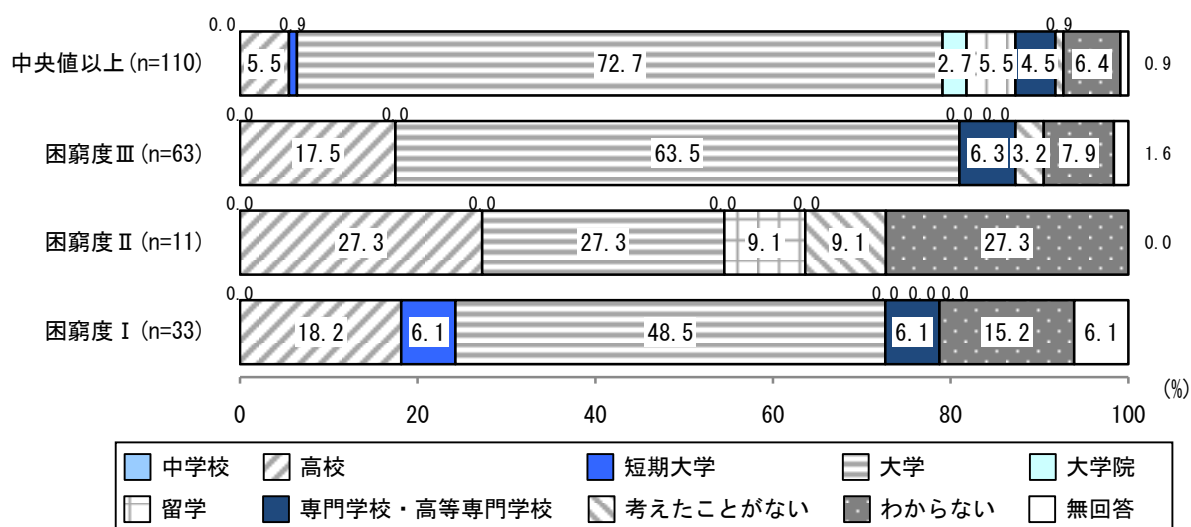
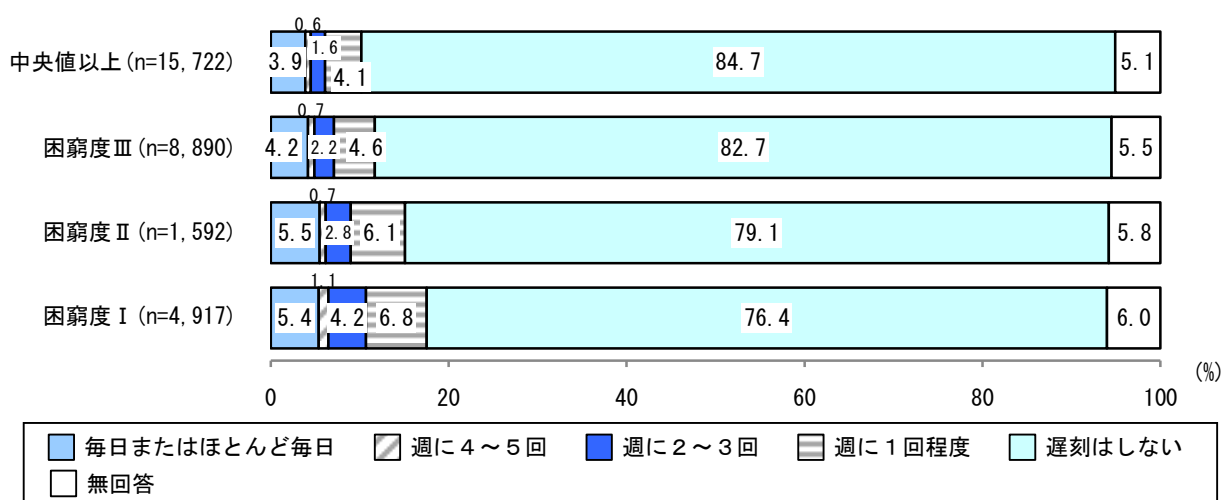


図 117. 困窮度別に見た、子どもに希望する進学

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、困窮度Ⅱ群では、「高校」と回答した人は27.3%である。中央値以上群において「大学」と回答した割合は高く、72.7%である。

困窮度別に見た、学校への遅刻（子ども票問7）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

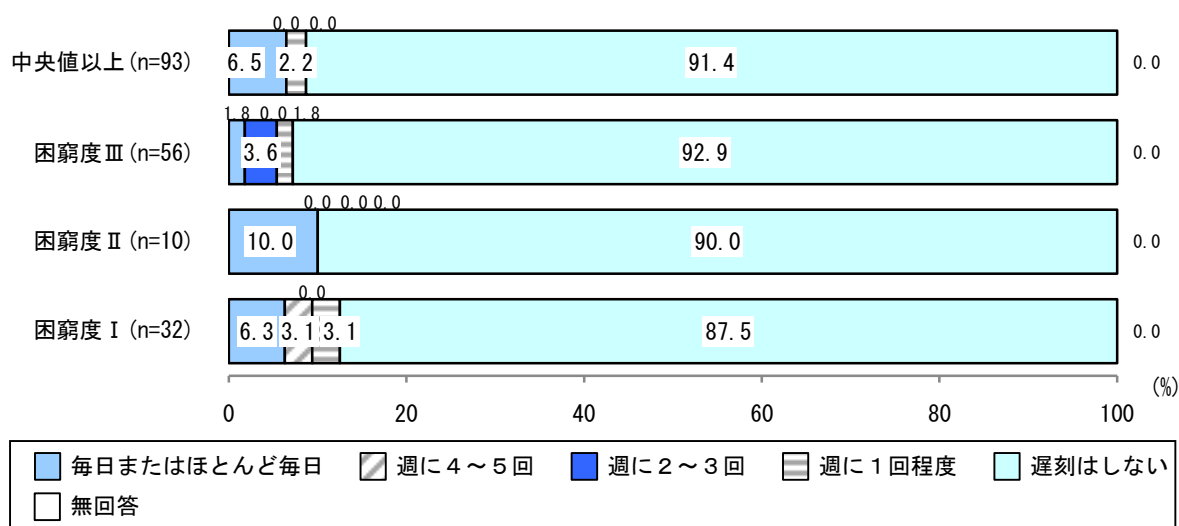
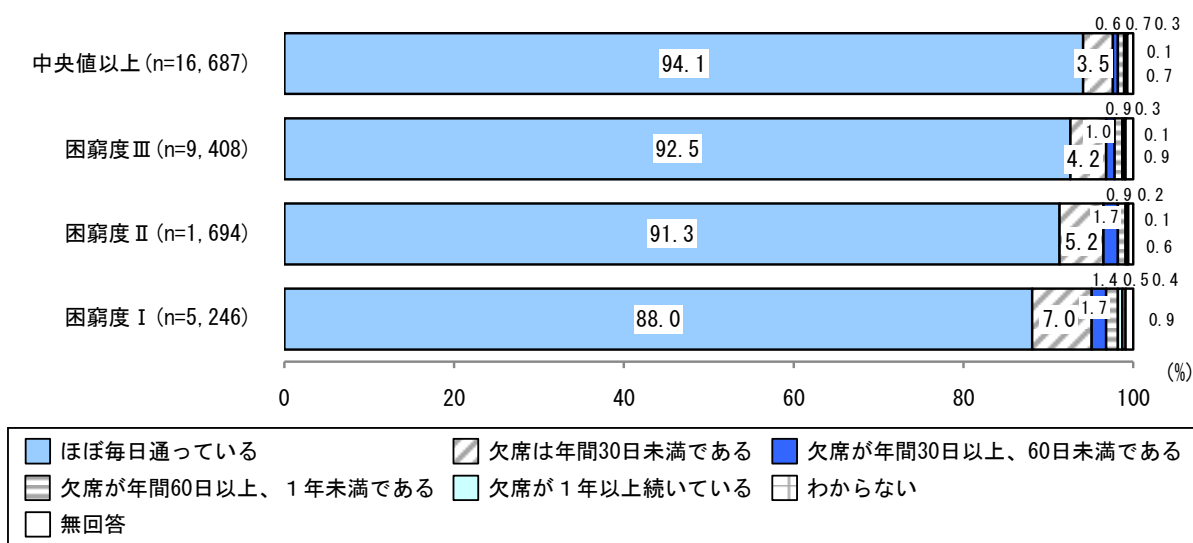


図 118. 困窮度別に見た、学校への遅刻

困窮度別に学校への遅刻を見ると、「毎日またはほとんど毎日」は困窮度Ⅱ群が10.0%と最も高くなっている。「週に4～5回」は困窮度Ⅰ群が3.1%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの通学状況（保護者票問 15）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

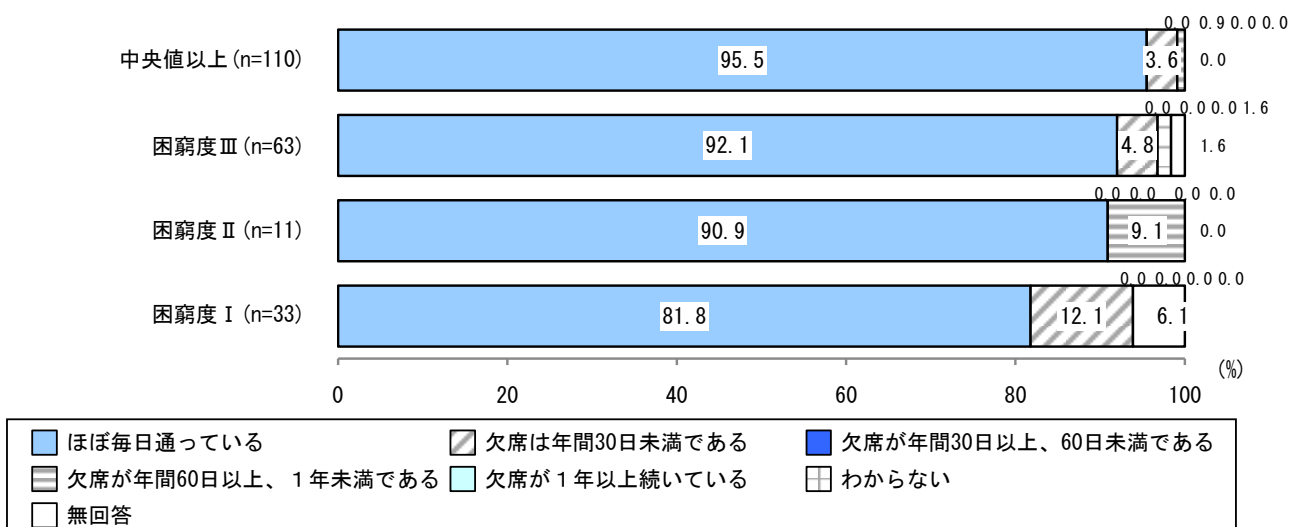
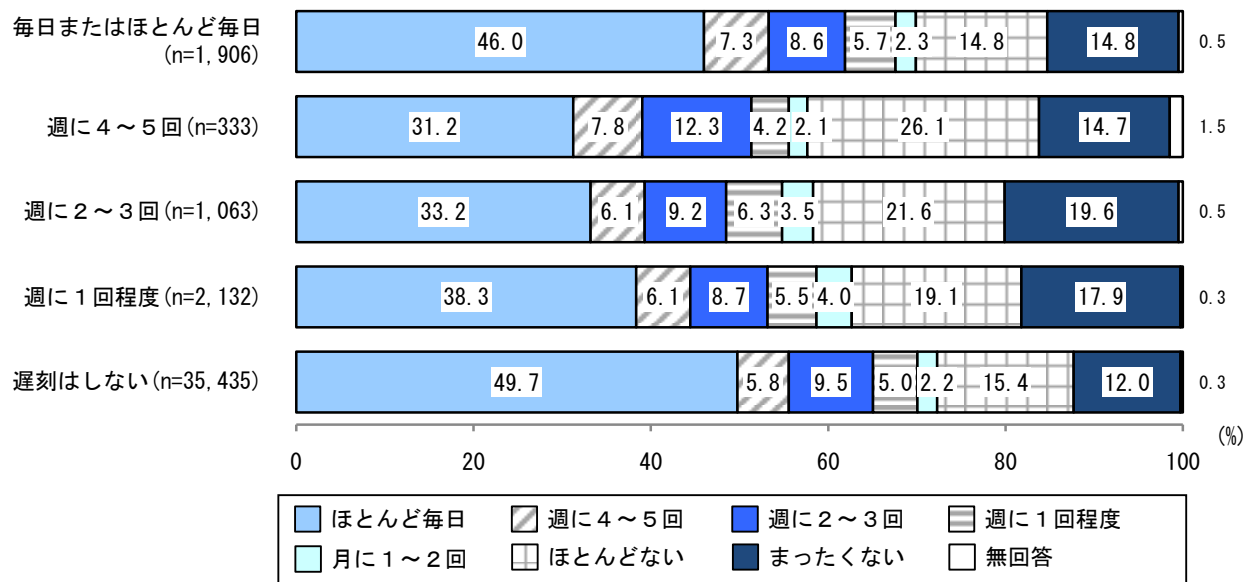


図 119. 困窮度別に見た、子どもの通学状況

困窮度別に子どもの通学状況を見ると、「ほぼ毎日通っている」と回答した人の割合は、困窮度が高まるにつれて、「ほぼ毎日通っている」と回答する割合が低くなり、困窮度Ⅰ群では81.8%と最も低くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか
(子ども票問7×保護者票問8①)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

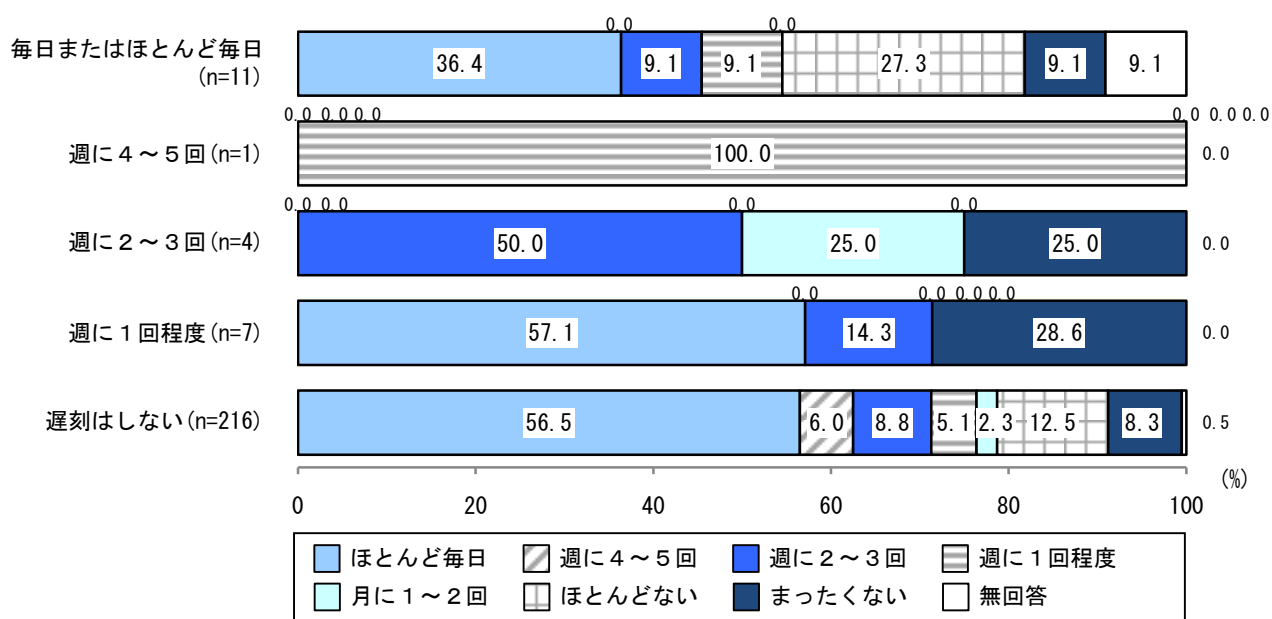
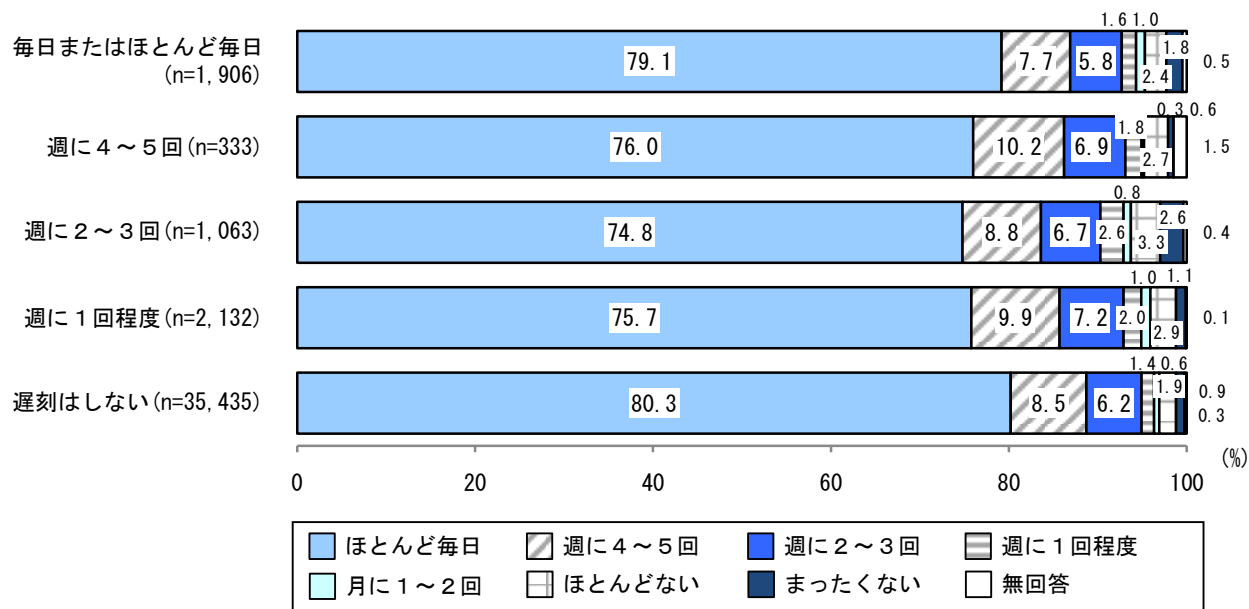


図 120. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に1回程度遅刻をしている子どもが57.1%で割合が最も高い一方で、「まったくない」も週に1回程度遅刻をしている子どもの割合が28.6%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか
(子ども票問7×保護者票問8②)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

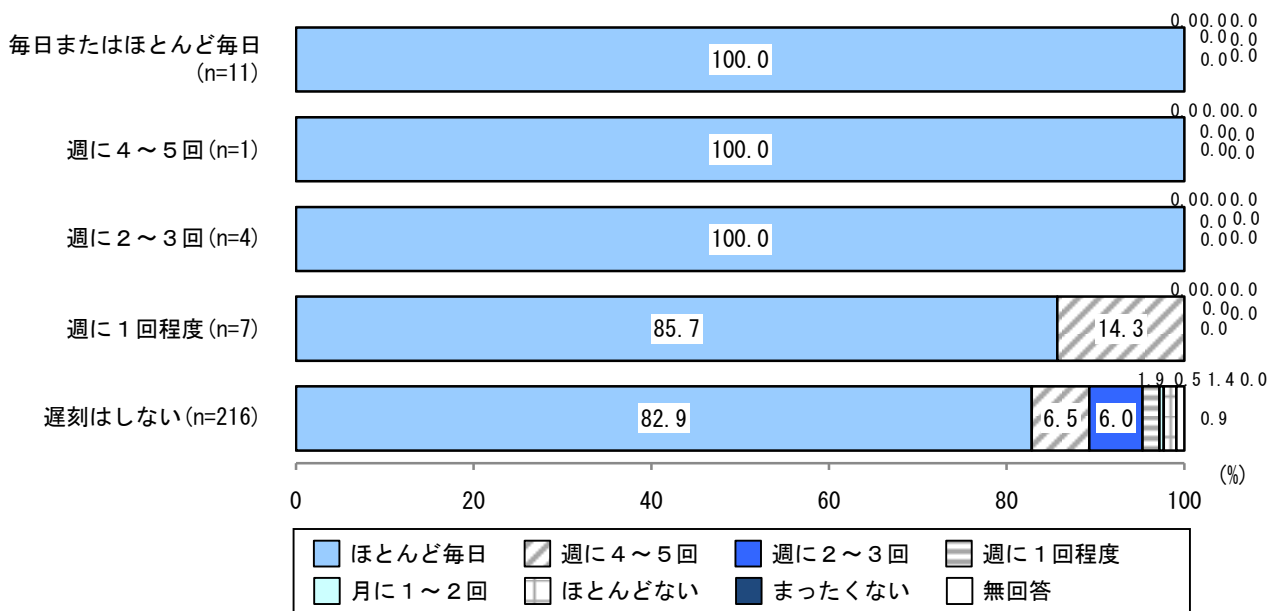
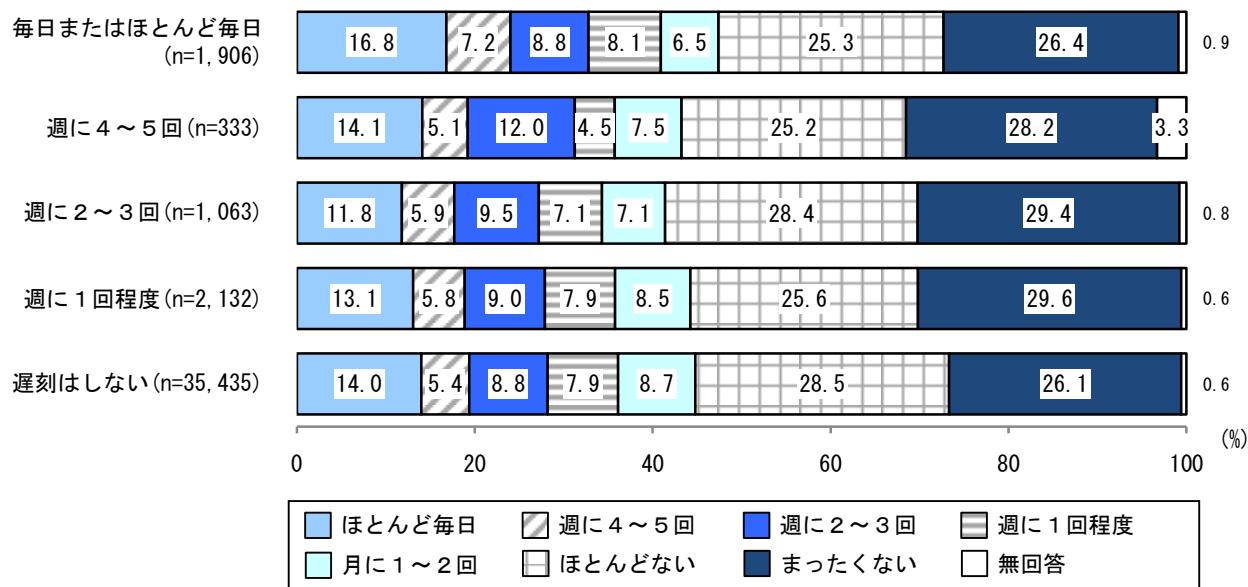


図 121. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は遅刻はしない子どもが82.9%で割合が最も低くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか
（子ども票問7×保護者票問8⑤）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

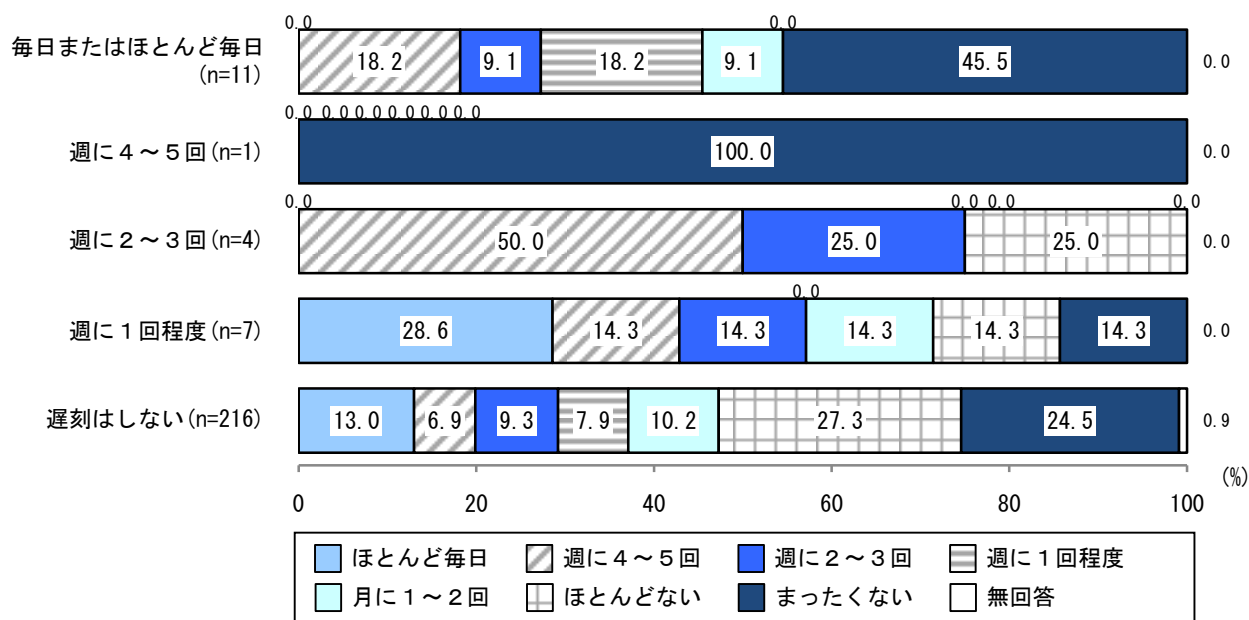
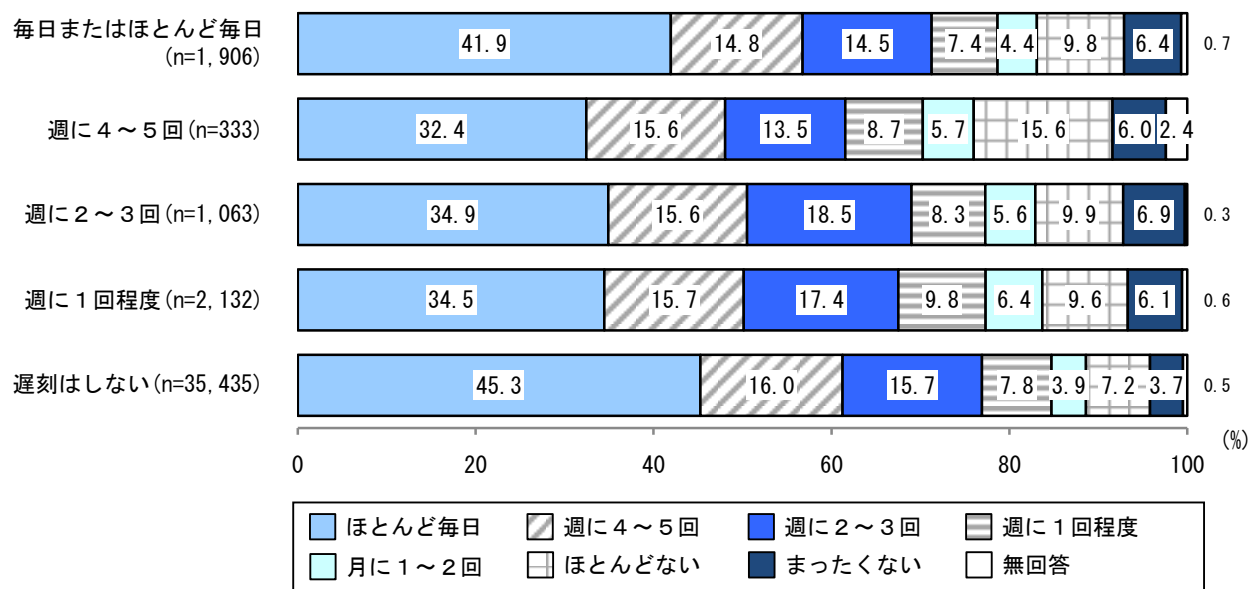


図 122. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

学校への遅刻別におうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に1回程度遅刻をしている子どもが28.6%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は週に4～5回遅刻をしている子どもの割合が100.0%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか
(子ども票問7×保護者票問8⑥)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

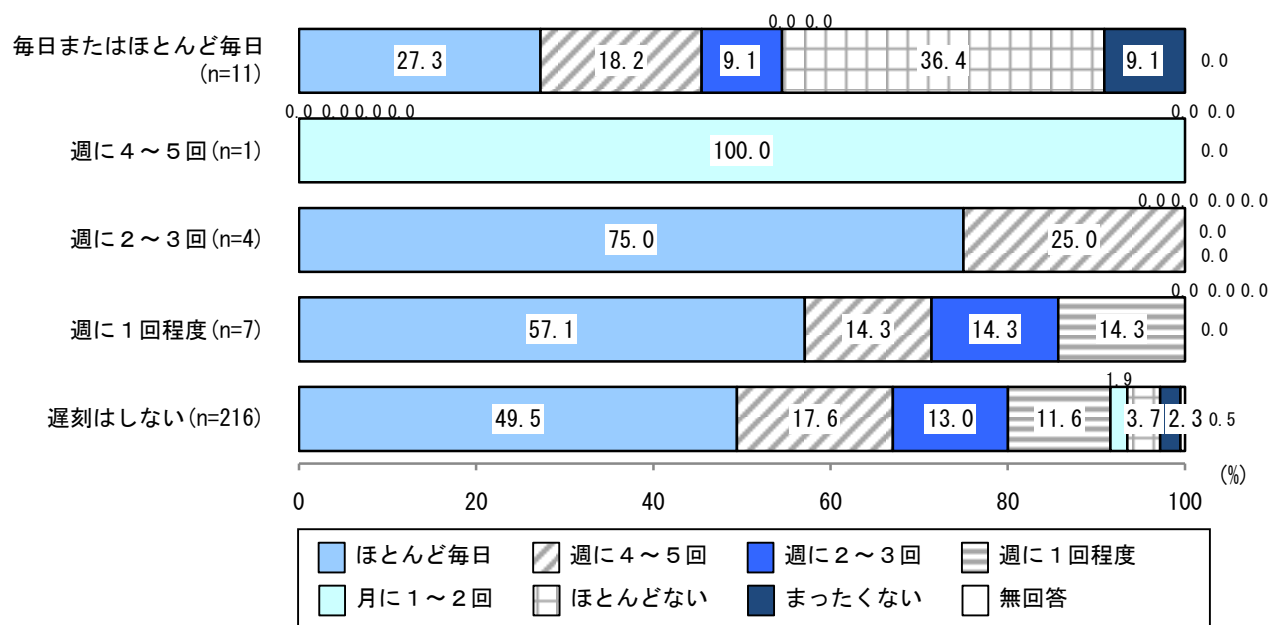
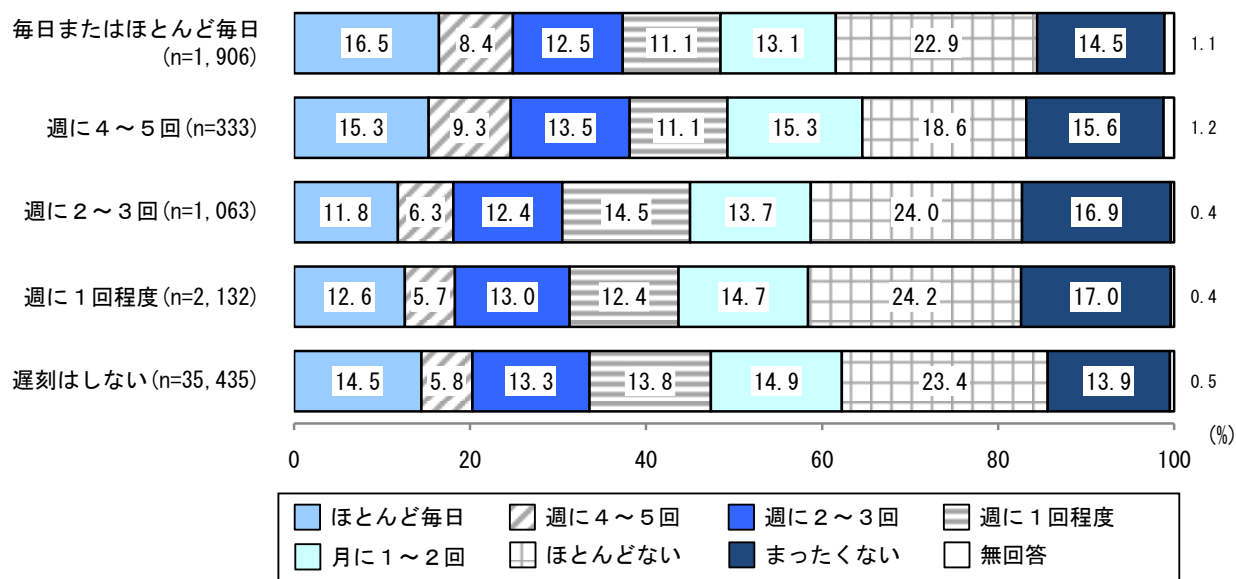


図 123. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に2～3回遅刻をしている子どもが75.0%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもの割合が9.1%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか
(子ども票問7×保護者票問8⑦)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

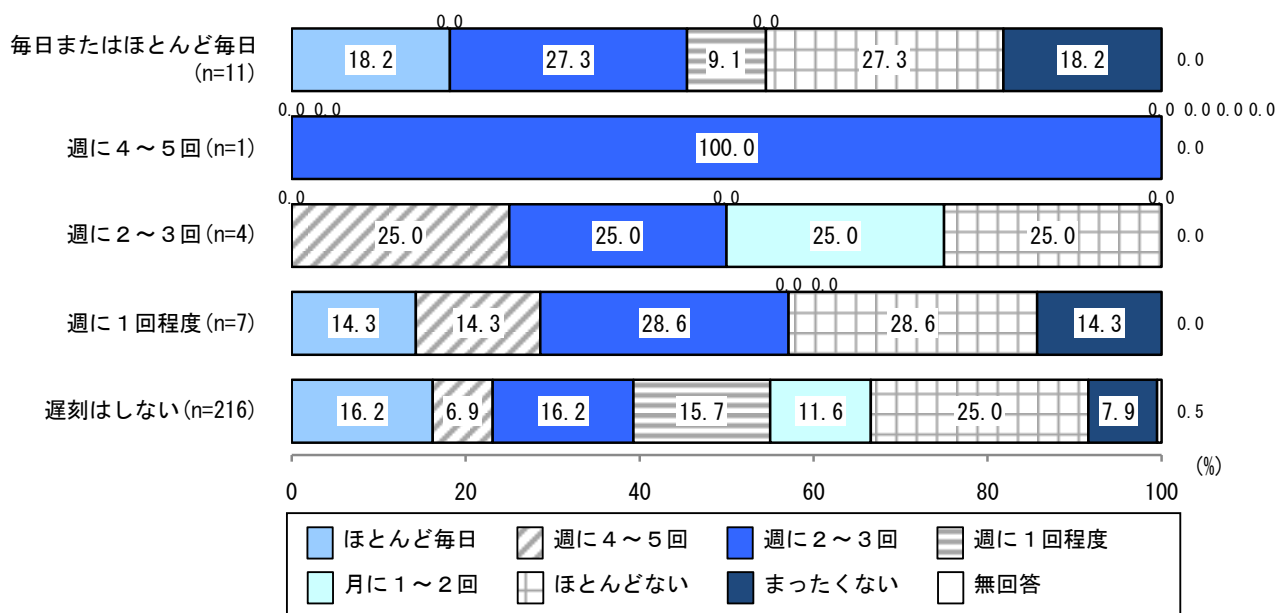
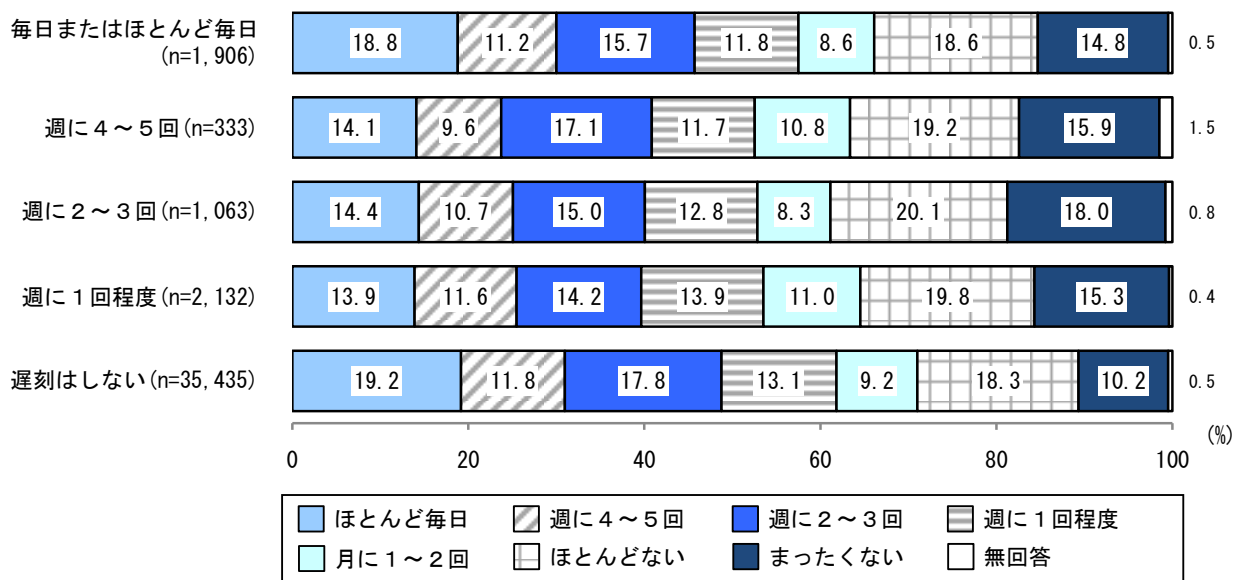


図 124. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもが18.2%で割合が最も高い一方で、「まったくない」も毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもの割合が18.2%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか
(子ども票問7×保護者票問8⑧)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

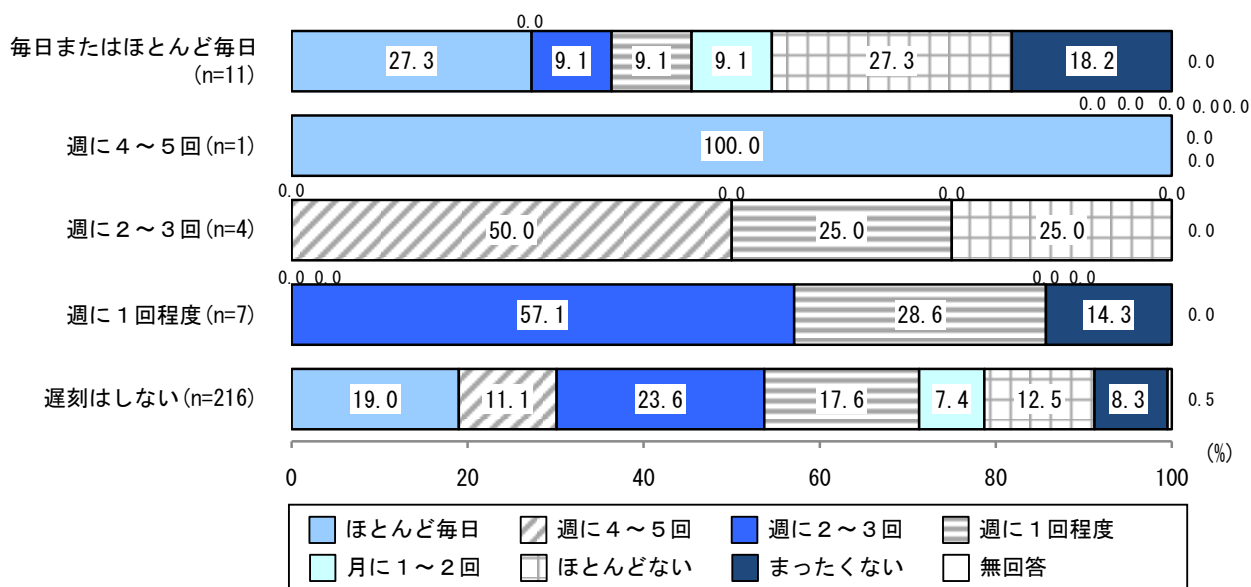
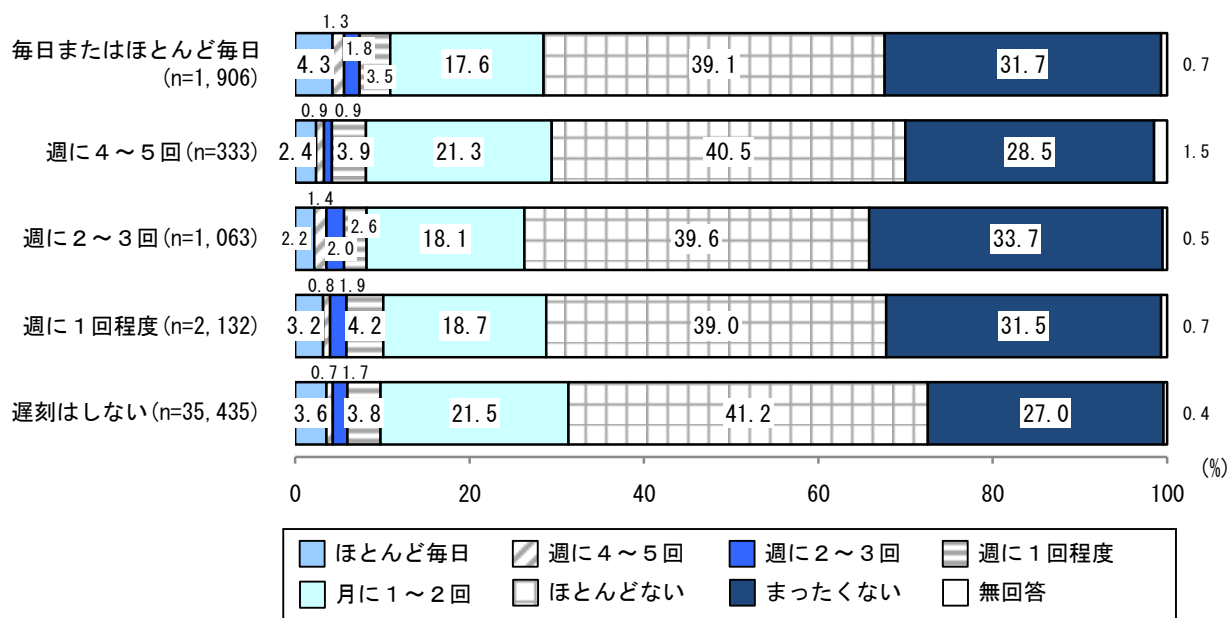


図 125. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に4～5回遅刻をしている子どもが100.0%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもの割合が18.2%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか
(子ども票問7×保護者票問8⑨)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

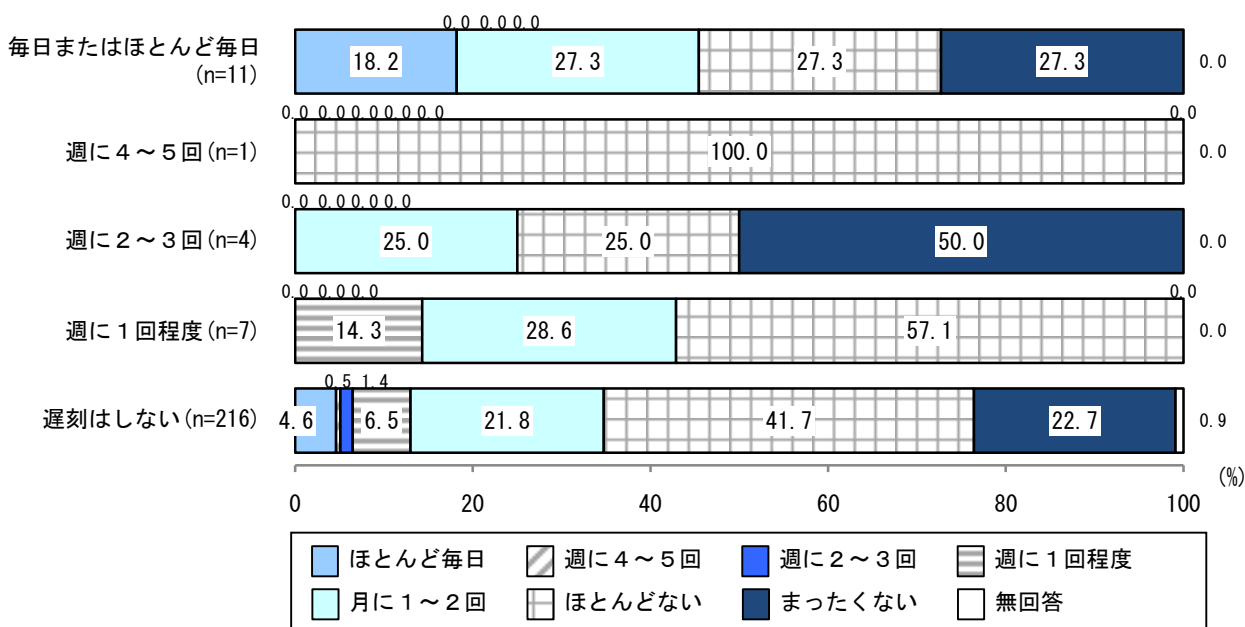
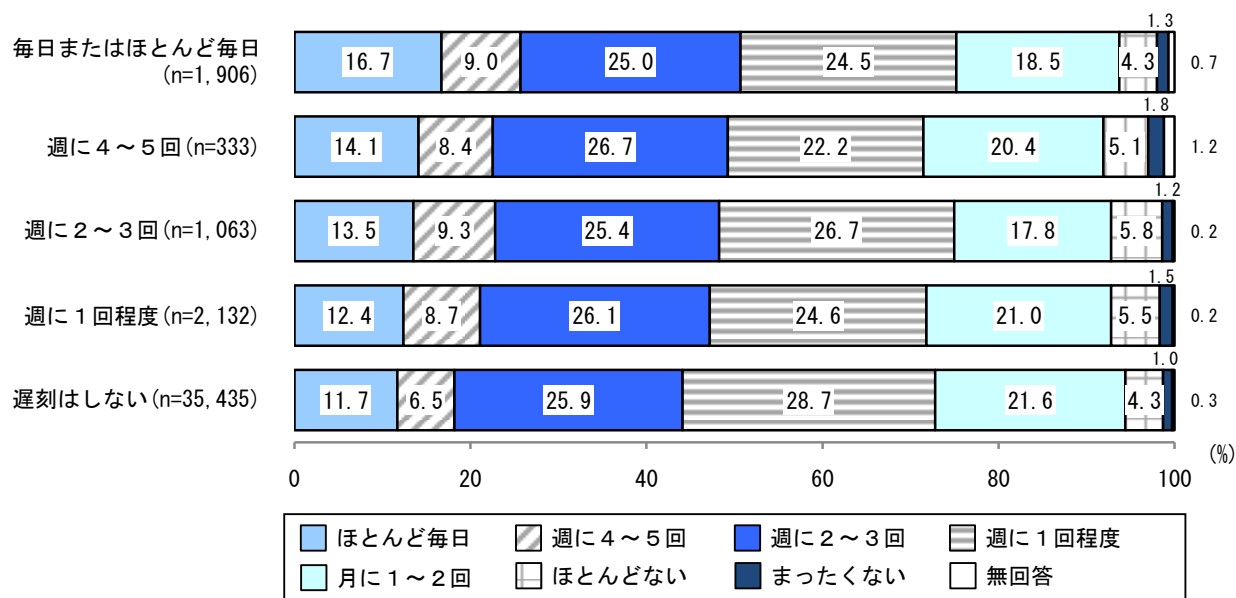


図 126. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「まったくない」は週に2～3回遅刻をしている子どもの割合が50.0%で最も高く、「ほとんどない」は週に4～5回遅刻をしている子どもの割合が100.0%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか
(子ども票問7×保護者票問8⑩)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

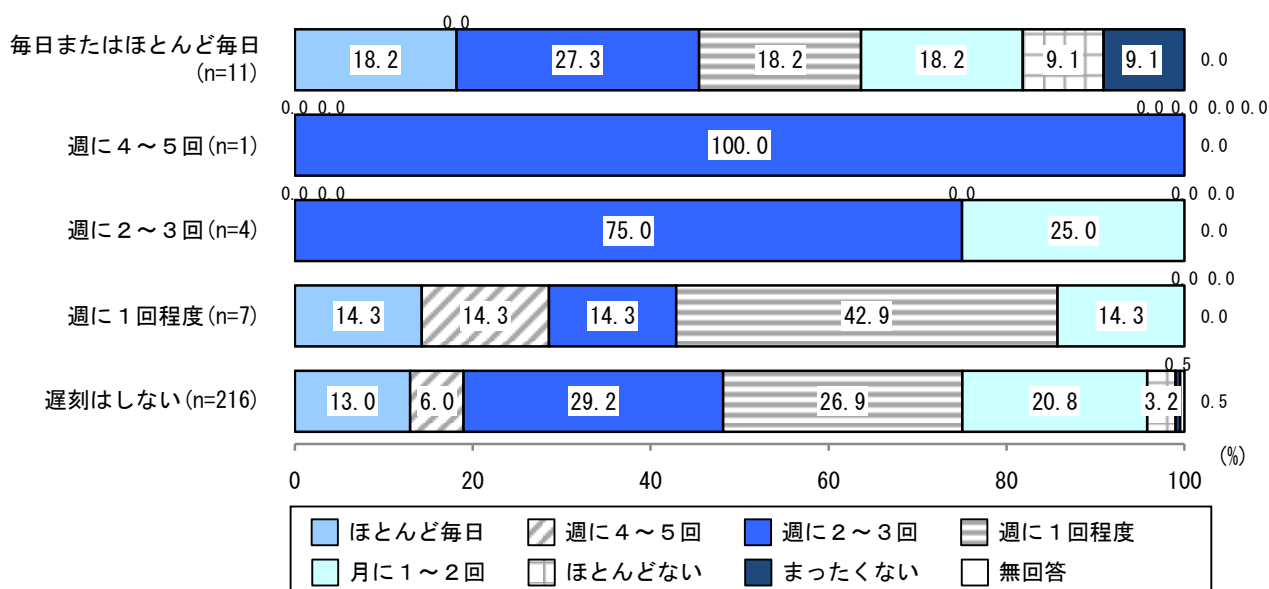
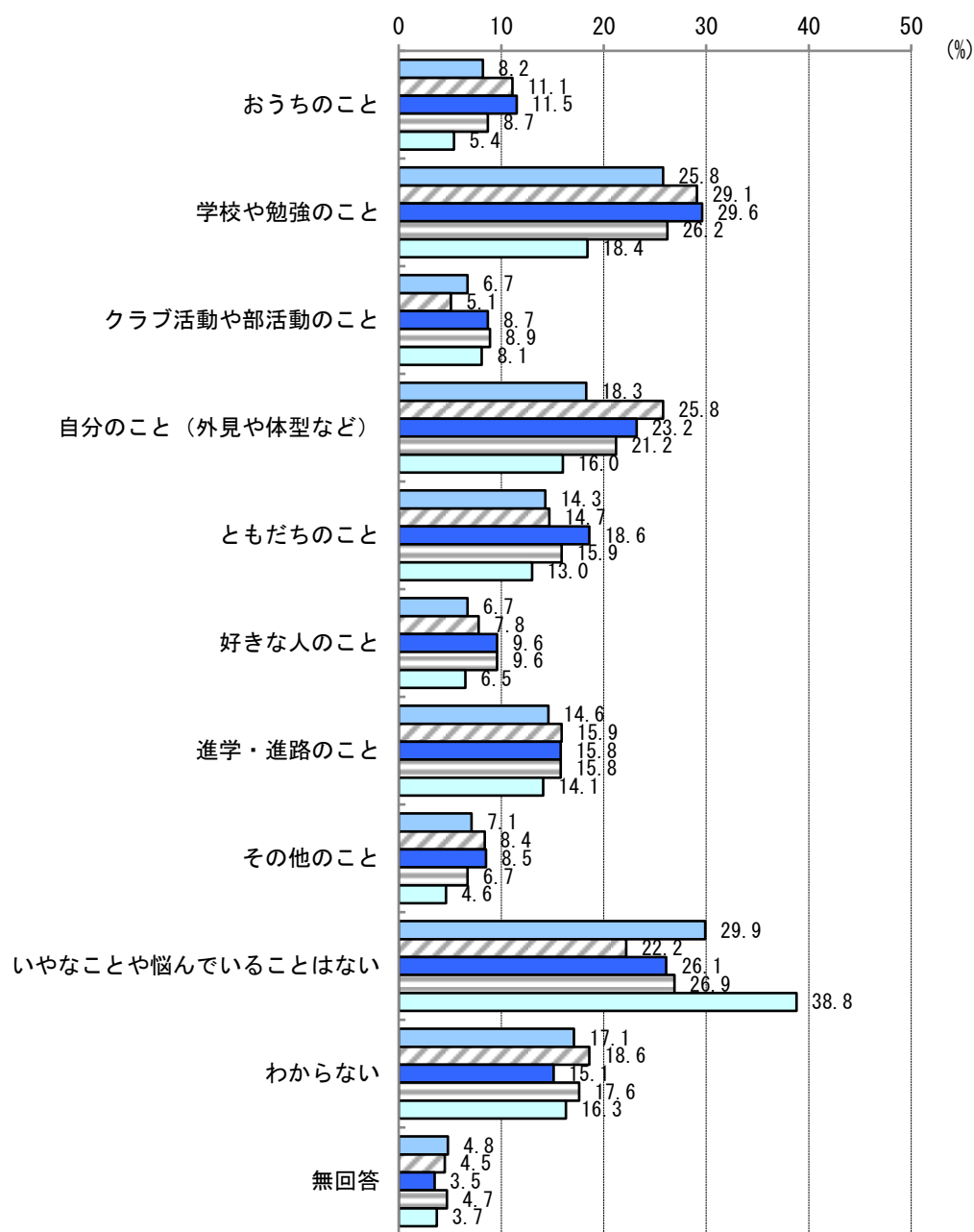


図 127. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもが18.2%で割合が最も高い一方で、「まったくない」も毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもの割合が9.1%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問7×子ども票問17）

<大阪府内全体>



■ 毎日またはほとんど毎日 (n=1,906)
 ■ 週に4～5回 (n=333)
 ■ 週に2～3回 (n=1,063)
■ 週に1回程度 (n=2,132)
 ■ 遅刻はしない (n=35,435)

<四條畷市>

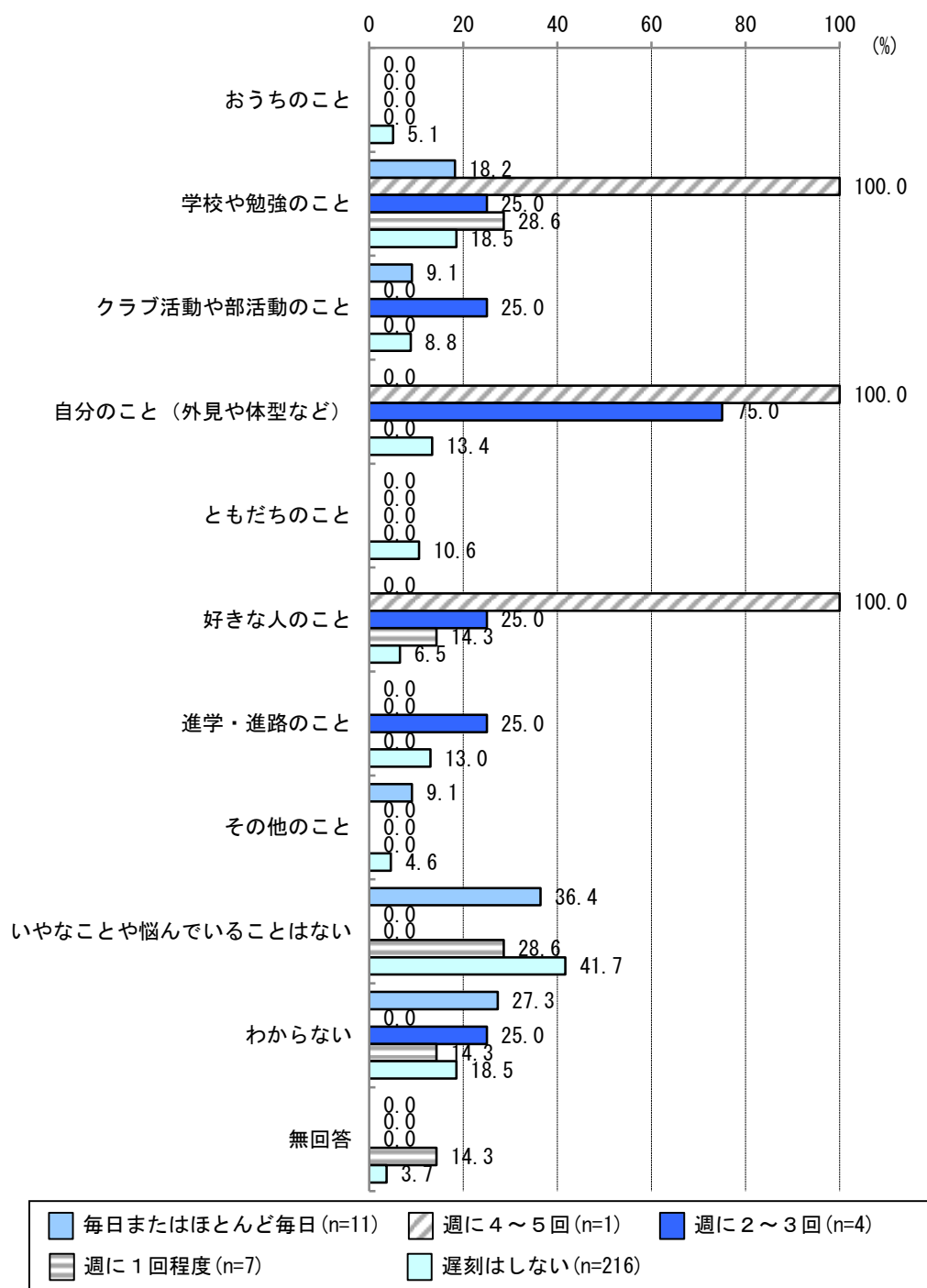
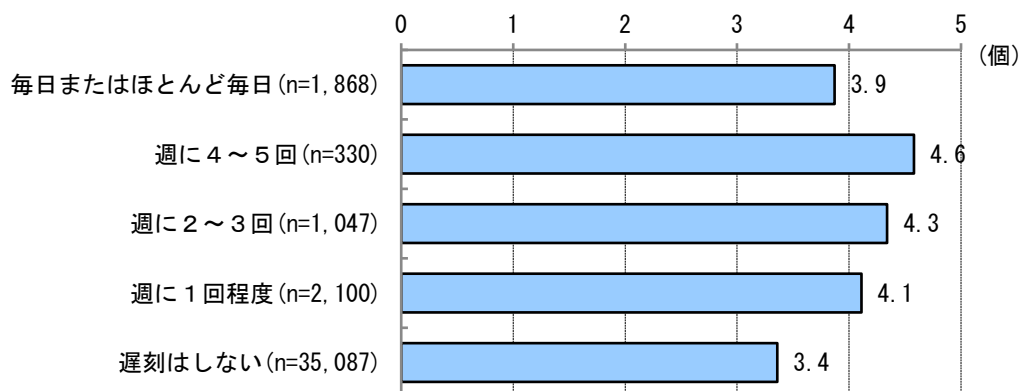


図 128. 学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること

学校への遅刻別に嫌なことや悩んでいることを見ると、「いやなことや悩んでいることはない」は遅刻はしない子どもの割合が41.7%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
(子ども票問7×子ども票問19・20)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

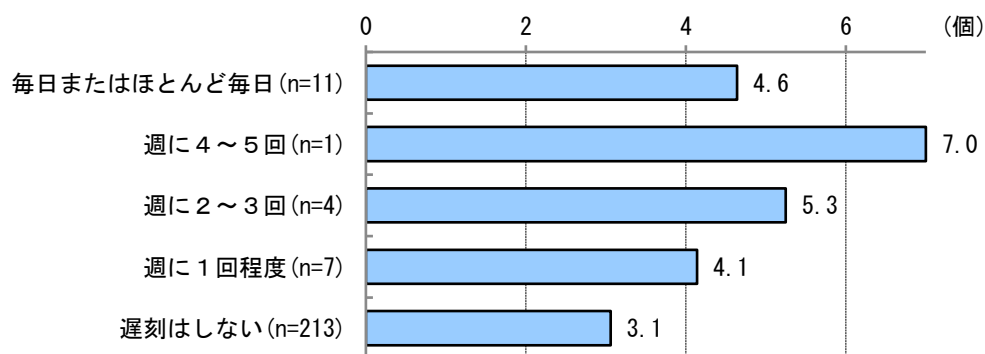
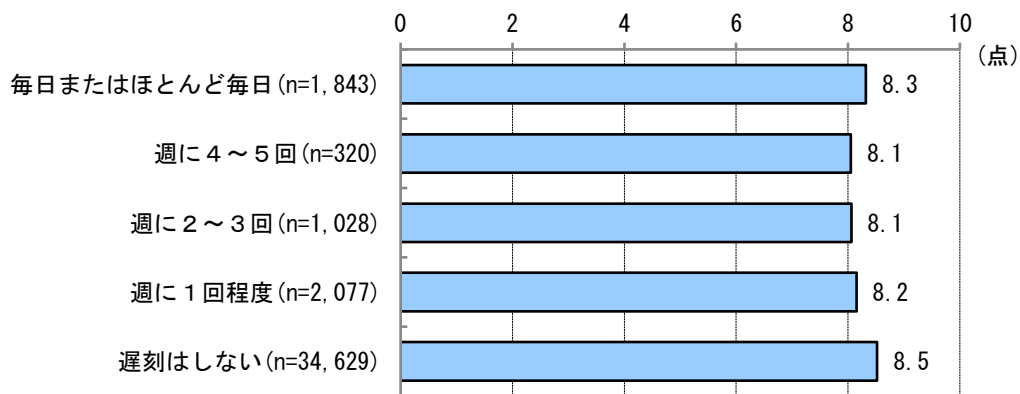


図 129. 学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

学校への遅刻別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「週に4～5回」遅刻をしている子どもが7.0個で最も多く、次いで「週に2～3回」遅刻をしている子どもが5.3個となっている。

学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問7×子ども票問23）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

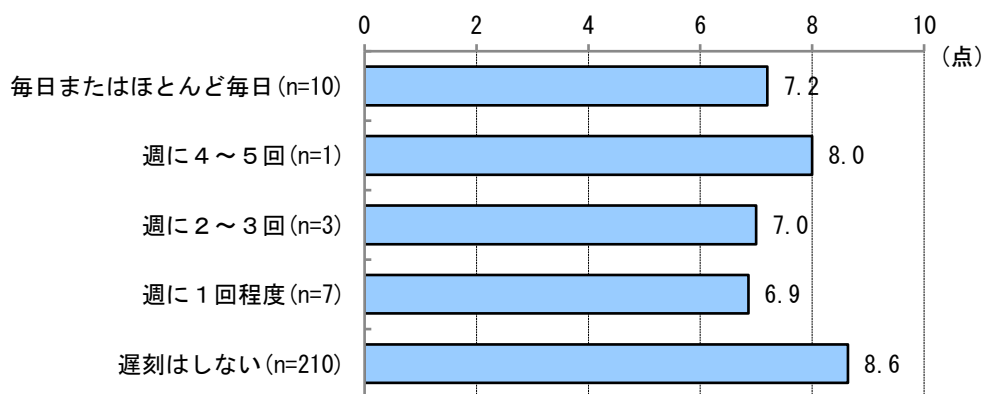
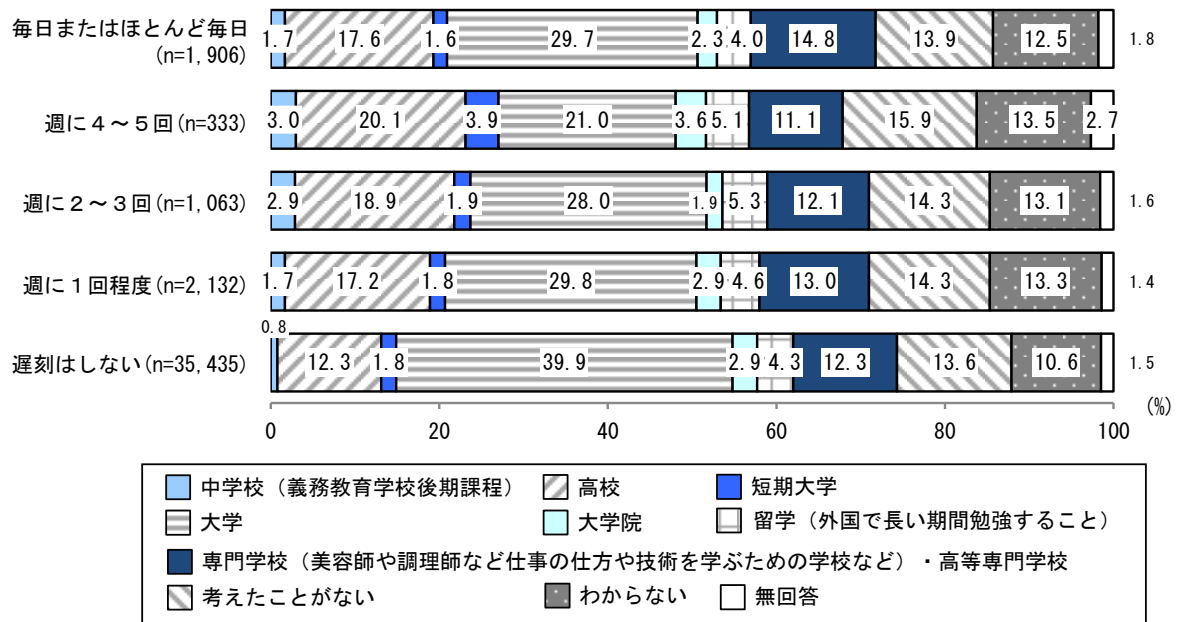


図 130. 学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

学校への遅刻別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」遅刻している子どもは「遅刻はしない」子どもよりも自己効力感（セルフ・エフィカシー）がやや低い。

学校への遅刻別に見た、希望する進学先（子ども票問7×子ども票問24）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

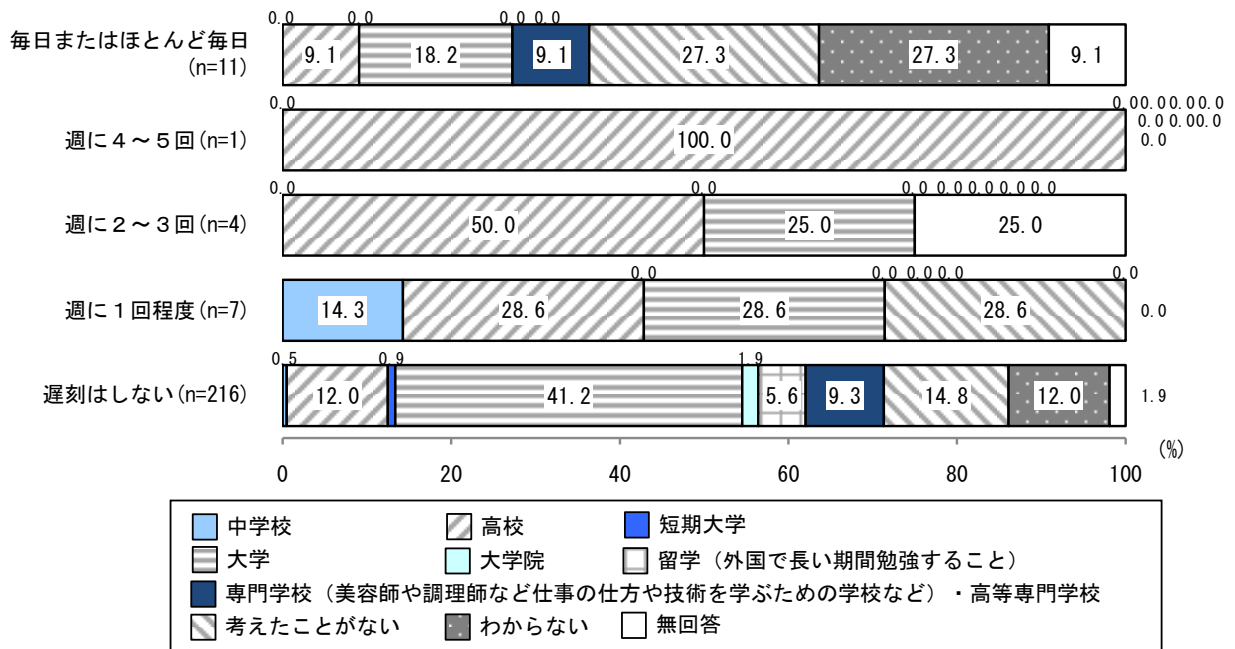
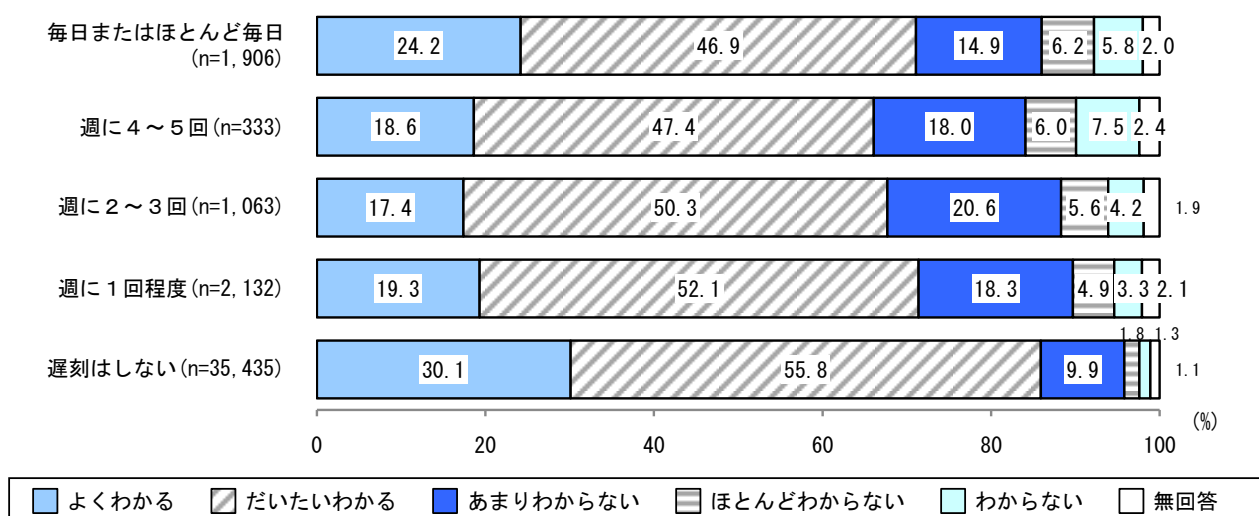


図 131. 学校への遅刻別に見た、希望する進学先

学校への遅刻別に希望する進学先を見ると、「大学」は遅刻はしない子どもの割合が41.2%で最も高く、次いで週に1回程度遅刻をしている子どもの割合が28.6%となっている。

学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問7×子ども票問14(1)）

＜大阪府内全体＞



＜四條畷市＞

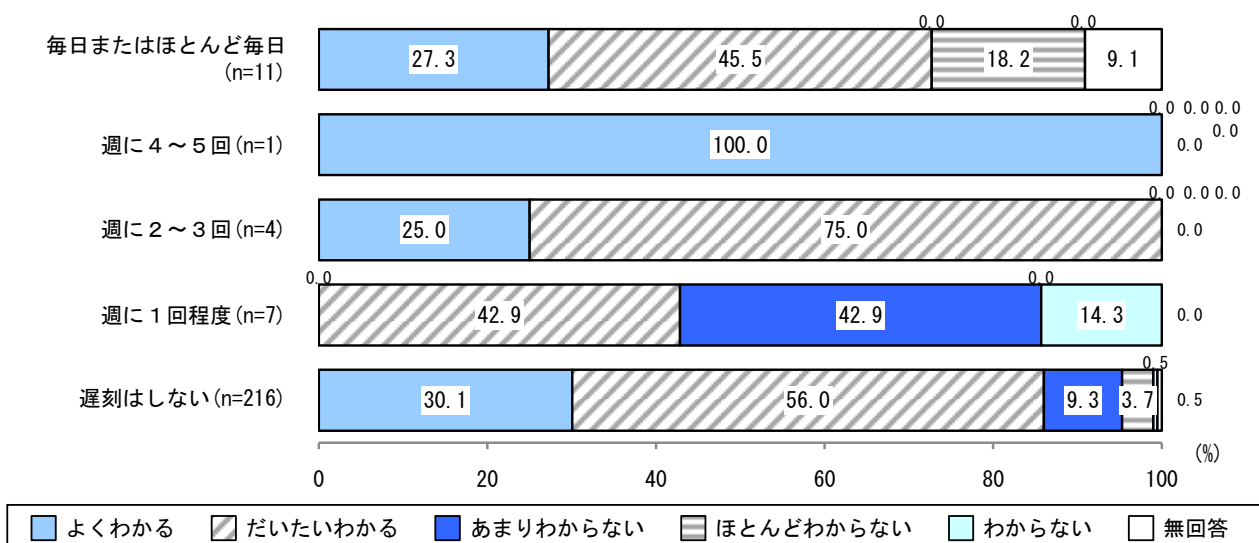
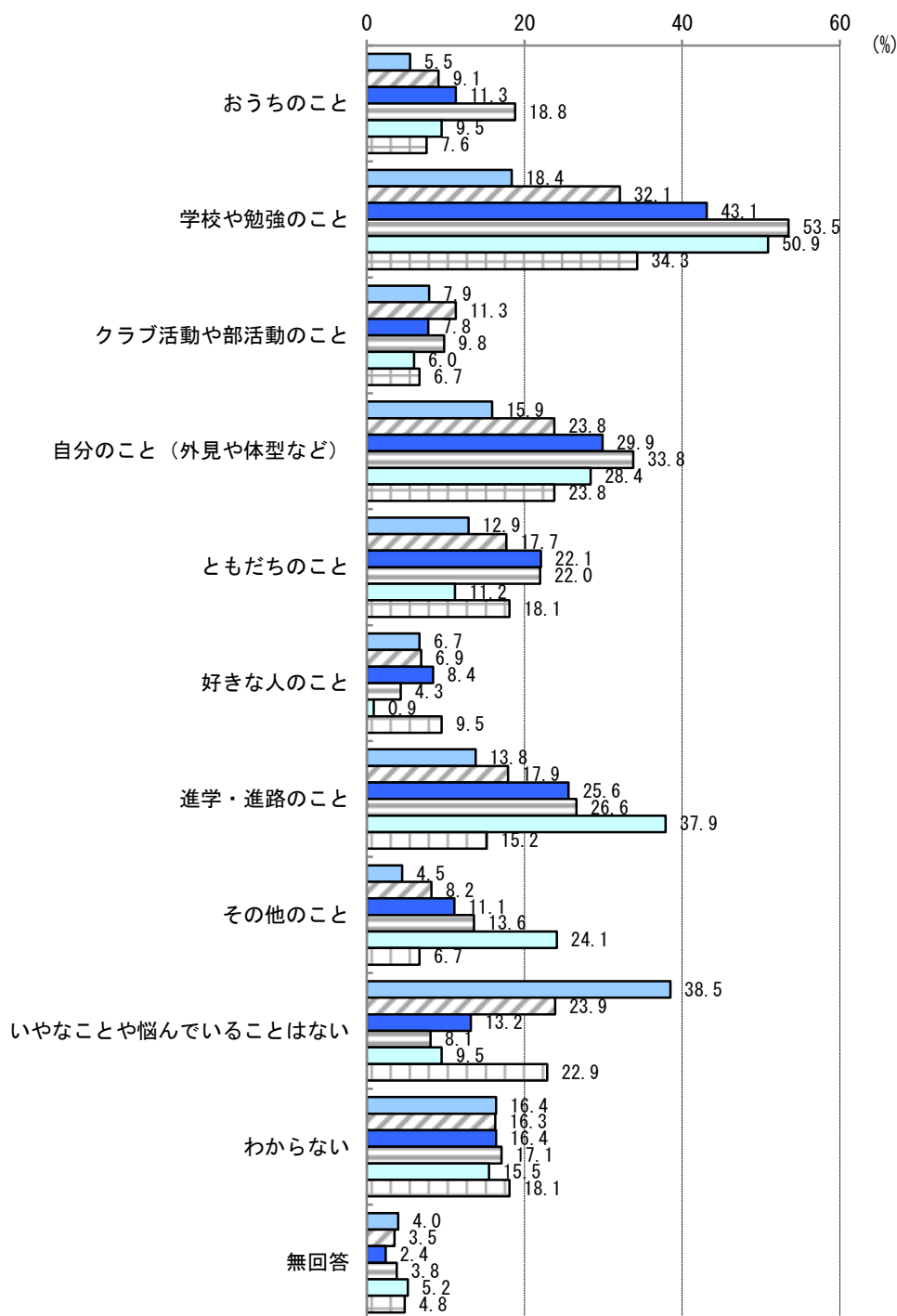


図 132. 学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

学校への遅刻別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、「よくわかる」は週に1回程度遅刻をする子どもの割合が0.0%で最も低くなっている。

子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること（保護者票問 15×子ども票問 17）

<大阪府内全体>



■ ほぼ毎日通っている (n=37,661) ■ 欠席は年間30日未満である (n=1,775)
■ 欠席が年間30日以上、60日未満である (n=371) ■ 欠席が年間60日以上、1年未満である (n=346)
■ 欠席が1年以上続いている (n=116) ■ わからない (n=105)

<四條畷市>

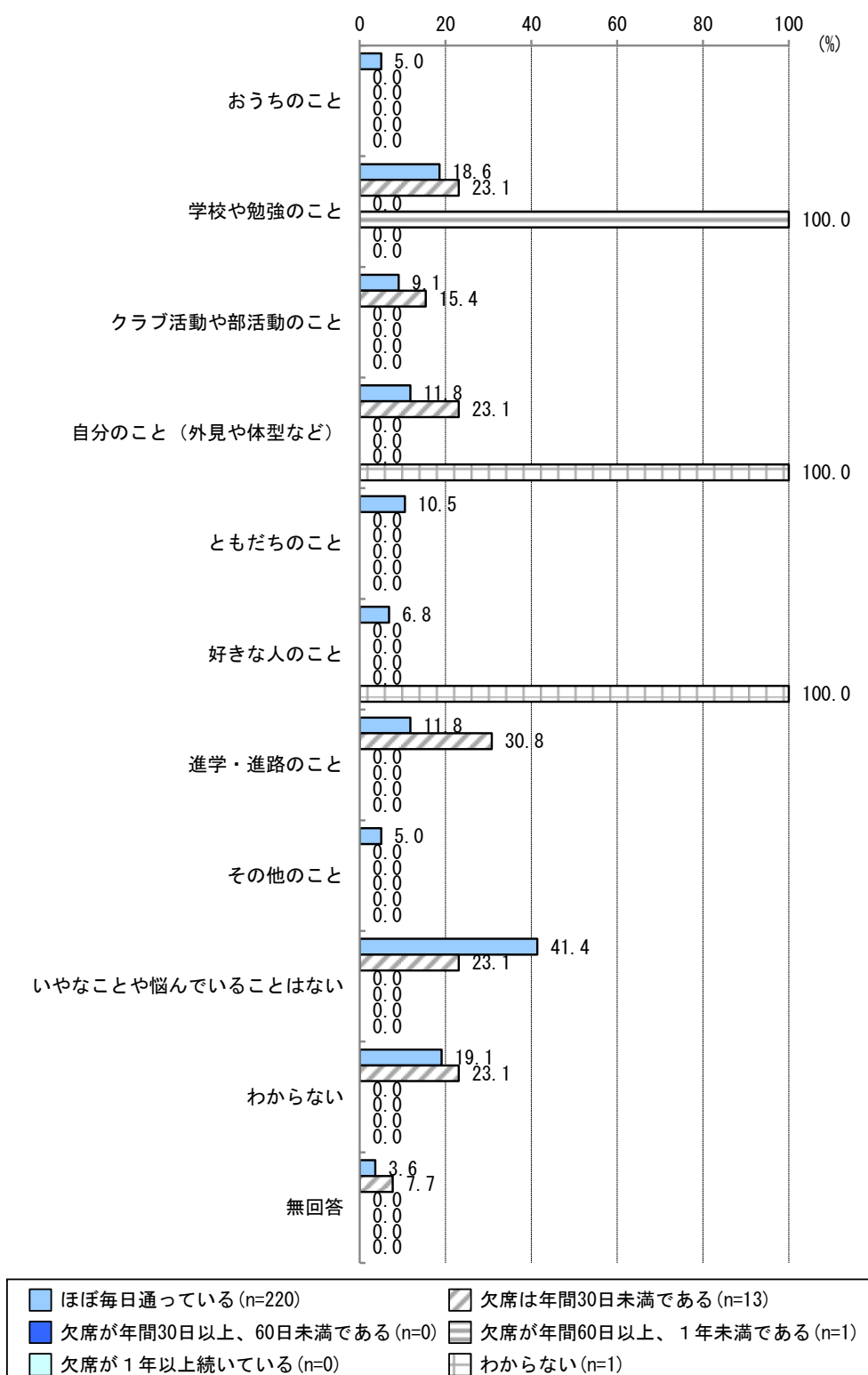
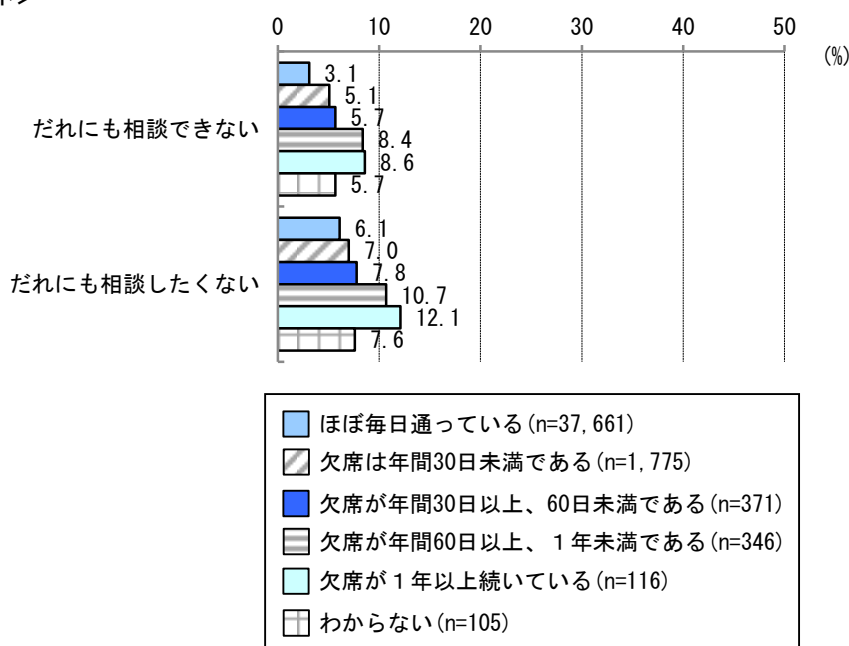


図 133. 子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること

子どもの通学状況別に嫌なことや悩んでいることを見ると、「いやなことや悩んでいることはない」はほぼ毎日通っている人で41.4%と最も高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合
(保護者票問 15×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

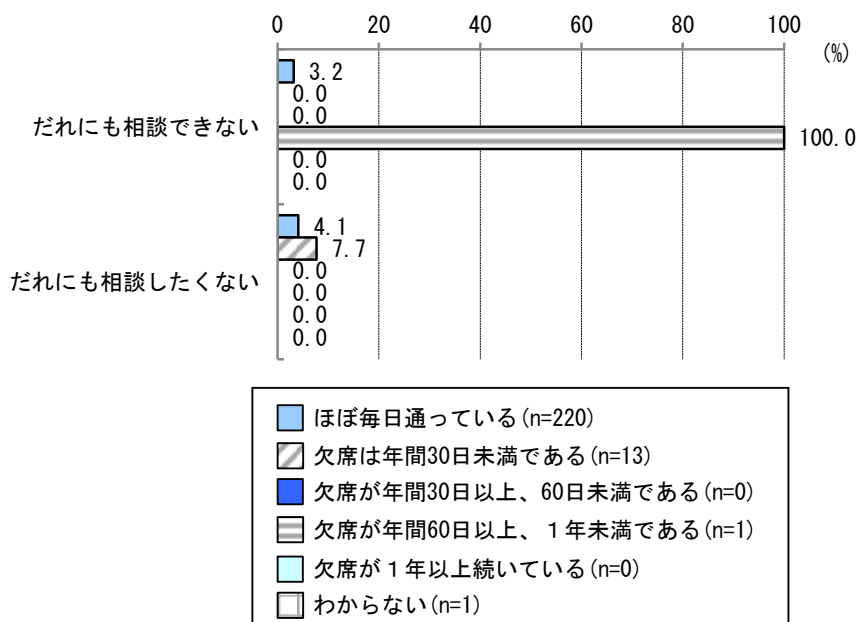
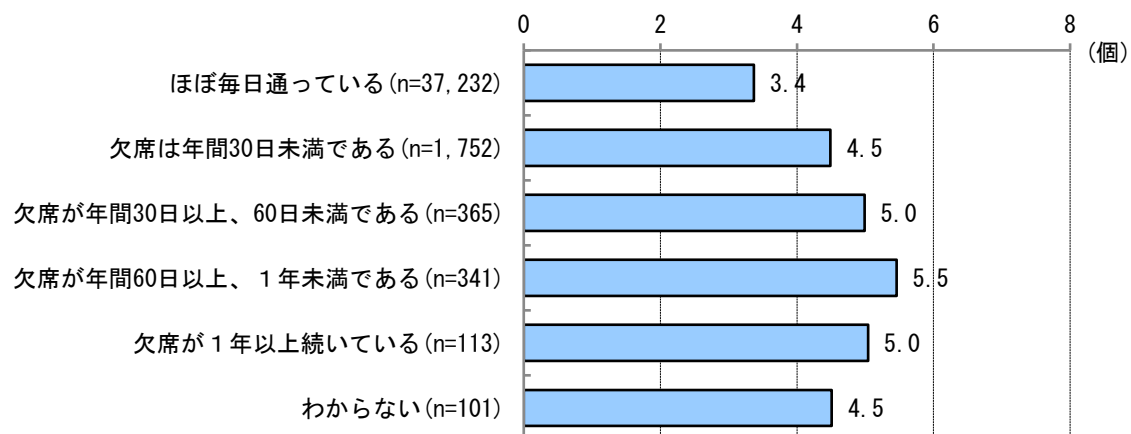


図 134. 子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合

子どもの通学状況別に悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合を見ると、ほぼ毎日通っている人で「だれにも相談できない」が3.2%、「だれにも相談したくない」が4.1%となっている。また、欠席は年間30日未満である人で「だれにも相談したくない」が7.7%、欠席が年間60日以上、1年未満である人で「だれにも相談できない」が100.0%となっている。

子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
(保護者票問 15×子ども票問 19・20)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

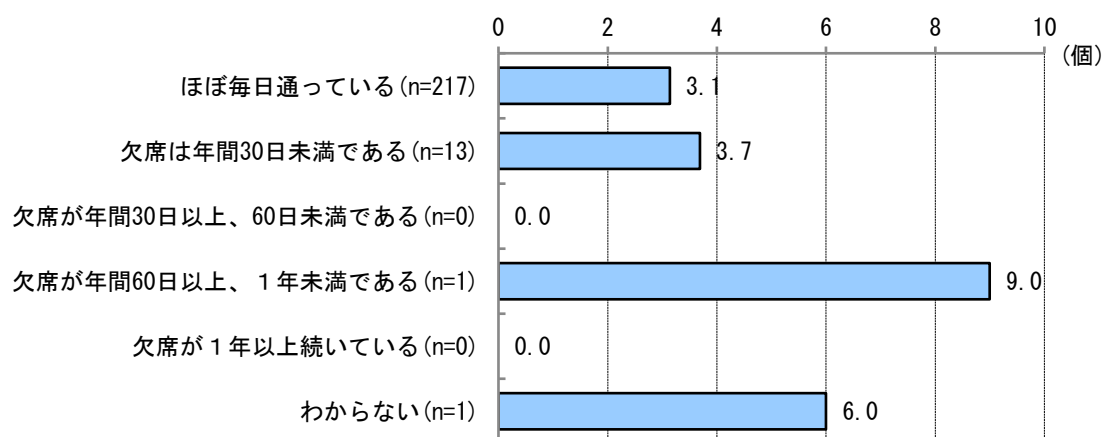
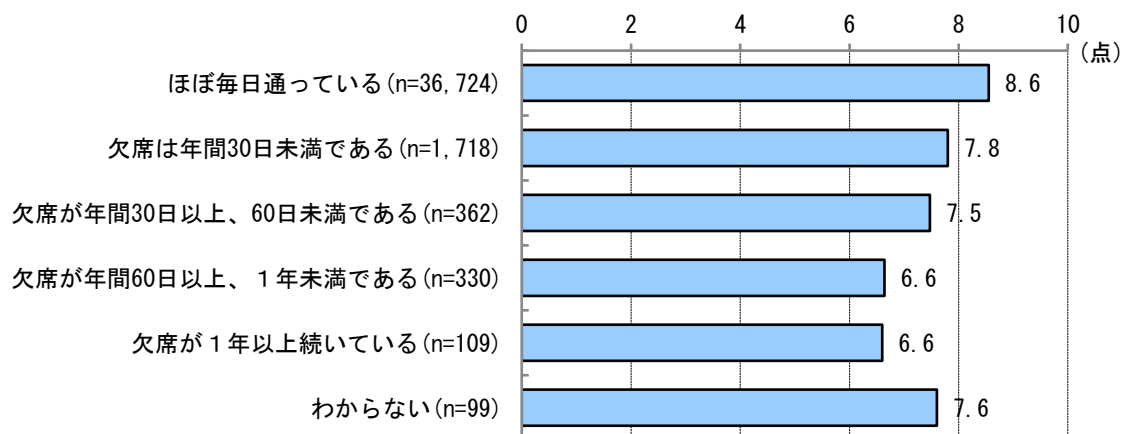


図 135. 子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

子どもの通学状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、欠席が年間60日以上、1年未満であると回答した人が9.0個で最も多く、次いで欠席が年間30日未満であると回答した人が3.7個、ほぼ毎日通っている人が3.1個となっている。

子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（保護者票問 15×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

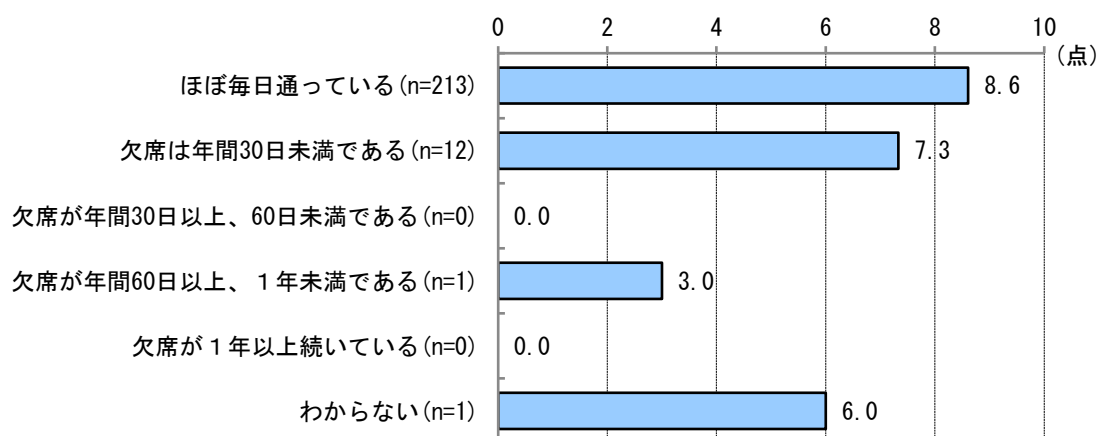
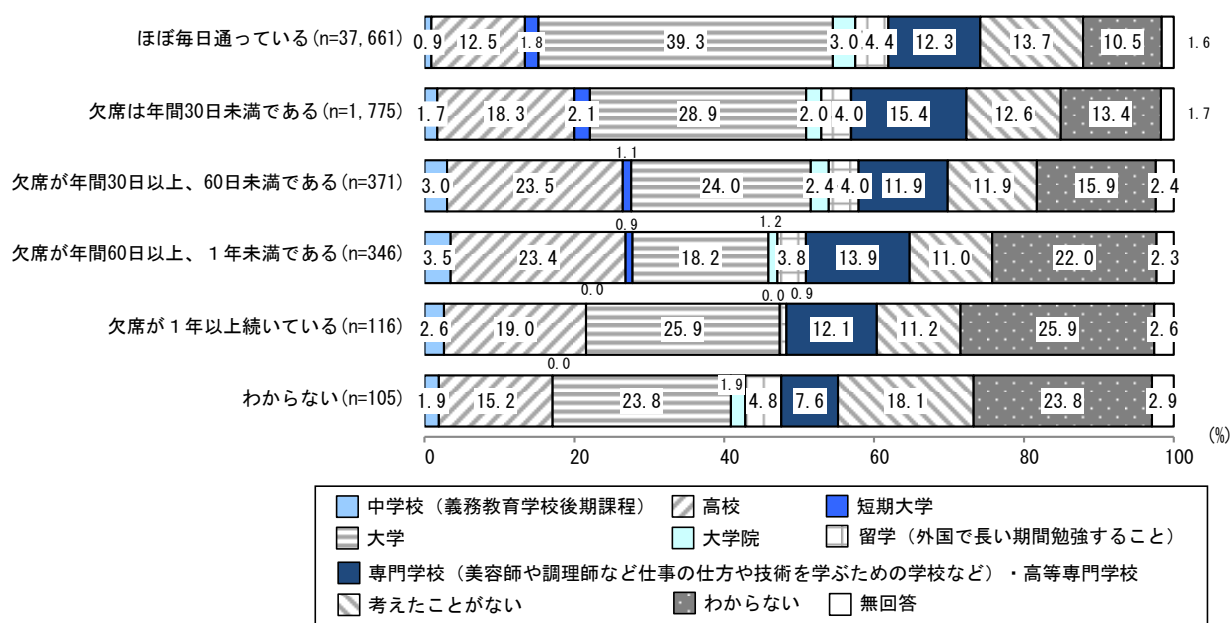


図 136. 子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもの通学状況別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、ほぼ毎日通っていると回答した人の得点が8.6点で、次いで欠席は年間30日未満であると回答した人は7.3点、欠席が年間60日以上、1年未満であると回答した人で3.0点と、通学日数が少ない子どものほうがセルフ・エフィカシーが低い結果となった。

子どもの通学状況別に見た、希望する進学先（保護者票問 15×子ども票問 24）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

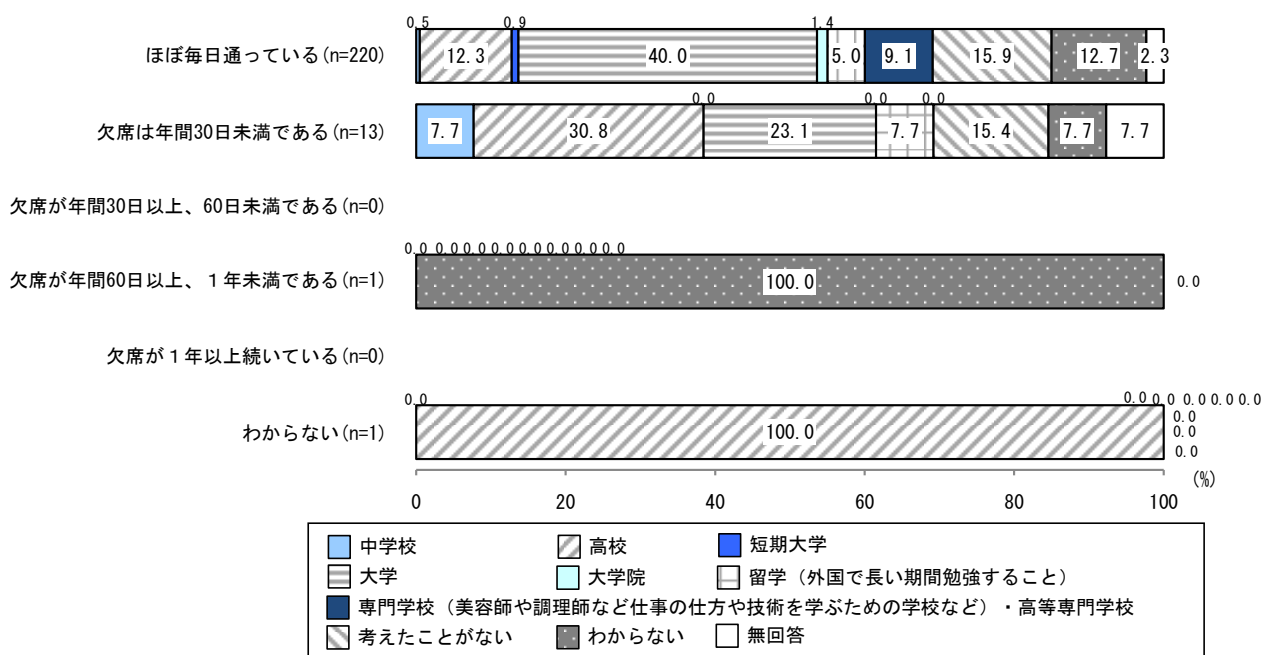
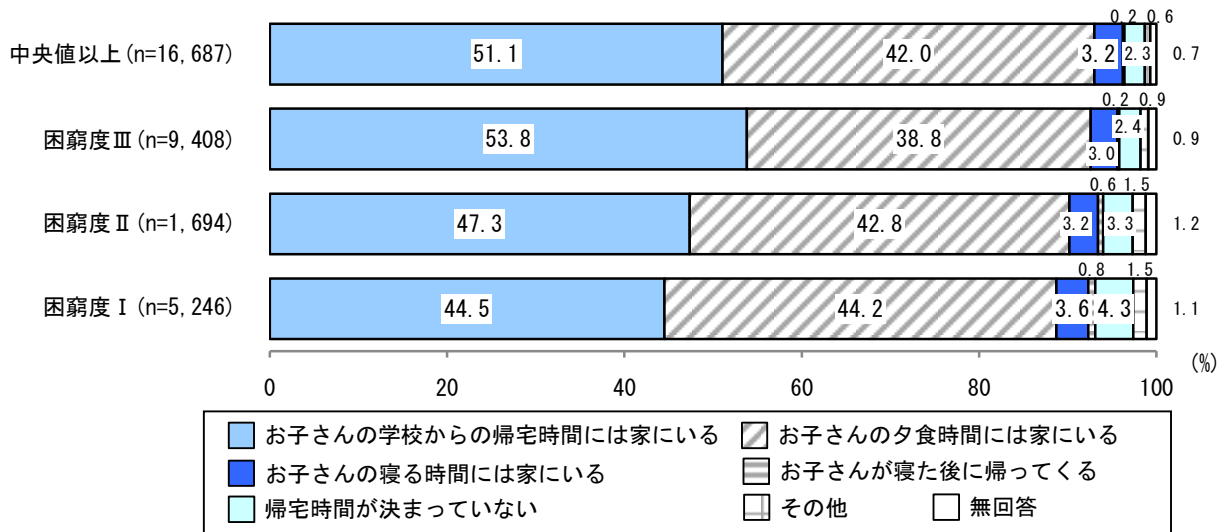


図 137. 子どもの通学状況別に見た、希望する進学先

子どもの通学状況別に希望する進学先を見ると、「大学」はほぼ毎日通っていると回答した人の割合が40.0%で最も高く、「高校」は欠席は年間30日未満であると回答した人の割合が30.8%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯（保護者票問 10）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

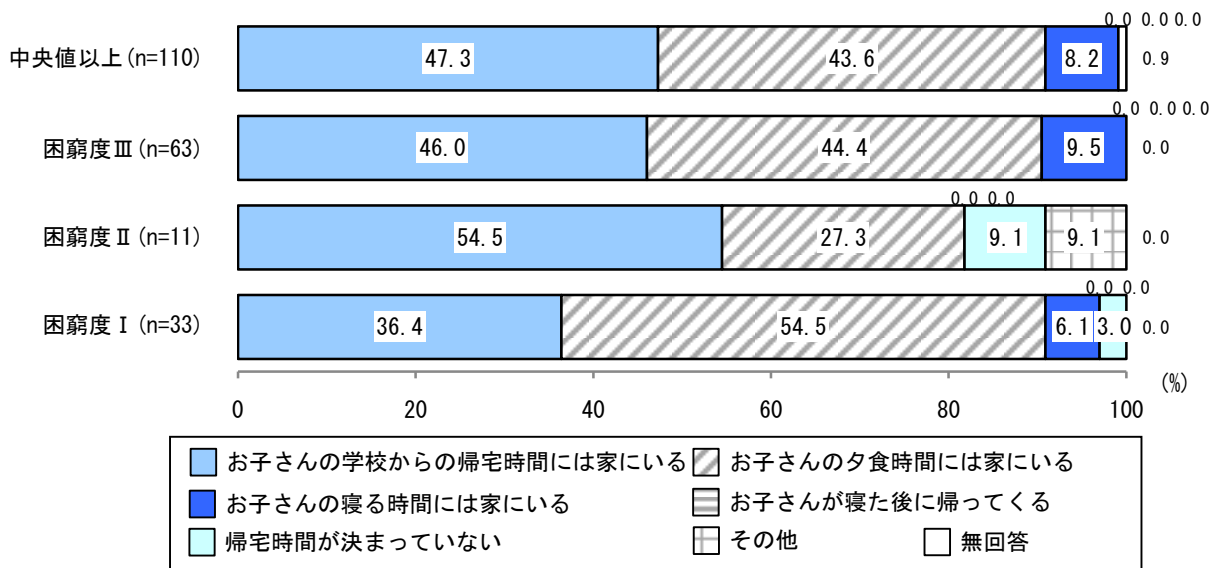
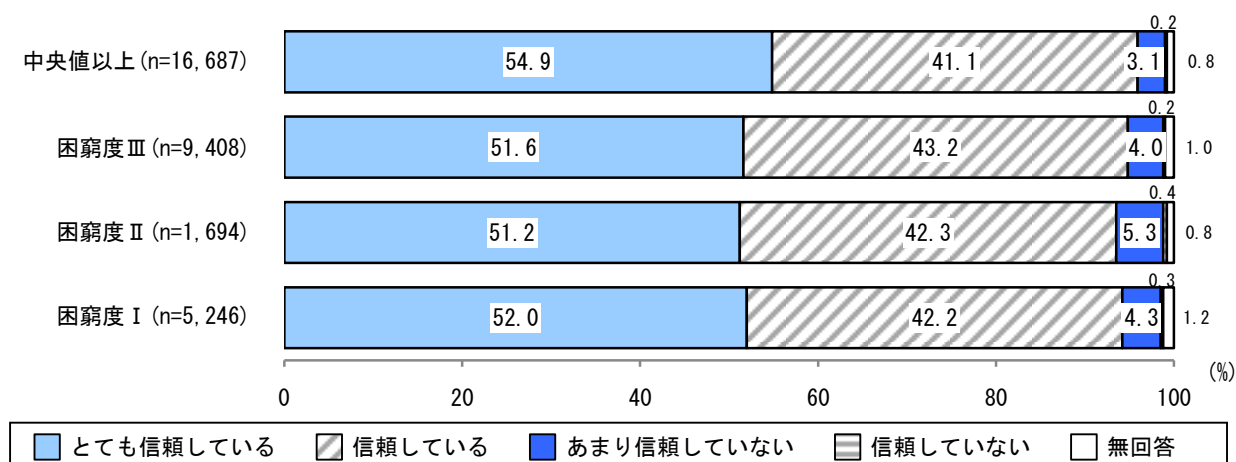


図 138. 困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯

困窮度別に保護者が家にいる時間帯を見ると、困窮度Ⅰ群で「お子さんの学校からの帰宅時には家にいる」と回答した割合が36.4%と最も低くなっている。

困窮度別に見た、子どもへの信頼度（保護者票問 13(1)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

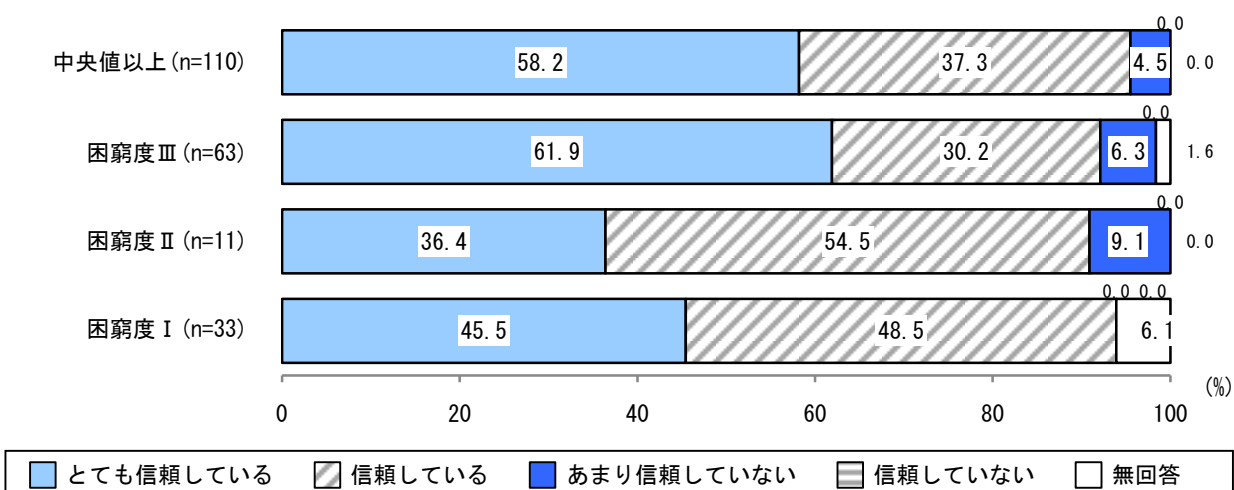
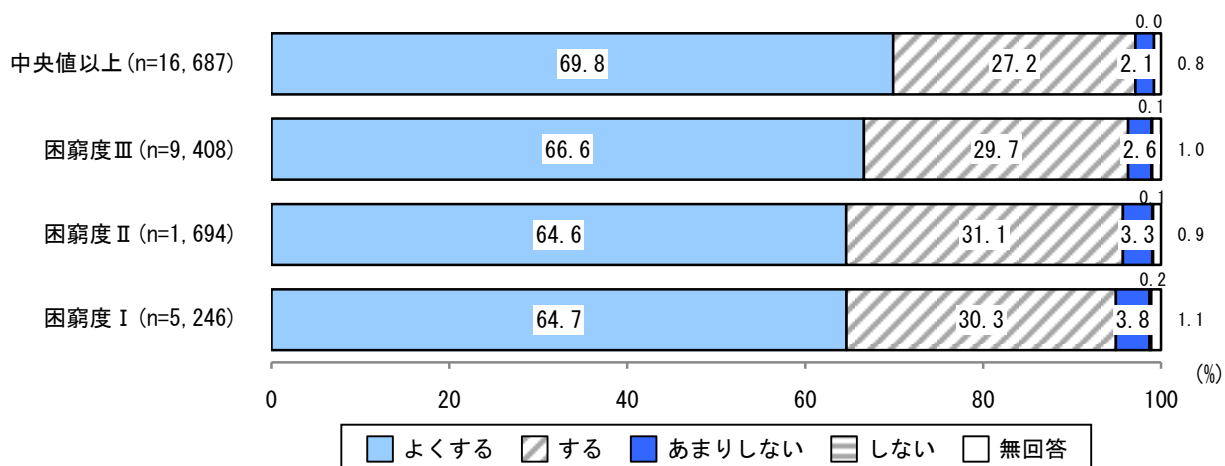


図 139. 困窮度別に見た、子どもへの信頼度

困窮度別に子どもへの信頼度を見ると、「とても信頼している」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群が36.4%で最も低く、困窮度Ⅲ群が61.9%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもとの会話頻度（保護者票問 13(2)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

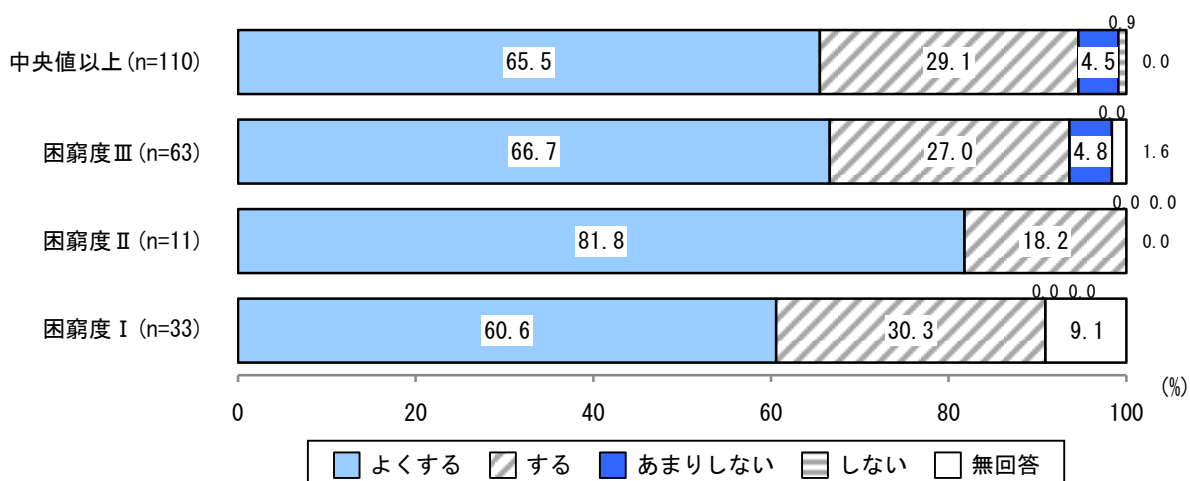
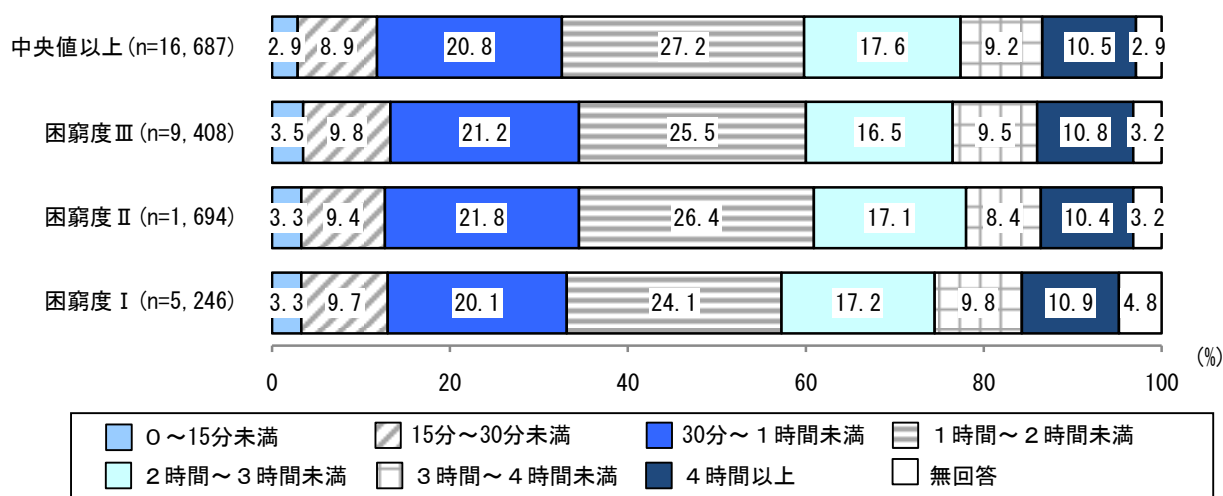


図 140. 困窮度別に見た、子どもとの会話頻度

困窮度別に子どもとの会話頻度を見ると、困窮度Ⅰ群では「よくする」と回答した割合が最も低く、60.6%となっている。

困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

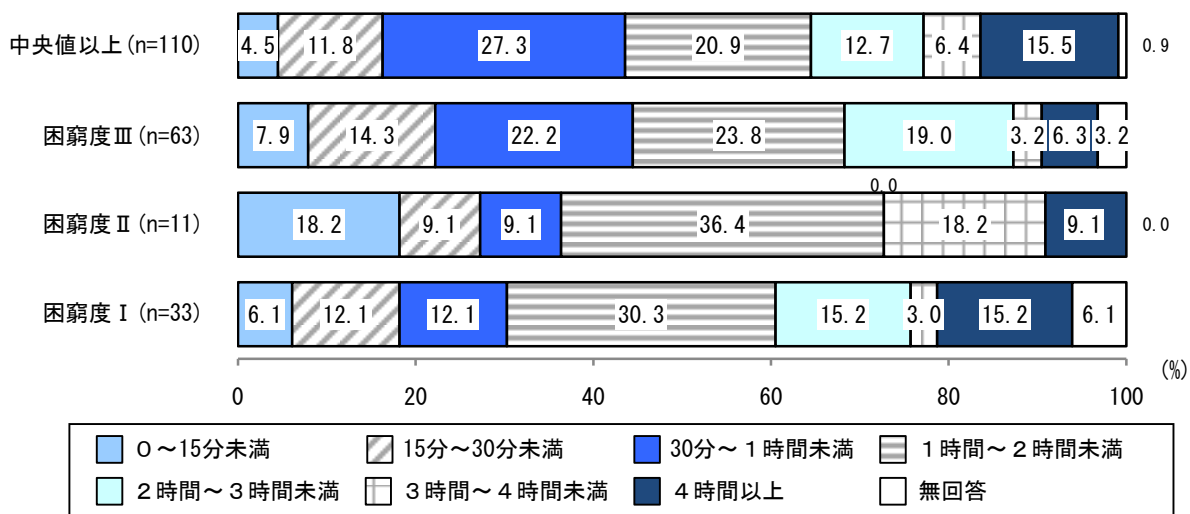
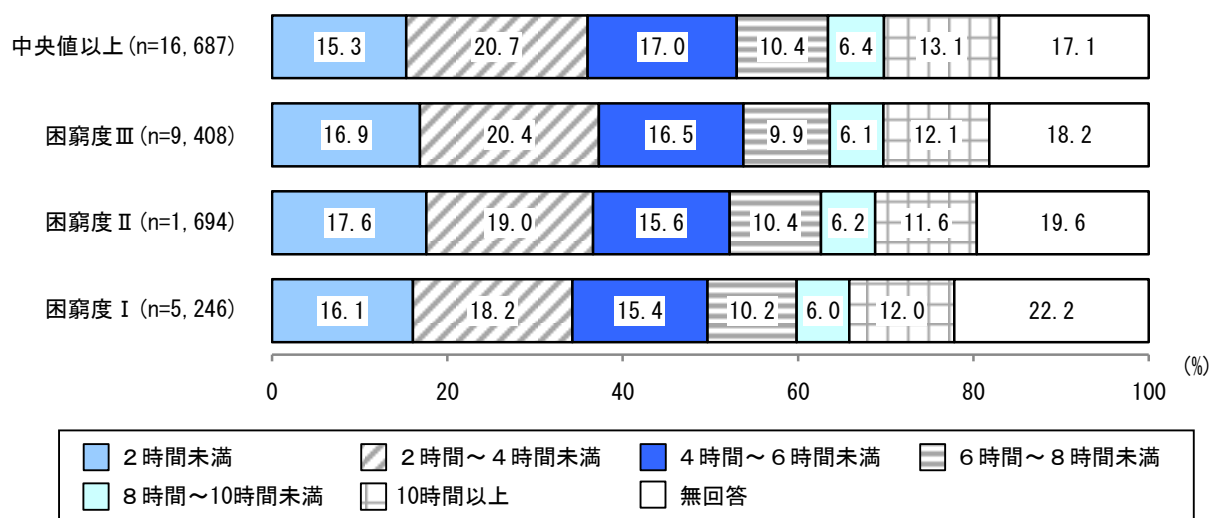


図 141. 困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

困窮度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「4時間以上」と回答した割合が中央値以上群で15.5%と最も高くなっている。一方で、「0～15分未満」と回答した割合が困窮度Ⅱ群で18.2%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

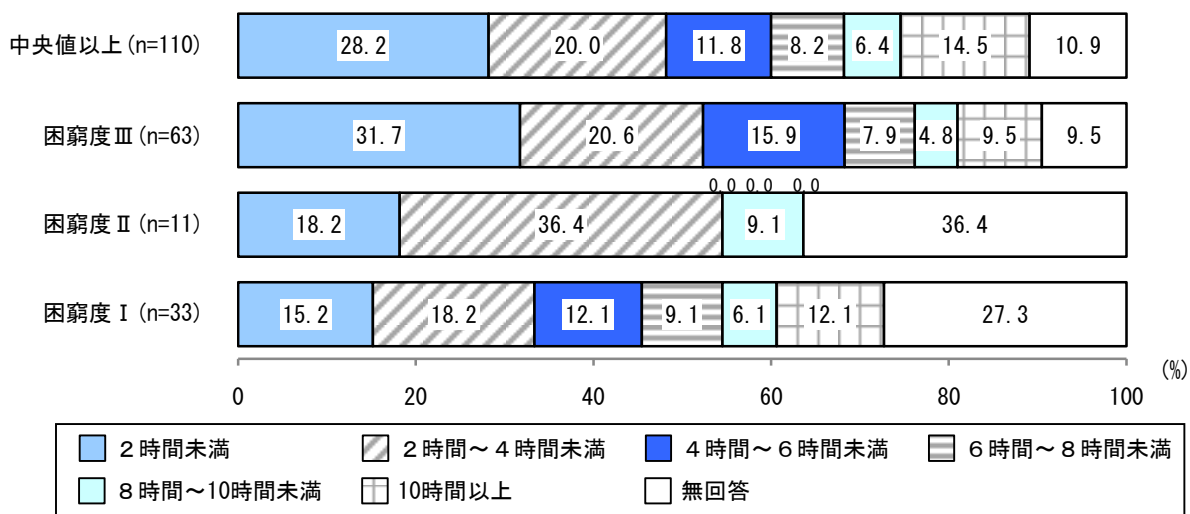
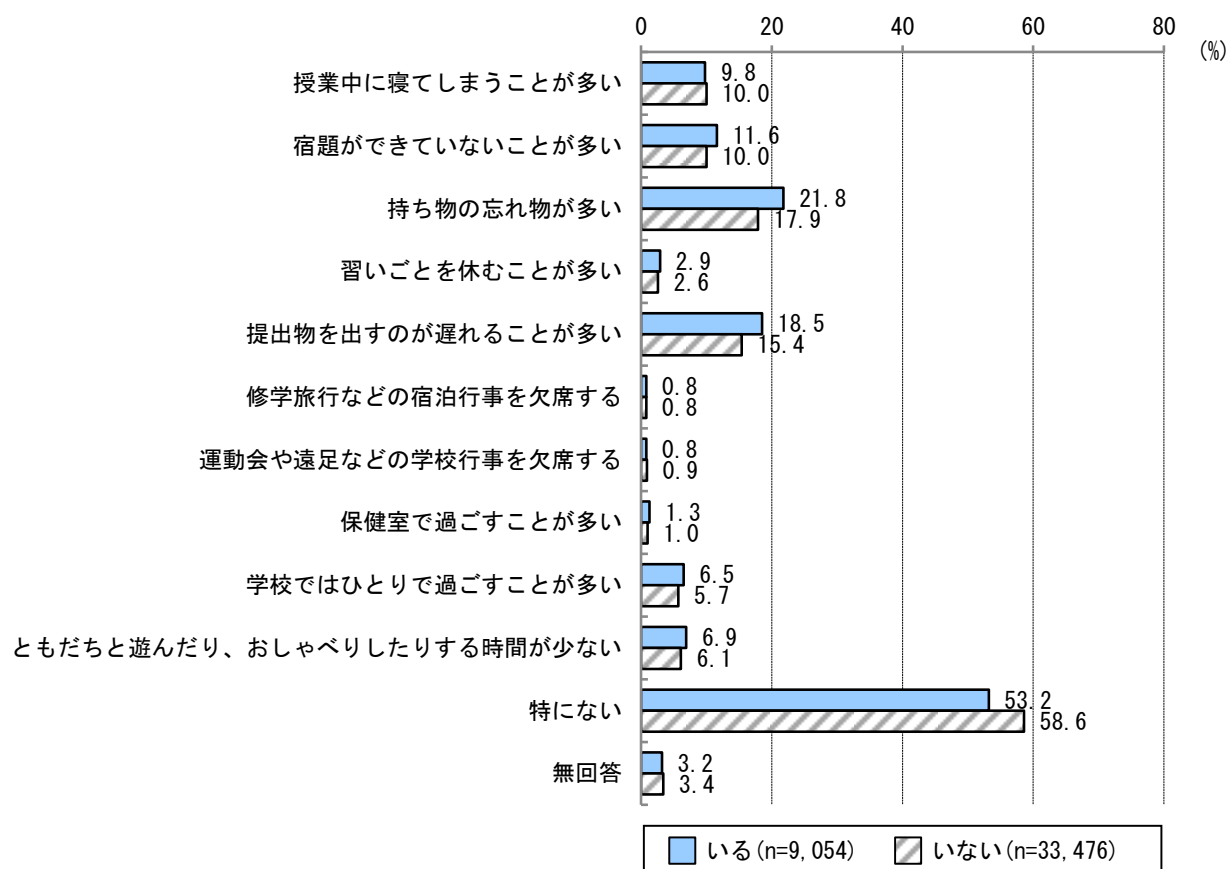


図 142. 困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

困窮度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「2時間未満」と回答した割合が困窮度Ⅲ群で31.7%と最も高くなっている。また、「2～4時間未満」と回答した割合は困窮度Ⅱ群で36.4%と最も高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 16)

<大阪府内全体>



＜四條畷市＞

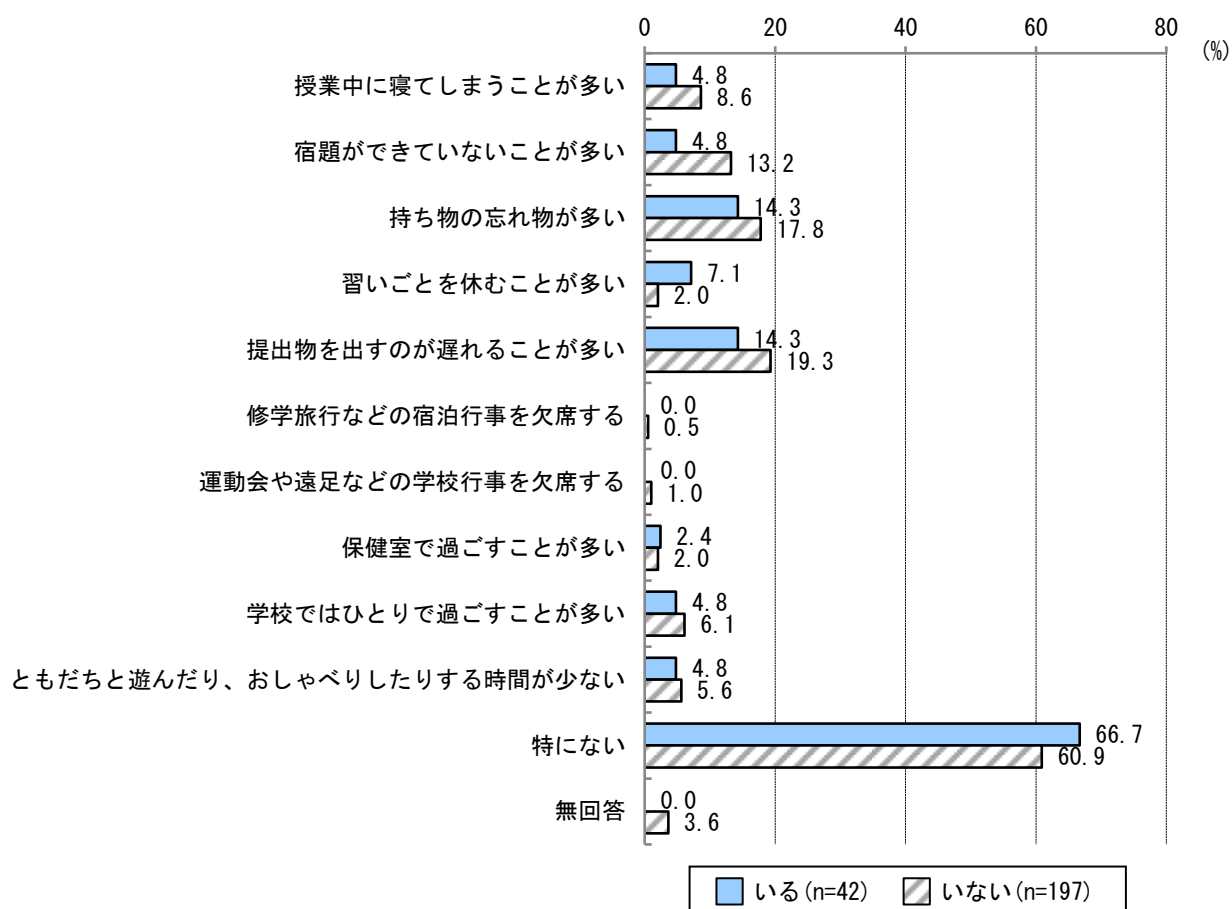
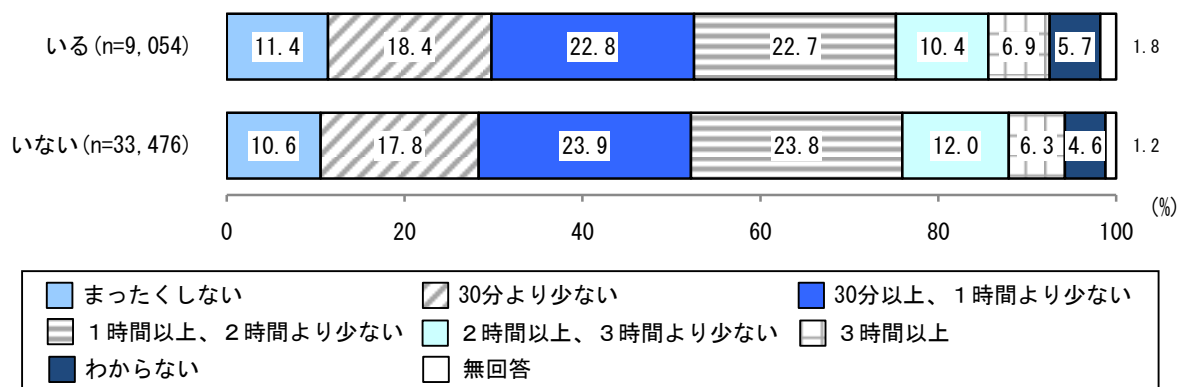


図 143. 自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況

自分が世話をしている人の有無別に学校や学校の行事等の状況を見ると、「習いごとを休むことが多い」、「保健室で過ごすことが多い」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」割合より「いる」割合のほうが高くなっているものの、「特にない」を除くその他の項目では、世話をしている人が「いる」割合より「いない」割合のほうが高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問26(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

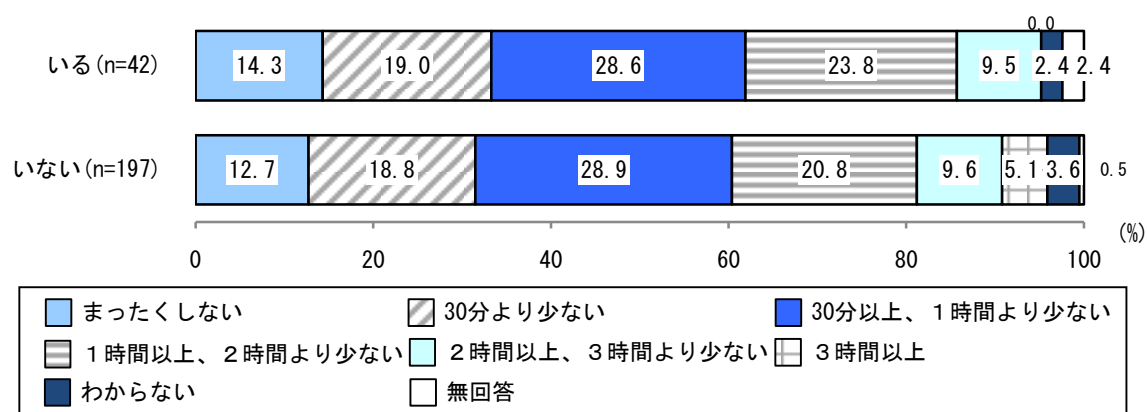
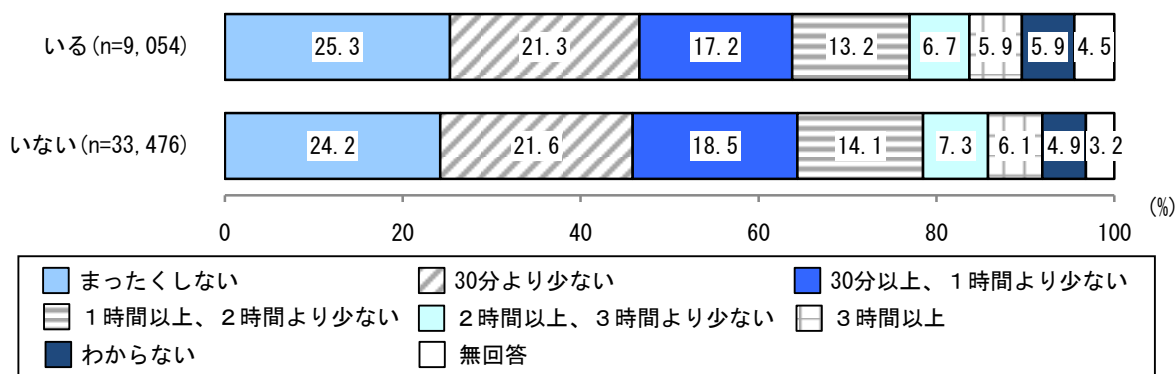


図 144. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ても、大きな差はみられない。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問26(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

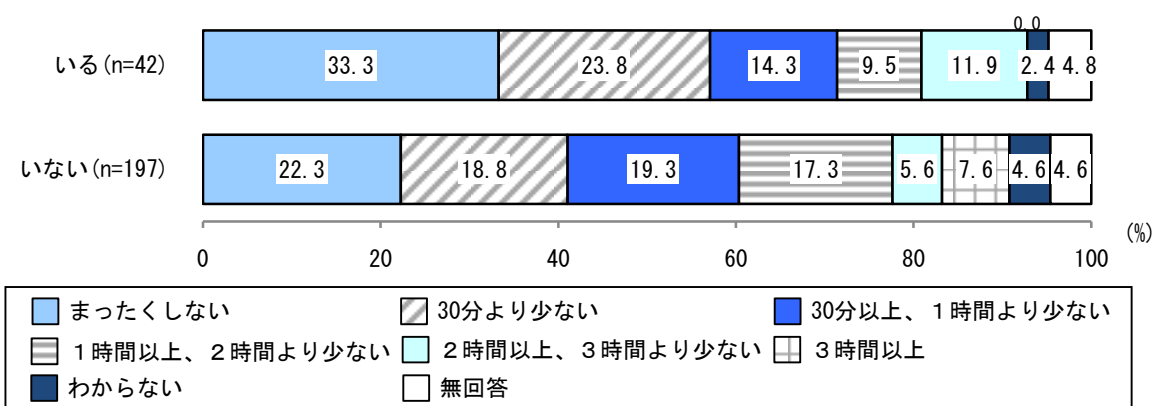


図 145. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」人より「いる」人のほうが割合が高く、33.3%となっている。

お母さんの最終学歴別に見た、子どもに希望する進学（保護者票問 8 × 保護者票問 14）

＜四條畷市＞

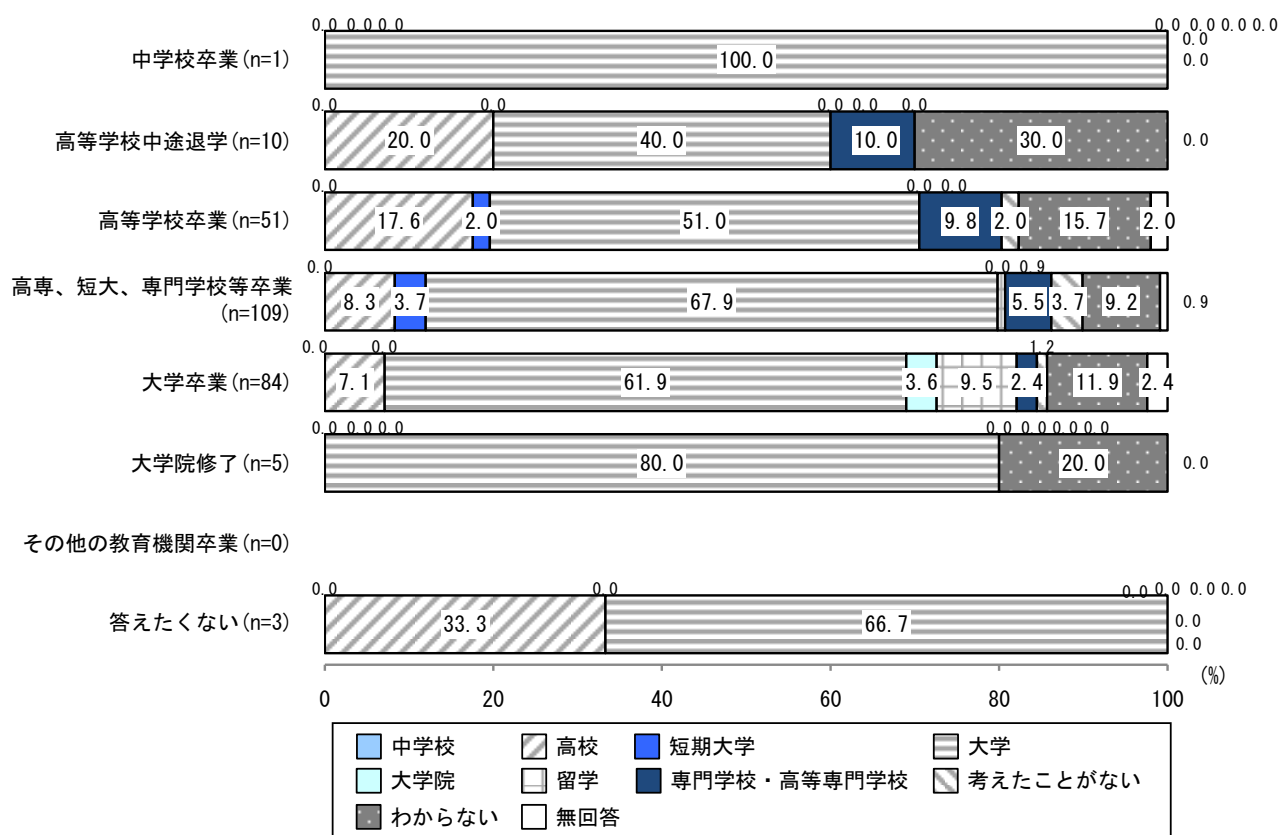


図 146. お母さんの最終学歴別に見た、子どもに希望する進学

お母さんの最終学歴別に子どもに希望する進学を見ると、いずれの最終学歴の人も「大学」を希望する人が最も多くなっている。

お父さんの最終学歴別に見た、子どもに希望する進学（保護者票問 8 × 保護者票問 14）

<四條畷市>

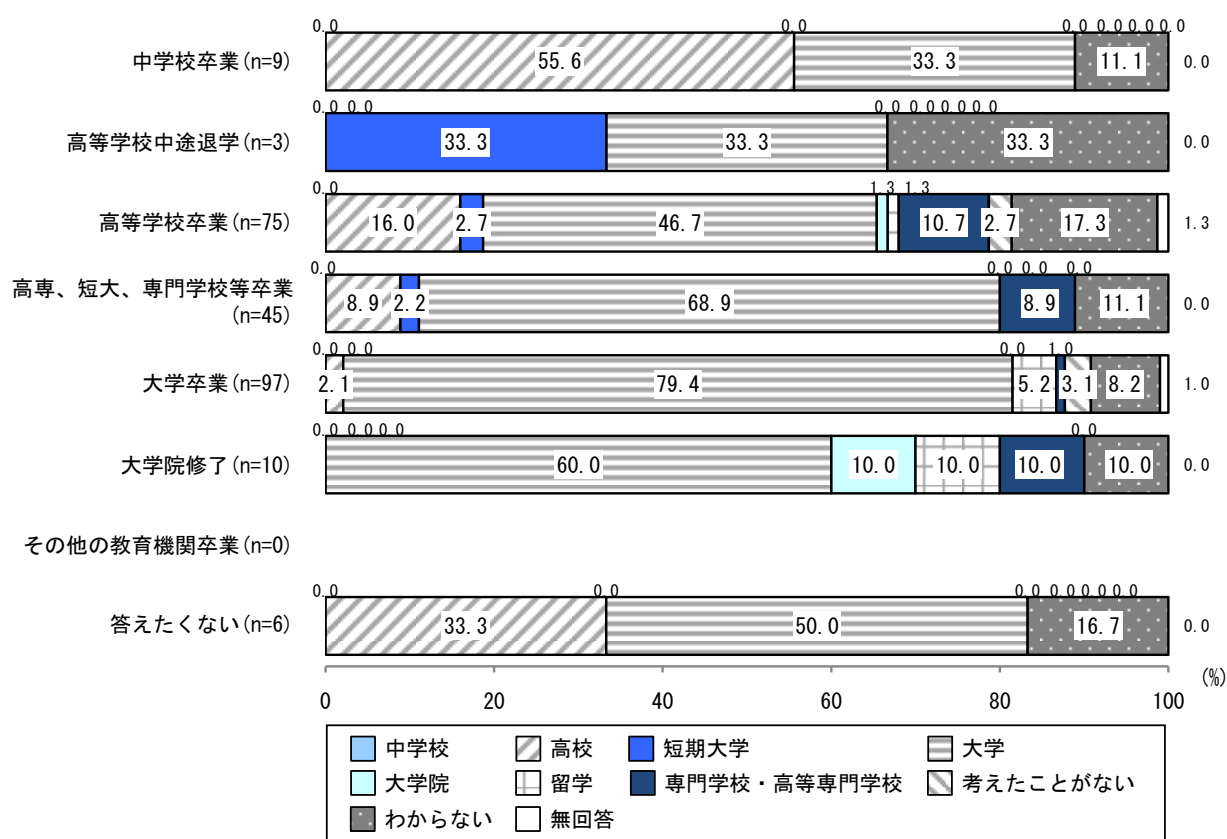


図 147. お父さんの最終学歴別に見た、子どもに希望する進学

お父さんの最終学歴別に子どもに希望する進学を見ると、お父さんの最終学歴が高等学校卒業以上と回答した人で「大学」を希望する人が最も多くなっている。

<家庭生活・学習に関する考察>

まず、経済状況と家庭生活における子どもと保護者のかかわりの関連について、困窮度が中央値以上群と困窮度Ⅰ群間の差に着目して確認する。おうちの大人の人と一緒に朝食を食べる頻度を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「ほとんどない」と「まったくない」の合計（21.9%対14.0%）が7.9ポイント高くなっている。一方、保護者が家にいる時間帯を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」（47.3%対36.4%）が10.9ポイント高くなっている。さらに、保護者と子どもとの関係を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、子どものことを「とても信頼している」（58.2%対45.5%）と回答した割合が12.7ポイント高くなっている。これらの結果から、経済的に困難な世帯の子どもは朝食を保護者と一緒に食べる習慣がなく、保護者と信頼関係を築きにくくなっている可能性が示唆された。

次に、学校への遅刻状況と家庭生活における子どもと保護者のかかわりの関連について確認する。「遅刻はしない」群は「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群と比べ、「おうちの大人の人と一緒に朝食を食べている」ことでは「ほとんど毎日」（56.5%対36.4%）が20.1ポイント、「おうちの大人の人と学校のできごとについて話す」ことでは「ほとんど毎日」（49.5%対27.3%）は22.2ポイント、高くなっている。一方、「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群は「遅刻はしない」群と比べ、「おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりする」ことでは「まったくない」（18.2%対7.9%）が10.3ポイント、「おうちの大人の人と一緒に外出する」ことでは「ほとんどない」と「まったくない」の合計（18.2%対3.7%）が14.5ポイント、保護者の子どもの将来に対する期待度では「あまり期待していない」と「期待していない」の合計（36.4%対11.8%）が24.6ポイント高くなっている。これらの結果から、遅刻は保護者との日常的なかかわりや、保護者の子どもへの期待に影響している可能性が示された。また、遅刻をしてしまうと授業を十分に受けることができなくなるため、結果として保護者は子どもの将来に対して期待を抱きにくくなっている可能性も考えられる。

経済状況と子どもの学習にかかわる習慣や学習理解度、進学希望の関連について、困窮度が中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間の差に着目して述べる。通学状況を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「ほぼ毎日通っている」（95.5%対81.8%）が13.7ポイント高くなっている。学校がある日の勉強時間では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「まったくしない」（25.0%対8.6%）が16.4ポイント、学校がない日の勉強時間では、「まったくしない」（34.4%対19.4%）が15.0ポイント高くなっている。文化活動を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、おうちの大人の人と文化活動をする頻度において「ほとんどない」（25.0%対16.1%）が8.9ポイント、授業以外の読書時間において「まったくしない」（43.8%対32.3%）が11.5ポイント高くなっている。学習理解度を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「よくわかる」（36.6%対18.8%）が17.8ポイント高くなっている。希望進学先を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、子ども自身の希望する進学先で「大学」（47.3%対31.3%）が16.0ポイント、保護者の希望する進学先で「大学」（72.7%対48.5%）が24.2ポイント高くなっており、大きな開きがある。これらの結果から、経済的に困難な世帯の子どもは、通学が困難になっており、学習習慣や読書習慣、家庭内での文化活動の習慣も乏しいため、学習理解が不十分になっている可能性が示唆された。また、子ども自身も保護者も大学以上への進学を望まなくなっており、このことは経済的事情や学習理解の低さが影響している可能性がある。

続いて、朝の習慣や学校への遅刻状況と子どもの学習にかかわる習慣の関連について確認する。起床時間の規則性に学習時間を見ると、ほぼ同じ時刻に「起きていない」・「あまり起きていない」群は「起きている」・「どちらかといえば、起きている」群と比べ、学校がある日の勉強時間

では「まったくしない」(33.3%対11.5%)が21.8ポイント高くなっている。朝食の頻度別に見ると、週に1回以下しか朝食を食べない群は週に2回以上朝食を食べる群に比べ、学校がある日の勉強時間では「まったくしない」(33.3%対12.3%)が21.0ポイント高くなっている。学校への遅刻の頻度別では、「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群は「遅刻しない」群に比べ、「おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話す」ことにおいて「まったくしない」(18.2%対8.3%)が9.9ポイント、学習理解度において「ほとんどわからない」と「わからない」の合計(18.2%対4.2%)が14.0ポイント高くなっている。一方、「遅刻しない」群は「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群と比べ、子ども自身の進学希望先で「大学」(41.2%対18.2%)と回答する割合が23.0ポイント高くなっている。これらの結果から、朝の習慣が身につけていないことは、学習習慣や学習理解度、将来の進学期待に影響を及ぼしている可能性が示唆された。

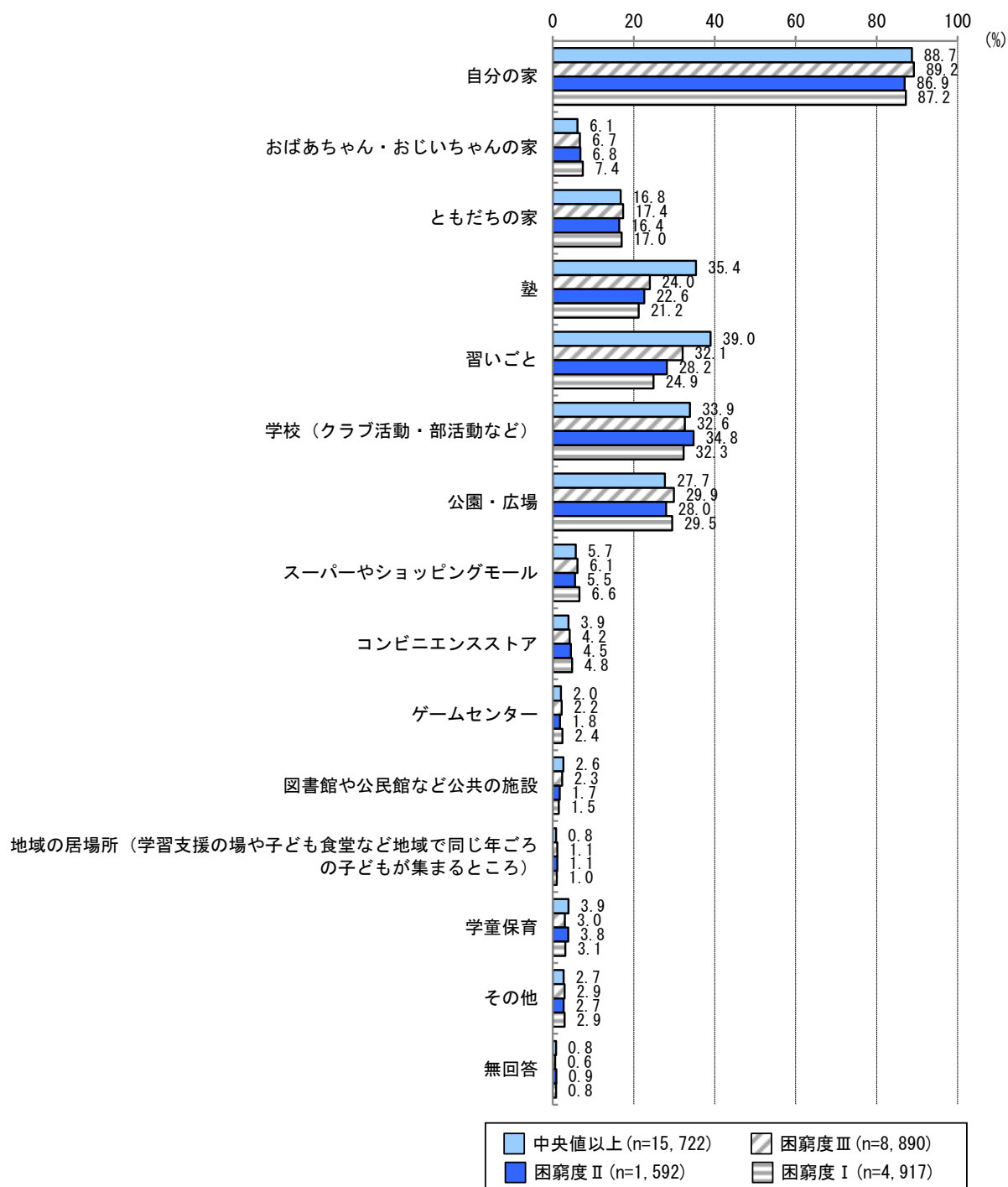
最後に、家庭背景と子どもの学習状況の関連について確認する。まず、母親の最終学歴別に保護者が子どもに希望する進学先を見ると、母親が「大学卒業」群は「高等学校卒業」群と比べ、子どもに「大学」(61.9%対51.0%)進学を希望する割合が10.9ポイント高くなっている。また、父親の最終学歴別で見ると、父親が「大学卒業」群は「高等学校卒業」群と比べ、「大学」(79.4%対46.7%)を希望する割合が32.7ポイント高くなっている。さらに、子どもが世話をしている人の有無別の勉強時間を見ると、世話をしている人が「いる」群は「いない」群と比べ、学校がない日の勉強時間において「まったくしない」(33.3%対22.3%)が11.0ポイント高くなっている。これらの結果から、保護者の最終学歴や世話をしている人の有無によって、子どもの学習習慣の形成や将来の進学希望に影響を及ぼす可能性が示唆された。

※参照データについては一部資料編に掲載

3-5. 対人関係

困窮度別に見た、放課後を過ごす場所（子ども票問 11）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

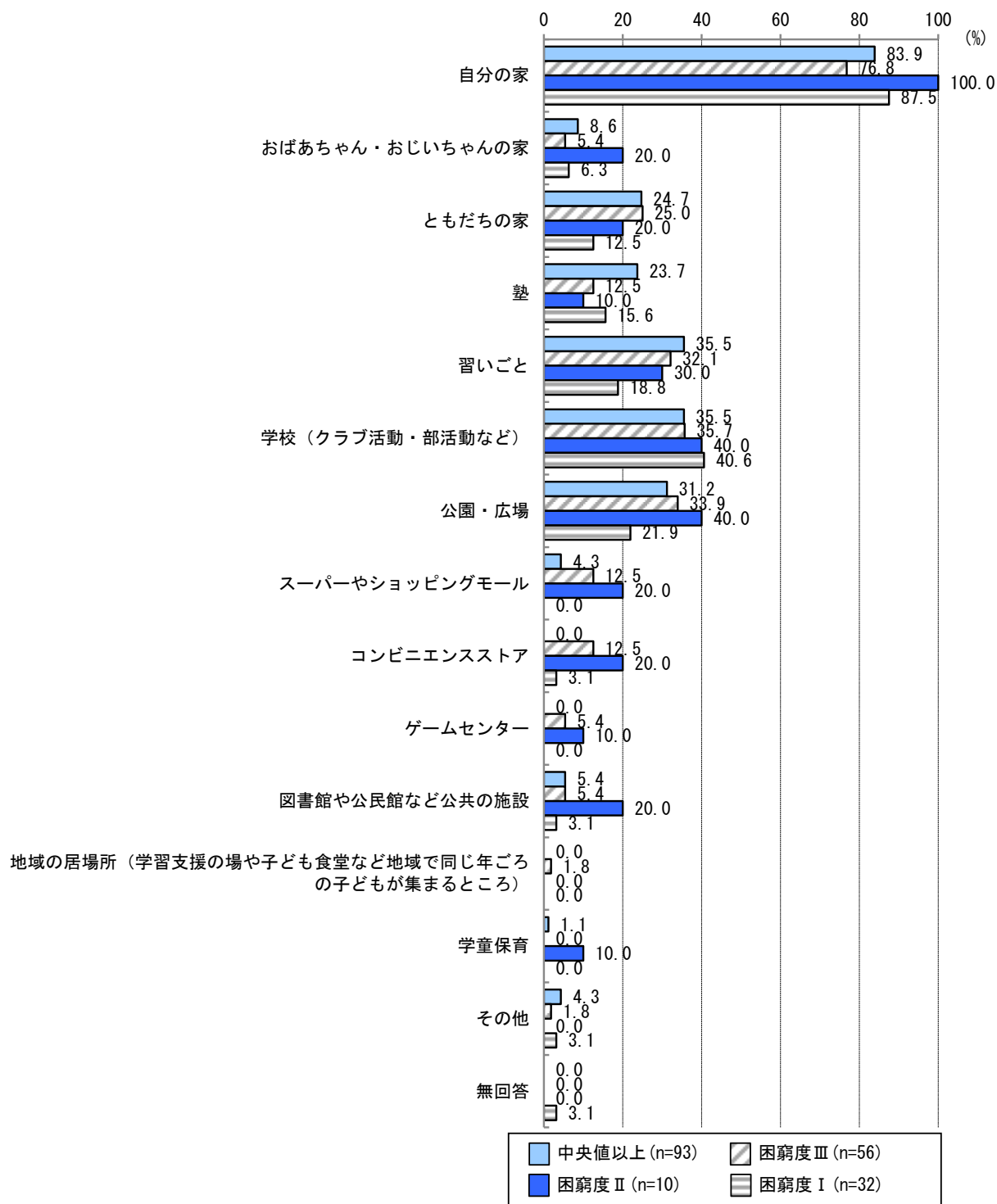
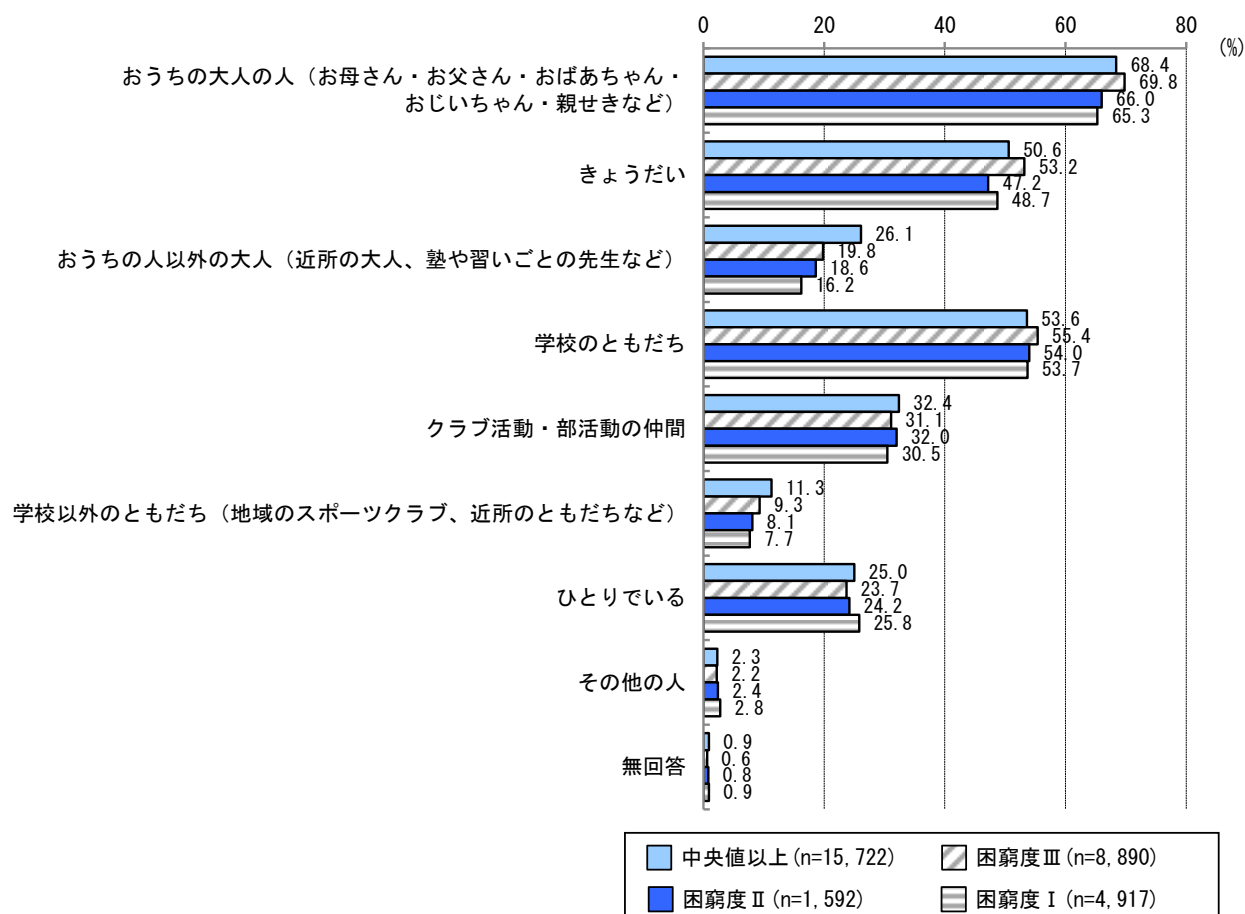


図 148. 困窮度別に見た、放課後を過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「学校（クラブ活動・部活動など）」40.6%（中央値以上群に対して1.1倍）となっている。一方、中央値以上群では、「ともだちの家」24.7%（困窮度Ⅰ群に対して2.0倍）、「習いごと」35.5%（同じく1.9倍）などが高かった。

困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人（子ども票問 10）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

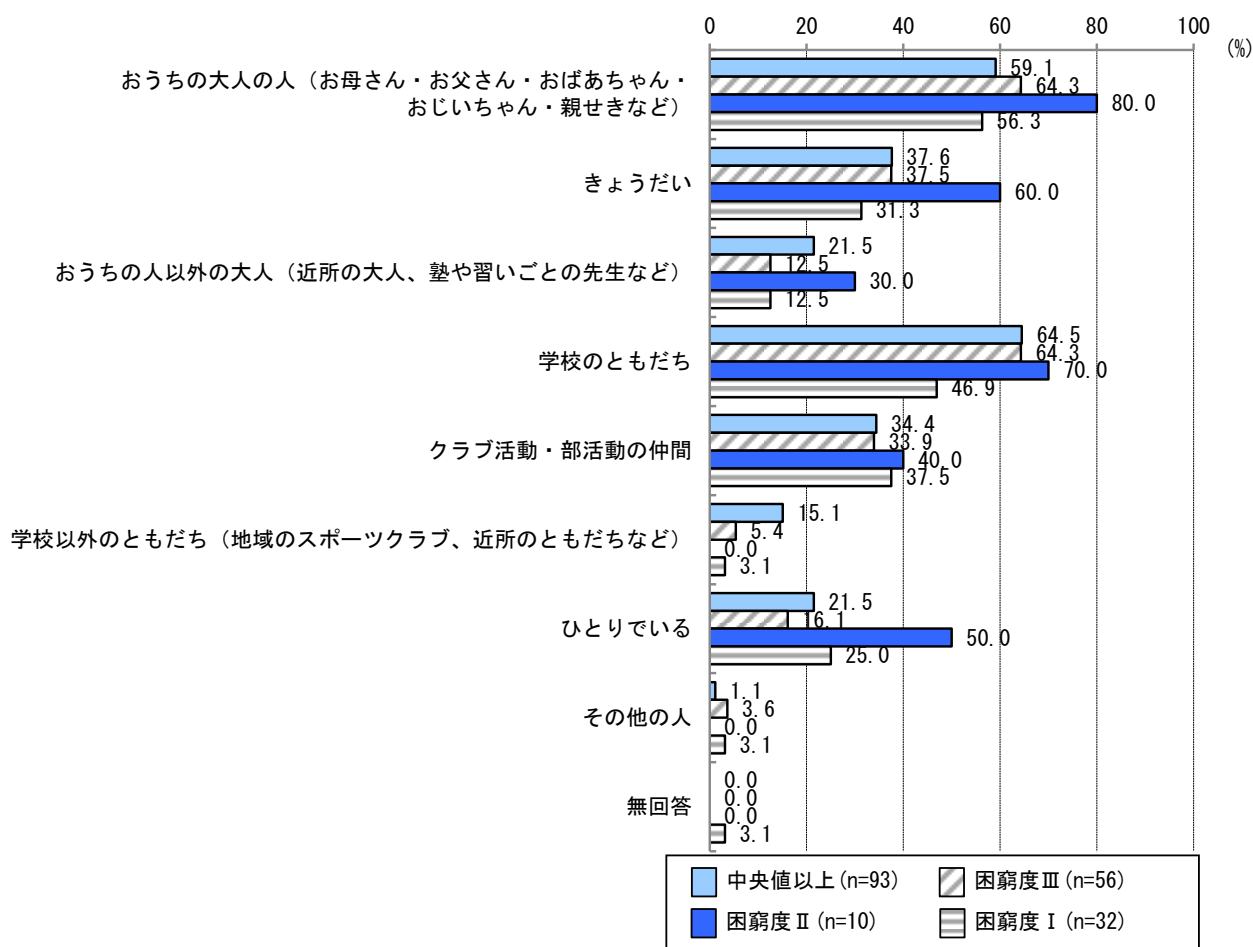
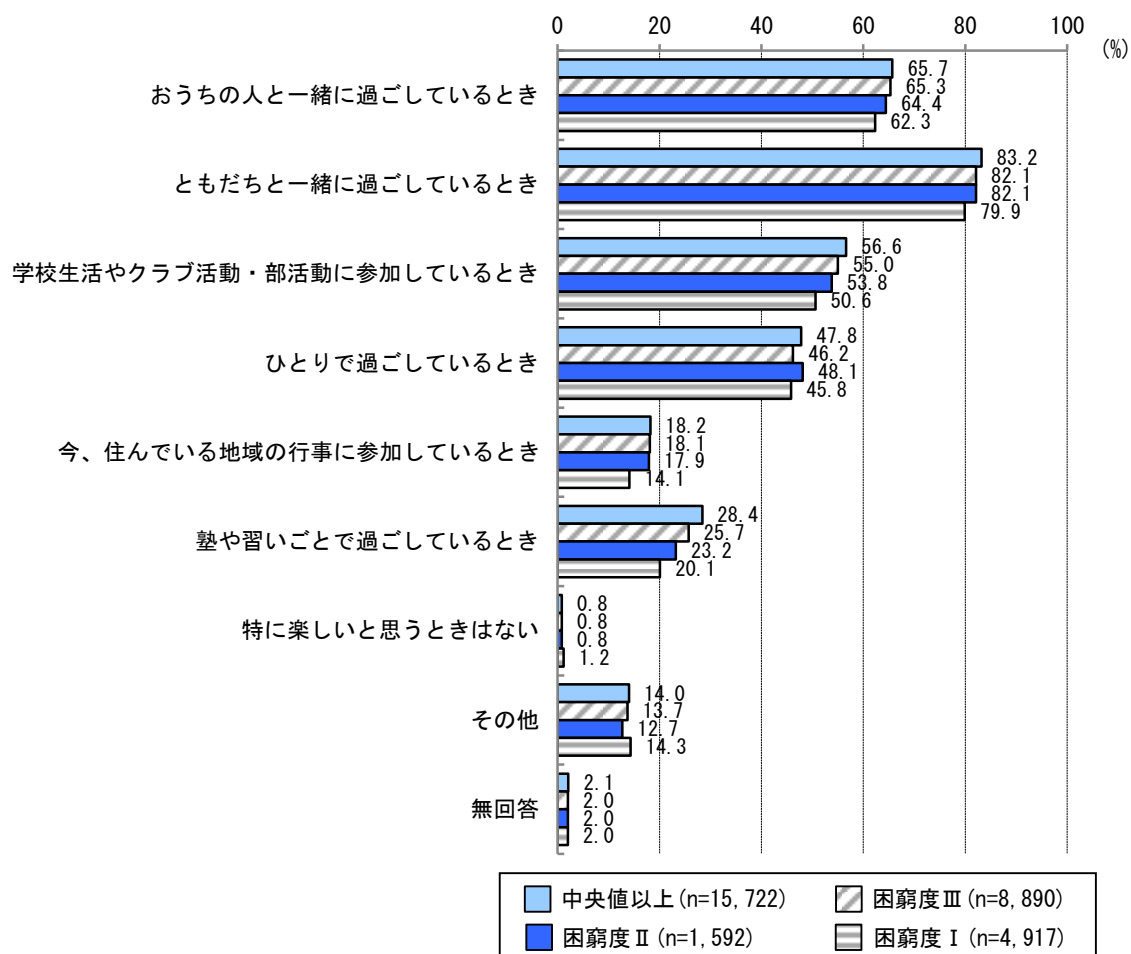


図 149. 困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、中央値以上群では「学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）」15.1%（困窮度Ⅰ群に対して4.9倍）、「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」21.5%（同様に1.7倍）、「学校のともだち」64.5%（同様に1.4倍）が高かった。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票問9）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

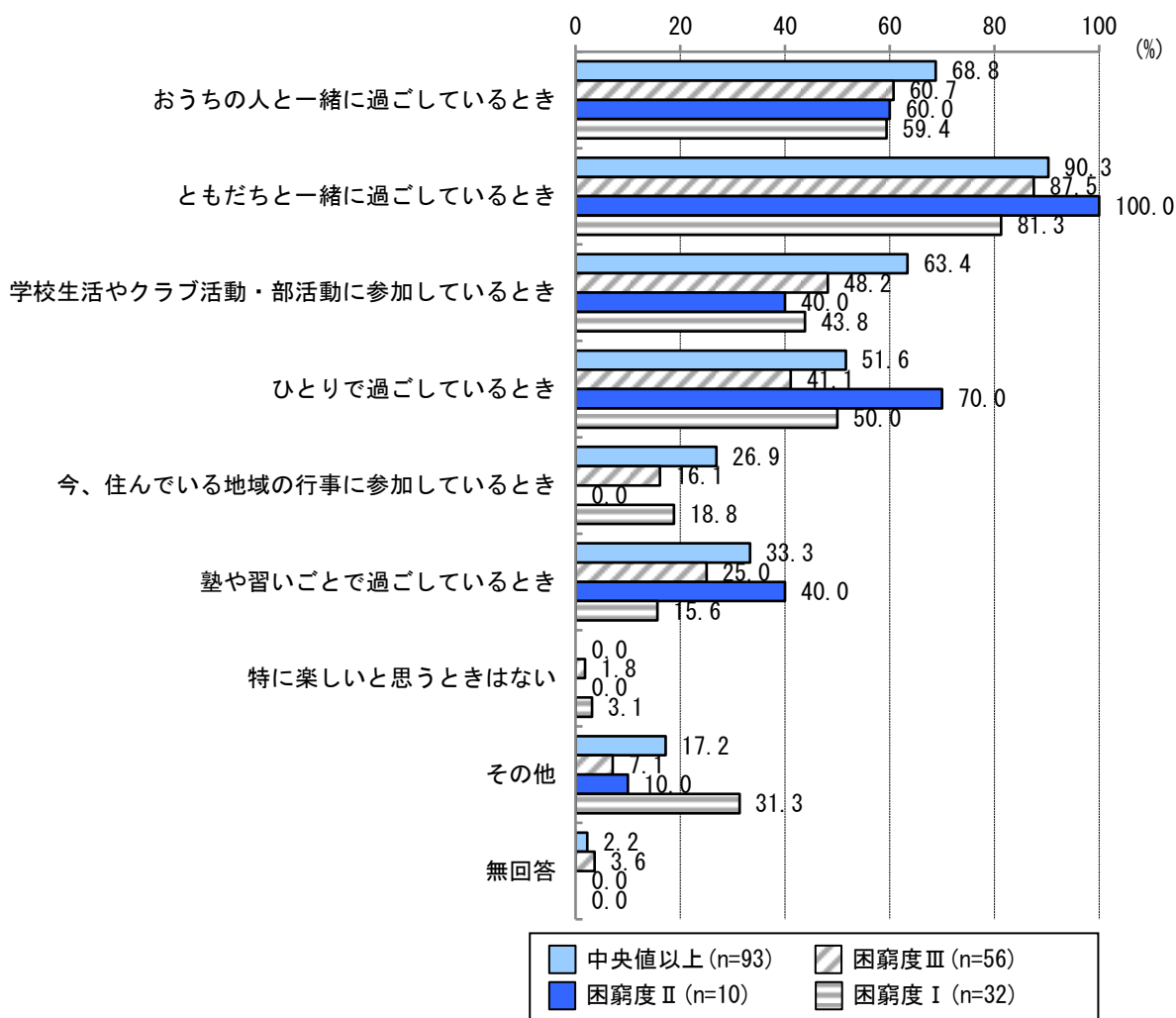
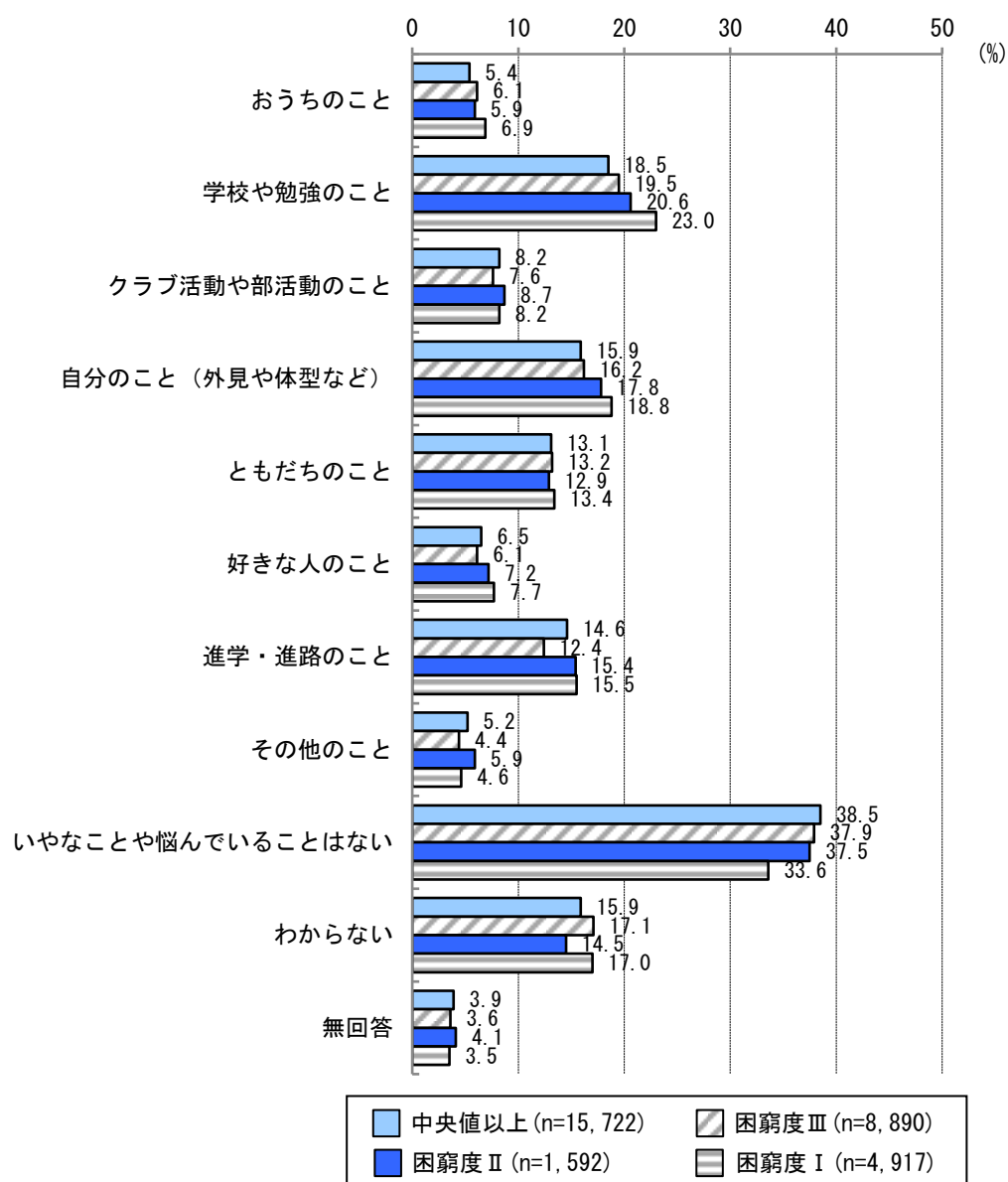


図 150. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群の数値を挙げると、「塾や習いごとで過ごしているとき」33.3%（困窮度Ⅰ群に対して2.1倍）、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」63.4%（同じく1.4倍）、「今、住んでいる地域の行事に参加しているとき」26.9%（同じく1.4倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問17）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

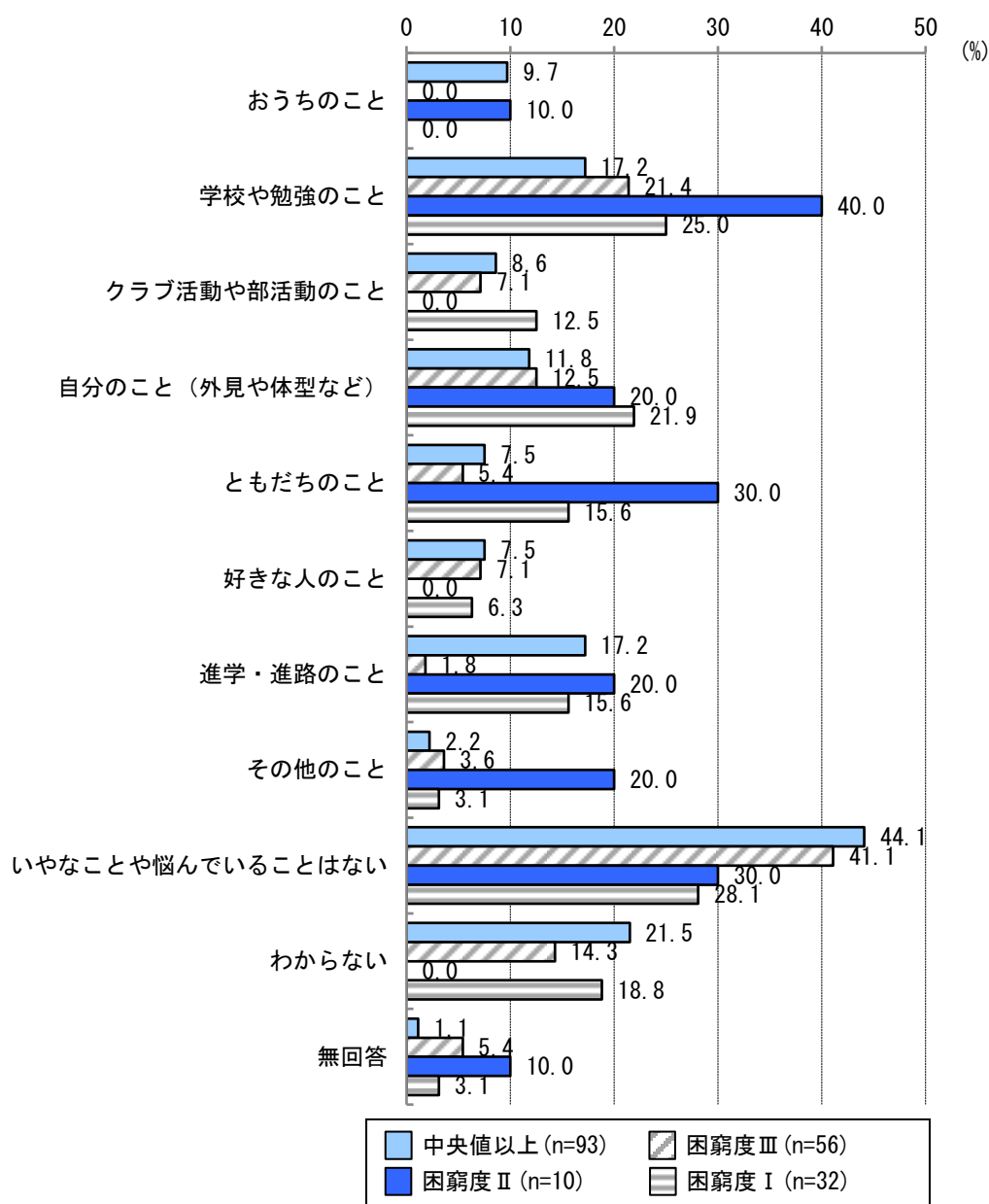
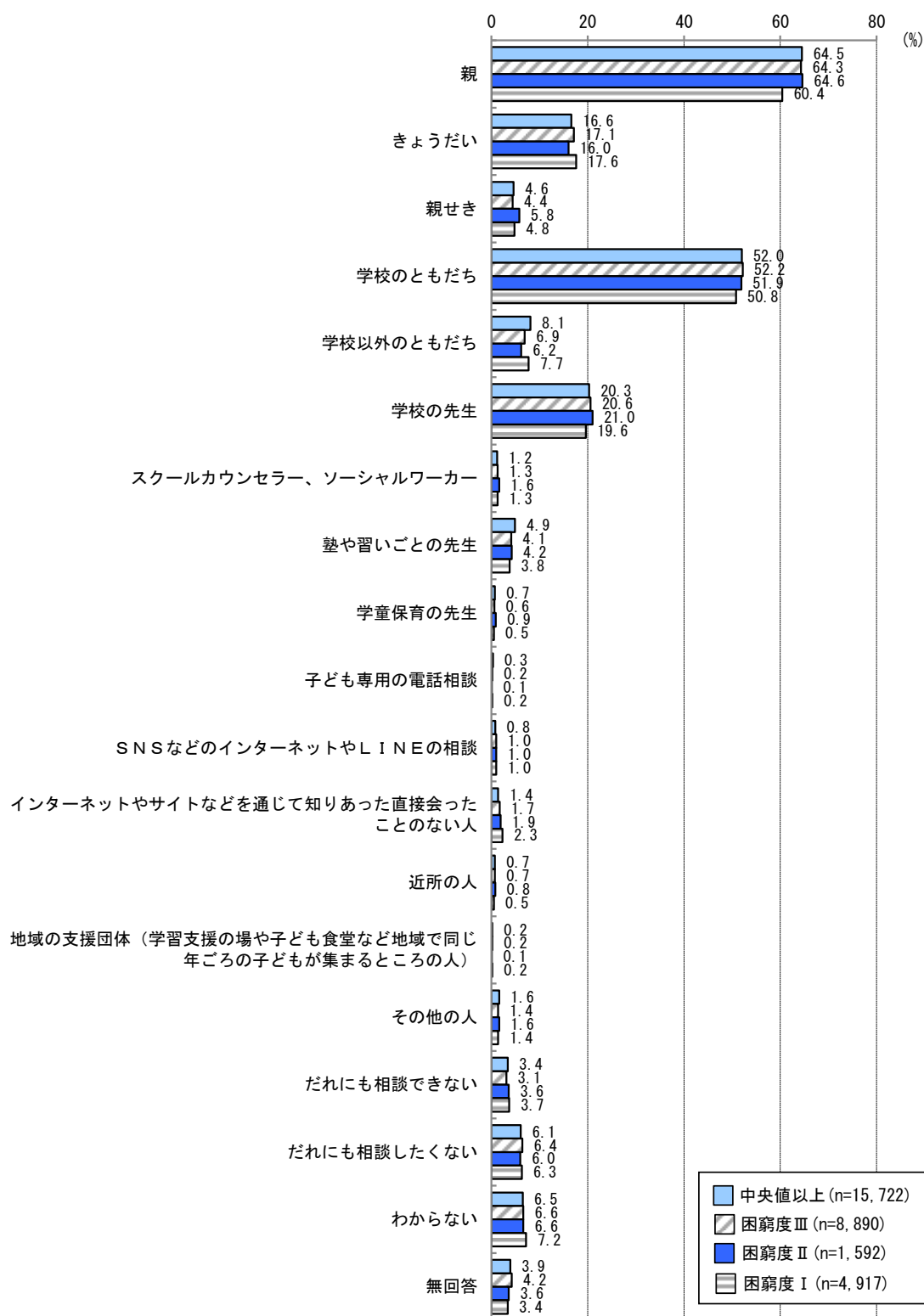


図 151. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度Ⅰ群では、「ともだちのこと」15.6%（中央値以上群に対して2.1倍）、「自分のこと（外見や体型など）」21.9%（同様に1.9倍）が高く、中央値以上群では「いやなことや悩んでいることはない」44.1%（困窮度Ⅰ群に対して1.6倍）、「好きな人のこと」7.5%（同様に1.2倍）、「進学・進路のこと」17.2%（同様に1.1倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問 18）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

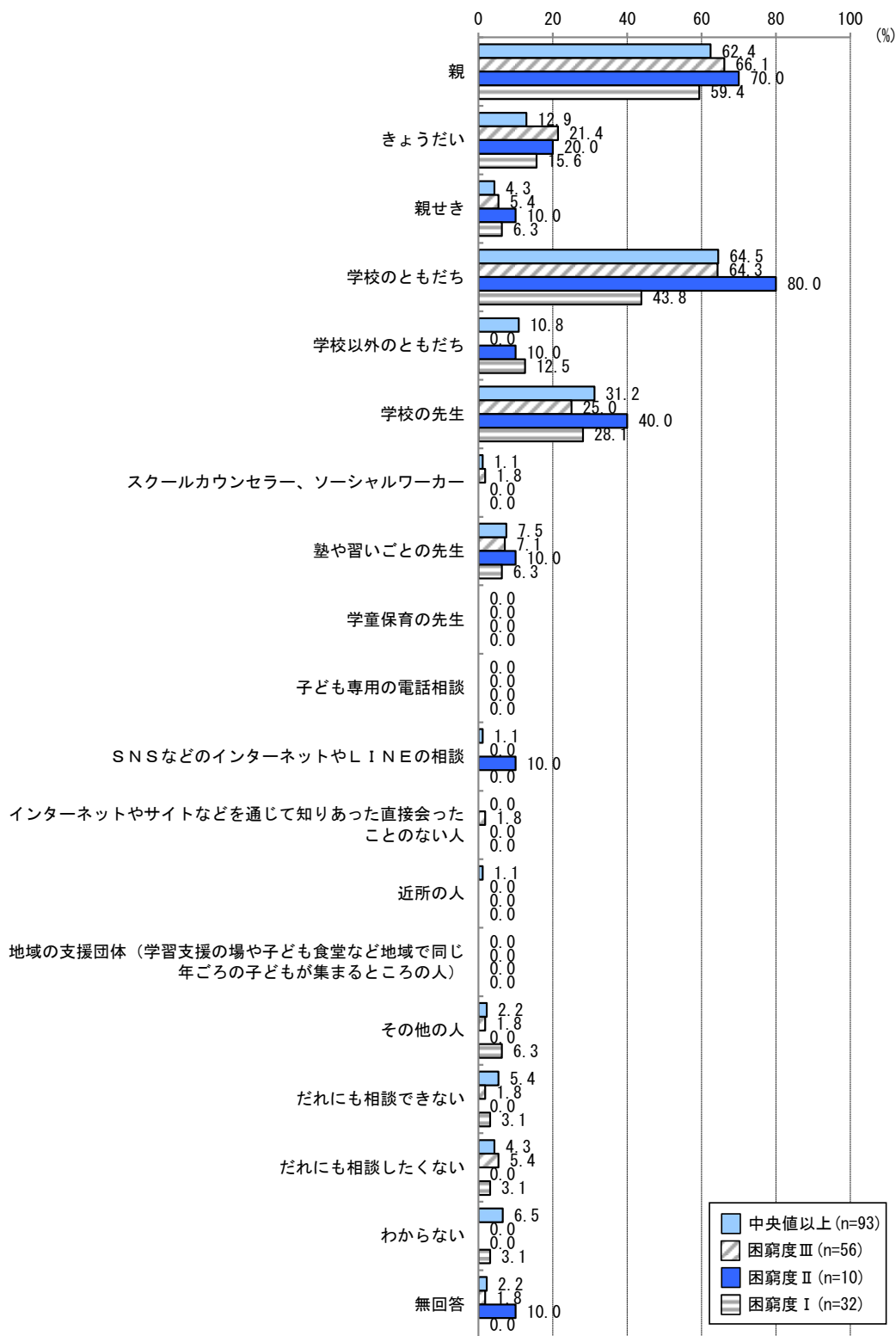
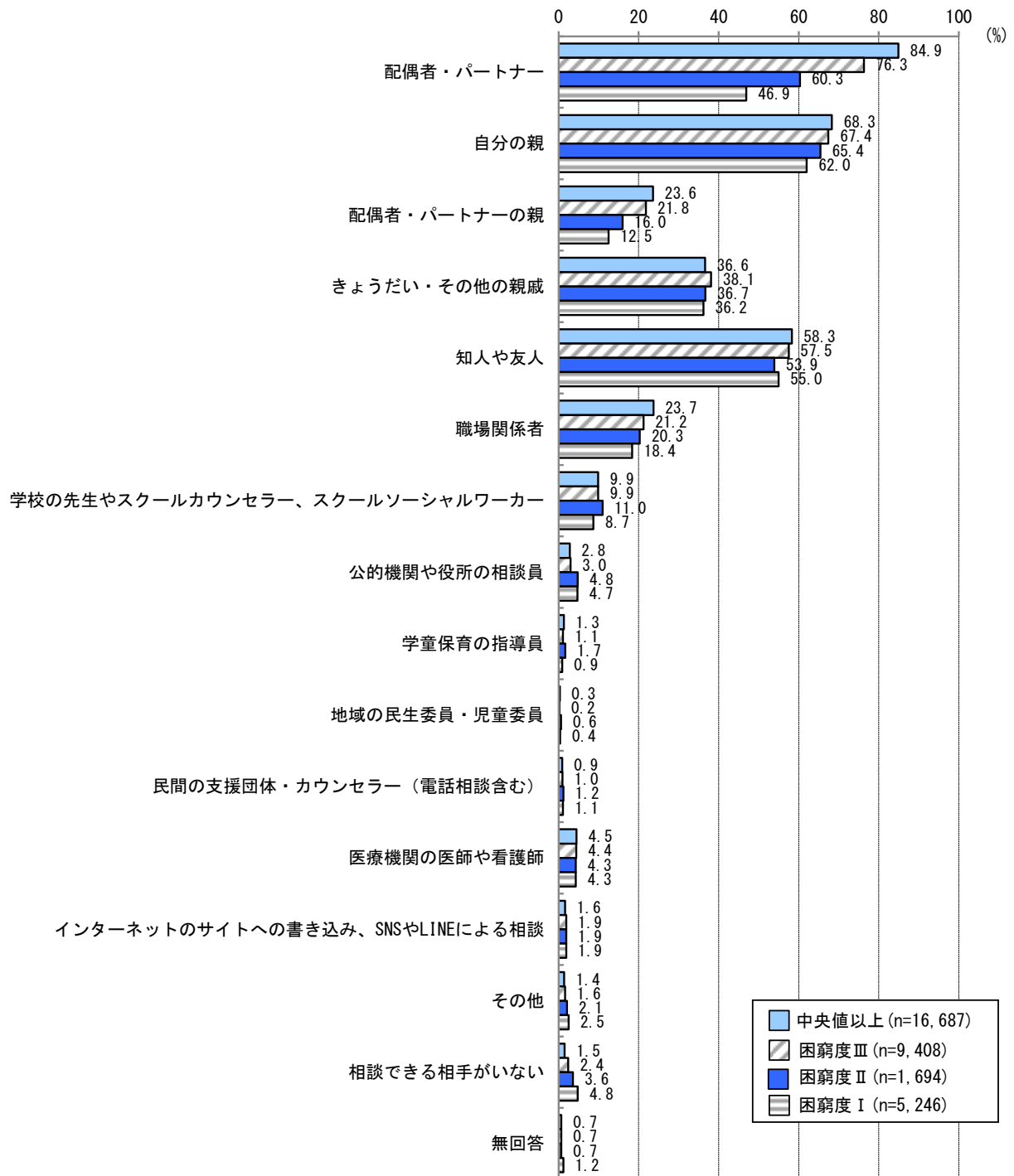


図 152. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

困窮度別に子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「その他の人」6.3%（中央値以上群に対して2.9倍）、「親せき」6.3%（同じく1.5倍）となっている。

困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 19）

<大阪府内全体>



＜四條畷市＞

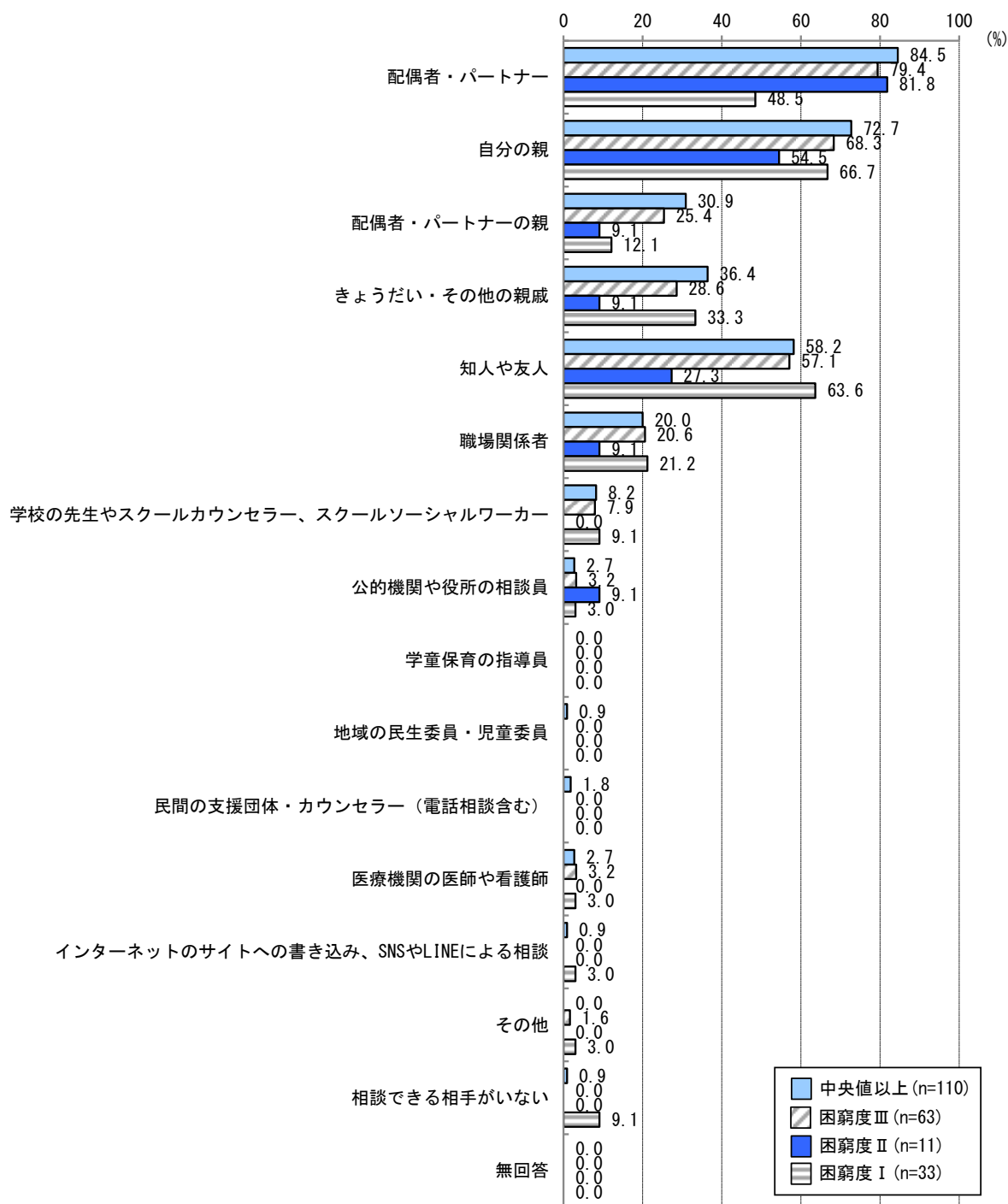
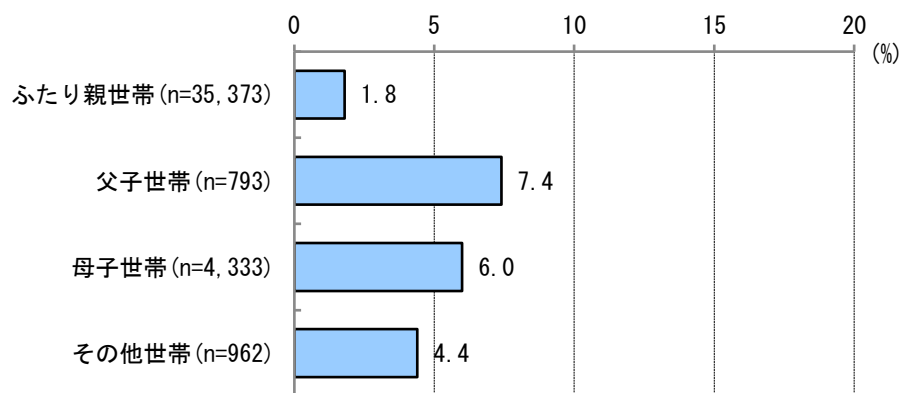


図 153. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

困窮度別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談」3.0%（中央値以上群に対して3.3倍）、「公的機関や役所の相談員」と「医療機関の医師や看護師」がともに3.0%（同じく1.1倍）となっている。中央値以上群の数値を挙げると、「配偶者・パートナーの親」30.9%（困窮度Ⅰ群に対して2.6倍）、「配偶者・パートナー」84.5%（同じく1.7倍）となっている。

世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合
(保護者票問2×保護者票問19)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

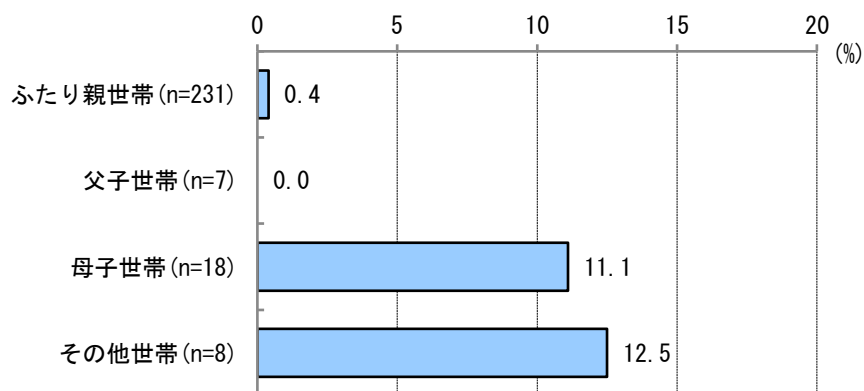
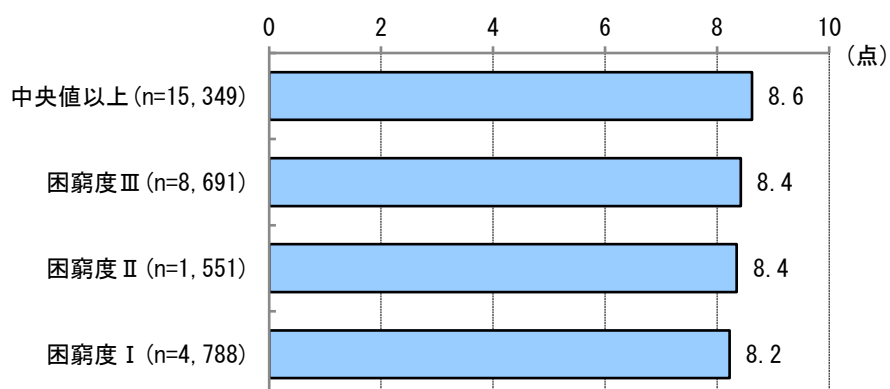


図 154. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合

世帯構成別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合を見ると、「相談できる相手がない」と回答した人は、母子世帯で11.1%となっている。

困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）（子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

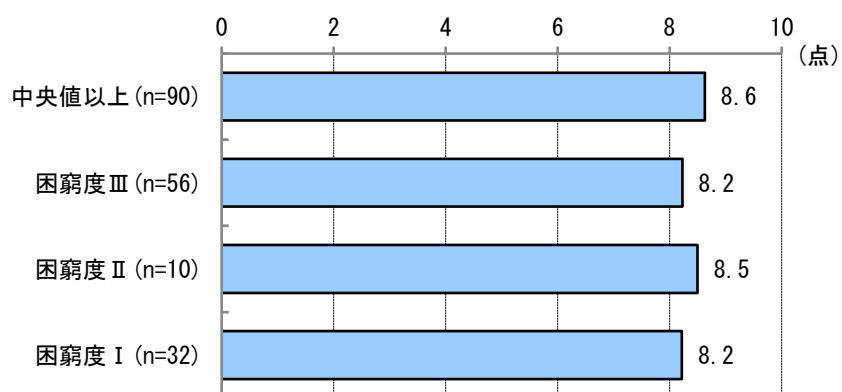
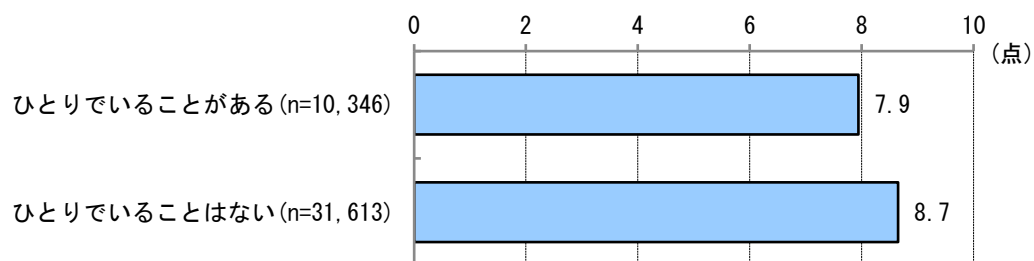


図 155. 困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、中央値以上群で8.6点とセルフ・エフィカシーが最も高くなっている。

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問 10×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

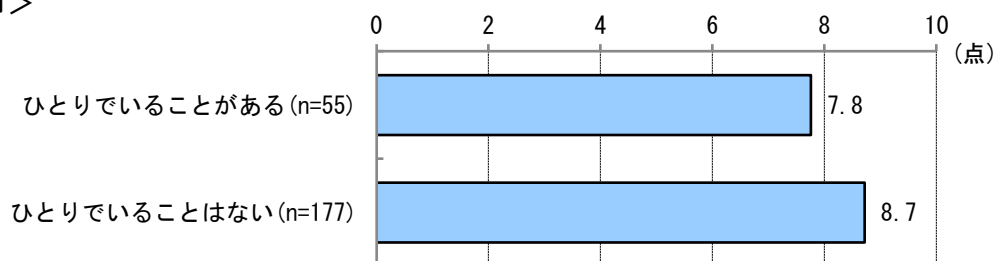


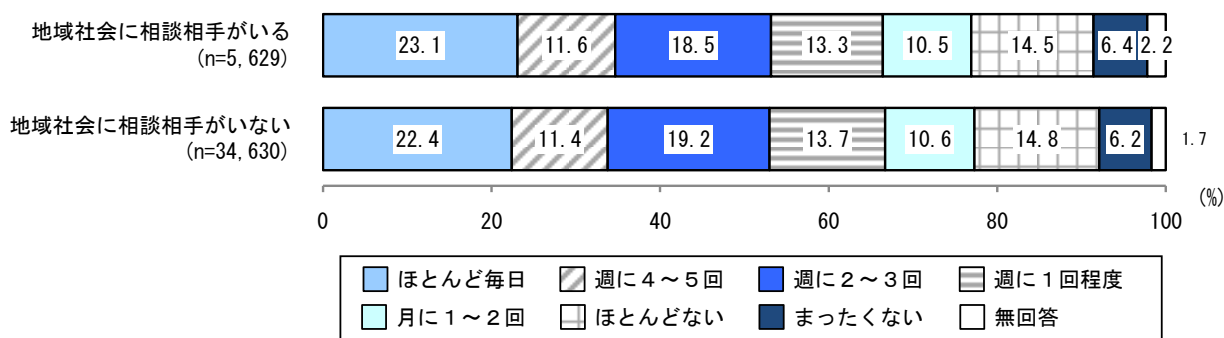
図 156. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかによって子どもの自己効力感(セルフ・エフィカシー)を見ると、放課後ひとりで過ごす子どもの方がそれでない子どもよりも自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか
(保護者票問 19×子ども票問 8④)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問に対し、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪府内全体>



<四條畷市>

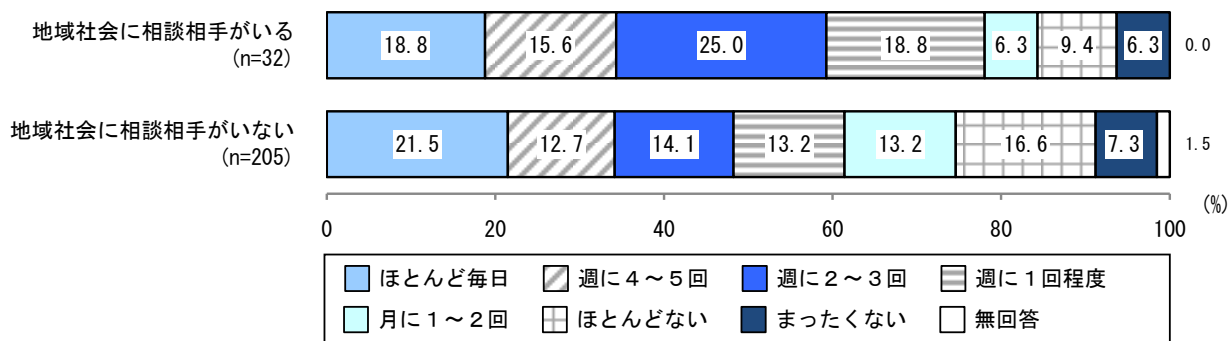
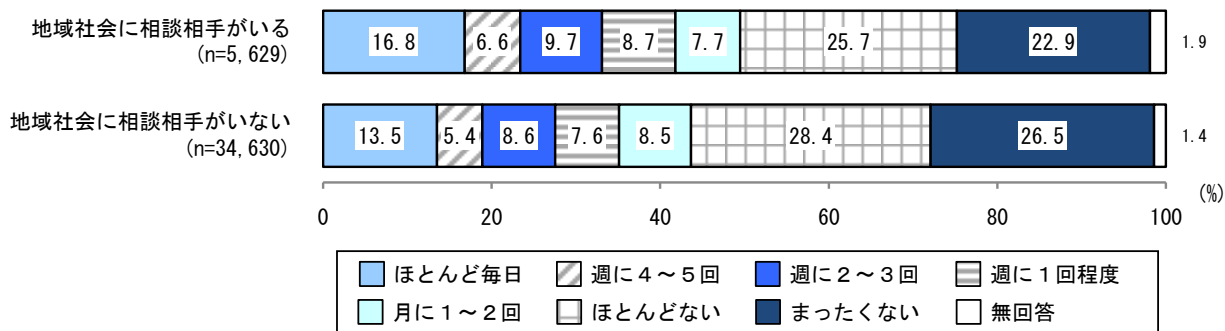


図 157. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、家の手伝いをしているかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもがおうちの手伝いをしているかに「週に2～3回」、「週に1回程度」と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか
（保護者票問 19×子ども票問 8⑤）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

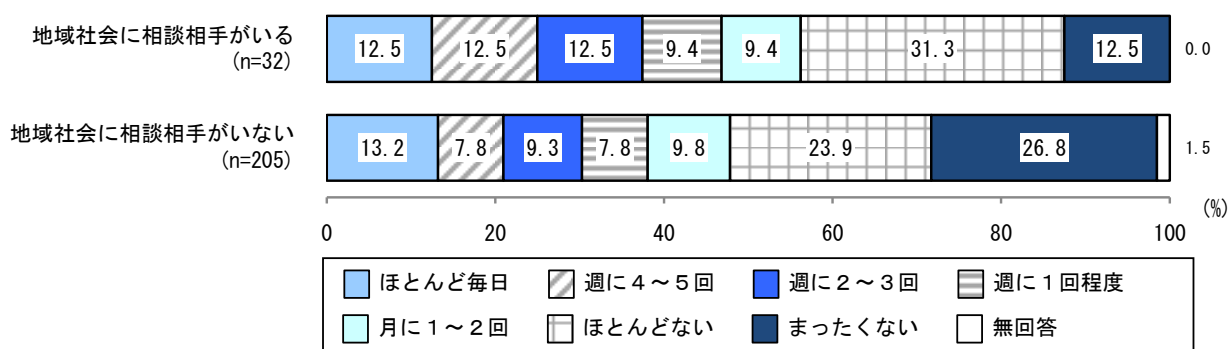
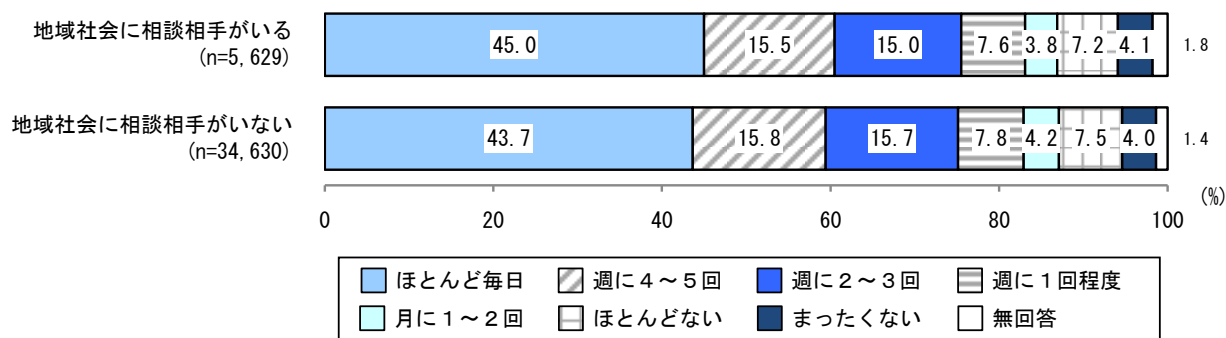


図 158. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人に宿題（勉強）を見てもらっているかに週に1回以上と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑥)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

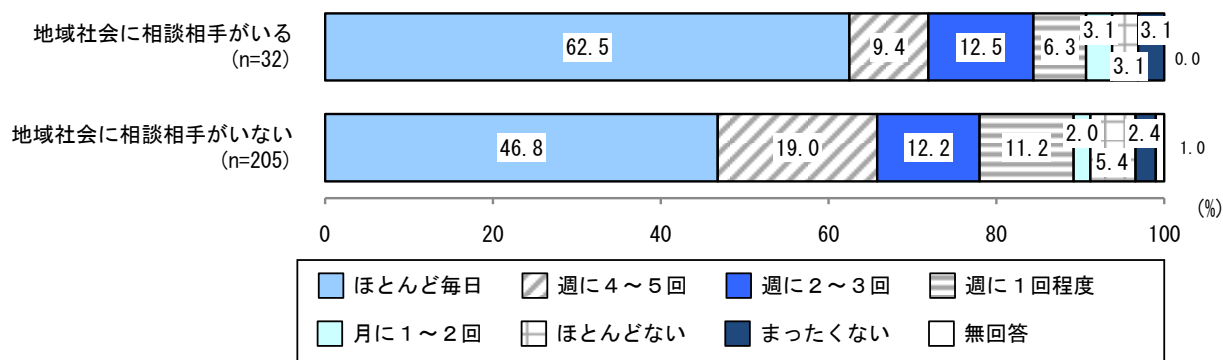
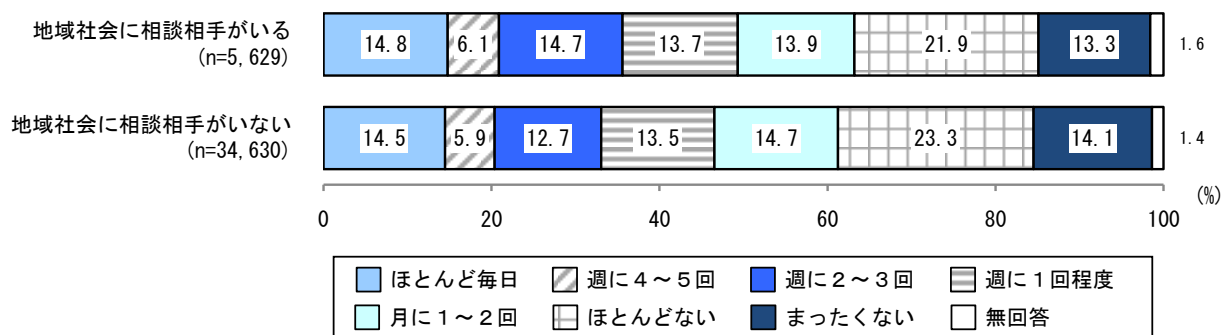


図 159. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかに「ほとんど毎日」と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑦)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

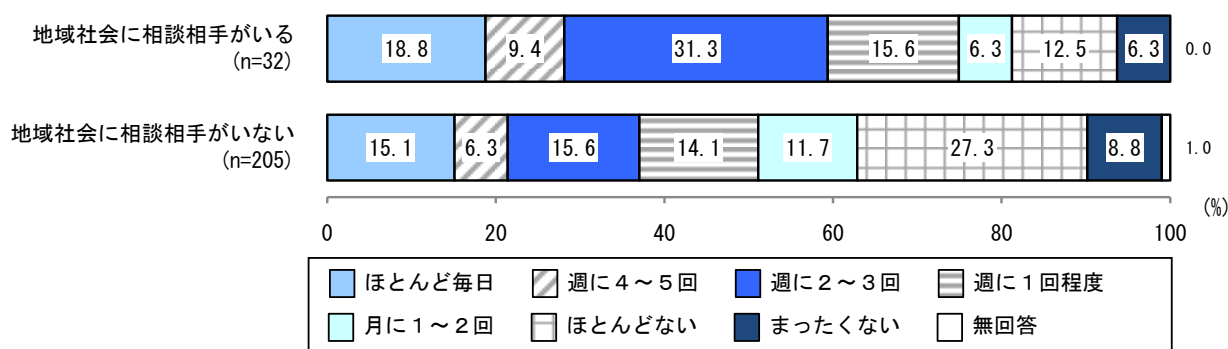
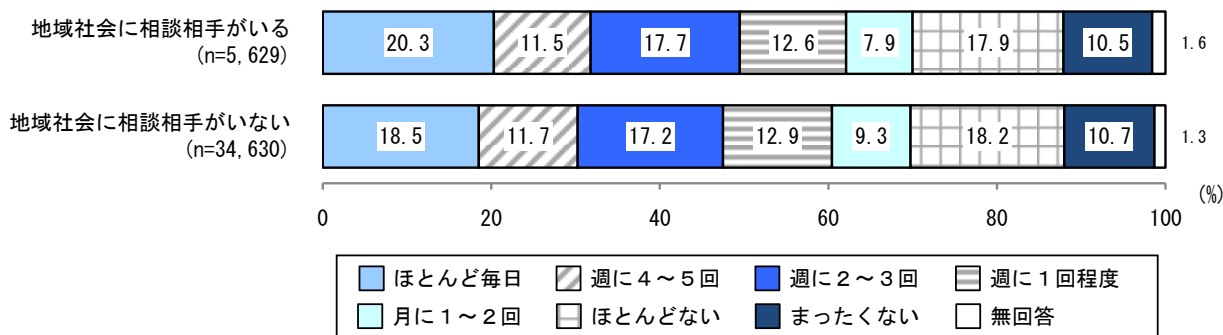


図 160. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかに週1回以上と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか（保護者票問 19×子ども票問 8 ⑧）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

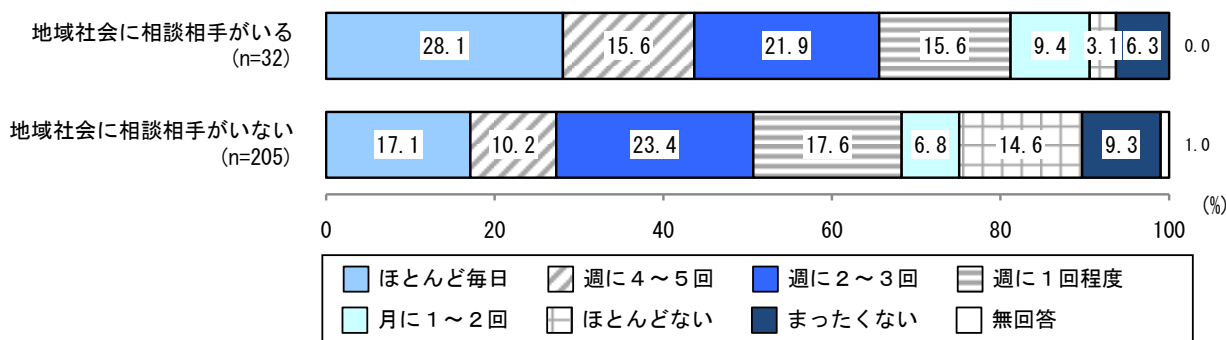
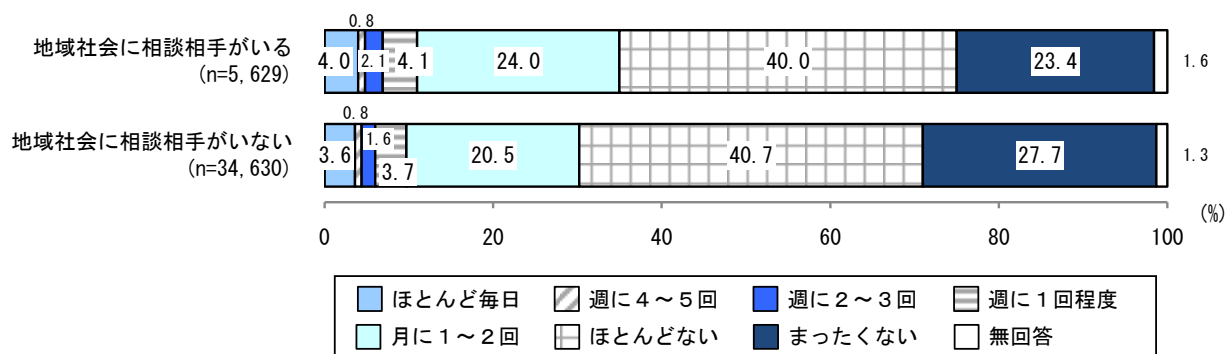


図 161. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかに「ほとんど毎日」と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑨)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

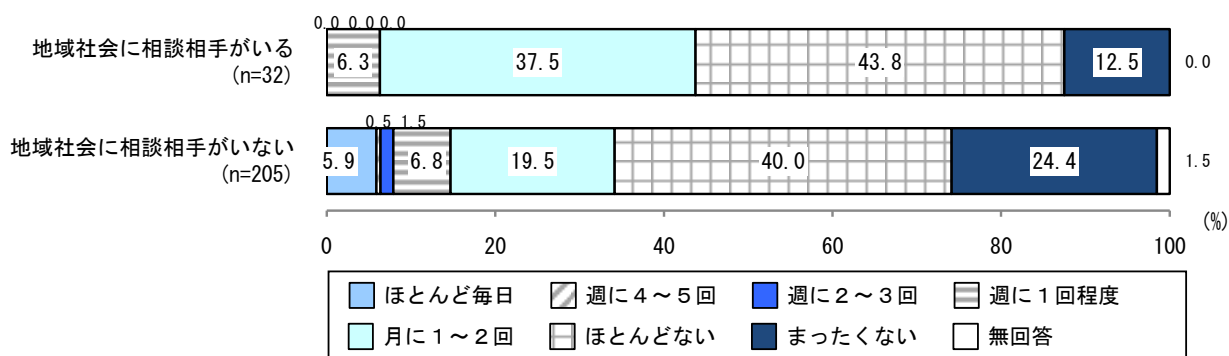
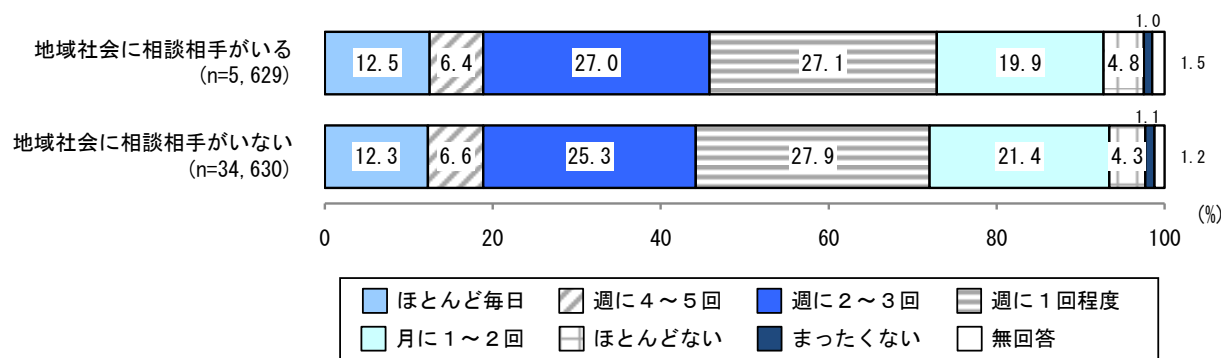


図 162. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりもおうちの大人の人と文化活動をするかに月に1回以上と回答する割合が高くなっている。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか
(保護者票問 19×子ども票問 8 ⑩)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

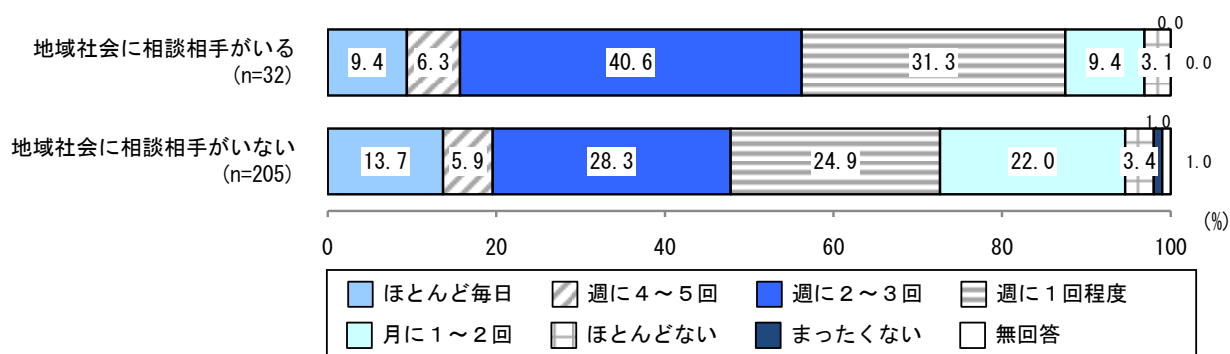
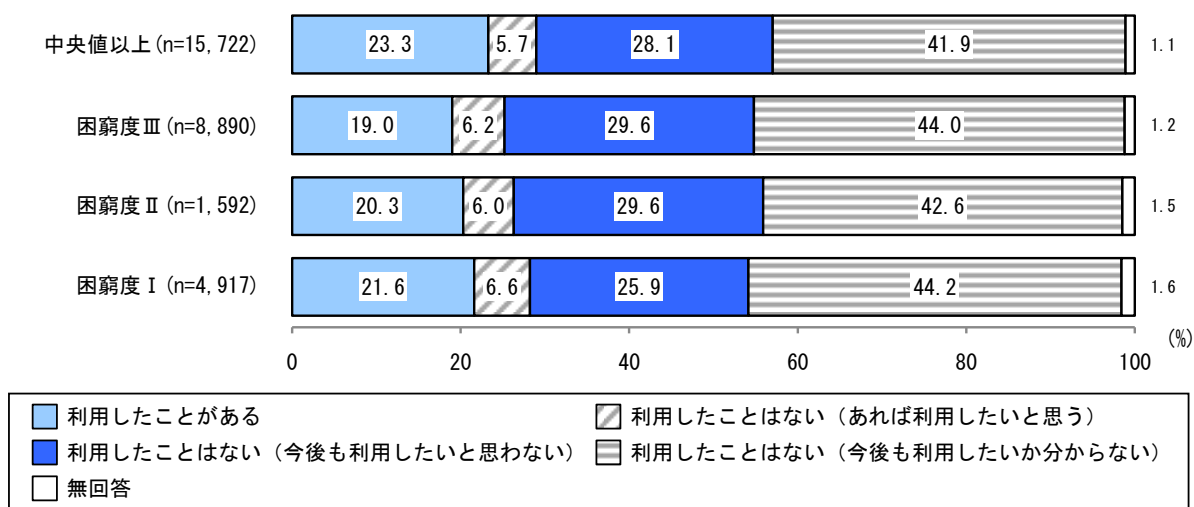


図 163. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と一緒に外出するかに週に1回以上と回答する割合が高くなっている。

困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所（子ども票問 25(1)①）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

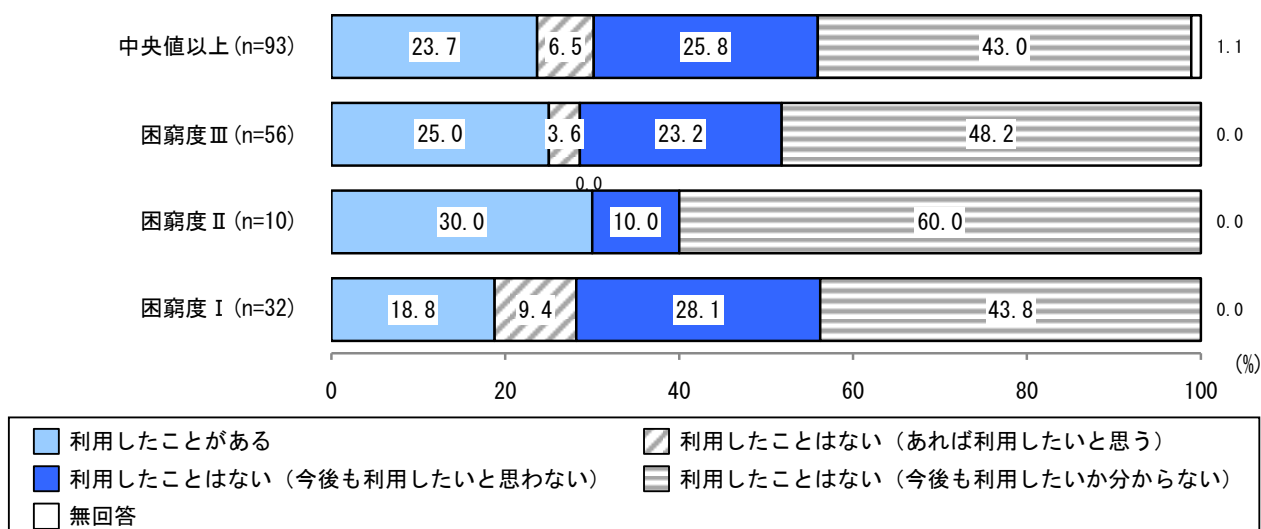
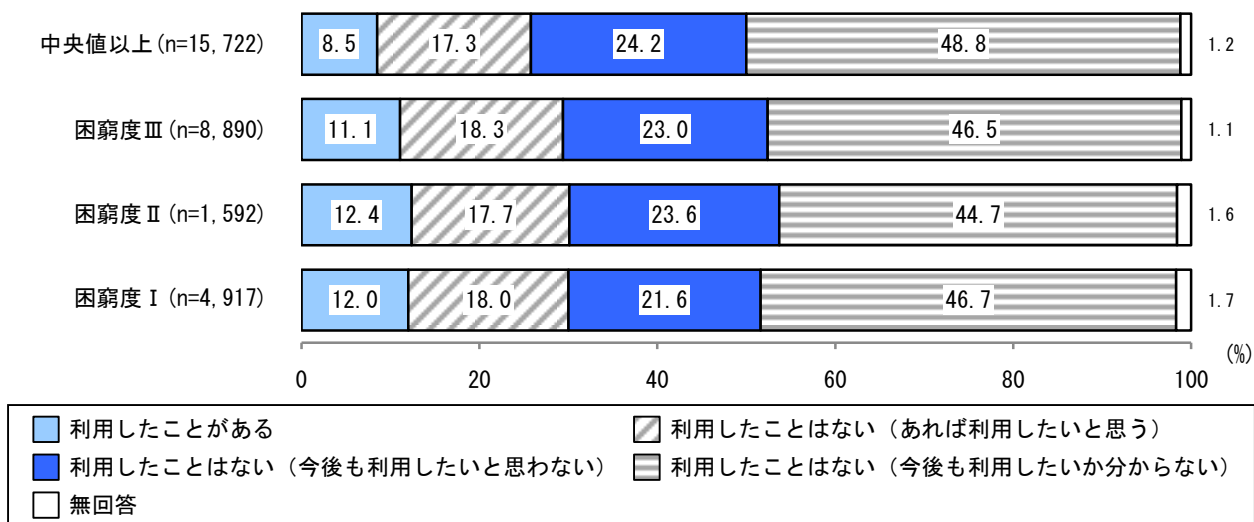


図 164. 困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

困窮度別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答する割合が困窮度Ⅱで30.0%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所
(子ども票問 25(1)②)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

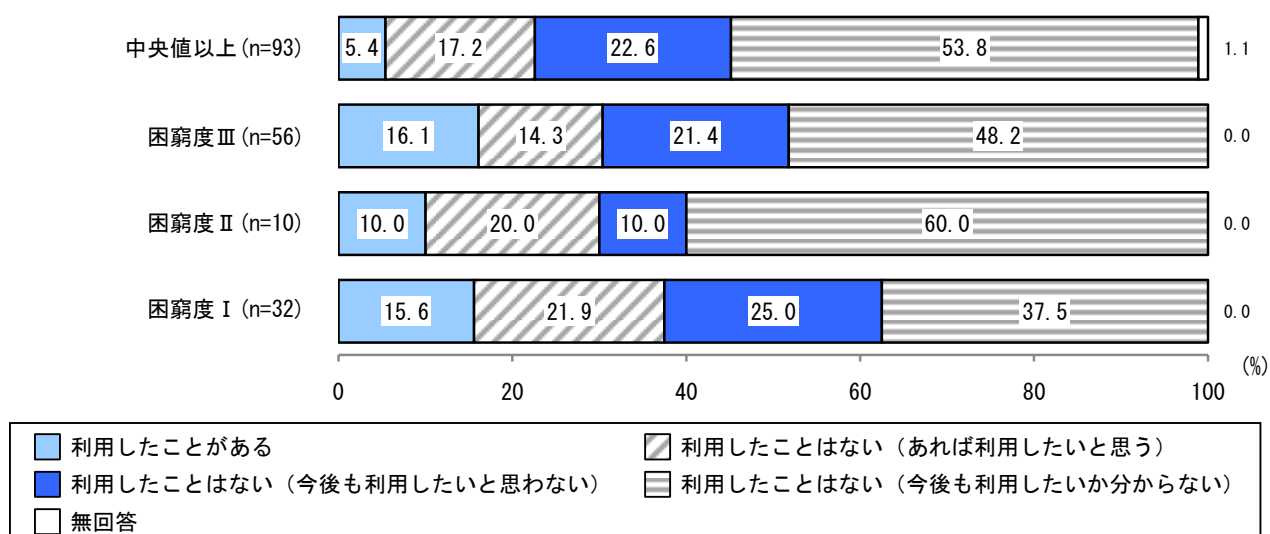
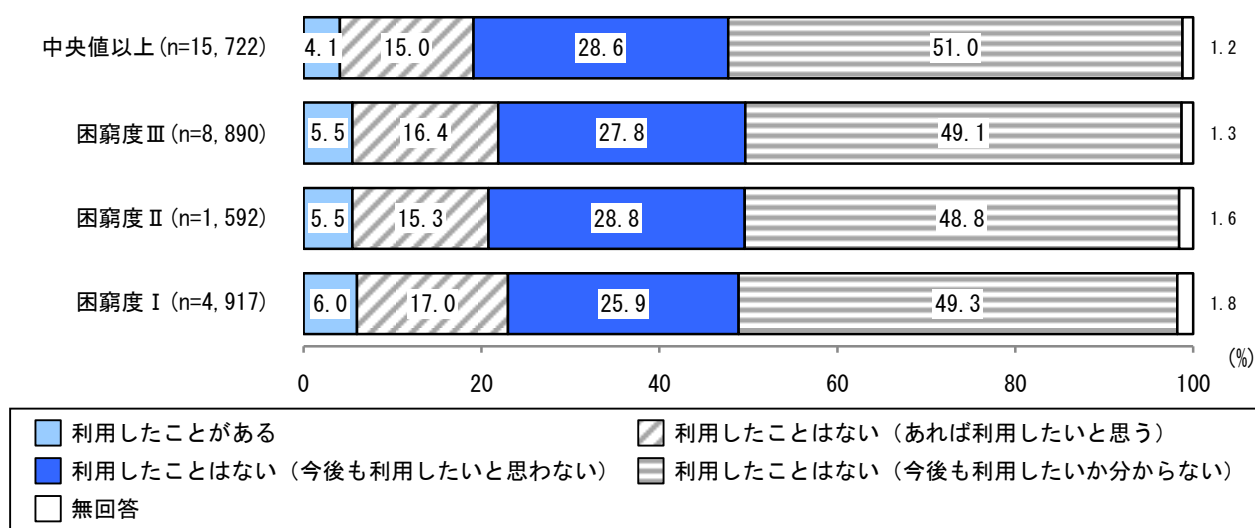


図 165. 困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

困窮度別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答する割合が困窮度Ⅲ群で16.1%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてる場所（子ども票問 25(1)③）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

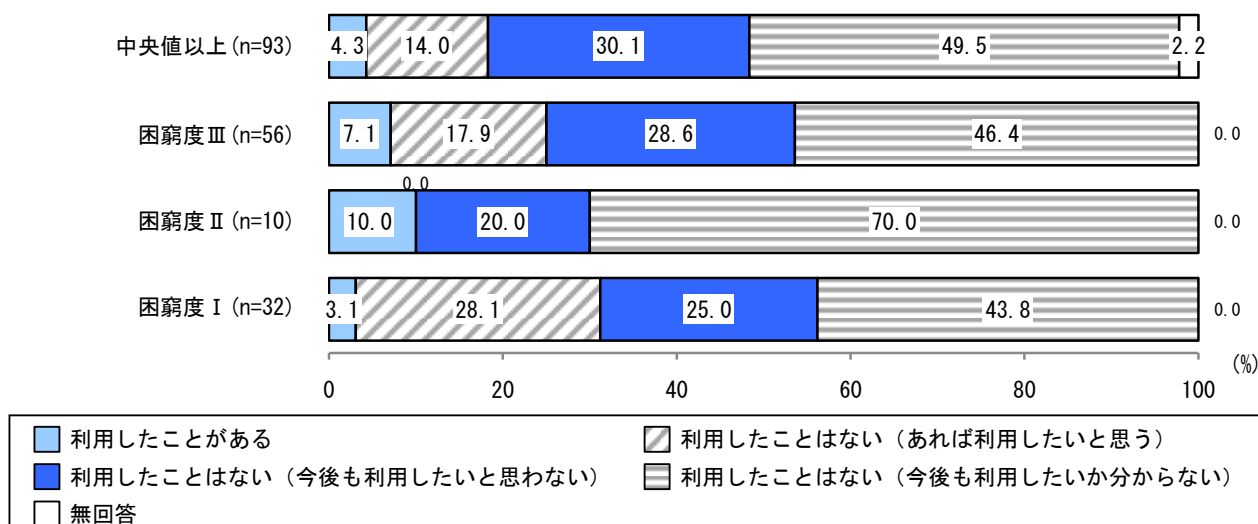
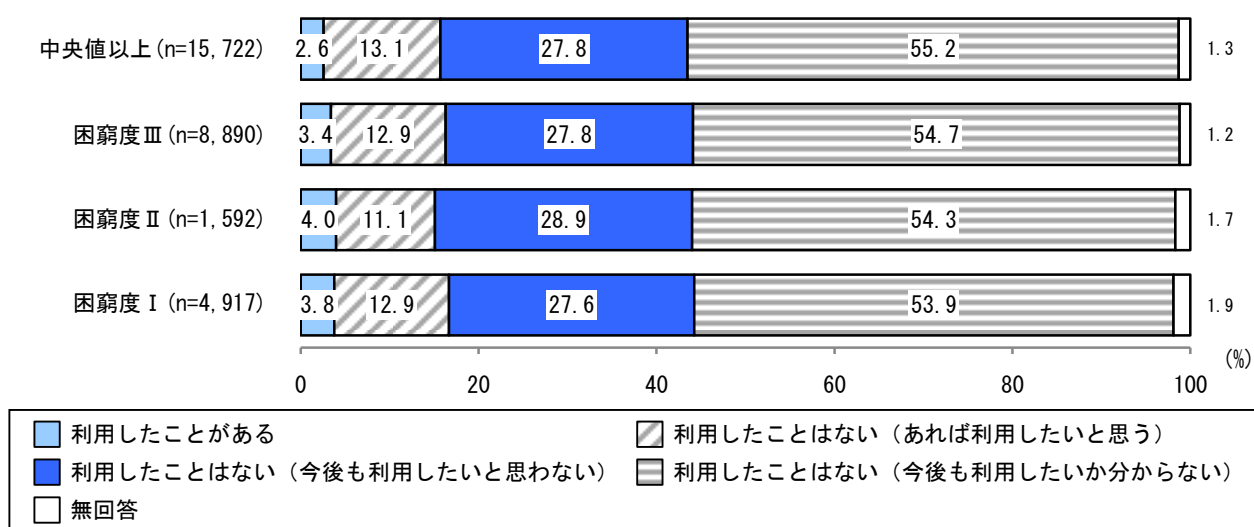


図 166. 困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてる場所

困窮度別に勉強を無料か安い料金でみてる場所を見ると、「利用したことがある」と回答する割合が困窮度Ⅱ群で10.0%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、何でも相談できる場所（子ども票問 25(1)④）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

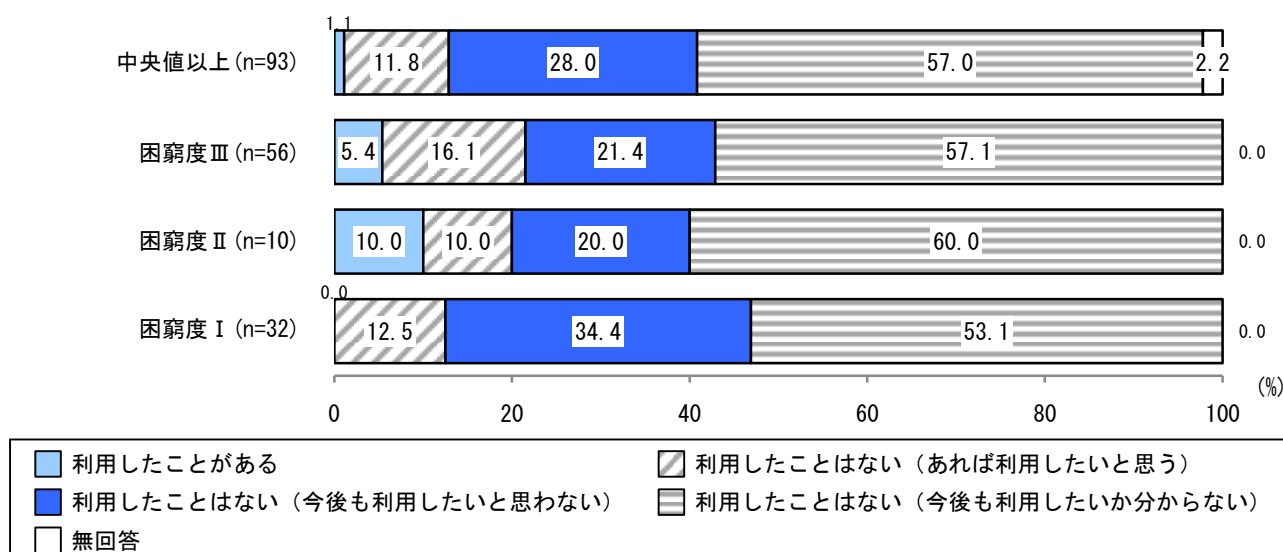
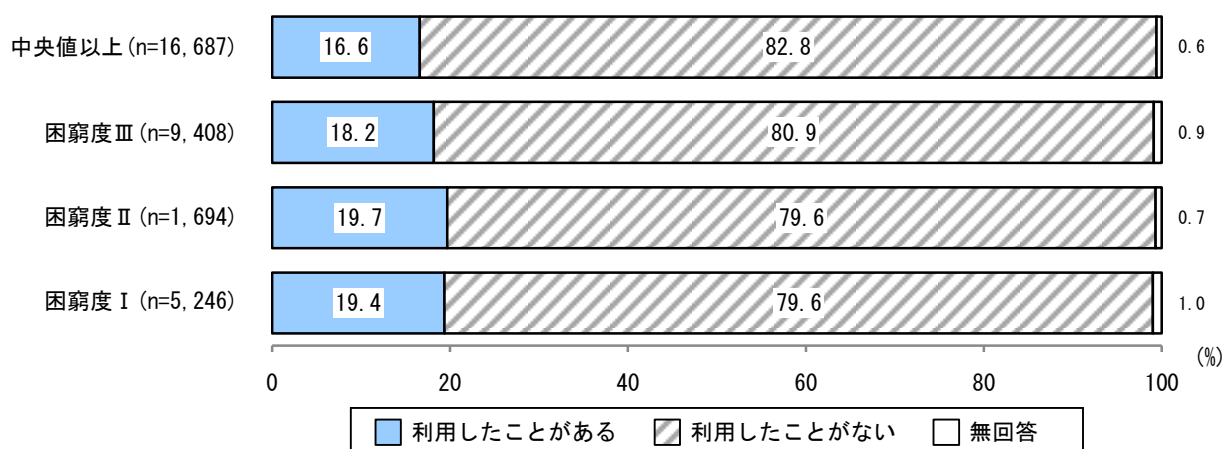


図 167. 困窮度別に見た、何でも相談できる場所

困窮度別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群で10.0%と最も高くなっている。また、「利用したことはない (今後も利用したいと思わない)」と回答した割合は困窮度Ⅰ群で34.4%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験（保護者票問 16(1)）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

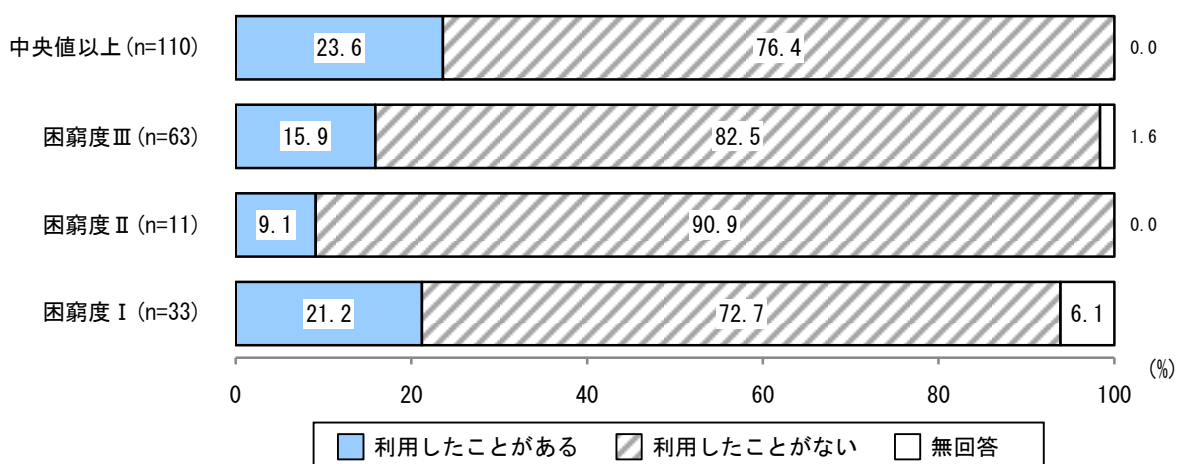
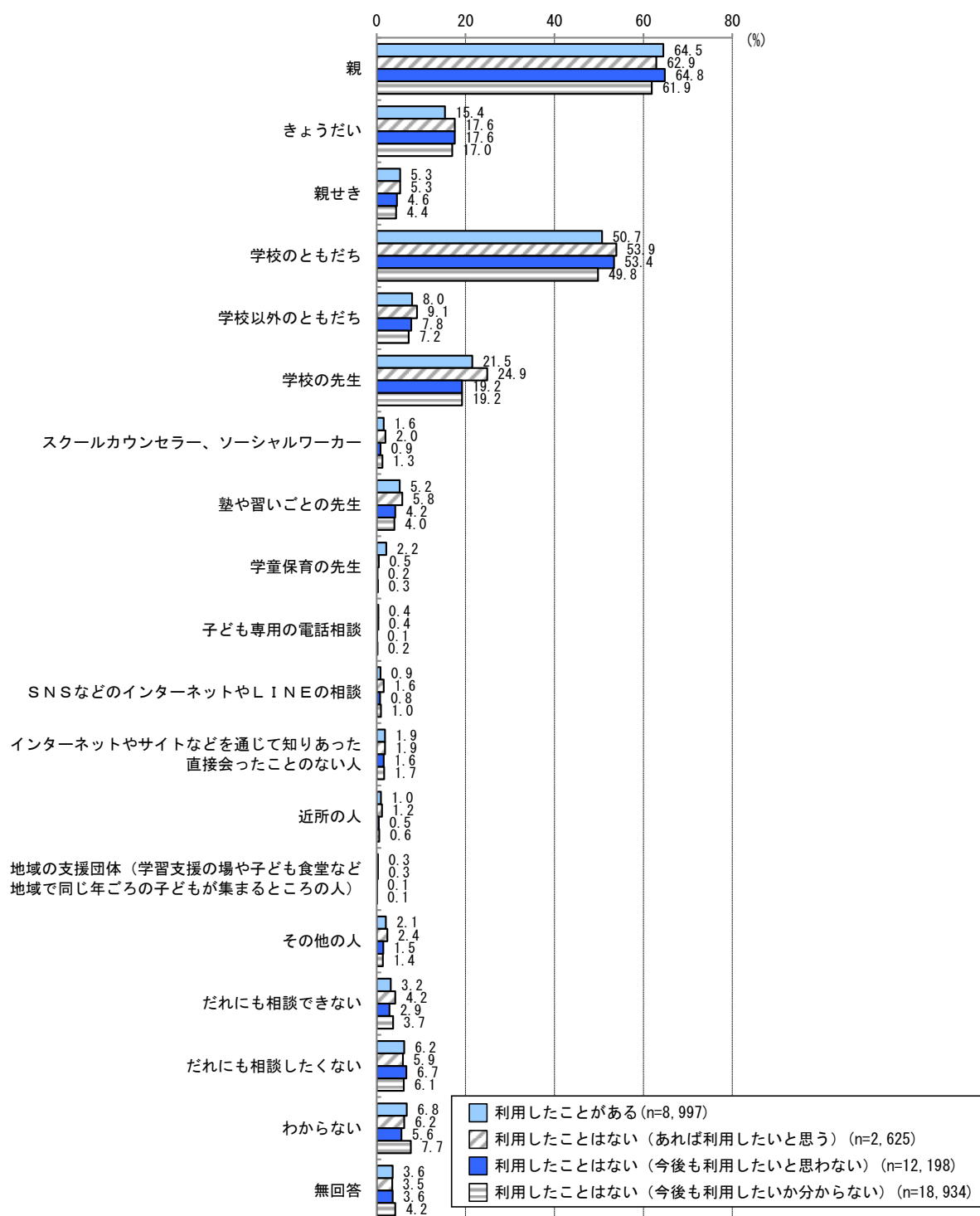


図 168. 困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験

困窮度別に子どもの居場所の利用経験を見ると、「利用したことがある」と回答する割合は中央値以上群が23.6%で最も高く、困窮度Ⅱ群が9.1%で最も低くなっている。

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)①×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

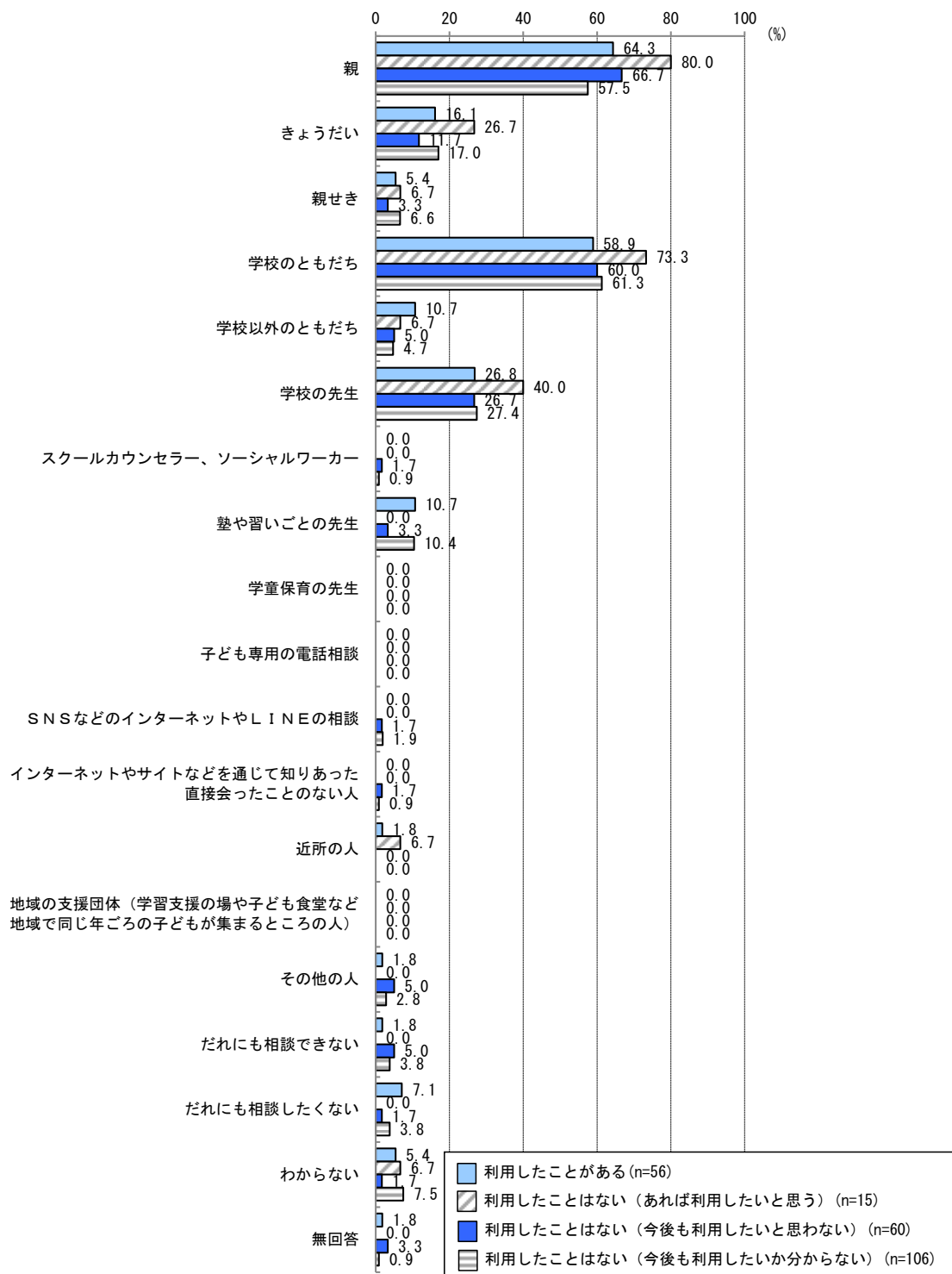
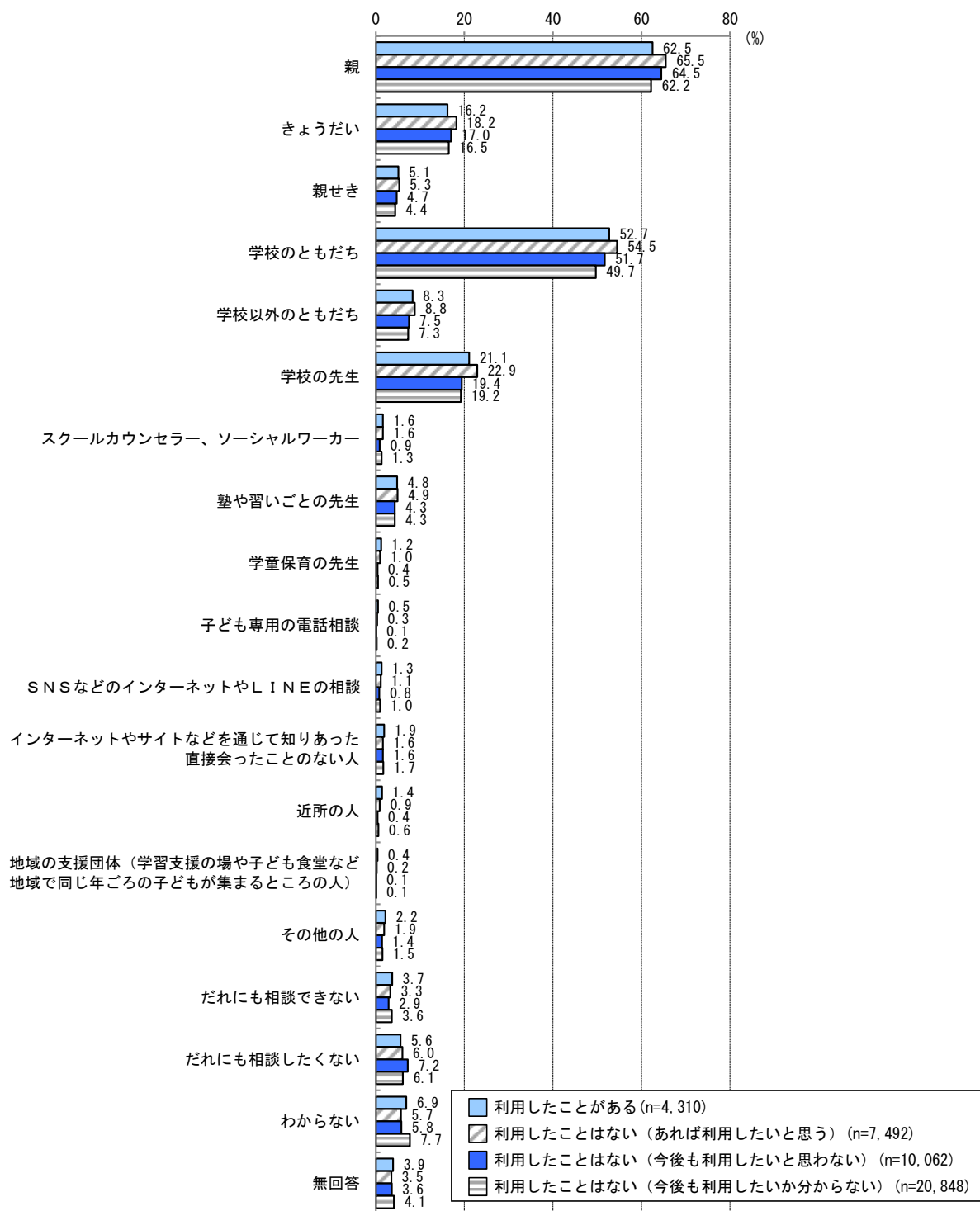


図 169. 平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」と回答した割合は、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」と回答した人が80.0%と最も高くなっている。また、「学校のともだち」も「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」と回答した人が73.3%と最も高くなっている。

昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金を食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問 25(1)②×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

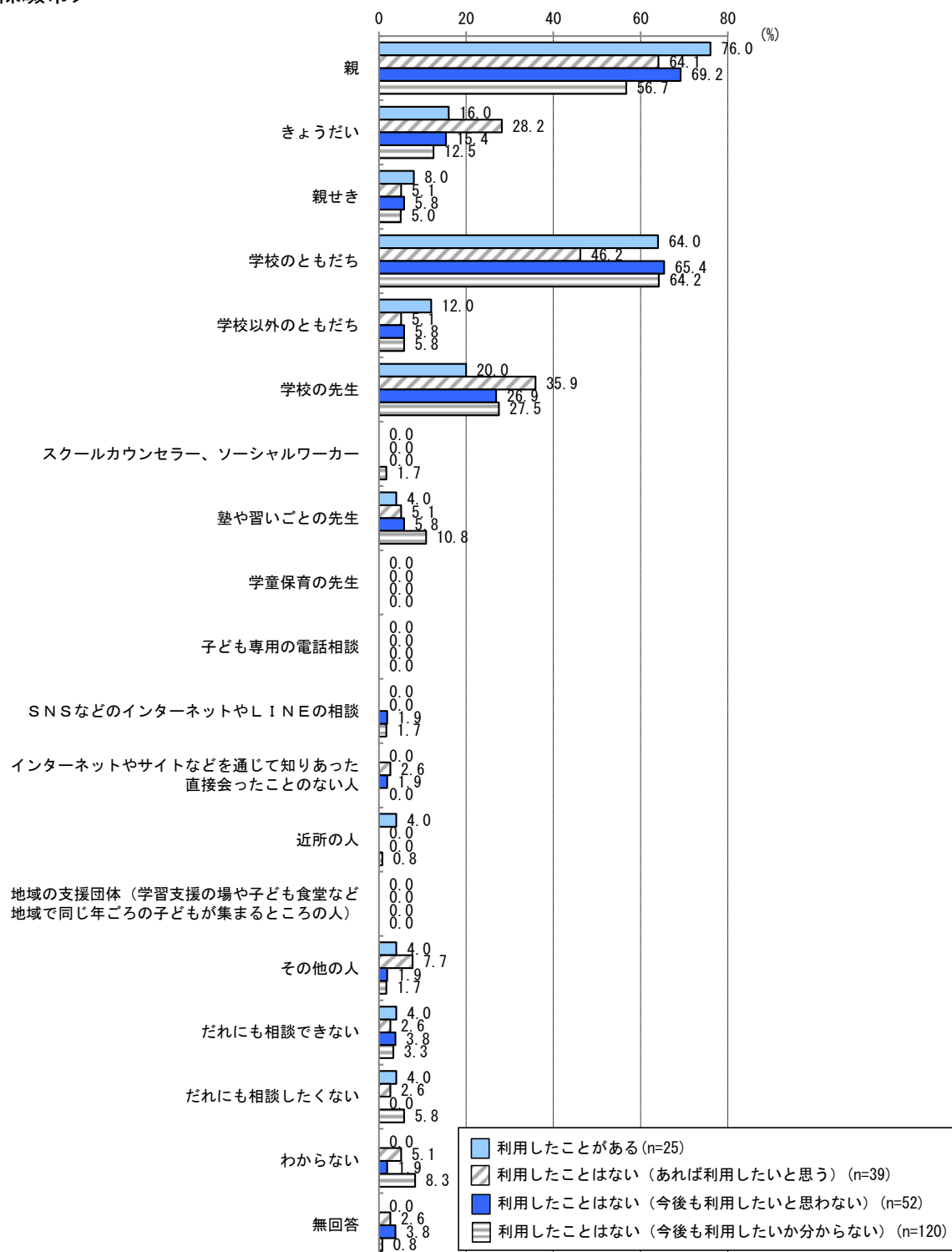
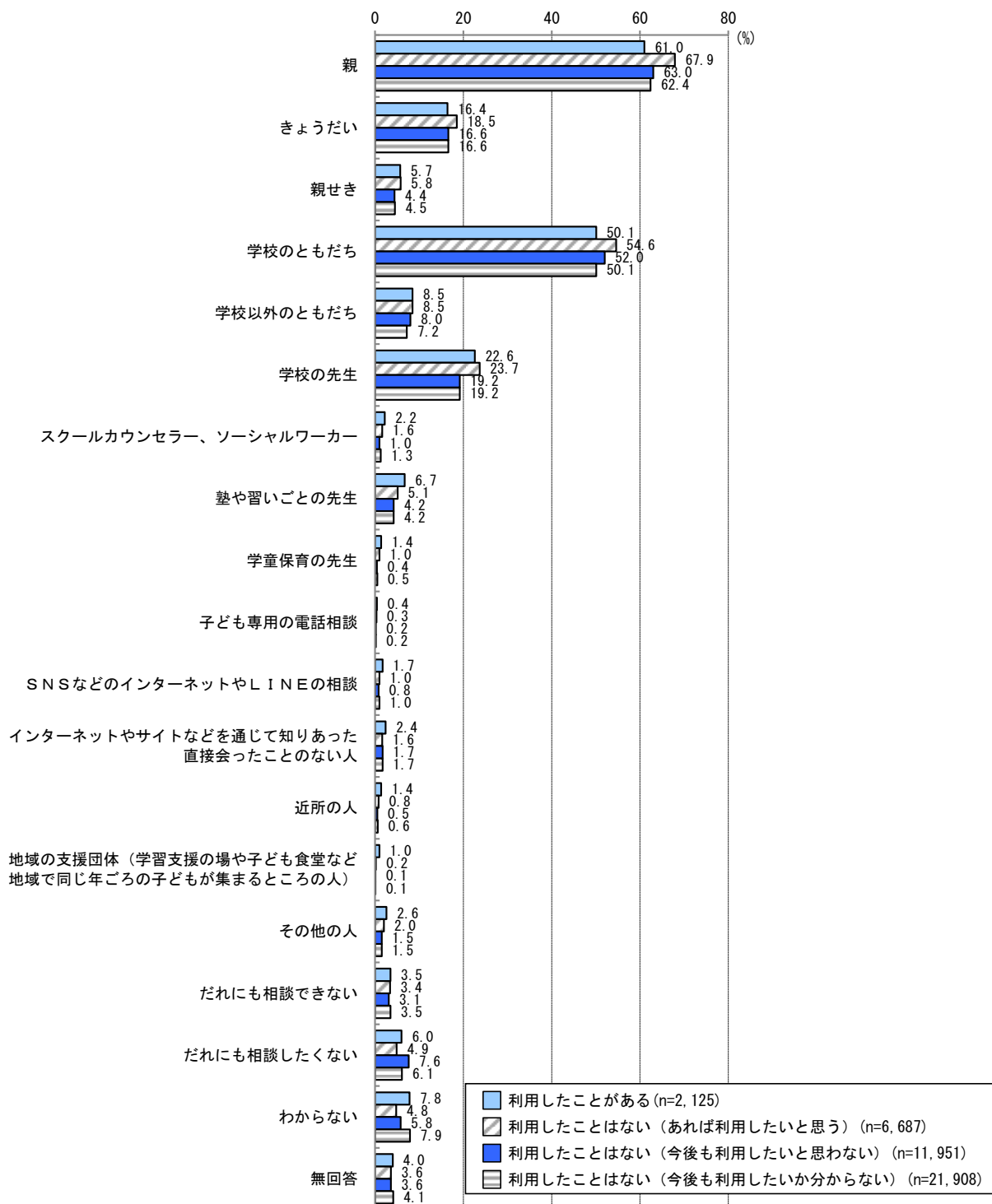


図 170. 屋食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が低くなっている。

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)③×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



＜四條畷市＞

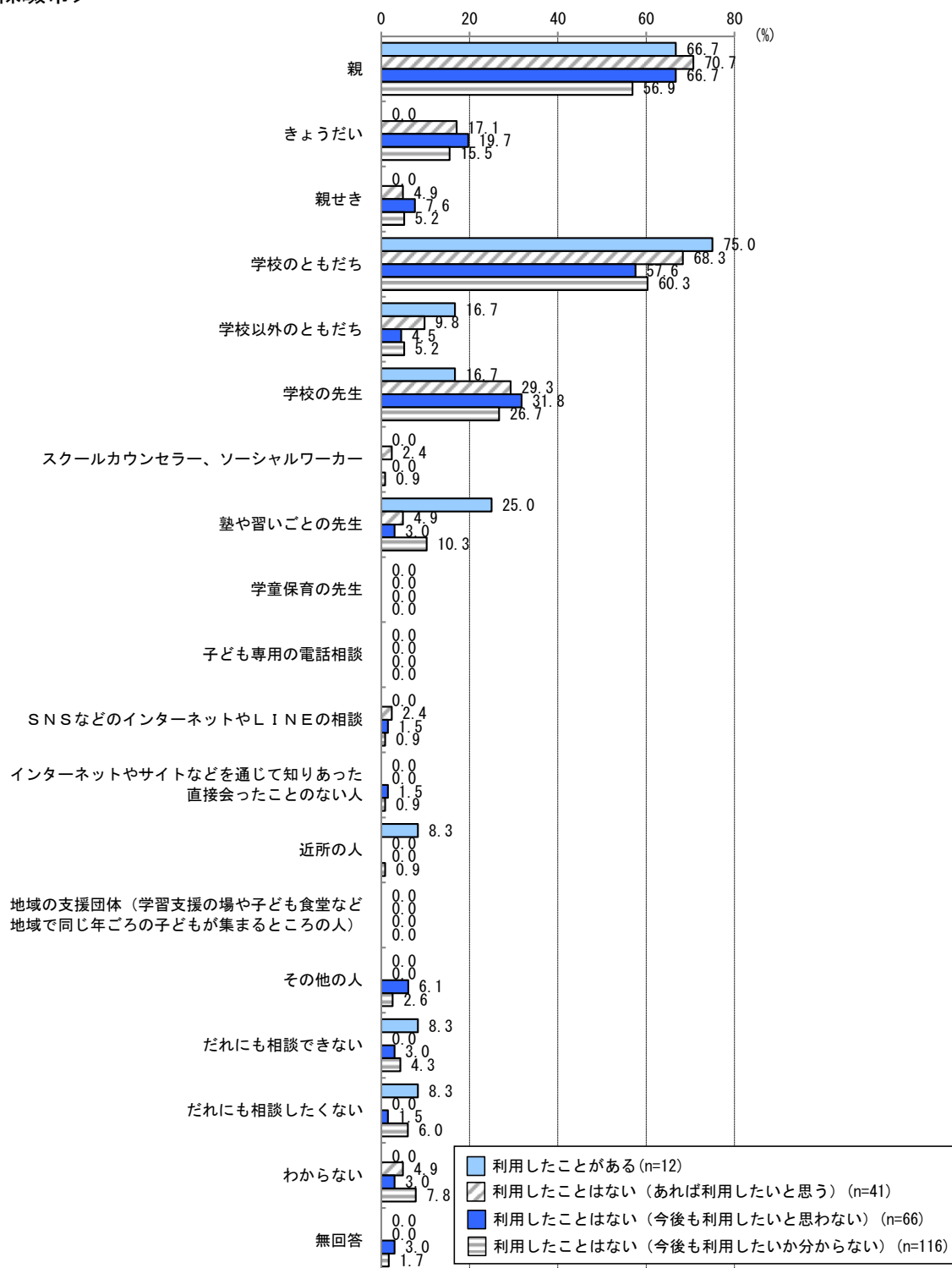
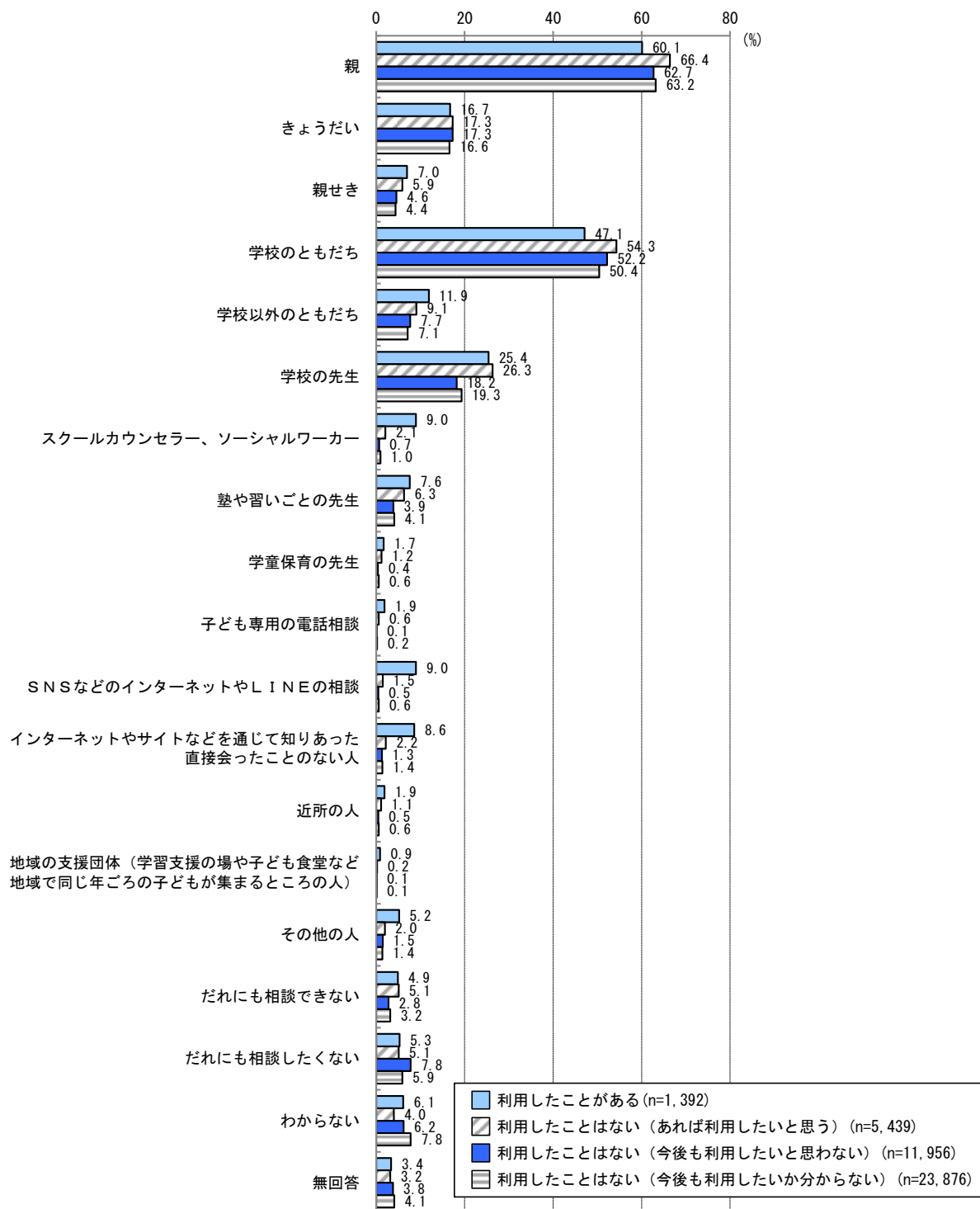


図 171. 勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「学校のともだち」、「学校以外のともだち」、「塾や習いごとの先生」、「近所の人」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が高くなっている。一方で、「誰にも相談できない」と「誰にも相談したくない」と回答した割合が「利用したことがある」と回答した人とともに8.3%と最も高くなっている。

何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)④×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



＜四條畷市＞

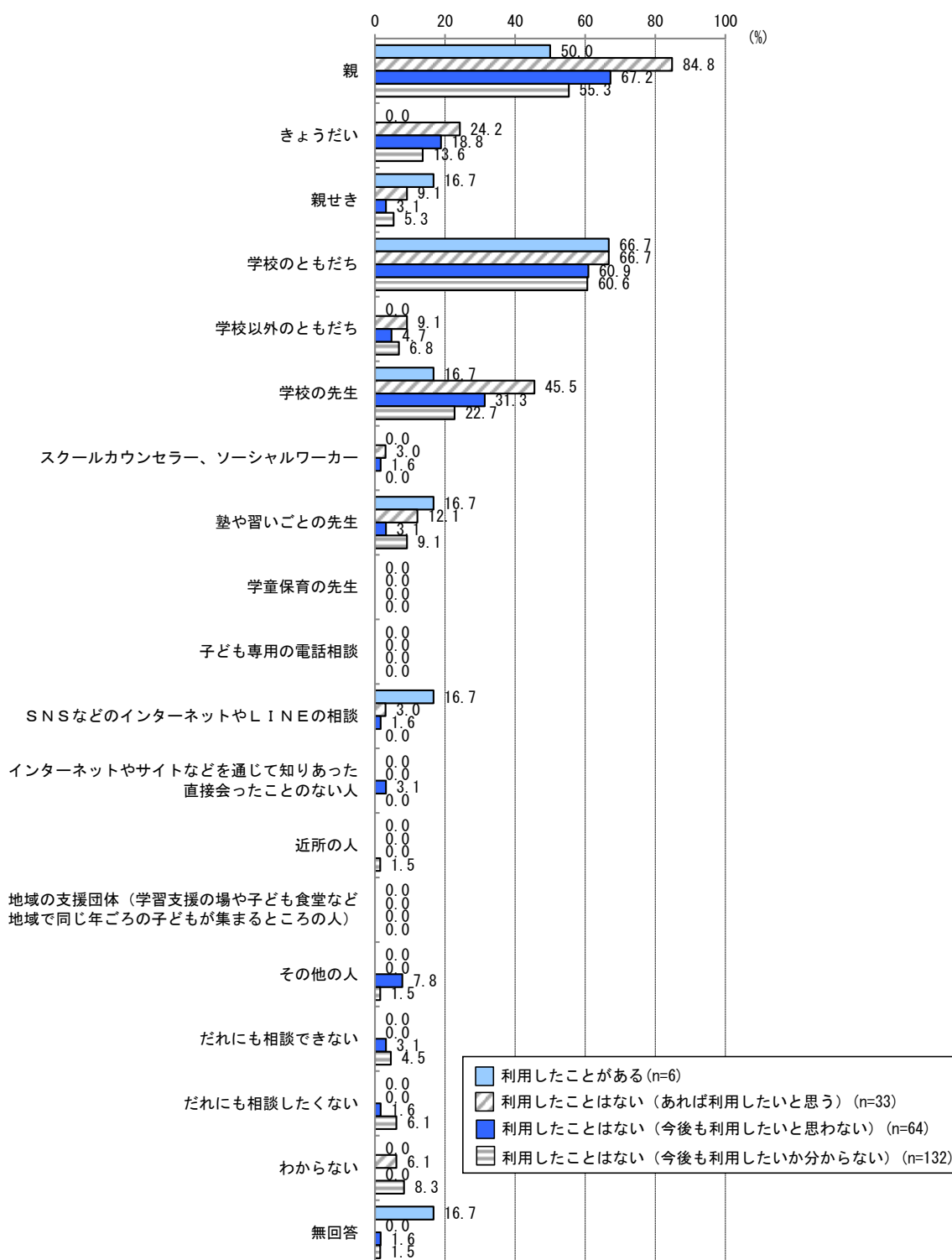
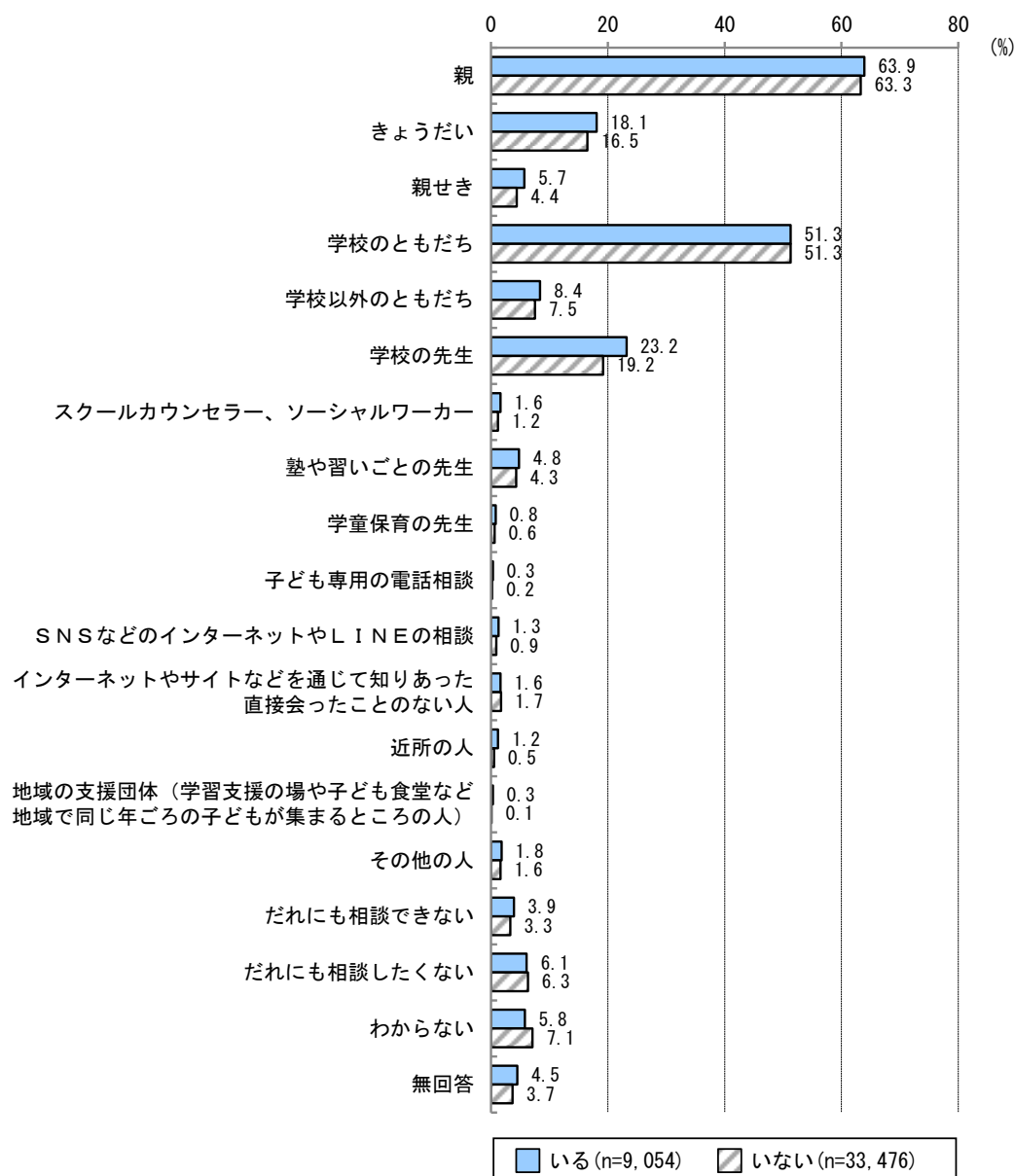


図 172. 何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

何でも相談できる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親せき」、「塾や習いごとの先生」、「SNSなどのインターネットやLINEの相談」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

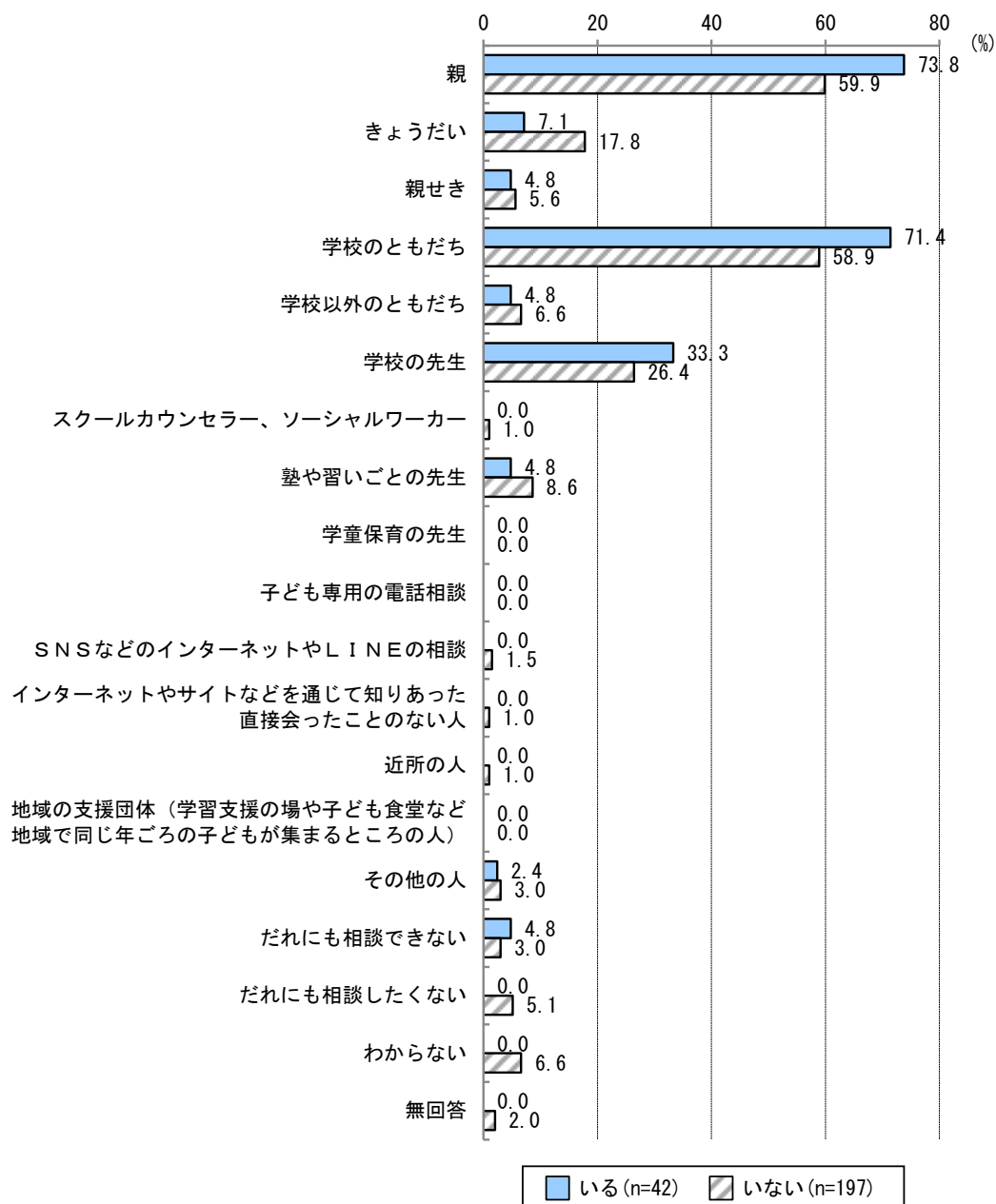
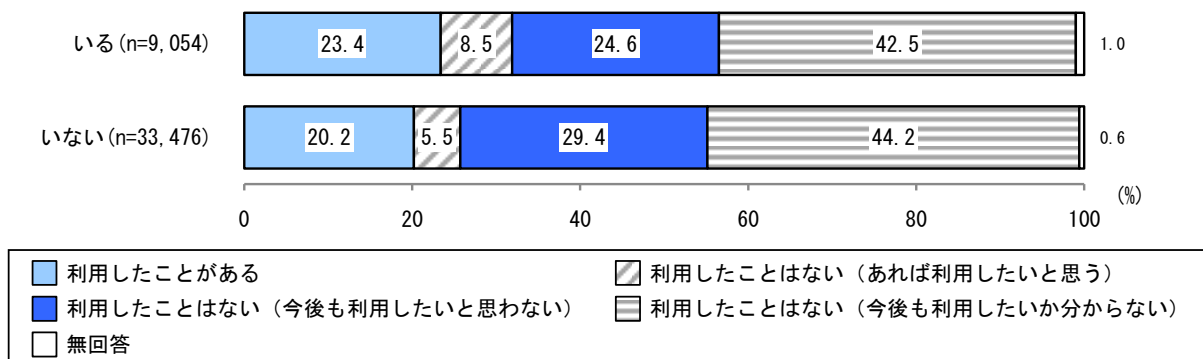


図 173. 自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

自分が世話をしている人の有無別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手をみると、相談相手が「親」、「学校の友だち」、「学校の先生」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

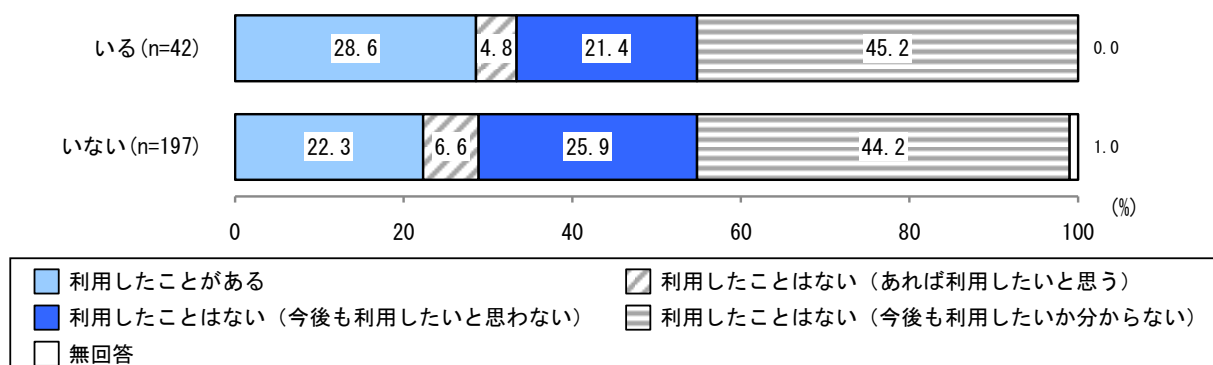
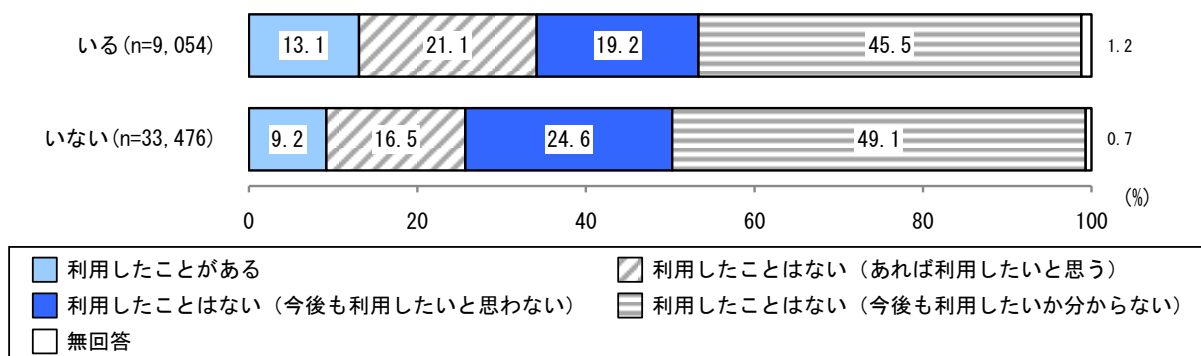


図 174. 自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

自分が世話をしている人の有無別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、平日の夜や休日を過ごすことができる場所を「利用したことがある」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高く、28.6%となっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

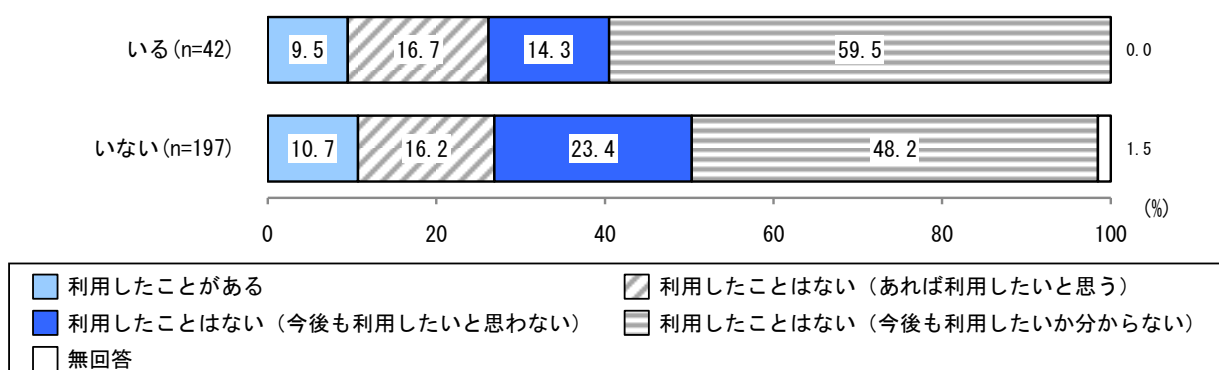
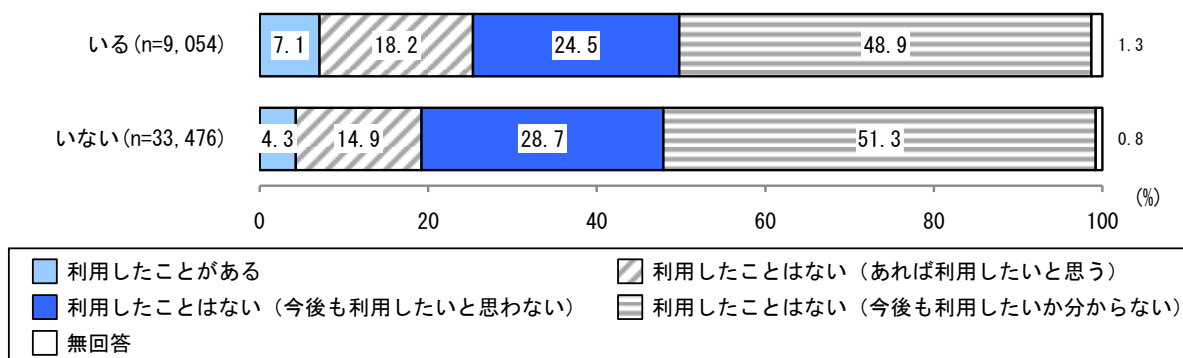


図 175. 自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

自分が世話をしている人の有無別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を「利用したことはない (今後も利用したいか分からない)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

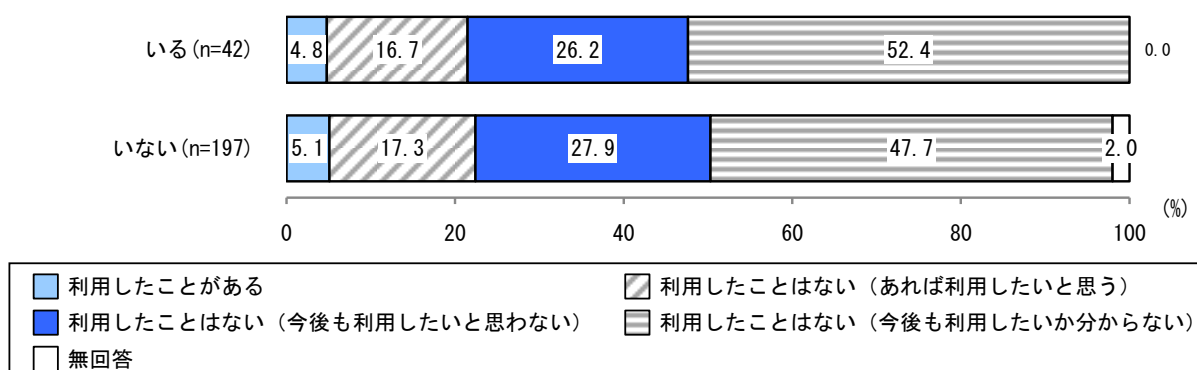
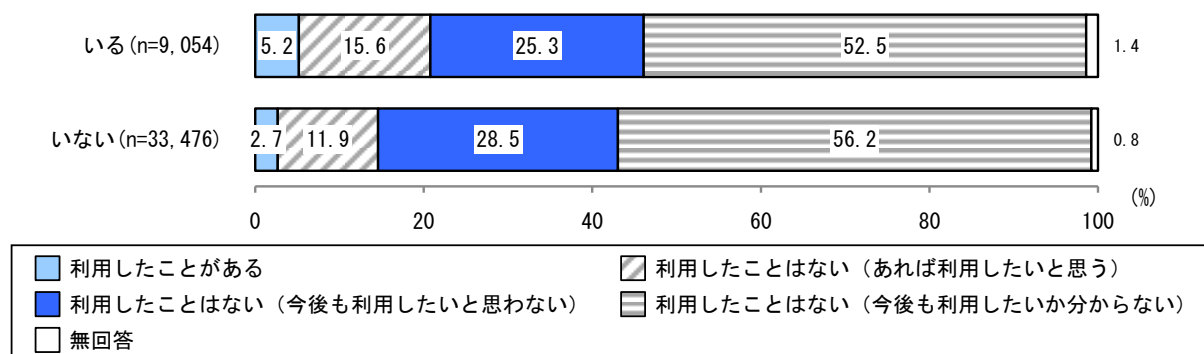


図 176. 自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてる場所

自分が世話をしている人の有無別に勉強を無料か安い料金でみてる場所を見ても、大きな差はみられない。

自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所
(子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

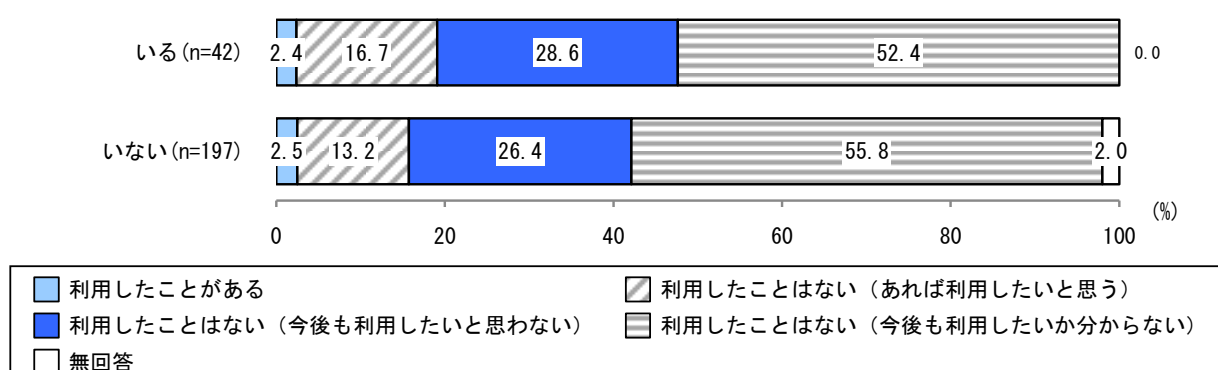
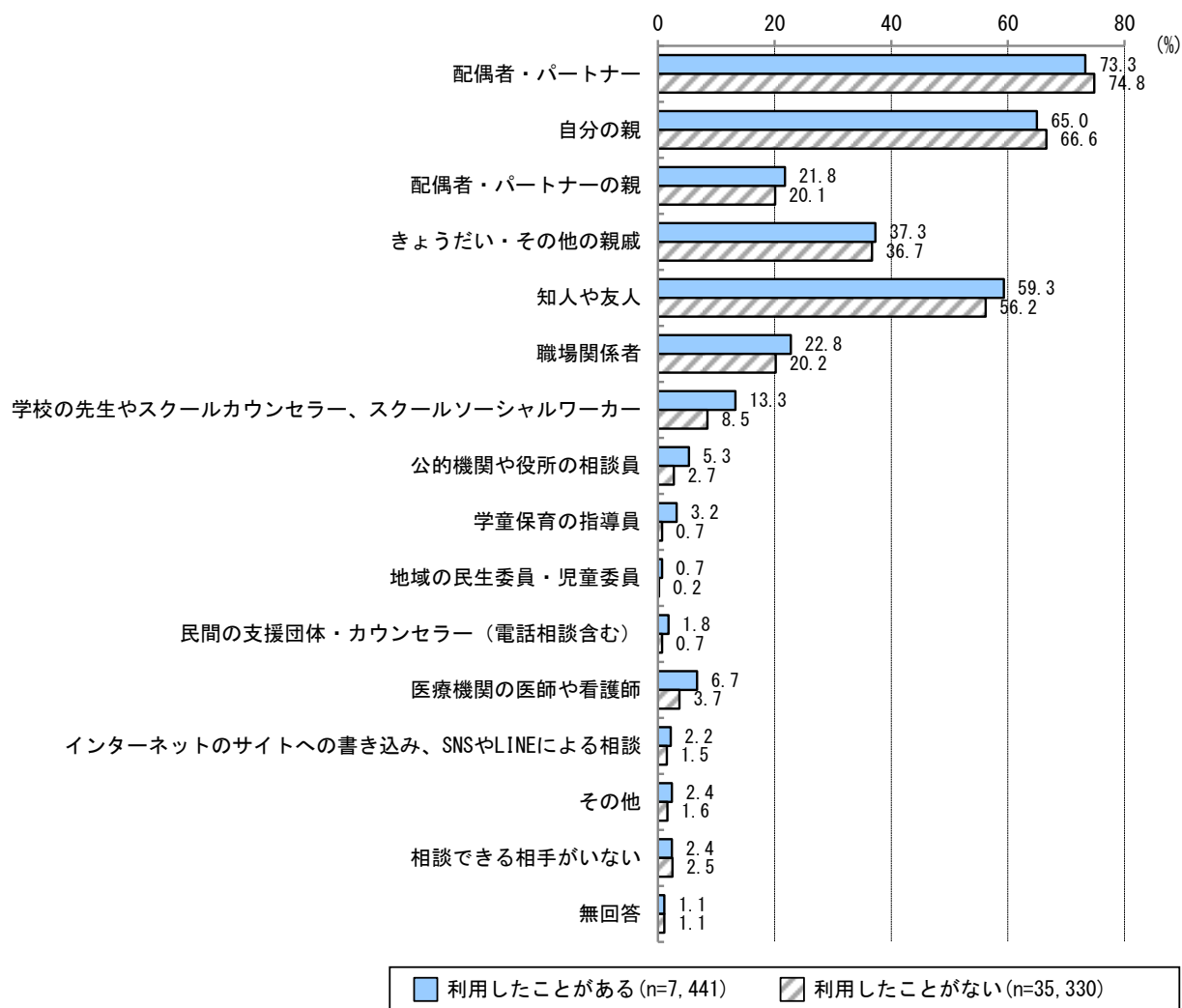


図 177. 自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所

自分が世話をしている人の有無別に何でも相談できる場所を見ても、大きな差はみられない。

子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先
(保護者票問 16(1) × 保護者票問 19)

<大阪府内全体>



＜四條畷市＞

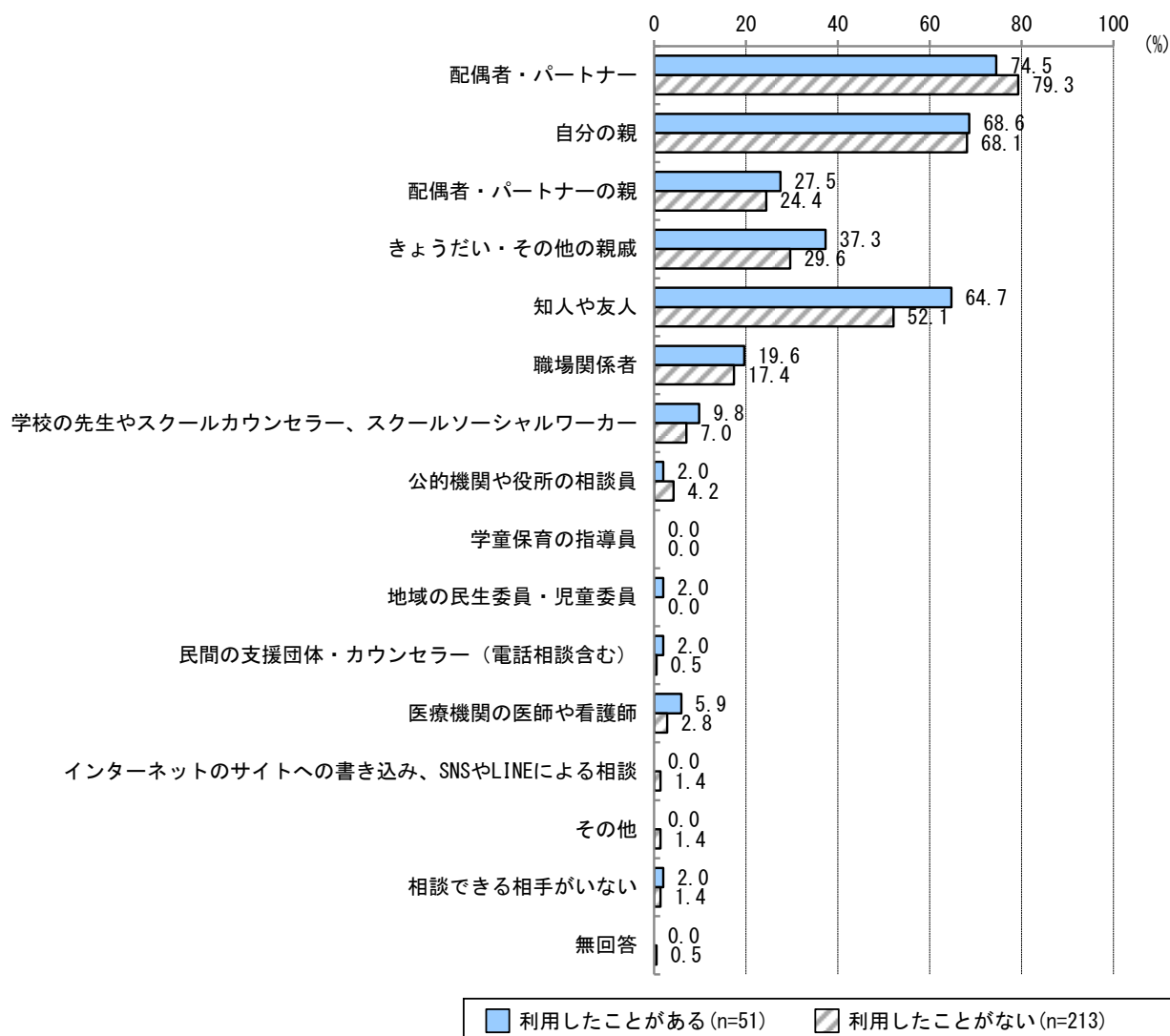
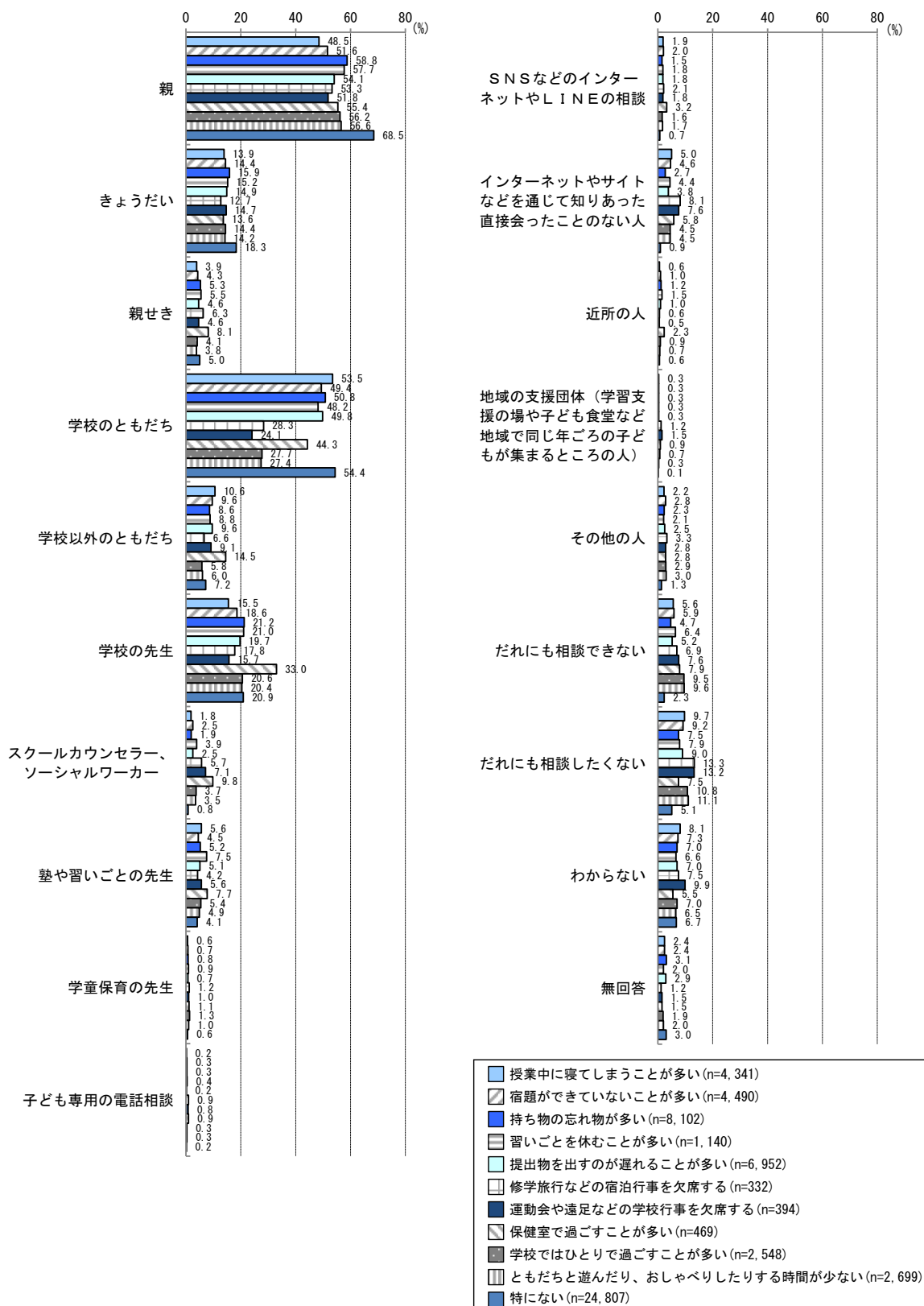


図 178. 子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

子どもの居場所の利用経験別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「きょうだい・その他の親戚」や「知人や友人」と回答した人の割合は、子どもの居場所を利用したことがない人より利用したことがある人のほうが割合が高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 16×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



＜四條畷市＞

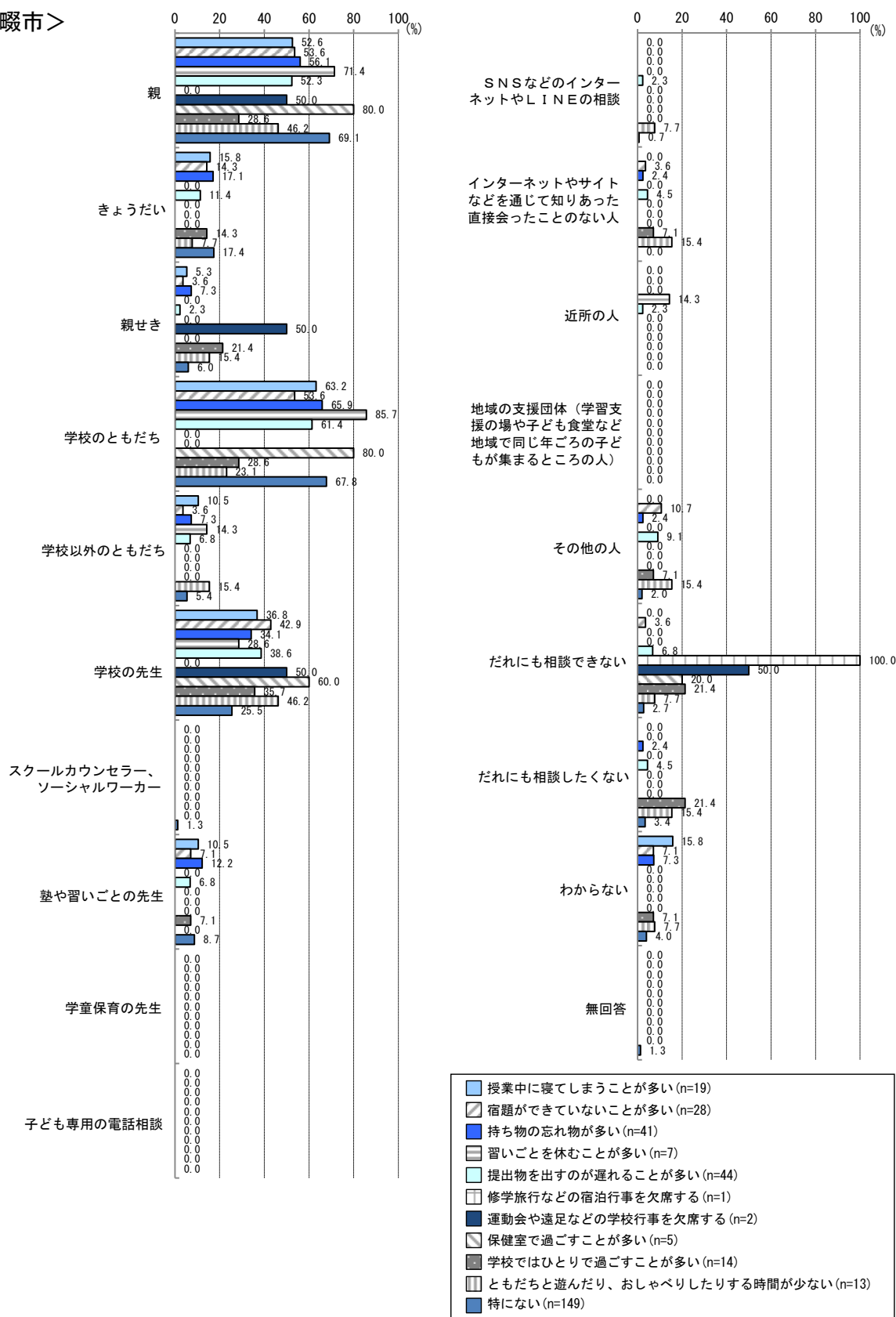
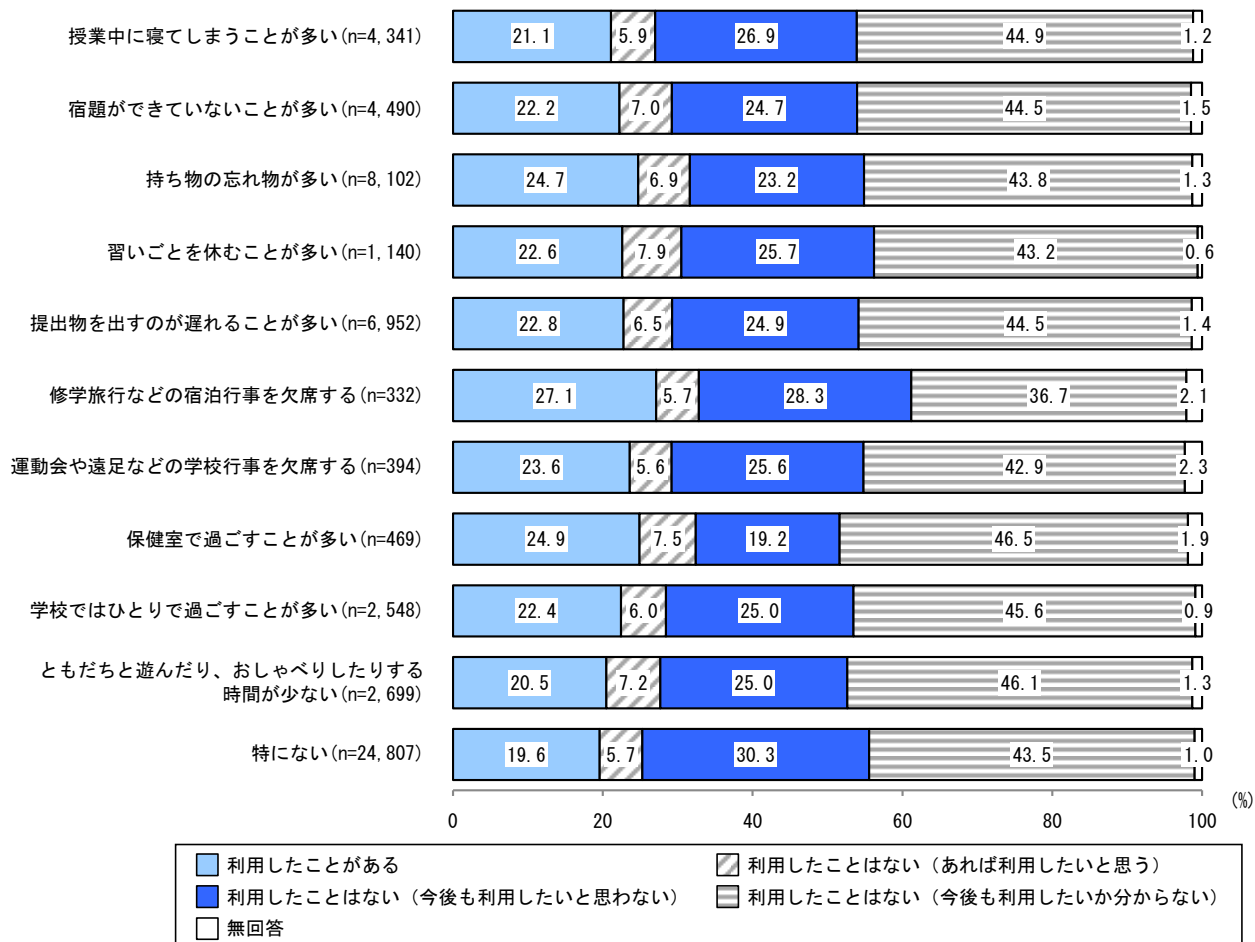


図 179. 学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

学校や学校の行事等の状況別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、「親」と回答した人の割合は「保健室で過ごすことが多い」と回答した人の割合が80.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

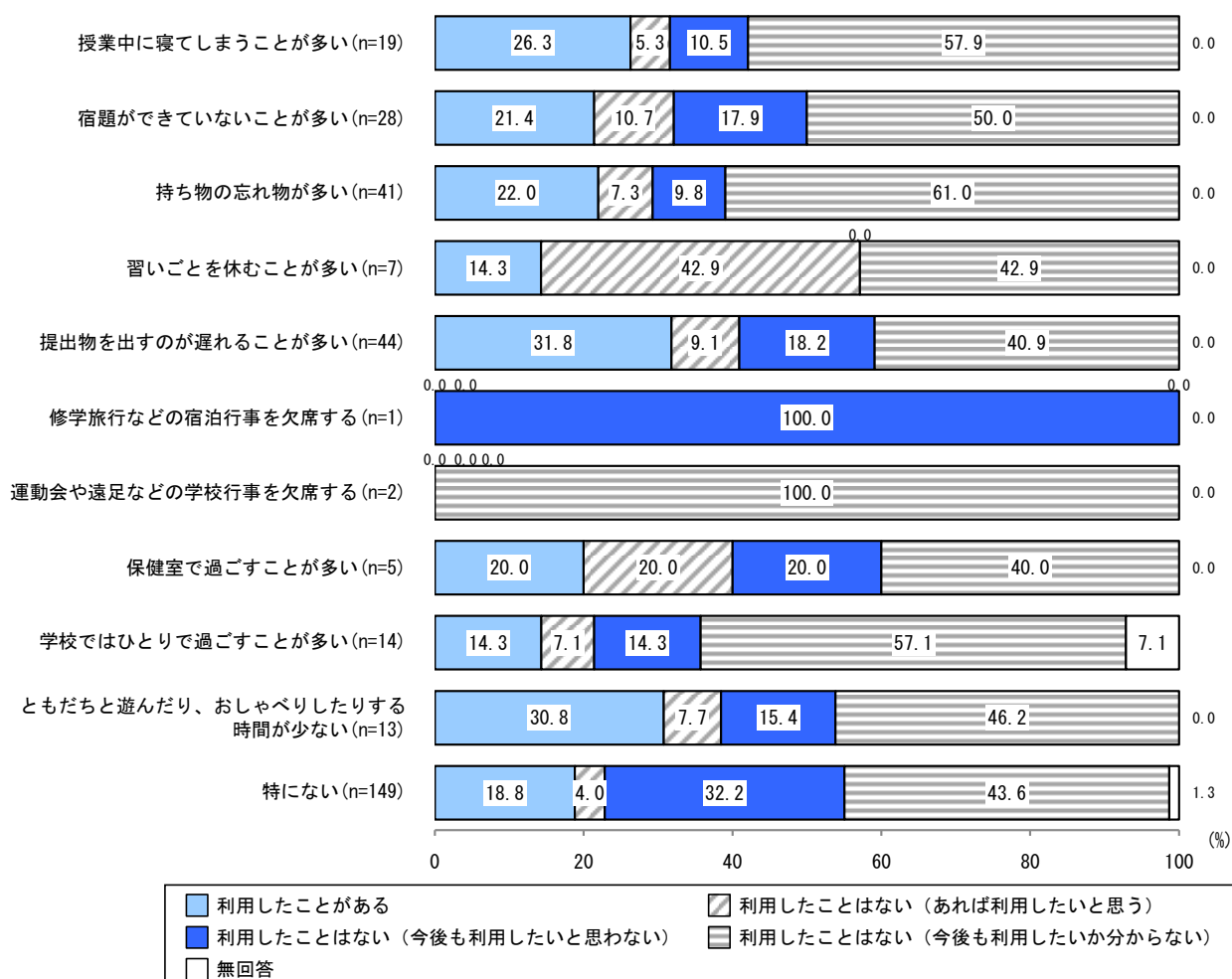
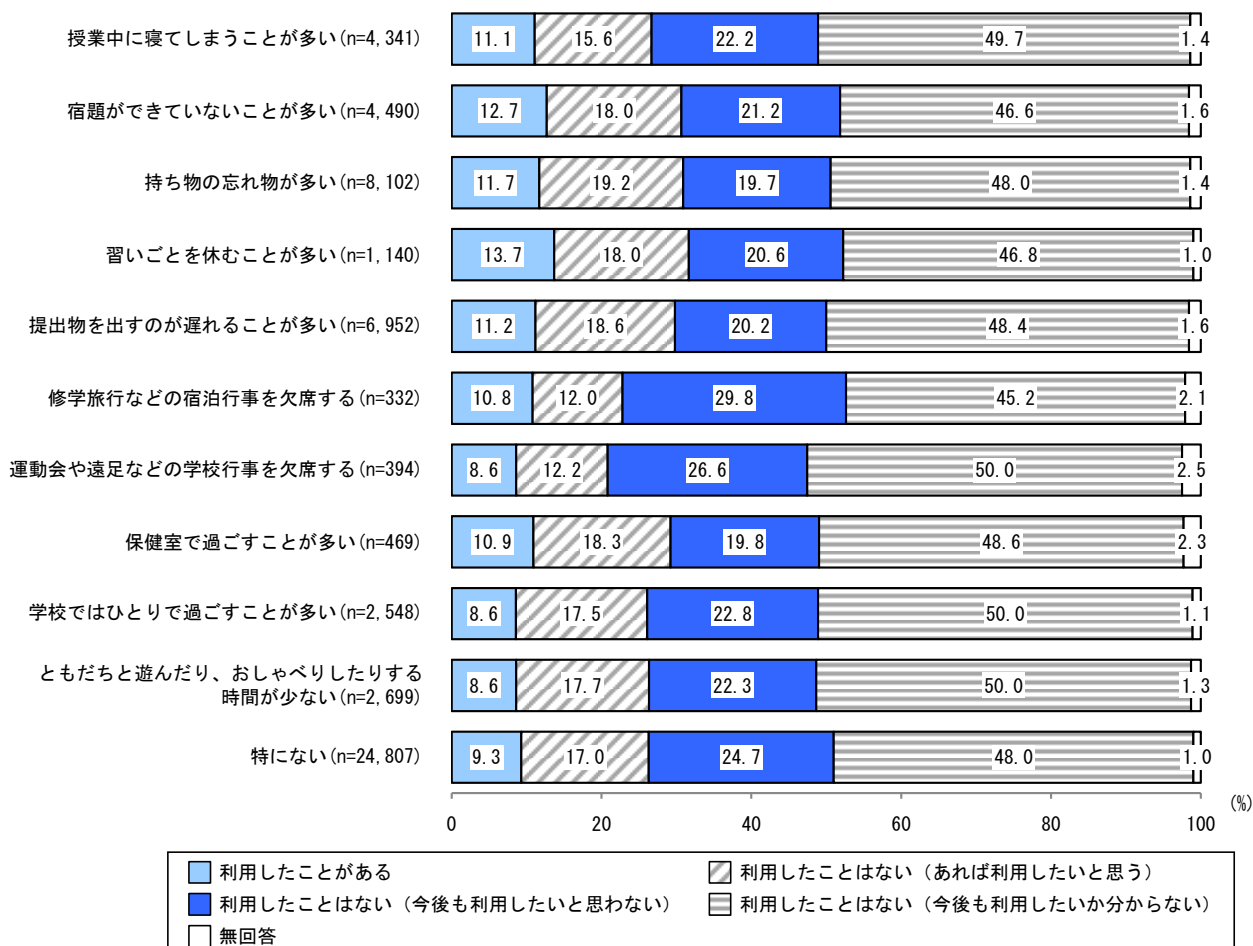


図 180. 学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

学校や学校の行事等の状況別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「提出物を出すのが遅れることが多い」が31.8%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 16×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

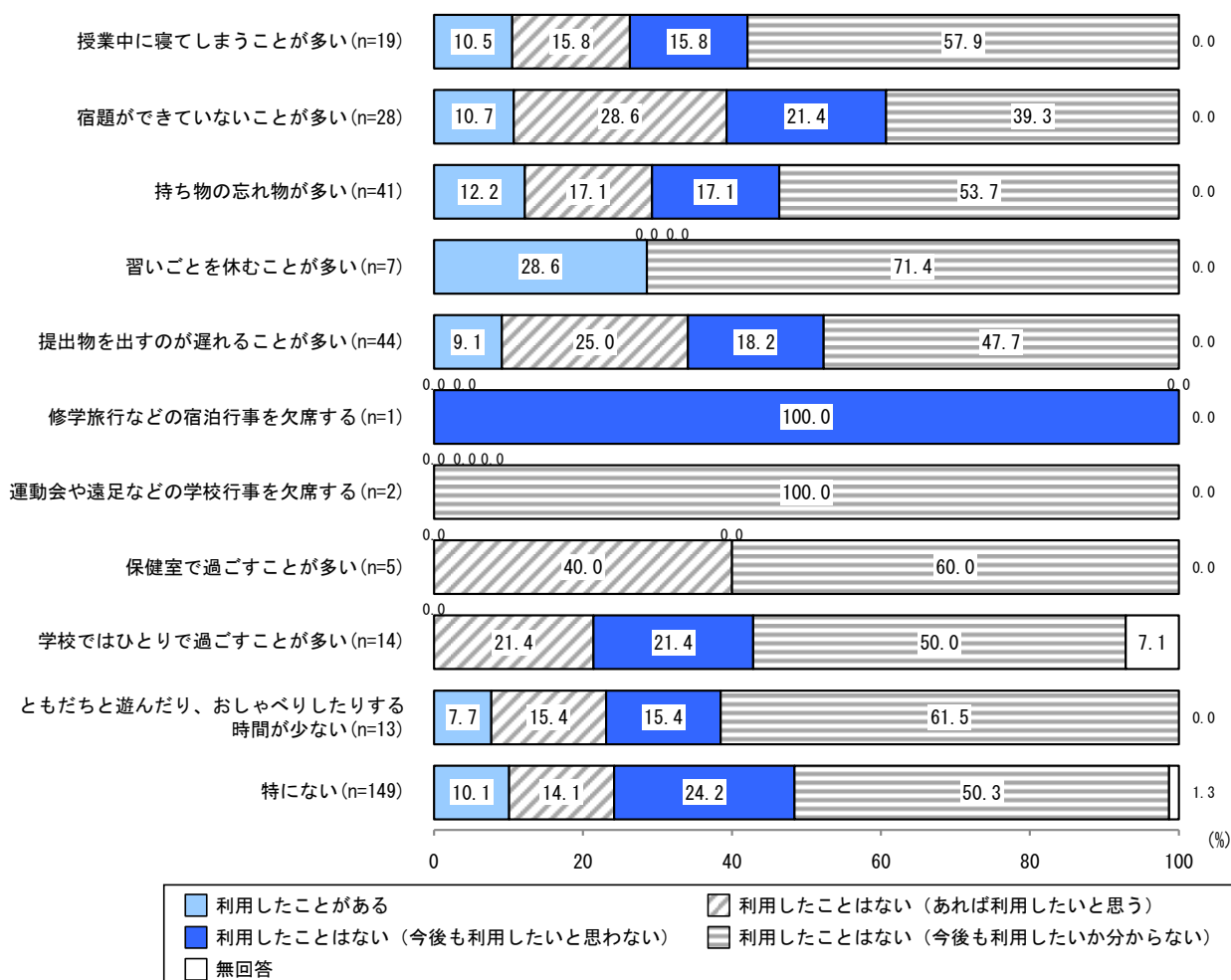
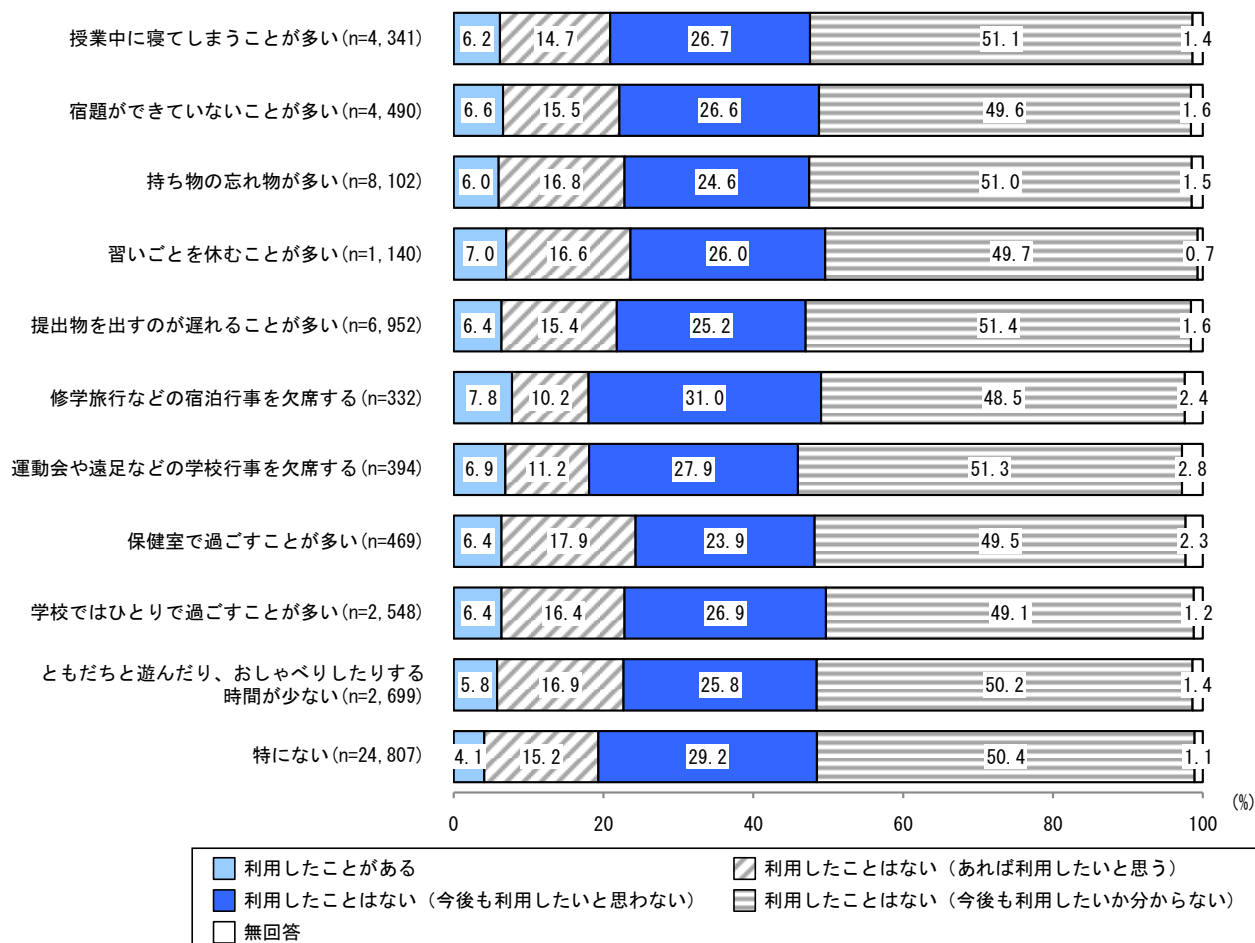


図 181. 学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

学校や学校の行事等の状況別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「習いごとを休むことが多い」が28.6%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

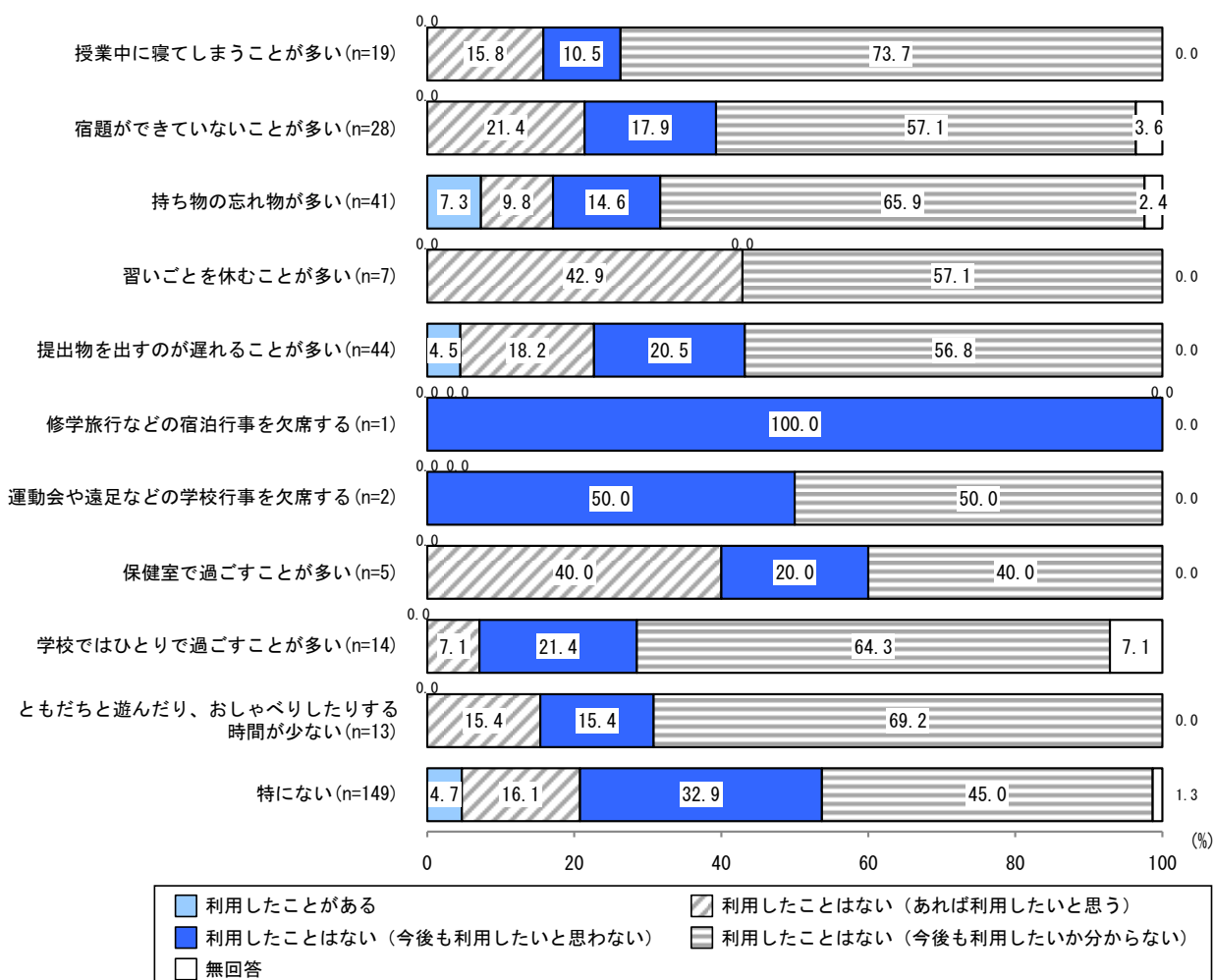
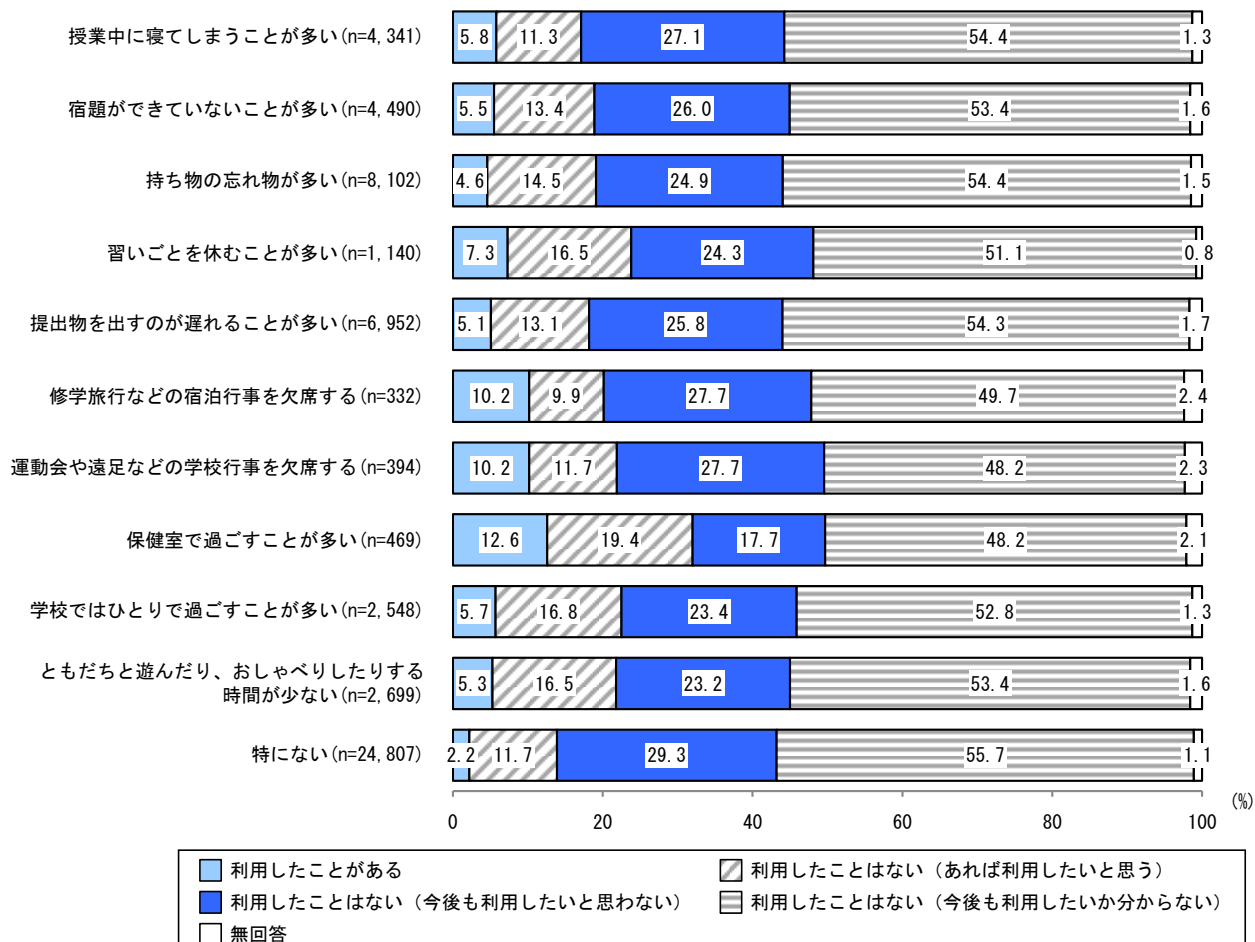


図 182. 学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

学校や学校の行事等の状況別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「持ち物の忘れ物が多い」が7.3%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所
(子ども票問 16×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

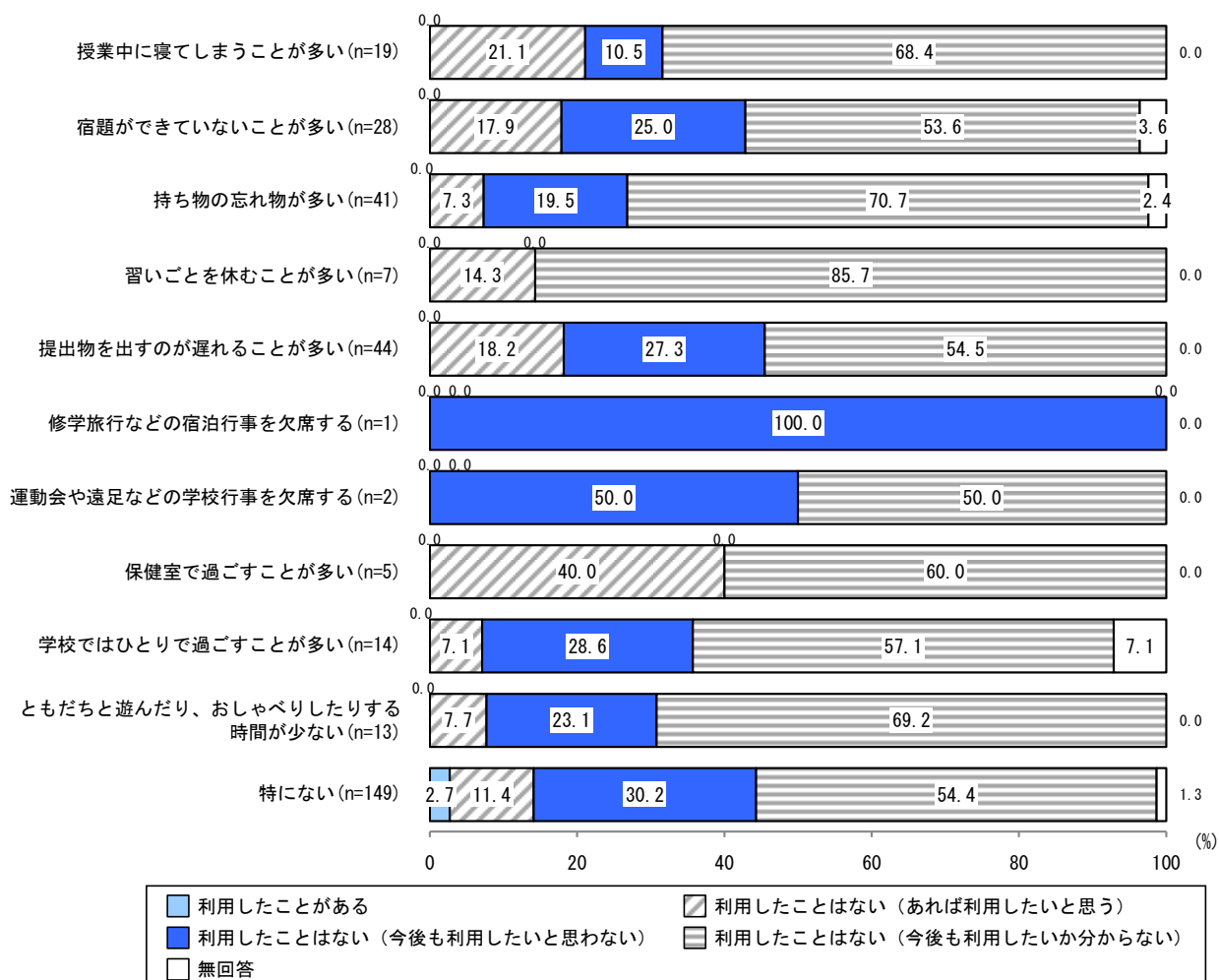
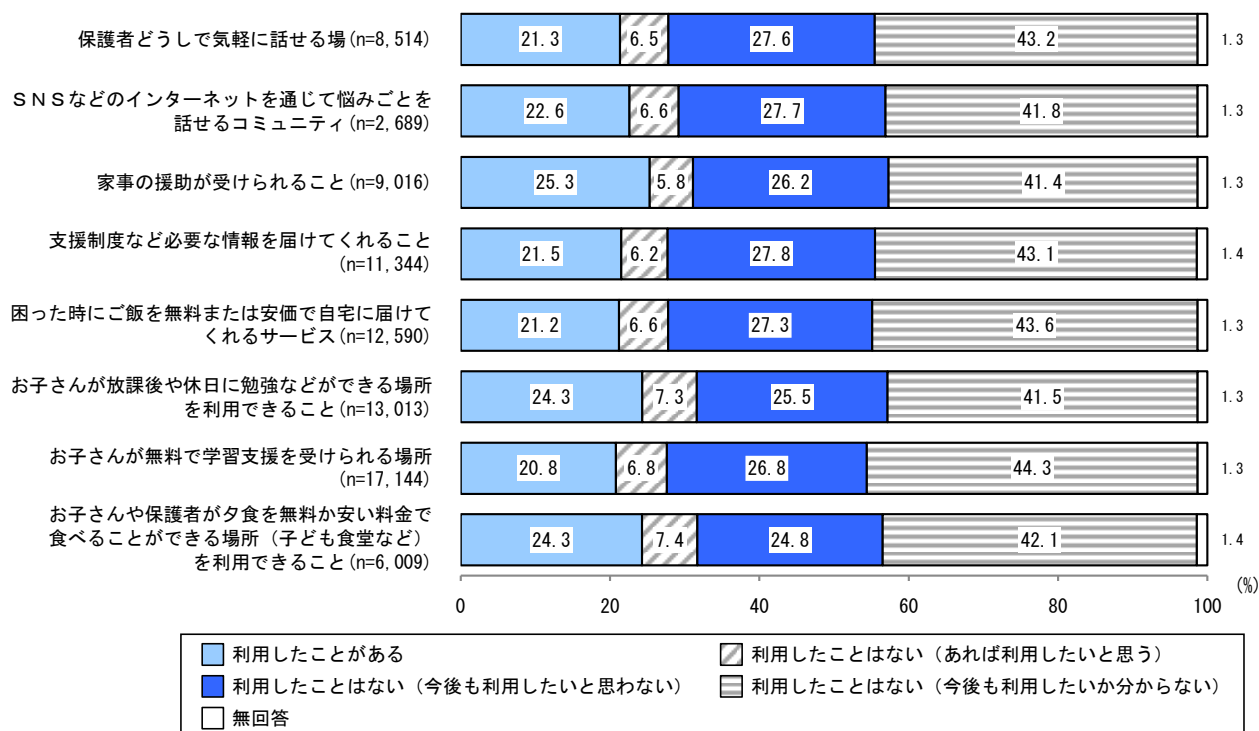


図 183. 学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所

学校や学校の行事等の状況別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「特にない」が2.7%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



＜四條畷市＞

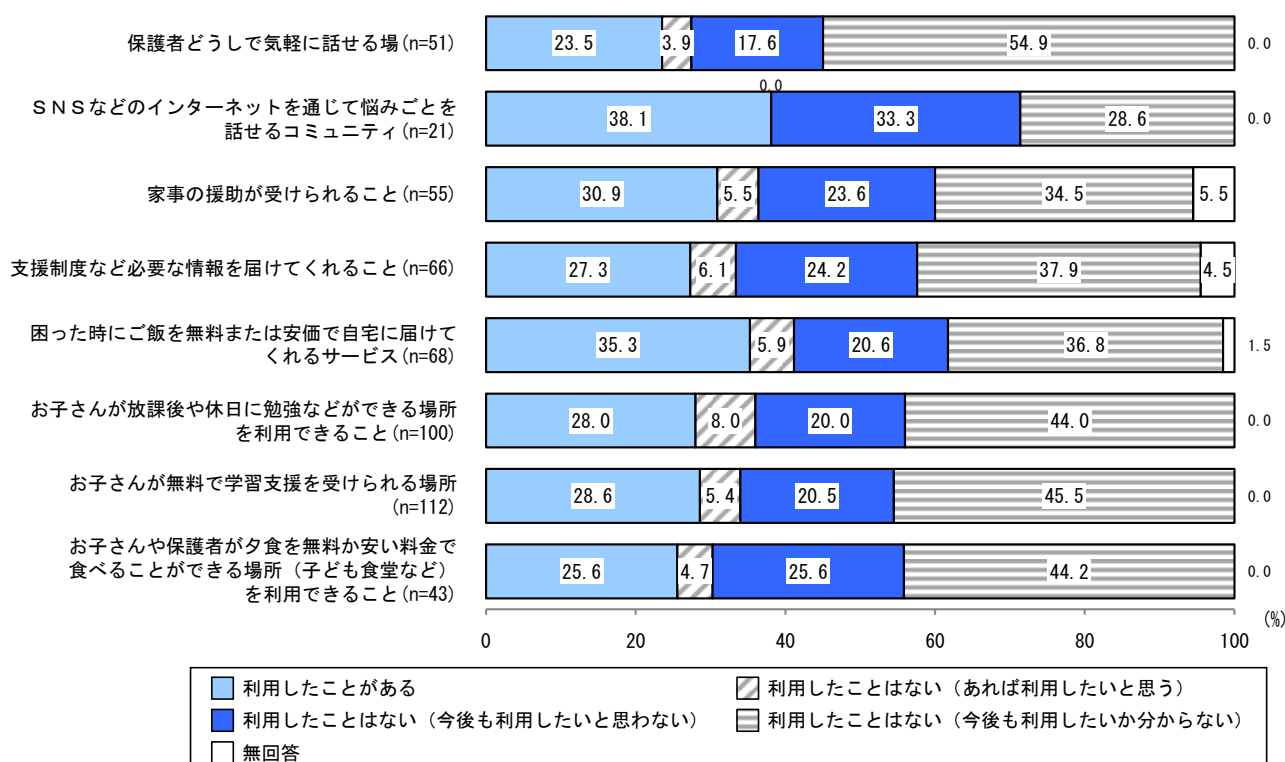
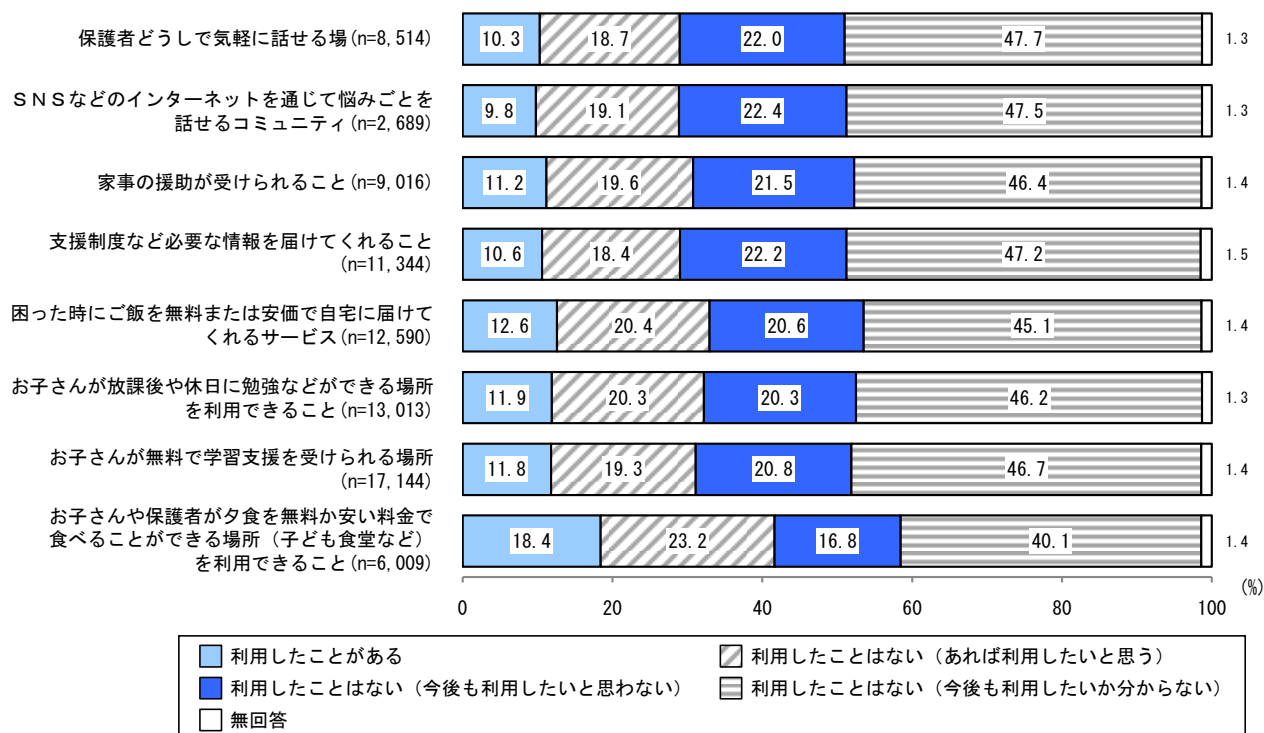


図 184. 身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

身近にあるといいと思うこと別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ」が38.1%で最も高く、次いで「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」が35.3%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金を食べることができる場所（保護者票問 20×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<四條畷市>

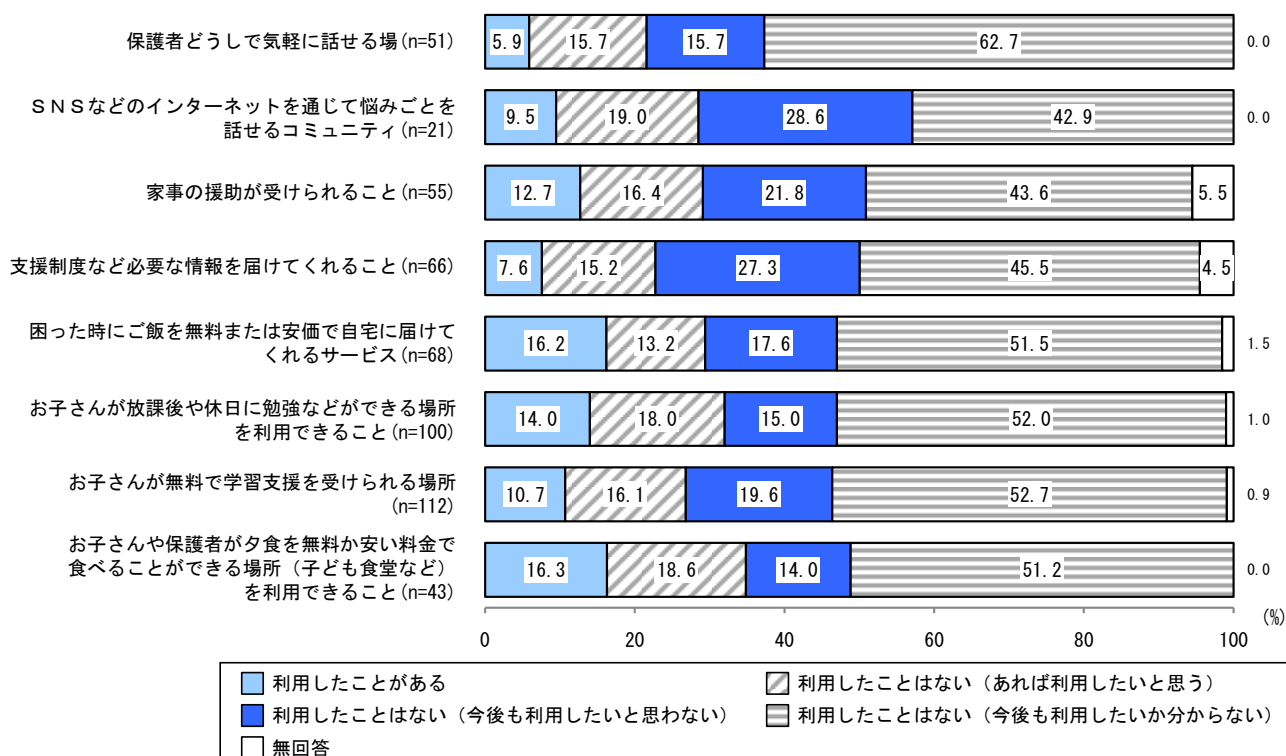
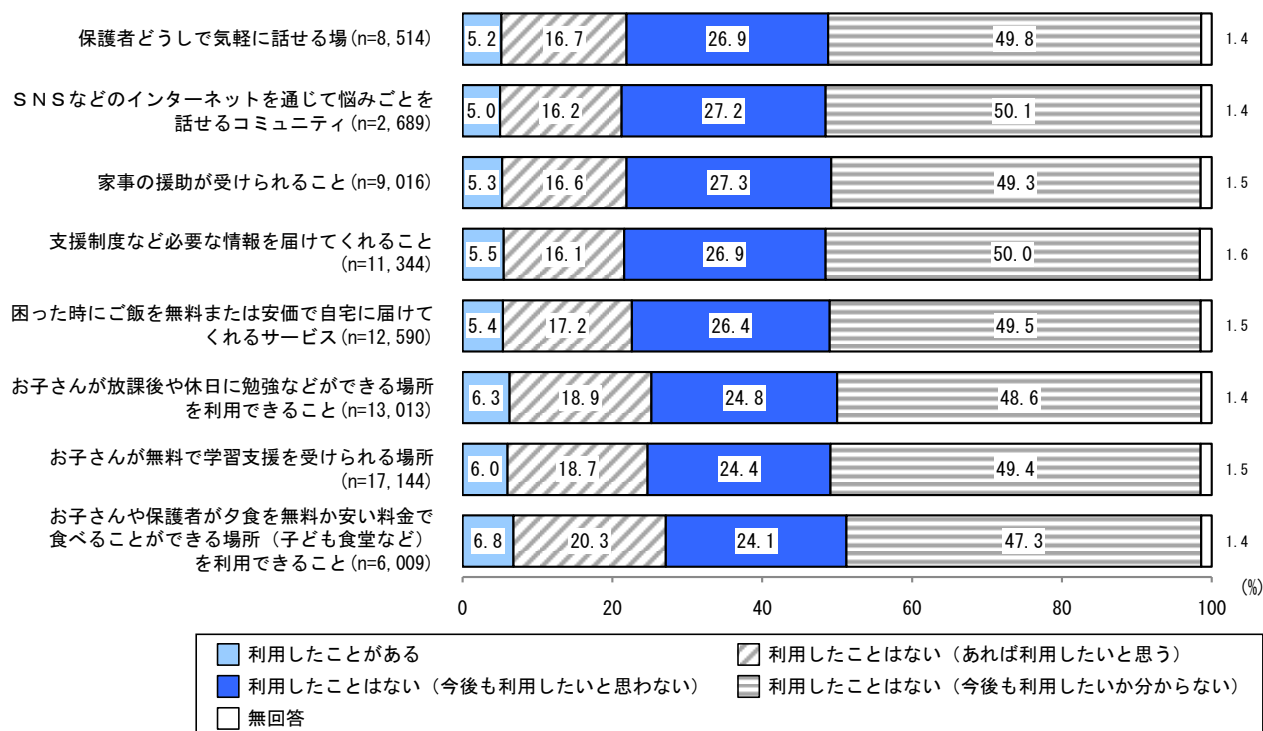


図 185. 身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

身近にあるといいと思うこと別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」が16.3%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



＜四條畷市＞

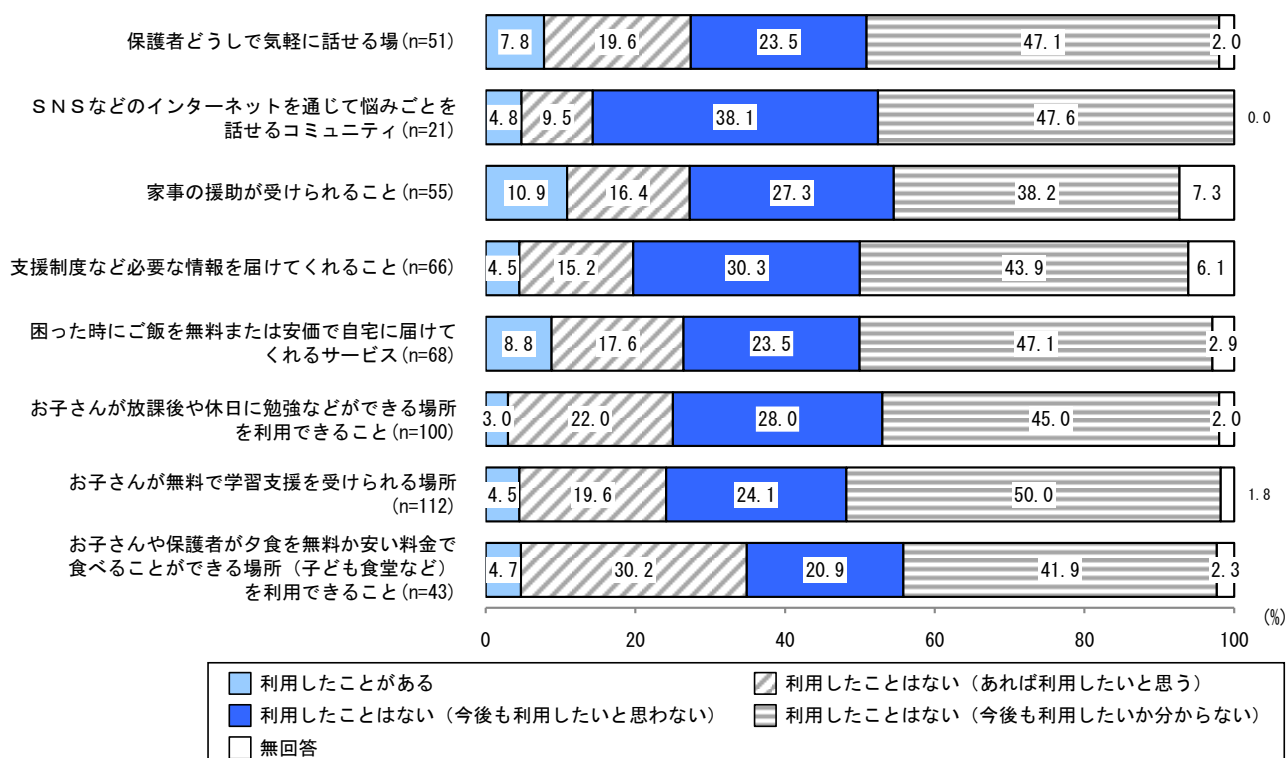
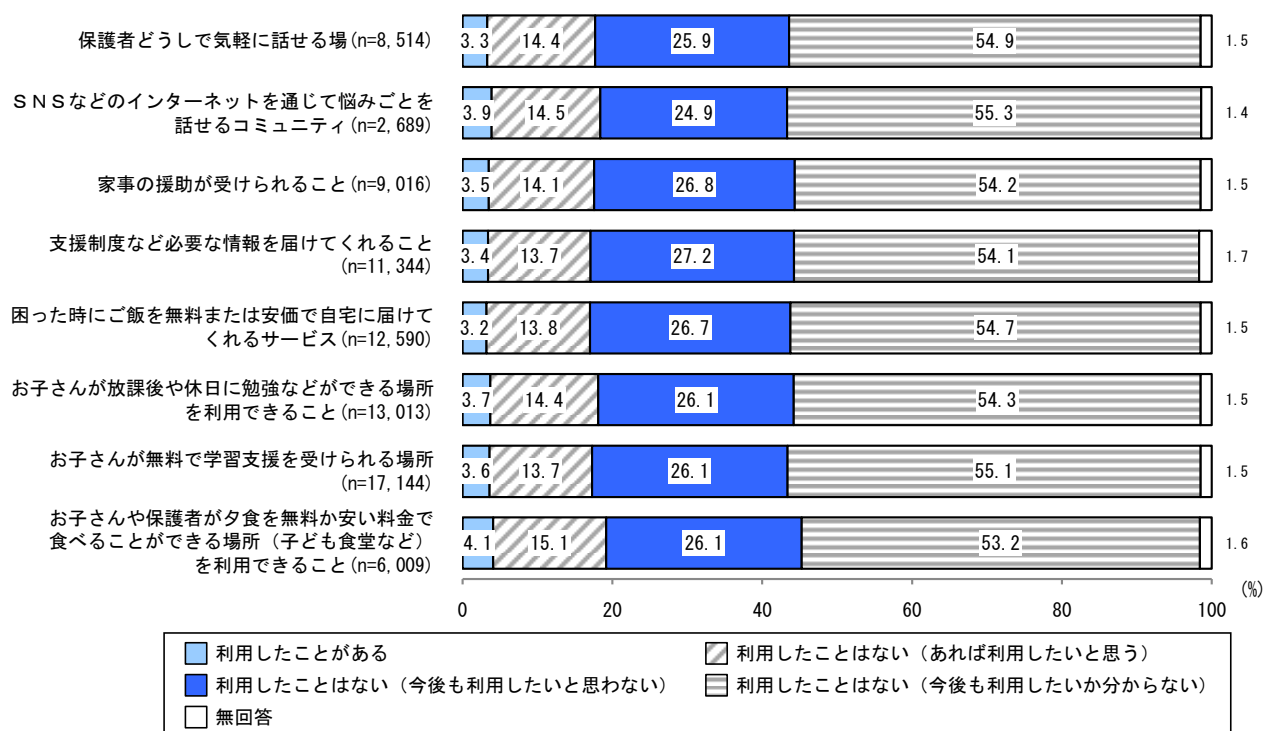


図 186. 身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

身近にあるといいと思うこと別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、「家事の援助が受けられること」が10.9%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所
(保護者票問 20×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<四條畷市>

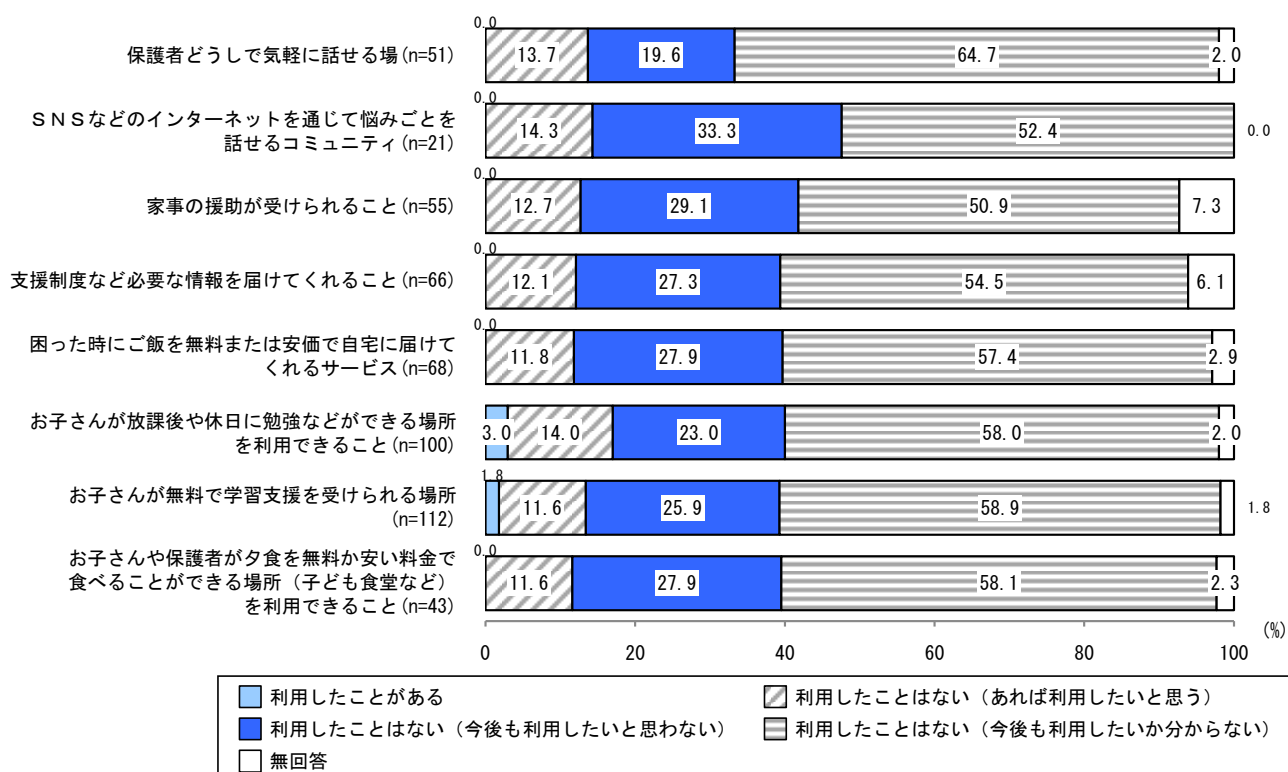
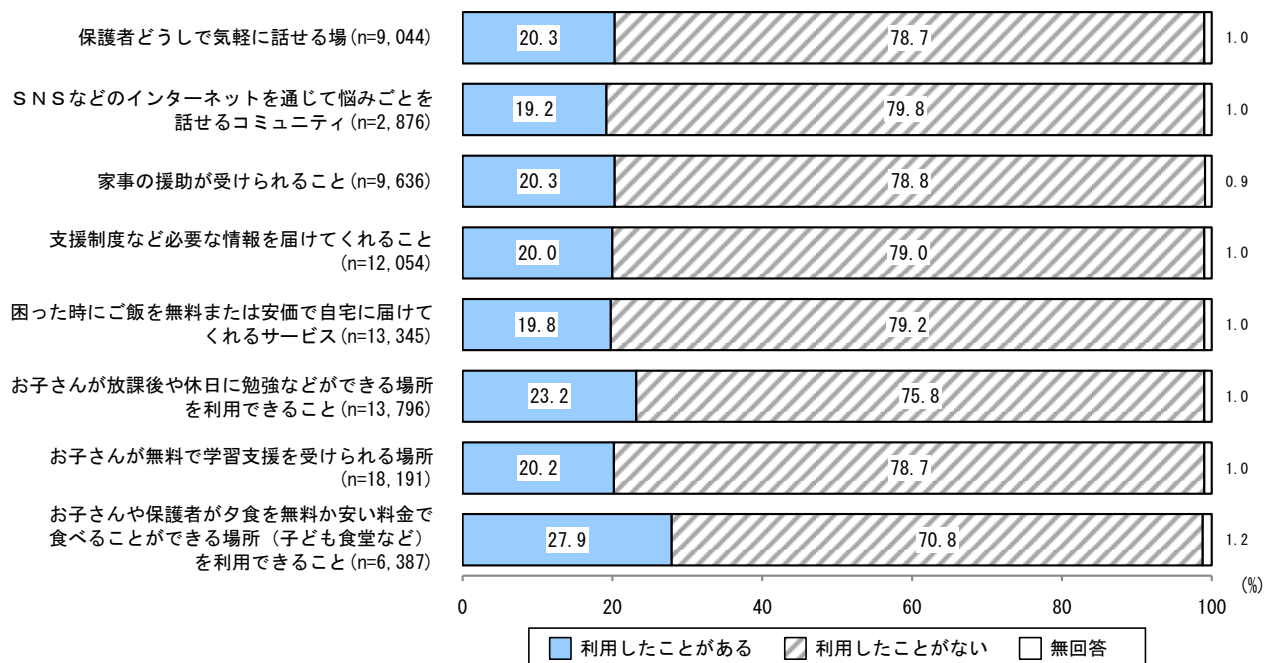


図 187. 身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所

身近にあるといいと思うこと別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が3.0%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無
(保護者票問 20×保護者票問 16(1))

<大阪府内全体>



<四條畷市>

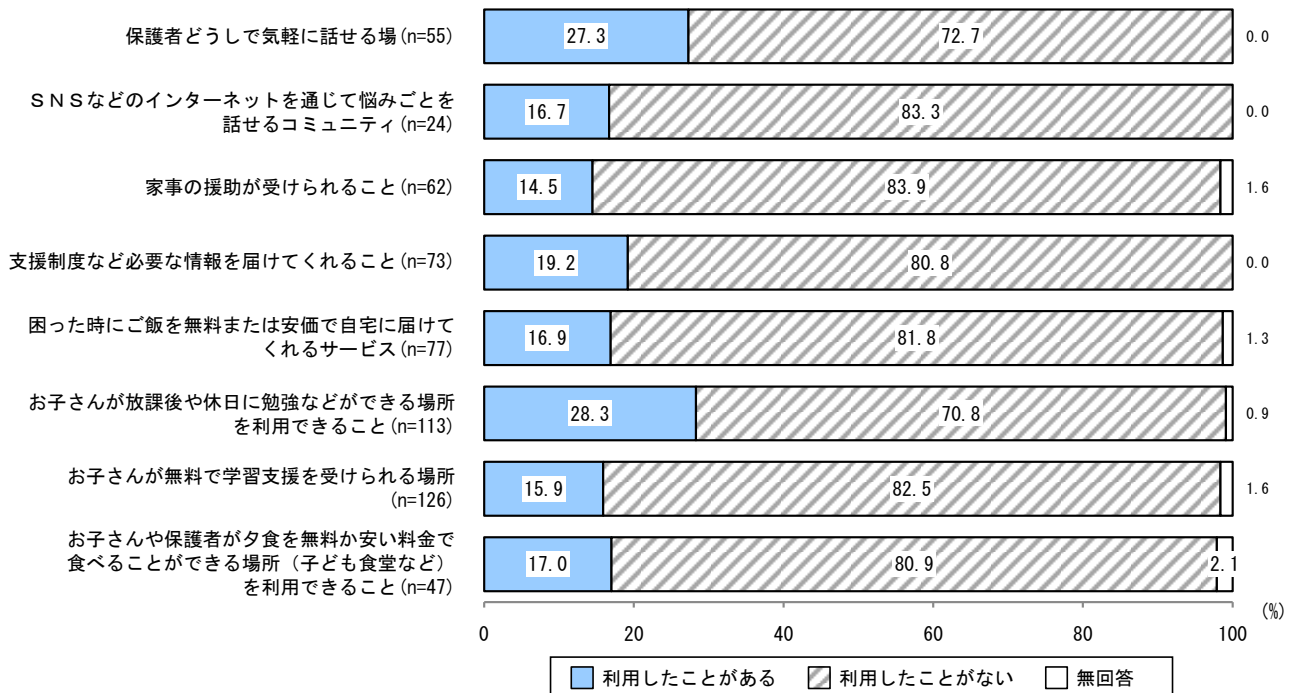
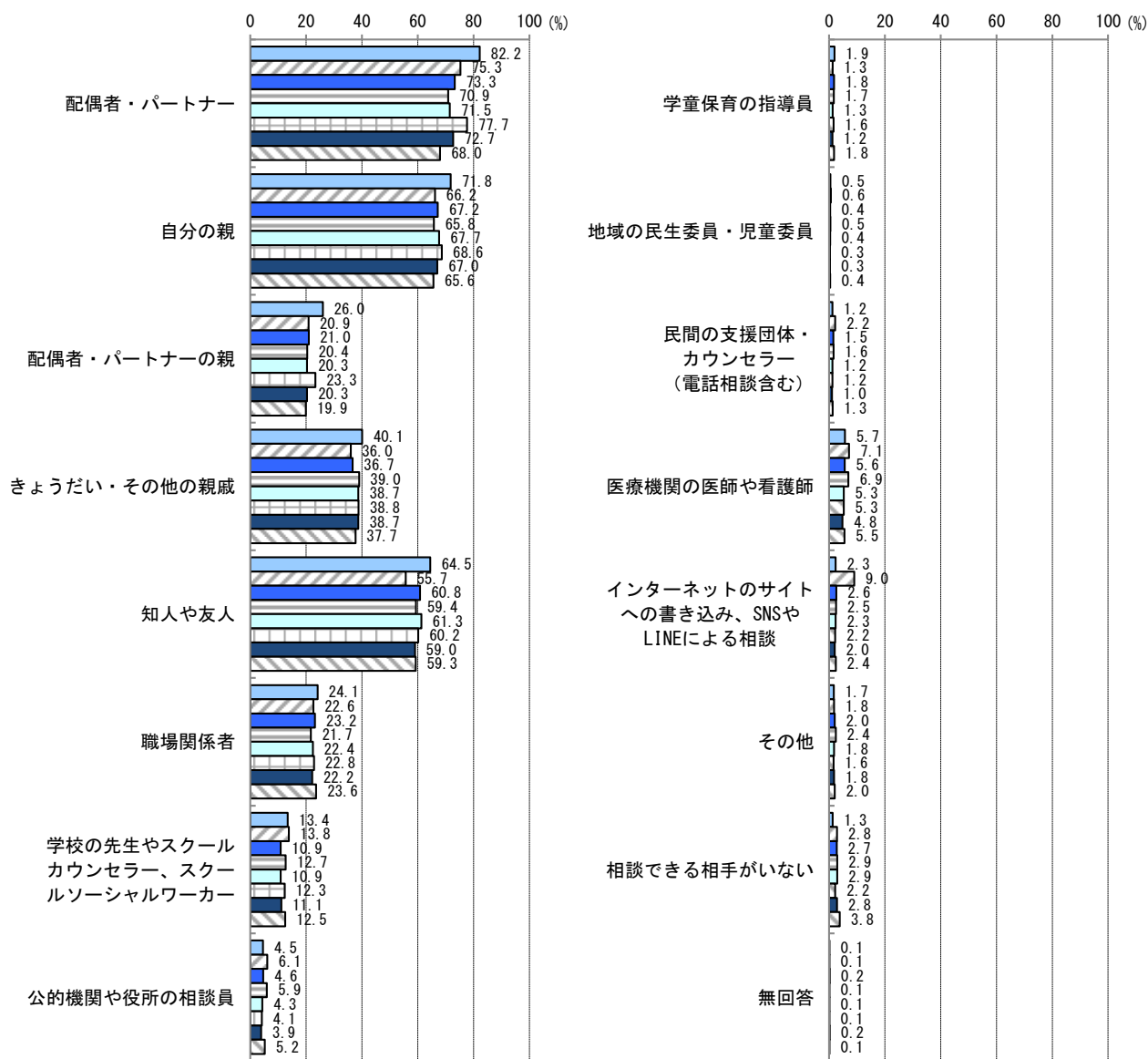


図 188. 身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無

身近にあるといいと思うこと別に子どもの居場所の利用有無を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が28.3%で最も高く、次いで「保護者どうして気軽に話せる場」が27.3%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 20×保護者票問 19）

<大阪府内全体>



- 保護者どうして気軽に話せる場 (n=9, 044)
- SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ (n=2, 876)
- 家事の援助が受けられること (n=9, 636)
- 支援制度など必要な情報を届けてくれること (n=12, 054)
- 困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス (n=13, 345)
- お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること (n=13, 796)
- お子さんが無料で学習支援を受けられる場所 (n=18, 191)
- お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること (n=6, 387)

<四條畷市>

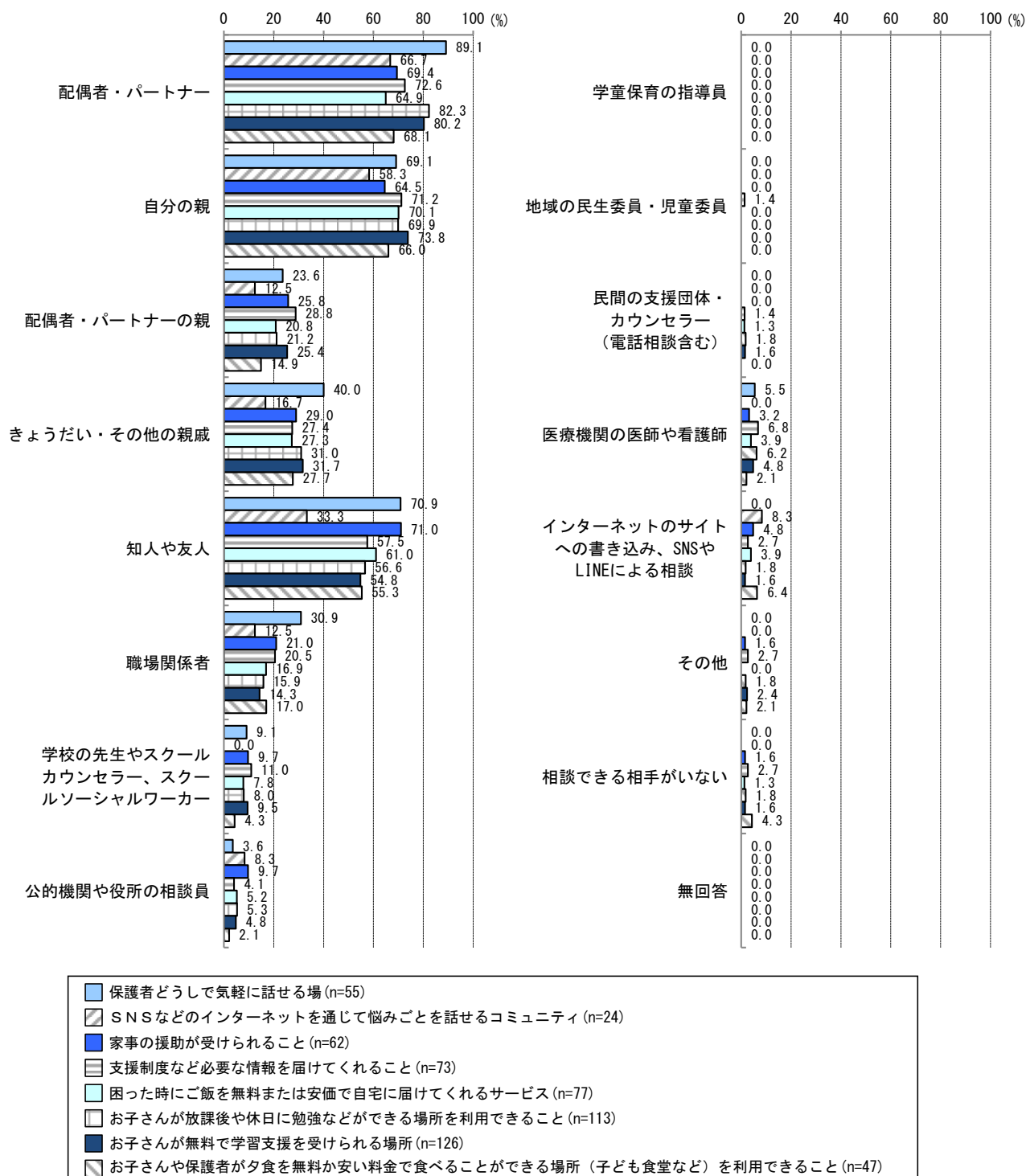


図 189. 身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

身近にあるといいと思うこと別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「配偶者・パートナー」と回答した人の割合は、「保護者どうして気軽に話せる場」が89.1%で最も高く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が82.3%となっている。

<対人関係に関する考察>

中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目した分析結果を以下にまとめる。子どもが放課後に過ごす場所では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「習いごと」(35.5%対18.8%)と「ともだちの家」(24.7%対12.5%)の利用率が約2倍である。次いで「公園・広場」(31.2%対21.9%)と「塾」(23.7%対15.6%)の利用率が約8～9ポイント高くなっている。子どもが放課後に一緒に過ごしている人物では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「学校のともだち」(64.5%対46.9%)と一緒に過ごす割合が約18ポイント高くなっている。次いで「おうちの人以外の大人」(21.5%対12.5%)、「学校以外のともだち」(15.1%対3.1%)と一緒に過ごす割合がいずれも10ポイント程度高くなっている。更に、「生活の楽しいこと」と「悩んでいること」では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」(63.4%対43.8%)、「塾や習いごとで過ごしているとき」(33.3%対15.6%)を「楽しいこと」として多くあげている。一方、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「学校や勉強のこと」(25.0%対17.2%)、「自分のこと(外見や体型など)」(21.9%対11.8%)、「ともだちのこと」(15.6%対7.5%)を「悩んでいること」として多くあげている。なお、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「いやなことや悩んでいることはない」(44.1%対28.1%)と回答している割合が16ポイント高くなっている。また、困窮度別に子どもの自己効力感をみると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群よりも高くなっている(平均値8.63対8.22)。一方、放課後ひとりであることがある群は、そうでない群よりも自己効力感が低くなっている(平均値7.76対8.72)。また、嫌なことや悩んでいるときの相談相手では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「学校のともだち」(64.5%対43.8%)を相談相手とする場合が約20ポイント高くなっている。これらの結果から、経済状況によって、子どもの教育的な活動へのアクセス、家族以外の社会的交流や人間関係を築く機会が制限されるだけでなく、子どもの自己効力感にも影響を及ぼす可能性があることが示唆された。さらにその自己効力感の低さから、相談ができるほどの友人関係の親密度の構築を妨げていることが示唆された。

困窮度別に保護者の相談相手は、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「配偶者・パートナー」(84.5%対48.5%)と相談する割合が30ポイント以上高くなっている。また、世帯構成別に保護者の相談相手は、母子世帯はふたり親世帯と比べ、「相談できる相手がいない」割合(11.1%対0.4%)は10ポイント以上高くなっている。これからの結果は、経済状況や世帯構成によって保護者の相談相手が異なり、とくに困難な経済状況にある世帯や特定の世帯構成の保護者が支えや相談相手の不足を経験していることが示された。

また、子どもの居場所の利用有無別に保護者の相談相手・相談先をみると、子どもが居場所を利用している家庭は、そうでない家庭と比べて、「職場関係者」(19.6%対17.4%)、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」(9.8%対7.0%)、「医療機関の医師や看護師」(5.9%対2.8%)といった家族や友人以外と相談する割合が高くなっている。これらの結果から、子どもの居場所が様々な専門家や機関との連携を可能にしており、総合的なサポート体制として機能していると考えられる。

Ⅲ 総合考察

本報告書における「子どもの貧困」概念の捉え方であるが、基本的に、2016年の調査で扱った貧困概念に基づいている。簡単に述べると、子どもの貧困を相対的貧困で捉えた上で、①所得や資産などの経済的資本、②健康や教育などのヒューマン・キャピタル、③つながりやネットワークなどのソーシャル・キャピタルの3つのキャピタルの欠如を枠組みとしている。この数年で、「子どもの貧困」「相対的貧困」概念も十分に知られるようになったことから、詳細な説明はここでは割愛するが、山野則子編著（2019）を参照されたい。

次に、総合考察においては四條畷市が実施した数値で検討を行う。各ページにはグラフコメントやクロスの分析を考察したセクションコメント（経済状況、雇用、健康、家庭状況制度、家庭生活と学習、対人関係）を記載している。総合考察において、同じことを書くのではなく、総合考察として、これらセクションコメントを踏まえ、まさに考察すべきものを中心に記載している（一部、要望により同傾向でも記載あり）。単純集計はセクションコメントにも出てこないの、可能な限り数字を入れて説明する。そして、全体はこれらの結果から政策の評価を行うものである。

1）大阪府共同調査の意義

本調査では、四條畷市の調査のみならず大阪府内43自治体で共同実施して把握したことは、その回答者数の多さにおいても都道府県レベルで域内すべての自治体の対象者が入っている点においても、意義がある。その上で、大阪府内全自治体の結果は、傾向として四條畷市の調査結果を裏付けるものであった。これは無作為抽出であっても全体と比較してみることで、傾向の把握が可能であり、信頼性があることを示すものにもなった。

本報告では、すべての項目に四條畷市のグラフを入れることで、結果をわかりやすくしている。本調査は、子どもの貧困対策の評価につながる基礎調査である。

2）単純集計

<経済面・家庭状況制度面>

可処分所得の分布について、実態が明らかになった。

四條畷市の保護者全体では、「600～650万円未満」が7.5%で最も高く、「400～450万円未満」が6.7%、「500～550万円未満」が6.0%、「550～600万円未満」が5.6%の順に高くなっている。小5の保護者では、「550～600万円未満」が9.3%で最も高く、「400～450万円未満」が6.8%、「200～250万円未満」が5.9%の順に高くなっている。中2の保護者では、「600～650万円未満」が9.2%で最も高く、「400～450万円未満」が6.7%、「150～200万円未満」が5.9%の順に高くなっている。以上のことから、小5の保護者では「550～600万円未満」が最も高く、中2の保護者では「600～650万円未満」が最も高くなっている。

また、四條畷市の等価可処分所得の中央値は280万円、国の定める基準で行くと相対的貧困率は15.2%であった。なお、前回調査（2016年）における大阪府内全自治体における相対的貧困率は14.9%であった。

四條畷市では、2023年度の今回調査（以後、今回調査とする）では22.1%の世帯が赤字となっている。この割合は中2の世帯が小5の世帯よりも高い。そのためクラブや塾など小学生よりも

中学生の方が家計を圧迫していることに十分対応する必要がある。また、子どものための貯蓄をしたいができない状態が、今回32.6%となっている。また、持ち家率は今回89.1%となっている。

経済的な理由で経験できなかったこと（はく奪項目）について、生活における食費や被服費の切りつめや、レジャーを控えるなどの項目が多く回答されたが、どれにもあてはまらないという回答も27.7%であった。

ただし経済的理由による子どもに関する経験（子どものはく奪）に関しては、「子どもを医療機関に受診させることができなかった」が今回1.1%となっている（「子どものための本や絵本が買えなかった」が今回7.5%、「子どもの学校行事（遠足や修学旅行）などに参加させられなかった」が今回0.4%、「子どもを学校のクラブ活動に参加させられなかった」が今回0.4%、「子どもの誕生日を祝えなかった」が今回1.1%、「子どもを習い事に通わすことができなかった」が今回12.7%、「家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった」が今回22.5%など）。この結果は、医療面での子どものいる世帯での施策が各自治体において広く実施され、その成果が出たものと思われる。

また、子どもが持っているものや使えるのを見ると、本は今回71.0%、子ども部屋が今回72.6%、自転車が今回83.4%である。また、スマートフォンやタブレット（今回76.3%）であり、これらは学校からの配布の成果であろう。

以上から、家計の実態が明らかになったが、医療補助を受けられない究極の場合は約1%存在している。また、基本的には家計の改善を子どもに回す余裕には至っていない。経済的理由による子どもにできなかった経験（上記に挙げたようなこと）がどの家庭でも経験できるような方策が非常に重要である。

養育費の取り決めについては今回養育費の取り決めをして受け取っているのは約3割であった。反面、養育費を取り決めているが、受け取っていないのは1割未満となっている。2016年度全国ひとり親世帯等調査（厚生労働省2017）では、ひとり親家庭のうち養育費についての取り決めをしている割合が母子世帯で62.9%、父子世帯で20.8%、ひとり親家庭で養育費を受け取っていない子どもの割合が、母子世帯69.8%、父子世帯90.2%という値であった。今回の結果は、今後の養育費関連の施策の基礎点となる。

<雇用・健康>

持ち家など居住形態などについて実態が明らかになった。学歴については、母親の学歴を取り上げると、高校卒業が今回19.1%、大学卒業が今回31.5%となっている。雇用状況では、何らかに仕事をしている母親は、今回94.0%となっている。そのなかで、正規職員が今回26.7%となっている。これらは、世の中の人手不足と相まって働く人が増加したことにより、可処分所得も増加したことと関連するであろう。社会の認識の変化や政策による変化があったのではないかと考えられる。子どもの貧困の世論が広まり、各所に出された政策の効果を反映したものと考えられよう。

支援制度の利用状況は、就学援助は今回11.2%、児童扶養手当が今回14.2%、生活保護が今回0.7%であった。就学援助制度について、「利用したことがない」との回答が今回80.1%であり、その理由は、「制度の対象外だと思うから」が利用経験のない者の91.6%で大多数が対象外だと思っていることがわかった。この数値は可処分所得の結果から考えてももっと受けることができる世帯があると思われるが、受けていない。「あなたが受けることができる権利がある」メッセージを必要な人にどう届けるのか大きな課題であり、各制度を正しく知らせ、他人ごとにせず、そこでのスティグマを無くし受けやすくする工夫がさらに必要である。

<健康・家庭生活・学習・対人関係>

同居家族が新型コロナウイルスに感染した述べ回数は平均2.03回であり、小5の世帯で1.94回、中2の世帯で2.14回であった。

まず食事から確認する。「朝食を食べない」（週に1回も食べていない）が今回1.2%であった。食べない理由に「食べる習慣がない」が今回5.0%であった。このことは改善すべき喫緊の課題である。また、家族の人と食事をしていない子どもは、「ほとんどない」、「まったくない」を合計して、朝食では、小学5年生の子どもが17名おり、警鐘をならすべきこととしてとらえるべきである。

おうちの人と関わる設問について、放課後過ごす場所は、「友だちの家」が今回22.0%、「学校（クラブ活動など）」が今回36.5%となっており、コロナの影響による社会的交流が減ったことの影響が考えられる。友人との関係性が薄れることは、孤立や孤独へ向かう懸念も生じる。

勉強に関しては、今回調査から「授業がわからなくなった時期」小学生なら3,4年生(36.4%)、中学生なら1年生(62.5%)でつまづいていることがわかった。相談相手では、誰にも相談できない、相談したくないと感じている子どもは、今回は7.4%となっている。今回は身体の状態が気になることは、「とくに気になるところはない」が今回40.2%（体調）、「やる気が起きない」において「そんなことはない」が34.4%であった。

悩みについては、最も多いのが、「学校や勉強のこと」ついで「自分のこと（外見や体型のこと）」「進学・進路のこと」であった。

制度やサービスでいうと、子どもの居場所において、「平日の夜や休日過ごす居場所」の利用では小5で28.0%、中2で18.9%の子どもが利用したことがあり、「食事提供の居場所」は小5で11.9%、中2で9.0%、「学習支援の居場所」は小5で4.2%、中2で5.7%、「何でも相談できる場所」は、小5で3.4%、中2で1.6%の子どもが利用したことがあった。これらと併せて、居場所の効果として「友だちの増加」が小学生で40.0%、中学生で29.0%、「生活の中に楽しみなことが増えた」は小5が15.0%、中2が9.7%、「気軽に話せる大人が増えた」は小5で10.0%、中2で3.2%という結果であった。このことは今後の展開に大きな意味をなすであろう。ただし、中学2年生は、友達が増えたと回答する反面、同じくらい「特に変化なし」（38.7%）と回答している。そのため、早期に居場所に繋ぎ、居場所が誰にとっても当たり前の選択肢にする必要がある。「平日の夜や休日過ごせる居場所」以外は、利用頻度は「食事提供の居場所」約10%、「学習支援の居場所」約5%、「何でも相談できる場所」は約3%と少なくなり、将来の利用に関する積極的な利用希望も「食事提供の居場所」が小中合わせて16.2%、「学習支援の居場所」が小中合わせて17.0%になる。子どもたちの希望があるととらえられ、「放課後過ごす場所」において、「友だちの家」や「学校（クラブ活動など）」が低調であることと併せて、子どもたちに多くの選択肢を提供できる方がよいと考えられること、自分には関係ない考える傾向があるかもしれないこと、などから居場所の充実とより自然な提供が望まれる。

最後に、ヤングケアラーの項目である「家族に世話をしている人」がいるかどうかについては、厚生労働省の研究事業として実施された調査結果と比べると、小学生6.5%（日本総研2022）、中学生5.7%（MURC2021）という値よりはるかに高い、小5が26.3%、中2が9.0%であり、内容もきょうだいの世話が最も多く、小5は74.2%（小学6年生28.5%：日本総研2022）、中2が81.8%（中学生79.8%：MURC2021）である。小学生の世話が国に比べてきょうだいの世話の割合が高い。「家事」は、本調査では複数の質問にまたがっていることや複数回答可にしていることから単純に比較できないが、先述した厚生労働省の研究事業では、小6の世話の内容を家事と答えたのが、35.2%（日本総研2022）できょうだいの世話より高いが、本調査では逆であった。時間をみると1時間未満が最も多く、定義のあいまいさが子どもに答えにくくさせている可能性も

あるであろう。今後、イギリスのように定義を明確にしていくことも検討を行う必要がある。

今回の調査で保護者が身近にあるといいと思うことは、上位3つが「無料で学習支援が受けられる場所」47.2%、「放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」42.3%、「困ったときにご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」28.8%であった。学習に関して最も気にしていることがわかり、これらのサービスを利用している率の低さから、身近に届けられるような工夫が必要である。

3) クロス集計

政策における6セクション（経済状況、支援制度、雇用、健康、家庭生活と学習、対人関係）について、できなかった経験、つまりはく奪指標との関連が明らかになり、課題が明らかになった。

経済状況に関しては、以下の5課題が明らかになった。

経済状況は家庭内の生活インフラへの支払い、子どもの教育機会、多様な体験機会、貯蓄状況に大きく影響しており、特に困窮度が高い家庭ではこれらの面での困難が顕著であることが示された。また、ヤングケアラーの存在は経済状況に関わらず一定割合で見られた。

1. 生活上の困難と経済状況

経済的に困難な家庭では、「通常であれば可能な生活」を送ることが難しい。中央値以上の層の44.5%が「どれもあてはまらない」と回答したのに対し、困窮度Ⅰ群では12.1%のみである。

困窮度Ⅰ群では、中央値以上と比較して、生活面での困難が顕著である。例えば、電気・ガス・水道の停止が3.0%、家賃や住宅ローンの滞納が12.1%、通信料の滞納が6.1%である。また、困窮度Ⅰ群では、国民年金の支払い滞納が9.1%であり、中央値以上の層では0.9%である。

2. 子どもの教育への影響

経済的に困難な家庭の子どもは、進路変更、習い事や塾への参加が制限されている。困窮度Ⅰ群で「進路変更あり」が6.1%、「習い事ができない」が33.3%、「塾に通えない」が33.3%である。

3. 子どもの多様な体験への影響

困窮度Ⅰ群では、「家族旅行ができなかった割合」が33.3%であり、中央値以上群では13.6%である。しかし、全体としてはどの階群でも子どもに多様な体験を提供している家庭が多い。

4. 貯蓄状況の格差

困窮度Ⅰ群では、「貯蓄をしている」割合が51.5%であり、中央値以上群では80.0%である。また、困窮度Ⅰ群では貯蓄をしたいができていない割合が48.5%である。

5. ヤングケアラーの状況

「世話をしている人がいる」と回答した割合は17.6%であり、困窮度Ⅰ群（15.6%）と中央値以上群（17.2%）で大きな差はない。全国調査では、小学6年生の6.5%、中学2年生の5.7%が家族の世話をしていると報告されている。

以上により、困窮度の高い家庭の生活上の困難と家計の厳しさが示された。また、コロナ禍となったこともあり、経済的リスクのしわ寄せが子どもに向かった可能性がある。経済状況により、生活格差、教育格差、体験格差が生じている。また将来に対する子どもへの教育投資やリスク対策にも影響が出ている。しかし、これは絶対に避けなければならないことであり、警鐘を鳴らす必要性とともに対策を講ずべきである。

支援制度に関しては、以下の5課題が明らかになった。

家庭における「自分を大切にすること」「将来を見せるような予防的な教育支援」が重要である。加えて「出産などによって学業を中断せざるを得なかった10代への教育支援」や「就業支援特に困窮度の高い家庭やひとり親世帯での支援」が不可欠であることが示された。また、若い母親の教育継続や再開に対する支援の必要性も明らかになった。

1. 就学援助の利用状況

困窮度が高い家庭ほど就学援助の利用率が高い。

全体での就学援助の利用率は11.2%であるが、困窮度別に見ると、困窮度Ⅰ群では42.4%、困窮度Ⅱ群では27.3%となっている。

この結果から、経済的に困難な家庭ほど就学援助の利用が多い。社会保障制度の捕捉率向上のため、給付の要件緩和や手続きの簡素化が必要である。

2. 児童扶養手当の利用状況

ひとり親世帯、特に困窮度の高い家庭で児童扶養手当の利用率が高い。ひとり親世帯を対象とした児童扶養手当の利用率は全体で64.0%であり、困窮度Ⅰ群では91.7%、困窮度Ⅱ群では100.0%と非常に高くなっている。

特に困窮度が深いひとり親世帯ほど、児童扶養手当の利用が必要とされている状況が浮き彫りになった一方で、生活保護制度の利用率は全体的に低く、一定層の貧困層が漏れ落ちている可能性がある。

3. 生活保護制度の利用状況

生活保護制度の利用率は全体で0.7%と低い。困窮度Ⅰ群と困窮度Ⅱ群の世帯では利用者がいない。

調査からは、生活保護制度の利用が必要な一部の貧困層が把握されていない可能性がある。

4. 養育費の取り決めと受け取り状況

養育費の取り決めや受け取りを行っている世帯の割合は低い。ひとり親世帯で養育費の取り決めや受け取りをしている世帯は全体の22.2%にとどまり、特に困窮度Ⅰ群の世帯でこの状況が顕著である。

ひとり親が養育費の取り決めを行うことの困難さが浮き彫りになり、離別後の養育費取り決めの支援強化が必要である。

5. 母親の初産年齢と最終学歴

若い母親は学業を中断する傾向がある。初めて親になった年齢が10代で、中学校卒業や高等学校中途退学が多い。

妊娠・出産後も学習を継続できるサポートや、学び直しの機会の提供が重要である。

まず「就学援助制度」「生活保護制度」について、利用が少ない。つまり経済的に厳しい家庭にとって、制度利用は決して進んでおらず、さらに厳しい状況となったとも推察できる。子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況は、本調査において全体で7.4%、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金は1.3%である。全国レベルのデータを見ると、2020年コロナ発生後の10月の調査（厚生労働科学特別研究）において、収入200万円未満の世帯で35.6%（山野研究室2021）である。これらの数値を直接比較することはできないが、いずれにおいても割合の低さから、2016年以降子どもの貧困が周知されるようになり、コロナ禍となって、さらに支援制度の広がりや周知が今まで以上になされたが、大阪においてもその活用が広がり切れなかったと言わざるを得ない。これら最も厳しい世帯における利用が減少した要因を探る必要がある。

10代で親になった世帯の厳しさは、たとえば母親の最終学歴について初めて親となった年齢別では、中卒（「中学校卒業」および「高等学校中途退学」）が他の年齢群に比べて高い割合を示している。また、就労状況において正規社員の割合が、他の年齢群と比べて低くなっている。そのため、出産などによって学業を中断せざるを得なかった10代への教育支援や就業支援もさることながら、そもそもの予防的支援として、自分を大切にすることや将来を見据えるような教育的支援が必要である。例えば、小学生から高校生まで、性教育含む生きる教育（西澤・西岡ほか2022）の積極的な導入を進めるべきである。またスウェーデンで行われる、実際の社会問題と向き合い、制度を知り選択できる力を養う社会科授業の実施など、思い切った根本的な教育改革が必要である。

雇用に関しては、以下の5課題が明らかになった。

経済状況は保護者の就労状況、特に正規雇用か非正規雇用かに大きく影響しており、学歴も就労形態に関連している。また、世帯構成によっても就労状況に違いがあり、これが家計の状況、特に貯蓄の有無に影響を及ぼしている。

1. 保護者の就労状況と学歴

- 中央値以上群の家庭では、保護者が正規雇用に就いている割合が高い。
- 困窮度が高い家庭では、保護者が非正規雇用に就いている割合が高い。
- 大学卒業以上の保護者は、そうでない保護者に比べ正規雇用に就いている割合が高い。

2. 母親の最終学歴と就労状況

- 母親の最終学歴が高いほど正規雇用に就いている割合が高い。

3. 父親の最終学歴と就労状況

- 父親も、学歴が上がると正規雇用に就いている割合が増加する。

4. 世帯構成と保護者の就労状況

- ふたり親世帯では、母子世帯に比べて正規雇用に就いている割合が高い。
- 母子世帯では、非正規雇用に就いている割合が高く、就労状況が不安定であることが示唆される。

5. 就労状況と家計の状況

- 正規雇用の家庭では、貯蓄ができる割合が非正規雇用の家庭に比べて高い。
- 非正規雇用の家庭では、家計が赤字になる割合が正規雇用の家庭に比べて高い。

非正規雇用の方が、困窮度が増すことや、最終学歴が低いほど困窮度Ⅰ群に占める割合が高くなる傾向がある。世帯構成と就労状況の関係をみると、ふたり親世帯と比べて、母子世帯では非正規雇用の割合が高くなっており、母子世帯へのさらなる重点支援を検討すべきである。

健康に関して、以下の4課題が明らかになった。

経済状況は家庭の生活習慣、特に朝食の摂取や子どもの健康状態に影響を与えており、親子関係や子どもの自己効力感にも関連している。また、経済的な困難さが保護者の健康やメンタルヘルスにも影響を及ぼしていることが示唆される。

1. 生活習慣

- 中央値以上群の家庭では、毎日朝食を摂る割合が高い。
- 困窮度が高い家庭の子どもは、皮膚のかゆみなどの自覚症状を感じる割合が高い。
- 困窮度が高い家庭の子どもは、イライラすることが多い。
- 困窮度が高い家庭の保護者は、不眠や腰痛などの自覚症状を感じる割合が高い。
- 中央値以上群の家庭の保護者は、生活を楽しんでおり、ストレス発散ができる割合が高い。

2. 経済的な理由による経験

- 経済的な理由による経験の数と子どものメンタルヘルスには明確な関連性は見られない。
- 経済的な理由による経験の数と保護者の健康状態にも明確な関連性は見られない。

3. 保護者の就業状況と生活習慣

- どのような雇用形態の保護者も朝食を摂っている割合が高いが、無業の保護者では低い。

4. 食事習慣と親子関係、子どもの健康状態

- 毎日朝食を摂る家庭では、子どもに対する信頼や会話の頻度が高く、子どもの自己効力感も高い。
- 子どもの昼食の摂取状況も、親子関係や子どもの健康に関連している。

困窮度が増すほど身体面、精神面不調が高くなる。セクションコメントで述べてきたように、毎日の規則正しい朝食・昼食摂取が、保護者と子どもがよりよい関係となって、子どもの自己効力感を高める可能性があり、自己肯定感や将来の夢や目標があるほど、日常生活の中で元気に過ごしているという傾向があることから、基本的な生活習慣を維持できるような取り組み、将来の夢や目標が持てるような取り組みの工夫が必要である。

家庭生活や学習に関して、以下の5課題が明らかになった。

経済状況は子どもの朝食習慣、保護者との関係性、学習習慣に影響を与えており、特に困窮度が高い家庭ではこれらの面での困難が顕著であることが示された。また、保護者の学歴や子どもの他者への世話の有無が、子どもの学習状況や進学希望に影響を及ぼしていることが明ら

かになった。

1. 朝食と家庭生活

- 中央値以上群の家庭では、子どもが保護者と一緒に朝食を食べる割合が高い。
- 困窮度が高い家庭では、保護者が子どもの帰宅時間に家にいる割合が低い。

2. 学校への遅刻と家庭生活

- 遅刻しない子どもは、保護者と朝食を食べたり、学校の話をしたりする割合が高い。
- 遅刻する子どもは、保護者との遊びや外出が少なく、保護者の期待度も低い。

3. 経済状況と学習習慣

- 中央値以上群の家庭の子どもは、遅刻する割合が低く、勉強時間も長い。
- 困窮度が高い家庭では、学校以外の読書時間が少なく、学習理解度が低い。

4. 朝の習慣と学習習慣

- 起床時間の規則性や朝食の摂取習慣が学習習慣に影響を及ぼす。
- 遅刻する子どもは、学習理解度が低く、大学卒業以上の進学先を希望する割合が低い。

5. 家庭背景と学習状況

- 保護者の最終学歴が高いほど、子どもへの進学希望が高い。
- ヤングケアラーである子どもは、勉強時間が少ない。

経済状況が保護者と子どもの間のコミュニケーションや子どもの生活リズムに影響を及ぼしうると考えられる。遅刻頻度の多さは保護者と子どものコミュニケーション不足を暗示しうる。経済的に困難な世帯の子どもは、通学が難しくなっているほか、学習習慣や家庭内での文化活動の習慣がなく、結果的に学習理解が不十分となっている可能性が示された。また、子ども自身も保護者も大学以上の高いレベルの教育を望まなくなっており、これは経済的事情と学習理解の低さのいずれもが要因となっている可能性がある。子どもの将来に関して、経済的に困難な世帯の子どもは、将来への希望を持ちづらい。

また、経済状況が生活習慣や学習習慣・読書習慣の形成に影響が出ている可能性が示唆された。また、生活習慣が身についていないと遅刻につながり、学習理解に影響が出ている可能性がある。こうした学習習慣と家庭状況は大きく関係するため、横断的に判断できて支援に繋ぐような、例えば家庭学習を補完するためにも、学習支援や学校での少し先輩である就学前児童なら小学生、小学生なら中学生、中学生なら高校生、など年齢の近い年上の子ども・若者を各所で導入する仕組みを作ったり、校内でサポートを展開するメンターの導入などが望ましい。(イギリスやアメリカで活用されるメンター制度など)

対人関係に関して、以下の7課題が明らかになった。

経済状況は子どもの放課後の過ごし方、社交関係、楽しみや悩み、自己効力感に影響を及ぼしていることが示された。また、経済状況や世帯構成によって保護者の相談相手が異なり、特に困窮度が高い家庭や母子世帯では相談相手の不足が課題であることが示唆された。さらに、

子どもの居場所の利用が保護者の相談機会の創出につながっていることが分かった。

1. 子どもの放課後の過ごし方

- 中央値以上群の家庭の子どもは、困窮度の高い家庭の子どもに比べて習いごとや友人の家で過ごす割合が高い。
- 公園や塾で時間を過ごす場合も同様に、中央値以上群の家庭の子どもの方が多い。

2. 子どもの社交関係

- 中央値以上群の家庭の子どもは、学校の友達や家族以外の大人、学校外の友人と過ごす割合が高い。

3. 子どもの楽しみと悩み

- 中央値以上群の家庭の子どもは、学校生活やクラブ活動、塾や習いごとを楽しむ割合が高い。
- 困窮度の高い家庭の子どもは、学業や自分自身、友人関係に関する悩みが多い。

4. 子どもの自己効力感

- 中央値以上群の家庭の子どもは、困窮度の高い家庭の子どもに比べ自己効力感が高い。
- 放課後一人で過ごす子どもは、そうでない子どもに比べ自己効力感が低い。

5. 相談相手との関係

- 中央値以上群の家庭の子どもは、学校の友人を相談相手とする割合が高い。

6. 保護者の相談相手

- 中央値以上群の家庭の保護者は、配偶者やパートナーとの相談割合が高い。
- 母子世帯では、相談できる相手がいないと感じる割合が高い。

7. 子どもの居場所利用と保護者の相談先

- 居場所を利用する子どもの保護者は、職場関係者や専門家と相談する割合が高い。

コロナ禍後の行動抑制・行動制限が続いていることも留意する必要がある、人間関係への影響も懸念される。特に、困難な経済状況にある世帯や特定の世帯構成の保護者が支えや相談相手の不足を経験していることが示された。一方で、子どもの居場所が重要な役割を果たしており、様々な専門家や機関との連携を可能にし、総合的なサポート体制として機能していると考えられる。

経済状況によって、子どもの教育的な活動へのアクセス、家族以外の社会的交流や人間関係を築く機会が制限されるだけでなく、子どもの自己効力感にも影響を及ぼす可能性があることが示唆された。また、経済的困難な家庭では、子どもが家族の世話を担っているケースが多く、家族の世話をしている子どもにとって、周りの支えが重要であり、社会的支援を必要としていることが示唆された。経済状況や世帯構成によって保護者の相談相手が異なり、とくに困難な経済状況にある世帯や特定の世帯構成の保護者が支えや相談相手の不足を経験していることが示された。子どもの居場所が様々な専門家や機関との連携を可能にしており、総合的なサポート体制として機能していると考えられる。

そこで、対応策として以下の3点が示唆される。

1. 子どもが保護者以外と話せる機会を創出する

家庭と学校しかソーシャルキャピタルを持たない子どもたちにとって、今回の調査において、「おうちの人に関する悩み」は「おうちの人」と「学校の友だち」に話しにくいという結果であった。これは、ますます経済的に厳しい子どもたちを孤立させ、ソーシャルキャピタルを欠如させてしまう。

2. 自然と話せるような場や人材を確保する

おうちの人や学校の友だちに相談すること自体難しいと考えられるが、おうちの人や友だちに話せないという状況を改善する人的資源や場の確保が必要である。

3. 仕組みづくり

すべての子どもが自然に通う、学校から自然に構えずに参加できる、流れるような仕組みを創設または充実させる必要がある。

まとめ

今回の調査結果から、子どもの貧困に関する実態や対策の基礎情報が明らかになった。

四條畷市は、まち全体が自然体（四條畷市は、まちと自然、人と人とがほどよい距離でのびのびと過ごせるまち）で都会と自然のほどよいバランス、自分らしく暮らせる町として、子育て、教育、暮らしに力を入れている。

しかし、親の就労や学歴、所得状況、物価高の影響等々による子どもの状況の格差が見られた。その要因と影響の範囲は、経済状況、支援制度、雇用、健康、家庭生活と学習、対人関係と広範囲に及んでいる。このことは子どもの貧困を考える立場にとっては厳しい結果である。この解決には、国が縦割りを解消しようとこども家庭庁を設立し、データ連携等々新たな動きをしているなか、同様に教育や福祉という既存の枠組みを越えて、子どもをまんやかに実行できる体制や制度設計を早急に考えるべきである。以下のような覚悟ある対策をとる必要がある。

- ① 経済面：母子世帯への支援や収入アップを企業側が実行できるような施策が必要である。
- ② 学習面：学校だけでなく、しかしすべての子どもが通う学校と連携した学びの保障を検討する。方策として、コミュニティスクールや学習支援、無料塾の創設などの活用である。保護者のニーズのある無料塾は、例えば沖縄で導入している。貧困調査の結果から支援員を大々的に投入し、訪問による給付や支援の申請書書きのサポートなどの人的支援方策を実施した。そういう方法を検討する必要がある。あるいはそれをクラウドデータで行えるようなデータから社会資源を選択できるよう可視化と自治体内でどこの部署でも所持するような共有化が必要である。
- ③ 無償化の対象にならない部活の費用などの補助を行う。塾代助成のような方策を検討し、かつ申請をしなくても必要な人には利用できるよう、塾側に措置費のような形で配分する枠組みの提示や方策の提案を行う。
- ④ 価値の創造：教育の力はすべての子どもに影響することが出来る。年齢に応じて子どもの人権や生きる価値など人間尊重の理念から獲得できるような学びとその方法を導入する。小学1

年生から体験的に教育を受ける生きる教育（西澤・西岡2022）やブレインストーミングのように子どもたちとの対話で進めるフィンランドの教育（北川2005）、実際的な生活課題から制度やサービス、権利に関して体験的に学ぶスウェーデンの社会科（リンドクウィスト・ウエステル1997）のように、その年齢に合わせて体験型であり、自身の意見を出し、周りの意見を聞きながら進めるレクチャー型ではない教育の進め方を根本から検討すべきである。そのことによって、10代の妊娠やいじめ、ヤングケアラーなど家庭状況を抱えるようになってからも早期にSOSが出せたり、自身で支援を選択できる力を養うことができる。

- ⑤ 地域資源：支援の場所を周知することである。自治体のパンフなど見やすい形で周知する必要がある。妊娠・子育ての相談窓口となるネウボラなわて、放課後の居場所づくりとしてのなわてふれあい教室、子ども食堂に限らず、様々な機能（駄菓子屋や公園などほっと寄れるような場を使ったたまり場など）を持つ居場所や体験交流できる場かつ子どもが自力で行ける小学校区に必要である。学校が場所を開放するのがベストであり、学校を拠点とした学校プラットフォーム（山野 2018）構想を引き続き検討すべきである。その意味は、これまで政策展開されてきたように、その場所が子どもにとっても親にとってもわかりやすく、行きやすい場所であるからであり、選択肢が増え、可視化し利用しやすくする必要がある。相談機関を増やしても子どもや親からの相談の数値は決して上がらず、居場所などの場の方が有効である。
- ⑥ 連携の考え方：連携とは個人情報共有をしなければできないわけではない。個人情報は把握しないまま連携することが重要である。これが社会資源を知らない教師と個人情報を持ってない地域の居場所の新しい連携の方法であり、これらのちょっとした手法を周知徹底させることである。
- ⑦ すべての子どもを視野に入れ、そこから自然につながる仕組みなど、今までの縦割りとは次元の違う支援の仕組みが必要である。
- ⑧ 社会福祉協議会など居場所の中間支援を行う機関の役割を明確化し、機能的に促進させる。社会教育分野が持つ公民館や図書館や博物館なども場であり、さらなる協働を明確にする。（子ども食堂等居場所の活動団体が無料で入れる、利用できるなど）
- ⑨ 全数からの仕組み：必要な子どもが確実に発見され自然につながるためには、スクリーニングから繋ぐ機能まで持った、例えば文部科学省推奨（2020）のYOSSスクリーニング（山野研究室 2021）の仕組みが必要である。今回の調査で2016年からの比較によってアウトリーチでは乗り越えられなかった壁が明かになった。相談ではなく、自然に伴走する支援を厳しい家庭の保護者や子どもたちは求めていることがわかる。必要な子どもを早期に発見し、伴走しながら、必要な制度や仕組みを紹介し、利用を増やすことで生活の改善をはかることと、伴走することで子どもや保護者本人の力をアップさせ、資源を活用できるようにする機能が必要である。
- ⑩ システム化：洩れなく持続可能に巡回させるためには、人に頼るだけでなく、福祉と学校のデータ連携を推奨し、地域資源の可視化のためにクラウド化することも考慮すべき点である。クラウドによっていち早く支援場所や居場所が学校にもすぐにわかり、地域活動と支援に必要な子どもを結び、支援提供を展開する必要がある。
- ⑪ 人材：これら学校においてすべての子どもの検討、発見から支援に繋ぐ校内の体制作りができる人材養成に力を入れる必要がある。スキルを取得する講座の予算化や新たな認定制度になることも家庭ソーシャルワーカー養成制度の活用などである。
- ⑫ その専門職の1つがスクールソーシャルワーカーである。先述した個人情報を交換しない連携のあり方がわかるソーシャルワーカーの職種は鍵であり、各校に1名配置できるよう、正規職化への働きかけ、あるいは各自治体での正職化計画を立てる必要がある。

- ⑬ 法制化：これらは連携ではなく仕組み作りであり、制度化である。要項や規定を作成し、自治体や機関として動きやすいように作成すべきである。
- ⑭ 制度設計：デジタル化のために補助金や助成金を検討することも必要である。なぜなら、どこに必要な子どもが存在するのかがわからない。まずは校務系内のデータ連携、学習系と校務系のデータ連携、それから福祉と教育のデータ連携を検討することでどこに必要な子どもが存在し、様々な制度を活用してどうだったかを検証できるように作りこむことである。知らないまま恐れるより、まずはすべての子どものために個人情報だけでなくシステムの理解を進めること、そしてデジタル庁やこども家庭庁において策定しているガイドライン等も活用しつつ一歩でも進める覚悟が必要である。これらのシステム費用がベンダーロックにより莫大な金額がかかる課題がある。企業を巻き込むと同時に、自治体や政府からクラウド化に向けた助成制度を創設する必要がある。

引用・参考文献

- アーネ・リンドクウィスト&ヤン・ウェステル、川上 邦夫（翻訳）（1997）『あなた自身の社会：スウェーデンの中学教科書』新評論。
- 大阪府（2023）「大阪府子ども（子育て世帯）に対する食費支援事業（第2弾）」
(<https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/20980/00457638/2-9.pdf>)
- 大阪府立大学（2017）「大阪府子どもの生活実態調査」
- 北川達夫（2005）「図解フィンランド・メソッド入門」経済界。
- 厚生労働省（2004）「ワークシェアリング導入促進に関する秘訣集及びリーフレットについて」
(<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2004/06/h0630-2.html>)
- 厚生労働省（2017）「平成28年度 全国ひとり親世帯等調査結果報告」
(<https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11923000-Kodomokateikyoku-Kateifukishika/0000190325.pdf>)
- 厚生労働省（2022）「2022（令和4）年国民生活基礎調査の概況」
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/index.html>)
- 柴田悠（2016）『子育て支援が日本を救う—政策効果の統計分析』勁草書房。
- 内閣府（2010）「平成21年度インターネットによる子育て費用に関する調査」
(https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/13024511/www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/cyousa21/net_hiyo/mokuji_pdf.html)
- 西澤哲・西岡加名恵ほか（2022）『『生きる』教育：自己肯定感を育み、自分と相手を大切にする方法を学ぶ』日本標準。
- 日本総研（2022）「令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業：ヤングケアラーの実態に関する調査研究」厚生労働省。
- 三菱UFJリサーチコンサルティング（株）（2021）「令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業：ヤングケアラーの実態に関する調査研究」厚生労働省。
- 文部科学省（2023）「令和5年度就学援助の実施状況」
(https://www.mext.go.jp/content/20210324-mxt_shuugaku-000013450_27.pdf)
- 文部科学省・山野研究室（2020）「スクリーニング活用ガイド」
(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/_icsFiles/afieldfile/2020/03/27/20200327_mxt_kouhou02_2.pdf)
- 山野則子編著（2019）『子どもの貧困調査—子どもの生活に関する実態調査から見えてきたもの』

明石書店.

山野則子 (2018) 『学校プラットフォーム』 有斐閣.

山野則子研究室 (2021) 「コロナ禍における子どもへの影響と支援方策のための横断的研究 保護者調査・子ども調査報告書」 厚生労働省

山野則子研究室 (2021) 「スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの常勤化に向けた調査研究」 文部科学省.

柳澤靖明・福島尚子 (2019) 『隠れ教育費：公立小中学校でかかるお金を徹底検証』 太郎次郎社エディタス.

UNESCO(2020) ‘International technical guidance on sexuality education: an evidence-informed approach (jpn)’ (<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000374167>)

図表目次

図 1. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験	164
図 2. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験	166
図 3. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの.....	168
図 4. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均.....	169
図 5. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均.....	170
図 6. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均.....	171
図 7. 困窮度別に見た、世帯員の構成	172
図 8. 世帯構成別に見た、家計の状況	173
図 9. 困窮度別に見た、子どもの人数	174
図 10. 困窮度別に見た、住居形態	175
図 11. 困窮度別に見た、家計の状況	176
図 12. 困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況	177
図 13. 困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無	178
図 14. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況	181
図 15. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	182
図 16. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況	183
図 17. 困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（ひとり親世帯のみ）	184
図 18. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢	185
図 19. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢（母親の回答者のみ）	186
図 20. 初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（母親の回答者のみ）	187
図 21. 初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（母親の回答者のみ）	188
図 22. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況（母親の回答者のみ）	189
図 23. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること（母親の回答者のみ）	191
図 24. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（母親の回答者のみ） ...	193
図 25. 住居形態別に見た、家計の状況	194
図 26. 住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況	195
図 27. 子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況.....	196
図 28. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況.....	197
図 29. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況	198
図 30. 子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	199
図 31. 子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況	200
図 32. 子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況 ...	201
図 33. 子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況	202
図 34. 学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況.....	204
図 35. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況.....	206
図 36. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況	208
図 37. 学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	210
図 38. 学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況	212
図 39. 学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況 ...	214
図 40. 学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況.....	216
図 41. 身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況.....	217
図 42. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況.....	218

図 43. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況	219
図 44. 身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	220
図 45. 身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況	221
図 46. 身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況	222
図 47. 身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況 ...	223
図 48. 困窮度別に見た、就労状況	225
図 49. 困窮度別に見た、お母さんの最終学歴	226
図 50. 困窮度別に見た、お父さんの最終学歴	227
図 51. お母さんの最終学歴別に見た、就労状況	228
図 52. お父さんの最終学歴別に見た、就労状況	229
図 53. 世帯構成別に見た、就労状況	230
図 54. 就労状況別に見た、家計の状況	231
図 55. 困窮度別に見た、朝食の頻度	233
図 56. 就労状況別に見た、朝食の頻度	234
図 57. 朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度	235
図 58. 朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度	236
図 59. 朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間	237
図 60. 朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間	238
図 61. 朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度	239
図 62. 朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	240
図 63. 休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	241
図 64. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある	242
図 65. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ	243
図 66. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ	244
図 67. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる	245
図 68. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする	246
図 69. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる	247
図 70. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる	248
図 71. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない	249
図 72. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする	250
図 73. 困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること	252
図 74. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがた くさんある	253
図 75. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ ..	254
図 76. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ	255
図 77. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうま くできる	256
図 78. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がす る	257
図 79. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる	258
図 80. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる	259
図 81. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない	260
図 82. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする	261

図 83. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること	263
図 84. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること	265
図 85. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること	267
図 86. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数.....	268
図 87. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点	269
図 88. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）	270
図 89. 困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）	271
図 90. 困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）	272
図 91. 困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）	273
図 92. 困窮度別に見た、おうちの大人のひとと一緒に朝食を食べているか.....	275
図 93. 困窮度別に見た、おうちの大人のひとと一緒に夕食を食べているか.....	276
図 94. 困窮度別に見た、おうちの大人のひとに宿題（勉強）をみてもらうか.....	277
図 95. 困窮度別に見た、おうちの大人のひとと文化活動をするか.....	278
図 96. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）	279
図 97. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）	280
図 98. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間	281
図 99. 困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの	282
図 100. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値（学校がある日）	283
図 101. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値（学校がない日）	284
図 102. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）	285
図 103. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）	286
図 104. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）	287
図 105. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）	288
図 106. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間	289
図 107. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間	290
図 108. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連	291
図 109. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連	292
図 110. 学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度	293
図 111. 学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度	294
図 112. 学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間.....	295
図 113. 学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間.....	296
図 114. 学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度	297
図 115. 困窮度別に見た、子どもの将来への期待度	298
図 116. 困窮度別に見た、希望する進学先	299
図 117. 困窮度別に見た、子どもに希望する進学	300
図 118. 困窮度別に見た、学校への遅刻	301
図 119. 困窮度別に見た、子どもの通学状況	302
図 120. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと一緒に朝食を食べているか.....	303
図 121. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと一緒に夕食を食べているか.....	304
図 122. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとに宿題（勉強）をみてもらうか.....	305
図 123. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと学校のできごとについて話すか.....	306
図 124. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりするか.....	307
図 125. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話すか	308

図 126. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと文化活動をするか.....	309
図 127. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人のひとと一緒に外出するか.....	310
図 128. 学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること	312
図 129. 学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数.....	313
図 130. 学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	314
図 131. 学校への遅刻別に見た、希望する進学先	315
図 132. 学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの.....	316
図 133. 子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること.....	318
図 134. 子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合.....	319
図 135. 子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数.....	320
図 136. 子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	321
図 137. 子どもの通学状況別に見た、希望する進学先	322
図 138. 困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯	323
図 139. 困窮度別に見た、子どもへの信頼度	324
図 140. 困窮度別に見た、子どもとの会話頻度	325
図 141. 困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間	326
図 142. 困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間	327
図 143. 自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況.....	329
図 144. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）	330
図 145. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）	331
図 146. お母さんの最終学歴別に見た、子どもに希望する進学.....	332
図 147. お父さんの最終学歴別に見た、子どもに希望する進学.....	333
図 148. 困窮度別に見た、放課後を過ごす場所	337
図 149. 困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人	339
図 150. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと	341
図 151. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること	343
図 152. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	345
図 153. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先.....	347
図 154. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合	348
図 155. 困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	349
図 156. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	350
図 157. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか.....	351
図 158. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとに宿題（勉強）をみてもらうか	352
図 159. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと学校のできごとについて話すか	353
図 160. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりするか	354
図 161. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話すか.....	355
図 162. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと文化活動をするか.....	356
図 163. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと一緒に外出するか.....	357
図 164. 困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所.....	358
図 165. 困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所	359
図 166. 困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所.....	360
図 167. 困窮度別に見た、何でも相談できる場所	361
図 168. 困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験	362

図 169. 平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	364
図 170. 昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	366
図 171. 勉強を無料か安い料金でみてる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	368
図 172. 何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	370
図 173. 自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	372
図 174. 自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所.....	373
図 175. 自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所	374
図 176. 自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてる場所.....	375
図 177. 自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所.....	376
図 178. 子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先	378
図 179. 学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手.....	380
図 180. 学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所.....	382
図 181. 学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所.....	384
図 182. 学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてる場所.....	386
図 183. 学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所.....	388
図 184. 身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所.....	390
図 185. 身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所.....	392
図 186. 身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてる場所.....	394
図 187. 身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所.....	396
図 188. 身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無.....	398
図 189. 身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先	400

IV 資料編

＜家庭生活・学習に関する考察＞ 参照データ

保護者__問14 子どもに希望する進学

(上段：実数、下段：%)

保護者__問8 お母さんの最終学歴

	調査数	中学校	高校	短期大学	大学	大学院	留学	等専門学校・高	考えたことが	わからない	無回答
全 体	267 100.0	- -	29 10.9	5 1.9	165 61.8	3 1.1	9 3.4	14 5.2	6 2.2	32 12.0	4 1.5
中学校卒業	1 100.0	- -	- -	- -	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -
高等学校中途退学	10 100.0	- -	2 20.0	- -	4 40.0	- -	- -	1 10.0	- -	3 30.0	- -
高等学校卒業	51 100.0	- -	9 17.6	1 2.0	26 51.0	- -	- -	5 9.8	1 2.0	8 15.7	1 2.0
高専、短大、専門学校等卒業	109 100.0	- -	9 8.3	4 3.7	74 67.9	- -	1 0.9	6 5.5	4 3.7	10 9.2	1 0.9
大学卒業	84 100.0	- -	6 7.1	- -	52 61.9	3 3.6	8 9.5	2 2.4	1 1.2	10 11.9	2 2.4
大学院修了	5 100.0	- -	- -	- -	4 80.0	- -	- -	- -	- -	1 20.0	- -
その他の教育機関卒業	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
答えたくない	3 100.0	- -	1 33.3	- -	2 66.7	- -	- -	- -	- -	- -	- -
無回答	4 100.0	- -	2 50.0	- -	2 50.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -

保護者__問14 子どもに希望する進学

(上段：実数、下段：%)

保護者__問8 お父さんの最終学歴

	調査数	中学校	高校	短期大学	大学	大学院	留学	等専門学校・高	考えたことが	わからない	無回答
全 体	267 100.0	- -	29 10.9	5 1.9	165 61.8	3 1.1	9 3.4	14 5.2	6 2.2	32 12.0	4 1.5
中学校卒業	9 100.0	- -	5 55.6	- -	3 33.3	- -	- -	- -	- -	1 11.1	- -
高等学校中途退学	3 100.0	- -	- -	1 33.3	1 33.3	- -	- -	- -	- -	1 33.3	- -
高等学校卒業	75 100.0	- -	12 16.0	2 2.7	35 46.7	1 1.3	1 1.3	8 10.7	2 2.7	13 17.3	1 1.3
高専、短大、専門学校等卒業	45 100.0	- -	4 8.9	1 2.2	31 68.9	- -	- -	4 8.9	- -	5 11.1	- -
大学卒業	97 100.0	- -	2 2.1	- -	77 79.4	- -	5 5.2	1 1.0	3 3.1	8 8.2	1 1.0
大学院修了	10 100.0	- -	- -	- -	6 60.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	- -	1 10.0	- -
その他の教育機関卒業	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
答えたくない	6 100.0	- -	2 33.3	- -	3 50.0	- -	- -	- -	- -	1 16.7	- -
無回答	22 100.0	- -	4 18.2	1 4.5	9 40.9	1 4.5	2 9.1	- -	1 4.5	2 9.1	2 9.1

おおさかふ こ せいかつ かん じったいちようさ
大阪府子どもの生活に関する実態調査

しょうがくせい ちゅうがく せい む ちよう さ ちようさひよう しじょうなわて し
小学生・中学生向け調査 調査票 【四條畷市】

＜ ちようさ きょうりょく ねが
調査への協力のお願い ＞

- ◆この調査は、大阪府と共同で四條畷市内の小中学生のみなさんの学校や家での生活の様子、将来についての考えや希望などについてたずねるものです。
- ◆この調査は、小学生または中学生のあなたが自分で答えてください。
- ◆名前を書く必要はありません。テストではありませんので、思ったとおりに答えてください。
- ◆答えたくない質問は答える必要はありません。
- ◆答えに迷う場合には、あなたの気持ちや考えにできるだけ近いものを選ぶようにしてください。
- ◆あなたが答えた内容は、おうちの人や先生に見せる必要はありません。
- ◆四條畷市はこの調査結果を参考に、子どもたちのために何ができるかを考えていきますので、ご協力をお願いします。
- ◆Webまたは紙の調査票のどちらかで令和5年7月31日までに回答してください。

（1）う え ぶ かいたう
Webによるご回答

- この調査は、Webから回答することができます。
- 回答方法は、16ページをごらんください。
- ※Webでの回答は1回限りです。回答を送信すると、そのあとの修正はできません。

（2）かみ ちよう さ ひよう かいたう
紙の調査票によるご回答

- ・調査票に記入後、「小学生・中学生用」と書かれた封筒に入れ、シールをはがしてフタを閉じて、おうちの人に渡してください。

きげん れいわ ねん がつ にち げつようび
◆期限： 令和5年7月31日（月曜日）◆

【調査に関するお問合せ先】

しじょうなわてし こ みらいぶ こ せいさくか
四條畷市子ども未来部子ども政策課

でんわ 072-877-2121（内線685）

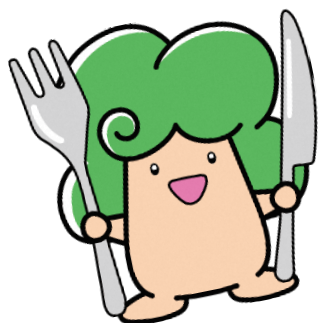
でんわ たわら ちく 0743-71-0330（内線685）

※8:45～17:15 土・日曜日・祝日を除く

ふあくしみり
ファクシミリ 072-879-5955



思ったとおりおもに答こたえてね！
答こたえたくない質問しつもんには
答こたえなくて大丈だいじょう夫ぶだよ！



質問の回答方法について

◆それぞれの質問について次のように教えてください。

(例) あなたの好きな色は何色ですか。

1. 赤色	3. 緑色
2. 黄色	4. その他の色

※答えは、あてはまる番号に○をつけてください。

※○のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまる番号 1 つに○をつけてください」や「あてはまる番号すべてに○をつけてください」などを書いてありますので、それにしたがってください。

あなたについておたずねします。

問1 あなたは小学生ですか、それとも中学生ですか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 小学生	2. 中学生
--------	--------

あなたのふだんの生活のことについておたずねします。

問2 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時刻に起きていますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 起きている	3. あまり、起きていない
2. どちらかといえば、起きている	4. 起きていない

問3 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、何時に寝ていますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 午後9時より前	4. 午後11時台	7. きまっていない
2. 午後9時台	5. 午前0時台	
3. 午後10時台	6. 午前1時より後	

問4 朝食についておたずねします。

(1) あなたは、週にどのくらい、朝食を食べていますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 食べない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	

(2) 前の質問で「1. 毎日またはほとんど毎日」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが朝食を食べない理由は何ですか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問5 夕食についておたずねします。

(1) あなたは、週にどのくらい、夕食を食べていますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に 2 ～ 3 回	5. 食べない
2. 週に 4 ～ 5 回	4. 週に 1 回程度	

(2) 前の質問で「1. 毎日またはほとんど毎日」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが夕食を食べない理由は何ですか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問6 お休みの日の昼食についておたずねします。

(1) あなたは、学校がお休みの日に昼食を食べますか。(夏休みなどの長期のお休みの日もふくみます。)(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 必ず食べる	3. 食べないことが多い	5. わからない
2. 食べることが多い	4. 食べない	

(2) 前の質問で「1. 必ず食べる」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが、学校がお休みの日に昼食を食べない理由は何ですか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問7 あなたは、学校に遅刻することがありますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に 2 ～ 3 回	5. 遅刻はしない
2. 週に 4 ～ 5 回	4. 週に 1 回程度	



とい 問8 あなたは、次のようなことをどのくらいしていますか。（①～⑩それぞれについて、あてはまる番号ばんごう
ひと まる
1つに○をつけてください）

	ほとんど毎日 まいにち	週に4～5回 しゅう かい	週に2～3回 しゅう かい	週に1回程度 しゅう かい いど	月に1～2回 つき かい	ほとんどない	まったくない
① おうちの大人のひとと一緒に朝食を食べていますか。 おとな ひと いっしょ ちょうしょく た	1	2	3	4	5	6	7
② おうちの大人のひとと一緒に夕食を食べていますか。 おとな ひと いっしょ ゆうしょく た	1	2	3	4	5	6	7
③ おうちの大人のひとに朝、起こしてもらいますか。 おとな ひと あさ お	1	2	3	4	5	6	7
④ おうちの手伝いをしていますか。 てつだ	1	2	3	4	5	6	7
⑤ おうちの大人のひとに宿題（勉強）をみてもらいますか。 おとな ひと しゅくだい べんきょう	1	2	3	4	5	6	7
⑥ おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話しますか。 おとな ひと がっこう はな	1	2	3	4	5	6	7
⑦ おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりしますか。 おとな ひと あそ からだ うご	1	2	3	4	5	6	7
⑧ おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話しますか。 おとな ひと にゅーす しゃかい はな	1	2	3	4	5	6	7
⑨ おうちの大人のひとと文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をしますか。 おとな ひと ぶんかかつどう としょかん びじゅつかん かくぶつかん おんがくかんしょう い	1	2	3	4	5	6	7
⑩ おうちの大人のひとと一緒に外出しますか。（散歩する・買い物に出かける・外食をするなど） おとな ひと いっしょ がいしゅつ さんぽ か もの で がいしょく	1	2	3	4	5	6	7

とい 問9 あなたは、毎日の生活でどのようなときに楽しいとおもいますか。
まいにち せいかつ たの おも
（あてはまる番号ばんごうすべてに○をつけてください）

1. おうちのひとと一緒に過ごしているとき ひと いっしょ す	5. 今、住んでいる地域の行事に参加しているとき いま す ちいき きょうじ さんか
2. ともだちと一緒に過ごしているとき いっしょ す	6. 塾や習いごとで過ごしているとき じゅく なら す
3. 学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき がっこうせいかつ くらぶ ぶかつどう ぶかつどう さんか	7. 特に楽しいと思うときはない とく たの おも
4. ひとりで過ごしているとき す	8. その他 た

とい
問10 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、だれと過ごしますか。
（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）
2. きょうだい
3. おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）
4. 学校のともだち
5. クラブ活動・部活動の仲間
6. 学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）
7. ひとりである
8. その他の人

とい
問11 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、どこで過ごしますか。
（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 自分の家	9. コンビニエンスストア
2. おばあちゃん・おじいちゃんの家	10. ゲームセンター
3. ともだちの家	11. 図書館や公民館など公共の施設
4. 塾	12. 地域の居場所（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所）
5. 習いごと	13. 学童保育（※）
6. 学校（クラブ活動・部活動など）	14. その他
7. 公園・広場	
8. スーパーやショッピングモール	

※「学童保育」とは、「なわてふれあい教室」、「放課後児童クラブ」、「いきいき放課後児童クラブ」、「留守家庭児童会（室）」、「学童クラブ」、「仲良しクラブ」もふくみます。

とい
問12 あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。
※勉強には学校の宿題もふくみます。（あてはまるものすべてに○をつけてください）

1. 自分で勉強する	6. おうちの人に教えてもらう
2. 塾で勉強する	7. ともだちと勉強する
3. 学校の補習を受ける	8. その他
4. 家庭教師に教えてもらう	9. 学校の授業以外で勉強はしない
5. 地域の人などが行う無料の勉強会に参加する	

とい 問13 あなたは、授業時間以外に1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。
 (塾などの時間もふくみます。) (①、②それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

	まったくしない	30分より少ない	30分以上、1時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	3時間以上	わからない
① 学校がある日 (月～金曜日)	1	2	3	4	5	6	7
② 学校がない日 (土・日曜日・祝日)	1	2	3	4	5	6	7

はんぶん
あと半分だよ。
がんばってね！

とい 問14 学校の勉強についておたずねします。
 (1) 学校の勉強について、一番あなたの気持ちに近いものはどれですか。
 (あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. よくわかる	3. あまりわからない	5. わからない
2. だいたいわかる	4. ほとんどわからない	

(2) 前の質問で「3. あまりわからない」「4. ほとんどわからない」「5. わからない」に○をつけた方に
 おたずねします。いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。
 (あてはまるもの1つに○をつけてください)

1. 小学1・2年生のころ	3. 小学5年生になってから	5. 中学1年生のころ
2. 小学3・4年生のころ	4. 小学6年生のころ	6. 中学2年生になってから

とい 問15 あなたは、学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。
 (教科書や参考書、マンガや雑誌をのぞきます。) (あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. まったくしない	5. 2時間以上、3時間より少ない
2. 30分より少ない	6. 3時間以上
3. 30分以上、1時間より少ない	7. わからない
4. 1時間以上、2時間より少ない	

とい 問16 あなたは、^{がっこう}学校や^{がっこう}学校の^{ぎょうじ}行事等で次のようなことがありますか。

(^{ばんごう}あてはまる番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ^{じゅぎょう} 授業中に ^ね 寝てしまうことが多い	7. ^{うんどうかい} 運動会や ^{えんそく} 遠足などの ^{がっこうぎょうじ} 学校行事を ^{けっせき} 欠席する
2. ^{しゅくだい} 宿題ができていないことが多い	8. ^{ほけんしつ} 保健室で ^す 過ごすことが多い
3. ^も 持ち物の ^{わす} 忘れ物が ^{おほ} 多い	9. ^{がっこう} 学校では ^す ひとりで ^{おほ} 過ごすことが多い
4. ^{なら} 習いごとを ^{やす} 休むことが ^{おほ} 多い	10. ^{ともだち} ともだちと ^{あそ} 遊んだり、 ^{おしゃべり} おしゃべりしたりする ^{じかん} 時間が
5. ^{ていしゅつぶつ} 提出物を出すのが ^だ 遅れることが ^{おほ} 多い	^{すく} 少ない
6. ^{しゅうがくりょこう} 修学旅行などの ^{しゅくはくぎょうじ} 宿泊行事を ^{けっせき} 欠席する	11. ^{とく} 特にない

とい 問17 今、あなたは、^{いま}いやなことや^{なや}悩んでいることはありますか。

(^{ばんごう}あてはまる番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ^{うち} おうちのこと	6. ^す 好きな ^{ひと} 人のこと
2. ^{がっこう} 学校や ^{べんきょう} 勉強のこと	7. ^{しんがく} 進学・ ^{しんろ} 進路のこと
3. ^{くらぶ} クラブ活動や ^{ぶかつどう} 部活動のこと	8. ^た その他のこと
4. ^{じぶん} 自分のこと（ ^{がいけん} 外見や ^{たいけい} 体型など）	9. ^{なや} いやなことや悩んでいることはない
5. ^{ともだち} ともだちのこと	10. ^{わから} わからない

とい 問18 あなたは、^{なや}いやなことや悩んでいることがあるとき、^{そうだん}だれかに相談しますか。（^{はな}だれに話しますか。）

(^{ばんごう}あてはまる番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ^{おや} 親	12. ^{いんたーねっと} インターネットや ^{さいと} サイトなどを ^{つうし} 通じて ^し 知りあった
2. ^{きょうだい} きょうだい	^{ちよくせつ} 直接 ^あ 会ったことの ^{ひと} ない人
3. ^{しん} 親せき	13. ^{きんじょ} 近所の ^{ひと} 人
4. ^{がっこう} 学校の ^{ともだち} ともだち	14. ^{ちいき} 地域の ^{しえんだんたい} 支援団体
5. ^{がっこう} 学校以外の ^い ともだち	^{がくしゅうしえん} （学習支援の ^ば 場や ^こ 子ども ^{しょくどう} 食堂など ^{ちいき} 地域で
6. ^{がっこう} 学校の ^{せんせい} 先生	^{おなとし} 同じ ^こ 年ごろの ^{あつ} 子どもが ^{ひと} 集まるところの ^{ひと} 人）
7. ^{すくー} スクール ^{かうんせらー} カウンセラー、 ^{そーしゃるわーかー} ソーシャルワーカー	15. ^た その他の ^{ひと} 人
8. ^{じゅく} 塾や ^{なら} 習いごとの ^{せんせい} 先生	16. ^{だれ} だれにも ^{そうだん} 相談 ^{でき} できない
9. ^{がくどうほいく} 学童保育の ^{せんせい} 先生（※）	17. ^{だれ} だれにも ^{そうだん} 相談 ^{した} したくない
10. ^こ 子ども ^{せんよう} 専用の ^{でんわ} 電話 ^{そうだん} 相談	18. ^{わから} わからない
11. ^{えすえぬえす} SNSなどの ^{いんたーねっと} インターネットや ^{らいん} LINEの ^{そうだん} 相談	

※「学童保育」とは、「^{がくどうほいく}なわてふれあい教室」、^{きょうしつ}「放課後児童クラブ」、^{ほうかごじどうくらぶ}「いきいき放課後児童クラブ」、^{ほうかごじどうくらぶ}「留守家庭児童会（室）」、^{しつ}「学童クラブ」、^{がくどうくらぶ}「仲良しクラブ」もふくみます。

問19 わたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。あなたが、この一週間、どんな気持ちや状況だったのか、教えてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに教えてください。

(①～⑨それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

	そう うっ だも	とき どき そう だ	そ ん な い こ と
① 楽しみにしていることがたくさんある	1	2	3
② 遊びにでかけるのが好きだ	1	2	3
③ 元気いっぱいだ	1	2	3
④ やろうと思ったことがうまくできる	1	2	3
⑤ 一人ぼっちのような気がする	1	2	3
⑥ 不安な気持ちになる	1	2	3
⑦ まわりが気になる	1	2	3
⑧ やる気が起きない	1	2	3
⑨ いらいらする	1	2	3

問20 あなたは、自分の体の状態で気になることはありますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. ねむれない	6. よくかゆくなる
2. よく頭がいたくなる	7. とくに気になるところはない
3. 歯がいたい	8. その他
4. よくおなかがいたくなる	9. わからない
5. よくかぜをひく	



答えたくない質問は答える必要はないよ。

答えに迷うときは、あなたの気持ちや考えに

できるだけ近いものを選んでね。

とい 問21 あなたが、持^もっているものや、あなたが使^{つか}うことができるものを選^{えら}んでください。

(あてはまる番号^{ばんごう}すべてに^{まる}○をつけてください)

1. 本 ^{ほん} (学校 ^{がっこう} の教科書 ^{きょうかしょ} やマンガ ^{まんが} ・雑誌 ^{ざっし} はのぞく)	8. テレビ ^{てれび}
2. マンガ ^{まんが} ・雑誌 ^{ざっし}	9. けいたい電話 ^{でんわ}
3. 子ども部屋 ^{こ べ や} (ひとり部屋 ^{べ や} やきょうだいと 一 ^{いっ} 緒 ^{しょ} に使 ^{つか} っている部屋 ^{へ や} など)	10. スマートフォン ^{すまーとふぉん} ・タブレット機器 ^{たぶれっとき き}
4. インターネット ^{いんたーねっと} につながるパソコン ^{ぱそこん} (学校 ^{がっこう} のパソコン ^{ぱそこん} はのぞく)	11. 化粧品 ^{けしょうひん} ・アクセサリ ^{あくせさりー}
5. 運動用具 ^{うんどうようぐ} (ボール ^{ぼーる} ・ラケット ^{らくetto} など)	12. 習いごとなどの道具 ^{どうぐ} (ピアノ ^{ぴあの} など)
6. ゲーム機 ^{げーむき}	13. 自分 ^{じぶん} で選 ^{えら} んだ服 ^{ふく}
7. 自転車 ^{じてんしゃ}	14. キャラクターグッズ ^{きゃらくたーぐっず}
	15. その他 ^た
	16. あてはまるものはない

あなたが、ふだん 考^{かんが}えていることについておたずねします。

とい 問22 あなたは、つらいことがあってもすぐ立^たち直^{なお}ることができますか。

(あてはまる番号^{ばんごう}1つに^{まる}○をつけてください)

1. そう思 ^{おも} う	3. どちらかというと思 ^{おも} わない
2. どちらかというと思 ^{おも} う	4. そう思 ^{おも} わない

とい 問23 あなたがふだん 考^{かんが}えていることについて、次の(1)～(3)について教^{おし}えてください。

(あてはまる番号^{ばんごう}1つに^{まる}○をつけてください)

(1) 自分^{じぶん}に自信^{じしん}がある

1. ある	3. どちらかというとな
2. どちらかというとある	4. ない

(2) 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

1. できる	3. どちらかというときできない
2. どちらかというときできる	4. できない

(3) 自分の将来の夢や目標を持っている

1. 持っている	3. どちらかというとき持っていない
2. どちらかというとき持っている	4. 持っていない

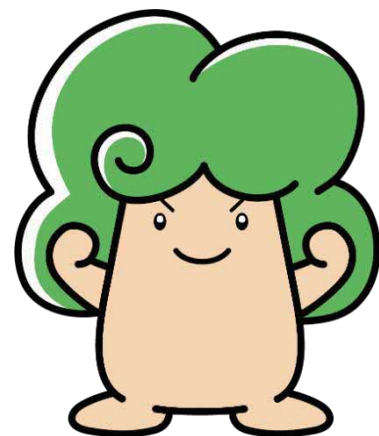
とい 問24 あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 中学校	6. 留学 (外国で長い期間勉強すること)
2. 高校	7. 専門学校 (美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など) ・高等
3. 短期大学	せんもんがっこう 専門学校
4. 大学	8. 考えたことがない
5. 大学院	9. わからない

あともう少しだよ！

がんばってね！



あなたのことについて、おたずねします。

問25 自分やともだちの家以外の場所についておたずねします。

(1) あなたは、次の①～④のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことがない場合、今後利用したいと思いますか。

(①～④それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

	利用 した こと が あ る	利用 した こと は な い (あ れ ば 利 用 し た い と 思 う)	利用 した こと は な い (今 後 も 利 用 し た い と 思 わ な い)	利用 した こと は な い (今 後 も 利 用 し た い か 分 か ら な い)
① 平日の夜や休日を過ごすことができる場所 (学童保育など)	1	2	3	4
② 昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など)	1	2	3	4
③ 勉強を無料か安い料金でみてくれる場所 (一般的な学習塾とはちがう学習支援など)	1	2	3	4
④ 何でも相談できる場所 (電話やネットの相談をふくむ。)	1	2	3	4

(2) 前の質問で、1つでも「利用したことがある」と答えた方におたずねします。そこを利用したことで、次のような変化がありましたか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ともだちが増えた	6. 勉強がわかるようになった
2. 気軽に話せる大人が増えた	7. 勉強する時間が増えた
3. 生活の中で楽しみなことが増えた	8. その他
4. ほっとできる時間が増えた	9. 特に変化はない
5. 栄養のある食事をとれることが増えた	

(3) 問25 (1) の質問で、「利用したことがある」に○をつけた方以外におたずねします。利用したことがないのはなぜですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. どこにあるか知らないから	7. Wi-fi (インターネット通信環境) がないから
2. 家の近く(ひとりでいける場所) がないから	8. 行きたいと思わないから
3. 家で過ごしたいと思うから	9. 何をしているかわからないから
4. 楽しくなさそうだから	10. 利用していることを近所の人やともだちに知られたくないから
5. 「行ってもいけない」と親などの大人に言われるから	11. その他
6. 行きたい日・時間に開いていないから	

問26 あなたがおうちでしているお世話の様子についておたずねします。

(1) おうちの人の中にあなたがお世話をしている人はいますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. いる	2. いない
-------	--------

(2) 前の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。誰のお世話をしていますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. お母さん	4. おじいちゃん
2. お父さん	5. きょうだい
3. おばあちゃん	6. その他

(3) 問26 (1) の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。あなたが行っているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 料理や買い物、食器洗いなど	5. 病院へ一緒に行くことやお風呂・トイレのお世話、見守りをする、話し相手になる、通訳をする、お金の管理、薬の管理など
2. 洗濯など	6. その他
3. そうじやゴミ捨てなど	
4. きょうだいのめんどろを見ることや保育所のおむかえなど	

(4) 前の質問で「6. その他」に○をつけた方は、具体的な内容を書いてください。

--

(5) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。お世話をするのはどれくらいありますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ほぼ毎日	3. 週に1日または2日
2. 週に3日～5日	4. 1か月に数日

(6) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。学校がある日に、お世話を1日のうちどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 1時間より少ない	4. 3時間以上、5時間より少ない
2. 1時間以上、2時間より少ない	5. 5時間以上、7時間より少ない
3. 2時間以上、3時間より少ない	6. 7時間より多い

(7) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。お世話をしていることによって次のようなことがありますか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. おうちの人と話したり遊んだりすることが ふえる	8. とても疲れることがある
2. 時間の使い方を工夫できる	9. いろいろしやすい
3. 家の中で気持ちよく過ごすことができる	10. 気持ちが落ち込む
4. おうちの人健康に過ごすことができる	11. 学校を欠席や遅刻、早退することがある
5. 「お世話」にやりがいを感じる	12. その他
6. おうちの人以外と話す時間が減る	13. 特にない
7. 自分のことをする時間がない	

問27 あなたの性別をえらんでください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 男子	3. その他
2. 女子	4. 答えたくない

質問はこれで終わりです。調査にご協力いただきありがとうございました。

「小学生・中学生用」と書いてある封筒に入れ、シールをはがしてフタを閉じて、保護者の方に渡してください。

相談窓口のご案内

○友人関係や家族関係などの悩みについては

<教育相談>

四條畷市教育支援センター

TEL：072-878-7710（フリールームなわて）

月曜日～金曜日：9時30分～16時30分

○親子やきょうだいのことなど家庭での悩みについては

<子どもの悩み相談フリーダイヤル>

TEL：0120-7285-25

24時間 365日

LINE <https://www.pref.osaka.lg.jp/kateishien/sodanliner3/index.html>

<親子のための相談LINE>

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29751.html

○友人関係など学校での悩みについては

<すこやかホットライン>

TEL：06-6607-7361

月曜日～金曜日：9時～17時30分（※祝日・年末年始を除く）

Eメール sukoyaka@edu.osaka-c.ed.jp



【ひとりで悩まないで、相談してね。】

※この調査は大阪府との共同実施です

パソコン・スマートフォン・タブレット端末でも回答できます！

■ WEBで回答された場合は、同封の調査票の返送は不要です。

■ 携帯電話（ガラケー）では回答できませんのでご注意ください。

- ◆ スマートフォン・タブレット端末の場合は、カメラで次の二次元バーコードを読み取ってください。

[二次元バーコード]



- ◆ パソコンの場合は、次のURL（「https…」から始まるアドレス）を検索画面に手入力し、エンターキーを押してください。

[URL] <https://src.webcas.net/form/pub/src/2700082>

- ◆ 最初の画面がでてきたら、次のIDを入力し、「次へ」ボタンを押し、ログインしてください。

◇ ID

※ IDは、個人を特定するものではありません。

- ◆ ログイン後は、質問の番号順に沿って回答してください。

お お さ か ふ こ せ い か つ か ん じ つ た い ち ょ う さ
大阪府子どもの生活に関する実態調査
ほ ご し や む ち ょ う さ ち ょ う さ ひ ょ う し じ ょ う な わ て し
保護者向け調査 調査票【四條畷市】

ち ょ う さ き ょ う り ゃ く ね が
< 調査への協力をお願い >

- ◆この調査は、大阪府と共同で保護者の方に家庭状況などをお聞きし、四條畷市の子どものための支援策に役立てるために実施します。皆様からの回答を支援策の充実や改善につなげていきたいと考えていますので、お忙しい中お手数ですが、調査への協力をお願いします。
- ◆調査の対象は、小学5年生と中学2年生です。
- ◆お名前や住所を書く必要はありません。調査の集計は統計的に処理し、個人や学校を特定することはありません。また、目的以外に使うことはありません。
- ◆この調査で「お子さん」とは、調査票を受け取ったお子さんのことです。「お子さん」と書かれた質問には調査票を受け取ったお子さんについてのみお答えください。
- ◆ごきょうだいなどで、この調査用紙が複数届いた場合も、お手数ですが、それぞれのお子さんについて、それぞれの調査用紙（またはWebフォーム）に回答してください。
- ◆回答するときには、お子さんと別々に、お互いの回答を見ないように記入してください。
- ◆Webまたは紙の調査票のどちらかで令和5年7月31日までに回答してください。

う え ぶ か い と う
(1) Webによるご回答

- この調査は、Webから回答することができます。
- 回答方法は、16ページをごらんください。
- ※Webでの回答は1回限りです。回答を送信すると、そのあとの修正はできません。

か み ち ょ う さ ひ ょ う か い と う
(2) 紙の調査票によるご回答

- ・調査票に記入後、「保護者用」と書かれた封筒に入れ、シールをはがして封をしてください。お子さんの回答の入った「小学生・中学生用封筒」と「保護者用封筒」を返信用封筒にまとめて入れ、期限までに返信してください。切手は不要です。

き げ ん れ い わ ね ん が つ に ち げ つ よ う び
◆期限： 令和5年7月31日（月曜日）◆

ち ょ う さ か ん と い あ わ さ き
【調査に関するお問合せ先】

し じ ょ う な わ て し こ み ら い ぶ こ せ い さ く か
四條畷市子ども未来部子ども政策課

で ん わ な い せ ん
電話 072-877-2121（内線685）

で ん わ た わ ら ち く な い せ ん
電話（田原地区から）0743-71-0330（内線685）

※8:45～17:15 土・日曜日・祝日を除く

ふ あ く し み り
ファクシミリ 072-879-5955

質問の回答方法について

◆それぞれの質問について次のように教えてください。

(例) あなたの好きな色は何色ですか。

1. 赤色	3. 緑色
2. 黄色	4. その他の色

※答えは、あてはまる番号に○をつけてください。

※○のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまる番号 1 つに○をつけてください」や「あてはまる番号すべてに○をつけてください」などと書いてありますので、それにしがってください。

最初に、あなたとお子さんの関係についておたずねします。

問1 この調査に回答いただいている方におたずねします。お子さんとあなたの続柄について教えてください。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. お母さん	4. おじ、おばなど親戚
2. お父さん	5. 施設職員・ファミリーホーム・里親
3. おじいさん・おばあさん	6. その他の人

世帯の状況についておたずねします。

※あなたの世帯について、令和5年4月1日現在の状況を教えてください。

※世帯とは、普段、住居と生計を共にしている方々(世帯員)の集まりをいいます。血縁関係のない人でも同居していれば世帯に含んでください。また、単身赴任の方も含みます。

※世帯員には、旅行や出張などで一時的に自宅を離れている人や船員など就業場所を移動する人を含みます。

※また、病院・診療所に入院している人を含みますが、住民登録を病院・診療所に移している人は除きます。さらに、学業で世帯を離れている人、老人福祉施設などの社会福祉施設に入所している人を除きます。

問2 あなたの世帯の構成と人数をお答えください。（①～⑧それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください）（⑧は、あなたや対象のお子さんを含んだ人数をお答えください。）

①おばあさん	②おじいさん	③お母さん	④お父さん	⑧合計 (あなたや対象のお子さんを含む)
0. いない 1. 1人 2. 2人	0. いない 1. 1人 2. 2人	0. いない 1. 1人	0. いない 1. 1人	1. 2人 2. 3人 3. 4人 4. 5人 5. 6人 6. 7人 7. 8人 8. 9人 9. 10人以上
⑤姉・兄	対象のお子さん (本人) (※)	⑥妹・弟	⑦その他	
0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	1人	0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	

※「対象のお子さん」とは、調査票を受け取ったお子さんのことです。

問3 お子さんと同居し、生計を共にしている親の婚姻状況を教えてください。
(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 結婚している（再婚や事実婚を含む。）	4. 未婚
2. 離婚	5. わからない
3. 死別	6. いない

問4 前の質問で「2. 離婚」に○をつけた方におたずねします。

離婚相手とお子さんの養育費の取り決めをしていますか。

また養育費を現在受け取っていますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 取り決めをしており、受け取っている
2. 特に取り決めはしていないが、受け取っている
3. 取り決めをしているが、受け取っていない
4. 取り決めをしておらず、受け取っていない

問5 あなたの住居は、次のどれにあてはまりますか。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

1. 持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	4. 民間の賃貸住宅
2. 府営・市営の住宅	5. 官舎・社宅
3. UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	6. その他

問6 あなたの家計の収支状況についておたずねします。

（1） 前年（2022年）の1年間のあなたの家計の状況について、あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 貯蓄ができています	3. 赤字でもなく黒字でもない
2. 赤字である	4. わからない

（2） お子さんの将来のために貯蓄をしていますか。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

1. 貯蓄をしている	3. 貯蓄をするつもりはない
2. 貯蓄をしたいが、できていない	

問7 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。おおむね半年の間でお考えください。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 食費を切りつめた	13. 鉄道やバスの利用を控え、自転車を使ったり歩くようにした
2. 電気・ガス・水道などが止められた	14. 電話（固定・携帯）などの通信料の支払いが滞ったことがある
3. 医療機関を受診できなかった	15. 家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある
4. 国民健康保険料の支払いが滞ったことがある	16. 趣味やレジャーの出費を減らした
5. 国民年金の支払いが滞ったことがある	17. 冷暖房の使用を控えた
6. 金融機関などに借金をしたことがある	18. 友人・知人との外食を控えた
7. クレジットカードの利用が停止になったことがある	19. 敷金・保証金などを用意できないので、住み替え・転居を断念した
8. 新しい衣服・靴を買うのを控えた	20. 理髪店・美容院に行く回数を減らした
9. 新聞や雑誌を買うのを控えた	21. 子ども部屋が欲しかったがつくれなかった
10. スマートフォンへの切替・利用を断念した	22. 1～21の項目には、どれもあてはまらない
11. 冠婚葬祭のつきあいを控えた	
12. 生活の見通しがたたなくて不安になったことがある	

問8 お子さんのお母さんとお父さんの最後に通った学校を教えてください。（あてはまる番号1つに○をつけてください）（現在、ひとりでお子さんを育てている場合（ひとり親の場合）はあてはまる方だけに○をつけてください。）

お母さん	お父さん
1. 中学校卒業	1. 中学校卒業
2. 高等学校中途退学	2. 高等学校中途退学
3. 高等学校卒業	3. 高等学校卒業
4. 高専、短大、専門学校等卒業	4. 高専、短大、専門学校等卒業
5. 大学卒業	5. 大学卒業
6. 大学院修了	6. 大学院修了
7. その他の教育機関卒業	7. その他の教育機関卒業
8. 答えたくない	8. 答えたくない

問9 お子さんの保護者の方の現在の就業状況についておたずねします。（複数か所にお勤めされている方はあてはまる番号をすべて選んでください）

※お母さん、お父さん以外の方が主として家計を支えている場合、「お母さん、お父さん以外の方」にもご記入をお願いします。

※現在、育児休業などで休業中の方は、復職するときの仕事の番号を選んでください。

お母さん	1. いる	2. いない
------	-------	--------



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務） 3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務） 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ①家事や育児に専念したため ②学生のため ③おうちの人の介護や介助のため ④病気療養のため ⑤年金収入があるため ⑥家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦その他
---	--

とう お父さん	1. いる	2. いない
------------	-------	--------



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務） 3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務） 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ①家事や育児に専念したいため ②学生のため ③おうちの人の介護や介助のため ④病気療養のため ⑤年金収入があるため ⑥家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦その他
--	--

お母さん、お父さん以外に主として家計を支えている方（おばあさん、おじいさん、おじ、おば、親戚など）	
1. いる	2. いない



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め（常勤・正規職員） 2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務） 3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務） 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ①家事や育児に専念したいため ②学生のため ③おうちの人の介護や介助のため ④病気療養のため ⑤年金収入があるため ⑥家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦その他
--	--

問10 お子さんの保護者の方が家にいる時間帯で、多い時間帯を選んでください。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

※保護者の方には、おばあさん、おじいさん、おじ、おばなど親戚を含みます。

※自宅が仕事場の場合は、お仕事が終わる時間帯を選んでください。

1. お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	4. お子さんが寝た後に帰ってくる
2. お子さんの夕食時間には家にいる	5. 帰宅時間が決まっていない
3. お子さんの寝る時間には家にいる	6. その他

問11 ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 日本語のみを使用している
2. 日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い
3. 日本語以外の言語を使うことが多い

お子さんに関することについておたずねします。

問12 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。（おおむね1年の間で考えてください。）（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. お子さんを医療機関に受診させることができなかった	9. お子さんを学習塾に通わせることができなかった
2. お子さんの進路を変更した	10. お子さんの誕生日を祝えなかった
3. お子さんのための本や絵本が買えなかった	11. お子さんにお年玉をあげることができなかった
4. お子さんにおこづかいを渡すことができなかった	12. お子さんの学校行事などに参加することができなかった
5. お子さんに新しい服や靴を買うことができなかった	13. 子ども会、地域の行事（祭りなど）の活動に参加することができなかった
6. お子さんを学校の遠足や修学旅行へ参加させることができなかった	14. 家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった
7. お子さんを習い事に通わすことができなかった	15. 1～14の項目には、どれにもあてはまらない
8. お子さんを学校のクラブ活動・部活動に参加させられなかった	

とい 問13 あなたとお子さんとの関係について、次の項目でもっとも近いものを選んでください。

(1) あなたは、お子さんを信頼していますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. とても信頼している	3. あまり信頼していない
2. 信頼している	4. 信頼していない

(2) あなたは、お子さんとよく会話をしますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. よくする	3. あまりしない
2. する	4. しない

(3) あなたがお子さんと一緒に何かをしたり、相手をしたりしている時間は、1 日あたり平均すると、だいたいどれくらいになりますか。(平日、休日それぞれについて、あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

平日	休日
1. 0～15 分未満	1. 2 時間未満
2. 15 分～30 分未満	2. 2 時間～4 時間未満
3. 30 分～1 時間未満	3. 4 時間～6 時間未満
4. 1 時間～2 時間未満	4. 6 時間～8 時間未満
5. 2 時間～3 時間未満	5. 8 時間～10 時間未満
6. 3 時間～4 時間未満	6. 10 時間以上
7. 4 時間以上	

(4) あなたは、お子さんの将来に期待していますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. とても期待している	3. あまり期待していない
2. 期待している	4. 期待していない

(5) お子さんの授業参観や運動会などの学校行事に参加していますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. よく参加している	3. あまり参加していない
2. ととき参加している	4. まったく参加していない

とい 問14 あなたは、お子さんの進学について、どこまで希望されていますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 中学校	4. 大学	7. 専門学校・高等専門学校
2. 高校	5. 大学院	8. 考えたことがない
3. 短期大学	6. 留学	9. わからない

問15 お子さんの通学状況について、もっとも近いもの1つに○をつけてください。

1. ほぼ毎日通っている
2. 欠席は年間30日未満である
3. 欠席が年間30日以上、60日未満である
4. 欠席が年間60日以上、1年未満である
5. 欠席が1年以上続いている
6. わからない

問16 子どもの居場所について、おたずねします。

(1) あなたのお子さんは、次のような「子どもの居場所」を利用したことがありますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- ・自宅や学校以外の場所で、子どもたちが本を読んだり、みんなで遊んだりできるような場所
- ・子どもが無料又は低額で食事ができる場所（子ども食堂）
- ・自宅や学校、塾以外の場所で、無料でボランティアの方などが勉強を教える学習支援の場

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 利用したことがある | 2. 利用したことがない |
|--------------|--------------|

(2) 前の質問で「1. 利用したことがある」と答えた方におたずねします。

お子さんが子どもの居場所を利用することで良いと思うことは何ですか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の人とつながれるから 2. お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから 3. 栄養バランスのとれた食事がとれるから 4. 運営者が相談に乗ってくれるから 5. 低額（または無料）でご飯が食べられるから | <ol style="list-style-type: none"> 6. 宿題など勉強を見ってくれるから 7. お子さんが楽しんでいるから 8. 特になし 9. その他 |
|--|---|

(3) 問16 (1) の質問で「2. 利用したことがない」と答えた方におたずねします。

子どもの居場所を利用しないのはなぜですか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. どこにあるか知らないから 2. 家の近く（小学校区内）にないから 3. 家で過ごしてほしいと思うから 4. 居場所のイメージがよくないから 5. お子さんが「行きたくない」と言っているから | <ol style="list-style-type: none"> 6. 行きたい日・時間に開いていないから 7. 利用したいと思わないから 8. 何をしているかわからないから 9. その他 |
|---|--|

あなたのことについておたずねします。

問17 初めて親となった年齢はいくつですか。（実子以外も含みます）

（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

1. 10代	3. 24～26歳	5. 31～34歳	7. 40歳以上
2. 20～23歳	4. 27～30歳	6. 35～39歳	

問18 次の①～⑦について、おうちの方を含め（お子さんは除く）、あなたを支えてくれて、手伝ってくれる人はいますか。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

	いる	いない	わからない
① 心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人	1	2	3
② あなたの気持ちを察して思いやってくれる人	1	2	3
③ 趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人	1	2	3
④ お子さんとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人	1	2	3
⑤ お子さんの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人 （運動や文化活動）	1	2	3
⑥ お子さんの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人	1	2	3
⑦ 留守を頼める人	1	2	3

問19 あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか。

（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 配偶者・パートナー	9. 学童保育の指導員（※）
2. 自分の親	10. 地域の民生委員・児童委員
3. 配偶者・パートナーの親	11. 民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）
4. きょうだい・その他の親戚	12. 医療機関の医師や看護師
5. 知人や友人	13. インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談
6. 職場関係者	14. その他
7. 学校の先生やスクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカー	15. 相談できる相手がいない
8. 公的機関や役所の相談員	

※「学童保育」とは、「なわてふれあい教室」「放課後児童クラブ」、「いきいき放課後児童クラブ」、
「留守家庭児童会（室）」、「学童クラブ」、「仲良しクラブ」も含みます。

とい つぎ み ぢ か おち なん ばんごう まる
問20 次のうち、身近にあるといいと思うことは何ですか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. 保護者^{ほごしや}どうして気軽に^{きがる}話せる^{はな}場^ば 2. SNSなどのインターネット^{えすえぬえす いんたーねっと}を通じて^{つう}悩みごと^{なや}を話せる^{はな}コミュニティ^{こみゆにてい} 3. 家事^{かじ}の援助^{えんじょ}が受けられる^うこと 4. 支援^{しえん}制度^{せいど}など必要な^{ひつよう}情報^{じょうほう}を届けて^{とど}くれること 5. 困った^{こま}時^{とき}にご飯^{はん}を無料^{わりよう}または安価^{あんか}で自宅^{じたく}に届けて^{とど}くれるサービス^{さーびす}	6. お子^こさんが放課後^{ほうかご}や休日^{きゅうじつ}に勉強^{べんきょう}などができる^{ばしよ}場所^{ばしよ}を利用^{りよう}できること 7. お子^こさんが無料^{わりよう}で学習^{がくしゅう}支援^{しえん}を受けられる^う場所^{ばしよ} 8. お子^こさんや保護者^{ほごしや}が夕食^{ゆうしよく}を無料^{わりよう}か安い^{やす}料金^{りょうきん}で食べる^たこととができる^{ばしよ}場所^{ばしよ}（子ども食堂^{こどもしきどう}など）を利用^{りよう}できること
--	--

とい
問21 あなたの心^{こころ}の状態^{じょうたい}についておたずねします。

（1）生活^{せいかつ}を楽し^{たの}んでいますか（仕事^{しごと}や家事^{かじ}、育児^{いくじ}など）。

（あてはまる番号^{ばんごう}1つに○をつけてください）

1. とても楽し ^{たの} んでいる	3. あまり楽し ^{たの} んでいない	5. わからない
2. 楽し ^{たの} んでいる	4. 楽し ^{たの} んでいない	

（2）将来^{しょうらい}に対して希望^{たい}を持^もっていますか。（あてはまる番号^{ばんごう}1つに○をつけてください）

1. 希望 ^{きぼう} が持 ^も てる	3. 希望 ^{きぼう} が持 ^も てない
2. 希望 ^{きぼう} が持 ^も てるときもあれば、持 ^も てないときもある	4. わからない

（3）ストレス^{すとりす}を発散^{はっさん}できるものがありますか。（あてはまる番号^{ばんごう}1つに○をつけてください）

1. ある	3. ない
2. あるときもあれば、ないときもある	4. わからない

（4）あなたは、ご自分^{じぶん}が幸^{しあわ}せだと思^{おも}いますか。（あてはまる番号^{ばんごう}1つに○をつけてください）

1. とても幸 ^{しあわ} せだと思 ^{おも} う	4. 幸 ^{しあわ} せだと思 ^{おも} わない
2. 幸 ^{しあわ} せだと思 ^{おも} う	5. わからない
3. あまり幸 ^{しあわ} せだと思 ^{おも} わない	

とい
問22 あなたは、自分の^{じぶん}体^{からだ}や^き気^も持^きちで^き気^きになることはありますか。

(あてはまる^{ばんごう}番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ねむれない	10. まわりが ^き 気 ^き になる
2. よく ^{あたま} 頭 ^{あたま} がいたくなる	11. やる ^き 気 ^き が ^お 起き ^お ない
3. ^は 歯 ^は がいたい	12. ^{いら} イ ^{いら} ライ ^{いら} する
4. ^{ふあん} 不安 ^き な ^も 気 ^も 持 ^き ちになる	13. よく ^{かた} 肩 ^{かた} がこる
5. ものを見 ^み づらい	14. よく ^{こし} 腰 ^{こし} がいたくなる
6. ^き 聞 ^き こえにくい	15. とくに ^き 気 ^き になるところはない
7. よくおなかがいたくなる	16. その他 ^た
8. よくかぜをひく	17. わからない
9. よくかゆくなる	

^{こた}答^{こた}え^{しつもん}たくない^{こた}質^{ひつよう}問^{ひつよう}に^{こた}答^{こた}える^{ひつよう}必要^{ひつよう}はありません。

^{こた}答^{こた}え^{まよ}に^{ばあい}迷^{まよ}う^{ばあい}場^{ばあい}合^{ばあい}には、あなたの^き気^も持^きちや^{かんが}考^{かんが}え^{かんが}に^{ちか}で^{ちか}き^{ちか}る^{ちか}だ^{ちか}け^{ちか}近^{ちか}い^{ちか}もの^{えら}を^{えら}選^{えら}ぶ^{えら}よう^{えら}に^{えら}し^{えら}て^{えら}く^{えら}だ^{えら}さい。

問23 あなたの世帯では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。

(a～gそれぞれについて、1～3のあてはまる番号1つに○をつけてください)

また、「3 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。(①～⑤のあてはまる番号1つに○をつけてください)

	a 就学援助 ※1	b 生活保護 ※2	c 生活困窮者の 自立支援相談窓口 ※3	d 児童扶養手当 ※4	e 母子家庭等就業・ 自立支援センター ※5	f 低所得 の子育て世帯に対する子育て 世帯生活支援特別給付金 ※6	g 新型コロナウイルス感染症に伴う 生活福祉資金(貸付金) ※7
現在利用している	1	1	1	1	1	1	1
現在利用していないが、 以前利用したことがある	2	2	2	2	2	2	2
利用したことがない	3	3	3	3	3	3	3
制度の対象外 (収入などの条件を 満たさない) だと思う から	①	①	①	①	①	①	①
利用はできるが、特に 利用したいと思わな かったから	②	②	②	②	②	②	②
利用したいが、今まで この支援制度を知ら なかったから	③	③	③	③	③	③	③
利用したいが、手続きが わからなかったり、 利用しにくいから	④	④	④	④	④	④	④
それ以外の理由	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤

3に○をつけた場合、
①～⑤のあてはまるもの1つに○をつけてください

(参考)

※1 就学援助：経済的理由により子どもの就学が困難な場合に、学用品費などを補助する制度。

- ※ 2 生活保護：病気や失業などにより生活費等に困り、他に方法がないときに一定の援助が受けられる制度。
- ※ 3 生活困窮者の自立支援相談窓口：お金、仕事、住宅など、様々な課題を抱えた生活に困窮する方のための相談窓口。専門の支援員が具体的な支援プランを作成し、課題の解決に向けた支援を行う。
- ※ 4 児童扶養手当：所得が一定水準以下のひとり親世帯の生活支援のための手当。（児童手当とは異なります。）
- ※ 5 母子家庭等就業・自立支援センター：ひとり親の方が、仕事探しに関する相談や講習を受けられる支援センター。養育費の取り決めなどに関する相談も受けることができる。
- ※ 6 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金：新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で、低所得の子育て世帯（児童扶養手当受給者など）に対し子育て世帯生活支援特別給付金を支給する制度。
- ※ 7 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）：新型コロナウイルス感染症の発生による休業や失業などにより、一時的又は継続的に収入減少した世帯を対象に、生活福祉資金貸付制度における生活支援費などを支給する制度。

世帯の経済状況についておたずねします。

問24 前年（2022年）のあなたの世帯の手取り収入の合計額は、およそいくらでしたか。

（あてはまる番号1つに○をつけてください）

※収入には、働いて得た給料だけでなく、株式配当や副収入を含めて合計してください。

税金や社会保険料を払ったあとの額でお答えください。

※また、公的な援助手当や養育費・仕送りを含んだ額でお答えください。

1. 50万円未満	12. 550～600万円未満	23. 1,200～1,300万円未満
2. 50～100万円未満	13. 600～650万円未満	24. 1,300～1,400万円未満
3. 100～150万円未満	14. 650～700万円未満	25. 1,400～1,500万円未満
4. 150～200万円未満	15. 700～750万円未満	26. 1,500～1,750万円未満
5. 200～250万円未満	16. 750～800万円未満	27. 1,750～2,000万円未満
6. 250～300万円未満	17. 800～850万円未満	28. 2,000～2,250万円未満
7. 300～350万円未満	18. 850～900万円未満	29. 2,250～2,500万円未満
8. 350～400万円未満	19. 900～950万円未満	30. 2,500～2,750万円未満
9. 400～450万円未満	20. 950～1,000万円未満	31. 2,750～3,000万円未満
10. 450～500万円未満	21. 1,000～1,100万円未満	32. 3,000万円以上
11. 500～550万円未満	22. 1,100～1,200万円未満	33. わからない

新型コロナウイルスの感染状況についておたずねします。

問25 この1年間でお子さんを含め、同居家族が新型コロナウイルスに感染したのべ回数を教えてください。
（例：母 1回、長男 1回 ⇒ 2回とお答えください。）

かい
回

問26 あなたの住居環境についておたずねします。

（1）あなたがお住まいの住居の間取りは、次のどれにあてはまりますか。（あてはまる番号 1 つに
まる
○をつけてください）

1. ワンルーム	3. 居室2部屋（2K、2DK、2LDK）
2. 居室1部屋（1K、1DK、1LDK）	4. 居室3部屋（3K、3DK、3LDK）以上

（2）その住居には、何人でお住まいですか。（□に数字をお書きください。）

にん
人

質問は以上です。調査にご協力いただきありがとうございました。

相談窓口のご案内

じんけん そうだん
○人権なんでも相談

<https://www.city.shijonawate.lg.jp/soshiki/12/2294.html>

せいかつさ ぼー と そうだんまどぐち せいかつこんきゅうしやじりつ そうだんしえん まどぐち
○なわて生活サポート相談窓口（生活困窮者自立相談支援窓口）

<https://www.city.shijonawate.lg.jp/soshiki/27/1264.html>

おやかていとう じりつしえんそうだん
○ひとり親家庭等の自立支援相談

<https://www.city.shijonawate.lg.jp/site/kosodate/1528.html>

おおさかふりつ ぼし ふしふくしせんたー おおさかし さかいし とよなかし かくし まどぐち
○大阪府立母子・父子福祉センター（大阪市、堺市、豊中市は各市の窓口）

<https://osakafu-boshiren.jp/>

こそだ おやかかんけい なや
○子育てや親子関係の悩みについては

＜親子のための相談LINE＞

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29751.html

※この調査は大阪府との共同実施です

パソコン・スマートフォン・タブレット端末でも回答できます！

- WEBで回答された場合は、同封の調査票の返送は不要です。
- 携帯電話（ガラケー）では回答できませんのでご注意ください。

- ◆ スマートフォン・タブレット端末の場合は、カメラで次の二次元バーコードを読み取ってください。

[二次元バーコード]



- ◆ パソコンの場合は、次のURL（「https…」から始まるアドレス）を検索画面に手入力し、エンターキーを押してください。

[URL] <https://src.webcas.net/form/pub/src/2700081>

- ◆ 最初の画面が表示されたら、次のIDを入力し、「次へ」ボタンを押し、ログインしてください。

◇ ID

※ IDは、個人を特定するものではありません。

- ◆ ログイン後は、質問の番号順に沿って回答してください。

子ども・保護者のみなさまに本調査にご協力いただきました。ご多忙の中快くお引き受けくださりご協力くださいましたことを、ここに厚くお礼申し上げます。

四條畷市子どもの生活に関する実態調査

令和6年3月

四條畷市

調査研究業務 受注者

公立大学法人大阪 大阪公立大学